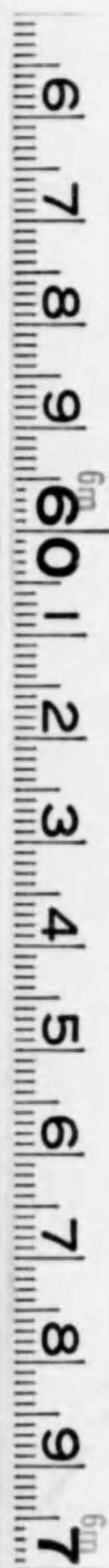




特
277
170



始



社會成人
省部文
22933

省部文
22933
711

291

日本地名 大辭典

第六卷

フーフ

日本書房

文部省圖書
會 22933
7-111
共 6 冊

特
277
170

装帧 恩地孝四郎画伯

日本地名大辞典

第六卷



尾島 朝鮮の西部海岸、仁川港口東水道にある一小島。行政上、京畿道富川郡に属す。一に皮島と稱し、島上には尾島燈臺(明治三十七年設置)あり、燈臺は塔内自光にして、二〇秒を隔てて二〇秒間に四閃光を放ち、航路標識あり。先達距離一七・五海里。

富貴角 臺灣本島の最北端、臺北州淡水郡石門庄にある小岬。角上に富貴角燈臺あり。富貴は和蘭の宣教師ヤン・メイヤンの所謂 de Hoek Van Canaliao の Hoek に宛てたる近昔の住字に、Hoek は岬の義なり。大字頭圍に属す。燈臺の構造は鐵造八角形黒白横線とし、等級及び燈質は第二等不動白色、明度は北七〇度東より東・南・西を経て北八七度西まで二〇三度間、燈火の高さは基礎より三〇・三米、水面より四八・七米、先達距離一九海里。霧燈の設置ありて煙霧其他異常なる天候には愛宕信號をなす。附近一帯は登陸に恵まれ、海水浴に好適す。

富貴面 朝鮮全羅北道鎮安郡の西部。郡邑鎮安面の西北隣にて、西は全州府を距る約二〇軒、その間に完州郡所屬面を隔つ。蘆嶺山脈中に位し、北境に雲長山

フー フー

(一一二六米)、東北境に玉女峰(七三九米)、西境に笠峯(六四一米)、東南境に富貴山(八〇六米)等聳りて山地多し。富貴川は北部に出でて南流し中部に至りて東折し、東隣上田面に出でて錦江の支流程子川に合し、また南部には東南流する烏院川(錦津江上流)に注ぐ小流あり。これ等の流域には幅狭き低地ありて番田・畑地拓け、農産に米・麥・大豆等を出す。また西境山地の一部は西隣の所屬面にある新元嶺山の嶺區にて金・銀・銅・鉛・亞鉛を産す。全州・鎮安間の二等道路は南部をほぼ東西に貫きバスを通す。

フーケー 街溪面 朝鮮慶尙北道軍威郡の南端。郡邑軍威面を距る南方約二〇軒。南は達城郡公山面に、西は漆谷郡の東明・梨山の二面に、西北は善山郡長川面に接す。東南隅に八公山(一一九二米)峙ち、その山肢南端と東南境に及び、西北界にも四五百米の山地あるも中部南北には幅狭き低地ありて耕地拓け農産に麥・大豆・棉花等あり。道路は等外道路のみにて交通なほ便ならず。

フーシン 封仁面 朝鮮平安南道五山郡の西南端。南は咸川郡雙龍面、西は順川郡新倉面に、北は徳川郡葛島面に接す。四周山地を繞らし、中部にも八峰山(六六四米)ありその嶺は東西に延び面を南北の二地域に分つ。北部は東西に長く、東境に徳山(八一三米)・朴嶺山(七一四米)等正坪洞川これより發し

て西流し、中部に至りて西境より東流する支流を合して北に向ひ北隣の蘆島面に於て大同江に注ぐ。南部は幅狭くその西部は岐倉後川の上支の、東部はその支流の上源をなす。以上諸川に沿ひて所々に小平地あり耕地拓け粟・稗・玉蜀黍・大豆・馬鈴薯・烟草等の農産を出す。平元西部線の新倉驛より徳川に至るバス路線は面の西北境彌勒峠を越え、正坪洞川の下流に沿ひて通ずるも東部・南部は交通なほ便ならず。

フーディー 楓洞面 朝鮮平安南道中和郡の北西端。平壤の東約二〇軒。西は大回郡青龍面に接し、北は大回江の支流南江を隔てて江東郡晚連面・三登面に對し、東は黃海道遂安郡公浦面に隣る。面積約一一〇方軒。謂ゆる浪樂準平原の東部に東境中部に高嶺山(五四三米)、南西境部に帝雲山あるも、其他は緩慢なる起伏をなす高三四〇―五〇米の臺地性平原にて、北境を西流する南江と南隣鮮原面より來りて西北に貫流し、南江に合する鮮原川との沿岸には低平地ありて如

地よく拓く。粟・小麥・棉花・苹果等の農産あり。平壤より京畿道議政府方面への二等道路西南部に通じ、また對岸晚連面勝湖里には平壤炭礦線の終端驛ありて交通不便ならず。昭和の初年、新楓洞面に南隣の舊上道面を合併して今の楓洞面を建てしもの。

フーヒー 富平 京仁線の一驛(大正八年設置)。朝鮮咸鏡南道定平郡廣徳面にあり。

フーヒー 富平 朝鮮京畿道富川郡富内面にあり。

フーレン 風連村 北海道天鹽國上川郡の西北部。上川支庁管内とす。天鹽川上流の名寄盆地に位し、北は名寄町に、南は多寄村に接し、西は石狩國に接す。東部を北見山脈、西部を天鹽山脈何れも南北に連互し、中部天鹽川流域は低平地にて耕地及び部落發達す。主生業は農にして、殊に馬鈴薯の産は北海道内有数なるものなり。また渡粉・アスター・大豆・甜菜等をも産す。省線宗谷本線中部を南北に貫き風連驛(明治三十六年設置)を置く。昭和十三年二月多寄村を風連村と改め、同年四月更に風連村の一部を以て多寄村を建つ。

フーレン 風運湖 北海道釧路國根室郡に面する鹹湖。湖とば太き砂嘴を以て分たす。面積五二一三方軒、湖岸六〇軒、深度は大部分二―三米とす。海

フアン—フォル

車に被るも中央に溜り、出口の近くに深さ一メートルの最深部あり。注水川の主なるものは風運川にして泥炭質の水を流入す。

扶安郡 朝鮮全羅北道十四郡の一。道の西岸中部に位し、東北は金堤郡、東南は丹陽郡に連り、半島状をなして西方黄海に突出し、南は清津灣を挟みて高敞郡に對し、北は東津江・萬頃江口の泥海を隔てて沃溝郡が望む。面積約四一四方軒。西半の半島部は遼山山地にて中部に雙仙峰(四四八米)、北部に倚上峰(五〇九米)、南東部に鷹峰(二六四米)、西南部に甲南山等ありて、海岸に幅狭き低地あるほか平地乏し。東半部は全北平野の西部に當り、東北境には東津江、その西には支流八旺川ありて何れも略北流して海に注ぎ、畑よく拓げ農業盛に行はる。農産は米(約九萬石)を第一に麥・大豆・粟等あり、また棉花・苧麻・大麻・莞草等の工業農産多く、農家の副業として吠の製造盛に行はる。沿海には石首魚をはじめ鯛・鰈・烏賊・太刀魚・貝類の漁獲物多く、製鹽も行はる。工業には酒類・織物・水産製造品・硝工品等を主なるものとす。扶安・清溝間の道路にはバスを通じ、扶安より金堤に、清溝より井州に連絡あるも其他はなほ便利ならず。海上は清浦より木浦へ汽船の便あり。行政上、扶安・東津・寧安・上西・下西・山内・清浦・保安・舟山・白山の十面に

分かれ、郡廳を扶安面東中里(扶安)に置く。
富安面 朝鮮全羅北道高敞郡の北部。那色高敞面を距る北方約一〇軒。北半部は半島をなして北方に突出し、清津灣外の泥海を隔てて扶安郡南部と對す。面積二七方軒。中央部に水崗山(二九二米)、西部に道逢峰(四四四米)等の山地あり、東南部には興徳面との間に平地あり、其他、半島部の沿岸にも幅狭き低地ありて番・畑よく拓く。米・麥・大豆・棉花等の農産と、半島部の東西兩岸には鹽田拓げて鹽を出す。道路は南部と海岸に沿ひて通ずるも東南部以外は交通なほ便ならず。
武安面 朝鮮慶尙南道密陽郡の西部。東は那色密陽邑との間に府北面を隔て、西南は昌寧郡釜谷面に、西は同郡靈山・桂城・昌樂の三面に界す。面積約九五方軒。東境には珍山(六六四米)、西境には靈鷲山(七三七米)、宗岩山(五四五米)等時ち、それ等の山脚内に延びて丘陵起伏するも中部南北に幅狭き低地ありて洛東江に注ぐ小川南流し、その沿岸と東西支谷に沿ひて耕地拓く。農産に米・麥・大豆・棉花・大麻等、醸造に青柳五徳及び猪山の嶺山ありて金銀を産す。密陽・昌寧間の三等道路通じてバスの便あり。昭和八年一月下西・二回の二面を合併して新に置きし面にて、中央部の武安里に郡事務所を置く。武安里には松雲

大師の碑あり。
舞乙面 朝鮮慶尙北道善山郡の西北隅。東は那色善山面との間に玉城面を挟み、南は金泉郡甘文面、西より北は尙州郡の功城・青里・洛東の三面と境す。土地西北より東南に傾長く、南北兩端上に何れも山嶺連る。高度は南境にて三百米を、北境は四一七米を示す。中部に幅一軒内外の裾合谷ありて西北より東南に延び、甘川に注ぐ小流東南流し番よく拓げ、その南北の傾斜面には畑地多く、米・麥・大豆等の農産裕かなり。善山と朝鮮鐵道慶北線玉山驛(功城面)を繋ぐ道路に當り交通不便ならず。
武衛陣 京都市(二一九六頁)

笛吹
【笛吹川】 山梨縣中部の川。縣下第一の長流。甲武信嶽の南斜面にその源を發し西南に流れて市川大門町附近にて釜無川と合流し富士川となる。流程約八四軒。源より聖山附近に至る上流は、右岸に國師・奥千丈・劍・黒金等二〇〇〇—二五〇〇米に達する高山壁立し、左岸には古體・笠取・合掛・大善等二〇〇〇米内外の峻峰時ち、深き裾合谷の間を流下す。この裾合谷に沿うて秩父街道通ず。鹽山・日下部に至りて初めて廣闊なる甲府盆地に出で、沿岸には漸く平地多く田畑よく發達す。石和に至る途中左岸には重川・日川・御手洗川・金川・淺川等の笹子・

富家村 岡山縣備中國川上郡の中部。成羽川の西に隣接し、高梁川の支流成羽川の右岸に當り。北は中村、南は手莊・高山二村に、西は平川村に界す。面積二〇・二七方軒。中國山脈は未だ海抜五—六百米の高さにて村内を蔽ひ平地乏しけれど、成羽川は北部を東流して灌水の利を興へ、沿岸にやや耕作行はる。米・麥・繭・木炭・蒟蒻・酒類を主要産物となしまた生柿を産す。河に沿ひて里道通じ成羽町に自動車あり。木村及び手莊村に互る磐窟谷は成羽川の一支出窟川が石灰岩と角岩より成れる臺地を深く穿ちて峽谷をなせるもの。いま名郡に指定さる。
深井 大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南方約二軒。東南部の五〇米餘の臺地の末端を除く外は全村地形極めて平坦にして處々に灌漑用の池沼横たはる。南部には一湖水より流出する河川ありて西北流し西隣の鳳町に至りて石津川に合す。米産多く麥・蔬菜の産もあり、また畜産・水産あり。近年は工業發達し其産額著し。鳳町へバスあり。此地は和名抄、大島郡常陸郷にして、中世は深井莊と云ひ春日社領なりしが如し。(野々宮神社) 大字深井に鎮座。郷社。祭神、惠雄命。創立年代詳かならず。古より富村の産土神たり。例祭、十月十日。
【深井】 備中國(岡山縣)の古地名。和名

抄に都字郡深井郷あり、布加井と訓す。その地今の都賀郡庄村の邊に當る。
深伊澤村 三重縣伊勢國鈴鹿郡の東部。龜山町の東北北方約三・五軒。地形概ね平坦の地を占め耕地よく拓く。西北部と南部は針葉樹林を示すところ多し。米・麥・繭・麥の農産最も多く、工業・林産・畜産等もあり。道見街道は西部を南北に通じ龜山町へ定期バスあり。もと深溝・伊勢・長源の三村なりしが明治二十二年合併して各一字を取り深伊澤村と名づく。
深浦町 青森縣陸奥國津輕郡の西南部。鯉ヶ澤町の西南約二八軒。西北は日本海に面し、南は秋田縣に接す。面積一九一・二〇方軒。土地南北に長く、約二四軒あり。北境には樹形山(八二〇米)、東境には圓行山(七八六米)、西境には小箱峰(九二六米)、向白神山(二四三米)、白神山(二二三米)等あり、道良川は南境に發源して町の中部を北流し、北部に於て流路を西北に變じ、日本海に注ぐ。同川の南には吾妻川西北に流れ、同じく日本海に入る。全村山地多くして山地海に急傾し、海岸は岩石海岸にして南に黄金崎、中に入前崎、北に鹽見崎の突出あり。村の主産業は農業にして全戸數八九四戸の内三五九戸を占め、漁業(九五戸)・商業(九一戸)(昭和十二年)これに次ぎ、米・鮮魚を産す。道路は西

御坂山地より流出する諸支流を合す。これ等の支流は沿岸に極めて標式的なる扇狀地形を作す。扇附近には近年葡萄の栽培著しく發達し、水田を改めて葡萄畑となす状態なり。上記諸支流の流出する土砂は必然的に本流の河床を高め、夏季の出水時には屢々大洪水を惹起するため、沿岸には大規模の堤防を築く。日川の合流點附近にて平等川を分流し、並行して流る。この附近は甲府盆地中最も低平にて、干拓によりて水田となる部分もあれど今なほ草地・濕地として放置せらるる處少からず。平等川の合流する附近より下流は、その南岸に曾根丘陵の斷層崖を認む。丘陵を横斷する小支流は天井川となりて笛吹川に合流す。下曾根村附近にて甲府市の北方に昇仙峯を形成する大支流荒川をその北岸に合す。而して釜無川と合流する所にて御坂山地を發達する濃川の水を合す。かくて笛吹川は左岸に集むる支流十二、右岸に收むるもの十一、甲府盆地最大の水系と稱することを得。
【笛吹】 碓氷嶺(碓氷・長野縣境)の古名。
【笛吹山】 ↓忍海村(奈良縣)
【笛吹】 長崎縣北松浦郡にありし村。大正十五年に前方・柳の二村と共に廢されその區域を以て小値嘉村を建つ。
フォルモサ Formosa ↓臺灣

【深井村】 大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南方約二軒。東南部の五〇米餘の臺地の末端を除く外は全村地形極めて平坦にして處々に灌漑用の池沼横たはる。南部には一湖水より流出する河川ありて西北流し西隣の鳳町に至りて石津川に合す。米産多く麥・蔬菜の産もあり、また畜産・水産あり。近年は工業發達し其産額著し。鳳町へバスあり。此地は和名抄、大島郡常陸郷にして、中世は深井莊と云ひ春日社領なりしが如し。(野々宮神社) 大字深井に鎮座。郷社。祭神、惠雄命。創立年代詳かならず。古より富村の産土神たり。例祭、十月十日。
【深井】 備中國(岡山縣)の古地名。和名

部海岸を略南北に通じ、鯉ヶ澤町へは自動車・鐵路の便あり。省線五能線通じ鐵道(昭和十一年設置)・深溝・追分(以上昭和九年設置)の三驛を置く。大正十五年町制を布く。いまだ防波堤の頭部に燈臺あり、大正十五年の設置にて、不動白光、光達(一〇・五五米)あり。海岸には舊砲臺あり。丘上に圓覺寺(眞言宗)あり。深浦は一に吹浦とも稱せり、また往時は安浦、或は西浦とも稱せり。深浦港は港内波靜かにて、往昔松前に航行する船は必ずこの港に碇泊して日和待をなし、薪水の準備を整へてのち解纜せし故、出入頻繁にして繁昌せりと云ふ。天正十八年の小田原陣の時も、慶長五年の關ヶ原役にも津輕爲信の港に船糧をなして進發せり。(圓覺寺) 大字深浦にあり。眞言宗醍醐派。春光山。貞觀年中に僧圓覺の開創に係り、國內屈指の巨刹たり。觀音堂の本尊觀世音菩薩立像は聖德太子の作と傳ふ。

【深江(國)】 今の越後國の北部にありきと思はるる國。國造本紀に崇神天皇の朝に高志深江國の國造を置き給ひしことあり。深江國造は四道將軍の一人なる大産命の高なる素都乃奈美留命を命じ給ふ。國郡制定の時この國は郡となりて蒲原郡となりしもの如く、延暦三年には蒲原郡の名出づ。

廣島灣西端美島の西南海岸を占めて、前方に沖野島・大黒神島と相對す。東は大島、北は大原灣に界す。面積六・〇二方軒。村内概ね丘陵に蔽はれ、海岸線頗る長く小灣入を有す。聚落は多く海岸に集り、小平地ありて耕地拓く。農・漁業を營む。米・麥・繭・鱒・鮭・牛・馬等を産す。阪神方面に出稼する者多く、また英工廠への通勤者少からず。陸上交通不便なれども海上身便を有す。
【深江村】 福岡縣筑前國糸島郡の西部。唐津灣東岸を占め前原町の西南約一軒。北及び西北部は海に臨む。南部は背振山脈西部の北方傾斜面を占めて土地高燥なり。中部は廣き海岸平野開け、西は海に面しここに市街地發達し、東は一貴山村の平野に連綴す。北部には海岸に沿ひて東北より西南の方向に一百米餘の丘陵連りその西南端は大崎に移る。耕地よく拓けて米麥の産多し、また水産盛なり。北部の丘陵南麓に沿ひて縣道走り市街地を貫きて西隣の福吉村に入る。省線筑肥線中央低地を通過して筑前深江驛(大正十三年設置)あり、また夏季には深江濱海水浴場として賑ひ深江濱假停車場(大正十五年設置)を置く。此地は延喜兵部省式に見ゆる古跡にして、中世以降は海驛として榮えたり。また萬葉集に見ゆる子負原は此の邊ならんといふ。子負原(鎮懐石八幡宮) 大字深江に鎮座。村社。祭神、豐田天皇・氣長帶姫尊・武内宿禰

【深江村】 廣島縣安藝國佐伯郡の南部。

【深江(國)】 今の越後國の北部にありきと思はるる國。國造本紀に崇神天皇の朝に高志深江國の國造を置き給ひしことあり。深江國造は四道將軍の一人なる大産命の高なる素都乃奈美留命を命じ給ふ。國郡制定の時この國は郡となりて蒲原郡となりしもの如く、延暦三年には蒲原郡の名出づ。

【深江(國)】 今の越後國の北部にありきと思はるる國。國造本紀に崇神天皇の朝に高志深江國の國造を置き給ひしことあり。深江國造は四道將軍の一人なる大産命の高なる素都乃奈美留命を命じ給ふ。國郡制定の時この國は郡となりて蒲原郡となりしもの如く、延暦三年には蒲原郡の名出づ。

【深江村】 廣島縣安藝國佐伯郡の南部。

命。創立年代詳ならず。江戸時代、藩主の崇敬あり。例祭、陰曆八月十五日。〔正覺寺〕 大字深江にあり。淨土宗。雲願山。もと眞言宗の古刹なりしが、天正七年定譽再興し現宗に改む。本尊阿彌陀如来は雲海の作といふ。

【深江村】長崎縣肥前國南高來郡に屬し、島原半島東部に在り。村の西部は雲仙火山にして火山噴出熔岩より成り、野嶽はその中の最高峰なり。いま村の一部は雲仙國立公園に屬す。此の熔岩山地より有明海に至る緩斜面は東部島原半島に於ける標式的裾野にして河川なく、従つて未だ殆ど浸蝕を見ざる原平面を保存する地域なり。この裾野の南部に深江川あるも幼年期の淺谷をなし、その南側は布津村の岩塊泥流地帯に接し、二者の間に階段狀の地形差を見る。右の熔岩地帯は島原半島第一の畑地帯をなし、水田は僅に深江川の流域と海岸に帶狀の沖積地のみに限らる。従つて耕地面積の大部分は畑地にして、本郡に於ける養蠶・養蚕・芋・西瓜・栗・甘藷の重要産地たり。道路は海岸近くに併行し主道通じ、之に沿ふ乗落と扇狀面に點在する開拓新田の聚落あり。何れも純農耕的聚落なり。海岸の船津は舟着聚落にて海岸に向ひ發達し、本郡に於ける特色ある形態なり。沿岸は島原海灣に接する深度を有し、島原・茂木・長崎方面へ往來の沿岸汽船は岸近く寄港す。また社線口之津鐵道の瀬野深江

（昭和七年設置）・深江（大正十一年設置）の二詳を置く。深江は深江氏の據地、室町時代より天正年間に来る頃まで此地の地頭たり。島原の亂には本村の瀬野城を挟み官賊兩軍奮戦せりと傳ふ。

フカエー 福江島

【深江町】北海道石狩國空知支庁南龍郷の南部。南境を石狩川西南流して空知郡を隔て、北は小山地を以て多度志村に界す。面積三二・七四方軒。北部の丘陵を除けば南半は悉く石狩川及び支流の肥沃なる氾濫原に占められ、東隣の一巳村、西隣の妹背牛村に續く平坦廣漠たる地勢を有す。極めて農耕に適し耕地多く米・馬鈴薯・甜菜・大豆等の産あり、また渡粉・牛・馬を産す。市街は平野の中央に發達し、省線南龍本線の深江驛（明治廿一年設置）あり、幌加内線および留萌本線を分岐す。バスは南隣の菅江村に通じ交通至便なり。此地は明治二十年前後は舊土人の家屋十數戸あるに過ぎざりしが次第に發達し、上川道路・増毛道路の開通後、明治二十三年、最初の開拓者、山室朝行なる者入移住し、ついで蜂須賀農場・菊亭農場經營され、同二十五年に設置されし深江村は今日の一已・秩父別・多度志・幌加内・納内・妹背牛の諸村をも包括し頗る廣大且つ人煙稀なりしが、明治二十八年屯田兵の入移住ありて深江市街地劃定され、同三十一年、當時の上

川鐵道（函館本線の前身）が開通するに及び急遽に發展し、同四十三年には留萌線が開通し、大正五年には深江土功組合（區域五千町歩事業完成して畑地は美田となり、同七年町制を布き、同十二年本町の一部を割きて妹背牛村を置く。いま町内に深江高等女學校・深江女子職業學校あり。〔深江神社〕字メム廿三番地に鎮座。祭神、大國主大神・神武天皇。明治三十八年の創祀にして、大正四年現在の本殿落成す。そのち幣殿・拜殿を増築す。

【深江町】 東部市三十五區の一。所謂江東の地の南部にて、直ちに海に臨み、北は本所區、東は城東區、西は隅田川を隔てて日本橋及び京橋兩區に對す。全區低濕地にして、全く近代の生成にかゝる土地なり。地名の起原に關しては二、三の説あり。新風土記によれば、深江は往古海濱の遺野にして人家も田畑もなかりしが、深江八郎右衛門といふもの、攝津國より來りてこの地を開墾し、たまたま家康遊獵のためこの地に來り、八郎右衛門を召し、地名を尋ねしところ、この地は一圓の茅野にて定まりたる地名なしと答へたり、然らば汝の苗字を以て村名とすべしと命ありしを以て、これより深江の地名生じたりとあり。また江戸志によれば、昔は野河と書き、舞多く居りし土地とあるも、これは恐らく無稽の説と思はる。而してかの八郎右衛門時代には現在

の元町邊に人家少しありしに過ぎざりしも、のち次第に増加し、深江なる地域も擴大せしものならん。爾來、市街の發展と共に埋築續行せられ、維新後は更に洲崎を埋立て次第に今日の深江となれり。地形上水運に恵まれたる本區は昔より船藏・糧藏・材木置場等多く、特殊なる商業地帯として發達せしが、今日も尚ほ倉庫業・廻米問屋・材木問屋等水運を利用する特殊の商業榮華。殊に米の集散地としての佐賀町、村集市場としての所謂本場は深江の異彩なり。維新後、近代工業の發達に伴ひ本區は市内主要の工業地帯となりてここに從來の面目を一新するに至れり。然るに大正十二年の大震災に遭ひ不幸全區灰燼に歸せしが、同十四年都市計畫上能率的生産地帯なる故を以て本所區と共に工場地帯に指定せられ、今や江東工業地帯の要部をなす。水利に富む牛面、從來陸上交通の不便なりしも、新大橋・清洲橋・永代橋・相生橋を始め大小百有餘の鐵橋、八十餘の木橋が架設せられ、道路敷設亦遺憾なく舊態全く改まり、社線東電氣軌道は本區東陽町に進入して市電と連絡し、城東乗合自動車は本區中央部を縱斷し本所・淺草に通じ、市電千田町線の延長、市營バス砂町線の新設等により、從來交通機關に恵まれざる本區東部方面の暗も今は昔語となれり。又近く東京港修築工事の進捗と共に越中島貨物驛新設の機運にあるより之が

實現の嚆は南部なる埋立地の利用と相俟ちて區勢の進展大いに期待さる。

フカガワ 深河

【フカガワ】 深河（飛騨國（岐阜縣）の古地名。和名抄に愛媛郡深河郷あり、布加波と訓す。その地今の古城郡古川町の邊に當る。

フカクサ 深草

【フカクサ】 深草 ↓京都市（二一九六頁）

フカサカ 深坂炭嶺

【フカサカ】 深坂炭嶺 福岡縣にある重要嶺山。鐵道は八幡市及び遠賀郡中間町・香月町に跨りて四八萬餘坪。昭和十一年には地炭一〇、〇八一噸、粉炭四六一、一四噸、切込炭二五、一三九噸、粗炭五、七五二噸（此地價額約五二萬圓）を産し、同年六月末の遺夫數は七四七人とす。

フカサク 深作

【フカサク】 深作 埼玉縣北足立郡にありし村。明治二十五年に春岡村へ合併されて村名を失ふ。

フカサワ 深澤

【フカサワ】 深澤 上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に勢多郡深澤郷あり、布加佐波と訓す。今の勢多郡宮城村の邊に當る。

【深澤村】 神奈川県相模國鎌倉郡の南部。鎌倉町の西北隅にて東は大船町と隣る。中部より南部にかけては丘陵地をなし、北部は粕尾川流域の平地にて、麥・大豆・甘藷・蕎麥等を産す。鎌倉町・大船町に縣道を通じバスの便あり。此地は和名抄、鎌倉郡堀原郷の地なるべし。大字淵崎はもと洲崎郷と稱せし地にて、元弘年間には新田義貞と赤橋相模守盛時との激戦あり

フカカ 深川

【深川町】 北海道石狩國空知支庁南龍郷の南部。南境を石狩川西南流して空知郡を隔て、北は小山地を以て多度志村に界す。面積三二・七四方軒。北部の丘陵を除けば南半は悉く石狩川及び支流の肥沃なる氾濫原に占められ、東隣の一巳村、西隣の妹背牛村に續く平坦廣漠たる地勢を有す。極めて農耕に適し耕地多く米・馬鈴薯・甜菜・大豆等の産あり、また渡粉・牛・馬を産す。市街は平野の中央に發達し、省線南龍本線の深江驛（明治廿一年設置）あり、幌加内線および留萌本線を分岐す。バスは南隣の菅江村に通じ交通至便なり。此地は明治二十年前後は舊土人の家屋十數戸あるに過ぎざりしが次第に發達し、上川道路・増毛道路の開通後、明治二十三年、最初の開拓者、山室朝行なる者入移住し、ついで蜂須賀農場・菊亭農場經營され、同二十五年に設置されし深江村は今日の一已・秩父別・多度志・幌加内・納内・妹背牛の諸村をも包括し頗る廣大且つ人煙稀なりしが、明治二十八年屯田兵の入移住ありて深江市街地劃定され、同三十一年、當時の上

フカカ 深川

【深川町】 北海道石狩國空知支庁南龍郷の南部。南境を石狩川西南流して空知郡を隔て、北は小山地を以て多度志村に界す。面積三二・七四方軒。北部の丘陵を除けば南半は悉く石狩川及び支流の肥沃なる氾濫原に占められ、東隣の一巳村、西隣の妹背牛村に續く平坦廣漠たる地勢を有す。極めて農耕に適し耕地多く米・馬鈴薯・甜菜・大豆等の産あり、また渡粉・牛・馬を産す。市街は平野の中央に發達し、省線南龍本線の深江驛（明治廿一年設置）あり、幌加内線および留萌本線を分岐す。バスは南隣の菅江村に通じ交通至便なり。此地は明治二十年前後は舊土人の家屋十數戸あるに過ぎざりしが次第に發達し、上川道路・増毛道路の開通後、明治二十三年、最初の開拓者、山室朝行なる者入移住し、ついで蜂須賀農場・菊亭農場經營され、同二十五年に設置されし深江村は今日の一已・秩父別・多度志・幌加内・納内・妹背牛の諸村をも包括し頗る廣大且つ人煙稀なりしが、明治二十八年屯田兵の入移住ありて深江市街地劃定され、同三十一年、當時の上

し地なり。大字堀原は桓武平氏、鎌倉氏の族、堀原氏發祥の地、景時・景季最も顯はる。村内の葛原岡には後醍醐天皇を輔け奉り北條氏討伐の計畫を進めし爲に鎌倉にて斬られし忠臣、日野俊基の墓あり、いま史蹟に指定さる。大字常盤（また常盤）は鎌倉時代に北條政村の邸あり、また現跡上人の外孫、唯善坊ここに庵を結びて念佛宗を弘布せしところ。

フカス 深須村

【フカス】 深須村 山口縣周防國玖珂郡の西北隅。西北は島根縣鹿足郡に接す。西北部の縣境に千米前後の諸山連立し、それ等は何れも中央部に向ひて低下し、東南部にもまた六八八米の諸山ありて中央部に低下す。中瀬川はその裾合を東北より西南に流る。この流域沿岸には僅少の低地ありて耕地及び部落發達す。純農村にして米・蕎麥等を産す。廣瀬村と本郷村に縣道通じそれぞれバスの便あり。もと深川・須川の二村なりしが明治二十二年合併して深須村と名づく。

フカタ 深田

【フカタ】 深田 愛媛縣北宇和郡好畠村の大字。宇和島線の深田驛（大正三年設置）あり。

フカタ 深田

【フカタ】 深田 上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に勢多郡深田郷あり、その地今の勢多郡内ならんも詳かならず。

【深田】 伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に河曲郡深田郷あり、布加多と訓す。その地今の河藝郡若松村の邊に當る。

【深田】 京都府竹野郡にありし村。昭和八年に吉野村・溝谷村・鳥取村と共に廢され彌榮村を建つ。

フカツ 深津

【フカツ】 深津 備後國（広島縣）の古郡名。續紀養老五年に備後安那郡を分けて深津郡を設くと見ゆ。天平十九年の法隆寺資財帳には備後深津郡とあり。和名抄は布加都と註し、中海・大野・大宅の三郷を管す。明治三十一年十月、深津・安那二郡を合併し深安郡の新稱を建てて今日に至る。

フカツ 深津

【深津（縣）】 明治初年、一時備後國に置きし縣。同四年十一月、備中國鴨方・同田・足守・庭瀬・新見・高梁・成村・淺尾・生坂の九縣、及び倉敷縣と備後の福山縣とを廢し、深津縣を備後深津郡深津（今は福山市の一部）に置き以て備中國及び備後の東部六郡を管せしが、翌年本縣を備中國小田郡笠岡に移すに至り小田縣と改む。

フカツ 深津

【深津】 廣島縣深安郡にありし村。昭和八年に福山市に編入す。

フカト 深戸

【フカト】 深戸 省線越美南線の一驛（昭和三年設置）。岐阜縣美濃郡上郡下川村にあり。

フカナミ 深浪

【フカナミ】 深浪 静岡県駿東郡にありし村。明治二十四年深良村と改稱す。

【深田】 京都府竹野郡にありし村。昭和八年に吉野村・溝谷村・鳥取村と共に廢され彌榮村を建つ。

フカノ

フカノミ

高来郡の東北。多良岳火山の東南斜面を占め、愛津地峡北方の有明海に面する...

フカバ

阿蘇山中央火山丘の北西方一七軒前後に當り、南側は熊本縣阿蘇郡内牧町、北側は...

フカフチ

地名。和名抄に香美郡深淵郷あり、不知と訓す。其地今の香美郡佐吉村の邊に當り、大字深淵は其遺稱なるべし。

フカホリ

長崎縣前國西彼杵郡の南部。長崎港外に位し、長崎を離ること約一二軒、野母半島西岸の長...

フカヤ

母連川の西岸に沿ひて桑名市の北部に接す。西中が丘陵の東斜面をなし、東半は...

フカカ

布織村。千葉縣下總國印旛郡の北部。利根川の南岸に位し、南境を流る...

フカマ

福釜。愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外七箇村と共に廢さ...

フカヤス

深安郡。廣島縣十六郡の一。備後國の東南部。東は岡山縣に界し...

フカワ

布川町。茨城縣下總國北相馬郡の東南部。利根川の北岸にて、...

フカミ

相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に高座郡深見郷あり、布加美と訓す。

フカミ

深見。豐前國(大分縣)の古地名。和名抄に宇佐郡深見郷あり、その地今の宇佐郡龍王村の邊に當る。

フカミ

深海。神奈川縣大沼郡の南東部。大沼町の東端にて、北は宮内郡(宮内村)に、東は長濱郡長濱村に界し、南は亞庭...

フカミ

深海。熊本縣肥後國天草郡天草下島の東南部。牛深町の東北約五軒に位し、...

フカムツ

深溝。肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に佐賀郡深溝郷あり、布加無曾と訓す。その地今の佐賀郡高木瀬村・春日村・金立村の邊に當る。即ち古の國府のありし所なり。

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカワ

深川。下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に栗田郡深川郷あり、その地今の足利郡栗田村・久野村の邊なるべし。

フカワ

深川。廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は野小川村、南は福木村に接す。面積一・四二方...

フカワ

深川。廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は野小川村、南は福木村に接す。面積一・四二方...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

FRKO

崎嶇地に臨む農・漁・商の村落。對岸には香燒島を始め、大小幾多の島嶼散布し、沈降海岸の特有景を現す。背後には長崎附近に於ける最高峰八郎岳あり、登れば遠く、島原半島・天草・五島列島をも望むを得べし。地質は結晶片岩の堅岩を主とし、海岸の一部には第三紀層局部的に分布す。農耕的平地少く、農産に見るべきものなし。されど村の土色は商業や著はれ附近の中心地たり。長崎との往來は海陸共に至便にして長崎市の近郊村落の傾向を窺ひ得。吉野朝頃より土家深堀氏ここに據りて近隣に雄飛せり。天正年間、龍造寺氏の島原征伐に出陣助授せしも、龍造寺氏の滅亡後は衰微す。今日その遺蹟を傳ふるものあり。(深堀神社) 大字深堀に鎮座。郷社。祭神、猿田彦大神・天照女神。もと寺神社と云ひ、明治四年に現社に改め、同七年に現在地に遷す。例祭、十月十五日。

フカマ

布織村。千葉縣下總國印旛郡の北部。利根川の南岸に位し、南境を流る...

フカマ

福釜。愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外七箇村と共に廢さ...

フカヤス

深安郡。廣島縣十六郡の一。備後國の東南部。東は岡山縣に界し...

フカワ

布川町。茨城縣下總國北相馬郡の東南部。利根川の北岸にて、...

フカミ

相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に高座郡深見郷あり、布加美と訓す。

フカミ

深見。豐前國(大分縣)の古地名。和名抄に宇佐郡深見郷あり、その地今の宇佐郡龍王村の邊に當る。

フカミ

深海。神奈川縣大沼郡の南東部。大沼町の東端にて、北は宮内郡(宮内村)に、東は長濱郡長濱村に界し、南は亞庭...

フカミ

深海。熊本縣肥後國天草郡天草下島の東南部。牛深町の東北約五軒に位し、...

フカムツ

深溝。肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に佐賀郡深溝郷あり、布加無曾と訓す。その地今の佐賀郡高木瀬村・春日村・金立村の邊に當る。即ち古の國府のありし所なり。

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカワ

深川。下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に栗田郡深川郷あり、その地今の足利郡栗田村・久野村の邊なるべし。

フカワ

深川。廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は野小川村、南は福木村に接す。面積一・四二方...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

深谷。宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を置き、大字赤井村を分割...

フカヤ

フカワ—フキ

昭和十年より活動復活となり、同年には紅霞六七、九八三疋を産す。また村内に長迫嶺山あり、鐵礦三萬五千餘坪、鐵種は銅硫化鐵なるが、昭和十年には紅霞一二、三九九疋を産す。本村は中世の田門莊にして後宇多院御領たり。のち深川と云ひ上・中・下深川の三村に分れしが、いま中・下深川は深川村となり、上深川は狩小川村の大字なり。〔深川薬師〕大字中深川字院内の明光寺境内にあり、本尊は坐像にして高さ一丈一尺、先背の高さ一丈四尺餘、五月八日の報日には善男善女にて賑ふ。

【深川町】山口縣長門國大津郡の中央。日本海深川灣に北面し、青島島東北海上に横ばる。南は美濃郡、東は三隅村・仙崎町、西は日置・依山二村に接す。面積八二・九方軒。地形は方形にて南境に山脈東西に連互し、花尾山(六七〇米)等聳え、地勢北方に傾斜す。深川は南部山地に發して中央を北流して灣に注ぐ。河口灣岸に平野展げ耕地多し。深川港河口に位し澗水深く巨船の交通頻繁にして且つ水産に富む。米・麥・蔬菜・繭・果實・薪炭材・清酒・魚卵・鮭等の産多し。特産に深川高麗焼あり。深川中流溪谷に湯本温泉の湧出あり。省線美濃線通じ湯本驛・長門湯本驛(共に大正十三年設置)の二驛を置き、省線山陰本線は海岸近くを走り正明市驛(大正十三年設置)あり。また縣道二線通じ日置・依山・於村村へハ

富貴下

院として朱印五百七十石を領し、明治維新に至るまで寺運隆盛を極む。往古は末寺六百餘ありて、防長五刹の首にして俗に西の高野と呼ばれ、賽者頗る多かりきと云ふ。

フカワタセ 深渡瀬

【富貴村】和歌山縣紀伊郡都那郡の東部。高野町の東に接し、南・東及び北は奈良縣吉野郡に圍まる。南境には八〇〇—九五〇米の山脈東西に連り、東境より北境にかけては六〇〇—九〇〇米程度の山地西北より東南に連りて村境を限り、北に坊城峰(七六八米)聳ゆ。西北境には七霞山(八九一米)峙ち、山麓は嶺がりて村の中央部を占む。また東部に發する丹生川は南境の山脈と七霞山麓との間を西に流下し、流域は低地乏し。米・繭の農産及び工業・林産あり。隣郡の山村にして交通不便なり。中世は富貴莊或は藤莊と呼ばし處。享保年中に名道伊光なるものあり、其頃四年續き、居民離散し、猪・鹿害をなすを憂ひ高野山に詣りて未納の貢進を免され、農事を奨励し猪・鹿の害を除き、十年間に舊狀に復すを得たり。村民大に徳とし、享保十年生祠を建て名道明神と呼べりと云ふ。

フキ

【富貴村】愛知縣尾張國知多郡の中部。牛田市の南方約一〇軒。渥美半島の中部東岸に位し、北は武豊町、東は知多灣に臨み、南は河和町に、西は小鈴谷村に隣る。第三紀層の山地より成り、東に向い緩斜面をなし、高度は八〇米位の低丘陵にて、海岸線は單調なり。農産は北部に水田・桑園あり、果樹園も見られ、また知多木綿を産す。海岸に沿うて師崎街道南下し、社線知多線道はこれと並行し、浦島(昭和八年設置)・富貴(昭和七年設置)の二驛を置き、此地は和名抄の智多郡但馬郷の地と思はれ、富貴はもと布木と云ひ、其地城はもと頼朝志庄の一部に屬せり。藩政時代には龜崎に於ける漁業

フキアゲ 吹上

【吹上】↓上富良野村(北海道空知郡) 【吹上】↓鬼首(宮城県玉造郡) 【吹上村】 栃木縣下野國下都賀郡の西北部。栃木市の北隣にあり。北境及び西境附近には二〇〇米餘の山地あり、中部より東部にかけては平地開けて水野川・小倉川南流し、農業行はれて米・麥を産し養蠶も盛なり。縣道は栃木市に通じバスの便あり。古くは和名抄、都賀郡秀文郷(委文郷の誤)の内とす。近世有馬氏の陣屋置かれ吹上城といふ。今その址ありて塚塚封墳等を存す。〔吹上藩〕有馬氏は享保年間より代々下總五井に居りしが天保十二年この地に移り陣屋を置き一萬石を領して明治維新に至る。明治四年藩を廢して縣を置きしが、同年十一月廢して栃木縣に入る。

【吹上町】 埼玉縣武藏國北足立郡の西北隅。北は北埼玉郡、西は大里郡、南は比企郡と隣る。荒川は町の南境を東流し、全町平地にて農業行はれて米・麥を産し、養蠶盛にて繭・生糸の産多し。中山道は東部を西北に走り、聚落は之に沿ひて發達す。また縣道は北方北埼玉郡忍町、南方比企郡松山町に通じ何れもバスの便あり。省線高崎線は中山道に沿ひて走り吹上驛(明治十八年設置)を置き、この地に中山道の宿驛として發達し、昭和九年に町制を布く。明治十一年、明治天皇北陸東海御巡幸の際、九月一日この地に御小

フキア—フクイ

休あせらる。

【吹上】 ↓南山見村(富山縣東礪波郡) 【吹上】 和歌山市紀ノ川河口の漆の邊より南方雜質の濱に至る一帯の地をいふ。萩草子にも濱は吹上入りとあり、古來萩として名高く詞藻に入りにしもの多かりしが、今は地形變じて海岸後退し田圃人家となる。夫木・濱(月)がけは千里もきよくみつ沙にみなみはれたる吹上の濱 後九條内大臣) 【吹上濱】 鹿兒島縣の南部、薩摩半島の西岸、川邊郡萬世町・日置郡田布施村・伊作町・水吉村・吉利村・日置村・東市來町・市來町・串木野町に互る長さ約四〇軒の弧狀の砂濱をいふ。この地域は全部砂丘地帯にして二〇米内外の高度を有し、最も高きものは南薩鐵道の北田布施驛の西方にあるものにて蓮の幹と呼ばれ四七米に達し、その頂上より全景を望み得。砂丘の上には高さ三〇米に餘る老松繁茂して悉く砂に埋れ、僅に梢幹を露し、殆ど椎松の密林を觀るの感あり。これ等の黒松は一部は自生にして、一部は植栽せしものとす。この地方は一朝西北の烈風起れば、白砂は濃霧の漲るが如く空に吹き上げられ、遠き聚落にまで及ぶため、近傍の民家は田圃の埋没を慮れて各々防砂林を設く。

【吹上町】 富木島 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年に外二村と共に廢され上野村を置く。

フキシマ

フキヤチヨ

【福井縣】 北陸地方の西南端にて、伊勢灣と若狭灣によりて隔れたる本州島中部の地峽部の北側を占む。北東は石川縣、東南は岐阜縣・滋賀縣に、南西は京都府に接し、西北一帯は日本海に臨み、その西南半部は若狭灣の東南岸をなす。感南

フキヤチヨ

【福井縣】 北陸地方の西南端にて、伊勢灣と若狭灣によりて隔れたる本州島中部の地峽部の北側を占む。北東は石川縣、東南は岐阜縣・滋賀縣に、南西は京都府に接し、西北一帯は日本海に臨み、その西南半部は若狭灣の東南岸をなす。感南

公設市場・公益質屋・瓦斯・屠殺場・火葬場あり。本市の地は古くは和名抄足羽郡足羽郷の地にして、延喜式兵部省式

振ふや之を領す。織田信長の越前一揆討伐により初めて柴田修理亮勝家来りて

後子孫相承け十七代二百數十年、以て明治維新に至り城廢す。いま松平侯爵邸の一部僅に残り、石垣・堀等も多くは取拂

轉せられしも、此處も亦水害多く遂に明治卅四年三遷して現地に奉祀せり。岩瀬町の社殿の下には大阪市住友氏の寄進に

社の横に、綱長井とて深さ十六丈三寸の井戸あり。〔佐住枝越神社〕舊城内、今の城町市廳舎

〔黒龍神社〕足羽山の麓にあり。郷社。祭神、高麗神・間諜神。往昔、男大連皇子が三大川御治水の時守護のため祭り給ふと云ふ。

應神天皇。天徳三年左馬頭源満仲の造營に創る。天正年中兵燹にかり結城秀康これを再興す。

城家は代々禰宗なる秀康は既に松平家に復歸せしを以て改めて淨土宗に改葬すべしと言命す。是に於て藩は直ちに京都

徳寺と改む。元和中福井市安原町に徙り高治年間現地に移轉せり。松平吉品が丹生郡立待村吉江在在の際の建物を云ふ。寺寶に狩野永徳筆の世界地圖の屏風(國寶)、淨法印筆の觀變繪あり。

来るや地方の大夫を舊御堂町に集めんとし本寺もその時徴されて現地に移る。〔奉修寺別院〕寶永上町、福井發着の後にあり。高田高田派。明治五年館町に寺務出張所を置きしに創る。同十四年毛矢町に移し堂宇を完成せしが、同三十五年河川改修工事のため現地に移轉せり。

が同六年焼失せしを以て朝倉敏景が足羽郡東郷村に一字を創建し上人に奉れり。これ本別院の遺蹟なり。天正十三年顯秀政の北庄に轉封するや現今の地を寄附して之に移らしむ。寶永十七年に本山派の男光恕が當別院の住職となりしが寛文年間より住職を置かず論議を置く。福井縣は西本願寺唯一の法縁の地なるを以て本堂・二祖堂・對面所・白書院・黒書院等規模壯大なり。

寶物に聖德太子作の彌陀本尊あり。〔明道館〕福井藩政時代の學校。今の福井中學校の前身。松平慶永が安政二年三月福井城内三ノ丸大谷平兵衛屋敷(もと中學校の跡)に學舎を建て明道館と號し藩士の子弟を入學せしめ、經書科・兵書武技科・國史和書科・歴史諸子科・典令科・詠歌詩文科・習書算術醫學科・蘭學科を置きて訓育せり。而して經書科は四書五經にて朱子の定本により他説を用ひず。蘭學は當時禁止中なりしも天文・地理・醫學・軍學・火砲・結算等は民生に益するとして人選の上之を學ばしめ、翌年四月には橋本左内の獻議により館内に別に洋書習學所を設け、兵法・物産・算術等を講習せしめ維新當時には志士名士を出せり。

〔橋本左内墓〕相生町善慶寺内、足羽學校の南にあり。三墓碑のうち中央、花崗石の墓に納骨さる。安政六年十月七日に刑せられ文久年間許されて歸葬す。〔善慶實盛塚〕橋南榮町にあり。昔は今立郡片上村南井にありしが如く、慶長六年五月奉藏院と共に移轉せしものか。高き丈餘。文字は讀み難し古書には應保元年七月二十八日と記すと見ゆ。

て海部郡と界し一軒餘にして太平洋岸に出づ。全村山脈・丘陵に連り、西境には後世山(五三九米)聳ゆ。中央を一河川東北に貫流し、橋を經て橋港に注ぐ。沿岸に小低地開け、殊に東北部の平地やや大なり。東北岸は小平野をなす。北より背後を圍まれ、海岸は小平野を作りて白砂青松あり、風景佳なり。東北方隅には小島嶼横たはる。米・藁・麥を産し物産には孟宗竹・蜜柑あり。外に林産・畜産あり。また富村と海部郡赤河内村とに跨りて鐵道橋の嶺あり、嶺區約四十萬坪、昭和十年より事業を開始す。土佐街道は中央を縱斷し、それより分れて東北地方に延びて橋港に至る道路もあり、各バスの便あり。省線本線は北方より中央に南走し來り阿波福井驛(昭和十二年設置)を置く。魚山院御因事記に阿波國福井庄と見ゆ。蓋しこの地にして當時御料の一たりしを知るべし。

栽培盛なり。近來、穀物業隆盛となりその産額は農産物の約五・六倍を示す。西部には父鬼街道南北に走り北隣の風町にバスの便あり。東方の社線南海鐵道の高野線の北野田驛もバスの分れしが、昭和十年合併して福泉町とす。福井と田の合字にして泉は和泉の泉を取れるといふ。(日部神社)大字草部に鎮座。村社。祭神、道臣合外二柱。後西院天皇明曆年中火災に罹りて舊記を失ひ沿革の明を聞く。本殿・石燈籠一基(補正儀奉納と傳ふ)は國寶なり。

平にして高さ約六米、後壁は殆ど直立し天井際にて少しく彎曲す。佛像はこの後壁に刻み出せしものにて背部は後壁に、底部は下の岩に連る。彫刻の手法には牛内と線彫あり、七體の佛像のうち如來部に屬する四體は何れも坐像にして、最も大なるは高さ五丈一丈七尺あり、他の三體は菩薩の立像なり。これ等の佛像は何れも甚だしく磨損せるも、その輪郭相好の豊満雄大にして、光背の精巧優美なるは、平安時代の様式を傳ふ。(觀音堂石佛)指定史蹟。藥師堂より東北約百米を隔てて後岩屋と呼ばれる丘陵の岩窟にあり。千手觀音の磨崖佛にして立像總高さ二丈三尺、上體部を遺存し、藥師堂石佛と同時代の作と思はる。(稻荷神社)大字鉦澤に鎮座。縣社。祭神豐受大神。往古は常陸國行方郡大生原村の奥山に鎮座せしに創るといふ。中世、賊徒の爲に放火掠奪の禍に遭ひ、神體を奉じて逃れ諸處に轉じて、のち現地に移る。神位は文政三年正一位の宣下あり、爾後、領主の崇敬社たり。例祭、四月八日。

フクイ フクウ

【福井村】徳島縣阿波國那賀郡の東南部。新野町の東南に接し、東北は橋町に隣りて一部は紀伊水道に臨み、南は山嶺を以

て海部郡と界し一軒餘にして太平洋岸に出づ。全村山脈・丘陵に連り、西境には後世山(五三九米)聳ゆ。中央を一河川東北に貫流し、橋を經て橋港に注ぐ。沿岸に小低地開け、殊に東北部の平地やや大なり。東北岸は小平野をなす。北より背後を圍まれ、海岸は小平野を作りて白砂青松あり、風景佳なり。東北方隅には小島嶼横たはる。米・藁・麥を産し物産には孟宗竹・蜜柑あり。外に林産・畜産あり。また富村と海部郡赤河内村とに跨りて鐵道橋の嶺あり、嶺區約四十萬坪、昭和十年より事業を開始す。土佐街道は中央を縱斷し、それより分れて東北地方に延びて橋港に至る道路もあり、各バスの便あり。省線本線は北方より中央に南走し來り阿波福井驛(昭和十二年設置)を置く。魚山院御因事記に阿波國福井庄と見ゆ。蓋しこの地にして當時御料の一たりしを知るべし。

【福井村】徳島縣阿波國那賀郡の東南部。新野町の東南に接し、東北は橋町に隣りて一部は紀伊水道に臨み、南は山嶺を以

【福浦村】 石川縣能登郡羽咋部の西部。富來町の南に接し、西は日本海に臨む。村は一〇米前後の丘陵地帯に密着し、中央に狭長の小低地を挟み此處に御堂なる聚落發達す。海岸は北部は海崖をなし、西部は概ね石海岸にして中央に小灣入りあり好漁港をなす。主産業は概ね水産にして米・藁等も多少産す。海沿ひに縣道走りまた社線能登鐵道の終點三明驛へ約四軒、縣道にバスの便あり。古くは和名抄羽咋郡本郷の内なるべし。福良津の名は續日本紀・三代實錄等に見ゆるも、此地は地勢懸絶にして港澳狭小なれば商船出入の津頭にはあらずして、一時の假泊修船の所なりしものならん。

【福浦村】 高根縣石見國通摩郡の西南端。西及び北は日本海に面し、西南は那賀郡に、東は福光村、南は波積村に隣接す。面積二・〇六平方軒。地形南北に長く北海岸に小平地を有すれども他は概ね高く、南部に漸高す。北と西の海岸低地に聚落をなし、附近山麓に耕地や畑、米・麥・藁・蠶・鯛・鮎等を産す。省線山陰本線福松驛に近く利用の便あり。

フクエ 福江

【福江】 石川縣能登郡にありし村。明治四十年に外二箇村と合し根上村を建つ。昭和九年に根上村は町制を布く。

フクエ 福栄

【福栄村】 山形縣羽前國西田川郡の南部。鶴岡市の南方約一八軒。東は東田川郡、南は新潟縣岩船郡に接す。面積一・一八・七五平方軒の大村。東境には北より湯ノ澤(九六四米)・三方倉山(九〇五米)・摩耶山(一〇二〇米)等連りて西方に傾斜し、西部には薬師岳(六八六米)・大畑山(六一七米)等聳え、全村概ね山地をなす。五十川は北部を、温海川・小國川は中部を、鼠ヶ淵川は南部を各東境に發源して西流す。村内は山林面積多くして木材・木炭を産しまた米・藁の産あり、道路には中部を南北に通ずるもの、川に沿ひて西方日本海岸に通ずるものあり。省線羽越本線温海驛へは西方約一軒あり。人口密度は一方軒につき三〇人なり。本村大字小國は山谷に散在する部落なるも、往昔は廣く羽前・越後境上の汎稱なりしならん。舊く土家小國氏の據りし處にして南北例の頃には南軍に屬し、羽前勤王四家の一たり。慶長・元和の頃には最上家に仕へ、最上氏の改易と共に退轉したるものなるべし。村民は古來射法を習練し、毎年正月十七日、大射儀と稱し一村の百姓集會するを例とす。村民自衛のため、萬一の虞に備へたるものか。明治元年戊辰の役に、莊内の藩兵ここに築壘して國境を守る。八月、薩長の兵來りて攻めしも破ること能はず。九月、莊内藩

は伊良湖御村に接し、西は伊勢灣に面す。東部より南境にかけて牛島の骨を構成する古生層山地起伏し、高度は二六〇米内外なり。その北側には洪積層地接續し、更に沖積層地續く。北岸は建設作用盛にして鐘ヶ崎などの砂嘴が支障を抱く。支溝の入口には黒部ヶ岩ほか二、三の砂洲ありて一箇地をなす。西北端は立馬岬と呼ばれ砂濱をなし、西部は草地をなし、西山附近は伊良湖射撃場たり。産業は洪積層地は燧燧として利用せられ燧燧盛にて、水田は南部豊島池による灌漑行はれ米産多し。福江より田原町へは海岸づたひに田原街道通す。福江港は内務省指定港の一にして魚類の集散行はれ、沿海は海苔の養殖・養蠶も行はる。此地もと島と稱して海隅の一大邑たり。明治廿八年町制を布き、同廿九年福江町・中山村・清田村を廢して新に本町を設く。(福江町)大字島に鎮座。郷社。祭神、武甕槌神・天兒根神・天徳日命外十三柱。もと五社八王子神社と稱す。古來當地の産土神たり。例祭、九月二十九日。

【福江】 山口縣能登郡安岡町の大字。山陰本線の福江驛(大正三年設置)を設く。

【福江島】 長崎縣南松浦郡に屬する五島列島の一。フカエとも訓む。列島の最南端に位し、最も大なり。基盤は中生層より成り、その中央に古き花崗岩出で、周圍の半島部に新しき玄武岩發達す。島民の大部分は漁業に従事し、農業としては歸順の報ありて漸く退去す。

【福栄村】 香川縣讃岐國大川郡の南部。讃岐山脈の北斜面に位し、引田町の西南二軒餘。南は徳島縣板野郡及び阿波郡に界す。南境には讃岐山脈が五〇〇—二五〇米の高度を以て東西に連り、北境には五〇〇米以下の丘陵東西に續き虎丸山あり。中央北側の椈谷に湊川東流し、東北部より白鳥村に出づ。沿岸や低地間を東北部に廣く附近に灌漑用池沼あり。純農村にて米・麥を主産し、養蠶・炭焼を副業とし特産物に松茸あり。引田港へ道路通ずるも概して交通不便なり。古くは和名抄、大内郡與那郡の内なるべし。もと入野山村・與田山村・西山村・東山村の四箇村に分れしが、明治廿二年合併して一村となし福栄村と名づく。傳説に護良親王古野を落ちさせ給ひてのち難を此地の與田山に逃げ給ふといふ。(若王寺)古義眞言宗。寺傳に行基草創し、空海再興すといふ。のち屢々兵火に瀕り、寛文年中、本坊再建る。

フクエ

東半部に於ける米及び糠がやや知らる。沿岸には福江・富江・荒川・玉ノ浦等の漁港あり、福江町はその首邑にて長崎との間に定期船往來す。

【福江町】 長崎縣能登郡南松浦郡五島列島の南端、福江島の東北部。南松浦郡の主邑たりし所、いま南松浦支廳の所在地となり郡治の中心地たり。福江市街の南半に高度三—三米の鬼ヶ岳を主峰とする五箇の小火山丘あり、其の周圍には百米以下の低平なる熔岩臺地廣く分布す。何れも玄武岩より成る。臺地の周縁部は一般に急斜をなし海岸又は低地に臨み特殊景観をなす。火口丘は何れも圓錐形をなす標式的なる火口丘にして未だ原形を留むるも、中には解析やや進み、地形複雑なるものもあり。火山丘麓または臺地面の大部分は畑地として利用せられ甘藷・粟・大豆・麥等を栽培すも、土地利用率は割合に少く非集約的狀態にあり。市街の北部は中生代の地層より成る丘陵性山地にて、北部に登ゆる佐々ノ嶽の主峰たり。南方熔岩臺地との間は福江・大濱間に大國寺川流れて低地帯をなし、所々火山岩に埋れし臺地地形を見らるも多くは沖積平地にて水田・聚落此處に立地し、熔岩臺地と全然異なる景観を示す。海岸は熔岩の流氷臺をなす所あり、磯濱も見られ一般に單調なり。されど福江港は港灣を形成し良港たり。往年は港内水淺く風波を避くるにやや不便なりし

移移を経て備後十日市驛に移る。全長八六・五軒。全線三等車のみを運轉し、福山驛・府中町驛間は電車を併用す。

【福岡町】 岩手縣陸奥國二戸郡の北部。一戸町の北方約七軒。北上山地の北部に位し、東・北は附懸休村を経て九戸郡及び青森縣に隣り、南は石切所村に接し、馬淵川を隔てて西に石切所村・牛米村に對す。土地高燥にして積雪厚なるも東に折爪岳を控へ、四面丘陵を以て圍繞せられたる盆地にして第三紀層より成る。農業は主要生産業なるも耕地少く氣候不順の年多きためその産額は少く、商業また不振にして往時に於ける盛況を見ず。農産物(四九、九九五圓)としては藁・大豆・神を主とし、畜産物(四二、九七八圓)としては家兎・豚毛皮の産最も多く、特に近時軍需品として兎皮の販路大なり。なほ移出物品の一端を見るに藁最も多く、その取引高三萬五千貫(一六・八萬圓)を超え本町に於ける最高移出物にして、木炭・牛馬・豚・毛皮・小麦粉・大豆これに次ぐ。本町は國道、鹿角街道・九戸街道・牛米道路の集結にて交通繁しく貨物の集散多し。何れも貨物自動車・定期乗用自動車の運轉ありて物資の移出入、旅客の便益を圖ること少からず。特に鹿角街道は交通最も頻繁にして省営バスの計畫あり。牛米道路は既に完成し十和田湖に至る最短路線として將來の利用大なる

も、近年築港し、防波堤を築きため良箇地となれり。長崎・佐世保方面への定期船の碇泊地にして、長崎を距る一〇二軒、約五時間の航程なり。産業は農耕生産を主とし、漁業亦盛なり。近海は西九州に於ける有名な漁場にして本港は其の大集散地たり。漁獲高は南方富江・玉ノ浦に及ばざるも、其の取引は、長崎に最も接近する本港その中心となり、殆ど全島の水産物を處理し、特に水産加工業盛にして、五島鰯は本町に於て主として生産せらるるものなり。また商業・金融の本郡に於ける中心地たるも共に、支廳を始め警察署・稅務署等の官公衙、中學校・女學校等の文化施設も備はり郡の主邑たるに恥ぢず。本町は舊五島氏の城下にて、その舊城址は今日町端に遺り、郭内に舊藩主五島子爵の邸宅あり。大正八年町制施行。(五島城)一に福江城といふ。五島氏の祖なる盛定の創めし所に於て子孫世襲して明治に至る。慶長十九年火災にかり嘉永二年幕命にて再興せしが、明治維新に廢城す。同四年福江藩を廢して福江縣を置きしが、間もなく廢して長崎縣に入る。(城山神社)縣社。祭神、保食神・家盛・宇久良・五島純支。保食神を除く三祭神は何れも松浦黨の一族にして、家盛はその始祖たり。純支はその二十代と稱せらる。(八幡神社)大字福江に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・三女神。古來領主を始め

ものあるべし。北福岡驛と町との間は自動車の運轉ありて旅客の便を圖る。明治二十二年町制を布く。福岡は古の二戸の地にしてのち宮野と稱せしが、文治五年南部氏の所領となりし以前は評ならず。南部の家臣九戸政實は永祿十二年二戸數邑を加賜せられ、此地に居城を置きしが天正十九年に亡ぶ、南部信直三戸より松ノ丸に移り、名を福岡と改む。南部氏の此處にあること九年、更に城を盛岡に移せしかば、元和二年より代官所を設けて治をとれり。(九戸城址(福岡城址))指定史蹟。本町五日市の東に接する丘陵にあり。東西五五〇米、南北四四〇米。自然の地形を利用し砲臺などを造り居館の形式を存す。城は天正十九年九戸政實が豊臣秀吉麾下の蒲生・井伊・淺野などの大軍に攻圍せられて降人に出でし所に、其後、南部信直が三戸より來り治し、子利直の代に至りて盛岡に移るまでの居城たり。(横山石器時代遺蹟)本町横山にあり。土器・石器等を畑地に散在す。石劍・土偶なども曾て發見せられしことあり。なほ隣村の附懸休村蝦夷森・大藪野・仁佐平よりも遺物が發見せらる。この地方は昔の附懸休の地にて幣伊(附伊郡地方)と共に東北に於ける蝦夷の二大本據地をなせしが、弘仁二年文庫鏡磨が陸奥・出羽兩國の兵二萬六千を率ゐてこれを征し、ついで出羽守大伴個人によりて遂に滅滅さる。奈良時代以後の蝦夷

ものあるべし。北福岡驛と町との間は自動車の運轉ありて旅客の便を圖る。明治二十二年町制を布く。福岡は古の二戸の地にしてのち宮野と稱せしが、文治五年南部氏の所領となりし以前は評ならず。南部の家臣九戸政實は永祿十二年二戸數邑を加賜せられ、此地に居城を置きしが天正十九年に亡ぶ、南部信直三戸より松ノ丸に移り、名を福岡と改む。南部氏の此處にあること九年、更に城を盛岡に移せしかば、元和二年より代官所を設けて治をとれり。(九戸城址(福岡城址))指定史蹟。本町五日市の東に接する丘陵にあり。東西五五〇米、南北四四〇米。自然の地形を利用し砲臺などを造り居館の形式を存す。城は天正十九年九戸政實が豊臣秀吉麾下の蒲生・井伊・淺野などの大軍に攻圍せられて降人に出でし所に、其後、南部信直が三戸より來り治し、子利直の代に至りて盛岡に移るまでの居城たり。(横山石器時代遺蹟)本町横山にあり。土器・石器等を畑地に散在す。石劍・土偶なども曾て發見せられしことあり。なほ隣村の附懸休村蝦夷森・大藪野・仁佐平よりも遺物が發見せらる。この地方は昔の附懸休の地にて幣伊(附伊郡地方)と共に東北に於ける蝦夷の二大本據地をなせしが、弘仁二年文庫鏡磨が陸奥・出羽兩國の兵二萬六千を率ゐてこれを征し、ついで出羽守大伴個人によりて遂に滅滅さる。奈良時代以後の蝦夷

攻略最後の地なり。「春香稻荷神社」縣社。祭神、天照大神外四柱。長保年間、源重之の母、託宣により創建すと傳ふ。社寶として古代神樂面あり。例祭、九月五・六日。

【福岡村】 岩手縣陸奥國江刺郡の北部。黒澤尻町の東方約八軒。北・西は和賀郡に接す。北上山地の西斜面に属し、東南方に麓山(一九三米)、北境に物見山(二九二米)、西南部には明神山(三五三米)聳え、四圍山地連りて中央に傾斜し、廣瀬川は北部に發源して四圍の水を聚め、村の中央部を南流す。沿岸耕地拓け肥沃なり。生業は農を主とし、米・麥・大豆を産す。之に次ぎて木炭・繭・桑等の産あり。畜産業は逐年盛大となり、山羊・山羊の飼育行はる。省線東北本線黒澤尻駅へは約八軒あり。この地上古は蝦夷族の居住地にして傳説的證據あれど詳ならず。明應年間葛西氏の子孫江刺郡を領し江刺氏と稱し、のち藩封制度を採用し一族の口内帯刀は口内村に配せられし如きもこれ亦評ならず。伊達氏の時一族は瀬上淡路を領し、以後他の一族代りて數代を経元禄八年に至り中島氏封じられて明治維新に及ぶ。其後、花巻縣・江刺縣・一國縣・水澤縣等の治下を經、明治八年上口内・下口内・小池・水押・孤木田の五箇村を合併して福岡村と改稱し、同九年に磐井縣の治下となる。のち町村制實施に際してもその區分合する事なく今日に及ぶ。

【菅牛城址】 安倍貞任の築きしものと傳ふ。口内領主代々の居城となりしものにて、いま本丸に武彦神社(中島氏の祖先を祀る)と、二の丸に深の一部を残存するのみ。(阿古屋谷) 福岡・梁川兩村の自然的境界をなす奇岩より成る千俣の谷一帯に名づけていふ。慈覺大師の圓かかれしものにて當時は谷間に佛堂を安置し、その數三十三體なりと云ふも、いま七體を存す。頂上には大師の用ひたりと云ふ礎石のものが岩に彫られてあり。

【福岡村】 宮城縣磐城國刈田郡の中部。白石町の西に接す。面積一〇・六二方軒の大村。奥羽山脈の東斜面に属し、西北境に不忘山(一七〇五米)聳え、東南方に傾斜し、川は西北部に發源し、東南に流れりて白石川に合す。全村山地多し。白石川は村の東境をなして東北に流れ沿岸に耕地拓く。米・繭・麥・木炭を産し、西部に白石牧場ありて、軍馬補充部出張所置かれ牧馬行はる。また富村内に約二十四萬坪の農地を有する福岡山あり、金銀銅鉛山にして昭和十年より鐵東鐵業會社の手により事業を開始せらる。道路は東部を略南北に通じ、省線東北本線白石驛へは自動車便あり。西部は交通便ならず。この地は和名抄、刈田郡刈田郷の内なるべし。(鎌先温泉) 炭酸鹽類泉。療養向にして、創傷・麻痺・皮膚病に效果あり。附近に陣馬山の古戰場、維新の際の奥州鎮撫總督參謀世良修義の墓、

小野瀧等の殉難碑等あり。

【福岡村】 茨城縣常陸國筑波郡の南部。谷田部町の西隣にて、小貝川の東岸にあり。西は結城郡と隣る。全村平地にて水田多し、米を主産し、他に大豆・小麦を産す。谷田部町へ縣道を通ず。古くは和名抄、河内郡八部郷の内とす。

【福岡村】 千葉縣上總國山武郡の南部。東金町の南隣にて南は長生郡と隣る。十九里濱沿岸平地の一部を占め南白魚川南流す。村内水田多く米を産し他に繭・麥を産し養蠶も行はる。縣道は南部を横走して西方大網町へ通じバスの便あり。同町に省線房總東線大網驛を置く。村内に大網城址あり、大永年中に畠山重康これに居る。元久元年、畠山重忠の族某、安房國より此處に移り、本城を築く。重康に至り二萬八千石を領し土氣城を併守す。酒井氏の勢強盛となり、土氣城を取す。大永六年大網城に攻來り激戦二日、重康は老臣に殺され城陷る。

【福岡町】 富山縣越中區西礪波郡の北部。北陸道に沿ひ、高岡市・石動町の略中間にて何れへも約六軒を取つ。小矢部川右岸に沿ひ、面積一・七七方軒に過ぎず。平坦にて灌水の便よく水田多し。附近農産物の集散地としてまた穀物その他の工業地として勃興しつつあり。省線北陸本線通過し福岡驛(明治三十一年設置)を置き、國道はこれに並走し、南へ縣道を分岐す、交通便なり。孝靈帝の第三皇子彦刺眉別命の五世孫、礪波氏の姓を賜りその後裔の礪波氏志この地に居るを榮くといはれ、礪波氏は聖武天皇の朝に従五位下に叙せられたため此地を五位殿の莊園といひ、近郷を五位庄とも稱したり。その後、石黒光弘の末裔居せしも、更に上杉謙信の領するところとなる。

【福岡】 山梨縣中野郡にありし村。昭和三年松島村と合し敷島村を置く。

【福岡村】 岐阜縣美濃國惠那郡の東部。北は付知町、東は川上村・坂下町及び苗木町、南は坂本村、西は蛭川村・加茂郡黒川村に各相隣る。地形は花崗岩より成る東濃山地の東部を占め、東北境に三界山(一五九九米)、西北隅には高時山(一〇八五米)聳え、東部には松山(七六二米)、西部には善岩里山(五二二米)、岩山(九三二米)、トツ森山(一二三三米)あり。中央には南北に付知川流れ、謂ゆる付知川斷層谷をなす。付知川は南端にて直角に木曾川に合す。中央部には栗木嶺泉あり。付知川の地溝内には水田多し、また木炭を産す。本村より苗木町・蛭川村にかけては各種の特殊産物を産し、そのヘダマタイト質の石英脈中よりは重石鑛を出し、湯之島にはラヂウム泉噴出す。交通はこの地溝内に行はれ、南北街道は本村より付知町に至り、社線北惠那電氣鐵道はこれと並走し、美濃福岡・美濃下野・田淵の三驛を置く。本村は和名抄の惠那郡轄下郷の地にして、中世には遠山庄に属し、江戸時代は苗木藩領たり。舊蹟には伊良親王の御遺蹟あり。高山地内の殿塚・塚塚・十三塚・太圓坊・圓屋・姥ノ懐・法泉寺屋敷・比久尾屋敷の舊蹟存す。元中九年に後龜山天皇は神器を後小松天皇に傳へられ應永と改元されしが舊宮方の遺蹟は元中の年號を用ふ。初め

舊宮方の遺蹟は宗良親王の皇子伊良親王を擁し、木曾路に落ちし時に蛭川を經て高山の園屋に至りし時に敵の追軍に遭ひ一戦を交へ、ここに十三勇士は衆寡敵せず討死す。十三塚はその戦跡と云はれ、宮は妃太圓坊に留め伊良親王とも別れさせられ山越に坂下に至られしが、また敵の追撃せらるる所となり、今時次郎は討死し、宮は林中に入りて自刎せられ、その従者は宮の首級を奉じて高山に至り殿垣戸の林中に埋む。これ殿塚なり。妃は之より先に敵軍に遭ひ、今の殿塚の地に果敢なき最期を遂げられ、良王は從者に守られ姥ノ懐に隠れ給ひ、遺蹟は此地に農耕を事とせり。法泉寺跡・比久尾屋敷はその子孫が寺院を建てその善徳を永く弔ひし所といふ。(下野の女夫松) 指定天然記念物。幹の下部にて合着せる二株の赤松の一角地上約九米の高處にて横枝を出し他の幹と合して橋状をなせるものなり。樹木相互間の著しき接着を示せる點は學術上有益なり。(轉山神社) 大字福岡に鎮座。祭神、天照大神・伊邪那大神・健甕須佐男神。養老二年に當村上苗木村に勧請し慶長十九年當地に遷座せりと傳ふ。太刀一日は國寶たり。例祭、陰曆六月十四日。

【福岡町】 愛知縣三河國額田郡の西部。北は岡崎村を隔てて岡崎市に接し、東は美合村、南は幸田村・豊坂村、西は六ツ美村にそれぞれ隣る。東部には僅に八〇

本程度の高層層臺地が起伏し、他は廣田川の沖積地より成り、廣田川は天井川をなし南境を西流す。此地は毎月數次市場を開き、山地の翡翠と海産の魚類等と交換す。木綿工場多し、沖積地には米・蔬菜の産多し。交通は便利にして東海道本線は町の中央を南北に走り岡崎驛に近く、西部には社線西尾鐵道通じ、土呂驛(明治四十四年設置)を置く。本町附近は和名抄の額田郡大野郷の地と思はるるも詳ならず。舊名は土呂(又は土羅に作る)といひ中世は深溝庄に属し、徳川時代には山畑村とも云はれし事あり。のち豊岡村・北未井村とに分れ、明治二十六年合併して福岡町とす。土呂城址は大字福岡にあり、永祿七年、三河一向一揆の亂の際、徳川家康の命により石川數正がここに築城せるものなり。(八幡宮) 大字福岡に鎮座。祭神、應神天皇、外四柱。永祿四年兵火に罹りて舊記を焼失して由緒不詳。本殿は足利時代後期の建造に係り國寶たり。

【福岡】 愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年に他の五箇村と共に廢され高師村を置く。高師村は昭和七年に豊橋市に編入さる。

フクオ—フクオ

博多・二日市・甘木の線に及び、主として御荷貯層・花崗岩・白雲紀層・古第三紀層・砂岩等より成り、更に洞海層の北にある石峰山地帯、遠賀川・彦山川の谷を西界とする東部山塊、遠賀川と福岡三坂峠・福九・嘉麻川とに分れ、主として古第三紀層より成る筑紫山塊、その以西の西部山塊及び前二者の南なる馬見山地帯に細分せらる。また馬見山地帯の東方、大分縣との境界には火山岩にて成られたる彦山山塊あり。彦山山塊は佐賀縣との境を略東西に延び、主として花崗岩より成り、彦山(一〇五五米)・雷山(九五五米)等を蔽き、その一部は筑前西部山塊となり、糸島半島の地域をつくる。東部山塊の東面には今川・蔵川・城井川等周助灘に注ぎ、沿岸は豊前平野の一部をなし、筑紫山塊には彦山川・嘉麻川相合して遠賀川となり北流して豊前灘に注ぎ、流域に遠賀川平野をつくり、西部山塊の西、彦山山塊との間には多々良川・石堂川(御笠川)・那賀川は北西流して博多灣に入り、その流域は博多平野をなし、彦山山塊と筑前西部山塊の間には糸島平野あり。縣の南部は瀬川内陸地帯の延長部にて謂ゆる長崎三角地帯の一部に屬し、東部に輝石火山群の火山岩地帯あり、これより西に延びるものに、北に古生層の水滸(耳形)地帯、南に御荷貯層の八女山塊あり、これと北方筑紫山塊との間は筑後川・矢部川等の流域に

て水滸地帯の西南に置き洪積層を發育するも、其他の大部分は殆ど沖積層の肥沃なる平地にて筑紫大平野の東半をなし、縣下の重要産地帯たり。海岸は南部の右明海沿岸は距離も短く、筑後川・矢部川の堆積作用により遠淺をなす。北岸は周助灘より豊前・玄界灘に互り延長大にして出入り多く脚角湾曲に富む。即ち北東には全枝(門司)半島突出して中國の西南端と關門海峡を狭み、その西には石峰山地帯(遠賀半島)東西に延びて南側に豊前灘水路を通ずる洞海の出入を擁し、前者には門司、後者は若松の二大港を發育せしむ。また西南には海ノ中道の半島西方に半島出、筑前西部山塊(糸島半島)との間に玄界灘の支那博多灣を抱き、その南岸に博多港あり。糸島半島は西方の東松浦半島に對し、その間に唐津灣を擁す。(氣候)九州島に屬するもその北部に位置する東市と南に山地を負ひ、北は玄界灘・豐前灘に、東は周助灘に面するため、南方諸縣に比すればやや低温にして降水量も少し。福岡市の気温は年平均一五・一度、一月五度、八月二六・三度にして佐賀(一年一五・五度、一月四・九度、八月二六・九度)、熊本(一年一五・五度、一月四・七度、八月二七度)に比すれば年平均均に低きも多は稍暖く夏は却て稍涼し。縣内に於ては北東端部と南西端部最も高温にして春嶽・筑紫・彦山山地に最も低温にして降水量も玄界灘沿岸・周助灘沿岸に

少く(福岡市一六一五耗)、山岳地方に多く、特に東南部山塊にては二〇〇耗以上を達することあり。また一般に六・七月の梅雨期に多し。十一月より三月にかけての降雪期には多少の降雪あるも積雪量多からず、また解消速かなり。(産業)諸産業みな活潑なるも従業者の最も多きは農業にて商・工・鑛業これに次ぎ、生産額より見れば工・鑛業の順位を示す。農家は約一六・二萬戸、全戸数の二三・八%に當り、耕地面積約二八一、七〇〇町歩、一戸當り一町一反九畝歩、全国平均の一町七畝歩に優る。筑後川・矢部川

職業別戸口(昭和八年)
Table with 4 columns: 職業, 戸数, 人口, 百分比

あり、また柑橘(六六萬圓)・梨・柿・葡萄・桃等の果實の産(二一〇萬圓)少からず。特産に産實(一六七萬圓、二九萬圓)あり。工業は石炭の産地に近く、またその原料・製品の輸出入に便利なる北東部の海岸に主として行はれ謂ゆる北九州工業地帯を現出し、八幡製鐵所の工業を除くも三六、八〇〇萬圓を超え縣下の全生産額の六一%に當る。工業の主なるものに製鐵・釀造(ビール・清酒等)・

生産額(昭和八年)
Table with 3 columns: 産種, 價額(千圓), 百分比

フクオ—フクオ

米の足袋と共に縣の特産たり。鑛産に石炭・金・銀・石材等あり。特に石炭の産額頗多し、遠賀川流域の筑紫山塊、南境の三池炭田、北部の精炭炭田、北西部の早良炭田より採掘せられ、筑紫炭は若松・門司二港より、三池炭は大牟田の三池港より輸出せらる。石炭の産額一、七六〇萬圓、傾斜一、〇〇〇萬圓を突破し、全國産額の二分の一を占む。本縣はまた有数の水産縣にして、玄界灘の鯛(一〇萬圓)を筆頭に鱈・鮪・鰯・鰯・鰯等の水産物、蒲鉾・竹輪・煮乾鰯・鰯等の製造物あり。商業は各種産業の隆盛と共に盛にして門司・若松・小倉・福岡・久留米・大牟田の諸市を中心として行はれ、會社總數一、八三〇、内、商業會社約一、一〇〇、工業會社約五三〇、出資または公積資本金四八、九〇〇萬圓なり。貿易は門司・若松・博多(福岡)・三池(大牟田)の諸港に於て盛に行はれ特に門司と若松は全國開港中貿易額に於て大阪・神戸・横濱・東京につぎ第五位・第六位を占む。(交通)工・鑛・農業の隆盛は諸都市の發達を促進しこれと共に交通機關も著しく發達し、特に東北西部は鐵道網甚だ密なり。省線鹿兒島本線は門司驛に起り北部沿岸の諸都市を連ね福岡より南下し久留米・大牟田を經て熊本縣に入り、その間小倉にて岐るる日豊本線は北東周助灘沿岸に近く東市に走り行橋にて田川線を岐ち大分縣に出で、

筑紫本線は若松市に起り、折尾にて鹿兒島本線と交叉し遠賀川流域を南下し、中間に於て伊田にて田川線に連る香月線、藤野にて宮田線、小竹にて幸袋線、新飯塚にて涉生線、樹枝狀に分岐し、原田にて鹿兒島本線に連絡す。室木線は鹿兒島本線の遠賀川驛より起り南方室木に達し、篠栗線は若松・篠栗間に通じ、肥後線は博多驛より起り西方に走り、唐津を經て伊萬里線に連り、長崎本線は島原驛(佐賀縣内)より岐れ、久大本線は久留米に發して筑紫平野の東部を貫き大分縣に出で、また佐賀線は矢部川驛と佐賀市を結ぶ。其他、社線には門司・折尾間の九州電軌、東小倉・彦山口間の小倉鐵道、直方・福九間の鞍手鐵道、西戸崎・宇美間、宮地嶽・新博多間の博多線鐵道汽船線、吉塚・筑前藤田間の筑前線鐵道、福岡・久留米・柳河間、甘木・福島間並に大善寺・柳河間の九州鐵道、二日市・杷木間の朝倉鐵道、土久留米・榎津間の九州鐵道大川支線、矢部川・南國間の九州鐵道鐵道等あり。また道路よく發達してバス營業行はれ、縣内の交通に頗る便利なり。(沿革)明治維新に際して、筑前には福岡藩(黒田氏五二萬石)及び秋月藩(黒田氏支藩五萬石あり)、また筑後に久留米藩(有馬氏二一萬石)・柳河藩(立花氏一三萬石)・三池藩(立花氏支藩一萬石)あり。更に豊前には小倉藩(のち香

春藩、小笠原氏一七萬石)・千束藩(小倉支藩一萬石)置かれ、現今の築上郡の一部は中津藩(奥平氏)に屬せしが、明治維新を經て明治四年の廢藩置縣により、筑前には福岡縣を、筑後には三浦縣を置き、それぞれ筑前・筑後の全國を治めしむ。同様に豊前全國も小倉縣として今日の大分縣の一部をなす。この管轄下に置き、明治九年に至り、三浦の管轄を廢しこれを福岡縣に屬せしむ。されどこの時に豊前の下毛・宇佐二郡は大分縣に屬せしめて今日に至る。

丘陵の間を北に流るる櫛井川、その西にはまた彦山山塊に出で入都村・安岐村を經て經ノ濱に入る室見川等ありてこの平野を潤しみな博多灣に注ぎ、那珂川は以東の地區を博多、以西の地區を福岡と通稱す。博多は古き港津にて主として商業地區をなし、福岡は後に城下町として發達せる處にて主として官衙・兵營等の地とす。これ等諸川は年々土砂を運搬して博多灣岸に堆積し水深を減ずる故に市は屢々淺渚して一方埋立地を造り、一方には博多・福岡の港を修築し、昭和四年以降、大博多港修築工事を起し同十一年竣功せしむ、更に第二期工事の施工中に屬す。市は政治・教育・軍事・交通の中心にして、また商・工業等の重要生産都市なり。官衙に縣廳(天神町)・地方裁判所(大名町)・稅務署(須崎土手町)・地方專賣局(原宿)・礦山監督局(土手町)・警務署(因幡町)・中央氣象臺支臺(大濠町)・博多税關支所(海邊通三丁目)等あり、陸軍關係には歩兵第二十二旅團司令部(大名町)・歩兵第二十四聯隊(同)・教育機關には九州帝國大學ありて醫學部(原宿)・工學部・農學部・法文學部(以上市外箱崎町)の諸部を有し、また高等學校・女子專門學校・高等商業學校(私立)等のほか男女中等學校あり。交通には省線鹿兒島本線東部を略南北に通じて吉塚・博多の二驛(前者は明治三十七年、後者は同二十二年設置)を置き、筑肥線は博多驛

フクオ—フクオ

より狭れて中部を西方に走り、市内に筑前筑後・筑前高宮・平尾・小使・鳥飼・西新・筑前庄・榎嶺の諸郷を設く。また糟屋郡糟屋町に至る省線築港線と同郡宇美町に至る社線筑前参宮線は共に吉塚驛より發し、久留米市方面に至る社線九州鐵道(電車)は天神町より起りて南方に走り市内に福岡・薬院・平尾・高宮等の停留所を設け、市營電車また市内を東西に循環す。海上は博多港より釜山・釜岐對馬・大連へは毎日、其他諸港へ汽船の往來あり。市の昭和十二年生産總額は七、四〇〇萬圓に近く、その中工業生産額は六、三三五萬圓、總額の八六%に近く、これを工業種別に見れば化学工業品を第一とし、紡織・機械器具・印刷製本・製材及び木製品・窯業の順位となる。これ等の

Table with 2 columns: 昭和十年, 昭和十二年. Rows: 工業, 農業, 水産, 畜産, 林産, 計. Values are listed in thousands of yen.

工業品中、博多織・博多絞・博多人形・曲物・高取・梨先・毛筆等は昔ながら市の特産品たり。工業に次ぐは農業・農

産・水産にして鐵産は石炭、農産は米・國産農産・菜種・麥等、水産は遠洋漁業による漁獲物・水産製造物等を主なるものとす。博多港は明治二十二年特別輸出港に、同二十九年特別輸出港に定められ、爾來港灣の修築と上屋・倉庫等の諸施設の進捗と共に漸次貿易額を増し、輸出品にゴム靴類・小麦粉・石炭・酒等、輸入品に揮發油・原油・飼料・大豆・木材等、移出品には石炭・地下足袋・ゴム靴・綿類・ビール・小麦粉等、移入品に鮮魚・木材・米・大豆・金物等を主要品とし總額四、〇〇〇萬圓に近し。本市及び附近の地は古の僻縣に屬し博多はその港津にて那津・備津・備大津などよばれ、神功皇后新羅親征後、官家(今の三宅)を置かれ、對韓外交の折衝、九州統治上の要地たり。天智天皇の御代官家を今の太宰府に移されし後、博多はその外府となりて鴻臚館を設けらる。天平寶字三年、太宰府奏言に「於博多及壹岐對馬等要害之處可置船一百隻以上云々」とあるは博多の名の國史に現はれたる始なりといはる。降りて貞觀年中には營園所設けられ、文永の蒙古襲來後は博多津番役の制創められ、建治元年には沿海に石燈を修補増築し、弘安の役には將士の防備に據りて防戦し蒙古軍を一歩も上陸せしめざりき。かく對外的要津たるを以て夙く商賈來住し商業地たり。港に始め今の福岡支津の東側なりしも平安朝初期頃より

り今の博多港地邊に當る袖の海に移りて次第に繁榮し、室町時代には伊勢の安濃津、薩摩の坊ノ津と共に三津の一に數へられたり。然るに袖の海は次第に埋没して船着不便となり、また坊ノ津の淤塞、平戸の開港を見るに及び博多の貿易は衰退の一途を辿り、戰國時代大友氏の將臼杵安房守ここに居城してより屢々兵燹の災を蒙り始と衰亡するに至れり。天正十五年豊臣秀吉九州征伐の際、市街を方十町と定め石田三成等を奉行として再興せしめ爾來暫く公領たり。のち小早川隆景を経て慶長五年黒田長政入國し、博多の西方福岡の一寒村に地を相して築城し、祖父高政の備前福岡より起りしを記念して福岡城と命名し、那珂川を外郭の東限とし河中の砂洲に中島を築きて町家となし、城下の福岡は古き商業地たる博多と對立せり。明治四年福岡縣の置かるるや福岡を一大區、博多を二大區とし、九年合併して第一大區となし、十一年更に福岡區と改め、のち廿二年市制を布く。當時の市域は舊來の福岡・博多を中心とし舊那珂郡春吉村の東中洲・七軒屋裏馬場川沿道新地、大洞村の出來町、堅粕村の石堂川下、早良郡島村の地行東町・同西町・折木屋町・新大工町と西町等の地を含みしが、更に大正元年に筑紫郡營園屋村・住吉町の置置を、同四年同郡豐平村の一部を、同八年早良郡島村を、同十一年同郡西新町を、次いで筑紫郡住吉

四九天

町を、同十五年更に同郡八幡村を、昭和三年同郡堅粕町を、また千代町を、翌四年早良郡原村・鶴井川村を、同八年同郡經濱町並に筑紫郡原田村・三宅村を順次市域に編入し以て今日に至れり。(福岡城)一に舞鶴城といふ。慶長五年黒田長政五十二萬石の大諸侯として豊前中津より入國、翌年福岡の地を相して築城し七年を費して成る。當時の福岡は北は海に面し、西は草ヶ江に臨み、南は鴻巣山北方の編野たりしを山を削りて海濱に新地を築き、草ヶ江を埋め狭めて大濠とし、更に三方に濠を穿ち周圍約四軒に及ぶ要害堅固の城郭を築きしものなり。明治維新後全く廢城となり、今は東部の城濠も埋められ城址は歩兵第十二旅團司令部・福岡縣隊司令部・歩兵第二十四聯隊・營行社の敷地となり、昔日の名城も今にしては思ふに由なし。(修職館)福岡藩の藩費。天明四年創立。一に東學問稽古所といひ、朱子學派の學校。他に徂徠學派の甘棠館また西學問稽古所もありしが、のち東學に廢せらる。明治元年更に文武館を興せしが三年十月みな廢す。東學の後は修職館中學となる。(住吉神社)大字住吉に鎮座。官幣小社、祭神、表筒男命・中筒男命・底筒男命。天照大神・息長足媛命を配祀す。式内の名神大社。古くは筑前一の宮として朝野の崇敬厚く數字宏壯なりしが中古以來社地漸く衰退せしも境内老樹鬱蒼とし、中に神木「一夜

フクオ—フクオ

の松)あり。最近神祇改革され崇高を極む。例祭九月十三日。(糟田神社)博多社家町に鎮座。縣社。天照大神・素戔嗚尊・大若子命を祭る。元弘三年に菊池武時、探題北條時時を博多に攻めし時、河前に至りしに馬過す、武士の上矢の箭ひと筋に思ひ切ると神や知らずやと一首の歌を箭矢に添へ殿扉を射て馬を造むるを得たりと傳ふ。社前に磐石あり、往昔、唐船來船の際禮を繋ぎたるものと云ふ。博多市民の氏神にて俗に紙園社とよび、毎年七月十五日の例祭に山笠の儀ありて鎌倉を極む。(鳥飼八幡宮)西町に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・玉依姫命。この地は神功皇后新羅親征凱旋の時宿らせ給ひ夕飯を召させられし地と傳ふ。西町・地行町・唐人町・通町・笠子町方面市民の氏神として尊崇厚し。例祭、九月十九日。(紅葉八幡宮)新町に鎮座。縣社。祭神、神功皇后・應神天皇外十柱。寛文六年の創建といふ。明治四十三年無格社字賀神社・水川神社・秋葉神社外二社を合祀。例祭、十月十一日。(光雲神社)西公園丘上に鎮座。縣社。藩祖黒田孝高・同長政を祭る。社名はその法號龍光院・興雲院の各一字をとりに名づけしもの、俗に御前公塚ともいふ。もと城内本丸にありしを明治四年小島馬場に、四十二年現地に移せるもの。脚下に博多港を設け、東方に千代松原を望み豊勝の地を占む。社寶中、黒田如

水像(絹本着色)一幅・黒田長政像(同上)一幅・太刀一口の三點は國寶なり。例祭四月二十日。(營園神社)薬院小島馬場に鎮座。縣社。祭神、神直日神・大直日神・八十崎日神。神功皇后征韓の時勝利と衆兵の營園を祈り給ひしよりその名出づと。もと福岡の山上にありしを慶長年間福岡築城の時この地に移す。營園・赤坂・薬院方面の氏神なり。例祭、十月十九日。(住吉神社)郷社。祭神、住吉三神外三柱。當社の山楮記に天平十五年の創建に係ると傳へ、古來經濱の産土神たり。例祭、九月廿九日。(八幡宮)大字下月隈に鎮座。郷社。祭神、應神天皇外二柱。例祭、十月十四日。(崇福寺)千代町千代の松原にあり。臨濟宗大徳寺派に屬す。仁治元年、漢語師の宋より歸朝し、太宰府の附近なる横岳に建立して横岳山と稱し、寛元元年、承天寺と共に官寺となる。天正十四年、高橋紹運の岩屋城陷落の時、兵燹のため灰燼に歸せしを黒田長政入國のち現地に移し、大徳寺の春屋國師を請じて中興開山とし、爾後黒田家の菩提寺とす。白砂青松開寂の清境にて、本堂の後方には黒田孝高・長政以下累代藩侯及び重臣の墓あり。境内の共同墓地には玄洋社志士の墓、女史夫高島蘭、刺客高島貞喜、福岡醫科大學創設者大森治豊等名士の墓あり。(承天寺)上辻堂町にあり。臨濟宗東福寺派。仁治二年に聖一國師開闢、宋より歸朝、

宋の商人謝國明の懇請により翌年開創すと傳ふ。寛元元年、官寺に列せられ、吉野時代には征西將軍官儀良親王が錦旗を當寺に樹て給ひし事あり。崇福寺と共にこの地方に於ける名刹なり。法堂安置の釋迦三尊像(釋迦、文殊、普賢)は應永時代の作といはれ國寶なり。(東長寺)上小山町にあり。眞言宗。大同元年弘法大師の創建と傳ふ。本堂は大師堂といひ弘法大師の像を安置す。寺内に黒田忠之・光之の墓あり。千手觀音像(木造)は國寶。(聖福寺)御供所町にあり。臨濟宗妙心寺派。建久六年、源賴朝が榮西禪師を開山として創建せしもの。當時後鳥羽天皇の賜りし扶桑最初禪窟の宸筆の扁額は今も山門に掲げらる。また文化文政頃住職たりし名僧仙厓の隱栖虛白院も存す。寺寶中の銅鐘・大藏經師像・高峰斷崖中峯和尚像は共に國寶。(勝立寺)日蓮宗。橋口町にあり。永徳元年に日圓の開創。慶長八年京都妙覺寺の僧來りて切支丹宗の宗門を設け、黒田長政實して切支丹宗の置置を寄せ、且つ正法興隆山問答勝立寺の號を下す。(東光院)東堅粕町にあり。古義眞言宗。大同元年傳教大師の創建と傳へ、もと聖精山東光院藥王寺として天台宗の道場なり。其後、荒廢せるを室町時代に再興されしが寛永年間また火災に罹り鳥有に歸す。現今の堂宇はその後藩主によりて復興されしもの。寺内安置の藥師如來立像(木造)・十二神將立像・

藥師坐像・藥師十二神將像・日光菩薩立像及び阿彌陀如來立像はいづれも國寶。(東林寺)曹洞宗。瑞鳳山と號す。創建年代不詳。元祿九年、筑前守黒田家の匡立花五郎左衛門再興し、加賀國大寺の前往和尚を招請して開山とし、曹洞宗復古第二禪窟となす。(萬行寺)下紙園町にあり。眞言本派。天文十年空性の善賢堂町に開創せしもの。理慶の時萬行寺前町に移り、寛文中更に現地に轉す。寺内に藩僧竹田春庵等の墓と名僧明月の墓あり。明月は近松の戲曲に名高き博多小女郎なりと。(大乗寺)内大名町にあり。眞言宗。境内不動堂に安置の不動明王立像は應永時代の作と推定され國寶。(油山觀音)東油山町東油山にあり。普濟上人の胡麻を植ゑて油を製せし地。その寺蹟廢して觀音堂のみを存せしを元祿年間藩主寺堂を修復し更に正覺寺を建つ。本尊觀音は鎌倉時代の作にて國寶に指定せらる。(東公園)市の東北端千代町、千代の松原にあり。白砂青松遠く連り清淨の別天地をなす。園内に元寇の際身を以て國難に代らんことを伊勢大崩に祈らせ給ひし龜山上皇の銅像、蒙古襲來の豫言者たる日蓮の銅像の外、元寇記念館・武徳殿・維新殉難志士の墓・動物園等あり。(大濠公園)大濠町にあり。舊福岡城外濠の一部を埋めて設けし近代式公園にて面積約四一ヘクタール。濠の中に柳島・松島・菖蒲島を築き橋を築し

て運れ、また水泳場・庭球場・児童遊園の施設あり。(西公園)荒戸町荒津山にあり。東北西三面は博多灣を俯瞰し、北に架線の一線を劃する海ノ中道を望み、西北には近く磯ノ島、遠く志賀島等が、其間、玄界灘に通ずる水路遠く開け四時の風光に富む、園内に神社光雲神社御座す。(野村翠東尼山証址)平尾にあり。翠東尼が高杉晋作等の志士と謀議せし處、いま碑を建てて遺蹟を保存す。(具原益軒墓)西町金龍寺境内にあり。なほ境内には書見する益軒坐像の遺像あり。隣接の淨徳寺境内に藤田龍井南溟の墓あり。(元寇助墓址)指定史蹟。西新町百道松原にあり。文永役後、鎌倉幕府の小貳頼義に命じて築かしめし石墓址。當時築造せし石墓は、西は君子橋下の大原邊より今津・今宿・生ノ松原・姪ノ濱海岸より東は多々瀬湯の崎崎・名島の邊に至る博多灣南岸全帯に亘りしなり。規模構造は地形と場所により一様ならざるも傾斜は内面に緩に外面を急にして馬上にて駆け上り賊船を射下すに便ならしめたりといはれ、その遺構は今も窺ひ得らる。弘安四年の襲撃には西の將士これに據りてよく防戦し敵をして上陸するを得ざらしめたり。(湛清庵)國寶。天神町平岡清部内にあり。三疊半茶室。車磨にして屋根入母屋造茅葺なり。桃山時代に博多三商傑、神屋・島井・大賀三家のうち特に豊臣秀吉と茶道を通じ關係深かりし神

屋宗漢の好みにして、天正十五年頃再興の博多津に建てられしものなりと云ふ。宗漢の舊居は今の福岡市奈良屋町豐國神社及びその附近にありて本庵も亦其處にありしが、後に黒田家侍醫小野玄琳の荒戸町邸内へ移され、更に同町の興隆五六郎の手に移り、明治の中頃天神町の横田利兵衛の手に歸し、更に明治廿四年故平岡清太郎の所有となり現在地に移築せられ、露地は其際に新しく作られたり。庵名は宗漢、清太郎の漢語を取りしもの。今は登寄屋風の座敷に續きて別棟をなす。入母屋茅葺草庵風の建築なり。茶室の平面は三疊半、之に床の間及び名器博多文琳を収めたる文琳間と稱する袋戸欄を茶室に近く設けたり。賞人日爾近土間の竹藪子雲の三角形部分及びその奥の腰掛の手法等は獨創あり。全體の意匠は簡素にして高雅の風韻あり。秀吉再興の博多に遺れる宗漢好みのお出づべき茶室として貴重なるものなり。(鳥羽)市の西南部にあり。菊池武時入道源河の首塚あり。近年石碑を建て。(千代ノ松原)福岡市の東公園附近にあり。箱崎町の北方なる多層層に續く松林。古來、日本三松原の一に數へらる。謂ゆる白砂青松の地として幾多の詩歌に詠まれ、またこれに關する古蹟・傳説も多し。元寇役當時にはこの附近に防壘を築造して敵軍を助けり。また豊臣秀吉が朝鮮政役のため西下せし當時の舊蹟も少からず。(龜山上皇御像)東公園内にあり。元寇の際、龜山上皇甚く宸機を伺まし給ひ、身を以て國難に代らんとい勢大廟に祈らせ給ひしに、一夜颶風おこり、殿礎覆没し遂に大難を得たり。此の御像は實に此の大難に於ける大捷を千載に記念せんがため、明治三十七年に建立されしものにして、之が建立に際しては、其の主唱者、湯地丈雄氏の十有餘年間に亘る東西遊説に與るところ夥からず。尊像は青松の上に屹立して博多灣を眼許の裡に收めらる。(綱場天満宮)下土居町に御座。菅公左運の砌に抽の漆に上附せられしが、敷物なかりしにより、奇人は船の綱を輪に東に背をせしめたり。のち此地に祠を建てて公を祀り綱場の天神と稱するに至ると云ふ。今は綱場の天神といひ、またその近くに綱場町なる町名あるはみな綱輪を祀りしものと稱せらる。(元寇記念館)東公園内に、日蓮上人の御像前にありて、元寇の役に於ける幾多の戦利品を始め、我が勇士の遺物・古器物等を蒐集陳列しあり。(小田部の墓園)西公園下荒戸町、小田部氏の邸内にあり。晩春初夏には廣き園内一杯に繁茂せる數十株の櫻は紫・白の麗麗なる花房を垂れ、芳香盈溢たり。この櫻は福岡藩の志士にして、平野國臣と相許したる小田部龍右衛門が、その愛花の性癖を傾注して栽培せるものなり。(日蓮上人御像)東公園内にあり。龜山上皇御像建立の議起りし際、日蓮宗の信徒ま

た聖古來製の豫言者と稱せらるる日蓮上人の御像をこの地に建設せんことを企圖し、首唱者、佐野前助師、最も力を致して大いに工を起し、明治三十七年に落成せるものなり。像の身長は三丈五尺ありて、その重量は約二萬貫、龜山上皇の御像と共に高く松林の上に屹立し、本邦屈指の大作にして、古蹟群を通過する列車の中より其の後頭を望見することを得。(湯衣塚)石室橋の東畔にあり。傳説によれば、聖武帝御代に筑前守佐野近世の後妻が先妻の墓を憎み海人の衣を姫が産みりと近世を欺けり。近世、姫の居室を窺はば妻の言に違はず、姫は濡れし海人の衣を纏うて熱湯中なり。近世これを悲しき一刀の下に喉を殺す。翌年の忌日に近世は娘の歌二首を詠じ且つ泣ける様を夢み冤罪を悟り、懺悔を返し、博多の地に七堂を建立し、自ら出家して松浦山に籠る。世に無實の罪を負ふを濡衣を着るとは之より出でしと傳ふ。【福岡農田】一名早良農田。筑豊農田の一分區にして、福岡市と福岡縣早良郡農田とに跨る第三紀古層の露出區域をいふ。炭層中最も主要なるものは三尺・四尺の兩炭層にして、炭質は湛青炭にて堅硬且つ粘結性を帯ぶるも硫黄分に富むの缺點を有す。現在採行中の最大なるものは早良炭層、次は筑紫炭層にして何れも重要炭山に屬す。【福岡灣】博多灣の別稱。

フクガ 福賀村

山口縣長門國阿武郡の北部。大井川の水源地に位し、北は福賀村を挟みて須佐町に對す。西北は宇田郷村を隔てて日本海に近く、南は高俣村に接す。面積四九・七六方軒。四周山嶺に圍繞せられ、福賀村界にイラ尾山(六四一米)あり。村内概ね五・六百米の山地に蔽はれ平地乏しきも、所々の山間窪地に耕作行はる。大井川は西部山地を南流し福賀村を過ぐ。沿岸に狭小なる平地ありて耕地拓く。米・麥・蕎麥及び木炭・醬油等を産す。縣道二線は東西と南方に通じ近隣の福賀・吉部・田方崎村等へバス通ず。もと福田上・福田下・宇生賀の三村に分れしが、明治二十二年合併して福賀村と名づく。

フクカワ 福川村

國阿武郡の中部。萩市の東南に接し阿武川上流の北岸に沿ふ。西北は大井川を隔てて日本海に面し、北は福賀村、南は川上村に界す。面積五六・八五方軒。四周山嶺に圍まれ東端に天越山(五八〇米)、西北端に唐人山(四六四米)聳る村内丘陵起伏し、中央に窪地あり。天城山北麓より唐人山北麓へ中央を東西に縣道貫通し萩市に至る。阿武川は南端を大井川以北境を西流して溪谷を作る。附近は中央窪地と共に耕作地なり。米産多く、又一般に養蠶盛なり。南部山地より木村・木炭を産す。萩市・地福村へバスの便あり。もと福井上・福井下・黒川の三村に分れ

したが、明治二十二年合併して福川村と名づく。(八幡宮)大字福井下に御座。郷社。祭神、應神天皇外三柱。社傳に長和三年山城國石清水よりの勸請と傳ふ。例祭、八月十九日。

フクカワ 福河村

岡山縣備前國和氣郡の東南端。瀬戸内海に南面に、前面に鹿久居島あり。その東半部は本村に屬す。東は兵庫縣に界し、北は三石、伊里二村に接す。面積二九・九九方軒。南北兩部に山地連り、中央に東西に亘る細長き低地あり。鹿久居島は二百米の山地に蔽はれ山林繁茂す。海岸には小出入あり。片上町に汽船往復す。村内農業を主とし、米・麥・柿及び少額の蠶を産す。もと福浦・寒河の二村なりしが明治二十二年合併して福河村と名づく。

フクカワ 福川町

國都波郡の西南海岸。徳山灣に面し、富岡村の東南、富岡町の西に接す。西北に夜市村に隣す。面積六・一六方軒。東北に徳山、西に若山聳え、北部は山地連るも夜市川山間を東南流して大なる三角洲を形成し羽島・中室尾等の間作あり。海岸には古來鹽田發達す。海岸は前面に仙島・黒髪島ほか小島數多ありて風を遮り福川港は漁港・商港として好適なり。漁・工業最も盛にして煉瓦・竹製品・木製品・双物・焼酎・清酒・味噌・機械等の産多し。省線山陽本線福川驛(大正十五年設置)を置き、また之と略ぼ並行に縣道東

西に通じバスの便あり。海上交通また至便。中世は富田莊の一部落に過ぎざりしが、大内氏の頃、陶氏この地に若山城を築く。また長崎街道の宿驛として賑はへり。明治四十五年町制を布く。

フクキ 復記炭嶺

秦漢東北州七星郡松山三雲壑にあり。昭和十年には石炭九、九五通を産し、この價額五萬四千餘圓とす。

フクキ 福木村

廣島縣安藝國安佐郡の東南隅。廣島市を距る約三軒の東北に位し、南は安藝郡、北は狩小川・落合二村に接す。面積一六・九七方軒。東部及び西部に東北・西南に走る二條の小山脈あり。殊に東南高く突榮々宇山(六八二米)屹立して西北方に傾斜す。即ち二山脈に挟まれし中央に南北に長き平地存し耕地拓く。米・麥・柿・葡萄・松茸・木炭・酒類・牛馬・紙木・庭石等を産す。省線藝備線深川驛(約五軒、自動車を通ず。もと福田・馬木の二村なりしが、明治二十二年合併して福木村と名づく。

フクケ 福溪

京元線の一驛(大正二年設置)。朝鮮江原道平康郡平康面にあり。

フクサカエ 福茶村

鳥取縣伯耆國日野郡の西南部。南は岡山縣に界し、北は日野上村、東は石見村、西は多里村に接す。面積三八・五一方軒。四周山脈に圍繞せられ北に地林山(二〇三一米)、西に箱崎山(一一四三米)、南に三國山(一

二五二米)等の高峰屹立す。村内地勢高峻なれど中央に平地ありて耕作行はる。他は概ね森林地帯に屬す。米・麥・蕎麥・木村・木炭・牛・馬等を産す。省線伯耆線上石見驛(約四軒)なれど、山間の僻地なれば交通不便なり。

フクサキ 福崎町

兵庫縣播磨國時郡の西部。市川の西岸に沿ひ、姫路市の北方七軒餘。西北には備前郡に界して西端には六〇〇米餘の山脈南北に連りて村境をなし、西北隅に七種山(六八一米)聳ゆ。この山地より略ぼ東南方へ續く二條の丘陵は南北兩端を限る。市川は東端に沿ひて南流し、流域には廣潤なる平野開け對岸の田原村の平野に續く。中部にはこの低地より西北方と西方へ續く短き谷あり。産物は米・麥類・蕎麥・蔬菜・花卉・食用農産・果實・製茶等の農産及び醬製品の産額多く、外に蠶・木製品・醬油・鶏卵等あり。縣道は河津に沿ひて南北に走り、之と交叉して東西に通ずるものもありてバス往來す。省線播磨線は東部を南北に通じ福崎驛(明治二十七年設置)あり。大正十四年町制施行。町内の七種山に七種澤布あり、高さ六四米、幅三米。この地は播磨風土記に見ゆる高岡郷に當り、いま大字に高岡の名存す。(二之宮神社)大字山崎に御座。祭神、山崎明神。明神は伊和神、即ち大己貴神の御子建石敷命なり。神代の御座なるべし。古來本郡の御守にして領主・地頭の際敬

フクサ—フクシ

篤し。例祭、十一月十七日。(金明城寺) 大宇田口にあり。古義眞言宗。七種山。高野末。寺傳に聖徳太子、この地は三寶相應の靈地なりとて、僧惠灌を請じて開山とし國家安穩の祈願所となし給ふといふ。惠灌は高麗の僧にて日本三論宗の開祖と稱せられ、本寺また三論宗の遺場たりしが、のち空海本寺に留錫して護摩祕密の修法を行ひしより眞言宗となる。足利尊氏寺領を寄す。いま伽藍堂塔の結構往古を想起せしむるものあり。

フクザワ

【福澤村】 神奈川縣相模國足柄上郡の南部。山北町の南隣にて酒匂川に沿ふ。南部は明神ヶ嶽の山裾をなし、北部は酒匂川流域の平地にて麥・甘藷・馬鈴薯を産し、養蠶も行はる。縣道は山北町と東方の松田町に通じ山北町の省線御殿場線山北驛、松田町の同松田驛に達からず。此地は和名抄、足下郡足柄野の内に於て、東鑑、承久三年七月の條に足柄山之麓、早河とあるは此處なりと。村内に承久殉難の五忠臣、藤原範茂の遺蹟あり。【福澤村】 富山縣越中府新川郡の南部。神通川一支の熊野川左岸。支流黒川を源流す。南は横岳(六二二米)を初め千数百米の山脈を以て岐阜縣飛騨國に界す。村は中央を東西に走る一山脈を境に南北二部の谷に分れ、中央部は福一軒餘に狹まる。南部は山岳重疊し神通川の一支を西へ源流し嶺山に富む。北部は熊野川一

支の黒川北流して北へ傾斜をなす山地なり。

支の黒川北流して北へ傾斜をなす山地なり。北部には多少の平地あり米作行はる。米の産に次ぎ薪炭材・木炭の産多く養蠶も多少行はる。重要嶺山たる神岡嶺山の嶺は富村及び岐阜縣吉城郡の船津町・阿曾布村に跨り三七一七萬餘坪。その嶺は金銀銅鉛鋅水鉛黒鉛とす。【神岡】 なほ富村内には銀銅鉛山たる田村長嶺山ありと振はす。黒川に沿ひて中部に至る縣道あり、省線津線大久保町驛および縣道道間驛いづれへも約五軒あり、交通は不便なり。古くは和名抄、新川郡車持部の内に於て中世は太田保に屬す。大字東黒牧に津毛城址あり、一に村田城とも標木城ともいふ。創業年代は詳かならずも推名小四郎の部下の居せしことあり。

フクシ

【福治村】 佐賀縣杵島郡にありし村。昭和十一年白石町と改稱す。【フクシゲ】 福重村 長崎縣肥前國東彼杵郡の中央南側。大村灣に臨み、大村町の北方約三軒にあり。東北部には郡山(八二六米)崎居し、それに連る山脈南へ延び、山地は全體に西方へ傾斜して中部にて臺地狀の山麓を以て終る。西部海岸には平野發達し、郡川西南部を流れて海に入る。低地は耕地よく拓けて米・麥を産し梨の特産あり。西部を長崎街道及び省線大村線通過して松原驛に近く(北方約〇・五軒)パスの便あり。本村は文化年間より福重村と稱し、大村氏の所領たり。

フクシマ 福島

【福島村】 北海道渡島國渡島支庁松前郡の東部。津輕海峡に面し、東は上磯郡、西は大津・小島・大島三村に接す。面積一七四・七三軒。西境より東北に連互せると南部を東西に横れるとの二條の山脈に依りて村内概ね山嶺地帯に占めらる。北部に大軒野岳(〇七二米)・七ヶ岳(九五七米)、南部に岩部岳(七九四米)・池ノ岱山(五二六米)等の諸山聳え、中央山間の低地に知内川東流して上磯郡に注ぎ、福島川は南流して海に入る。河口に福島の聚落あり、鱈・鮭・昆布・柔魚等の漁獲を主産業となし、木材・米・牛馬等を産す。省線福山線の藤原坂驛(昭和十三年設置)を設き、また函館市に汽船の便あり。(福島大神宮) 大字福島村に鎮座。神社。祭神、天照皇大神・豊受大神。創立年代詳かならず。慶安二年福島村に再建、文化四年に今の鏡山の地に奉遷す。【福島縣】 奥羽地方の南端。(地域) 東は太平洋に面し、南は茨城・栃木・群馬三縣に、西は新潟縣に、北は山形・宮城二縣にそれぞれ隣接す。面積一三、七八一方軒餘、人口(昭和十二年十一月推計)一六一・二萬餘人、一方軒の密度一六六人に於て、内地道府縣中、面積は北海道・岩手縣に次ぐ第三の大縣なるも、人口は第十三位、密度は第四十位に居り、奥羽六縣中にては宮城・山形の二縣に次ぐ。ま

四六〇

た性別に見れば、男七九・三七萬人に對し女八一・八四萬人にして機業地の特徴を示せり。岩代國一圓(福島・若松・郡山の三市、信夫・伊達・安達・安積・岩瀬・南會津・北會津・耶麻・河沼・大沼の十郡)と磐城國の大部(平市、東白川、西白河・石川・田村・石城・雙葉・相馬の七郡)とを管し縣廳を福島市に置く。【地形】 東部に阿武隈山地、中部に奥羽山脈、西境に越後山脈ありて共に略南北に連り、管内は自ら東岸の濱通、中部の中通、西部の會津の三地方に分る。阿武隈山地は主として花崗岩より成る隆起準平原の高原性山地にて幅は最大約五〇軒に達するも、高度は中央西部部にて三、五百米、東部にて七、八百米を示し、天王山(二〇五八米)・移岳(九九五米)・大瀧根山(一九三米)・矢大原山(九六五米)等の高峰あるも、何れも殘丘性のものなり。山地の東側には第三紀層の礫狭き段丘地帯あり、阿武隈山地より下る宇田・眞野・新田・請戸・木戸・夏井の諸川はこれを刻みていづれも小平地をつくり、南に連る濱通地方をなす。中部の奥羽山脈には北部に吾妻・安達太良・磐梯の諸火山群、南邊に那須火山群ありて何れも二〇〇米内外の高度を有し、中部に諸古代湖の堰塞湖を遺ふ。奥羽山脈と阿武隈山地の中間に北流する阿武隈川の流域にて南に安積盆地、北に信達平野の沖積地、中部に安達原の低き臺地あり。

フクシ—フクシ

りて調ゆる中通地方をなす。奥羽山脈の西側、越後山脈の間は即ち會津盆地の沖積地にて自ら別天地をなし、南境より来る阿賀川北流し鶴沼・日橋その他の諸流を合せ、西境の越後山脈を截り新潟縣に出で日本海に注ぐ。(氣象) 前に述べたる如くその地形上、濱通・中通・會津の三地方に分る如く、氣候上にもこの三地方によりてそれぞれ特徴を有す。濱通地方は海洋の影響をうくること最も多く最も溫和にして小名濱にては年平均気温一二・五度、一月二・五度、八月二三・五度、降水量も一五八八兆を測る。中通地方の福島にては平均気温一一・八度、一月〇・五度、八月二四・二度にて濱通に比すれば寒暑共にやや著しく、降水量一二六三兆にて遙に少し。會津地方は海を去る最も遠きと、これを圍む奥羽・越後兩山脈は阿武隈山地よりも高度多きため寒暑の差最も多く、冬は西北季節風の影響多く降雪も丈餘に達することあり。【交通】 濱通地方には陸前濱街道と省線常磐線南北に走り、中通地方には陸羽街道と省線東北本線また南北に走り、福島市より岐る萬世大路は西方の板谷峠を越えて山形縣米澤市に向ひ、省線奥羽本線また之と並走す。會津地方には郡山より起る越後街道(會津街道)と省線磐城東線に連る磐越西線ありて西方に通ず。其他主なる道路に平市より石川町を経て須賀川町を経て御所街道、平市・郡山市

Table with 4 columns: 種別, 産額(昭和九年), 百分比. Rows include 農産, 工業, 畜産, 水産, 林産, 計.

均の一人當二百八圓、一戸當一千五十七圓に比すれば甚だ寡少なり。農業は縣下の主要産業にして農家戸數は全戸數の五三%を占め、耕地は一戸當一三・四反歩

(内、田七・二反歩、畑六・二反歩)となる。農産は米一二六・一萬石(約三、〇六三萬圓)・麥四二・三萬石(三三三萬圓)を主とし、食用農産に大豆・小豆・粟・稗・黍・五穀類・蕎麥・甘藷・馬鈴薯等、工業農産に菜種・胡麻・大麻・苧麻・蘭・絲瓜・葉煙草・粟・除蟲菊・人参・苧麻手・楮・三稜等あるも、農家一戸當の農産額は僅に四〇一圓なり。されば養蠶・林業等を兼營するもの多し。蠶業は收購高三三六萬圓(約七二〇萬圓)、生糸四二・四萬圓(約一、五〇〇萬圓)に上り、林業に用材・薪炭材・竹材及び木炭等の産ありて産額九二〇萬圓を越ゆ。工業は生産總額六、五〇〇萬圓を示し、縣下諸生産中の首座に居る。その製品には絹織(節絹・輸出向羽二重等の一、二〇〇萬圓)・清酒(八九八萬圓)・糖(八六八萬圓)等を主とし、木製品・漆器・菓子・工業用藥品・セメント等これに次ぎ、何れも二〇〇萬圓以上の生産あり。其他、鐵産には常磐炭田に於ける石炭を主として硫黄等もあり。水産は沿岸漁獲物の鱈・鯛・鱈・鯉等、遠洋漁業に鯨・鯨・鮫・秋刀魚・鰯等、水産製造物に鰯粕・油・竹輪・鰻節・鰯製品等あり。(沿革) 明治維新の際に松平氏二十萬石の會津藩、板倉氏三萬石の福島藩、丹羽氏十萬石の二本松藩、戸田氏五萬石の棚倉藩、阿部氏十萬石の白川藩、安藤氏三萬石の磐城平藩、秋田氏五萬石の三春藩、相馬氏六萬石の中村藩。

四六一

本多氏二萬石の泉藩、松平氏二萬石の守山藩、内藤氏一萬五千石の湯長谷藩、立花氏一萬石の下手渡藩の諸藩の外に幕府領・旗本領交錯せり。明治二年、福島・白河・若松の三縣及び平市・中村・湯長谷・棚倉・守山・三春・二本松の八藩となす。四年七月藩を改めて縣となし、十一月改めて平・二本松・若松の三縣となす。この時全く縣部の制となれり。ついで平縣を磐前縣と改め、二本松縣を廢して福島縣を置き、九年、磐前・若松の二縣を合せ伊具・刈田・互理の三部を割きて宮城縣治とし、また越後東蒲原郡をも管轄せしが、同郡は二十年に分れて新潟縣に入り、以て現今に至る。【福島市】 福島縣の首都市。中通の北部信達(福島)平野の南部に位し、東北流する阿武隈川を以て東南は信夫郡渡利村、東北は同山村と境し、西南は支流須川を以て同吉井田村に對し、西北は同清水村に隣る。東西三軒餘、南北約三・七軒、面積約八・六方軒。北境に信夫山(二七三米)の丘陵連る外は土地概して平坦なり。陸前街道(今の四號國道)と萬世大路(今の五號國道)の分岐點にて夙く陸前・羽前方面と江戸との交通上の要衝に當り元祿以後板倉氏三萬石の城邑たりし處。省線東北本線西部を南北に貫き市の西南部榮町に福島驛(明治廿年設置)を設き、奥羽本線は之より分岐し、社線福島電鐵の飯坂西線は北方の飯坂温泉に、飯坂東

線は伊達郡保原町に通ず。豊後領(約二〇六萬圓)・越前(二五〇萬圓)を主とし、工産物總額五百萬圓を超す。福島縣の行政・金融の中心をなし、縣廳・市役所地方裁判所等の官廳は市の東南部阿武隈川に近き部分にあり。省縣福島縣より東に通ずる榮町・大町、これと直交する霞陽町・本町等は商業街にして生絲・繭等の取引盛に行はれ主なる銀行も多くここにあり。縣廳の東南阿武隈川畔の紅葉山公園はもと福島城址の一部にて、縣社板倉神社あり。北部に連る信天山丘陵は西部を羽山、中部を谷山、東部を旗野嶽とよび、羽山の南麓に信天山公園あり。市街を一群に収め、東南に阿武隈川、西方に吾妻火山を望み風景に富む。その北側に式内黒沼神社と招魂社を祭り、更に登れば藥王寺、その東北谷山の絶頂に羽黒神社あり。(沿革)中世以前は史實の發すべきものなし。市の北部の御山の西麓宇養仙は舊陸奥と稱し、敏達天皇の皇后崩御の靈地と云ひ、腰濱宇宿を奉養(也)宛の名残と云ふ。いま宿の畑地より布目瓦の散見するは奈良朝時代の七堂伽藍の跡と傳ふ。縣廳の所在地の一部は大佛寺の跡にして、天長年間建立と云ひ、慶長年間に破壊せる殿堂はなほ一部残存し、當時この地の周圍に寺院堂塔ありきと云ふ。治水・文治の頃、信夫郡の葦田として飯坂の西大風城に蟠居せる佐藤元治、會津・白河に至る一國の管領を委嘱せら

る。縣廳周圍一帯は移妻莊にして移妻太郎行信が葦田たり、其後に源賴朝に滅され、その將中村念西入道(伊達氏の祖)により統治さる。戰國時代は伊達政宗の、豊臣氏の頃には本村重次のそれぞれ統治下にあり、重次、その居城大森より移妻大佛城に移りて城を福島城と改め、ここに福島地名生ず。關ヶ原の役後、信達地方は幕府の直轄地となる。其後、元禄十六年に至りて板倉重寛、上野安中より來りて福島を領し、以來十二代明治二年藤達世となり、創封所將を命ぜられ、三河重原に移る。同年八月十八日福島縣を設かれ、四年十一月二本松縣と稱し、同月二十八日再び福島縣と改められ、五年六月第一大區に屬し、七年一月區會所を置かれ、十二年一月郡區編成改正により福島區會所を信夫郡役所として戸長區域を設く。二十二年四月町制實施に際して町制を布き、四十年市制を施行す。(板倉神社)福島町に鎮座。縣社。祭神、板倉重昌・同重親。正保元年江戶板倉邸内に祀りしに創まり、重寛の福島入城の時に本丸に遷し、明治維新に三河に奉遷す。明治十三年分靈奉祀を出願し同年十一月許可せられ、同十五年社殿成ると共に之を奉祭す。同三十九年重親を合祀す。例祭、四月三日。(稻荷神社)宮町に鎮座。縣社。祭神、豊受比賣命。本延年に安倍晴明を奉じて奥門に下向せし時、この地産粟與陸の地相ある事

を察し、その信憑するところの信大明神を祀りしに始る。承安元年晴明の孫安倍清明、社殿を改築し輪奐の美を盡せり。爾來幾多の盛衰ありて今日に至る。例祭十一月一日。(黒沼神社)小山麓井に鎮座。縣社。祭神、黒沼大神・石比賣命。延喜式信夫郡五座の一。社傳に欽明天皇御宇、皇后石比賣の第二皇子淳中倉敷皇即位し敏達天皇と稱するや、皇后は皇兄淳中太皇の位に即かれざるを欲き、尊と共に内裏を忍び出で、此地に崩じ給へるを奉祀せり。例祭、七月九日。(康壽寺)西妻三丁目にあり。眞宗本願寺派。親覺の弟子明教の開創に係る。元禄三年寂如より二十四世所中第十七番に列せらる。境内に古河善兵衛の墓あり、善兵衛は上杉氏の家臣、私財を投じて湯野展開墾の工事を起し、資金不足のために一時資金を流用せし責を負うて屏風せるものといふ。(常光寺)清町にあり。曹洞宗。長規禪師の草創に係り、遠江國中田村雲村寺末。天正十八年、豊臣秀次、九戸政實討征の途次、當寺に慰勞室を張りし事あり。のち板倉氏の菩提所となる。(眞淨院)新義眞言宗靈山派。寺寶中、鍍金金剛鈴・金剛杵筒人二箇は明治三十八年に國寶に列す。

【福島炭礦】鐵道は福島縣石城郡の赤井・上小川・下小川の三箇村に跨りて約二〇九萬坪、磐城東線小川驛の西方約二軒の地にあり。地質は第三紀層にて主として凝灰質砂岩より成り、炭層には本層・下層あり。炭質は不粘性的の亞瀝青炭にて粗悪なり。昭和十年には塊炭一八、〇四〇噸、粉炭一九、三三〇噸、粗炭一、四三〇噸(此種價額約一九萬圓)を産し、同年六月末の鐵夫數は三〇八人とす。文久年間、泉屋某が黒き岩の燃料となるを知り、當地の石炭露出部を探掘せるが當鐵山の始まりと云ふ。當鐵區に夏井川の支流なる小玉川貫流して水利の便よく、殊に磐城東線の通じてより小川驛驛までは山麓の起伏緩慢なるを以て搬出の便あり、平市とも近く物資の便もよし、されば鐵山として形勝の地とすべし。現在、福島炭礦會社(事務所は赤井村)の經營にて重要鐵山に屬す。

【福島電氣鐵道】私設鐵道。東北本線福島驛前の福島より信夫郡飯坂町の飯坂に至る一三・五軒、伊達驛前の伊達より伊達郡霞陽町の霞陽に至る二〇・六軒、同郡保原町の保原より掛田の掛田に至る二〇・〇軒、計五四・一軒の飯坂東線、福島より飯坂温泉に至る九・六軒の飯坂西線の總計六三・七軒を含む。

沿ひて西走し上州福島縣(明治三十年設置)を設く。古くは和名抄、甘樂郡領部郷の内にして中世は額部庄と稱せらる。大字福島と大井戸との界に近きところに板碑あり。もと兩大字の界なる小川の石橋として架せられ、大日橋と呼びしものなり。高さ一丈四尺餘、幅約二尺九寸、上部に梵字あり、下部に四行の文字刻され、仁治三(二年)二月八日、合力已上三十餘人の文字は見るも、他は全く磨滅して讀むを得ず。

【福島】東京府北多摩郡にありし村。昭和二年に外七箇村と共に合し、新に昭和村を置く。

【福島町】長野縣信濃國西筑摩郡の中部。本曾谷第一の名邑。東は本曾山脈の高峻なる山嶽、經ヶ岳(二九六米)・駒ヶ岳(二九五六米)・前駒ヶ岳(二八六四米)・登ヶ岳(二八六四米)・西駒ヶ岳(二八六四米)・御嶽山(三〇六三米)の諸名山峙つ。本曾川の溪谷なる本曾谷は北は鳥居峠(一九七米)、南には妻滝峠(八〇一米)と約六〇軒に亘り、古くより小木曾谷と呼ばる。江戸時代より特に仙道の宿驛として發達す。また往時は福島園が置かれ、東海道筑摩郡と相應じて江戸と京都との中間にあり、入道院と出家一は特に嚴重なる改めが行はれたる番所地なり。江戸へ六八里、京都へ六〇里、關東としては北部に貫川園あり。北は鹽尻を経て松本に出で更に北陸地方に通じ、南は中津川を経て濃尾平野に出づる交通上の重要地たり。福島を中心とする本曾谷は古來杉の産地として年々の伐採量五十萬石を超え、其名著るも耕地面積は極めて少く、僅に谷底を利用して止る。米産額は實に三萬石にて毎年五萬石を他地方より移入す。古くは本曾山脈を樞軸(一五二二米)の隘路を経て伊那に至り同地の米を仰げり。農民が毎に河馬馬本曾駒にて山路の歩行には天下第一品と稱せられ、御嶽山麓や福島以北の西野黒川の各地に産せられ、こゝ福島に集められて馬市が立てらる。寛文七

年以來無休と言はれ本郡三大馬市として名高し。この市は毎夏七月二日より五日間の御毛附と九月十日より五日間の中見市とにて、全國よりの伯樂にて賑ふ。本曾駒は八月十四・五・六日の三日間に於て數百の本曾人の歡樂たり。更に御嶽登山の白衣の修行者類集し盛夏の候は股賑を極む。福島より上松を経て須原に至る間は所謂本曾峽谷にて本曾川が回春して作れる河岸段丘あり、本曾の棧の址・經登床・小野の滝等の勝地あり。黒川・八澤川は東・西より本町に來りて本曾川に流入す。(水無神社)大字伊谷に鎮座。縣社。祭神、高麗麻合。國郡小社水無神社より勧請すといひ、弘化二年に本曾家仲再興す。領主・代官の崇敬篤く、もとの本曾谷十二箇村の鎮守たり。

【福島】群馬縣野田郡にありし村。大正十五年に額田町と改む。

繼ぐ、安政不平等。大阪の役後、忠政大阪方に内通し...

亂れて複雑なる地形を構成し、山は海に直面して...

水産・鹽産・工業あり。海岸に沿ひて鹿兒島縣...

嶺の産多し。また竹ヶ鼻町の隣接刺殺にて...

フクスカ

福東村 岐阜縣美濃國安八郡の南西部。大垣市の東南二軒。北は...

福東に歸城し、孫の三郎兵衛光兼は後に兵衛と改め...

また大宇村と京都府船井郡竹野村とに跨り...

福相村 廣島縣備後國產品郡の南部。瀬田川中流南岸に沿ひ...

通ずるもの及び南西部を斜走するものあり。西北方の福島市、東南方の川俣町へはバスの便あり。川俣線岩代線併行しては南方約四軒。

【福田村】 埼玉縣武蔵國比企郡の北部、松山町の西北隅にあり。北は大里郡と隣る。大部分は低き丘陵地にて針葉樹林あり。南境附近のみ稍平地ありて滑川流れる。米・蕎麦を産す。縣道二條ありて一は熊谷市に通じ、バスの便あり。(泉福寺)大字和泉に鎮座。新義真言宗智山派。本尊阿彌陀如来坐像(木造)は藤原末期の様式を具へ現に國寶たり。

【福田村】 千葉縣下總國東葛飾郡の北部、野田町の東方約四軒にて利根川の西岸にあり。東は茨城縣北相馬郡、北は同縣馬郡と隣る。全村低地にて西部に沼田あり。他は畑地をなし、農業行はれて米・蕎麦を産し、養蠶・養蠶も盛なり。縣道は野田町に通じバスの便あり。利根川は水運の便多く、利根運河は村の南境を過ぎて江戸川に繋ぎ水運の便大なり。

【福田村】 富山縣越前國西礪波郡の東北、高岡市の南西に隣接する小村にして東は東礪波郡に界す。土地平坦にして水利よく水田開く。主生業は農にして米を主産とす。北部を國道及び省線北陸本線貫き、高岡市へバスの便あり。

【福田】 石川縣江沼郡にありし村。昭和十年に大聖寺町に編入す。

【福田】 信濃國(長野縣)の古地名。和名平にて東境に沿ひ佐田川西南流し約一・五軒先にて筑後川に合す。純農村にして米・蕎麦を産す。甘木町より東南方の浮羽郡田主丸町へ至る縣道は東部を通過し自動車通す。村内に久留主塚あり、吉利支丹宗徒を埋めし所と云ふ。明治二十二年本村の内一木村ほか五大字を分割し、その區域と徳城村の大字相窪村とを以て立石村を新設す。

【福田村】 長崎縣肥前國西彼杵郡の西部、長崎港の外側、稻佐山の西麓に位置す。海岸は沈降性海岸にて福田町・立日町・親香崎等地域の末端は幾多の岬となり、中に洞を抱く。背後の地は玄武岩質のやや急峻なる山地にして、海岸との間に多少の平地を有するに過ぎず。従つて農耕的生産少くも沿岸の鹽地は漁業の中心地となり、半農半漁的兼業あり。この好鹽地は早くより交通の要地として知られ、既に永祿年間(南蠻人)の地に入浦し、長崎寄港の前身の沿革を有す。南蠻人はもと大村領の横浦浦に入らせしも、此地の優越を認めしものか、横浦浦より當地に移館せるものなり。元龜元年(背後)の好鹽地長崎に投館するまで此地が南蠻文化の接觸地帯たりし事は我國文化史上特筆すべき點なり。山地丘陵錯雜し交通は阻害さる。されど長崎と相接する背後地なる關係上、稻佐山を越ゆる道路通過し、長崎人士の保養遊憩的地帯たり。海上交通は陸上交通に比し便利にして、長崎點の沿

抄に小縣郡福田郷あり、その地は今の小縣郡泉田村の邊に當る。

【福田村】 勢同縣遠江國勢田郡の南部、東に豊濱村、北に南御厨村、西に於保村あり、南は遠州灘に面す。町域は太田川の右岸にして、中央を西より東にその支流信濃川貫流す。地は水田多く、蕎麦・西瓜等の産あり。本町はもと福島村と稱せしが大正十五年福田町と改稱す。福田港は古の今浦の湖にあらす、慶長五年の閏閏に係る。

【福田村】 兵庫縣播磨國加東郡の西部、加古川の東岸に沿ひ社町の南に接す。東北部と東南部は臺地をなすも、他は平野にして西境に沿ひ加古川南流し、南部には一支流西流し、注入口は西南境を離れて僅か南にあり。米産多しまた蕎麦類・蔬菜・花卉・藥料草・食用農産・果實・繭・蠶・養蠶・蠶製品・沿岸漁獲物等の産あり。東西南北に縣道走り、社線播磨丹波道播磨大門驛へ西方一軒餘を距つ。もと上福田村と共に單に福田と汎稱せし處。大字東古瀬・西古瀬・中古瀬の地に播磨風土記に見ゆる五勢里に當るといふ。風土記「起勢里、土下中、黒川、長江、右號「起勢」者、互勢部等居於此村、仍爲里名也。」(佐保神社)大字東實に鎮座。祭社。祭神、天兒屋根命・比賣大御神・大名不知神命。養老六年の創建と傳ふ。もと佐保大明神と云へり。天文年中焼亡し元祿十二年再建す。例祭十月十七日。

岸汽船の寄港地なるも、西風超越する時は航路の自由を缺く。

【福田村】 熊本縣肥後國上益城郡の西北部。木山町の東に接し、西北隅は僅に他郡の東隅に界す。本村は東北方に聳ゆる阿蘇山の西麓に聳る山地をなし、南境と東北境は四一五百米の高度を有すれど西北部は稍低地をなす。赤井川は中央を西流す。米・蕎麦を産す。木山町へバスを通す。この地は和名抄、託麻郡津守郷の内にして村内に朝來名峯あり、肥前風土記によれば、此山は土蜘蛛の根據地にして、朝廷は肥前をして之を討たしめしことありといふ。

【福田村】 福武電氣鐵道 社線。福井縣福井市と南條・丹生・今立・足羽の四郡に跨る。武生新驛(北陸本線武生驛に接續す)より起り福井新驛(福井市)に至る。全長一七・八軒。軌間は一・〇六七米にして蒸氣・電車・ガソリンを併用運轉し、省線と連帯運轉をなす。

【福田村】 岡山縣備前國邑久郡の西部、吉井川下流の左岸に沿ひ、西は川を隔てて上道郡に對す。北は行幸村、南は今城村、東は笠加・邑久二村に接す。面積五・〇七方軒。吉井川吐口の沖積平野上に位置し、村内地勢平坦肥沃、灌漑の便よく、耕地多し。米・蕎麦・柿・薄荷・酒類を産しまた養蠶業盛なり。縣道にバス通じ、また上道郡西大寺町より岡山市に到る輕便鐵道を利用す。明治二十二年、福元・百田・宗三・豆田・福中の部落を合併して福田村と名づく。

【福田村】 岡山縣備前國兒島郡の西部、水島灘に南面し、高梁川吐口の東部に位置す。北は倉敷市、西は川を隔てて淺口郡に界す。東部一帯に丘陵起伏し、西部は福田新田と稱する開墾地にして水田頗る多し。川及び池沼多し灌漑の便に富む。海岸は砂浜且つ遠淺にして良港灣を有せし、米・蕎麦・薄荷・薄荷を産し、酒類の製造甚だ盛なり。村の中部を縣道南北に貫き倉敷市へバスの便あり。また淺口郡連島町へ連絡復下。明治三十七年、福田村・福田新田村・呼松村を合併して今日の福田村を建つ。

【福田村】 岡山縣備前國都窪郡の東南隅、岡山市の西南約四軒。兒島灘の西北岸に連る。笹ヶ瀬川の吐口右岸に沿ひ東は川を挟みて御津・吉備二郡の交會點に對し、南は妹尾町、北は吉備町に界す。面積五・九八方軒。西南隅に小山を見るほか村内

【福田村】 秋田縣秋田郡平鹿郡の西南隅、沼館町の南に位置し、西は雄物川を隔てて雄勝郡に接す。横手盆地の西部を占め、土地概ね平坦にして雄物川は西境を北流す。主生業は農業にして産物は米・大豆・馬鈴薯・蕎麦等、また特産に土管を出す。本莊街道は中部を東西に通じ、社線横莊鐵道沼館驛・羽後里見驛へは各約四軒あり。天正年間、小野寺の家老に西野氏あり、大字西野に住ひその在名を稱せしものか、もと深井・南形・道地・相木・西野の部落を合併して「幸福なる地」たるを願ひ福地と命名せるものといふ。

【福地村】 山梨縣甲斐國南都留郡の中部、富士山の東北斜面を占め、富士植根國立公園の内、西南隅に富士山頂を含み、南は静岡縣駿東郡に界す。東北に裾野を引き末端に吉田の宿發達す。吉田口登山道は之より山頂に向ふものなり。斜面は概ね森林・草原にして山麓部に僅に水田・桑園あり。農耕・養蠶行はる。其他林産・畜産あり。住民の六割は農業に従事し、附餘は養蠶・木工・炭管業・自動車業・商業を營み、富士登山者を對象とする者多し。大字吉田は舊鎌倉街道と中山道との會點に發達せる街村にして、今は大月町より社線富士山麓鐵道通過し終點富士吉

田驛(昭和四年設置)あり、之より山頂へ吉田口登山道通じ、別に馬込まで自動車専用道あり。甲斐より登る主要路なり。

【富士淺間神社】 大字上吉田にあり。社。祭神、木花開耶麻命外三柱。傳によれば日本武尊東征の際富嶽を登拜せられし地に創建、のち現地に遷祀せり。富士登山北口に當り、北日本宮とも稱せられ古來上下の信仰厚く、永祿四年、武田晴信社殿を造營、嗣後淺野氏・秋元氏の領主・藩主皆崇敬す。本殿は室町期の作にして國寶、太刀一口も國寶。例祭五月五日。七月初日山開祭を行ひ、八月三十一日閉山祭を行ふ。(藤原原れんげつつじ及びざくら群落)指定天然記念物。富士登山路の中の茶屋を過ぎてより大石茶屋に至る間一萬數千アールの廣き區域に亘り、一面にツツジが繁生し、六月中旬開花の頃は見渡す限り鮮紅萬紅の花が新緑と交り、比類稀なる美觀を呈す。全部レンガツツジにして花蕾甚だ大きく鮮紅色のもの多し。(吉田胎内樹型)指定天然記念物。曾て富士山麓に森林をなしたる樹木の幹枝が富士山活動の際流出せる熔岩流に包まれて木質炭化し、幹枝の型像を熔岩冷結後に留めたるものなり。吉田胎内には樹型に伴ひて天然木岩を發見す。火山活動の副現象として學術上殊に興味あり。且つ研究資料として有益なるものなりとす。(雁ノ穴)指定天然記念物。雁穴九尾中にある二箇の熔岩窟道と

概ね地勢平坦、兒島灘岸の干拓事業に依りて埋立てられし大部の地は、灌漑の便よく耕作に適す。米・蕎麦・蕎麦等を栽培す。省線山陽本線沼津驛及び宇野線妹尾驛に近く、また國道四國街道は東南部を貫通し岡山市へバス通す。もと大福・山田の二村に分れしが、明治三十五年合併して福田村と名づく。

【福田】 廣島縣甲斐郡にありし村。明治二十八年に他の三箇村と共に合併して甲斐村を建つ。

【福田村】 香川縣讃岐國小豆郡小豆島の東北部。播磨灘に面す。西南隅に星ヶ城(八一七米)・輪船山等そびえて草壁町と界す。山地は東北方へ傾斜し山脚海に延びて東北端に断崖突出し、其南に小灣を隔てて金ヶ崎東北方へ長く連り、更にその南に灣を抱き灣心に小島あり、各灣頭には東北流する河川注ぐ。生業は石材採掘業・漁業・運送業(船)・農業・醸造業にして、石材(良質花崗岩)・櫻鯛・鳥賊・鰻・米・醬油を産す。阪神・高松・多度津港へ定期船の便あり。此地は舊尾美莊に屬す。いま大字福田は瀬戸内海國立公園の内なり。(八幡神社)大字福田に鎮座。祭神、帶中津比古神外二柱。創建年次不詳。古來當村の産土神として崇敬厚し、例祭、九月十一日。

【福田村】 福岡縣筑前國朝倉郡の西南隅、筑紫平野の北に位置し、甘木町の南約〇・五軒。西南に三井郡に接す。全村地形低

【福地】 福地

【福地村】 秋田縣秋田郡平鹿郡の西南隅、沼館町の南に位置し、西は雄物川を隔てて雄勝郡に接す。横手盆地の西部を占め、土地概ね平坦にして雄物川は西境を北流す。主生業は農業にして産物は米・大豆・馬鈴薯・蕎麦等、また特産に土管を出す。本莊街道は中部を東西に通じ、社線横莊鐵道沼館驛・羽後里見驛へは各約四軒あり。天正年間、小野寺の家老に西野氏あり、大字西野に住ひその在名を稱せしものか、もと深井・南形・道地・相木・西野の部落を合併して「幸福なる地」たるを願ひ福地と命名せるものといふ。

【福地村】 山梨縣甲斐國南都留郡の中部、富士山の東北斜面を占め、富士植根國立公園の内、西南隅に富士山頂を含み、南は静岡縣駿東郡に界す。東北に裾野を引き末端に吉田の宿發達す。吉田口登山道は之より山頂に向ふものなり。斜面は概ね森林・草原にして山麓部に僅に水田・桑園あり。農耕・養蠶行はる。其他林産・畜産あり。住民の六割は農業に従事し、附餘は養蠶・木工・炭管業・自動車業・商業を營み、富士登山者を對象とする者多し。大字吉田は舊鎌倉街道と中山道との會點に發達せる街村にして、今は大月町より社線富士山麓鐵道通過し終點富士吉

田驛(昭和四年設置)あり、之より山頂へ吉田口登山道通じ、別に馬込まで自動車専用道あり。甲斐より登る主要路なり。

【富士淺間神社】 大字上吉田にあり。社。祭神、木花開耶麻命外三柱。傳によれば日本武尊東征の際富嶽を登拜せられし地に創建、のち現地に遷祀せり。富士登山北口に當り、北日本宮とも稱せられ古來上下の信仰厚く、永祿四年、武田晴信社殿を造營、嗣後淺野氏・秋元氏の領主・藩主皆崇敬す。本殿は室町期の作にして國寶、太刀一口も國寶。例祭五月五日。七月初日山開祭を行ひ、八月三十一日閉山祭を行ふ。(藤原原れんげつつじ及びざくら群落)指定天然記念物。富士登山路の中の茶屋を過ぎてより大石茶屋に至る間一萬數千アールの廣き區域に亘り、一面にツツジが繁生し、六月中旬開花の頃は見渡す限り鮮紅萬紅の花が新緑と交り、比類稀なる美觀を呈す。全部レンガツツジにして花蕾甚だ大きく鮮紅色のもの多し。(吉田胎内樹型)指定天然記念物。曾て富士山麓に森林をなしたる樹木の幹枝が富士山活動の際流出せる熔岩流に包まれて木質炭化し、幹枝の型像を熔岩冷結後に留めたるものなり。吉田胎内には樹型に伴ひて天然木岩を發見す。火山活動の副現象として學術上殊に興味あり。且つ研究資料として有益なるものなりとす。(雁ノ穴)指定天然記念物。雁穴九尾中にある二箇の熔岩窟道と

田驛(昭和四年設置)あり、之より山頂へ吉田口登山道通じ、別に馬込まで自動車専用道あり。甲斐より登る主要路なり。

フクチー フクチ

十六箇の燔岩樹型より成る。隧道の一を崩レ穴と云ひ、長さ五七米、中央に天井の隆起せる所ありて南北の二穴に分たる。南穴中には先齋發生す。他の隆起を流レ穴と云ひ、延長前者に三倍すれど大部分は燔岩溝をなし、其隆起をなせる部分も穴の位置淺かりしため、天井の隆起せる所多く、其隆起は二箇の天然石橋をなせり。燔岩樹型は概ね井戸型の直立樹型にして横臥樹型は少し。殊に根柢山は大なる立木の周囲に燔岩溝を築固して高さ約五米のメロン型燔岩丘をなせるものにて、中央に口径一米・深さ七米の圓筒型堅穴存し、樹型として珍しきものなり。(諏訪ノ森) 富士淺間神社の境内に接する赤松の單純林にして、富士登山路の兩側に群立す。樹幹に藁が點綴して紅葉期には翠綠の間に鮮紅を彩り、極めて美觀を呈す。(西念寺) 時宗。吉積山と號す。藤澤清淨光寺末。寺傳によれば養老三年、行基富山を開きて富士道場と稱す。永仁六年、時宗二祖他眞教は堂宇を改修して時宗に改め眞海を推して開山とす。これより武田氏の崇敬厚し。

【福地村】 岐阜縣美濃國加茂郡の東部。岐阜市の東北五〇軒。北は蘇原村に、南は湖南村に、西は久田見村に各相接す。古生層より成る東濃山地の中に位し、東北部には見行山(九〇四米)あり、南境には旅足川西流す。産業としては山地なるため木炭の産出多く、農業は殆ど行はれず。交通は不便にして、北蘇原を經て高山線白川口驛に至るを便とす。本村は江戸時代は苗木藩に屬せり。孝子善九郎の出でし地なり。

【福地村】 愛知縣三河國幡豆郡の西部。半田市の東方一〇軒。北は西尾町、東は花明村・横須賀村、南は一色村、西は平坂町・寺津町にそれぞれ相隣る。本村地方は矢作川と矢作古川とに挟まれたる矢作川のアルタの地域にして、東北部に廣田川を合せ、矢作古川は矢作川の舊本流たり。本地方は日本のアンマークと稱せられ、農業盛にして、米・麥・蔬菜を産し、養蠶も盛んなり。水田地域は主に矢作古川により灌漑せらる。交通は概ね便にして、北部には西尾方面より吉田に通ずる社線名古屋鐵道ありて一色口驛(大正四年設置)・鎌谷驛(大正三年設置)を置く。南西部には僅に三河鐵道通じ、一色村より寺津町方面に至る。本村は明治三十九年、大郷村・豊田村・井崎村を廢し、大寶村大字深池・川口・菱池を以て置けるも此處にして、貞觀元年の惣經宮の神事を行はれし故蹟なるべし。(野宮神社) 大字野々宮に御座。神社。祭神。豐宇氣皇尊神・天照大神。貞觀元年の創建、奇宮明神と稱せるにはじまるといふ。江戸時代、元祿十年領主土井利忠は社殿を造營したるを始め、歴世の領主篤く崇敬す。(惠徳寺) 大字上道日記にあり。淨土宗西山派。冒光山明合院。聖武天皇の朝、僧行基の草創と傳ふ。往昔は七堂伽藍整備し、寺領七千七百餘石を有する大刹なりき。本尊阿彌陀如来は行基作と傳ふ。(不退院) 大字上道日記にあり。淨土宗西山派。授法山と號し深草義三州十ニ本寺の一。應永八年徳永城主小七郎義雄の開基にして、鶴喜上人を開山とす。元龜三年に六世意上人は勅を奉じて參内、正親町天皇の御前に曼陀羅を講じ上行寺の勅額を賜ふ。徳川家康朱印十三石餘を寄せ、鳥居元忠また本寺に歸依し諸堂を再建す。

【福地】 福岡縣鞍手郡にありし村。大正十五年に廢され新に直方町を置く。直方町は昭和六年一月市制を布く。 【フクチ】 福智 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に伊那郡福智郷あり、布久知と訓す。その地は今の上伊那郡富縣村の邊に當る。 【フクチャマ】 福知山 京都府五市の一。丹波國の北部(五三六米)一帶の山嶺を以て丹後國加佐郡に接し、東は何鹿郡及び東部天田郡に隣り、南は神南川を主峰とする山岳により兵庫縣に屬する丹波國の水上郡に接し、西は本市によりて中斷されたる西部天田郡の諸村と接す。面積六一・七一平方町、戸數約七二〇〇戸、人口約三三〇〇〇人。丹波高原北部の水を集めて西

設けらるるに及びて、俄然工業都市に轉換したるは最近の統計に現れたる左表の數字によりて知るべく、工業額は實に總生産額の七割一分を占む。工業の大宗は生産物總價額及び百分比 (昭和十一年)

Table with 2 columns: 生産物 (Production) and 金額 (Amount). Rows include 農産物 (Agriculture), 畜産物 (Livestock), 林産物 (Forestry), 礦産物 (Mining), 水産物 (Fishery), 工業物 (Industry), and 計 (Total).

云ふまでもなく生絲にして、約八十八萬貫、價額四百萬圓に近く、これに次ぐを日本酒とし、約三千八百石、約二十七萬圓。これに次ぐを農具・木製品・印刷製本・洋服・コート・肌着等とし何れも十萬圓を突破し、その他ゴム靴・人毛製品・賣藥・清涼飲料・製綿・金屬製品・足袋等は何れも三萬圓以上とす。工場は前記紡績の二大工場を初め世五を算し、殊に酒造場・醬油醸造場・木工製作所・農具製作場・ゴム製作場・織工場・冷蔵工場・人毛工場等を主とし男女職工三千餘人を使傭す。工業に次ぐ農業に就きては、市の外邊部は農村形態を存するを以て農家一八六戸あり、内養蠶を行ふもの一〇〇戸を下らず。牧畜量約十二

フクチー フクチ

萬貫、價額約六十三萬圓なり。畜産は主として謂ゆる丹波牛にて市營の家畜市場の設けあり、取引頗る多し。養蠶はこれに次ぐもその數大ならず。林・礦・水産は殆ど云ふに足らず。本市の地は、古くは和名抄の天田郡宗部郷・奄我郷及び和久郷・拜師郷・土師郷の一部に互るもの如く、彼の和泉式部がその夫藤原保昌と共に丹後に下りし時の歌に「吹風山」とあるはフクチャマと訓すといふ。さすれば當時附近の山にその名稱を存せしものなるべく、明智光秀の城名を福智山城と改めしもの古名に因みしものか。これを福知山に作りしは享保十三年以後の事といふ。福知山は寛文年間以後、朽木氏三萬二千石の城下町にして丹波の京と呼ばれ、維新後、明治四年には但馬の豊岡縣の治下に入りしが、同九年京都府の管下に移り、天田郡役所の置かるるや、その所在地たり。明治二十二年町制施行の際に福知山町と稱す。大正七年に隣接せる付我井村を併せ、近くは昭和十一年十月在郡・鹿下・豊富の三村を合併し、翌十二年四月に市制を布く。市内には市役所を初め、歩兵第二十聯隊・福知山聯隊司令部・大阪逓信局工務局出張所・公會堂・迎賓館・區裁判所・稅務署・警察署、その他、市營の家畜市場・屠畜場等あり。金融機關としては兩丹銀行、百三十七銀行の支店等あり、また大小の會社・工場少からず。教育機關としては府

立中學及び高女・私立家政女學校・商業學校等あり、外に昭和御大典記念事業として設置せられたる約八千坪の福知山運動場ありて陸上の運動競技の設備整ふ。市内の名勝としては福知山城址・府社一宮神社をばじめ神社佛閣の名あるもの尠からず。市は由良川の激流の古生層の砂岩の階段状に激突する地に主要部を置くを以て、古來氾濫による慘禍を蒙ること多く、近くは明治二十九年・同四十年の大洪水の如きは浸水のために二百有餘の人命と數百戸の家屋を奪ひ去りしが如き慘狀を呈せしが、明治四十二年以後由良川護岸工事を起し、昭和七年に工事竣成し、高さ約一二米、延長約一二〇〇米の大堤防を以て市民の生命財産を保護する事となれり。若し夫れ社線北丹鐵道にして日本海岸の宮津港に連絡するに至らぬか、北鮮・滿洲國にその距離近く市はなほ一層の發展を見るに至らん。(福知山城) 由良川左岸に屹立する朝暉山にあり。もと横山の攝上城といふ。由良川の斷崖を要害としたる堅城なり。天文年間荒木義村この城に居り、此の國の家康波多野氏に仕ふ。天正七年明智光秀は織田信長の命を受けて丹波を征するや、これを山城と改む。同十年光秀の亡ぶるや羽柴秀吉、養子秀勝をして之を守らしめ移原家次これを補佐す。文祿元年秀勝朝鮮にて死し、小野木重勝これに代る。重勝は

慶長五年關ヶ原役に西軍に與して細川忠興に攻め滅ぼされ、有馬豊氏遠江横須賀より移封し、元和六年筑後久留米に轉す。同七年岡部長盛の龜山より來りて五萬石を領し、寛永元年美濃大垣に轉じ、稻葉紀通の伊勢田丸より移りしが、慶安元年城壁修理の事より慶安を受けて三河刈屋より來り四萬六千石を食みしが、寛文九年肥前島原に移封し、朽木植昌當陸士浦より三萬二千石を以て來り治し、子孫相承けて明治維新に至り城廢す。城址は漸次住宅地と化し僅に東端の舊天主閣址のみを存し、その石垣と角櫓の一部分に古の佛を殘すのみ。いま陸軍病院の地は往時の柏者丸の地といふ。「一宮神社」 大字堀に御座。府社。祭神。大己貴命。天田郡の一宮と稱す。和銅年間、用明天皇の皇子麻呂子親王の建立と傳ふ。古來福知山の總氏神なり。天正年間福知山城の修造以後城主の崇敬厚く社殿の修理等城主これを行ふ。例祭十月二十一日。【天照玉命神社】 大字今安に御座。郷社。祭神。天照玉命。垂仁天皇四十五年倭姫命の勸請と傳ふれども定かならず。延喜の制に式内小社に列す。萬治年中、福知山城主松平忠房は諸殿を再築し、其後累代福知山城主これが管轄を司り、維新に至るまで同藩の新領所たりき。雨乞の神としてその名遠近に聞え、旱天には多拜者多し。例祭、十月十日。(御雲神社)

フクチー フクナ

廣小路に鎮座。無格社。祭神、宇氣母智神にして明智光秀を配祀す。天正年間、當地方に盜賊横行し掠奪を恣にして住民を苦めしを、光秀これを討伐し住民を安んぜしめしを以て、町民その仁徳に感じ光秀の死後私かに其の靈を祀りしが、朽木氏の時これを許可す。次で神靈會舉行を許されてより御靈祭起り、地方の名物となる。例祭日不詳。「常照寺」寺町あり。寶珠山。日蓮宗の山陰最初の道場として著る。曆應二年の創建といふ。もと荒河にありしを慶安三年現地に移す。境内の法華塔は明曆二年の建立と傳へらる。「久昌寺」寺町あり。楠原山と號す。曹洞宗。文祿元年の創建、開山は雲虎和尚。福知山城主朽木氏代々の靈位を安置す。近郡に二十六箇寺の末寺を有する名刹。「醍醐寺」大字猪崎にあり。木塔山と號し臨濟宗南禪寺派。開山は三光國師。鬼ヶ城山と鳥ヶ岳の間の山裾にあり境内の鹿堂住し。「長安寺」般若山の山腹なる地野邊にあり。醫王山と號し臨濟宗南禪寺派に屬す。開山は悅堂禪師にして開基は眼光惠通禪師なり。初代の福知山城主杉原家次深く開山に歸依し、よりて菩提寺となす。其嘉いま存す。境内は開基にして櫻樹・杜鵑花の名所なり。「長田野」市の東南部より下六人部村・西中筋村(何野)に互る東西約六軒、南北約四軒の曠野にて平均高度七〇米、淺海未だ進まざる地勢を呈し、陸軍省の所

管にして第四師團の演習場となり、附近に廠舎を建設す。彼の福知山音頭に「福知山出て長田野こえて駒をばやめて龜山へ」とある長田野なり。龜山は明智光秀の居城にて明治の初め龜岡(いま南桑田郡)と改む。「福知山音頭」郷土藝術として福知山音頭は古くより行はれしものにて盆正月の別なく、屋の内外を問はず、福知山音頭を唄ひ且踊る極めて民衆的な舞踊なり。炎暑七・八月の交、澄み渡る月影の下に三鼓・太鼓・胡弓・尺八等の合奏にて男女老若打交りて踊る様は頗る興趣に富む。音頭「福知山さん奏の御歌、いかなお大名も叶やせぬ。トッコイッ、コラッ、トッコイッ、トッコイ、トッコイッ」

【福知山線】省線東海道線の一部。東海道本線の大阪駅に近き神崎驛より分岐して北に向ひ、寶塚・篠山を通り京都府に入り、省線山陰本線の福知山驛に至る一〇・八三軒と、外に神崎驛附近の塚口驛より別に神崎を經由して、南方尼ヶ崎に至る四・六軒の線路を含む。大阪・神戸方面より山陰方面の城崎温泉・鳥取・出雲大社等に至る旅客のため直通列車をも運轉す。沿線の篠山驛にては社線篠山線道に、また三田驛にては社線神戸有馬線道に、寶塚驛にては社線阪神急行電線にそれぞれ接続す。神崎驛より一・一軒を去る池田驛の東六軒には箕面公園あり、電車を通す。なほ神崎より池田にかけて

【福知山線】省線東海道線の一部。東海道本線の大阪駅に近き神崎驛より分岐して北に向ひ、寶塚・篠山を通り京都府に入り、省線山陰本線の福知山驛に至る一〇・八三軒と、外に神崎驛附近の塚口驛より別に神崎を經由して、南方尼ヶ崎に至る四・六軒の線路を含む。大阪・神戸方面より山陰方面の城崎温泉・鳥取・出雲大社等に至る旅客のため直通列車をも運轉す。沿線の篠山驛にては社線篠山線道に、また三田驛にては社線神戸有馬線道に、寶塚驛にては社線阪神急行電線にそれぞれ接続す。神崎驛より一・一軒を去る池田驛の東六軒には箕面公園あり、電車を通す。なほ神崎より池田にかけて

【福知山線】

フクナガ 福永村

石郡の西北部。西は甲奴郡に界し、北は古川村・東は高光・草木二村に接す。面積一六・七六方軒。四周は隣村に接する山地に圍まれ村内は森林地帯にして平地乏し。中部及び西北部の山内平地に耕地を見る。米・麦の外一般に養蠶・牧畜業営まれ牛・馬等の産多し。山内の僻地なれば懸崖に約四軒、交通至極不便なり。教村・草木村・田頭村と組合村をなし役場を教村に置く。

フクナリ 福生

鳥取縣西伯郡にありし村。昭和十三年米子市に編入す。

フクナリ 福成

鳥取縣日野郡にありし村。大正元年に石見村を廢しその地域を以て新に石見村を建つ。【福成】福岡縣朝倉郡にありし村。明治四十二年に福成村・大庭村を廢し、その區域を以て大福村を置く。

フクノ 福野町

富山縣越中郡東礪波郡の西部。高岡市の西南方約一八軒を隔つ。出町・井波町及び西礪波郡福光町・津澤町の略中間に位し、礪波平野の中央部を占む。小矢部川の支流により灌溉便にして水田よく開く。主産物は綿織物にして年一七六萬圓の産額あり。また地方的交通商業の中心地にして省線中越線福野驛(明治三十年設置)あり、また社線加越鐵道の交點をなし、縣道は放射狀

フクナ— フクマ

【福知山線】省線東海道線の一部。東海道本線の大阪駅に近き神崎驛より分岐して北に向ひ、寶塚・篠山を通り京都府に入り、省線山陰本線の福知山驛に至る一〇・八三軒と、外に神崎驛附近の塚口驛より別に神崎を經由して、南方尼ヶ崎に至る四・六軒の線路を含む。大阪・神戸方面より山陰方面の城崎温泉・鳥取・出雲大社等に至る旅客のため直通列車をも運轉す。沿線の篠山驛にては社線篠山線道に、また三田驛にては社線神戸有馬線道に、寶塚驛にては社線阪神急行電線にそれぞれ接続す。神崎驛より一・一軒を去る池田驛の東六軒には箕面公園あり、電車を通す。なほ神崎より池田にかけて

フクハ 福原

【福原村】徳島縣阿波國勝浦郡の西南端。小松島港を距ること西南約二〇軒。東南部は横濱町の西南に接し、西及び南は那賀郡に界し、西北部は名西郡に隣る。面積七八・五二方軒を有する郡中第一の山村なり。村内高峻なる地形を呈し四國山脈の雪早山(一四九六米)・高丸山(一四三九米)等西處に屹立し到る處山岳重疊す。西南境に源流する勝浦川は中央南偏を東北流し、東部に於て流路は二條に分れて共に高針村に入る。沿岸は低地を見ざるも耕地發達し米・麥を産す。勝浦川沿岸の大字旭より小松島町と徳島市までバスの便あり。此地は勝浦盆地といはれ中生代に屬する重要な化石産出し、標原谷には白雲系地層に具發化石あり、土俗は千鳥貝と稱す。この地太古は水底たりといふ。

フクベ 福部村

鳥取縣日野郡にありし村。大正元年に石見村を廢しその地域を以て新に石見村を建つ。【福成】福岡縣朝倉郡にありし村。明治四十二年に福成村・大庭村を廢し、その區域を以て大福村を置く。

【福知山線】

【福知山線】

東西に走り西河内區に至る。古くは和名抄服部郷の地なり。惟ふに本村は古來織物・製絲の郷として有名なるを以て服部とは服部の轉字にして、大字殿は地方人の語れる前田利家の居城の存せしより生ぜしにあらざりて、服部郷より生ぜしものか。今に至るも微々たりとは云へ、羽二重の産出あり。尙考ふべし。名勝舊蹟としては、前記の高尾山は昔の菅玉山如来寺の跡にして頂上は平坦なり。秋は芋・蕪・蕪の遊覧客も多し。また室谷にある吉田屋は吉田大納言信明が堀河天皇の勅諭を蒙り配流せられたる所。のち勅諭を得しも歸京せずして親鸞聖人の弟子となる。殿には玉の木城址あり。天正年中豊臣秀吉が北庄の柴田勝家を攻むるや、前田又左衛門利家に命じて此處に築城せし所なり。(八幡神社) 大字朽飯にあり。郷社。祭神、天萬幡比賣命・譽田別命外八柱。本社は服部谷の總社にして、衆神の神・應神天皇・服部姓祖神三柱の神を祀りて國內神明帳に正五位八架神とあり。尤若天皇の御代に横之連日命十二世の神孫麻呂宿禰の後裔服部連、織部司の任を蒙り當地に下向して郷民衆部等を總領せしより地名を服部郷と改め、其後、關宗天皇の御代百濟國努理使主の高阿久太子の彌和といふ人來りて置敷を産業とし今に絶えず。是が本社記に出てしところにて本社創なり。文治三年源頼朝の地に來り本社を尊信し八架神を八幡神

社と改め子孫ここに遷れり。八月十三日十五日を秋季例祭とす。十三日午後五時に白衣に袴・赤袴の若者たち社殿を出發して獅子頭の渡御を始め、のち庄家區に一泊し翌日ここを發してまた各區を廻り、十五日は本社境内を限りて獅子返を行ひ午後五時に式を終ふ。之を朽飯の獅子渡と稱し古來有名なり。(上飯忠七郎) 朽飯の人なり。幼より水戸に赴き漆業に従事し新業を大成せしめ、また公益を増進し慈善事業を榮えし。水落の砂山外史源義・藤田東湖等と交遊せり。

【福間町】 福岡縣筑前國宗像郡の西南部。津屋崎町の南に接し、西は支海灣に臨み、南は糟屋郡に界す。略ぼ正四角の村形をなす。東南部及び北部に稍丘陵あり。外は地形漸に平坦なり。中央を貫きて西海灣に流れ河口は北岸より南方へ延ぶる小砂嘴の爲に妨げられ南折して支海灣に注ぐ。川の北岸に沿ひ東西に長く市街地發達す。米・麥の産及び水産あり。中央には舊萬見島街道東北より西南に貫き、之と市街地とを結ぶ道路も發達あり。また市街地より津屋崎町に至る縣道あり。省線萬見島本線は中央を貫きて福岡縣(明治二十三年設置)あり。西部には社線博多灣鐵道走りて筑前福岡驛(大正十四年設置)あり。古くは和名抄宗像郡養生郷の内にして、もと下西郷村と稱せしを、明治四十二年福岡町と改稱す。江戸末期醫學士二大家の一人なる百

武方里(贈正五位)は此地の人。町の海岸西部に突出せる大峰山一帯は公園區にして東郷公園といふ。大峰山は日露戰爭當時、監視哨の所在地にして日本海海戰を記念せんが爲に作られしもの。

【福光町】 富山縣越中國西瀨波郡の東南部。小矢部川に沿ひ、瀨波平野の南部を占む。城崎町(東瀨波郡)の西北方約五軒の北にあり。面積小なるも人口多く本郡南部の主要な市街地の外は水田にして米を産するも本町の生命は諸工業にあり。絹織物を初め生絲・麻織物の産共に多く、玩具・運動具等の木工業盛にして京濱・阪神等へ移出する主要な特産品なり。省線中越線通過し隣村吉江村に福光驛あり、また縣道の一集合點をなし交通便なり。傳ふるるところに據ればこの地は遠く延喜の頃福澤と稱せりといふ。その名の起源は此地より清水噴出したため噴湯の意を取らしものとす。慶安四年、阿曾三右衛門なる者官に請ひ福光領内の荒蕪の地六千餘歩を受けて開拓し終に一部落を作れり、これ今の新町とす。(宇佐八幡宮) 大字福光に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・比賣命・息長帶日賣命。石黒郷の總社として崇信せられ、近世は前田氏の祈願所として尊崇せらる。例祭、九月十五日。

【福光村】 鳥根縣石見國通摩郡の西南部。大濱村を挟みて温泉津町の南に位し西北

は日本海に面す。西南に福浦村、南は波積村に接す。面積九・九九方軒。北部・南部は山地にして何れも中央に傾く。中部は一小川西流し流域に海岸より隣村に連る東南に細長き平地展く。河岸に耕作行はれ他は山林地なり。海岸線は短小なれど彎入をなして好適なる漁業根據地なり。鯛・鰯・鮭等の漁獲あり。米・蕎麥・醬油を主産す。特産の福光石は石燈籠に用ひらる。省線山陰本線石見福光驛(昭和三年設置)を置く。福光温泉は皮膚病に卓效ありと稱せらる。此地は和名抄、通摩郡湯島郷の内。中世は福光莊といふ。

【福光村】 鳥根縣石見國通摩郡の西南部。大濱村を挟みて温泉津町の南に位し西北

は日本海に面す。西南に福浦村、南は波積村に接す。面積九・九九方軒。北部・南部は山地にして何れも中央に傾く。中部は一小川西流し流域に海岸より隣村に連る東南に細長き平地展く。河岸に耕作行はれ他は山林地なり。海岸線は短小なれど彎入をなして好適なる漁業根據地なり。鯛・鰯・鮭等の漁獲あり。米・蕎麥・醬油を主産す。特産の福光石は石燈籠に用ひらる。省線山陰本線石見福光驛(昭和三年設置)を置く。福光温泉は皮膚病に卓效ありと稱せらる。此地は和名抄、通摩郡湯島郷の内。中世は福光莊といふ。

【福光村】 鳥根縣石見國通摩郡の西南部。大濱村を挟みて温泉津町の南に位し西北

は日本海に面す。西南に福浦村、南は波積村に接す。面積九・九九方軒。北部・南部は山地にして何れも中央に傾く。中部は一小川西流し流域に海岸より隣村に連る東南に細長き平地展く。河岸に耕作行はれ他は山林地なり。海岸線は短小なれど彎入をなして好適なる漁業根據地なり。鯛・鰯・鮭等の漁獲あり。米・蕎麥・醬油を主産す。特産の福光石は石燈籠に用ひらる。省線山陰本線石見福光驛(昭和三年設置)を置く。福光温泉は皮膚病に卓效ありと稱せらる。此地は和名抄、通摩郡湯島郷の内。中世は福光莊といふ。

【福光村】 鳥根縣石見國通摩郡の西南部。大濱村を挟みて温泉津町の南に位し西北

は日本海に面す。西南に福浦村、南は波積村に接す。面積九・九九方軒。北部・南部は山地にして何れも中央に傾く。中部は一小川西流し流域に海岸より隣村に連る東南に細長き平地展く。河岸に耕作行はれ他は山林地なり。海岸線は短小なれど彎入をなして好適なる漁業根據地なり。鯛・鰯・鮭等の漁獲あり。米・蕎麥・醬油を主産す。特産の福光石は石燈籠に用ひらる。省線山陰本線石見福光驛(昭和三年設置)を置く。福光温泉は皮膚病に卓效ありと稱せらる。此地は和名抄、通摩郡湯島郷の内。中世は福光莊といふ。

【福光村】 鳥根縣石見國通摩郡の西南部。大濱村を挟みて温泉津町の南に位し西北

は日本海に面す。西南に福浦村、南は波積村に接す。面積九・九九方軒。北部・南部は山地にして何れも中央に傾く。中部は一小川西流し流域に海岸より隣村に連る東南に細長き平地展く。河岸に耕作行はれ他は山林地なり。海岸線は短小なれど彎入をなして好適なる漁業根據地なり。鯛・鰯・鮭等の漁獲あり。米・蕎麥・醬油を主産す。特産の福光石は石燈籠に用ひらる。省線山陰本線石見福光驛(昭和三年設置)を置く。福光温泉は皮膚病に卓效ありと稱せらる。此地は和名抄、通摩郡湯島郷の内。中世は福光莊といふ。

のち幾多の盛衰ありて今日に至る。寺寶中、十一面觀音立像(木造)一軀・兩界曼荼羅圖二幅・不動明王像一軀・傳智叶筆十二天像十二幅は國寶なり。

【福屋】 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に他の二箇村と共に廢され南陽村を置く。

【福山町】 北海道渡島國渡島支庁松前郡の南部海岸。福山灣に面し、南方の津輕海峡を隔てて陸奥の津輕半島と相對す。東は大澤村、西は小島村にそれぞれ隣接す。面積一七・九四方軒。後背地は山脈に圍まれ、大森山・御髮山等の高峰屹立す。地勢海岸に向ひて低下し海岸に聚落發達す。福山の市街は中央海岸に海岸線に沿うて發達し地方道これを東西に貫通す。今は鰯・鮭・昆布等の漁獲に依りて支へらる漁業聚落地に過ぎざるも、往昔は本道中に最も早く内地人の移住せし所なり。舊名の松前は原名マトマイにてアイヌ語マトオマイ、即ち婦人居る處の意なりと云ふ。下國安東氏の居館以來久しく蝦夷全島の首都たりし處。鵜崎慶廣、慶長五年に氏を改めて松前氏と稱せしより廣く松前と云ふことになり。福山は和名にして城の後山の名より出で、慶長十一年新館成りて福山館と稱せりと云ふ。近世に至り人類集積し松前三軒の稱あり。近江・加賀・能登等の商賈移住するありて、北海物産の集散地として出船入

船輻輳するの盛衰を呈し、元禄年間に住民約五千七百を算し、慶應三年には稍衰微し居りしが、なほ北海道都邑の首位を占めたりと稱せらる。探るべき史蹟名勝多く、北海道の鎌倉と呼ぶも過言にあらざと云ふ。主なる産物は烏賊と鰯なり。船入調は昭和六年九月起工、同八年九月竣工、工費約二十萬圓、東南北の三堤を備へ、利用面積九八アールとす。(福山城址) 松城町にあり。東は斷崖をなし、その下に川原澤を控へ、西は海邊に接し、南は傾斜をなし一條の街道を隔てて海に面す。大手門・三層樓の遺構を存し、外濠の石壁等殘存す。城は慶長五年松前慶廣これを創建し、同十一年竣工。當時これを福山陣屋と呼べり。寛永十四年罹災し、同十六年慶廣の孫公廣重修す。東西九十三間、南北百二十六間、南東と西北に三門を開き、正南を以て進手門となし、西北に繞る濠は長さ六十間、東に繞る濠は長さ二十間。文化四年、藩主松前章廣、陸中の濠川に封を徙され、松前奉行代りて居りしが、文政四年に松前氏また舊領に復す。嘉永二年松前慶廣は幕府の命を奉じ更に新城をここに築造し、安政元年竣工す。之は兵學者市川一學を聘して設計せしめし處なりと云ふ。明治元年十一月幕府の脱走兵來り攻むるや、藩兵自ら外郭を燒きて退きしり、翌年幕府治りて還り居す。同四年七月藩廢して松前修廣は江戸に上り、同八年開拓使これを

毀ちてただ樓と門を遺す。城址にいま松前神社・福山公園・松城小學校あり。この城は我國の城のうち最北に位し、最後に築城されしものなり。イ、大手門。松城小學校の裏門として使用せらるるも舊福山城本丸の表門なり。嘉永年間の造營にして東南に面し、兩個に築地塀附屬す。門扉はもと銅板を以て包覆せられしが、維新後に銅板を以て其儘なり。松城小學校校舎の邊が舊表御殿址にて、その玄關入口に嵌められし鶴龜九形の透彫刻物と同内部の桐紋の透彫蓋殿は共に桃山時代の遺作に屬す。後者は五代慶廣が文祿二年に肥前名護屋城に秀吉に謁して蝦夷朱印を受けし際賜はりしものと傳ふ。ロ、三層樓。大手門の東北に位し、築地塀を以て相連る。嘉永年間の築造にて高さ約一六米にして、内部は明治二十年頃に改修を經たるも、外観等は略ぼ舊態を保つ。城壁に遺る彈痕は明治二年四月賊軍この城によりて固守せし際、官軍の軍艦より放ちし砲彈の命中せしものなり。最上層に登れば南方の津輕海峡を隔てて遙に津輕の諸山を望み、殊に津輕富士(岩木山)の遠望は頗る佳なり。(蝦夷土) 大字川原町字小館にあり。永正十二年蝦夷、大館を襲ひたる折、武田光廣、夷酋野野村兄弟を誘ひ誘ひてこれを斬り、屍を埋めし處なりと傳ふ。(大館址) (徳山館址) 徳山大神宮の西方一帯の高丘なり。始め蝦夷管領下國氏の一簇下國

定季の居館にて、長祿元年蝦夷亂に一時陥落せし事あり、東・西・北に急崖をなして要害なり。鵜崎(武田)光廣は永正十一年上國より移住し、以下四代この地に築きて之に移る。(おほみづなごどり審判地) 指定天然記念物。渡島半島の西方約七・一軒、日本海の大島なり。(おほみづなごどり) は本邦沿海の島嶼に於てのみ審判するものにして審判地は少し。本島は北海方面に於けるその代表的なるものなり。(折戸濱古戰場) 徳社堂町折戸にあり。建石野の西端海濱に下る坂路の所なり。明治二年幕府の脱走軍が壘を築きて官軍を助しが、同年四月十七日、官軍海陸並び進みて攻撃せしため遂に敗れて退きたり。(野屋址) 大字及部町の及部川西岸の丘陵上にあり。明治元年藩兵之際休息せし場所と云ひ、明治元年藩兵ここに賊軍を阻みて戦ひし所なり。(勝軍山) 本町の西部にあり。一に地蔵山といふ。天文七年、松前義廣が山嶺に勝軍地蔵大菩薩の堂を建てしよりこれ等の名あり。奇巖怪石到處に屹立す。頂上より北約二〇〇米、松前家寄道の不助明王寺三尊を奉安し、麓より参拜する者の爲に鎖を垂る。また山中に四國八十八ヶ所に擬して八十八尊の他の石像を安置す。(建石野) 大字生符町より西方の折戸に至る丘陵をいふ。巨巖突兀として聳え三十三體の觀音像を擁す。ここに首斬野・

【福山町】 北海道渡島國渡島支庁松前郡の南部海岸。福山灣に面し、南方の津輕海峡を隔てて陸奥の津輕半島と相對す。東は大澤村、西は小島村にそれぞれ隣接す。面積一七・九四方軒。後背地は山脈に圍まれ、大森山・御髮山等の高峰屹立す。地勢海岸に向ひて低下し海岸に聚落發達す。福山の市街は中央海岸に海岸線に沿うて發達し地方道これを東西に貫通す。今は鰯・鮭・昆布等の漁獲に依りて支へらる漁業聚落地に過ぎざるも、往昔は本道中に最も早く内地人の移住せし所なり。舊名の松前は原名マトマイにてアイヌ語マトオマイ、即ち婦人居る處の意なりと云ふ。下國安東氏の居館以來久しく蝦夷全島の首都たりし處。鵜崎慶廣、慶長五年に氏を改めて松前氏と稱せしより廣く松前と云ふことになり。福山は和名にして城の後山の名より出で、慶長十一年新館成りて福山館と稱せりと云ふ。近世に至り人類集積し松前三軒の稱あり。近江・加賀・能登等の商賈移住するありて、北海物産の集散地として出船入

【福山町】 北海道渡島國渡島支庁松前郡の南部海岸。福山灣に面し、南方の津輕海峡を隔てて陸奥の津輕半島と相對す。東は大澤村、西は小島村にそれぞれ隣接す。面積一七・九四方軒。後背地は山脈に圍まれ、大森山・御髮山等の高峰屹立す。地勢海岸に向ひて低下し海岸に聚落發達す。福山の市街は中央海岸に海岸線に沿うて發達し地方道これを東西に貫通す。今は鰯・鮭・昆布等の漁獲に依りて支へらる漁業聚落地に過ぎざるも、往昔は本道中に最も早く内地人の移住せし所なり。舊名の松前は原名マトマイにてアイヌ語マトオマイ、即ち婦人居る處の意なりと云ふ。下國安東氏の居館以來久しく蝦夷全島の首都たりし處。鵜崎慶廣、慶長五年に氏を改めて松前氏と稱せしより廣く松前と云ふことになり。福山は和名にして城の後山の名より出で、慶長十一年新館成りて福山館と稱せりと云ふ。近世に至り人類集積し松前三軒の稱あり。近江・加賀・能登等の商賈移住するありて、北海物産の集散地として出船入

【福山町】 北海道渡島國渡島支庁松前郡の南部海岸。福山灣に面し、南方の津輕海峡を隔てて陸奥の津輕半島と相對す。東は大澤村、西は小島村にそれぞれ隣接す。面積一七・九四方軒。後背地は山脈に圍まれ、大森山・御髮山等の高峰屹立す。地勢海岸に向ひて低下し海岸に聚落發達す。福山の市街は中央海岸に海岸線に沿うて發達し地方道これを東西に貫通す。今は鰯・鮭・昆布等の漁獲に依りて支へらる漁業聚落地に過ぎざるも、往昔は本道中に最も早く内地人の移住せし所なり。舊名の松前は原名マトマイにてアイヌ語マトオマイ、即ち婦人居る處の意なりと云ふ。下國安東氏の居館以來久しく蝦夷全島の首都たりし處。鵜崎慶廣、慶長五年に氏を改めて松前氏と稱せしより廣く松前と云ふことになり。福山は和名にして城の後山の名より出で、慶長十一年新館成りて福山館と稱せりと云ふ。近世に至り人類集積し松前三軒の稱あり。近江・加賀・能登等の商賈移住するありて、北海物産の集散地として出船入

臺場址・霧信所・香所址等の遺蹟存す。〔香所址〕及郡町中道と生符町建石野無...

念寺〕西館町にあり。眞宗大谷派。西立山。天文二年に...

連絡する福山入江の如きはその一なり。此の入江は溝渠として内海と通じ船舶の出入を見るも海港としての地位は古くより尾道に及びず。故に築港工事を起し、入江の一部埋立工事は完成し、而してこのアルマの提供する附近平野は商工都市として發達する市の將來を暗示するものなり。...

野上村・三吉村を合併、大正五年市制を布き福山市と稱す。昭和八年沼隈郡草戸村・神島村・佐波村・深安郡川口村・深津村・手塚村・吉津村・奈良津村・木ノ庄村・本庄村を編入し以て今日に至り、面積三一・二九方軒、人口四萬を突破す。〔福山城〕市の中央にある城址。元和五年水野勝成備中・備後の内を領し初めは神邊に居り翌年野上村に築城し福山城と稱す。其後、松平(奥平)氏を経て寶永七年以後阿部氏に至る。明治維新に至り城廢せしが五層の天主閣は依然舊態を存し現に國寶たり。城址の本丸址は公園となり四時市民の清遊に供ふ。舊本丸の正門たる筋鐵門および伏見城の遺構たる三層櫓、並に御湯殿は共に國寶に列せらる。〔阿部神社〕西町に鎮座。縣社。祭神、大彦命・豊前別命・武沼河別命・阿部氏累代の祖。文化十年の創建、もと勇鷹神社と稱せり。大彦命は即ち阿部氏の祖たり。例祭、五月二十九日。〔野上八幡神社〕郡社。祭神、應神天皇外二柱。創建年次詳ならずも往古相模國鶴ヶ岡八幡宮を勧請せしものとす。毛利・福島・水野・阿部氏等の崇敬社。〔明王院〕古義眞言宗。俗稱、菘寺。中道山開光寺と稱す。大同年中、空海の開創と傳へ、往時は同國に於ける大坊たり。本堂・五重塔は本堂十一間一重と世帯と共に國寶に列せらる。〔誠之館〕福山藩の藩費。天明六年弘道館設立、安政元年文武の稽古所を合併して誠之館と稱す。明治三年分校を諸所に設く。いま縣立誠之館中學校名はこれに因みし名なり。〔郡山〕深津町にあり。天正十年將軍足利義昭京都を出でて西南に流寓するや、毛利輝元これを深津の郡山に迎へ館を造り五千石を給して此處に置く。蓋し深津は舊深津郡の郡家のありし所なり。即ち舊深津村・吉津村邊の汎稱とす。夫木・二〇しとみ山風はおろそほととぎす聲はこもらぬものにぞ有ける。後編

また西南の役の古戦場たり。昭和四年町制を布く。福山はもと廻といひ、宇仁田尾には仁田尾城址ありて廻氏世々の居所とす。廻氏は源三位頼政の後胤なり。其家譜を按ずるに、頼政の孫肥前守宗頼流罪に處せられて廻村を賜はり、世々此地を領し家業榮して仁田尾に居す。十五代の孫兵部少輔久元官目にて、其子次郎四郎頼貞幼弱なりしに乗じ、永祿四年五月肝付河内守兼頼これを襲ひ攻略す。然るに同年六月島津貴久大兵を以てこれを圍み、終に兼頼をして走らしむ。(宮浦神社)大字福山に鎮座。祭神、神倭伊波禮皇古命。創建年次詳ならざるも式内小社に列し嘯嗚郡三座の一たり。例祭三月十日。

フクヤマ 富久山町

福島縣岩代國安積郡の東部。郡山市の北に隣り、東は阿武隈川を隔て田村郡に接す。村の北部と西部には丘陵横りて高く、東南部は郡山盆地に属して平坦なり。阿武隈川は東境を北流す。米・麥・大豆・蕎麥を産す。陸羽街道は中部を南北に通じ、郡山市と北方本宮町へはバスの便あり。省線東北本線及び磐越東線は村内を通過するも詳なし。昭和十二年町制を布く。此地は和名抄安積郡安積郷の内なるべく、大字福原は舊奥州街道の福原宿のありし所。福原大館前は政宗陣場の内なるべく、天正七八年頃は田村の幕下、伊藤左衛門なるもの住せり。大字久保田には久保田山王

館あり、政宗の本陣のありし所、城代として飯坂右近大夫・大嶺式部少輔あり。(本橋寺石塔婆) 大字福原の臨濟宗妙心寺派本橋寺の境内に古き石塔婆二あり。一は本堂の南側、墓地の入口にあり、牛内彫の結跏趺坐の佛像にて、俗にかきかき佛、或は一町佛ともいふ。他は本堂の前にもあり。阿彌陀三尊來迎佛を牛内彫にせしもの、共に鎌倉末期の作。

フクヨシ 福吉村

福島縣筑前國系島郡の西南端。春振山塊西端の北斜面に位し、唐津灣の東岸を占めて西と北は海を繞らし、南は佐賀縣東松浦郡に界す。南部一帯の山地は女嶽(七四九米)・浮岳山(八〇五米)・十坊山(五三五米)等を以て佐賀縣界を劃し西方へ高さを減じてその山麓海に迫る。北部海岸所々に小低地開け海岸線は稔調なるも東北部に配崎、中央に磯崎、西北部に串崎の突出あり。なほ磯崎附近の西方に草島を始め数多の岩嶼散在す。農産・水産を主とす。海岸に沿ひて縣道走り、また省線筑前線も通過して大入(大正十四年設置)・鹿家(福吉(以上大正十二年設置)の三驛あり。自動車の便もよ。古くは和名抄、恰土郡海部郷の内か。また延喜長部式に見ゆる佐野郷は大字鹿家の地にや。(浮嶽神社)大字吉井に鎮座。祭神、伊弉那岐命(上尊)・伊弉諾美命(中尊)・伊弉册命(下尊)・伊弉册命(中尊)。舊稱浮嶽山妙理大権現。社傳によれば神功皇后、浮岳山上に経緯の事を祈り、

御凱陣の後その報賽として誓み給へる神社なりと云ふ。薬師如来像・地藏菩薩立像は國寶なり。

フクヨネ 福米

【福米】鳥取縣西伯郡にありし村。昭和十三年米子市に編入す。

フクラ 吹浦村

山形縣羽後國飽海郡の西北端。西は日本海に面し、北と東は秋田縣に隣接す。面積六九・七九方軒。東部に鳥海山麓を、東に新山(二二三〇米)・西に峯ヶ嶽(一六三五米)の新舊二箇のユネーデより成り、共に複式火山にして、美しき山容は秀峰富士に似て、鳥海富士の名あり。西方は日本海岸に傾斜し山脚海岸に迫る。村民の生業は漁業・農業相半し、米・蕎麥・鮮魚を産す。吹浦は日本海方面に於ける主なる魚港の一をなす。道路は海岸を南北に通じ、北方大師崎の磯所を経て秋田縣に入る。省線羽越本線吹浦驛(大正九年設置)あり。この地は酒井家藩政の時まで唐船番屋を設けし所。村内に國幣中社大物忌神社あり。湯ノ田温泉は吹浦の西北一軒半、炭酸泉にして火熱浴用、胃腸病・婦人病・リウマチス・痔疾などに効果ありとす。また附近は海水浴場として知らる。(大物忌神社)大字吹浦に鎮座。國幣中社。祭神、大物忌神。社傳に皇行天皇の御宇宮國に

フクヨシ 福良

福島縣岩代國安積郡の西部。北は猪苗代湖に臨み南は岩瀬郡に接す。土地南北に長く、東南境に高井原山(九八一米)ありて北方に傾斜し、菅川は南境に發源して北流し猪苗代湖に注ぐ。湖岸は福良濱と稱し風景佳なり。米・蕎麥・木炭を産す。茨城街道は北部を略ぼ東西に通じ、西方の赤津村、東北方の省線磐越西線上戸驛へはバスの便あり。此地は和名抄、會津郡葦方郷の内にて藩政の頃代官所を置きし所。(陸津島神社)大字福良に鎮座。祭神、市杵島比賣命。豊前守佐宮より分靈すと雖も創建年次詳ならず。正徳元年神祇官より式内社たる

の沙汰あり、時に領主社領を寄託せ給以下を造營す。例祭、七月二十八日。

【福良】 上徳國(千葉縣)の古地名。和名抄に海上郡福良郷あり布久良と訓す。その地は今の市原郡戸田村の邊か。

【福良町】 兵庫縣淡路國三原郡の西南部。鳴門海峡の南口東岸にあり。東部には淡路島の西南部に東北方へ深く侵入する灣を抱き眞に良港地をなし、北岸に市街地發達す。水深七尋、混成にして灣の西北側に二岬あり。一を煙島と言ひ圓錐形にて密樹に掩はる。一は洲崎と言ふ砂洲なり。北部には東北より西南の方向に丘陵連りて灣を掩ひ尖端の鳴門崎海中に半出すること一・五軒餘。阿波の孤島と相對して海峡をなす。此間を鳴門と稱し暗礁多く潮流の奔流する奇觀を以て名高し。米・果實・櫻・蔬菜・花卉・食用農産・觀賞植物・繭・小麦・大豆・雜穀等を産し、水産製造物も多く陶磁器(淡路焼)はその産額最たるものにして、外に木製品・肥料・履物・漆等あり。人口密度は八一三人を算し沼島村の八四人に次ぎ郡中第二位なり。四國街道及び社線淡路鐵道の終點に當りまた各方面へ汽船の便あり。この地は延喜式に福良驛馬五疋とある地にして、いま馬宿と稱する地は驛家の故址なるべし。中世は福良莊と云ひ、貞應二年の注文に安野資持院領田二十町、高若千、浦一所と見え、正平八年の文書には長壽堂領とす。町の西濱なる新羅浦は古へ歸

フクラ 福連木村

熊本縣肥後國天草郡天草下島の略中央。周圍山脈にて圍繞され北に天竺(五三八米)、東南部に角山(五二六米)等の主峯そびゆ。角山に發する下津深江川は村の中央を流れて西境より下田村に出で約三軒先に至りて天草灘に注ぐ。流域に都落あり。純然たる山村にして米麥の産もある、其類多からず、村民の大半は炭焼に従事す。村内に官林ありて樺の良材を出し往時は専ら槍の柄に用ゐられたり。いま禁伐の制を布きて保護す。林中に老幹森々として樹身端正、拱圍七八尺、枝下十間餘のもの多し。東北方の本渡町へ自動車道、それより汽船便あり。

フクロ 袋

熊本縣荒尾郡水俣町の大字。鹿見島本線の袋驛(大正十五年設置)あり。

フクロ 福留

盛岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と訓す。その地は今の坂井郡内ちんも評

化の新羅人を置きし地なるべく、鶴島は古嶽の跡にて、元暦元年源氏の要害を榜へし處と傳ふ。また幕末の勤王家福浦元吉(稱從五位)はこの地の人にして大和義舉に加はりて戦死す。

フクラ 鮎浦

武藏國(神奈川縣)の古地名。和名抄に久良郡鮎浦郷あり、鮎浦は鮎浦の誤なるべし。その地は舊の久良郡郡六浦莊村(今は横濱市に編入さる)の邊なるべし。

フクラ 福連木村

熊本縣肥後國天草郡天草下島の略中央。周圍山脈にて圍繞され北に天竺(五三八米)、東南部に角山(五二六米)等の主峯そびゆ。角山に發する下津深江川は村の中央を流れて西境より下田村に出で約三軒先に至りて天草灘に注ぐ。流域に都落あり。純然たる山村にして米麥の産もある、其類多からず、村民の大半は炭焼に従事す。村内に官林ありて樺の良材を出し往時は専ら槍の柄に用ゐられたり。いま禁伐の制を布きて保護す。林中に老幹森々として樹身端正、拱圍七八尺、枝下十間餘のもの多し。東北方の本渡町へ自動車道、それより汽船便あり。

フクロ 袋

熊本縣荒尾郡水俣町の大字。鹿見島本線の袋驛(大正十五年設置)あり。

フクロ 福留

盛岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と訓す。その地は今の坂井郡内ちんも評

鎮座あり、次で欽明天皇即位二十五年山上に奉遷せりといふ。當社は山上本殿の外、同郡藤岡村鎮座の藤岡口ノ宮及び本村鎮座の吹浦口ノ宮の三社より成る。貞觀四年既に官社に列して國家の祭祀に預る。式内名神大社にて當國一ノ宮たり。爾來、皇室初め武將の尊榮を蒙り社領寄進、社殿の造營等間然する事なかりき。本殿は東北第一の高峰なる鳥海山山嶺にあり、廿年ごとに式年造替せらるるをその例とし、現在のものは大正六年の造營に係る。社寶中、太刀一口は國寶なり。例祭、五月三日。(永泉寺)曹洞宗。俗稱小山寺。奇巖奇景を以て著はる。貞觀年中に慈覺大師の創建。永徳二年玄翁再興す。玄翁坐禪石等あり。

フクラ 福良

福島縣岩代國安積郡の西部。北は猪苗代湖に臨み南は岩瀬郡に接す。土地南北に長く、東南境に高井原山(九八一米)ありて北方に傾斜し、菅川は南境に發源して北流し猪苗代湖に注ぐ。湖岸は福良濱と稱し風景佳なり。米・蕎麥・木炭を産す。茨城街道は北部を略ぼ東西に通じ、西方の赤津村、東北方の省線磐越西線上戸驛へはバスの便あり。此地は和名抄、會津郡葦方郷の内にて藩政の頃代官所を置きし所。(陸津島神社)大字福良に鎮座。祭神、市杵島比賣命。豊前守佐宮より分靈すと雖も創建年次詳ならず。正徳元年神祇官より式内社たる

かならず。

フクロイ 袋井町

静岡縣遠江國磐田郡の南部。北に今井村・久勢村、南西に田原村あり。太田川の右岸沖積平野の中央に位す。結瓜・西瓜・茶・蕎麥等を産し、またこれ等物産の集散をなす。なほ小夜中山子育館の名物あり。小夜中山。國道東海道に沿ひ、社線静岡電線秋葉線及び社線中遠鐵道線によりて東南の御前崎附近、北方の遠州森町に通ず。明治四十一年に山名町を袋井町と改稱し昭和三年更に笠西村を編入す。此地は東海道五十三次の一宿驛として榮え、古くは和名抄、山名郡信濃郷の地にや。掛川志稿によれば袋井驛は元和二年新たに建てられし驛家なりといふ。大字高尾宇大門に古墳あり、圓形墳にして明治十五年に發掘し石室の外より古鏡・馬具・玉類・刀身・須恵器などの遺物を得たり。殊に香葉・鏡板等の馬具に特色を認む。明治元年東京行幸、同二年東京御再幸、同十一年北陸東海御巡幸の際この地に御小休遊ばさる。丹波興作侍夜の小室節・劇集見附の泊と聞けば、恐も惜しまぬ願の財布の袋井や、のり掛川を飛びおきて機杼を響くやア日坂の葉餅。藤葉毛・三中程なく袋井の宿に入るに袋井より見附へ一里半。兩かばの茶屋にさばしく、往來の旅人、おの／＼酒のみ食事などしてゐたりけるを、彌次郎兵衛見て、ここに來てゆききの飯やふくれけん、されば布

フクロイ 袋井町

袋のふくろの井の茶や。(赤尾造重神社)大字高尾に鎮座。祭神、息長帯姫命・磐田別命・玉依姫命。陽成天皇元慶二年、正六位上より從五位下に陞せらる。例祭、十月十五日・十六日。(許備神社)大字木原に鎮座。祭神、徳玉男命・伊弉冉命・事解男命。もと熊野權現と稱す。本社を以て式内社に充つる説あるも詳かならず。慶長年中徳川家康社殿を造營す。同四年朱印領七十石を寄す。例祭、十月十四・十五日。

フクロサワ 袋澤

深村(東京府小笠原島) 袋澤(東京府小笠原島)

フクロタ 袋田村

茨城縣常陸國久慈郡の西北部。大字町の東隣にて久慈川に沿ふ。八瀨山脈中の一部を占め東南境附近に長福山(五一三米)あり。久慈川は堰合を流れて村の西北境より南部に入り蛇行して南流す。山地一帯森林多く林産あり。川沿ひには狭き平地ありて米・麥を産し、また栗・柿の産額多し。縣道は川沿ひに大字町に通じ登落も亦ここに發達す。省線水郡線また之に沿ひ、袋田驛(昭和二年設置)を置く。大字油田の池田鎮城は藤原富得の築くところといふ。その子孫世々ここに居し近津神社の神職となる。村内に袋田温泉あり。澗川の曲流する登勝の地を占め、月居山一帯を望むところあり。泉質は重炭酸含有泉にて近年掘鑿せし新温泉なり。附近に舊袋田温泉あり、泉質は単純泉にして加熱す。

また袋田渡あり。渡川の岩壁に懸り高さ一二一米、幅七三米にて、四段をなすを以て四度ノ瀧ともいふ。紅葉の名所として知られ、その上流に生瀧渡あり。

フクワ 福渡戸

福原村の南にあり。

フクワタリ 福渡町

久米郡の西南隅にて旭川の中流左岸に沿ひ、西は川を以て御津郡に對し南は赤磐郡に接す。東は約五軒に弓削町あり。

面積一二・四六方軒。西の旭川沿岸を除く三方は山地のみで山林に蔽はるるも旭川の一支流中央を西流して本流に注ぐ。二川の沿岸は平坦肥沃にて農耕行はる。米・粟・粟・薄荷及び酒類・木炭を産し産量また盛んなり。省線中國鐵道は河岸に沿ひて町内を西南に貫通し福渡戸を置く。縣道二線は本支流河岸にほぼ並行し、登山に便す。大正十一年町制を布く。古くは和名抄、久米郡引削郷に屬せるものか。(志呂神社)大字下神目に鎮座。神社。祭神、事代主神。和銅六年に中山神社と同時に鎮座すといふ。社領七十石を有せしが宇喜多家この地を領するに到りて廢絶す。例祭、十月二十日。

フクワラ 福原村

山形縣羽前國北村山郡の北端。尾花津町と大石町との間に接し、北は最上郡に接す。面積七四・四三方軒。東北端には熊ノ越ッ山(八二八米)、北端に戸平山(五八二米)聳え、東端と北端には山地連りて西南方に傾斜

フケシ 鳳至郡

石川縣一市八郡の一。能登國の北部。能登半島の主要部を占め、東南に七尾灣を抱き、北と西は日本海に臨む。東北は珠洲郡に接し、南は鹿島・羽咋二郡に接す。面積八二五・一方軒、縣内第二の大郡なるも全部山縣にて人口少く密度は一〇七人にて縣下最小なり。鳳至山地は最高五〇〇米の丘陵地にてほぼ東西の走向を以て郡内に蟠居し、緩慢なる山脈を四方に伸し、北流する河原田川、西流する八ヶ川、東流する山田川等の小流に狭長なる谷平野により小山塊に分たす。海岸は岩石岬角に當り北陸海岸にて、東岸は西岸より流れ出入多し。沿海各町村は漁業に従事し、穴水・鶴川・宇出津は東岸の漁港、輪島は北岸の中心地なり。殊に北方海上船倉島・七ヶ島は輪島の海女が夏季出張し、鮎其他の産多し。山野は鳳至津・木炭を産し、首邑輪島は輪島嶺の名産地なり。谷平野には米作・養蚕行はるるも産額少く郡内の需要に充たす。省線七尾線は郡の中部を貫通し輪島町を終點とし、縣道は谷と峠により東海岸と北西海岸を結び、自動車道の便もあり。海上は七尾港より穴水・宇出津港へ定期船あり。郡内輪島・穴水・宇出津・門前の四町二十箇村を含む。續紀、養老二年に郡名初めて見ゆ。和名抄は不布志と註し、大海・高家・羽咋・岡本・邑知・郡知・荒木・神戸の八郷を置く。然るに日本後紀・延喜式には

フケシ 普賢寺村

京都府山城國綴喜郡の西南隅。田邊町の南に接し、東南部及び南部は相樂郡に接し、西は大阪府北河内郡及び奈良縣生駒郡に接す。稍東北より西南に長し。東西兩端には丘陵連りて西端に連互する山地は約四・五百米の高度を有し、東端の丘陵は一五〇米以下なり。西南隅に發する一河川は村の中央を貫きて東北流し二軒餘先に於て木津川に合す。沿岸に僅に低地を見る。米・麥の農産と林産を出しまた工業もあり。省線片町線の田邊驛へは北方約二軒、省線奈良線玉水驛へは東方約三軒の距離なり。此地は和名抄、綴喜郡綴喜郷の地なりといふ。中世は普賢寺莊といふ。大字多々羅の地は古へ筒城宮のありし處といふ。仁徳天皇の皇后聖之媛命、八田皇女の事により、三十年九月、紀國より此地に到り、倭人奴理能美の家に就き宮室を興して坐す、これ即ち筒城宮にして、天皇幸して召すも皇后遂に參見せず。三十五年六月この宮に葬す。繼體天皇五年十月、此處に都を遷され、同十二年三月弟國に遷さる迄の皇居とせり。(朱智神社)大字天王に鎮座。祭祀、通通

フケシ 深日村

大阪府河内國泉南郡の西南部。和泉山脈の北部山麓に於て大阪灣に臨む。全村山地をなし南部に高く東南境に飯盛山、南境中央に學文字山あり。南方に發する大川は中央を貫きて北流し河口右岸に主部發達す。米産多く海岸は水産發達し、外に鹽産・畜産あり。また大阪灣沿岸工業地帯の南端を占めて綿工業を主とする工業地帯なり、孝子越街道は東方より來りて大川を渡り、その左岸に沿ひて南方へ延び和歌山市方面へ至る。社線南海鐵道東部を通過して深日驛(明治三十一年設置)あり。木村附近は要港地帯なり。續日本紀、天平神護元年の條に和泉國日根郡深日行宮とあるは此地にありしものか。(深日の浦)深日の濱、吹飯浦とも稱し、播磨の山々を見渡し風景頗るよく、古來歌枕の名所として知らる。また壽永三年阿波の阿摩六郷や紀伊の國部兵衛が此地に築を築きて立籠りし時、平教隆が水軍を率ゐてこれを破りし古戰場なり。萬葉・一二「時つ風吹飯の濱に出てあつづらふ命は妹が爲こそ」千載・一六「さよ千鳥ふけひの浦に替れて輪島が磯に月傾きぬ」藤原家基「(國玉神社) 大字深日に鎮座。祭祀、祭神、國魂命、別當命。延喜の制に官幣小社に列し、のち國內神名帳に正五位下と見ゆる古社。鎮座地は古來歌枕として著名なり。例祭、十月三日。

フケシ 富計鎮山

山形縣山形郡富田村(鹿兒島縣)の南部。野市町の東北にて赤岡町の北にあり。西は金剛山を始め高取約三〇〇米餘の山脈南北に連互して東に急斜し中部に至る。東は長平野の一部を占め耕地發達して農業を著す。米・麥・粟等の産、また國産も相當なり。山麓下を走る縣道は野市町と東部の西川村を繋ぎ、また香宗村に至る縣道は途中より南走し、何れもバスの便あり。また社線高知鐵道野市驛へは約四軒にて達す。藩政時代は野市郷の一部たり。幕末の勤王家森新太

フケシ 富家村

高知縣土佐國香美郡の南部。野市町の東北にて赤岡町の北にあり。西は金剛山を始め高取約三〇〇米餘の山脈南北に連互して東に急斜し中部に至る。東は長平野の一部を占め耕地發達して農業を著す。米・麥・粟等の産、また國産も相當なり。山麓下を走る縣道は野市町と東部の西川村を繋ぎ、また香宗村に至る縣道は途中より南走し、何れもバスの便あり。また社線高知鐵道野市驛へは約四軒にて達す。藩政時代は野市郷の一部たり。幕末の勤王家森新太

フケシ 普賢寺村

京都府山城國綴喜郡の西南隅。田邊町の南に接し、東南部及び南部は相樂郡に接し、西は大阪府北河内郡及び奈良縣生駒郡に接す。稍東北より西南に長し。東西兩端には丘陵連りて西端に連互する山地は約四・五百米の高度を有し、東端の丘陵は一五〇米以下なり。西南隅に發する一河川は村の中央を貫きて東北流し二軒餘先に於て木津川に合す。沿岸に僅に低地を見る。米・麥の農産と林産を出しまた工業もあり。省線片町線の田邊驛へは北方約二軒、省線奈良線玉水驛へは東方約三軒の距離なり。此地は和名抄、綴喜郡綴喜郷の地なりといふ。中世は普賢寺莊といふ。大字多々羅の地は古へ筒城宮のありし處といふ。仁徳天皇の皇后聖之媛命、八田皇女の事により、三十年九月、紀國より此地に到り、倭人奴理能美の家に就き宮室を興して坐す、これ即ち筒城宮にして、天皇幸して召すも皇后遂に參見せず。三十五年六月この宮に葬す。繼體天皇五年十月、此處に都を遷され、同十二年三月弟國に遷さる迄の皇居とせり。(朱智神社)大字天王に鎮座。祭祀、通通

フケシ 武甲山

埼玉縣秩父郡秩父大宮町の南方にある山。秩父古生層中に夾在せる石灰岩より成り、風化作用に對する抵抗が大にして礫として突出し、一三三六米の高さを有し、周囲の山地より三〇〇—四〇〇米高し。その北麓

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚北道金泉郡の西部。郡邑金泉面の西南約二〇軒を隔て、西は全羅北道茂朱郡茂豊面・雪川面に、西北は忠清北道永同郡上村面に界す。面積八二方軒餘。小白山脈に屬する三道峰の山地北西境上に連り、高度一〇〇—一三〇米を示し西内面に急急斜面をなす。甘川の支流鐵川は北部山地に發して東南に流れ、本支流の谷に沿ひて幅狭き低地ありて耕地拓く。農産には米・粟・大豆・棉花・荳蔻等、嶺産は大旺・昌永・龜浦・大貝等の嶺産ありて金・銀・銅・亞鉛等を産す。金泉・雪州間の一等道路は軍南嶺の知禮面を通過するも西内面の交通はなほ便ならず。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚北道金泉郡の西部。郡邑金泉面の西南約二〇軒を隔て、西は全羅北道茂朱郡茂豊面・雪川面に、西北は忠清北道永同郡上村面に界す。面積八二方軒餘。小白山脈に屬する三道峰の山地北西境上に連り、高度一〇〇—一三〇米を示し西内面に急急斜面をなす。甘川の支流鐵川は北部山地に發して東南に流れ、本支流の谷に沿ひて幅狭き低地ありて耕地拓く。農産には米・粟・大豆・棉花・荳蔻等、嶺産は大旺・昌永・龜浦・大貝等の嶺産ありて金・銀・銅・亞鉛等を産す。金泉・雪州間の一等道路は軍南嶺の知禮面を通過するも西内面の交通はなほ便ならず。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フケシ 釜ヶ谷

朝鮮慶尚南道昌寧郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北端上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地もある。東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東嶺の初洞面、西接の古谷面等と共に農業よく行はれ、米・粟・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フサ—フサン

フサ 布佐町 千葉縣下總國東葛飾郡の東部。利根川の西岸にて手賀沼との中間區域を占め、東は川を隔てて茨城縣北相馬郡布川町に、南は印旛郡大森町と隣す。中央部はやや丘陵地をなすも手賀沼と東部の利根川沿岸は低地にて米麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。小貝川は町の北境にて利根川に合す。縣道は中部を横走し、布川町・大森町等に通ず。省線成田線これに沿ひ布佐驛(明治廿四年設置)を置く。利根川は水運の便多し。此地は古く和名抄、相馬郡布佐郷の地とす。本町は郡の最東端に位し、平坦にして農耕地に富めども、印旛沼を始め大潮沼・手賀沼その他大小の池沼を抱擁し居るを以て、しばしば洪水の浸すところとなり、農作物の被害甚からざりしが、近年、耕地整理を行ひ被害軽減せり。鑄子方面より江戸表への鮮魚類陳揚地として相當盛を極めしが最近振はす。村内に氣象觀測所あり。(竹内神社)大字布佐に鎮座。郷社。祭神、天迦具主命。文政二年六月の鎮座にして、爾來この地の鎮守たり。例祭、九月十四日。

フサカミ 總上村 茨城縣下總國結城郡の北部。鬼怒川の東岸にあり、北は萬葉郡下妻町と隣す。全村平地にて農業行はれ、米・大麥・小麥を産す。下妻町と南方の石下町方面に縣道を通じ、常陸鐵道線これに沿ふも村内に驛なく、下妻

町に下妻驛を置く。古くは和名抄、豊田郡手向郷の内にして、毛野川の廢道に當る。
フサノ 總野村 千葉縣上總國夷隅郡の南部。勝浦町の北隣にあり。東は西條に二〇〇米前後の丘陵地連り、中央はその場合に夷隅川北流す、山地一帯森林ありて林産多し。川沿ひの狭き平地には農業行はれて米・麥・蕎麥を産し、養鶏も行はる。縣道は川沿ひに南走して勝浦町に通じバスの便あり。この地は中古に新戸郷と稱せし地にして、維新前は岩槻藩領と幕領及び数名の旗下の知行所に分れたりしが、いま十七大字を以て本村をなす。大字新戸には新戸驛址あり、里見義弘の臣の居りし所と云ふ。
フサモト 總元村 千葉縣上總國夷隅郡の中部。大多喜町の南隣にあり。東西兩端に共に一五〇米前後の丘陵地をなし中部の裾合を夷隅川蛇行しつづ北流す。山地一帶針葉樹林ありて林産多し。川沿の平地には農業行はれて米・麥を産し、養鶏も行はる。南方の勝浦町より大多喜町に通ずる縣道は川沿ひに北走しバスの便あり。葉落もこれに沿ひて發達す。省線本原線これに沿ひ、北部に東總元驛(昭和十二年設置)、南部に總元驛(昭和八年設置)を置く。この地は中古、伊保正に屬す。(貴船神社)大字堀ノ内に鎮座。郷社。祭神、高靈神。もと木船大明神とも云ひ近隣八箇村の總鎮守とす。例祭、

十月九日。

フサワ 布澤村 福島縣岩代國南會津郡の北部にて、田島町の西北約二八軒。北及び東は大沼郡に接す。面積五六・三九方軒。北境に白澤山(八六九米)、東境に鎌倉山(九五六米)、一ノ澤山(九六四米)、南境には布富山(九九八米)、鳥越山(九八〇米)、大曾根山(九五三米)、鷹塚山(七九八米)等々全村概ね山地をなし、田澤川は東境に發源して西流し、布澤川となりて西南に流れ伊南川に合す。沿岸に耕地やや拓く。米・蕎麥・木炭を産す。道路は北部をほぼ東西に通ずるも、交通便ならず。人口密度は一平方軒につき一三人なり。いま小栗村・八幡村と組合村をなし、役場を小栗村に置く。この地は天正十七年、伊達軍勢、横田城に攻寄せし際に通過せし所なり。

フサン 夫山面 朝鮮全羅南道長興郡のほぼ中央部。郡邑長興面の東北隣にて、耽津江の中流域に位し、面積約三二方軒。北部は龍頭山(五四五米)其他の山地、東南境には慶峰(四四一米)、西境には騎院山(二二一米)の山嶺あり、中部以南の中央部は平地にて、西隣の有治面より来る耽津江これを潤して南流し、田・畑よく拓く。米を主とし麥・棉花・大豆・苧麻等の農産を出す。長興・寶城間の二等道路は東南部を、長興・靈巖間の三等道路は西南部を通じ、前者にはバスの便ありて交通不便ならず。

フサン

斧山面 朝鮮平安南道大同郡の北部。平壤府の北方約一〇軒、これと西川面を隔て、北境西半は平原郡順安面と接す。面積約八五方軒。平南平野の一部にして、高さ一〇〇米内外の丘陵地をなすも概ね平坦にして、大同江に注ぐ合寧江は東南部を、普通江は北西部を潤し田・畑拓く。米・粟・豆・麥・棉等の農産あり。京城・平壤・義州間の京義街道は中部を南北に貫き、平壤・寧遠間の二等道路は合寧江に沿ひて東部をほぼ南北に走り、鐵道平元西部線はこれに並行し馬嵐・斐山店(二驛(昭和二年設置))を設け、また南は京義本線の西浦驛(西川面)北は同線の順安驛にも遠からざれば交通の便よろし。

釜山府 朝鮮第一の港市。朝鮮半島南岸の東部に位し、西・北・東には慶尙北道東萊郡の沙上・沙下・龜浦・東萊・南の諸面邑を繞らし、東南は朝鮮海峽に面す。沿岸には東部に赤崎半島、西部には岩南半島の突端の富島末突出して其間に釜山灣を形成し、灣口中央に龍影島(牧ノ島)西北より東南に長く横ばり灣を東西の兩港に分つ。市域は東西一〇軒餘、南北一六軒餘にして面積八四方軒餘あり。天馬・峨岬・九徳・高遠見・仙岩・白楊等の諸山西北境を南北に連り、一脈は釜山灣の西方水晶山となる。水晶山の北方、仙岩山との間は西境聖知谷に發し釜山灣の東にて海に入る

東川(豊満川)の流域にて土地平坦、耕地廣し。釜山灣の東方には峰五山・天子洞・龍洞の諸山ありて東南に延びて釜山灣の東口を扼する赤崎半島となる。河流の主なるものは東川の外に高遠見山の東谷に發し東流して釜山灣に注ぐ釜山川と、その南側に出で南流して釜山灣西口に入る寶永川あり。龍影島は周回約二三軒面積約一二方軒、ほぼ中央部に古福山(牧島山)屹立するも西北山麓は工場地帯をなし對岸の南濱と橋梁によりて連絡す。市街の主要部は高遠見山より東南方に延びし一脈の先端部に當る四屏山・伏兵山・龍頭山等の丘陵を繞りて發達し、東港に面する東岸の埠頭區、龍頭山を繞る官衙商業區・工業區・住宅區等に分かれ、街衢井然、その建物も純然たる内地風を示す。南部の西港西岸の富民町、埠頭區の北方に續く草堂町・水晶町・佐川町等は鮮人町なり。釜山の開港は明治九年にて始めは何等の港灣施設を有せざりしが、明治三十九年以降五箇年に亘る韓國政府の釜山海關工事、同四十二年の居留民團の釜山警平工事、同四十四年以來大正八年に至る釜山築港第一期工事、更に同八年より昭和二年に亘る第二期築港工事等を經て、第一・第二の大棧橋を始め港内の浚渫、防波堤の築造、倉庫及び上屋の建築等完成し、二萬噸級巨船の繫留可能となり、この間に鐵道京釜・京義兩本線等の竣工と相俟ち、内地と朝鮮は勿論、

フサン—フシ

滿洲・支那・歐亞大陸を結ぶ交通上の要津となり、一二三哩を隔つる下關とは朝夕二回、一四哩を隔る博多(福岡)とは毎日一回の鐵道連絡船の發着あり、また下關・門司・神戸・大阪・敦賀・浦鹽をはじめ沿岸各港に定期汽船の往來するありて交通に至便となり、これと共に貿易額も年々増進して昭和十年の輸移出入は三、四〇七萬圓、輸入は二、三、八二六萬圓、輸出は三、七、二三三萬圓の巨額に達す。これを開港當初の明治十年の四六萬に比すれば實に八百倍以上の増加なり。輸移出品は精米(三、二〇〇萬圓)を筆頭に、玄米・生絲・樟腦・生牛・大豆・林檎・煮乾豆・明太魚卵を主要なるものとし、輸移出品には機械(九八一萬圓)・綿織物・洋服・肌衣・鞋靴・雜織物・綿織物・洋油・ゴム・地下足袋・自動車並に同部分品等を擧ぐべし。府はまた近時工業勃興し、精穀・綿布製・ゴム製品・綿絲綢・煉糖・電球・珠瑤磁器・陶器・造船・水産製造品等を始め製産總額四六〇〇萬圓を算す。交通は海上には内地及び朝鮮沿岸の各港への定期航路ある外、陸上には京釜本線の釜山棧橋・釜山・草梁・釜山鎮の各驛(共に明治三十八年設置)あり、釜山鎮驛より東海南部線分岐す。釜山棧橋驛よりは大津・新京及び北京に各直通列車を發し、新京へは二〇六八〇軒、二七時間五分、北京へは二〇六八軒、三八時間四五分にて達す。市内電車

は釜山鎮を中心として西南と北に延び、北は温泉郷に及びバスの便たまよろし。官公署には慶尙南道廳・府廳・稅關・地方法院・鐵道事務所・水産試驗場・中華民國領事館・陸軍城本部出張所・同運輸部出張所・海陸檢疫所・移出入検査所・放送局等あり。名勝蹟類には龍頭山・大正公園・松島・下嶺・釜山鎮城址(子城臺)・龍影山日本城址・古館・津江兵庫招魂碑・龍影島等を數ふ。釜山地方は上古我國に服屬せし任那國の一部なる駕洛國の地なり。後花園天皇の嘉吉三年、對馬との間に修交の約成りて開きし三浦の一(蔚山郡龍浦、熊川郡齊浦)なる東萊郡富山浦に即ち今の釜山なり、其後、永正七年の三浦の亂、文祿・慶長の豊公の朝鮮の役等のため修好の斷絶せる事ありしが慶長十四年に徳川氏にまた舊交を復し、對馬の國守宗氏をして通商を掌らしめたり。明治九年日韓修交條約成立するや管理官廳を置き、同十三年領事館と改む。同三十九年京城に統監府設かるや理事廳となし、同四十二年日韓併合と共に釜山府と定め府廳を設く。大正十四年慶尙北道龍津州より府内に移され、爾來本道の政治經濟の中心となり、この間の鐵道開通、港灣施設の完備すると共に、東亞の關門、國際交通の要衝として、また半島の大貿易港として今日の盛況を呈するに至る。(龍頭山)市街の中央にありて公園たり。全山綠樹に蔽はれ、晴朝の

日は遠く對馬の島影を望むべく、近くは商船漁船の去來する釜山灣を瞰下して龍影島の翠巒に對し眺覽絶佳なり。山頂には市民の氏神たる國幣小龍頭山神社、縣社龍尾山神社あり。(松島)市の西南部に岩南半島の東岸の一部をなす。波濤が白砂連り、その中間にある一小半島には老松鬱蒼たり、府營の海水浴場あり。(釜山鎮城址)釜山鎮の海岸に近し。文祿の役に小西行長これを陥れ、次で毛利輝元ここに丸山城を築き日本軍の根據地となす。後人これを子城臺と呼ぶ。(龍影山日本城址)釜山鎮の背面にて雄臺山脈に連り、釜山鎮城と相對する處に僅に其廢墟を存す。(津江兵庫招魂碑)津江兵庫は宗氏の家臣なり。當時、倭館は古館の地にありて遠淺にて船舶の碇繋に便ならず、兵庫は主命をうけて移館の事を東萊府使と議せしも府使應ぜず。兵庫主命を辱かしたる事を恐る非常の決意を以て折衝甚だ努め遂に之を應諾せしめたり。釜山の今日あるは兵庫當年の功によるものなり、のち居留民深くこれを徳とし碑を古館公園に丘上に建つ。

フサンホ 富山浦・釜山浦 ↓釜山府

フジ 不二 ↓茂別村(北海道上磯郡) 【不二】愛知縣春日井郡にありし村。明治三十九年に外二村と共に廢され高藏寺村を置く。

フジ 富士

【富士火山帯】 富士山を盟主とし、本州中部を横断して南方海中に散在する諸火山帯を包括する火山帯なり。謂ゆるフ...

火山帯あり、伊豆半島の中央には、天城山(一四〇五米)發達し、その山麓には...

ども、恐らくは蝦夷語なるべし。アイヌ語の權威パチエラ氏に從へば、フジは...

白雲も、いゆき降り、時しくそ、雪は降りける。語り継ぎ、言ひ繼ぎ行かむ。不...

面を形成し萬古の雪を凝す。火口壁の西側には一段の階段状の平坦面あり。その...

(一)二〇二米、西南方には二子山(八〇五米)等を主要なるものとす。この外に...

天主山脈の南方に生ぜし一階地帯の内、富士・愛鷹火山の噴出を見たり。...

黒緻密の熔岩なり。次に近時の噴出にか、かる塊状熔岩流は之を九尾といひ、山腹...

噴出以後、今日まで千餘年を経過せるを以て熔岩上には密林生ず。富士山は寶永以後既に二百餘年を経るも其間に何等大なる活動を認めず。ただ山頂成流ヶ岳の北麓荒巻といふ所に一噴氣孔を見るのみ。温度は攝氏八〇度位にて、鶏卵を半熱ならしむ。これ明かに富士山が活動の餘力を示すものなり。富士山の周囲には北側の吉田、南側の沼津を始めとして多數の觀測所或は測候所あり。雨量の最大箇所は南西側の約三三〇〇耗にして、北東側は遙に少くして約一五〇〇耗なり。頂上は八月一箇月に一〇〇〇耗以上に達す。これを要するに南西側に多雨にして東北側は少し。山頂八月の氣温は平均攝氏五・八度内外にて、最低は氷點前後なり。なほ山頂の沸騰點は攝氏七二度内外と稱せらるるを以て、米を炊ぐも半熟なるを免れず。山腹の降雨は地下に滲透して山麓に至り、清冽なる湧泉となる。湧泉の最も多きは南麓大宮町・吉原町及び東南の三島町近傍にて、大宮の淺間神社境内の湧玉の池最も著はる。また三島のもと李玉邸庭園内の湧水、忍野の湧水等は各々清冽の源を形成す。これ等の水は岳麓に多くの瀑布を懸く。西南の芝川に井ノ頭、四瀧、白糸村の普止・白糸の兩瀧、東南の黄瀬川に佐野の瀧、桂川谷に錦山瀧・田原瀧等を數ふ。富士の斜腹はこれを三部に分つ。最下は即ち富士の樹野にして、其上部はこれを木立と稱し

大約五合五勺の邊に集る。其の上は燒野といひ、植物の生育を見ざる所とす。富士の植物帯は凡そ六つの帯に分ち得。即ち最下部は草地、第二は潤葉樹林帯、第三は針葉樹林帯、第四は落葉松帯、第五はハンノキ・ヤナギ帯、第六は高山植物帯にて、之を要するに南方は潤葉樹林よく發達し、北方は針葉樹林繁盛なり。富士の登山は古くより陰曆六月朔日を山開とし、七月廿六日を以て終るを常とす。登山路として古來知らるるは、大宮口・御殿場口・須走口・吉田口なり。大宮口を表口とし、吉田口を裏口とす。東海道本線(今の御殿場線)の開通と共に御殿場口登山路設けられ、頂上を極むるに最短距離なるを以て自然登山客増加するに至り、須走口は砂走りを利用して下降する旅客の集る所となる。この外北西側の精進湖方面より小御岳に至る林道山梨縣の手にて開け甲府方面より左右口・古園・精進を経て青木ヶ原溶岩流の間を登降する者次第に多し。各登山口は草野と森林帯との境界に何れも胸返しあり、此處より頂上までを一弁に區分す。蓋し距離によりらずして登るに要する時間によりて定めしものなり。下表の大宮口は富士身延鐵道の大宮驛下車、淺間神社に發し、一合目は一〇八〇米、頂上は三六九七米、距離二〇・一九〇軒。御殿場口は一合目大宮口一三〇〇米、頂上三七一六米にて距離二〇・二九〇軒。須走口は一合目苛休

一六二〇米、距離一三・六三五軒。吉田口は一合目一五二五米、頂上まで距離一八・二三五軒。なほ御鉢廻りと稱して頂上噴火口壁を廻るもの、中道廻りと稱して二五〇〇米内外の中腹を一周する道あり、その距離約二〇軒内外にて多くの危険を伴ふ故に探勝者割合に少し。富士山麓を廻る交通機關としては省線御殿場線と東海道本線にして、東より南の方面に通じ、西より西には富士身延電車あり、北には富士山麓電車ありて何れも中央本線に接続す。其他裾野地方は富士山を廻りてバス各所に運行し、中にも御殿場・吉田・本栖間には省營バスを運轉し登山客の便にす。富士山麓に發達せる落葉として主なるものは西南に大宮町、東に御殿場町、北に吉田町あり、鼎足の形をなす。大宮は登山口として最も古く、官營大社淺間神社鎮座す。大宮より東南の吉原町にかけては清冽なる湧水多く、附近は芝川の水利により田畑よく開け、農業盛んなるのみならず、近年著しく紡績工業の發達を見る。彼の源頼朝の狩獵を行ひし狩場は山の西側の森林帯にして、其の宿所ありし所は大宮の北方の狩宿(富士郡白糸村)とす。東方の御殿場は御殿場口のある處、また山麓を北走する山中・吉田五湖方面の自動車路の一發着點なり。附近は廣闊なる茅原の樹野にて、ここに陸軍の練兵場・廠舎等あり。裾野峠を越えて北方の山中湖畔に出ればス

キー場ありて冬季の客多く、學校の寄宿舎等並ぶ。吉田附近は農業・林業を主業とする村落多く、吉田は裏登山口として賑ふ。吉田より西方の河口湖・西ノ湖・精進湖・本栖湖方面には養蠶を主業とする農家あり、此の方面は近時遊覽・ハイキング目的の人士集ふ。【富士箱根國立公園】静岡・山梨・神奈川の三縣に跨り面積約七一、六〇〇ヘクタール(約七二、二〇〇町歩)を占め、土地の所有別は大部分御料地・縣有地・公有地・私有地にして一部に社寺有地・國有地を含む。昭和十一年二月一日に國立公園に指定せらる。その區域は大別して富士・箱根の二園地とし、富士園地は雲峰富士を中心とす。裾野原野・富士五湖・寶永山・小富士などの個火山を含み、更に富士山を圍繞する好景地點たる三ツ峠・御殿山塊・パノラマ臺・天子ヶ岳・越前岳等を併せてその區域とす。區域内には富士の山體を繞りて廣大なる青木ヶ原樹海、忍野の外椋純林、諏訪ノ森の赤松林等の美林を展べ、更に森林の垂直的分布の標本たる大森林・胎内・水穴・樹型等熔岩流による生成物、高山植物、鳥類等自然科學研究上貴重なる資料極めて豊富にして國立公園としての價値を高めたり。箱根園地は謂ゆる箱根中央火口一帶の温泉郷にて神山・駒ヶ岳の中央火口丘を中心とし、火口原湖たる蘆ノ湖、之より流下する早川の流域、仙石原の草原、大

涌谷噴氣孔一帯を含み、外輪山に圍繞せらるる區域を以てその區域とす。區域内には箱根神社・箱根園地その他の興味深き史蹟・遺蹟多く諸所に多數の温泉湧出し宿泊その他の施設完備せり。以上の二園地を併せて本國立公園は京濱に近く交通至便にして帝都より日歸りの旅行可能なる本公園利用上の一大特色なりとす。公園區域内の交通も亦四通發達し、宿泊その他の觀光の施設も備はる。本公園は利用上登山・觀光・舟遊・釣魚・温泉浴・史蹟社寺巡禮・自然研究・スキー・スケート等各方面に適せり。【富士園地】富士山(標高三七六・三米)は我國の表徴として、古來崇仰せらるる名峰なり。最高峰剣ヶ峰その他の諸峰に分れ山頂に淺間神社奥宮・久須志神社あり。山頂の眺めは頗る闊達にして十三道に及上。中腹に一巡する道ありて御中道と稱す。御殿場口・太郎坊・吉田口馬返・五合目附近は冬季スキー可能なり。【淺間神社】官幣大社。大宮町にあり。木花咲耶麻を祭る。吉田・御殿場に縣社あり、兩社の奥宮は山頂に存置せらる。【富士山展望地點】富士山は八面玲瓏の雲峰にして、周圍各地より遠望殊に優れたる地點多し。(1)三ツ峠。森林・草原・岩壁に恵まれたる山。ハイキング・岩登りの好適地として知らる。富士の眺望佳なり。(2)御殿山塊。富士園地北縁の連山にて縱走路を富士見コースと稱す。(3)越前岳。

愛鷹山塊北端の山。富士南部の唯一の好展望地點。登山的興味多し。(4)パノラマ臺。精進湖の西南に位す。青木ヶ原樹海を前景とする雄大な展望地點。精進より徒歩又は乗馬にて容易に達することを得。以上のほか天子ヶ岳・紅葉臺・富士見臺等また好展望地點として名あり。(5)火口と側火口。大室山・長尾山・小富士・二ツ峯・寶永山等あり。之等の多くは山頂の西北方と東南方に散在し、中腹・裾野一帶の景観に變化を與ふ。【熔岩隧道】山麓に横たはる熔岩流中各種の熔岩隧道數多分布し探勝・地學研究上興味深きものあり。洞穴として著名なるものに雁ノ穴・人穴あり、また隧道内熔岩の各種形態を具へたるものにて古來修験場とせられしものに北口胎内・富士胎内あり。水穴と稱するは内部に水柱ありて夏は涼しく鐘乳洞の如き奇觀を呈するものにて、富士風穴・高岳風穴・鳴澤水穴等これなり。樹型は森林内を流れし熔岩に樹木の形の殘されしものにて鳴澤附近に多し。【富士五湖】富士山東部より北部一帯に横たはる山中・河口・西の・精進・本栖の五湖を稱す。(1)山中湖。丘陵性の山に圍まれ、五湖中最も明瞭の感あり。湖畔にホテル・旅館・貸別荘・ゴルフ場等の施設あり、遊樂地として近年頗る著はる。舟遊・釣魚の設備あり、冬季はスケートに適す。(2)河口湖。三ツ峠・御殿山塊を背景とし鶴ノ島・數島の松等の名勝あり。湖畔に

旅館賣店多く舟遊・釣魚・スケートに適す。(3)西ノ湖。山間の静寂なる湖。根場部落の原始的景観、南縁の熔岩流等興味深きものあり。(4)精進湖。青木ヶ原溶岩流の北縁に當り湖岸線複雑にして、樹海を併せてたる富士の眺望に名あり。湖畔に旅館の設あり。パノラマ臺への登山口。(5)本栖湖。五湖中最深にして水色濃青・澄明な麗。鯉釣は西ノ湖と共に著はる。【白糸の瀧】富士を背景とし熔岩の隙より儀の如く懸る。附近に曾我兄弟仇討に縁ある菅止の瀧あり。【猪ノ頭瀧】冷水滾々と湧出し西部に於る富士湧水として知らる。附近に静岡縣立養魚場あり。【青木ヶ原樹海】北麓熔岩流上の天然美林。新緑・紅葉時は美觀なり。【忍野針葉純林】忍野部落附近にあり。鬱蒼たる純林をなす。【觀光・ハイキングコース】富士に到るには中央線大月驛より自動車又は富士山麓電氣にて吉田に到るもの、甲府驛より自動車にて御殿場に到るもの、東海道線富士驛より富士身延鐵道にて大宮に到り自動車にて本栖方面に達するもの、御殿場線御殿場驛より自動車にて龍坂峠を経て山中方面に達するもの四幹線あり。各入口は自動車路線に依り連絡せられ五湖廻遊も至便なり。五湖にはモーターボートの便ありて湖上風景を樂しむことを得。登山口として大宮・御殿場・須走・吉田・精進等あり、このうちにて吉田・馬返間、須走・馬返間、御殿場・太郎

坊間、御殿場・須山間、大宮・馬返間は自動車通す。また各登山口には何れも乗馬の便あり。以上登路中、大宮・吉田は登路に適し、御殿場・須走は「砂走り」長く降路に適す。七月一日に山開きあり八月末日に山を閉す。此間の登山者最多なるも近年冬季の登山も亦試みるもの漸次増加するに至れり。觀光コースとしては、(1)東京側大月驛吉田(以上省線・電車)→河口・西ノ湖・精進・本栖(以上自動車又は船)→猪ノ頭・白糸の瀧・大宮町(以上自動車)→富士驛(電車)。(2)東京側甲府(省線)→河口湖→吉田→山中・龍坂峠・御殿場(以上自動車)。(3)富士驛→大宮町(電車)。(4)五湖側御殿場(以上自動車)。以上は京濱より日歸り又は一泊二日にて足り、宿泊地點としては山中・精進・精進等とす。ハイキングコースとしては、(1)小沼驛→三ツ峠山→河口→船津→吉田、(2)鳴澤→青木ヶ原→天神峠→長尾平→精進湖、(3)八丁峠→黒岳→節刀ヶ岳→鬼ヶ岳→長濱又は玉岳を経て精進、(4)山中→大出山→大平山→石割山→三國峠→山中、(5)上井出→天子ヶ岳→上井出、(6)十里木→越前岳→岩淵驛、又は愛鷹山麓走→原驛、(7)須走→小富士→須走等。【箱根園地】一神山・駒ヶ岳と共に箱根火山の中央火口丘にして双童子山と共に秀麗なる山容を呈す。一外輪山・金時山・明神岳・鞍掛山等の丘陵性の山連なり、草原・笹地續き展望絶佳とす。一長尾峠→御殿場

方面よりの自動車幹線道路入口に當り富士園地との連絡地帯なり。乙女峠と共に富士園地として名あり。蘆ノ湖—湖積七方峠、最遠四三・五米、神山・駒ヶ岳の山麓に横ばり、湖畔は史蹟に富あり。塔ヶ島附近の蘆ノ湖に及びナツドリ

にて箱根町方面に到るもの、御殿場驛より自動車にて仙石原方面に到るものを数ふるを得。富士園地とは御殿場を中心として連絡す。其他、自動車網は全山に互りて通じ主要地帯間は何れも大型バス通す。蘆ノ湖にモーターボートあり、強

山—大涌谷—強羅、(4)姥子—湖尻峠—山伏峠—箱根町、(5)箱根町—鞍掛山—石垣山—早川(大開野)、(6)箱根町—十國峠—日金山—熱海、(7)箱根町—聖山(頼朝路)

Table with 4 columns: 湖名 (Lake Name), 高度 (Altitude), 面積 (Area), 湖岸最大深度 (Maximum Depth of Shoreline). Rows include 山中湖, 河口湖, 西ノ湖, 精進湖, 本栖湖.

となり、水位の高き時は島となる。西ノ湖と本栖湖とは山陰にありて富士の熔岩に埋没せざりしため深く、本栖湖は西

人工的排水によるものならん。(水色・透明度・水温)西ノ湖と本栖湖は藍色、他は緑色なり。本栖湖は濃藍色にてフ

づけたり。また夏は避暑地・キャンプ地、冬はスケート・狩猟行等。されど水位の昇降甚だしきため沿岸の耕地・住家に浸水し莫大なる被害を興ふ。

川までは感し。波木井川・戸栗川・富士川との合流部に於てやや発達し、身延町・

多く、正保年中に代官、古郡孫太夫は岩本聚落の西へ一番出し、雁金堤を築造せり。安政元年大地震にて破壊せられ田圃

産し、南部は海岸平野にして梨・蜜柑・桃等を産し、特に富士梨の産高し。また大宮附近は富士の熔岩流下の地下水豊富にして古くは和紙、現在津紙の産多し。大宮・富士根・豊岡・泉・原田・吉永・須津・富士・富士川の諸町村に盛んなり。この産額和紙千五百萬圓、西洋紙三千六百萬圓に達す。鐵道は郡の南部海岸に沿ひて東海道線通じ、また富士驛より甲府に通ずる私鐵富士身延鐵道あり。郡の南部に須津沼、中央に官幣大社富士淺間神社の本社あり、登山客多し。郡内に大宮・富士・豊岡・吉原の四町と十八箇村あり。延喜式に郡名見え、和名抄は浮志と訓じ島田・小坂・古家・蒲原・大井・久武・姫名・神戶の八郷を置く。

【富士町】静岡縣駿河國富士郡の西南部。富士川下流の右岸に位し、東に島田村・傳法村、北に豊岡町、西に岩松村あり。地は富士川の沖積平野にして東境に潤川あり、水産豊富にして製紙業盛に行はれまた富士梨の本場たり。東海道線は町城を東西に通じ、中央に富士驛(明治四十二年設置)を置く。富士身延鐵道は富士驛に發して甲府市に至る。本町は東海道より驛に至る細長き葉落にして大字に、十兵衛・柚木・上横割・松本・本市場・川原宿・中島・五味島・森島・稻荷島等あり。富士製紙の設置以來急速に發展し、交通の中心物資の集散地として商工業の樞要となる。富士遊園地・鶴芝碑・天白

地跡・北條氏政首塚・唐人橋・塔の松・三川・刀工義助井戸・芭蕉の句碑等あり。また梨病害蟲研究所あり。古くは和名抄、富士郡蒲原郷の内とす。もと加島村と稱せしが昭和四年富士町と改稱す。東鑑に駕鳥、甲陽軍鑑に梶間とあるは皆これとす。往古は富士川の支流その東を流るといひ、治承四年平家の軍ここに陣し富士沼の水禽の羽音に驚きて潰走せる處といふ。加島(米之宮淺間神社)大字本市場に鎮座。神社、淺間第八御子神・淺間第十八御子神。創立年代不詳。明治十年大宮の淺間神社の攝社に定めらる。當社を米宮といふは五穀を守護し給ふが故なりと。例祭、五月二日。

【富士山麓電氣鐵道】社線。省線中央本線大月驛より分岐し富士吉田驛(山梨縣南都留郡福地村)に至る。全長二三・六軒。軌間は一・〇六七米にして電車を運轉し、省線と連帶運輸をなす。大月方面よりの富士登山者はこの電鐵の終點驛富士吉田より登山し、約五時間にて達す。【富士身延鐵道】社線。静岡・山梨二縣に互る。東海道本線富士驛より分岐し省線中央本線甲府驛に至る。全長八八・一軒。軌間は一・〇六七米にして蒸氣及び電車を運轉し、省線と連帶運輸をなす。大宮町驛は富士の登山口として乗降客多く、身延驛(山梨縣西八代郡大河内村)の西約三・五軒に日蓮宗の總本山久遠寺あり。

り。昭和十三年十月一日以後鐵道省の借入線となり、驛名に若干の變更を加ふ。【藤井】新瀧縣北蒲原郡にありし村。明治三十九年に大字藤寄を聖徳村へ、その餘は島屋村・鳥崎村・榎山村等と合併して木崎村を建つ。

【藤井寺町】藤井寺(愛知縣碧海郡)府内國南河内郡の北部。古市町の西北に隣り、北は中河内郡に界す。全村地形低平にして大和川は北境を西流し、古市町にて石川より分流し来る河川が村の中央を西北に貫き大和川に合す。米・麥・藪のほか工業・畜産あり。縣道は四通八達し、中央を南北に貫くものは大坂市と古市町方面とを結び市街地は之に並びて發達し、之と交叉して西に長尾街道あり堺市に達し、東は奈良街道延びて王寺町・龍田町方面に至る。社線大阪鐵道は中部を横斷して藤井寺驛(大正十一年設置)あり。古への惠我の一部にして、仲哀天皇の惠我長野西御陵あり。また仁賢天皇の御陵もあり。もと長野といひしを明治二十九年藤井寺村と改め、大正四年藤井寺村及び小山村を廢しその地域を以て藤井寺町を建つ。(惠我長野西御陵)仲哀天皇の陵。大字岡にあり。周濠を圍らす前方後圓墳にて數箇の陪冢を有す。天皇は熊襲を討たんと爲に筑紫に幸し、九年(桓)日宮に崩御し給ひしが、秘して喪を發せず、

長門の豐浦宮に殯し、翌年二月大喪を發し梓宮を京師に奉還し、翌年(神功皇后攝政二年)此陵に葬り奉る。延喜諸陵式に兆城東西二町南北二町、陵戸一畑守戸四畑と定め、遠陵に班す。中世に所在を失ひ元祿以來幾多の説を生ぜしが、幕末修陵に際して現陵に御治定、慶應元年三月二十日修理竣工につきて巡檢使の發遣あり。殯斂地は山口縣下關市豐浦(もと豐浦郡長府町)なり。(墳生坂本陵)大字野中にあり。仁賢天皇の山陵。御陵形は周濠を有する前方後圓墳なり。御即位の十一年八月八日崩御あり、十月五日奉葬。陵は日本書紀・延喜諸陵式ともに墳生坂本陵とし、式の制、兆城東西二町、南北二町、守戸五畑とし、遠陵に班す。扶桑略記には高さ二丈、方二町と記す。中世は山陵の所在不明に歸し元祿以來、種々検討せられしが容易に決せず、河内志は黒山村下黒山の墓山に擬定す。前王廟陵記は、今葛井寺南陵歟といふのみ。歴代廟陵考・諸陵周垣成就記ともに「陵所不知相知、墳生坂本も不。相知候」といひ、容易に決定するに至らざりしが後、南河内胸ヶ谷金剛輪寺の僧覺半阿闍梨初めて今の陵所を推し、幕末修陵の際これに從ひて修治を加へ、その竣工巡檢使廣橋右衛門督を遣しその狀を看、奉幣せしめらる。(小山城址)室町時代の末期、元龜年中三好美岩の據りし所。天正元年信長の三好氏を攻むるに當り、澁川一益

を以て當城の押へとす。(城山古墳)大字津堂にあり。長さ約一七〇米の前方後圓墳。永祿年間に三好美岩入道康重の築城して、この墳上に本丸を置きし事あるを以て城山と稱せらる。明治四十五年後圓部の頂上を發掘して、堅穴式石室内より長さ約三米の組合せ式長持形大石棺を發見し、鏝・玉類・刀劍身類等の遺物を出し學界に知らる。(葛井寺)古義眞言宗。雲山三寶院開琳寺。仁和寺末。西國三十三所第五番札所。寺傳に神龜二年聖武天皇の御願により、僧行基の開創に係り、のち平城天皇の朝に阿保親王これを再興す。葛井寺の稱は、惟ふに此地もと百濟辰孫王の裔葛井氏舊居の地なりしにより、本寺また同氏の創建に係り氏寺なりしなるべし。のち兵火に罹りしが豊臣秀頼再建し、徳川氏累代寺領朱印若干を附す。御詠歌「まあるより頼みをかくる藤井寺花のうてなに紫の雲」「紫の雲のばやしを見わたせば法に標の花さきにけり」

の藤江の浦に鯉釣る白水郎とか見らむ旅行「吾を」とあるは此地なり。【藤江】愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年に外四村と共に廢し東浦村を置く。いま省線武豊線の藤江驛(昭和九年設置)あり。

【藤江村】廣島縣備後國沼隈郡の南部。松永川の東岸に位し、海水を隔てて松永町の東南と相對す。北は金江村、東は山南村、南は浦崎村に接す。面積四・二一方軒。東西に長き地形をなし、東半は山地に蔽はるるも西方に漸低し、西部海岸は平地に終る。海岸線は出入に乏しきも漁業發達せず。耕地は山麓に開け牧畜また附近に行はる。米・麥・藪・牛・馬・鯛・鮒及び酒類・鹽詰等を産す。松永町へバスの便あり。

【藤枝町】静岡縣駿河國志太郡の東南部。東に廣橋村、東南に西益津村、西南に吉島町、西北に稻葉村、東北に柴梨村あり。町域は瀬戸川の沖積平野にあり、同平野はもと沈降により海面下に没し、沖積層の堆積により平野となれるものなり。瀬戸川は町の西南町境を東南流す。町の西北部に米沈降の丘陵あり、また大字原の北方には高虎約百米の淺傾面發達す。鯉の養殖・蜜柑・茶・梨の栽培及び集散を行ひ、また甘藷切干を産す。交通は東海道五十三次の一として古くより驛亭として發達せしが、東海道

線藤枝驛は町の南方二軒に發達して、町勢を一時衰微せしめしが、社線藤相鐵道の開通及び自動車發達により、この不便は除かれ、益々發達の途上にあり。葉落は舊東海道に沿ひて街村型に發達し、西北側は丘陵に阻まれるを以て、藤相鐵道の各驛は西南側において西益津村地籍なり。志太公園・蓮華寺地・千歳松の勝地あり。古くは和名抄、益頭郡西刀郷の地なるべし。東海道の一宿驛にして、東鑑にも藤枝驛の名見ゆればその宿驛たるの古きを知るべし。譬ては郡の首邑にして郡役所の所在地たり。明治天皇明治元年東京行幸、同年京都御還幸、同二年東京御再幸、同一年北陸東海御還幸の御宿泊または御小休遊ばさる。丹波興作待夜の小室節、仕合よしの旅すご六里、七里八里も只一足に、先へ先へと疾き掛りたる藤枝、岡部、瀬戸の集飯、宇都の山邊の十圍子、藤葉毛・三上「はやくも鐘が西といふ所に至り、例のすきの道なれば、彌次郎兵衛取あへず、爰もとは鞍のおぶみがふちなれど、踏またがりてとほられもせず。それより平島日田中を打過ぎ藤枝の宿ちかくなりて。街道の松の木の間に見えたるは、これむらさきの藤またのしゆく。」(他渡神社)大字益津に鎮座。神社、祭神、少思古那命。式内他渡神社に即ち本社なりといふ。國內神名帳に正四位下と見ゆ。例祭、十月一日・二日・三日。(蓮生寺)眞宗大谷派。熊谷

山。建久年間に熊谷蓮生房の創建。蓮生房は關東下向の嗣、岡田山麓の富藏藤井夫妻これに歸依し、剃髮しその邸を以て寺となす。のちその子蓮因は親鸞の教化を蒙りてその門に入る。

【藤尾】宮城縣磐城國伊具郡の東部。西端は阿武隈川を隔てて角田町に接し、東は互理郡に接す。東境に四方山(二七四米)・深山(二八七米)等連りて西方に傾斜し、西部は角田盆地の一部をなして稍平坦なり。藪・米・麥・馬等を産す。道路は村の中部を西南より東北に通じ、東北方の常磐線吉田驛へは約八軒あり。又この道路より西へ分岐し角田町に至るものあり。此地は和名抄、伊具郡藤尾郷の内なるべく、村内に北小屋館あり、互理氏の居りし所なり。

【藤尾村】廣島縣備後國產品郡の東北端。府中町の東北約五軒の山中に位し、北は神石郡に接す。面積三〇・三五方軒。村内諸處に山岳聳立し、京ノ上山(六一一米)・天神山(三八八米)等時つ。平地無けれど、西南の山間窪地に小耕地あり。他は概ね山林に蔽はる。米・麥・木村、木炭・藪・酒類等を産すれど、いづれも産額大ならず。西南部に東城街道貫通して府中町に達し、東部村界を油木町(神石郡)・福山市へ通ずる縣道ありて自動車の便あり。この地は和名抄、葦田郡藤尾郷の内か。

【富士葛ヶ岳】福井市の北方約一八軒。石川縣江沼郡西谷村に時つ。標高九四二米。山體は火山岩より成り山姿富士に似、一に小富士といふ。山頂部には晩春なほ殘雪を賦く。

【葛江】播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に明石郡葛江郷あり、布知衣と訓す。その地今の同郡林崎村の邊なるべく、萬葉集・第三卷に「あらたへ

フジオカ

富士岡 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡仙石原村、北に御殿場町、西に原里村、須山村、富岡村、南に深良村あり。村域の東部は箱根外輪山の西斜面、西部は富士火山の熔岩流による緩斜面にして、村の中央を北より南流する黄瀬川、その支流久保川あり、兩河川間に段地をなす平地ありて、神山・中清水・矢場居・上新田等の聚落あり。交通は箱根街道南北に通じ、また舊東海道線たる御殿場線南に通過し、御殿場驛は北方約四軒あり、養蠶・米作・薪炭業盛なり、その他果樹園の開発を見る。村の西部に大野風穴・駒門の富士ノ風穴・伊豆塚等の火山熔岩に基因する天然の美景あり、また龜病院あり。大字神山は足柄路の驛跡の一なり。〔駒門風穴〕指定天然記念物。大字駒門にある熔岩隧道にて、また胎内潜ともいふ。入口上下四米弱・横九米餘、内部に一の岐點を有し、本穴は三三三米(或は云ふ三六三米)、支穴は一八八米にして各その底に達す。

フジオカ

藤岡 〔藤岡町〕 栃木縣下野國下都賀郡の西南隅。西は群馬縣邑樂郡・埼玉縣北埼玉郡の一部と隣る。渡良瀬川は東部を南流し町域の北部には赤坂沼ありて、それより南にかけて廣き濕地をなす。農業は米・麦・粟を産し、養蠶も盛なり。また織物製造・醸造等行はる。縣道は西部を縦走し、南接する茨城縣古河町に通ず。又、これと分れて邑樂郡館林町に通ずるものもあり。聚落はこの分岐點たる町の西北部に發達す。東武鐵道日光線は縣道に沿ひて北走し、藤岡驛(昭和四年設置)を置く。この地は鎌倉九代後記に、天正十二年、北條氏直が藤岡に出陣、昔川山城守を撃たんとて佐竹勢と對陣したる由見せれば、往時城寨のありしものか。明治廿九年に谷中村を廢し本町に編入す。〔篠山貝塚〕篠山部落の東端。赤坂沼に臨む臺地にあり。發見遺物は磁土器破片・鹿と猪の骨片・石鏡・凹石等。蛭・淺網などの淡水産貝類より成るも牡蠣・沙吹貝。さるばら・法螺貝などの鹹水産貝類を混ざるは、曾て石器時代に海水の附近に侵入せしことを證するものなり。

フジカ

藤岡 群馬縣上野國多野郡の東部。神流川の西岸にて、東は埼玉縣児玉郡の一部と相對す。全町平地にて西南部に庚申山(一八九米)あり。農業は米・麦を産し、また蠶を多く出す。其他、醬油の醸造、瓦の製造行はる。縣道發達し、その集合點たる中央部に聚落發達す。省線八高線は中央を北走し、群馬縣藤岡(昭和六年設置)を置く。此地は和名抄、藤野郡林原郷の内なるべく、もとは富士岡に作りしがのち藤岡と改む。天正十八年信濃國若田(いま北佐久郡)の城主若田右衛門尉幸正、藤岡城にありて、この地を治せしより城下町として發達す。舊郡役

所のありし所にて中等學校・高等女學校あり。〔藤岡城址〕字若田町の畑中におり。初め上杉定正の家人若田幸貫、ここに居りしが、上杉氏の没落後、武田氏に屬して遠江に移り、のち徳川氏に歸して天正十八年家康の關東入府に従ひ、幸貫の曾孫幸正は三萬石を以て舊領たる藤岡に安堵す。その間、藤岡城は武田氏に屬せしことあるも、北條氏の有となりしことあり。慶長五年故ありて若田氏の斷絶せらるると共に廢城となる。いま方二町の廢址を存し、臺上に老松點綴するのみ。〔諏訪神社の古墳〕本町の南端、字大戸町にあるも、社殿は古墳の上に築かる。此の古墳は西面せる前方後圓型にて、社殿はその前方部の上に西北に向ひて築まれ、多少の手を加へたるを以て舊態を損せる部分あり。其の封土の大き、高さ十五尺、長さ三十間足らずなるも、本来は更に大なりしものと思はれ、周圍よりは墳輪の破片多数出でしことあり。明治三十九年、工事の結果、石室を發掘するに至りしが、その口を南に開きて、羨道と石室とより成り、石室の奥壁に添うて、一段と高く床設けらる。その上に人骨・銀環・赤鍔等配列せらる。此等遺物は總て帝國大學に寄附せられ、現に人類學教室に保存せらる。研究上價值あると共に此處に葬られし人が當時この地方に於て有力者たりしことを思はしむ。〔關孝和〕墓區にして和算圖流の祖とす。初め業を

フジカ

高原吉種に受け、長じて前人未發の術理を發見、著はすとこの算書數十卷に上り、世に算學と稱せらる。寛永五年歿す、年六十七。從四位を贈らる。(高山長五郎)養蠶家。養蠶飼育の一法を創始し、蠶具・養蠶に改良を加へ四隣を指導す。のち高山社を起しその法を傳ふ。明治十九年歿す、年五十七。贈從五位。

フジカ

〔藤岡村〕 愛知縣三河國西加茂郡の北部。岡崎市の北方二〇軒にして、北は岐阜縣に接す。本曾山地の南西に延ぶる所、花崗岩山地の中におりて、東境には矢作川南流し、中央部には白川西北より來りて大伏川に合流し、南西部には飯野川南流す。また南部には御舟川發源す。なほ西北境には三國山(七〇一米)あり、山地は割合平坦面をなす。中部には木瀬・飯野の二源泉ありて共に破黄泉なり。産業は農業を主として米・麥の産多く、諸川の流域に分布を見る。本地方は花崗岩の露出せる陶土を出し、陶器・瓦を産す。また硝子粉の特産あり。陶土の製造盛んにして多く移出せらる。なほ山間部なれば交通は概して便利ならず。尾三索道は瀬戸より尾三國境の猿投山脈を横斷し、藤岡・小原を経て旭村に至り、林産物・工業原料、其他百貨の輸送を計畫せしものにして、いま藤岡村まで一部開通せるのみ。本村は中世の高橋莊深見郷及び足助莊仁木郷の地にして、維新前は早稲藩・吉田藩・西尾藩の所領たり。明治三十九年

の西部にして花崗岩及び古生層の山地連なり。東南より西北に流るる川の谷には舊東海道通じ、松並木も淋しく往時の面影を殘し、街村をなす。米・麥・蠶を産し、また織物を出す。東海道に沿うて社線名古屋鐵道走り、藤岡驛(大正十五年設置)を置く。本村は和名抄の額田郡縣家郷の地とす。古くより東海道の宿驛にして、江戸時代に入りても宿驛置かれたり。藤岡城址は大字藤岡にありて、三河國二葉松に「藤岡村古城内藤岡次郎右衛門家長」と見ゆ。明治天皇、明治元年九月東京行幸の際、同年十二月京都還幸の際、同二年東京御再幸の際、同十一年北陸東海御巡幸の際、この地に御小休あらせらる。

の西部にして花崗岩及び古生層の山地連なり。東南より西北に流るる川の谷には舊東海道通じ、松並木も淋しく往時の面影を殘し、街村をなす。米・麥・蠶を産し、また織物を出す。東海道に沿うて社線名古屋鐵道走り、藤岡驛(大正十五年設置)を置く。本村は和名抄の額田郡縣家郷の地とす。古くより東海道の宿驛にして、江戸時代に入りても宿驛置かれたり。藤岡城址は大字藤岡にありて、三河國二葉松に「藤岡村古城内藤岡次郎右衛門家長」と見ゆ。明治天皇、明治元年九月東京行幸の際、同年十二月京都還幸の際、同二年東京御再幸の際、同十一年北陸東海御巡幸の際、この地に御小休あらせらる。

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

高原吉種に受け、長じて前人未發の術理を發見、著はすとこの算書數十卷に上り、世に算學と稱せらる。寛永五年歿す、年六十七。從四位を贈らる。(高山長五郎)養蠶家。養蠶飼育の一法を創始し、蠶具・養蠶に改良を加へ四隣を指導す。のち高山社を起しその法を傳ふ。明治十九年歿す、年五十七。贈從五位。

フジカ

〔藤岡村〕 愛知縣三河國西加茂郡の北部。岡崎市の北方二〇軒にして、北は岐阜縣に接す。本曾山地の南西に延ぶる所、花崗岩山地の中におりて、東境には矢作川南流し、中央部には白川西北より來りて大伏川に合流し、南西部には飯野川南流す。また南部には御舟川發源す。なほ西北境には三國山(七〇一米)あり、山地は割合平坦面をなす。中部には木瀬・飯野の二源泉ありて共に破黄泉なり。産業は農業を主として米・麥の産多く、諸川の流域に分布を見る。本地方は花崗岩の露出せる陶土を出し、陶器・瓦を産す。また硝子粉の特産あり。陶土の製造盛んにして多く移出せらる。なほ山間部なれば交通は概して便利ならず。尾三索道は瀬戸より尾三國境の猿投山脈を横斷し、藤岡・小原を経て旭村に至り、林産物・工業原料、其他百貨の輸送を計畫せしものにして、いま藤岡村まで一部開通せるのみ。本村は中世の高橋莊深見郷及び足助莊仁木郷の地にして、維新前は早稲藩・吉田藩・西尾藩の所領たり。明治三十九年

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

フジカ

〔藤岡村〕 山口縣周防國玖珂郡の東部。東南部は岩國町に接し、南は錦川を以て御庄村に對す。村内は山脈相連りて概れ山地を成し、錦川流域に多少の低地ありて耕地拓く。隨つて丘陵面を利用せる桑園多く養蠶業盛なり。また若干の水田ありて米を産し、特産として椀板あり。岩國町に於て國道山陽道より分岐せる縣道村の中部を東南より西北に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡縣家郷の内なりと。大正五年藤岡村を藤岡村・新庄

で之が領主たり。伏木港は富山灣の西南隅小矢部川の海に注ぐ所にして、明治三十五年小矢部川を河港として改修起工され、僅かに三十年の間に輝き躍進をなし、富山縣下唯一の良港のみならず、日本に於ける屈指の港にて今は第二種重要港灣たり。伏木港の開発が迅速せし理由は、前田家が軍事上伏木の良港なるを知らざるを恐れし爲と、徳川幕府の領國によりしものなり。然も同港が夙に外國と密貿易をなせしは、富山實業の基礎が密輸入外國製品のある事、富山縣内に多数の外國製品のある事によりて明なり。大字古府は國府の地なれば名づく。大字國府は國分寺のありし所。〔國府城〕勝興寺の地にありし古城址。木曾義仲、越後より兵を富城に進めし事あり、吉野時代は越中守斯波高経に屬し、戰國時代は上杉房部居りて國政を見たり。〔氣多神社〕大字一宮に鎮座。縣社。祭神、大己貴命・奴奈加波比賣命。養老二年越中國を割きて能登國を置かれし時の鎮祭にして勅して越中一ノ宮と定めらるるといふ。神龜二年、天皇勅願聖廟を賜ひ、近衛九儀村の神領を寄せ給ふ。式内名神大社。大伴家持の崇敬格別なるものありといひ當時は社頭盛大なりしが、のち屢次兵火に罹りて衰頹、正保二年に至りて領主前田利常の崇敬厚くその新廟所となる。例祭、四月十八日。〔勝興寺〕大字古國府にあり。眞宗本願寺派。雲龍山。寺傳に

フシキ

親賢の弟子善賢居士念(順徳天皇第三皇子彦成親王)の開創と傳ふ。のち衰頹せしかば、蓮如は北國下向の礎に建立せし土山御坊にこれを合併し蓮如の二男深業を以てこれを管せしむ。永正年中、實如より本寺同格寺法格外の印書を受く。當時寺領十萬餘石、寺運頗る隆盛なりき。永祿二年に顯如より本山六院家の一に加へらる。その後再度兵火に罹りしも再建せらる。豊臣秀吉・國守前田氏累代の歸依厚く寺領を寄せらる。

フシキ

藤木村 秋田縣羽後國仙北郡の南部。北は大曲町、東北は六郷町、西南は平鹿郡角間川町に隣接す。面積九・三二方軒。横手盆地の略ぼ中央部に於て、概ね平坦にして、雄物川は村の西部を北流し、厨川は東南方より來り之に合す。農業を以て村の主生業とし、米・大豆を産す。背中富・七面鳥の特産物もあり。羽州街道は村の西北部を斜斷し、北方の大曲町、東方の六郷町へパスの便あり。また中南部を東西に通ずる道路ありて、西方の角間川町、東方の奥羽本線飯詰驛へパス通ず。村内四十二箇の古蹟は昭和九年に史蹟保存假指定となる。

フシキ

伏黒村 福島縣岩代國伊達郡の西部。東は保原町に、西北は桑折町に、西南は信夫郡に接す。福島盆地に屬し、西南部に丘陵ある外概ね平坦にして、阿武隈川は西境と北境をなして東北に流る。米を産す。道路は村の中部

フシサ

富士里村 長野縣信濃國上水内郡の北部。長野市の北約二〇軒。村は飯綱山・雲仙山(一八七七一米)の火山の東北斜面に位置し概ね東に傾斜す。村の北部の黒嶽・妙高・赤倉の諸火山と共に近時冬季スキー場として開發せらる。高田市は北方約四〇軒にあり。南方約一〇軒の豊野との間に南北に殆ど直線的なる狹隘を作り、一地溝線たる事を思はしむ。村は即ち北信と北陸の兩地方を通ずる北國街道と信越本線がかり、信濃川支流の鳥居川は戸隠山(一九一〇米)と飯綱山の間に發し、村の北境を流れ東北隅より南流して信濃川に注す。米・麥のほか養蠶も行はれ林業も發達す。

フシサ

藤里村 岩手縣陸中國江刺郡の西南部。水澤町の東北約一〇軒。西端は岩谷堂町に接す。北上山地の西斜面に屬し、東境には長倉山(三九二米)・鏡子山(三六五米)をはじめ山地連りて西方に傾斜し、全村丘陵起伏して、伊手川は東方より來り、南境より支流を合して西北に流れ村の西北部に於て東方より一支流を合し、西南方に流る。農業を主なる生業となし、米・大豆・小麥・大豆等を産し、又製炭行はる。道路は村の中部を東西に通じ西方の岩谷堂町へ約五軒、パスの便あり。

フシキ

伏古 北海道十勝支庁河西郡にありし村。大正四年に廢され、帯廣町(のち市制を布く)・芽室村へ編入。

フシキ

藤原村 秋田縣羽後國山本郡の東北部。二ツ井町の北方約九軒。東は北秋田郡、北は青森縣に接す。面積一四一・二二方軒。西北境に冷水嶺(一〇四三米)聳え、それより南方に駒ヶ嶺(一一五八米)・茂谷山(四五〇米)等の山嶺連りて西境をなし、その東に三蓋山(九五二米)・物見山(八五三米)聳え、東境は釣瓶嶺より南方に支脈延びて高假戸山(五四一米)・萩ノ方山(四六六米)聳ゆ。藤原川は北境に發源し、村の中部を南流し沿岸に積耕地拓く。米・馬鈴薯・木炭・木材等を産す。また村内には金銀銅鉛亜鉛酸化鐵などの諸礦産物あり。黒石嶺山・大良嶺山あり。前者の礦種は金銀銅鉛亜鉛、後者は銀銅鉛亜鉛とす。後者は米代川の一支なる藤原川の上流に沿ひ、古く文永年間開採せらるると傳ふれども、いまは採掘せず。道路は村の中部を南北に通じ、南方の奥羽本線二ツ井驛へ約九軒あり。また秋田縣管林署敷設

フシサ

による軌道あり。人口密度は一方軒につき三人なり。本村は桓武天皇の御宇に建設せられたる村なりといふ。當時、黒鷲丸といふ者、村内館ノ傍に居して近郷に威を振ひしも、坂上田村麿東征の際亡ぶ。時に琴あり、彈するに天下無類の名琴なり。故に將軍これを名付けて「不二琴」と稱せしが、のち村名となり、さらに藤原に轉ずといふ。村内に大澤瀧之瀑布(高三一米、幅二米)・小比内西大瀑布(高二一米、幅四米)・一の坂瀑布(高一六米、幅二米)・十六貫瀑布(高二二米、幅二米)・瀧之澤瀑布(高一六米、幅四米)・湯の澤瀑布(高一九米、幅四米)あり。

フシサ

藤坂村 青森縣陸奥國上北郡の南部。三本木町の東と南に接す。村は南部の奥入瀬川沿岸地帯と北部の丘陵地帯とに分たれ、南北兩地帯は細き紐狀の廊下地帯によりて連繫せらる。南部地帯の北と南は山地をなし、奥入瀬川はその中部を東流し沿岸に水田拓く。北部地帯は三本木町の東北部にありて臺地狀をなす。米・麥・大豆等を産し、また紅麴を産す。陸羽街道は東南部をほぼ南北に通じ、北方の三本木町へ約四軒、パスの便あり。北部には社線十和田鐵道通じ高清水驛(大正十一年設置)を置く。もと相折村と稱せしが、明治二十二年藤坂村と改む。大字藤島は舊奥州街道の藤島宿のありし所。明治天皇、明治九年秋羽御巡幸の際、及び明治十四年山形・秋

フシサ

田及び北海道行幸の際、此の地に御小休あらせらる。

フシサ

藤崎町 青森縣陸奥國南津輕郡の西部。弘前市の東北方約六軒。西・西南は岩木川・淺瀬石川を隔てて中津輕郡に臨む。面積九・二五方軒。津輕平野の南部に位し全村概ね平坦なり。淺瀬石川の南境を西流し、岩木川に合す。岩木川は西境を北流す。町は農業を主生業とし、米を産す。又附近は苹果の好産地にして、この栽培に従事せる町民はその六、七割を占め、その産額多し。羽州街道は町の西南方より來りて東方に向ひ、又これより西北に分岐する道路あり。弘前市へ自動車の便あり。省線五能線藤崎驛(大正七年設置)を置く。また東南方の奥羽本線川部驛へは約二軒あり。大正十二年町制を布く。藤崎は一に藤先地方の古城址中、最大のものなり。安東氏は長體彦の一族にて、上古以來、東北婚居の豪族として知られ、安倍仲麻呂・安倍貞任もその一族に當り、貞任の二男高星は此の城主たりし事あり、高星五世の孫、安東太郎義勝は新田義貞に従ひ、その子貞季は北畠顯家に從ひて王事に盡力して、攝津安倍野に戦死す。安東の子孫藤崎城主たりしが、津輕爲信これを攻略し、天正十三年廢城となる。陸奥阿倍氏の族、この地に藤崎氏を稱せり。〔鹿島神社〕大字藤崎に鎮座。祭神、武

フシサ

フシサ

フシサ

フシサ

海村とに跨る一金銀山が昭和十年に事業を開始せるほか見るべきものなし。大正十五年に町制を布く。この地は坂上田村麻呂が蝦夷を討討し信濃・上野の民を移住せしめたるに始り、其後、藤原清衡・其衡・秀衡の三代の治に歸せしが、文治五年、泰衡が源頼朝のために敗亡せしより葛西清重の領となり、その一族、岩淵氏の領地となる。岩淵氏は天正十八年、豊臣氏のために破られ、その後伊達政宗の領する所となり、伊達氏の臣、大町源十郎、のちに新田宗三郎の領となり、元禄二年に奥山氏の領地となりて明治維新に至る。

【藤澤村】茨城県常陸国新治郡の西南部。土浦町の北隣にて櫻川に沿ふ。大部分は臺地にて畑地をなし、南境を東南に流る櫻川の流域は平地にて水田多し。農業を主とし米を産し、養蠶も行はる。縣道は土浦町に通じバスの便あり。社線筑波鐵道は南部を西北に走り、常陸藤澤驛(大正七年設置)を設く。昭和十三年に大字藤掛を土浦町に編入す。村に藤澤城址あり。天正元年、小田氏治は太田三樂のために追られ、小田城を出でてここに據る、のち小田を復し歸住す。同十三年に本城を修めて再びこれに居る。同十八年氏治逃れ去り本城も廢す。また藤原屋敷と稱するものあり。藤原藤房の富國配流の時の居所なりといふ。

抄に勢多郡藤澤郷あり、布知左波と訓す。いま勢多郡内ならんも詳ならず。【藤澤村】埼玉縣武藏國入間郡の南部。豊岡町の南隣にある小村なり。武藏野臺地の一部を占め、畑地多く、麥・茶・米を産し、養蠶行はれて繭の産多く、また織物の産もあり。豊岡町に縣道通じ、バスの便あり。社線武藏野鐵道は東部を北走し、武藏藤澤驛(大正十五年設置)を設く。【藤澤村】埼玉縣武藏國大里郡の中部。深谷町の南隣にあり。全村平地にて農業行はれ米・麥の産多く、養蠶盛にて繭の産額大なり。二條の縣道は深谷町に通じ自動車の便あり。同町に省線高崎線深谷驛(明治十六年設置)を設く。此地は和名人見原に屬す。大字人見は太平記に武藏國の住人、人見四郎入道、恩阿父子討死の事あり、これ此地に在名を稱せしものなるべし。康正元年の頃、此地に合戦ありし事は諸書に見ゆ。【藤澤村】神奈川縣相模國高座郡の東南隅。相模灣に臨み、東は鎌倉郡平瀬町と隣る。北半は丘陵地をなし、南半は平地にて畑地多く、甘藷・麥・蕎麥・馬鈴薯等を産す。海岸は單調なる砂濱をなす。東海道は中央を西走す、主なる落着はこれに沿ひて發達し、舊東海道宿驛なり。省線東海道線これに沿ひ、東部に藤澤驛(明治二十二年設置)、西部に辻堂驛(大

正五年設置)を置く。また社線小田原線行鐵道江ノ島線は東部を南走し、藤澤驛にて省線と交叉し、他に藤澤本町驛・本鶴沼驛・鶴沼海岸驛を設く。其他、鎌倉町との間に江ノ島電氣鐵道あり、海岸に沿ひて中郡大磯町に通ずる觀光道路もある。此地は和名抄、高座郡大庭郷・上甘郷に屬し、東海道の藤澤宿のありし所。明治四十一年、藤澤大坂町・鶴沼村及び明治村を廢し新に藤澤町を置く。舊郡役所のありし所に、いま警察署・稅務署・大藏省預金部資金局出張所・湖南中學校・商業學校・中學校・女學校等あり。附近はまた海水浴場として知らる。大字辻堂は享保年中に江戸幕府の砲術場を開きし所なり。大字鶴沼はグレイスマの轉訛。相模灣に面し江ノ島を望み風光明媚なり。別荘地海水浴場として著る。【藤澤町】明治天皇、明治元年に京都還幸の際、同二年東京御再幸の際、同六年箱根及び鎌倉行幸の際、同十一年北陸・東海御巡幸の際、同十四年相模妻田村行幸の際に、同二十四年近衛第二期小機勳演習天覽のために、此地に風華をとどめさせらる。大字大庭の地は中世に大庭御所あり。鎌倉權五郎景政の寄進に係り、子孫長く其下司職を奉じ、大庭を以て氏となす。よりに其領内を大庭庄とも稱せり。源頼朝を石橋山に破りし大庭景親、また頼朝に従ひし大庭景義は共に本村の人とす。同所に大庭城址あり。扇谷上杉氏の遺蹟に

して、北條早雲の小田原城を陥るや、この城も亦その攻略するところとなる。當流小栗判官・四ノ名のみ鬼王鬼次が、心は佛の道に入り、浮世の絆ざんざりの、髪も亂る藤澤や、御寺をさして急ぎける、折しも上人力者共に張興昇かせ御歸寺ある、兄弟門前に跪き、御剃刀を戴き候と發心の趣を一々残らず申し上る。丹波與作待夜の小室節・小田原外郎、大磯、平塚、藤澤のさばりもなしに雙六のさいさきも宜し、門出よし。箱根草。二下。おかしな事を聞ナア、おめへの顔は寔に眞赤だが夫が何様した。實情に赤い。エ、ひつツこい、一度言へば澤山だア。其處で型の泊りが藤澤で吾情の顔が赤いなら、一トつ地口ら。我顔の赤をもいつか奪はれん、型はゆかりの藤澤の宿(藤澤御方供養塔)指定史蹟。時宗總本山清淨光寺(遊行寺)境内にあり。方柱形の石塔婆にして中央やや上方は折損し基石の上に建つ。應永二十五年十月の建設なり。應永二十三年十月より翌二十四年に互る間、上杉輝秀の亂に戦死せる敵味方の人骨を供養せんがため建てたる銘あり。銘記ある塔婆として古きものに屬す。【大庭神社】大字大庭に鎮座。郷社。祭神、神産靈神。舊稱、天神社。式内小社に列し、當國十三座の一にして古來當村の鎮守たり。例祭、九月二十八日。【清淨光寺(遊行寺)】時宗大本山。藤澤山無量壽院と號し遊行念佛の根本道

場たり。開闢一途の諸國を遊行し念佛教化を行ひしに似ひ、歴代の宗主は廻國遊行をなす故に俗に遊行上人といひ、本寺をまた遊行寺と呼ぶ。延元三年足利尊氏は寺領六萬貫を寄せ且つ堂宇を修理す。後光嚴院より清淨光寺の勅額を賜はる。尊嚴法親王、本宗第十二世の法燈を襲ぎ給ふや、爾後當寺は南朝の門跡となり。朝親、親王格に準ぜらるるの例となる。爾後、足利氏を初め上杉氏・北條氏・武田氏等の歸依厚く、近世は徳川氏寺領百石の朱印を附し寺運大いに振ふ。寺寶中、後醍醐天皇御像(額本着色)一幅は國寶。【養命寺】曹洞宗。寺寶の樂師如來坐像(木造)一軀は鎌倉期の作と推せられ國寶たり。【永壽寺】大字藤澤にあり。眞宗本願寺派。風谷山祥瑞院。親覺上人は、北條時氏の請により一切經校合の際に本寺に宿すや、時氏歸依し一寺を草して聖人をこれに居らしむ。【藤澤村】長野縣信濃國上伊那郡の東北隅。高遠町の北方約七軒。諏訪盆地より伊那谷に至る權兵衛街道は村の中央を通過す。天龍川の支流なる藤澤川は村内に發し、高遠を過ぎ辰野町の南部にて本流に合す。村はこの藤澤川の峽谷を占むるものにして、三方は山に圍まれ僅に南方へ川に沿うて開け長藤村に出づ。東は三義村、西は鉢伏山(一四五五米)・守屋山(一六五〇米)聳え、東箕輪村と湖南村(諏訪郡)に接す。北方、杖突峠(一二四七米)

を越ゆれば諏訪盆地の宮川村に達す。權兵衛街道は一名杖突街道とも呼ばれ、中央線の宿野茅野を過ぎ甲州並に中信地方に連絡し、更に大門街道より上田・長野に通ずる舊街道にして極めて重要な街道たり。附近十六箇村は入の谷山中と云はれたり。林業を以て主業とする村は各部落毎に氏神に山神を祀る。近年は養蠶業普及し如は桑園化多く、山村度は次第に低められつつあり。谷底は僅に水田耕作可能なり。この地は東麓に黒河内と並び載せ、諏訪社領たり。また同書の建仁元年、越後城謀叛の際に、信濃住人、藤澤四郎清親とあるは此地の人なるべし。なほ徳川時代の高遠藩には木炭の産地として多く、越山村的色彩を持ち木炭がその主要なる年貢たり。【藤澤大坂】藤澤大坂。神奈川縣藤澤郡にありし町。明治四十年に鎌倉郡藤澤大高町を、同四十一年に明治村・鶴沼村を合併し、更に藤澤町を設く。【藤澤大富】藤澤大富。神奈川縣藤澤郡にありし町。明治四十年に鎌倉郡藤澤大高町を、同四十一年に明治村・鶴沼村を合併し、更に藤澤町を設く。【富士山麓電氣鐵道】富士山麓電氣鐵道。【藤島町】山形縣羽前國東田川郡の北部。鶴岡市の東北約七軒。庄内平野の東南部

に位し、土地概ね平坦にして、藤島川は西境を、東田川は略ぼ中部を各北流す。米の産多し。越後街道は北部を略ぼ東西に通じ、鶴岡市へはバスの便あり。羽黒本線藤島驛は隣接せる渡前村に置く。この地は和名抄、出羽郡大庭郷の内なるべく、羽黒山別宮土佐林氏の治せし地。本郡の首邑にして舊郡役所のありし所。いま鶴岡區裁判所出張所及び庄内農學校あり。明治天皇、明治十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。【藤島城】往古より土佐林氏を領し羽黒の別宮職を兼ねたりしが、この土佐林氏は土佐林氏を歴代し、羽黒山の別宮職を移め遂に土佐林氏を己が家区となす。莊内を上杉氏が領するに及び天正十八年に藤島城を修し、栗田刑部に之を守らしむ。廢城年代不詳。【藤島】福井縣吉田郡の九頭龍川南岸にありし莊名。いま東藤島・中藤島・西藤島の三村となる。延元三年閏七月、北國經營の任に當りし新田義貞は九頭龍川の北の河合城(吉田郡石森村の内)に陣し、越後よりの援兵を待ちて賊將足利高敏の軍を居らんとせり。時に高敏は白山麓の平泉寺の僧徒を誘ひ河南に足羽七城を構へてこれに備ふ。藤島城はその一城にて東端に位し、その位置は今の東藤島村の藤島なり。義貞乃ち兵を分ちて七隊としこれ等の七隊に配置せり。既に義貞は藤島の兵の動搖するを見て五十騎ばか

りを率ゐて赴き援はんとして燈明寺嶽を進む。途に賊兵三百と遭遇す。賊火を發するは如くなりしが、この時義貞の兵は櫓を有せず。將士身を以て義貞を庇ひしが、義貞の馬先づ傷つきて仆れ、ついで義貞もまた流矢に中り戦死せり。この地いま史蹟に指定さる。【藤代村】青森縣陸奥國津輕郡の東部。弘前市の北に隣り、東北は岩木川を隔てて南津輕郡に接す。津輕平野の西南部に位し、土地は概ね平坦。岩木川は西南方より來り、村の東境を北流し、その支流は西方より來り東北に流れて岩木川に合す。村民は農業を主生業として米・苹果を産す。道路は西南部を西北方に通じ、西北方の藤ヶ澤町と南方の弘前市へ定期バスの便あり。【革秀寺】曹洞宗。津輕山。慶長十三年領主津輕信敬、父信直の爲め草創し、格倉を開山とす。寺領百五十石を有し國內三箇寺の一に數へられ、寺門振ひ御堂莊嚴を極めしが、維新後衰頹し、明治三十九年、爲信三百年祭に當り再建して舊觀に復す。境内松杉參差たる間に爲信の靈廟あり。【藤代】常磐線の一驛(明治九年設置)。茨城県北相馬郡相馬町宮和田にあり。【藤田町】藤田。海南市。【藤田町】福島縣代國伊達郡の北部。桑折町の東北約三軒。北部は宮城縣に接

す。北境は海拔五七〇米にして南方に傾斜し、町の北半部は山地をなすも南半部は福島盆地に属して稍平坦なり。阿武隈川の支流南部を東南方に流る。米・蕎麦を産し、鹿田餅より糖紙出荷せらる。陸羽街道は南部を西南より東北に通じ、桑折町へバスあり。東北本線鹿田驛(明治廿三年設置)を置く。大正四年に鹿田村を鹿田町と改む。明治四年に鹿田村を御巡幸の際、同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、本町に御小休あらせらる。この地は舊奥州街道の鹿田宿にて、東鑑文治五年八月大木戸厚信山合戦の際に、九日の夜鹿田宿より鳥取越の街道を取りて進みし由見ゆ。鹿田驛の西の山に城址あり、往時より鹿田氏某代ここに居り、伊達家譜第の家臣たりしに、延寶六年、右兵衛宗景に至りて、罪ありて家亡ぶ。大字石母田は石母田氏發祥の地にして、天文年中、石母田安房守源光頼あり、伊達氏の十四代植宗に仕へ、子孫は仙臺藩の名家に數へられ、栗原郡高清水の邑主となる。(石母田供養石塔)本町石母田龍雲寺境内本堂の西側にあり。僧智政が亡親の供養碑にして柱形の碑なり。碑面の上部に大日の梵字あり、その下に元僧寧一山筆の銘文あり。

【鹿田村】埼玉縣武蔵國児玉郡の東北隅。利根川の南岸にて本庄町の東隣にあり。東より南は大里郡の一部と隣り、北は群馬縣佐波郡の一部と接す。全村平地にて米を産し、發達盛にて蕎麦の産多し。中山道は南部を西走し本庄町へバスの便あり。當村は中山道の往還にかり、村の中程より佐波・越後及び上野國沼田・駿橋邊への往來の分るる所に往昔は佛堂を建て往還の傍示となせしより、傍示堂の大字名起りしと。こは舊美郷郡と榛澤との郡界を表示せしものなり。【藤田村】武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄に榛澤郡藤田郷あり。その地今の大里郡藤澤村・寄居町の邊なるべし。【藤田村】和歌山縣紀伊國日高郡の西部。日高川の右岸に沿ひ御坊町の北に接す。村形は南北に細長し。北境に城ヶ峰(三〇九米)ありて北半は其斜面地をなす。南半は低平なる平野をなし東南の村境に沿ひて日高川西南流す。米・蕎麦を産し工業頗多し。特産には柑橘あり。南部は縣道四通八達し、御坊町へバスの便あり。省線紀勢西線は南部を横斷し、道成寺驛(昭和五年設置)を置く。【藤田村】岡山縣備前國兒島郡の東北隅。兒島灣の西岸に位し、興除村の東に隣接す。面積一五・一〇方町。もとは兒島灣の一部なりしも、河川の土砂に依る自然の埋立及び近年の干拓事業に依りて出現せる土地なり。土地は一般に低平肥沃に

して農業盛なり。米・蕎麦を産し、また蕎麦を特産物となす。妹尾町・興除村にバスの便あり。明治四十五年に兒島灣埋立地を以て本村を置く。村名はこの開拓事業が大阪の藤田組に依りて完成されしに因るものなり。【藤田村】省線伊田線の貨物驛(明治三十一年設置)。福岡縣直方市にあり。【フジタニ】藤谷 山口縣玖珂郡にありし村。明治三十七年に益前村と共に廢されその地を以て坂上村を建つ。【フジツ】藤津郡 佐賀縣肥前國の西南部。佐賀縣八郡の一。多良岳・經ヶ岳の北斜面より北に鹽田川沿岸を占め東は有明海に面し、西・南は長崎縣東彼杵郡・北高來郡に界す。南境中央に經ヶ岳(一〇七六米)・多良岳(九八三米)等聳え、中・南部一帯はその斜面をなし東麓は海岸に迫るも、東北麓は特に淺き放射谷によりて切られたる波狀傾斜をなして海岸に及ぶ。北境附近には小丘陵斷續し西北隅に虚空藏山(六〇八米)あり、中央には虚空藏山(二八八米)、東北部に杵島山(三四二米)・白岩山(三四一米)等あり。西北部の虚空藏山に發する鹽田川は北部を東流して有明海に注ぎ、河口附近南岸に稍廣き平野開け、中川東流して海に入る。海岸は比較的屈曲乏しく砂洲發達す。南端に一三〇米の丘陵海中に突出し其南に竹崎港あり。付内處々に温

泉の湧出する所あり、特に嬉野温泉は有名なり。北部平野は地味肥沃にて耕地よく發達し、良質なる肥前米のほか裏作には小麥・粟・粟・粟・馬鈴薯・甘藷・蔬菜・樺等作られ、南部の多良岳麓は産馬地帯なり。西北部に梨陶・茶の産地もあり。郡内は鹿島町・濱町・鹽田町・嬉野町の四町外九箇村を含み全人口六八、四六三人にして人口密度は平均二二二人なり。その中最も大なるものは鹿島町の一、〇七七人にして東北平野を占む。海岸に沿ひて縣道、省線長崎線通過し、西北部には長崎街道の走るあり。また鹽田川沿岸附近には東西に連る縣道ありて嬉野町・鹽田町・鹿島町を結ぶ。道路は自動車の便よし。成務天皇の朝に國造を置かれし葛津國が國郡制定の時郡となりしものなるべし。貞觀八年紀に郡名見ゆ。和名抄は布知豆と註し鹽田・能美の二郷を置く。【葛津(國)】國造本紀に成務天皇の朝、國造を置かれし國々の中に葛津立國あり。大名草彥命の子若彥命を以て國造に定め賜ふとあり。この葛津立といふは恐らく葛津の譯にて、立の字は削除すべきか。即ち葛津國は今の肥前國藤津郡の邊をこれに當つ。或は葛津立國は葛津等國の譯にて、葛津國の外に高來・彼杵等の地をも併せ管せし爲かく稱せしものならんといふも如何にや。【フジツタチ】葛津立(國) ↓葛津國

フジテタ 藤傳田

青森縣上北郡にありし村。明治二十二年に四和村と改稱す。

フジト 藤戸町

岡山縣備前國兒島郡の北部。倉敷市の西隣、都窪郡茶屋町の南に接し、東は倉敷川を以て興除村に界す。面積四・八三方町。地勢は概ね平坦なるも諸處に小丘の起伏を見る。倉敷川の本支流灌漑して耕地よく拓く。米・蕎麦・粟・粟等栽培せらる。社線下津井輕便鐵道の天城驛に近し。倉敷市へ縣道通す。大正十四年に町制を施行す。壽永・元暦の昔、源平二氏の戦へる藤戸古戰場は本町及び粒江村に亘り、いま史蹟に指定さる。元暦元年二月、平家一ノ谷に敗るるや讃岐屋島に據る。その一隊たる平行盛等は別に備前兒島に城きて據る。同年冬、源範頼の軍これを攻めんとす。然も藤戸ノ渡を渡る事を得ず。佐佐木盛綱は竊に土民に淺瀬を開き手兵六騎にて之を乘切り敵の不意を襲うて直に陥る。頼朝この報を得て激賞措かず。盛綱を與へ兒島の地を賜ふ。世にこれを藤戸渡戦といふ。盛綱が騎渡の功を收めし藤戸の渡はいま廣く田野と化せしが、糠木・經ヶ岳・先陣庵・笹無山・鞍掛岩等當時を偲ぶ地名を存す。(藤戸寺)大字藤戸にあり。古義眞言宗。御室末。僧行基の開創にして、往古は七堂伽藍完備せし名刹たりきといふも、今は寺運退轉す。

フジドミ 藤富村

熊本縣肥後國鹿野郡の南部。熊本市の西南境より南方約二軒たすにあり、面積三・一九方町。小村なり。全村地形低平にして田畑よく拓け米産多し。特産に七鳥産あり。東南方の川尻町に近く、こはこはバスの往來するあり。また省線鹿兒島線川尻驛は東方約〇・五軒を距つのみ。村名は明治二十二年に護國・會富の二村を合して本村を建つの際、各その一字を取りて名付けしものなり。

フジナミ 藤並村

和歌山縣紀伊國有田郡の西部。湯淺町の北に隣る。東南部には三百米程度の山地ありて一池沼その山中にあり。其他、中央と西北部にも稍丘陵あれども概して平坦地多し。有田川は北方約一軒を西に流れ西北境にて僅に村境に接して流る。米・蕎麦の農産及び工業・鹽産・畜産あり。特産物の柑橘は産額多し。西部には西方の箕島町方面と湯淺町とを結ぶ縣道あり。北部にて一道路これより分れて東方へ向ふ。省線紀勢西線は西部を走りて藤並驛(大正十五年設置)あり。之より社線有田鐵道東に走り田殿口驛・下津野驛(共に大正四年設置)あり。中世に藤並莊と云ひし處。【フジナミ】藤浪 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外四箇村と共に廢され佐織村を置く。【フジヌタ】藤伏 山梨縣東八代郡にありし村。明治三十六年に外四箇村

フジネ 藤根村

岩手縣陸中國和賀郡の中部。黒澤尻町の西北約八軒。北上平野に屬し土地概ね平坦なり。尻平川は北境を、和賀川は南境を各東流し、村はそれ等諸川による扇狀地をなす。西北部は森林・原野をなせども西南部には水田拓く。農を主なる生業となし、米・蕎麦・大豆・粟等を産し牧畜も行はる。和平街道は南部を東西に、祖畑街道は中部を西南より東北に通じ交通便なり。省線横濱線藤根驛(大正十年設置)を置く。本村は町村制施行の際、藤根・長沼・後藤の舊三箇村を合して成れるもの。

フシノ 棋野川

山口縣吉敷郡を流るる川。上流を仁保川といふ。仁保村の北部物見岳(七四六米)の東南麓に發源して西南流し、大内村の中部にて西流し、山口市の南部を過ぎりて西南流し、名田島村と嘉川村の境上を流れて海に入る。流域約三二軒、沿岸は概ね低平にして灌水に富み耕地よく拓け、下流は舟楫の便あり。【フシノ】藤野 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され櫻井村を置く。【藤野村】岡山縣備前國和氣郡の中部。和氣町の東に接し、北は日笠村、南は本莊・英保二村に接す。東西に細長き地形を有し、北部を四百米の小山脈東西に亘

村と共に合し黒駒村を置く。

フジハコネ 富士箱根國立公園

↓富士箱根國立公園

フジハシ 藤橋村

↑富士箱根國立公園

國持美濃郡の北部。大垣市の西北方約三二
軒。美濃山地の西北部にありて、古生層
より成り、北境には鏡山(一〇六八米)、
西北境には五蛇池山(一一四七米)、西境
には天狗山(一一四九米)等あり。掛斐川
は中央を流入曲流をなして南下し、途中
にて西より廣瀬川を合す。産粟は山間僻
地なれば盛ならず、茶・木炭・海苔を産
するのみ。交通不便にして掛斐川の谷が
徳山村方面に至る唯一の交通路となる。
本村はもと岐邊庄の一部にして東横山・
西横山・鶴見より成り、久瀬村に屬せし
事もありき。東横山は明治八年に大野郡
杉原の枝郷鬼塚を合せたり。大正十一
年に久瀬村を廢し大字東横山・西横山・
東杉原・鶴見の區域を以て本村を置く。
村内に木曾川水系の掛斐川を利用せる横
山發電所(最大出力二、〇〇〇キロワッ
ト)あり。

フジバシ 富二橋

和歌山縣西牟婁
郡にありし村。大正十三年に市本町へ編
入す。

フシハラ 節原

福岡縣三井郡にありし村。大正十二年久留米市に編入す。

フジマツ 富士松村

愛知縣三河國碧海郡の西北端。岡崎市の西北方約一五軒。北は西加茂郡三好村に、東は高岡村

一九九通を出す。本村には東西に中山道通

じ東御駕宿よりこの伏見宿を経て太田の渡にて木曾川を渡り太田宿に通ず。社線東美濃道通じて前渡(昭和三年設置)・東伏見(昭和五年設置)の二驛を置き、交通は便利なり。村内には前方後圓の塚、原住民居住の形跡多し。和名抄の可兒郡に在り、元禄七年以前は土田郡に属し、土田郡に在り、上里土は在戸上郷と稱せらる。伏見は中井戸莊とも云はれ、中山道の宿場なり。元禄七年以前は土田郡に在り、この年、伏見宿に助郷一萬四百八十石餘を轉屬せしむ。慶安四年の人口四百六十七人、馬四十三と見ゆ。西の方太田宿より二里、御駕宿へ一里の馬繼たり。

フシニ 伏見

【伏見町】 岐阜縣美濃國可兒郡の西北部。岐阜市の東方二八軒。北は養山町に、東は御駕宿に、南は廣見町に、西は今渡町に接す。木曾川は北境を流れ、南境に可兒川流れ、この兩川に挟まれたるは東に西に細長き村なり。北部に古生層山地連互し、八王寺山(二九〇米)あり。南半は可兒川の洪積地とす。可兒川の流域には米作行はれ、中部の低丘陵地帯には桑畑多く、山麓には葡萄・西瓜が作られ、竹細工の産もあり。また村内に二萬千餘坪の牧場を有する安樂嶺山あり。昭和十年に事業を開始せしが、同年には遊藝三

【伏見】 京都府(二一九六頁)

【伏見】 攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に西成郡伏見郷あり、布之美と訓す。大坂市西成區の邊か。

【伏見町】 大阪の町名。いま東區。高麗橋筋と道修町の間を、東横堀川より西へ通ざる町、一丁目より五丁目に至る。四月の潤色・土・根を掘る竹の伏見町、高麗橋の西東、林も定めぬ立君は、これも世渡る習ひとて、浮世小路の細き聲。

【伏見堀】 大阪の川名。江戸堀と河渡堀との中間にあり、西横堀川と百軒堀とを通す。今は西區京町堀と稱す。色里三所世帯、大坂巻、是は中の島の二度咲の花標、それは横堀の寺がし標、又は

天満の月夜鳥標、さては上町の焼枕標、

伏見堀の取付標、標筋の出尻標、今宮心中・上・上村吉備(伏見堀ちやとおしやる。義理ぼの。舟板町の舟板の末には沖に乗出し、帆を十分の印とて、今から人や焦るといふ事云々)。

【伏見村】 奈良縣大和國生駒郡の東北部。

奈良市の西方一軒餘。西半は盆地狀の丘陵にして山中に一湖水あり。東半は奈良盆地の北部を占めて地形低平なり。米産多く、養・繭の産もあり。南部には東西に走る道路ありて奈良市へ自動車を通じ北部には社線奈良電氣軌道横断して西大寺驛(昭和三年設置)あり。東北部にて之と交叉して社線大坂電氣軌道走り萬福池・大軌西大寺の二驛を置く。古へ菅原と云ひし地にして、いま大字に菅原の名を存す。元享釋書に、此地に臥身の翁あり、三年起きず又言はず、行基が靈門僧菩提を以て菅原寺に歸りし時、三人歌ふこと甚し、その賦せる所を臥身と云ふとあれども信すべからず。(菅原伏見東陵)垂仁天皇の御陵。大字尼辻にあり。御陵は前方後圓墳にて松柏鬱蔥として廣き周溝を繞らしを以て里俗は蓬萊山と呼ぶ。即位の九十九年七月十四日崩御。十二月十日奉葬。古事記に菅原之御立野中ありといひ、後漢書に日本書紀は菅原伏見、東大寺靈藏書は菅原伏見野、菅原御傳記は菅原伏見山陵、菅原御立野陵、皇代記は菅原伏見野中陵に作る。續日本紀

に御見山陵とあるは御見山陵の誤記ならん。

延喜諸陵式に、安康天皇菅原伏見西陵に對して菅原伏見東陵とし、兆域東西二町、南北二町、陵戸二町、守戸三町とし遠陵に擬す。漆の東南の水中に陪塚一基あり、田道間守の墓と傳ふ。元禄檢討以來、その推定を誤る事なく墓末修築に際して大いに修治を加へ、その竣工に當りて慶應元年三月十六日廣橋右衛門督を遣はして奉幣せしめらる。(菅原伏見西陵)安康天皇の御陵。大字寶來にあり。即位の三年八月九日崩御。のち三年現陵に奉葬。古事記に菅原伏見同にありといひ、日本書紀は陵號を菅原伏見陵とし、續日本紀靈龜元年四月の條に伏見山陵とし守陵四戸を充つ。延喜諸陵式は垂仁天皇陵菅原伏見東陵に對して菅原伏見西陵とし、兆域東西二町、南北三町、守戸三町とし遠陵に擬す。中世に山陵の所在不明に歸し、元禄の檢討に兵庫山(現在垂仁天皇陵陪塚)を充て、歴帝陵またこれに從ふ。山陵志始めて現地を推し、其後ば皆これに從ふ。幕末修築に際して大に修治を加へ、その竣工に當りて慶應元年三月十六日、廣橋右衛門督を遣はして奉幣せしめらる。(萬福池遊園地)大軌萬福池驛によりて南北二間に分る。北園は上下合せて廣さ約三・三〇〇アールに達する二池を中心として、ウォーターシュート・餘興館・グラウンド・運動具・東洋民俗博物館・不動堂を置き、約三十種、三十

萬株の花菖蒲の外、櫻・藤・葛・萩等を植

う。南園は面積約三・三〇〇アール。多量に湧出する炭酸泉を利用して、大温泉場を設け、ここに種々の設備あり、民俗博物館は左右二館あり、左館は繪馬・扇・農具・民藝品・石器・土器・陶器・朝鮮・琉球・臺灣に關する土俗風俗品を、右館は古制札・古事記人形・土俗玩具・雜人形・支那・南洋・日本の面その他にて、陳列品は一萬點に及ぶ。(菅原神社)大字菅原に鎮座。祭神、天穗日命・野見宿禰・菅原道眞。菅原天神とも稱し土師宿禰の祖廟なり。景行天皇元年祭座し奉るところといふ。式内小社なり。例祭、陰曆九月九日。(八幡神社)大字西大寺に鎮座。村社。祭神、祭田別命。本殿は室町時代の造営に係り國寶。(喜光寺)大字菅原にあり。一に菅原寺ともいふ。養老五年、乙磨がその家を菅原に遷入して寺となせしもの。聖武天皇行幸の際に、本尊阿彌陀如来像が光明を放ち居たるにより喜光寺の號を賜はると傳ふ。行基は天平二十一年この寺の東南院にて寂せり。出生の地にある家原寺と共に世に知られ、金堂(本堂)は國寶にして應永年間の建立、細部の手法は室町初期のもの、阿彌陀如来坐像も國寶。(西大寺)大字西大寺にあり。南都七大寺の一。高野寺と稱す。いま眞言律宗の本山たり。天平神護元年、稱徳天皇の勅願にして、

僧堂圓基す。本尊は丈六の釋迦如来。

本尊は鳥羽天皇の勅願によりて作り、僧叙は勅を受け此寺に納むといふ。當寺は創立以來屢々火災に罹り、嘉禎二年、叙一度中興して律宗の大造場となせしも、其後また燒亡し、現堂塔は悉く後世の建造に係る物なり。當寺にある本尊・文殊彌勒四佛・行基像・十二天畫像・金光明最勝王經・大毘盧遮那經・寶財流記帳等は皆國寶なり。その他蔵する古文書等多し。

フシニ 俯見

陸奥國(陸前國宮城縣)の古地名。和名抄に玉造郡府見郷あり、府は俯の偏を配せるもの。この地今の玉造郡東大崎村・西大崎村の邊に當る。

フジニ 不二見

靜岡縣安倍郡にありし村。大正十三年に外二箇町一箇村と共に廢されて清水市を建つ。

フジニ 富士見

群馬縣上野國勢多郡の西部。赤城山の西南斜面を占むる大村にて、北は利根郡の一部と隣る。面積七〇・〇二方軒。東北は赤城山頂に地蔵観(一六七四米)をばはじめとして、荒山(一五七二米)・鍋割山(一三三二米)等並え、地蔵嶽の北側には大沼、東南側には小沼あり。村はこれより西南に向ひて傾斜し、中部は南に次第に緩傾斜となりて一般に森林多く、山嶽には桑畑ありて養蠶を主業とし、繭を産す。また特産物としては富士見白菜あり。そのほかに米・麥を産す。

前橋市より赤城山頂に通ずる縣道は村の

東部を経て北走しバスの便あり。明治初期の農業家船津傳次平(號從五位)はこの地の人とす。古くは和名抄、勢多郡時津郷の内とす。(横室ノ大堰)指定天然記念物。日蓮開創約七・三米、樹勢旺盛、樞の代表的巨樹なり。

【富士見】 神奈川県鎌倉郡にありし村。

大正四年に外二箇村と共に合併し、大正村を建つ。

【富士見村】 長野縣信濃國諏訪郡の東南部。

南は落合村を挟みて山梨縣に對し、東は八ヶ嶽(二八三〇米)の麓に連り本郷村・原村、北に金澤村あり。西は上伊那郡に接し、村との境界には赤石山脈の主峯釜無山(二一七米)・入笠山(一九五五米)聳ゆ。村には釜無川の一支流と菅川とが流れ、前者は東南に流れて甲府の盆地に注ぎ、後者は諏訪湖に注ぐ。兩者の分水界は原ノ茶屋附近(九八〇米)にありて、甲府盆地と諏訪盆地の境界をなす。兩川が東北・西南へ殆ど直線的に流路を取らば、赤石山脈が東北・西南に走る松本・碓氷に連れる大断層線に沿ふがためなり。此等の断層線は中央地溝帯(フツァサ・マガサ)の西邊をなす地溝線なり。村の西南は一〇〇米を境として上部は高峻にして、それ以下に断層崖の間折による未端切面を見る。断層崖に切込めし浸蝕谷による小扇狀地あり、花湯・岩宮・松日・養生・大澤等の部落はそれぞれの扇

フシミ、フシユ

鉄道の末梢の湧水を利用して發達せしめ... 甲府市の東南方約四軒。笛吹川の中...

【富士見村】山梨縣甲斐國東八代郡の北... 甲府市の東南方約四軒。笛吹川の中...

【富士見村】山梨縣甲斐國東八代郡の北... 甲府市の東南方約四軒。笛吹川の中...

【富士見村】山梨縣甲斐國東八代郡の北... 甲府市の東南方約四軒。笛吹川の中...

設置)を置く。

フシユ 武州鐵道 社線。埼玉縣南埼玉・北足立二郡に跨る。東北本...

川治の温泉ありて良き遊覽地となる。また... 発電行はれて鬼怒川發電所あり。會津...

なるもの別表の如し(産額は昭和十年の... 年産、準は準重要鉱山。昭和十年に町...

米。南段には龍ヶ岳(二一〇〇米)連る。... 山頂部は廣大にして深き峽にて掩はる。

フシユ—フシワ

Table with columns: 山名, 産, 鑛業権者, 備考

フシユ—フシワ

には遊に盆地の北部なる平城に遷都が決りされ、翌年炎上するに及び災廢に歸せり。...

下伊那郡内ならんも詳かならず。フスマダ 畝田 遠江國(静岡縣)の古地名。...

り、壽永年中、廣常殺されしにより城廢すと。大宇上布施には梅地あり、また南方の嶺ノ松には古墳あり、伊基國造の墳なりと傳ふ。

厩津村に、東は同郡玉川村・若江村に隣り、南は同郡八尾町・久寶寺村・加美村に、西南は同郡野村と界す。...

【蕨原村】大分縣豊後國遠見郡の東北部。日田町の東北に接し、約一軒前に至れば別府灣岸に出づ。...

【布施村】千壽縣上總國夷隅郡の東南部。藤浦町の北隣、御宿町の西隣にあり。...

【布施村】長野縣信濃國北佐久郡の中部南側。東には一三軒を距てて岩村田町あり、北方へはほぼ同距離にして小諸町に達す。...

【布施村】富山縣越中國水見郡の南部。水見町の西南方約四軒。西部に一〇〇米餘の丘陵あり東に緩傾斜し、東部を布勢川北流して流域に平地開く。...

Table with 3 columns: 種別 (Industry Type), 工場数 (Number of Factories), 産額 (Production Value). Rows include 金属工業, 機械器具工業, 化学工業, etc.

農産の約百萬圓中、米は約六七萬圓、之に次ぐを果物等の三五萬圓とす。畜産は養鶏・鶏卵を主とし其の額約二二萬圓な

より漸次農村状態を脱するに至り、大正十四年に布施・小阪二村は町制を布き、補綴村は昭和四年に町となる。...

【布施村】鳥根縣隱岐國周吉郡の東北部。隠岐列島島後の東北海岸に位し、日本海に面す。南は東郷村、西南は中條村、西北は中村に接す。面積一八・四九方軒。

【布勢村】因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に高草郡布勢郷あり。その地今の氣高郡松保村の邊なり。...

フセー フセツ

通ず。古くは布勢郷に作り、和名抄に仁多郡布勢郷と見ゆ。

【フセ 富勢村】千葉縣下總國葛飾郡の東北。利根川の南岸にて手賀沼西部との中間にあり。我孫子町の西隣にて、北は利根川を隔てて相馬郡と相對す。東南部は丘陵地をなすも他は低地にて、利根川附近は和沼をばじめ沼澤地多し。農業行はれて米・麦を産し、また養蠶・養鶏も行はる。陸前濱街道は南部を東走し、省線常磐線また之に沿ふも村内には驛なく、我孫子町に我孫子驛を置き、バス便あり。この地は和名抄、相馬郡意部郷の内。いま田中に孤山あり、古は湖中の島にして、辨財天堂ありて附近に知らる。「玉椿妻と見えてや布施籠 其角」の句あり。(東海寺)大字布施にあり。新義眞言宗聖山派。紅蓮山松光院と號し布施辨財天と俗稱す。往昔、空海、辨財天の靈異に感じ、平天天皇に奏し、大同二年創建すといふ。平替門の亂に堂宇島内に歸せしが、源經基これを再興す。境内に涼しさや真帆にすむかの山なればなる芭蕉の句あり。

フセキ

【扶西面】朝鮮平安北道鐵山郡の西部。東は郡邑鐵山面に接し、西は黃海に面す。昭和十年に南隣の丁惠面を併せて面積約七、七方軒。南部に五峰山・漁郎山等二五〇米内外の山地、中・北部にも所々に一〇〇米臺の丘陵地孤峰もあるも、それら山地間には低平地ありて田畑よく拓く。沿海は北に禮臺山(二〇三米)、中部に登串洞、南部に仁松洞の突出あり、前面に輝島・大溪島・小大溪島・月島・水運島等の島嶼を浮べ、その間に良灣入るも海深く船舶に適せず。米・大豆・粟・大麻・棉花等の農産、黄海金銀よりの金・銀を出す。東隣の鐵山面に出づれば京義本線の車前前・南市兩驛へバスの便もあるも面内の交通は便ならず。水運島の西角附近は鴨綠江東水道の東側を成し、島頂(四二米)に水運島燈臺(明治四十二年設置)あり、燈質は四白光、毎一五秒に一閃光を發し、光達距離一九哩。但し毎年結氷中は點燈を停止す。

フセキ

【浮石面】朝鮮慶尙北道榮州郡の北東部。南西は郡邑榮州面に近く、これと丹山面の南部を隔て、北は江原道寧越郡下東面と接す。地は南北に長く、北半部は小白山脈の山地にてその東境には先達山・鳳凰山(八一九米)、西境には紫霞峰(八五九米)等聳ゆるも、南半部は次第に低下し、北部に發する乃城川の支流その中央を南流し南東隅の奉化郡乃城面に出づ。農牧行はれ、米・麥・大豆・大麻・莞草等の農産、畜産に牛あり。外外道路は四隣に通ずるも路面改善なほ行はず交通便ならず。鳳凰山中に古刹浮石寺あり、新羅文武王の八年に義想大師の創建に係り、その無量壽殿は高麗時代に再建せられし鮮内最古の木造建築として著はれ、義想大師像を安置する組殿殿、またこれに次ぐ古建築にして四天王・兩菩薩の壁畫あるを以て聞ゆ。

フセキ

【浮石面】朝鮮忠清南道瑞山郡の中央部。東北は郡邑瑞山面との間に仁旨面を隔て半島狀をなして南方の澗水灣に突出し、中部を東西に横ぎり、鐵道京仁線また之に並走し、中部は京城及び仁川との交通便利なり。行政上、文鶴・南洞・蘇萊・業紗・香丁・桂陽・富内・西串・永宗・北島・龍巖・德積・雲興及び大阜の十四面に分かれ、郡廳を仁川府に設く。

フセキ

【豐前國】豊前十二箇國の一にて九州島の北東隅にあり。いま全國を三市六郡に分ち、門司・小倉の二市及び企救・田川・京郡・築上の四郡は福岡縣の管下、中津市及び下毛・宇佐の二郡は大分縣の管轄に屬す。この國は神武天皇御東征の御途筋に當り、菟狹津彦なる者が天皇を迎へて饗し奉れり。菟狹は即ち後の宇佐にして、やがて彼者は宇佐國造に任ぜらる。のち成務天皇の朝に至れば豊國あり國造を定め給ひしこと國造本紀に見ゆ。その後、文武天皇の朝に豊國を分けて豊前・豊後となす。この時、宇佐國は豊前國に入りて宇佐郡となる。國府は津津郡(いま京郡郡、祇園村大字草場)の地に置く。鎌倉時代の初め源頼朝は宇郡宮信房を以てこの國の守護とす。信房、仲津郡の城井郷に居り、後には城井氏を稱す。後堀河天皇の嘉祿年間には少貳氏筑前にありてこの國の守護を兼ね、足利尊氏の叔するや信房五世の孫、城井冬嗣これに屬し、やがてこの國の守護となる。吉野時代には大内義弘この國の守護を兼ね、正平の頃に至れば肥後の菊池氏の勢力、

東側

東側に支那沙長浦を作る。面積約五五方軒。土地は南北に長く、東北部の仁旨面との境に鳥飛山(三五二米)ありてその脈北西に延ぶるも其他は一〇〇米以下の丘陵地にして南するに低く下し、また東西兩岸二〇米内外の丘陵の先端所々に小突出をなす。丘陵間の所々に小低地ありて耕地をなし、米・麥・大豆等の農産あり。沿岸は泥地遠く連り貝類の養殖に適す。瑞山・泰山間の三等道路は北端を横ぎる外は外外道路あるのみにて交通は便ならず。

フセキ

【武節村】愛知縣三河國北設樂郡の北端。岡崎市の東北四〇軒。北は岐泉縣に接す。木曾山地の餘瀝の南に至る花崗岩山地にして八〇〇米前後の高原性山地を成し、南部には水晶山(七八二米)あり。北境は矢作川流れ、斷層線なし、これと直角に武節川(名倉川)合流す、これも斷層線と思はる。山地には草地多く、農業は川の流域のみに行はれ、

フセン

【赴戦江】朝鮮咸鏡南道鴨綠江斜面に屬する河。咸鏡南道郡の中央に横はる赴戦嶺(一四四五米)の峰稜落なる泉水里附近に發源し、一四〇〇米餘の磐岩臺地なる蓋馬高原上を北流し、長津郡の江日浦にて長津江に合流す。流程凡そ一〇〇軒。本江は初めは新興郡東上面の高原上を緩流するも、約五〇軒にしてこの峡谷をなして北流す。朝鮮水力電氣株式會社はこの地形に著眼して東津第一の水力發電所設立の計畫をたて、險溪に一大堰堤を築きて堰止め人工湖を築へ、赴戦湖と稱しその湧水を地下水路によりて自然の流れに進行せしめ、赴戦嶺の中腹を貫通して城川江に流下し、その落差にて二〇萬キロワットの水力發電をなさしめ、之を朝鮮窒素肥料株式會社興南工場に送電し、この動力によりて硫酸アンモニヤ其他の窒素肥料の製造用に供す。

フセン

【赴戦嶺】朝鮮咸鏡南道新興郡の嶺。新興郡の略は中央に位し、南部の郡邑新興より北方の長津郡の江日浦間の街道にて南流の富田里より北方の蓋馬臺地の南縁部の大急斜面を急に、比高一〇〇〇米を登りし所にあり、海拔一四四五米。本嶺

フセン

は北流して鴨綠江に注ぐ赴戦江と、南流する城川江との分水嶺をなす。最近、朝鮮水電株式會社の經營になる東津第一の發電所の設けられし事に於て有名なり、今はケーブアルカーの設備により富田里より容易に登ることを得。

フセン

【富川郡】朝鮮京畿道二府二十郡の一。道の略は中部の西岸に位し、北は金浦郡、東南は始興郡に隣り、西は江華郡に面し、前面に浮ぶ米宗島・信島・矢島・長峰島・三木島・龍壽島・大舞衣島の屬島を有す。面積約五三〇方軒。西北部に桂陽山(三九五米)ありて、その脈西岸に近く南方に延び、南部に蘇萊山(二七九米)等の丘陵性山地が東西に延び、外は地勢概ね低平にて、特に北半部の中央に富平平野ありて北方の金浦郡の澗江岸に連る。沿岸は水平的支節に富み、また海上には已述の如く多数の島嶼もあるも遠淺の泥地多く、且つ潮汐干満の差頗る大にて港灣として利用すべきものなし。海岸中部に位する仁川府の仁川港の如きも開門式船渠の建設によりて漸く港灣の機能を發揮するに至る。農業盛にして米を第一とし、麥・豆類・玉蜀黍・棉花・甘蔗・馬鈴薯・大根・白菜・甜瓜等の食用・工業農産多く、また梨子・林檎・葡萄等の果樹を出す。沿岸は鯛・鮫・石首魚・鰻・鱈等の漁獲物に富み、天日製鹽行はる。京城・仁川間の一等道路は

東側

の國に及び、新田上野介義基を馬場城に置く。新田氏三代嗣ぎて後大内氏に滅ぼさる。既にして大内氏の滅亡するや、毛利元就は州の北部を收め、弘治の頃は、大友義興後より來りて國の大部を占有す。天正年中この國もまた薩摩の島津氏の侵略するところとなる。天正十五年豊臣秀吉の九州を征伐するや島津氏を逐うて黒田孝高を中津に置きて六郡を與へ、毛利勝信を小倉に封じて田川・企救二郡を與ふ。關ヶ原役には孝高東軍に屬し加藤清正と共に九州を徇へ、毛利勝信を討ちてこれを降す。家康は孝高を筑前福岡に移し、細川忠興に全國を與へ小倉に治せしむ。寛文九年細川氏は熊本に轉じ、小笠原忠貞明石より來りて小倉に居る。忠貞その四子眞方を小倉新田に分封す。忠貞の兄の子、長次は中津に封ぜられしが、のち播磨安志に移され、享保十二年奥平昌成は山形より移りて此處に居り、幕末に至れば小倉(小笠原氏十五萬石)・小倉新田(千石)・小笠原の支藩(一萬石)・中津(奥平氏十萬石)の三藩ありしが、小倉は慶應年間毛利氏の軍に攻められて香春に移り、豊津藩と稱す。明治の初め以上三藩はいづれも廢となりしが、明治四年十一月これ等を廢して小倉縣を小倉に置き以て豊前一國を管す。同九年四月には一旦これも福岡縣に合併せしが、八月には南部の宇佐・下毛の二郡を大分縣に移管して以て今日に至る。而して同二

十九年四月京都・仲津二郡を合して京都郡、築城・上毛二郡を合して築上郡となして六郡となり、同三十二年四月門司市が、翌三十三年四月に小倉市が何れも金

【豊前善光寺】日豊本線の一驛(明治三十年設置)。大分縣宇佐郡高家村にあり。【豊前長洲】日豊本線の一驛(明治四十四年設置)。大分縣宇佐郡長洲町にあり。

【扶桑村】一宮市の東北約一三軒。東に大山町に、北に岐東郡に隣る。本村は木曾川の形成せる尾北扇状地の一部にして、東北より西南へと緩傾斜をなす。

北には木曾川西流し、東部には木津川水南流す。この用水に並行して名古屋水遣り下す。本地域は扇状地のため桑畑多く、従って養蠶盛にして製糸工場あり。

水田は扇状地を開拓する細谷にのみ分布を見、木津川水は木曾川より引かれこの扇面を潤す。畑地には大根其他の蔬菜多く、名古屋に供給せらる。交通路は大山を起点として放射状に扇面に発達し、北部には遠見街道が通過し、社線名古屋電線は西南より東北へ通じて大山に至り村内に相森・下野・木津用水の三驛(共に大正元年設置)を置く。大字齊藤は和名抄の丹羽郡前刀郷の地と思はれ、いま前利神社あり。大字高木の字に福東(いま

福塚)あり。此地の童謡に奇鶴・福東米不喰八名と般若の梅がづきと云はる。

本村は明治三十九年、豊前村・山名村及び高峯村・柏森村の一部を以て置けるもの。(山名神社)大字南山名に鎮座。郷社。祭神は八野若比賣命とも日本武尊とも稱し評ならず。式内小社。往昔は相當の大社なりし由にて山名村の産土神として舊領主の崇敬殊に厚かりき。例祭八月十五日。(舊神社)大字高峯に鎮座。郷社。祭神、椿野天神。創立年代詳ならず。國內神名帳に従三位と見ゆ。古來當地の産土神なり。例祭八月二十三日。

【富曾島村】新潟縣越後國古志郡の北部。長岡市の東北に接す。土地平坦にして豊饒なる越後平野の一部を占め、西境長岡市との間に信濃川の一小支流北に流る。米を主産物とし、桃・野麥等を特産し長岡市に供給す。村内南部を東西に社線尾道道貫通し、宮下・小曾根(以上大正四年設置)下新保(大正五年設置)の三驛を置き、省線信越本線は西部を掠め長岡市の城西に近し。縣道は東西に走り見附町(新潟原部)・尾見町等(通す。村名は明治廿二年諸村を合して本村を建てし際、主なる村たる富島・小曾根・島三村の各一字を取りしもの。〔龍源寺〕大字小曾根にあり。曹洞宗。虎峰山と號す。創建年次は詳ならず。とも河雲和尚の開創なり。本堂は十一面觀世音にして弘法大師の作といふ。(延

命寺)大字小曾根にあり。新義眞言宗豊山派。石動山と號す。弘仁中、弘法大師草創の古刹にして、本尊秘命地蔵は同大師の作に傳るといふ。長岡市徳聖寺末にして、當國十二番の札所なり。

【布多】下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に都賀郡布多郷あり、その地今の下都賀郡國府村・大宮村・家中村の邊に當る。

【社】臺灣臺北州臺灣郡にある善社。大南澳溪の右岸及び支流マコツ溪との合流點より西南方約四軒、飯包尖山の北方無名山の山腹海拔約八〇〇米の地に在り。概ね東向の急傾斜地なれども社の所在地なる山腹は大部分緩傾斜地なり。地味肥え農耕に適す。明治三十五年、臺中州鹿港郡番寮カニスホルクより戸數三九、人口二七〇を以て移住し來り現在の社を形成せり。タイヤル族の南澳番に屬する高砂族の部族。戸數三六、人口二二〇(昭和十一年調査)。

【二處】長門國(山口縣)の古地名。和名抄に大津郡二處郷あり、その地今の津那保山村・深川町の邊に當る。

【長門國(山口縣)の古地名。和名抄に厚狹郡二處郷あり、布多井と訓す。その地今の厚狹郡二處領村・厚東村の邊なるべし。

【普代村】岩手縣陸中國下閉伊郡の東北端。西北は九戸郡に接し、東

山は二峯に分れ、東峯を御前と稱し西峯を獅子が面と云ふ。高からざれども古來聖地として名高く、古歌にも詠せらる。北麓は富山灣有磯海に洗はれ、日本海の眺望佳なり。尙この山に射水神社ありしが、明治八年に高岡市の高岡公園に移さる。玉置二上山に鳴く鳥の聲のこひしき時來にけり。大伴家持「君が代は二上山の峰に生ふる緑の松のおひかばるまで 讀人不知」

【富山縣射水郡にありし村。昭和八年に高岡市に編入す。】

【二上山】中國山脈の一峯。同山市の北方約三四軒、同山縣久米郡大津村の北麓たり。標高六八九米。高度高からざれども附近の丘陵中に突出せる故に人目に着き易し。山頂は二峯に分れ、東西相對し、古へば顯・密の二寺ありて之を兩山寺と稱せしも、今は遺跡あるのみ。いま南麓に兩山寺あり。二峯の中間には龍池水と呼ぶ小池あり。山頂の展望佳なり。「玉くしげ二上山の紅の雲引きて雨は舞にけり 平賀元義」

【二神島】愛媛縣温泉郡の海上にある忽那七島の一。東西に長く周囲約一〇軒。北方の忽那島との間に二子瀬戸をなす。

【二川】福島縣南會津郡にありし村。昭和三年に長江村と共に合して、江川村を瀬戸をなす。

【二川村】千葉縣上總國山武郡の北部。

北及び東は太平洋に面す。面積六・五

四方軒。北上山地の東斜面に屬し、西境は六八〇米にして東方に傾斜し、西北境に高森(四七〇米)、東南境に七森(四二九米)、中部に柳子西山(四二四米)聳ゆ。昔代川は南方より來り、村のほぼ中部を東北に流れ、太平洋に注ぐ。全村山地多くして海岸に迫り、海岸は階崖をなす。林産最も多く、農産・水産これに次ぎ、他に木炭・麥・大豆・柿・馬鈴薯・栗・鮮魚等をも産す。交通は僻地にあるを以て便ならず。西南の岩泉町へは約四〇軒あり。

【社】臺灣高雄州屏東郡にある善社。隆寮北溪の左岸、俗稱阿敏富士の北北西約四軒、知本越道路に沿ふ海拔約七九〇米の地に在り、氣候四季を通じて温暖にして農耕に好し。約二百年前、屏東郡コツアホカン社より七戸、二十九人を以て移り來り現在の社を形成す。マイソン族の傀儡番に屬し、双生兒・時形兒を極端に崇敬し、發育するを忌む風習あり。戸數一三五、人口六四〇(昭和十一年調査)より成る高砂族の部族。

【双岩村】愛媛縣伊豫國西宇和郡の東部。八幡濱市の南に接し西は一軒餘にて宇和港に出づ。東及び東南は東宇和郡に界す。全村山地急傾伏して平地乏し。米・麥を産するも圃の産額最も多し。縣道は中部に通じ八幡濱市と東隣の多田村に出で兩者と西南隅の

松尾町の北方約六軒にて、東は吞取郡、西は印旛郡と隣す。大部分丘陵地にて針葉樹林あり。東部を桑山川、中部を木戸川南流し、その附近のみ狭き平地ありて米を主産し、養蠶も行はる。其他、麥・鶏を産す。松尾町より印旛郡成田町に通ずる縣道は村の中央を北走し、川の便あり。この地は和名抄、武射郡新居郷・加毛郷に屬せり。大字大塚には大塚城址あり、伊田友胤これに居り、弘治元年坂田城主、三谷氏を攻め、同二年坂田城に移り、大塚城廢す。(芝山藩)明治元年十一月遠江國掛川藩主太田資実は上總國武射郡芝山に移封、芝山藩と稱せしが、更に同四年正月同郡松尾に移封、松尾藩と改む。同年七月藩は一時松尾藩となりしが間もなく廢して木更津藩に入る。(觀音寺)大字芝山(紫山)にあり。天台宗。天慶山聖福院。天應元年聖原經繼これを創建し、天長二年圓仁中興すと傳ふ。榮山仁王とも稱し、山門の仁王尊像は昆蟲屠の作と傳へ、また本堂十一面觀音は俗に厄除大士ともいはる。寺運現に隆盛を極め、賽者の多きこと上總佛國中の第一と稱せらる。

【神奈川縣足柄下郡にありし村。明治四十一年に外三箇村と共に合し足柄村を建つ。

【山梨縣甲斐國中其摩郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖都に接し、南は笛吹川を境に東

三瓶町へパスを通す。

【二江村】熊本縣肥後國天草郡天草下島の北部。早崎海峡に臨む。東西兩部は二〇〇・二五〇米の丘陵をなし中央を二江川が北西へ貫流し、河口左岸に繁蔭發達す。左方前面に通詞島と呼ぶ孤洲あり。米・麥の農産及び水産あり。二江川の左岸に沿ひて走る縣道は東南方の本渡町へ通じてパスの便あり。同町道は一方海岸に沿ひて西南へ延び富岡町に至る。近海へは發動機關の便あり。古くは和名抄、天草郡志記郷の内とす。

【二方(郡)】但馬國(兵庫縣)の古郡名。成務天皇の朝に國造を置か

【二方(國)】成務天皇の朝に國造を置か

【二方(郡)】但馬國(兵庫縣)の古郡名。成務天皇の朝に國造を置か

【二方(國)】成務天皇の朝に國造を置か

【二方(郡)】但馬國(兵庫縣)の古郡名。成務天皇の朝に國造を置か

【二方(國)】成務天皇の朝に國造を置か

八代郡に對す。甲府市の南方凡そ四軒の地。土地平坦にして水利よく水田多し。米を主産とし、藪を副産す。甲府市に至る道路あり、西方の社線富士身延鐵道の小井川驛(三町村地内)へ約四軒、村道を通ず。いま大鎌田村と相合村をなし、役場を大鎌田村に置く。

【二川村】 島根縣石見國美濃郡の東北部。北は那賀郡に界し、東は道川村、南は都茂村に接す。面積四〇・三六平方軒。四周山脈に圍繞せられ、東部を南北に連互する山脈に高峻にして、彌山(九六四米)ほか高峯を屹立せしむ。地域やや西南に傾き三〇〇米に降る。所々の山間窪地に耕地及び村落ひらく。其他の部分に流れる山林なり。農・工・林業を主とし、米・麥・用材・楮・木炭等を産す。益田町へ約三〇軒、及び那賀郡三隅町に自動車あり。

【二川村】 岡山縣美作國真庭郡の北部。旭川の上流山中に位し、北は八束村に、東は旭川を隔てて中和・湯原二村に、西は新庄村、南は美甘村に接す。面積六四・九五平方軒。中國山脈の分水嶺に近き高峻なる山岳地帯のため概し七八百米の山地に圍まれるも、中央部を旭川の二支流東流し、東境にて本流に合す。二川の流域は耕地及び米産を産す。一般に變遷行

はれ、また酒類・木炭の産少からず。縣道南北に貫通し勝山町へパスの便あり。村名は村内を二條の河川流るより起るといふ。湯原村を初め中和・八束川上・二川の五村に互る旭川流域は、大山椒魚棲息地にして天然記念物に指定さる。

【二川】 福岡縣三池郡にありし村。昭和六年に外二箇村と共に高田村を置く。【二川】 愛知縣三河國渥美郡の東端。北は豊橋市に、東は靜岡縣濱名郡に隣り、南は遠江灘に面す。渥美半島の頸部に位し、北部には赤石山脈の餘波なる古生層山地あり、南部には天伯原と呼ばれる洪積層の低丘陵起伏し北に向つて緩斜面をなす。この地は西に接する高野ヶ原と共に陸軍演習場なり。町の北部には東西に梅田川流れ、その谷に水田多し。洪積層地は松林なるが池地による灌漑行はれて田圃も見られ桑畑も多く、甘藷の産亦多し。町には製糸工場多し。舊東海道は東方白須賀町より來り二川宿を経て吉田宿に至る。また新所街道もここに合し、省

【二子】 岩手縣陸中國和賀郡の東部。本村は南北に長き楕圓形をなし、面積僅かに一〇・四方軒餘、北より東にかけて北上川を隔てて更木・立花の二村と相對し、南は黒澤尻町に連り、西は飯盛村に接す。村の大部分は、北上川沿岸の平坦なる沖積地にして、豊饒なる砂質壤土なり。西南より北に互りて、第三紀層の低き丘陵地をなし、北部には秋葉・八幡の二山並立して人目を引き、二子の名稱も斯かることより出でしならん。本村は純農村にして、農業に従事するもの住民の九割を占め、生活の支那も經濟の中心も農産物に依存すること大なり。最も産額多きものは米にして、其の作付段別二六五町歩、二五〇〇石の米を産す。飯米として餘れるものは、村の酒造場に醸造米として販賣し、その他は黒澤尻町へ移出す。麥類は一三〇〇石を産するも各戸の需要を充たすに過ぎず。肥沃なる壤土に加ふるに、本村は花巻・黒澤尻の二大消費地の中間に位置するが故に、往昔より蔬菜を栽培して販賣する者多く、縣下有意の野菜地にして、年産額二萬圓を超す。殊に里芋・薯蕷は種用として需要多く、近傍の町村は勿論、盛岡市・宮城縣方面へも移出す。牛蒡は殊に品質の優れたるを以て開き、釜石市、遠くは大坂方面へ販路を有す。夏秋穀は三千圓の収益を擧げ、千田平次郎氏は蠶種業を以て聞

フタコ

じ舟楫の便もあり。村名は信濃・小阿賀の兩大川の合流點に位するに因る。往古は寛寧たる一洲地なりしが、上杉氏の季世(室町時代)以降、漸次開拓せられ、溝口氏(徳川時代)統治の下に墾墾を完成せしものなり。今の七大字はもと各々獨立の一村を成せしものなるも、明治三十四年合して兩川村と稱するに至る。

【兩川村】 大分縣豊前國宇佐郡の中部。驛館川に跨り四日市町と宇佐町の南方四軒餘。東西兩部は山地をなし、東境には大藏山(五四三米)一帯の山脈をそびえ、西境には石山(五四〇米)・鬼落山等の連山があり、石山の東方山脚に妙見山(四三七米)屹つ。中央には東南方より來る津房川と南方より來る恵良川の河谷ありて北部にて合流し、驛館川となりて妙見山東麓を繞りて西北流して隣村に出づ。沿岸には耕地及び米・麥を産す。恵良川に沿ひて道路及び社線豊州鐵道通過し、三又川驛(大正四年設置)・香下驛・圓座驛(以上大正八年設置)あり。津房川・恵良川ここに合流するを以て兩川村と稱すといふ。

フタクチ

【二口村】 富山縣越中國射水郡の中部。東は小杉町、西北は大門口に接し全村平坦肥沃なる耕地開け、米を産す。西部を南北に走る縣道あり、省線北陸本線越中大門驛に近く交通便なり。この地古くは和名抄、射水郡三島郷の内

フタカ

【二子】 岩手縣陸中國和賀郡の東部。本村は南北に長き楕圓形をなし、面積僅かに一〇・四方軒餘、北より東にかけて北上川を隔てて更木・立花の二村と相對し、南は黒澤尻町に連り、西は飯盛村に接す。村の大部分は、北上川沿岸の平坦なる沖積地にして、豊饒なる砂質壤土なり。西南より北に互りて、第三紀層の低き丘陵地をなし、北部には秋葉・八幡の二山並立して人目を引き、二子の名稱も斯かることより出でしならん。本村は純農村にして、農業に従事するもの住民の九割を占め、生活の支那も經濟の中心も農産物に依存すること大なり。最も産額多きものは米にして、其の作付段別二六五町歩、二五〇〇石の米を産す。飯米として餘れるものは、村の酒造場に醸造米として販賣し、その他は黒澤尻町へ移出す。麥類は一三〇〇石を産するも各戸の需要を充たすに過ぎず。肥沃なる壤土に加ふるに、本村は花巻・黒澤尻の二大消費地の中間に位置するが故に、往昔より蔬菜を栽培して販賣する者多く、縣下有意の野菜地にして、年産額二萬圓を超す。殊に里芋・薯蕷は種用として需要多く、近傍の町村は勿論、盛岡市・宮城縣方面へも移出す。牛蒡は殊に品質の優れたるを以て開き、釜石市、遠くは大坂方面へ販路を有す。夏秋穀は三千圓の収益を擧げ、千田平次郎氏は蠶種業を以て聞

【二子】 岩手縣陸中國和賀郡の東部。本村は南北に長き楕圓形をなし、面積僅かに一〇・四方軒餘、北より東にかけて北上川を隔てて更木・立花の二村と相對し、南は黒澤尻町に連り、西は飯盛村に接す。村の大部分は、北上川沿岸の平坦なる沖積地にして、豊饒なる砂質壤土なり。西南より北に互りて、第三紀層の低き丘陵地をなし、北部には秋葉・八幡の二山並立して人目を引き、二子の名稱も斯かることより出でしならん。本村は純農村にして、農業に従事するもの住民の九割を占め、生活の支那も經濟の中心も農産物に依存すること大なり。最も産額多きものは米にして、其の作付段別二六五町歩、二五〇〇石の米を産す。飯米として餘れるものは、村の酒造場に醸造米として販賣し、その他は黒澤尻町へ移出す。麥類は一三〇〇石を産するも各戸の需要を充たすに過ぎず。肥沃なる壤土に加ふるに、本村は花巻・黒澤尻の二大消費地の中間に位置するが故に、往昔より蔬菜を栽培して販賣する者多く、縣下有意の野菜地にして、年産額二萬圓を超す。殊に里芋・薯蕷は種用として需要多く、近傍の町村は勿論、盛岡市・宮城縣方面へも移出す。牛蒡は殊に品質の優れたるを以て開き、釜石市、遠くは大坂方面へ販路を有す。夏秋穀は三千圓の収益を擧げ、千田平次郎氏は蠶種業を以て聞

【二子】 岩手縣陸中國和賀郡の東部。本村は南北に長き楕圓形をなし、面積僅かに一〇・四方軒餘、北より東にかけて北上川を隔てて更木・立花の二村と相對し、南は黒澤尻町に連り、西は飯盛村に接す。村の大部分は、北上川沿岸の平坦なる沖積地にして、豊饒なる砂質壤土なり。西南より北に互りて、第三紀層の低き丘陵地をなし、北部には秋葉・八幡の二山並立して人目を引き、二子の名稱も斯かることより出でしならん。本村は純農村にして、農業に従事するもの住民の九割を占め、生活の支那も經濟の中心も農産物に依存すること大なり。最も産額多きものは米にして、其の作付段別二六五町歩、二五〇〇石の米を産す。飯米として餘れるものは、村の酒造場に醸造米として販賣し、その他は黒澤尻町へ移出す。麥類は一三〇〇石を産するも各戸の需要を充たすに過ぎず。肥沃なる壤土に加ふるに、本村は花巻・黒澤尻の二大消費地の中間に位置するが故に、往昔より蔬菜を栽培して販賣する者多く、縣下有意の野菜地にして、年産額二萬圓を超す。殊に里芋・薯蕷は種用として需要多く、近傍の町村は勿論、盛岡市・宮城縣方面へも移出す。牛蒡は殊に品質の優れたるを以て開き、釜石市、遠くは大坂方面へ販路を有す。夏秋穀は三千圓の収益を擧げ、千田平次郎氏は蠶種業を以て聞

フタカ

【二子】 岩手縣陸中國和賀郡の東部。本村は南北に長き楕圓形をなし、面積僅かに一〇・四方軒餘、北より東にかけて北上川を隔てて更木・立花の二村と相對し、南は黒澤尻町に連り、西は飯盛村に接す。村の大部分は、北上川沿岸の平坦なる沖積地にして、豊饒なる砂質壤土なり。西南より北に互りて、第三紀層の低き丘陵地をなし、北部には秋葉・八幡の二山並立して人目を引き、二子の名稱も斯かることより出でしならん。本村は純農村にして、農業に従事するもの住民の九割を占め、生活の支那も經濟の中心も農産物に依存すること大なり。最も産額多きものは米にして、其の作付段別二六五町歩、二五〇〇石の米を産す。飯米として餘れるものは、村の酒造場に醸造米として販賣し、その他は黒澤尻町へ移出す。麥類は一三〇〇石を産するも各戸の需要を充たすに過ぎず。肥沃なる壤土に加ふるに、本村は花巻・黒澤尻の二大消費地の中間に位置するが故に、往昔より蔬菜を栽培して販賣する者多く、縣下有意の野菜地にして、年産額二萬圓を超す。殊に里芋・薯蕷は種用として需要多く、近傍の町村は勿論、盛岡市・宮城縣方面へも移出す。牛蒡は殊に品質の優れたるを以て開き、釜石市、遠くは大坂方面へ販路を有す。夏秋穀は三千圓の収益を擧げ、千田平次郎氏は蠶種業を以て聞

【二子】 岩手縣陸中國和賀郡の東部。本村は南北に長き楕圓形をなし、面積僅かに一〇・四方軒餘、北より東にかけて北上川を隔てて更木・立花の二村と相對し、南は黒澤尻町に連り、西は飯盛村に接す。村の大部分は、北上川沿岸の平坦なる沖積地にして、豊饒なる砂質壤土なり。西南より北に互りて、第三紀層の低き丘陵地をなし、北部には秋葉・八幡の二山並立して人目を引き、二子の名稱も斯かることより出でしならん。本村は純農村にして、農業に従事するもの住民の九割を占め、生活の支那も經濟の中心も農産物に依存すること大なり。最も産額多きものは米にして、其の作付段別二六五町歩、二五〇〇石の米を産す。飯米として餘れるものは、村の酒造場に醸造米として販賣し、その他は黒澤尻町へ移出す。麥類は一三〇〇石を産するも各戸の需要を充たすに過ぎず。肥沃なる壤土に加ふるに、本村は花巻・黒澤尻の二大消費地の中間に位置するが故に、往昔より蔬菜を栽培して販賣する者多く、縣下有意の野菜地にして、年産額二萬圓を超す。殊に里芋・薯蕷は種用として需要多く、近傍の町村は勿論、盛岡市・宮城縣方面へも移出す。牛蒡は殊に品質の優れたるを以て開き、釜石市、遠くは大坂方面へ販路を有す。夏秋穀は三千圓の収益を擧げ、千田平次郎氏は蠶種業を以て聞

【二子】 岩手縣陸中國和賀郡の東部。本村は南北に長き楕圓形をなし、面積僅かに一〇・四方軒餘、北より東にかけて北上川を隔てて更木・立花の二村と相對し、南は黒澤尻町に連り、西は飯盛村に接す。村の大部分は、北上川沿岸の平坦なる沖積地にして、豊饒なる砂質壤土なり。西南より北に互りて、第三紀層の低き丘陵地をなし、北部には秋葉・八幡の二山並立して人目を引き、二子の名稱も斯かることより出でしならん。本村は純農村にして、農業に従事するもの住民の九割を占め、生活の支那も經濟の中心も農産物に依存すること大なり。最も産額多きものは米にして、其の作付段別二六五町歩、二五〇〇石の米を産す。飯米として餘れるものは、村の酒造場に醸造米として販賣し、その他は黒澤尻町へ移出す。麥類は一三〇〇石を産するも各戸の需要を充たすに過ぎず。肥沃なる壤土に加ふるに、本村は花巻・黒澤尻の二大消費地の中間に位置するが故に、往昔より蔬菜を栽培して販賣する者多く、縣下有意の野菜地にして、年産額二萬圓を超す。殊に里芋・薯蕷は種用として需要多く、近傍の町村は勿論、盛岡市・宮城縣方面へも移出す。牛蒡は殊に品質の優れたるを以て開き、釜石市、遠くは大坂方面へ販路を有す。夏秋穀は三千圓の収益を擧げ、千田平次郎氏は蠶種業を以て聞

頗る佳なり。東麓より南麓にかけては須雲川に沿ひ舊東海道通じ、南麓に徳茶屋あり。登山は北麓の宮ノ下・元箱根村を結ぶ新道に沿ふ。麓ノ湯より行ふ。

【二子山】 磐前山(新潟縣)の別名。

【二子】 鳥根八東郡にありし村。昭和四年被入村と合併して八東村を建つ。

フタコ 双子山 神戸市の北方約七軒、兵庫縣武庫郡山田村に時つ。標高六〇五米。北麓より山田川發して西流し、川を隔てて北西方に金剛童子山(五六六米)・稚子墳山(五九五米)等相對す。社線神有電鐵の谷上驛より登高するが、又は南嶺シヤクナゲ山(六五三米)より從走して建頂す。近時この山附近にハイキングを試みる者影からず。

フタコ 兩子

【兩子山】 佐賀市の西方約一四軒、佐賀縣小城郡東多村と南多村との境上に在り。標高三三八米、山體は火山岩より成る。東麓は筑後平野西端部に在り。

【兩子山】 阿蘇火山帯に屬する一峯。九州國東半島の中、大分縣國東郡上國崎・西武藏・上伊美の三村境に在り。標高七二二米。侵蝕に破壊せられ二峯に分れし故に山名生じり。兩峯共に斷崖を以て繞らされ、山腹までは、美林をなし、山腹以上は草原をなす。谷は放射狀をなして數條刻まる。山頂の展望美しく、頂上に三浦梅園の天文觀測の遺蹟あり。山腹に榮老年間に僧仁開の建立と傳ふ兩子

寺あり。秋季の紅葉は美し。登山路は社線國東鐵道の安岐驛より國東町を経て通じ、麓まで自動車便あり。

フタシマ 二島村 大阪府河内國北河内郡の西南部。大阪府東成區の東方約二軒にあり、面積一・五六方軒の小村なり。大阪平野の一部を占むるため地形極めて平坦、西部を寝屋川の一支流が西南流す。地味肥沃氣候温暖にて耕作に適し米その他の農産物多く殊に産根は豊富なり、外に畜産・工業・水産あり。人口密度は一〇八人を算す。大阪市に近き故に車馬の往來頻しく、省線片町線の鴻池新田驛へは南方一軒餘。〔三島神社〕大字三島に鎮座。祭神、天照大神・素戔鳴尊・大己貴命。創祀年代詳かならず。古來三島の氏神なり。例祭、十月二十二日。〔兼葭葎〕指定天然記念物。三島神社境内にあり。一株。根元に樹皮多し。日通幹圍約一二・五米。

フタジマ

【二島】 福岡縣若松市の町。筑後本線の二島驛(明治三十二年設置)を設く。

フタズカ 二塚村 富山縣越中國射水郡の西部。庄川の左岸、高岡市の南に接し、南は東礪波・西礪波二郡に界す。土地平坦にて沃野開け米産多し。其他に綿織物も産す。省線中越線西部を南北に通じ二塚驛(大正三年設置)あり。縣道これに並行し、高岡驛へは約二軒、交通便あり。古くは和名抄、射水郡家口

地方民は古より石油を臭水と稱し、また燃える水などとも稱して越後七不思議の隨一に數へたり。瓦斯も竹筒などにて導き燃料に供したる如し。明治に至りて村人に手掘にて鑿井を試むる者ありしも成功せず、明治二十七八年の頃、日本石油會社が機械井を開鑿したるより盛産の基を開く。その最盛時は大正四五年の頃なるべく、大正の末頃に於ては尙七百人以上の鑿夫居たりしが、漸次衰頹して昭和十年十月末現在に於ては鑿夫數二四六六たり。〔物部神社〕大字二田に鎮座。祭神、二田天物部命。崇神天皇の御宇、物部稚彥命は神託により神靈を南大崎浦に遷し、のち更に現地に遷祀すといふ。式内小社に列す。領主上杉氏・藩主松平氏・徳川歴代將軍、各々社領を寄す。例祭、四月九日。

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタビ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 二ツ岳 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

鎮山名	鎮區所在地	鎮區坪數	産	備考
相田	二瀬町	三五、〇〇〇	夫、丸、梨	重
上高	二瀬町・幸袋町	六六、三〇一	夫、丸、梨	重
庄司	二瀬町・幸袋町	六一、〇〇〇	夫、丸、梨	重
昭司	二瀬町・幸袋町	三三、八八八	夫、丸、梨	重
二瀬	二瀬町・幸袋町	一〇〇、七〇一	夫、丸、梨	重
	二瀬町・幸袋町	一、〇一〇、三三三	夫、丸、梨	重

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に鞍手郡二田郷あり、布多と調す。その地は今の鞍手郡内ならんも詳かならず。

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタツツ 再度山 四國山脈に屬する赤石山脈の一峯。別子銅山の東方約一軒にて、愛媛縣宇摩郡土居村と別子山村との境上に時つ。標高一六四八米。山容怪奇なり。東方ハコズカ山(二二八二米)

士ありて大森・岡本・金山等の要害を管み土居氏を稱す。

フタハ 雙葉郡

福島縣勢城國の東部。東は太平洋に面し、北は相馬郡、西は安達郡・田村郡、南は石城郡に接す。面積九一・七二方町。阿武隈山地の東斜面に屬し、西境には北より高太石山(八六四米)・白馬石山(八二二米)・旭嶽(一〇五八米)・龍子山(九二二米)・大瀧根山(一一九三米)・萬太郎山(九六〇米)等連りて主分水嶺をなし、中部には手倉山(六三二米)・三郎森(六九五米)・大鹿島谷山(七九四米)・鬼太郎山(七五五米)等連りて副分水嶺をなす。西北境より室原川・高瀬川發源して各東南に流れ、海岸を離るる約二軒の點にて合して清戸川となり太平洋に注ぎ、西南境より木戸川發源して東南に流れ、流路を變じて東流し、太平洋に注ぐ。副分水嶺を越る地點は先行谷をなす。此等二川の間には中部山地より發して東流し太平洋に注ぐ諸河川あり、北より前田川・熊川・富岡川・井出川等なり。岩沼久之濱斷層線は郡の中部をほぼ南北に通じ、これによりて西部阿武隈山地と東部勢城陸起海岸と境せらる。海岸には略三段の段丘ありて、その下端は海岸をなす。前記、諸川は此の段丘面を開削して沖積平野を形成し、海岸は海崖と砂濱交互に排列す。河川沿岸には水田拓げ米を産し、また麥・大豆・蕎麥・木炭等の産あり。北方浪江町には陶器を産す。陸前濱街道は東部を南北に通じ、バス

の便あり。之より西方に分岐する道路には北に富岡街道、中部に郡路街道あり東部を省線常磐線通じ、北より浪江・長塚・大野・夜ノ森・富岡・龍田・木戸・廣野・久ノ濱等の驛あり。明治二十九年常磐線と標葉郡とを合して雙葉郡と名づく。

フタマタ 二股

【二股】 樺太國同郡清水村の大字。豊原線の二股驛(大正十五年設置)を置く。【二股】 北海道釧路國山越郡長萬部村の大字。前線本線の二股驛(明治三十六年設置)あり。

フタマタ 二俣

【二俣村】 宮城縣陸前國流生郡の中部。北は追波川を隔てて飯野川町に、南は牡鹿郡に接す。東南境に上品山(四六八米)聳え、西北方に傾斜し、西部は陸前平野の東南部なる大谷地低地帯に屬して平坦なり。北上川は西境を南流し、追波川は北境を東流す。西北境は二川の分岐點をなす。麥・蕎麥・木炭を産す。道路は西部を南北に通じ、南方の石巻市、西方の石巻線又驛へはバスを便あり。石巻市へはまた汽船の便あり。此地は和名抄、流生郡勢城郷(一)に船越郷ともいふ)の内なるべし。もと二股村と稱せしが大正二年に二俣村と改稱す。

【二俣町】 靜岡縣遠江國磐田郡の中央西偏。天龍川の左岸に位し、二俣川との合流點の段丘上に主要集落あり。町は天龍川の河口集落として發達し山香村・水窪町方面と海岸地域との物資の仲地たり。社線遠州電鐵濱松市に通じ、また天龍川の舟運あり。古くは和名抄、磐田郡曾能郷の地ならん。東鑑、文治二年の條に遠江守安田義定が二俣山にて鹿を射獲りたる事を載す。蓋し此地とす。【二俣城址】 文龜年間二俣長(築くところといふ)元龜三年徳川家康の將中根正照等これを守りしが、甲斐の軍來り攻めて用水の汲道を絶ちしかば力盡きて開城せり。翌天正元年家康二俣城に對して三碧を置き、長篠戰後、更に四碧を加へ以て長岡の計を建てしかば、同三年十二月守將依田信蕃また力竭き城を致して去る。同七年九月十五日、徳川信康當城に自殺す。その廟は清瀧寺にあり。【權ヶ脇神社】 大字鹿島に鎮座。郷社。祭神、開港加美命・豐玉比賣命、外に天照皇大神外三柱を合祀す。式内諸家神社を以て當社に充てらる。古來國守地頭(崇徳朝)慶長七年伊奈忠次は社領二十石を寄す。例祭、八月二十一日。

フタマタセ 二俣瀬村

山口縣長門國厚狭郡の東端。厚東川の流上沿ひ宇部市の北に接す。東は吉敷郡に、北は小野村に、西は厚東村に界す。面積三〇・一五平方町。東北部と西南部には各々小山脈南北に連り、地勢やや西北に低くなる。厚東川は山麓を西南流し流域に小平野を展く。村内の大部分は山林地にして所に池沼あり。沿岸に耕地拓げ、村民

【二俣東郷】 省線東海道線の一。靜岡縣小笠郡・周智郡に跨る。東海道本線掛川驛より本線と分岐し遠江橋木・原谷の二驛を経て遠江森驛(周智郡森町)に至る。全長一一・九町。昭和十年の開設に伴り三等車のみ運轉す。

フタマタガワ 二俣川村

山香村・水窪町方面と海岸地域との物資の仲地たり。社線遠州電鐵濱松市に通じ、また天龍川の舟運あり。古くは和名抄、磐田郡曾能郷の地ならん。東鑑、文治二年の條に遠江守安田義定が二俣山にて鹿を射獲りたる事を載す。蓋し此地とす。【二俣城址】 文龜年間二俣長(築くところといふ)元龜三年徳川家康の將中根正照等これを守りしが、甲斐の軍來り攻めて用水の汲道を絶ちしかば力盡きて開城せり。翌天正元年家康二俣城に對して三碧を置き、長篠戰後、更に四碧を加へ以て長岡の計を建てしかば、同三年十二月守將依田信蕃また力竭き城を致して去る。同七年九月十五日、徳川信康當城に自殺す。その廟は清瀧寺にあり。【權ヶ脇神社】 大字鹿島に鎮座。郷社。祭神、開港加美命・豐玉比賣命、外に天照皇大神外三柱を合祀す。式内諸家神社を以て當社に充てらる。古來國守地頭(崇徳朝)慶長七年伊奈忠次は社領二十石を寄す。例祭、八月二十一日。

【二俣西郷】 省線東海道線の一。愛知・靜岡二縣に互る。東海道本線豊橋驛(豊橋市)より起り、新所原驛にて本線と分岐し三ヶ日驛・氣賀驛等の諸驛を経て金指驛(引佐郡金指町)に移る。全長三七・一町。新所原驛(三ヶ日驛間は昭和十一年、都筑驛(金指驛間は同十三年の開設に係る)。

フタミ 二見

【二見村】 新潟縣佐渡國佐渡郡の西海岸。大佐渡の西南端を占め眞野灣口を扼す。相川町の南に接し、東は金北山脈の末端を境に澤根町に隣接す。全村東より西と南へ傾斜せる丘陵にして、海岸は紫石岬角に富み、殊に西濱には長手崎の岬角ありて白鳥その他の諸島點在し形勝の地なり。主産業は農耕及び漁業にして米の産額最も多く野菜・果實の産もあり、水産類これに次ぐ。其他、林業・牧畜・畜産製造業等、多角的に産業經營行はる。海岸を迂回して縣道通じ自動車の便あり、また酒田港への航路あり。村名二見は古く一に蓋見にも作る。また大字大浦は古く大浦郷と稱し、附近諸村を統べたり。【二見神社】 大字二見に鎮座。郷社。祭神、國常立尊。外に右衛門佐局をも配祀す。右衛門佐局は順徳天皇の宮女、天皇に供奉して當地に來りしものなり。江戸時代、除地五反二十歩を寄せらる。例祭七月十二日。【龍吟寺】 新義真言宗豊山

フタミ 二見

【二見村】 新潟縣佐渡國佐渡郡の西海岸。大佐渡の西南端を占め眞野灣口を扼す。相川町の南に接し、東は金北山脈の末端を境に澤根町に隣接す。全村東より西と南へ傾斜せる丘陵にして、海岸は紫石岬角に富み、殊に西濱には長手崎の岬角ありて白鳥その他の諸島點在し形勝の地なり。主産業は農耕及び漁業にして米の産額最も多く野菜・果實の産もあり、水産類これに次ぐ。其他、林業・牧畜・畜産製造業等、多角的に産業經營行はる。海岸を迂回して縣道通じ自動車の便あり、また酒田港への航路あり。村名二見は古く一に蓋見にも作る。また大字大浦は古く大浦郷と稱し、附近諸村を統べたり。【二見神社】 大字二見に鎮座。郷社。祭神、國常立尊。外に右衛門佐局をも配祀す。右衛門佐局は順徳天皇の宮女、天皇に供奉して當地に來りしものなり。江戸時代、除地五反二十歩を寄せらる。例祭七月十二日。【龍吟寺】 新義真言宗豊山

フタミ——フタミ

【二見町】 三重縣伊勢國度會郡の東部。宇治山田市の市街地より四軒餘の東方の海濱の地を占め、五十鈴川は南境の西半を東流し村の中央を北に貫き伊勢海に注ぐ。村内に丘陵起伏す。西部の大湊町に續く海濱を二見ヶ浦(二見ヶ浦)と言ひ後に音無山を負ひ前に伊勢海を擁し、海邊の奇岩怪崖起伏し風光明媚なり。米を主産物とし、特産物に藍・吹等の薬工品(年産約七—八萬圓)及び繻(約二萬圓)あり。鳥羽街道及び省線常磐線は村を横斷して二見浦驛(明治四十四年設置)あり。また宇治山田市より電車を通ず。この地は名勝二見ヶ浦のために發達せるもの。明治四十一年東二見・西二見の二村を合併して二見町とす。有名なる夫婦岩は伊勢灣沈降の名残にして、海岸より數十米を隔てて相對し、大なる岩は高さ九米、小なるは四米、大岩の頂には小華表があり、兩岩の頂は太き注連繩にて結ばる。毎年元旦には夫婦岩の間に旭日を迎ふる爲に集まる者多く、また夏季は海水浴客も少からず。出世景清・三・あらめづらしと荒布かる。二見の浦ははるくと、松の村立ち色の濱、蒔繪によくもなるまな、あまは白雲とばかりを、故郷の夢とそらさめて、庄野につづく龜山は、誰がため長き萬代と、かこつ涙ばせきもせで、何をか關の地藏堂(丹波興作待夜の

小室節「安濃の松原しぐれ行く、阿漕の海士のあごにも、過ぎにし方を思ひ出で、二見の浦の二つ石」(江神社) 大字江に鎮座。皇大神宮攝社。祭神は皇大神宮儀式帳には天須磨留女命の兒、長日女命・大歲御祖命・宇迦乃御玉命となす。一説に佐見津日子命の倭姫命を齋ひ祀れる社といふ。延喜大神宮式及び神名式所載に、俗稱「壽壽明神」。例祭、二月及び十一月十二日。(大江寺) 大字江にあり。眞言宗醍醐派。湖香山。寺傳に天平年中に行基の開削と傳ふ。二見山の半腹にて二見ヶ浦を一畔に集めて眺望絶佳。本尊千手觀音坐像(木造)一軀は鎌倉末期の作にして國寶なり。【二見町】 兵庫縣播磨國加古郡の南端にして播磨灘に臨み、明石市西側より約九軒の西北。東は明石郡に界す。全村地形極めて平坦にして一望の沃野拓く。海岸は平坦なる砂濱なれど東部の東二見には防波堤を築き舟艇の寄泊に便す。米・麥類・蔬菜・花卉・食用農産物・果實・雜類及び醬油・蒸製品・蠶・皮革製品・木製品・靴等を産し、また沿岸漁獲物・水産製造物等もあり。海岸には縣道走り、之に沿ふ市街地より北方へ街道延びて途中にて二道に分れ隣村に出でて兩者とも山陽道を感じ更に北方と東北方へ延ぶ。省線山陽本線土山驛は北境近く阿閉村地内にあり、それより西方へ社線別府輕便鐵道走る。海岸附近には社線山陽電氣鐵

道走りて東二見驛あり。昭和二年に町制を布く。この地は和名抄、加古郡住吉郷の内か。もと二見浦と云へり。【御野神社】 大字東二見に鎮座。郷社。祭神、菅原道義・譽田別命・妻妻命。創立年月詳かならず。もと天満宮と稱す。江戸時代、朱印領四十石を有す。例祭、陰曆八月十五日。【二見村】 熊本縣肥後國葦北郡の北部。日奈久町の西南に隣り西北部は八代灣に臨む。四周約二—三百米の山地によりて圍まれ中央は盆地をなす。西南部に發する二見川は西部の山麓を東北流し、中部にて東境より西流し来る支流を合して西北流し八代灣に注ぐ。米・麥・甘藷の農産及び林産あり。また葡萄の特産あり。舊鹿兒島街道は日奈久町より海岸に沿ひて入り來り二見川に沿ひて走り、西南境の赤松太郎崎(四七米)を経て隣村に出づ。省線鹿兒島本線は海岸に沿ひて通過し肥後二見驛(大正十四年設置)あり。古くは和名抄、葦北郡野野郷の地とす。延喜式兵部省式に朽網驛(原本打網に作るは誤)とあるは、圖を按ずるに本村の地なるべく、蓋し二見はその轉訛ならん。大字赤松なる赤松太郎崎は葦北三太郎の一族とす。この坂路の東に牧山あり。藩政の頃は牧馬營を置きし所とす。【二見】 二見 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に高座郡二寶郷あり、いま高山寺本によりて二寶と訂す。今の高座

フタミ フチサ

郡内ならんも評かならず。

フタミ 雙三郡

六郡の一、縣の東北山中に位し、可愛川上支流域地方を占む。西北は鳥根縣に界し、東北は比婆郡、東は甲奴郡、南は世羅・賀茂二郡に、西は高田郡に接す。面積六三・七、四四平方町。郡内は十日市・三次・吉舎・三良坂の四町と十二箇村を含む。地勢は北部山地、南部山地及び中央低地の三部に分つべく、北部山地は北境に國境山脈連立し、略その南斜面を占む。概ね五百米より一千米の山嶽地帯にして、たゞ可愛川支流神瀬川の南流する沿岸に平地を有す。南部山地は可愛川支流馬洗川その他の流域にて、山間部所に沿岸低地を拓く。地勢南方に漸高す。中央は本支流諸川合流して三次盆地を拓き、合流地帯に三次町の市街地發達し交通・産業の中心をなす。山地には林産・鐵産物を出し、低地には耕地拓げ、米・麥の産多く、一般に養蠶・牧畜行はる。省線藝備線は中央を東西に貫通し、その鹽町驛よりは省線藝備線分岐し、また同じく備後十日市驛よりは省線藝備本線バスに連絡す。明治三十年に三次郡と三良坂郡を合併して雙三郡と名づく。

フタミガウラ 二見ケ浦・二見浦

〔二見ケ浦〕 ↓ 二見町(三重縣)
〔二見浦(旅客宿)〕 社線。三重縣度會郡二見町の二見浦より音無山に至る〇・二六軒の途中宿。

フチ

〔布智村〕 鳥根縣出雲國蘇我郡の中部。今市町の西南約三町の地より南に細長き地形を占め、北は高松村、東は古志村、西は知非宮村に接す。面積八・〇七平方町。南境に山脈連立し、村内の南半部は山地に占めらるるも、徐々北方に傾く。北部は神戶川河口平野の一部に屬し土地平坦肥沃、耕地多し。村民は農工業を主産業となし米・麥・蠶・鶏卵及び清酒等の産物大なり。縣道は今市町に通じ、また省線山陰本線知非宮驛に近し。また省線山陰本線知非宮驛に近し。

フチ

〔敷智(郡)〕 遠江國(靜岡縣)の古郡名。後醍醐天皇元年に郡名初めて見ゆ。和名抄は潤と註し、野田・赤坂・泉島・桑江・小文・竹田・兼路・尾間・和智・濱松の十郷を置く。近世は敷智の智を知らず。明治二十九年四月、郡の大部分は濱名郡に入り一部は引佐郡に入り、郡名を失ふ。〔敷智〕 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に野洲郡敷智郷あり、其地は今の野洲郡内ならんも評かならず。

フチ

〔長崎縣西彼杵郡〕 ありし村。明治三十一年に分割して一部を長崎市へ一部を浦上山里村へ編入し、残部を以て小幡村を新設す。浦上山里村・小幡村は

フチ

この地古くは和名抄、神門郡古志郷の内か。〔寶塚古墳〕 指定史蹟。大字下古志の水田の中にあり。封土は全部削られ石室露出し、周囲は椎葉を以て覆はる。石室は片輪形平面を有し、玄室および羨道より成り、玄室の天井は自然石二枚を用ひ、壁は主として平に削られし石莖粗面岩を用ひ、奥壁に沿うて凝灰岩製の剝抜にて、側面に方形の窓を有する家形石棺を置く。〔弘法寺〕 大字下古志にあり。古義眞言宗。金剛頂山理趣院と號す。大聖寺末。空海の開基と傳ふる古刹にして、もと奥ノ院定光院および寺中十二坊存し寺運隆盛なりしが、いまは悉く廢絶す。寛永二十年、國守松平直政は大願堂を再建す。

フチ

いゝ共に長崎市に編入さる。フチエ 潤江 東京府南足立郡にありし村。昭和七年に他町村と合し、東京市足立區を建つ。フチサキ 潤崎村 香川縣讃岐國小豆郡小豆島の西部。西南一帯は海に面し其中央の地畝によりて半島狀に突出する土庄町に續き東は他田町に接す。全村丘陵性にて、東部には傳法川が西南流して土庄町に續く地狹部の東にて他田灣に注ぐ。沿岸や低地あり。全戸數七六八戸中、農業一九四戸、工業一一三戸、商業一六四戸、水産業三一戸にして米・麥・甘藷・蠶・鮎糸・胡麻油・種油・油粕・醬油・蠶絲・蠶卵等を産す。海岸に沿ひて道路通じ、土庄町に隣接するため比較的交通の便よし。村名はフチサキ、フチサキとも呼ぶ。この地は舊肥前庄の内に於て、大字上庄は肥前上庄の意とす。大字潤崎は肥前内海國立公園の内に於る。〔寶生院の舊柏〕 指定天然記念物。寶生院境内にあり。樹幹は地上より一米ならずして三大支幹となり、南・西・北の三方に向ふ。全樹の根元の周囲約一五米、南方の支幹は本幹より約一米の高さに分岐し、その部の周囲八米弱に達し、他の二支幹の周囲はこれに及ばず。本樹は舊柏の巨樹として有数なるもの。〔八幡神社〕 大字潤崎に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣神外二柱。往昔この地は宇多天皇の皇子敦實親王の御領たりし時、醍醐天皇の延

フチ

現今この鳥居より舊一の鳥居の間、約三百米は徳川家康の寄附せる馬場大門と稱す。甲州街道と馬場大門との交叉點なるこの鳥居の前に花崗岩の標柱あり、刻して曰く「從是一之鳥居迄五町餘左右長年中御寄附之馬場」と。馬場は現道路の兩側にありて幅員各一〇米、神社に近き方は民家立ち並ぶ。中央道路と馬場との間にも土手を築きしものにて、その形今も一の鳥居の近くに於て明かに認めらる。舊此の土手を築きしものにて、その形即ち標並木にして大正十三年天然記念物の指定を受く。いま存する標の總數は六十本にして、そのうち最も大なるものはこの鳥居に近きものにして日通り八・三米、樹相古く、根幹は空洞をなし枝は殆ど枯損して存せず。根本の周囲には石欄を廻らしたり。他は周囲三米以上六米に及ぶもの多くして、鳥居に近き方樹列整然として壯觀を呈す。社傳に依るに康平年中、源賴義典義興征伐の時、當社に祈願し賽するに當り三千本を以てす。家康大陣の時これに依りて當社に祈願し、のち馬場を寄附すると共に標並木を植ふたものなり。〔大國魂神社〕 官幣小社。中殿に武藏大國魂神・武藏國內諸神・御靈大神、東殿に小野大神・小何大神・米川大神、西殿に秩父大神・金佐奈大神・杉山大神を祀り、小野大神以下を六所大神と稱す。武藏國造の奉祀する所、のち國府を置かるるに及び國內の諸神を勧請

フチ

して國府の奇場に兼用せらる。これ世に武藏總社と稱せらるる所以なり。更に國內の諸神山中諸神なる一宮より大宮に至る六社を造りて祀る。世に六所宮と稱する所以とす。例祭、五月五日。〔高安寺〕 曹洞宗。他門山等持院。貞和年中、心悟中興し足利氏これを授く。當時塔頭十院、末寺七十五ありて寺運隆盛なりしも、のち兵火に罹りて寺運衰微す。〔善明寺〕 天台宗。昔は當地安樂寺末。草創以來屢々災禍に罹り沿革の評を聞くも、延享元年證海これを中興すといふ。〔人見原〕 古戰場。一に金井原といふ。府中町の東。正平七年閏二月新田義宗が足利氏軍をこの地に邀へ撃ち利ありして入間川に退き、更に小手指原に於て再び戦ふ。この時に義宗の別軍義興・義治は關戸にあり、三浦等の降兵を率ゐて急に鎌倉を襲ひこれを取る。

フチ

〔府中村〕 岐阜縣美濃國不破郡の中郡。南は垂井町、北は掛籠郡に接す。大垣市を西に去ること八軒。村は南北に長く、北半は山地にして古生層より成る池田山(九二四米)の南斜面を成し、南流する川には不流懸懸り、下流は伏流をなす。この山地の南部には洪積層の地塊接し、山・奥山等の分離丘陵二、三を見る。相川は南境を流れ、この洪積層地帯水田に利用せらる。南部には桑園多く、山麓には柿・梨・栗等の栽培行はる。交通は南隣の垂井町に古來山中道通じ、また東海

フチ

長四年八幡宮の神託あり、親王家の令旨に依り、安宗法師なる者社壇を設けこれを勧請祀せしに始まるといふ。例祭八月十五日。〔寶生院〕 大字上庄にあり。古義眞言宗。皇跡山。大覺寺末。天平年中に行基の草創、明徳年中に増修これを中興す。寺觀郡内に冠たり。フチナ 潤野 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に佐位潤野名あり、布知奈と訓す。その地の佐波武采女村の邊なるべし。フチノベ 潤野邊 神奈川縣相模國高座郡大野村の大字。省線横濱線の潤野邊驛(明治四十一年設置)を置く。フチノ 府中 〔府中町〕 東京府武藏國北多摩郡の南部。多摩川の北岸にて、南は南多摩郡と相對す。武藏野臺地の一部を占め、畑地多く麥・粟を産し、南部の多摩川流域のみ平地をなして米を産す。甲州街道は町の中中央を西走し、主なる聚落はこれに沿ひて發達す。その他にも府道よく發達す。社線京王電軌は町の中央を過りて西南に走り、府中・分倍河原の二驛を置く。また社線南武鐵道は南部を西北に走り、府中本町・分倍河原の二驛(昭和三年設置)を置く。本郡第一の市街にして甲州街道の一驛たり。明治二十六年府中驛を府中町と改む。舊郡役所のありし所に、いゝ警察署・八王子區裁判所出張所・東京高等農林學校・明星中學校等あり。また

フチ

府中競馬場ありて、田舎中は大に賑ひ、中央本線府中競馬場前停車場設けらる。往古、武藏の國府を置きし地に於て當時は東北地方より京・鎌倉に至る要衝に當り股賑なりしが、のち江戸の起る及びて形勢全く變するに至る。國府址はいま府中本町の邊に當り、鎌倉幕府の初め平賀義信・足利義氏等當國の守護たりしが、世々鎌倉に在りて國府を執り、國風つひに廢せらる。この地は中世以來は屋々兵馬の巷となる、中にも主なる合戦は、元弘三年五月、新田義貞が北條高時征討のためここに出陣、分倍河原に於て數日合戦あり、鎌倉に進む。建武二年五月には、澁川義季・小山秀朝等、諏訪三河守等と相戦ひ、秀朝等自害す。弘和元年六月には、足利義満、小山義政征伐の時、此地の高安寺に陣す。また永享十年八月には足利持氏、上杉憲實を討たしとして此地に陣せしが、のち形勢一變し、翌年此地の高安寺に自殺す。また康正元年正月、足利成氏、此地に上杉憲顯・房顯の軍を破り、同三年には上杉朝興、北條氏康と戦へり。明治天皇、明治十三年、山梨・三重及び京都行幸の際に御少休あらせられ、また同十四年・同十五年・同十七年と此地に行幸ありて御泊遊はる。〔府中馬場大門標並木〕 指定天然記念物。大國魂神社正面に通ずる馬場大門はいま府道として府中・國分寺間の道路なるが、

フチ

フチナ フチユ

FOUR

道本線通じて便利なり。本村は和名抄の不破郡野野郷の地にして、美濃の國府の置かれし地なれば府中と呼ぶ。當時は西濃平野は卑濕地にして今日の如く干拓工事も進まず、中山道を扼する此地に國府が置かれしなり。和名抄には「美濃國國府在「不破郡」と記され、國司館址は村内東南にありて里人の御館と呼ぶる地なり。大字新井は和名抄の不破郡新井郷の地なり。大瀧は兵庫寺山に瀑布あるためこの名を得たり。數原の觀音堂は如意山名勝寺と云へる大伽藍ありしが廢絶しその本堂たる傳教大師彫刻の觀音の像のみ本堂に残り、智證大師の彫りたる不動明王の像も堂内に安置せらる。〔親ヶ谷古墳〕村の北部、大字市之尾にあり。この古墳は美濃に於ける最も古き時期のものにして、珍奇なる石製品伴出古墳として早くより學界に著名なり。海抜二〇〇米の自然山頂に營まれし古墳に南北に長く堅穴を作り泥甍を納め、別に木箱の中に石製品(東輪石・四脚付圓盤・埴・高杯・合子・甕形埴)・鏡等の副葬品あり。これ等の出土品はいま東京帝國博物館の所蔵に歸す。なほこの連山の頂には同時代の古墳三基あり。〔美濃國府址〕その館址詳ならず。新撰美濃志、府中村の條に、里俗呼んで御館といふ地その遺址なることといへり。今その字地は部落の東南隅にあり、附近一帯に古土器の破片多く、北方に續きて古瓦の破片も散在し、弘法

傳説の古井もあり。當國神名帳内正六位上館守神社(今屋敷御座、村社)もあればこの附近館址並に正合院址たるべし。天平十二年、聖武天皇の美濃巡幸に不破領宮に在りて「皇帝國城を巡視す、晚頭新羅樂・飛騨樂を奏す」とあり。また同十七年四月の地震の條に「美濃國稻穂正合院樂」の記事あり。當時、國府の規模輪奐の美を致せるを知るべし。治承四年源平合戦の際、平維盛の軍勢東國下向に際し、「九月廿日、みの國府につく」とあれば、此頃はなほ國府も榮えしと見ゆ。次で鎌倉幕府成り守護を置きたれば、之より次第に衰へたり。〔願證寺〕大字平尾にあり。眞宗大谷派、永正年間(運澤の開創に係る。古く平尾御坊と稱し、末寺二百有餘を統べし巨刹たりきといふ。境内廣潤、諸堂整備す。〔民安寺石燈籠〕館守神社境内にあり。この邊の字を、みんなん寺といふ。民安寺は文和年間、後光嚴院、小鳥の領官より垂井の領官に遷幸し給ひ、偶々大雨に驟を避け給ひし事あり。その頃の寺は垂井の内在りしものといふ。一條兼良の藤川記にも垂井の民安寺とあり。銘に「民安寺 燈供三寶閣本地明 光興日月 普利群生 至徳三年丙子八月 日願主 理宗敬白」とあり。

【府中村】三重縣伊賀國阿山郡の中部。西南端は上野町に接す。西北部は四二六米の山地をなし、東南部には約三〇〇米の丘陵あり。中部には植植川が西南流して流域に低地開け、西南方に擴がる伊賀盆地に連る。半農半商の村にしてマイル會社・ゴム會社等の工場あり。産物には米・麥・西瓜・蓮・叭、其他、蔬菜類一般あり。中部には縣道東北より西南に通じて上野町へハスの便あり。また西北部には省線國西本線走り佐那具驛(明治三十年設置)あり。古へ伊賀の國府のありし處。のち府中郷と稱せり。〔御登山古墳〕指定史蹟。大字佐那具の天玉下にあり。前方後圓墳にて一に丸山と呼び樹木鬱蒼と繁り、長軸二百米に及び規模宏大なり。俗に崇神天皇の御代、四道將軍として北陸地方に赴き平定の後この地に駐屯して薨じ給ふと傳へらるる孝元天皇皇子大産命の御陵と稱す。〔敢國神社〕大字一ノ宮に鎮座。國幣中社に列し敢國津神を祀る。創立の年代不詳。貞觀九年に敢國津神に従五位上を賜ひ、同十五年九月更に敢國津大神を正五位上に敘せられ、延喜の制大社に與かる。のち伊賀國の一宮となり、地方の名刹として上下の崇敬を受け、降つて江戸時代、慶長年間豊登氏藩主として入部するやその尊崇篤く、社殿の造營をなし百七石餘の社額を寄進し、また祭事の復興をなす等大に力を盡すところあり。爾後、累代の藩主相繼ぎて變らざる崇仰の意を表せり。例祭十二月五日。〔波多岐神社〕大字土橋に鎮座。郡社。祭神、大鷦鷯尊。當國三ノ

宮と稱し、古來當郷の總社なりといふ。例祭、三月九日・十八日。【府中村】京都府丹波國與謝郡の中部。村の北部山地は主に花崗岩より成る丹後山塊の連綿部分にしてその南限に當る。地形は北に高く南及び東に傾斜し、與謝内海及び宮津灣に至る。海岸近くは平地にして、山地と平地との境界面近く北東—南西の斷層あり、南・東の斜面は即ち斷層崖に當る。斷層崖下の第四紀堆積層は本村唯一の耕地にして農耕の主産地たり。産業は平地の農耕のほかは水産漁獲高多く、江尻橋附近よりケーブ乗場附近一帯は、土産物販賣店を並べ、海産製造物土産物中の特産品として知らる。日本三景の一なる天橋立は、本村の江尻より南西の方向に延長約二軒、幅平均一〇〇米内外、主に花崗岩質の白砂中に第三紀層中の砂岩・礫岩等の細砂の成層より成り、白砂岩松の一大砂嘴なり。その成因は北東より来る潮流が北方の沿岸地を侵蝕し、此處に堆積して今日の美景を現出せるものなり。天橋立もと文殊と相接しあたるものなるも、近世の洪水によりて切斷され、現在の如き状態に變化し、宮津灣と與謝内海と相通することとなれり。天橋遊覧は普通は宮津線天橋立驛下車、文殊より乗船、與謝内海を航して江尻に上陸し、ケーブ・自動車等によりて北上し、成相山(五六九米)の傘松附まで登り遊覽するものなり。此附近

より遊覽の風光は最も佳く、日本三景の一たるに背かず、思はず快を叫びしむ。本村は丹波國府の故地なり。天橋ケーブの府中驛附近なる國幣中社敢國津神は謂ゆる丹後一宮なり。その南西の大字國分に丹後國分寺の址あり。中世に府中庄あり、その開拓古きを知るべし。山上の古刹成相寺は西國二十八番の札所として遊覽・信仰の一中心地をなす。天橋立(瀧神社) 大字大垣に鎮座。國幣中社。天水分神を祀る。丹後國の一宮なり。能守大明神といふ。また社名「能」をコと讀み、コノウシツヤとも稱す。祭神に就きては現在の水分神の外に、住吉神とも、或は國常立尊とも、また伊弉諾大神ともなす説あり。地方の古名社にして朝廷の尊崇篤く、嘉祥二年に従五位下を授けられ、のち累進して元慶元年従四位上に昇り、延喜の制、名神大社に列し、新年・月次・新嘗の案上幣帛に與かる。承暦四年御下に祭事を饗せし崇ありて社司に中祓を許せしむ。正應年間本社の神田凡そ四十六町、御幣十一町なりきといふ。以て當時は有勢なる社なりしかを知るに足る。降りて室町時代以降、領主・藩主の崇敬篤く、社殿の造營、社領の寄進等見るべきものあり。神主海部氏は世々本社に仕ふ。寶物中、藤原佐理筆と稱する額面は國寶に指定せらる。攝社に眞名井神社(豐受比賣命を祀る)あり。社傳によれば、天照皇大神丹波國與謝郡に御座座の

時、豐受大神御饗を奉供せし靈跡なりと云ふ。なほ境内社に天照皇大神社ほか三社あり。例祭は四月廿四日にて、この日また葵祭と稱する神事あり。神輿奉奉の徒は薔の花を冠に懸く。〔國分寺〕大字國分内にあり。古義眞言宗。高野末。舊國分寺の遺址にして、延喜式に丹後國分寺料二萬兩、文殊會料一千兩と見ゆるは當寺の事なり。されど一説に國分寺址はいま加佐郡八雲村大字中山の邊にありといふ。或は曾尼兩國分寺の兩部に分立せしものか確ならず。いま一小堂を存するのみ。〔丹後國分寺址〕指定史蹟。現時の國分寺境内の本堂屋敷と稱せらるる地點に金塔址及び塔址の土壇あり。金堂の土壇は方形にして上に三十餘箇の礎石遺存し、うち圓形礎石を有するものあり。塔址はこゝより西南方約五〇米を距てて存し十六箇の礎石遺存す。また金堂址の南方九米に門址あり、礎石二箇を存し、そのうち一箇は圓形柱孔あり。〔成相寺〕大字成相寺内にあり。古義眞言宗。高野末。西國三十三所第二十八番札所。俗稱、橋立觀音。寺傳に慶雲年間(應隆の草創)に文武天皇勅願の遺蹟なりと傳ふ。當時山内に六坊を有し空宇壯麗を極めしといふ。寺境は院院絶佳の地たり。寺寶中、紅玻璃阿彌陀如来像(粗木着色)一幅・丹波諸庄寄保徳田數帳目録(紙本墨書)一冊は共に國寶なり。御詠歌「浪のおと松の聲もなりあひに風ふきわたる天の橋立」

【妙立寺】大字中野にあり。日蓮宗。祭昌山と號す。寺傳に奉澄の開基と傳へ、もと天台宗を奉ず。後花園天皇御宇、身延山の日蓮は本寺に留錫せる際、現宗に改む。これ、丹後國最初の法華道場たり。寺寶中、懸垂厨子一基は室町初期の作にて國寶たり。【府中町】廣島縣備後國廣品郡の西部。廣田川の中流北岸に位し、西及び北は岩谷村、東は廣谷村に接す。面積三・〇七方軒。南部の沿岸に平地開け、後背地は山地に覆はれ北に漸高す。市街地は川に臨みて發達す。製絲工業を以て榮え、蠶糸・木綿織物等、産額約四六二萬圓に達す。特産物に府中味噌・桐細工物・府中琴あり。省線國鐵線の府中町驛(大正三年設置)あり。縣道南部を通じ松本町・庄原町等へ定期自動車の便を有す。もと府中市村といひしが明治二十九年府中町と改め、大正十四年に出口町と合併して今の府中町とす。因に備後國府は國府村大字府川の地にありしといふ。〔甘南備神社〕郡社。祭神、大己貴神外二柱。和銅二年に國守佐伯宿禰、出雲國三穗崎より勧請といふ。式内小社に列す。例祭、陰曆九月九日。【府中町】廣島縣安藝國安藝郡の西部。廣島市の東に隣接し、船越町の西隣に位す。北は安佐郡に界し、南は廣島灣に臨む。面積一・七七方軒。東北は吳坂山(六八二米)の西南麓にしてやや高き

も、東南より西方一帯は平野拓げて耕地多し。海岸線極めて短小なれば漁業は振はず。米・麥・繭の産多し、また牛・馬・木炭・酒類をも出す。省線山陽本線向津驛(大正九年設置)を置く。昭和十年に町制を布く。神武天皇の九州より大和平安に向はせられし時、駐師の城宮は本村の地ならんといふ。日本書紀に「至安藝國一層子城宮」とあり、古事記には「於阿岐國之多都理宮、七年坐」とあるものにして、城宮は多都理宮に同じ。のち安藝の國府の所在地たり。〔多家神社〕縣社。祭神、神倭伊波禮毘古命。式内名神大社に列す。此地もと神武天皇御駐蹕の遺址にして國府の要津に當るを以て、古代の屯倉のありし所なるべしといはる。文祿年間、毛利氏廣島に入城以來は社殿の造營、社領の寄進等屢次にして崇敬の誠を致せり。例祭、四月三日。【府中村】香川縣讃岐國綾歌郡の北部。坂出町の東南に接す。西北境に城山(四六二米)聳え、東南境に野ノ山(三二二米)峙居し、東北境には三七一米の山地あり。其他村内處々に小丘陵ありて其間に低地開け各低地は相連綴す。綾川は中央を買きて北流し、西南部には瀬田用湖沼あり。低地は田畑よく拓げて米麥の産多し。東北部には讃岐街道及び省線讃岐本線通過して北隣に鴨川驛(明治三十年設置)あり。中央には東西に走る道路あり。各道路は自動車の便よし。古くは和

名抄、阿野郡甲知郷の内にして、國府の所在地とす。〔鼓岡木九段地〕國府廳址の西に連る所にして丘陵の麓にあり。崇徳天皇、六箇年間御駐蹕あらせられて後崩じ給ひし木丸殿の舊址と稱し、中央に高さ三米の記念碑あり。明治四十年の建設にして、兼頼は開院宮親王の御染筆なり。その境内なる鼓岡文庫に古瓦その他種々の郷土研究資料を陳列す。〔國府廳址〕宇木村にあり。地字垣内の南邊に廳址遺垣の一部を存し、舊き徳里の痕跡あり。奈良時代の様式なる古瓦を出土す。なほ地字に板橋・印籠・正徳等の名あり。いま遺址に廳址記念碑立つ。〔府中山内瓦窯地〕指定史蹟。本村と山内村との界に跨りて存し、低き臺地の傾斜面に營まれ数日あり。中には底面階段状をなし、且つ煙出しの部分有せるものありて、内部に奈良時代の瓦破片を多量に存す。〔城山神社〕縣社。祭神、神橋別命。社傳に仲哀天皇八年の創祀と傳へ、式内名神大社に列し當國二十四座の一。孝德天皇御宇、此地を國府と定め、當社を以て總鎮守とせらる。以後歴代國守の崇敬社たり。例祭、十月九日。

フツ

布津村 長崎縣肥前國南高來郡の東部。雲仙岳の東方に在り。雲仙火山より傾斜する裾野式地貌は、雲仙岳の一峰野岳の南方より噴出せる岩塊泥流より成る。北方の深江川に向ひ稍急坂をなすほか山地より海岸に至るまで一大堤防状の遺跡あり。

の緩斜丘陵をなし、末端大崎鼻にて海に没す。小川ありてこれを浸蝕しつつあるも未だ幼年期の小谷に過ぎず、此等の小谷に多少の水田を見るほか耕地の大部分は如地なり。聚落は海岸に沿うて走る街道沿ひに多く發達し、緩斜丘陵地の面にも各所に散在し開拓新田・出屋敷等あり。何れも殆ど農耕聚落なり。交通は縣線口之津鐵道海岸に沿うて走り、布津驛〔大正十一年設置〕・布津新田驛〔昭和四年設置〕のあるほか沿岸汽船の寄港地にして、三池・島原・長崎方面との往來自由なり。此地、島原の亂に際しては、官軍と敵軍との激戦地たりき。また布津驛の北西五軒、普賢山麓の高原狀臺地に天ヶ瀬古墳あり、横穴式にて石岩を以て造られ、玄室は奥行七尺餘、幅約七尺、高さ四尺五寸、古代、當地方首長の古墳ならん。本村の一部は雲仙國立公園の内とす。

フツオン

佛恩面 朝鮮京畿道江華郡の東部。江華島の東岸中部に在り、北は郡邑内面〔江華〕との間に仙源面を隔て、東は漢江の分流なる鹽河を挟みて金浦郡大車面と相對す。面積約三五方軒。西北境上に穴口山〔四六四米〕、南境中部にも約三〇〇米の山地あるも、その他の大部分は概ね平坦にして東方に緩斜し耕地拓く。米・麥・豆類・棉花等を産し、桃・梨子等の果樹栽培行はる。また北部は錦糸金銀の鑛區に屬し砂金を産す。島内の諸面へは等外道路によりて通じ、對岸へは渡船によるも交通なほ便ならず。

フツカイ

物開 朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛〔明治四十一年設置〕。黃海道平山郡安城面にあり。

フツカイチ

二日市町 福岡縣筑前國筑紫郡の中部。太宰府町の西南に接し福岡海岸平野と筑紫平野とを結ぶ隘路を占む。西南半は西南境に聳ゆる天拜山の斜面地をなし、東北部は東北方に聳ゆる寶滿嶺の山麓丘陵をなす。中央には南境附近に發する御堂川は西北流し沿岸に稍や低地開く。米麥を産す。中央低地は北九州と中九州とを結ぶ重要な道路にして省線鹿児島本線及び社線九州鐵道等通過し、九州鐵道の九段二日市驛よりは太宰府神社に至る支線東北方へ走り、また鹿兒島本線二日市驛〔明治二十二年設置〕よりは社線朝倉軌道起りて國道に沿ひ東南方へ走る。町名は蓋し昔毎月二日に市立して交易せしより起りしものならん。明治二十八年町制を布く。域内に高橋廻運塚あり。即ち廻運の首級を埋めし所といふ。古くは和名抄、御堂郡次田郷の地とす。〔武藏温泉〕武藏川に臨む。泉質は含硫弱酸性泉にして御前湯・藥師湯・川湯等に分る。近く西南に菅公が天に祈れりと傳ふる天拜山を仰ぐ。古くは次田温泉といひ、萬葉集卷六に「帥大伴朝次田温泉に宿りて鶴の歌くを聞きて作れる歌」〔略歌〕と見ゆ。〔塔原廢寺塔址〕大字塔原の貯水池の傍にあり。塔址の土

フツキ

境は半ばと心礎とを遺存す。出土の瓦は奈良時代前期のものに屬し、寺址の東南約半軒なる武藏寺に所藏す。〔八幡宮〕大字二日市に鎮座。郷社。祭神、神功皇后・應神天皇・玉依姫神。往昔、宇佐八幡宮より勧請せられたりといふ。例祭、陰曆九月十五日。

フツキ

福貫面 朝鮮咸鏡南道鎭川郡の南端。東北は郡邑波道面〔鎭川〕に接し、西は利原郡東面と境し、南は日本海に面す。面積約一二方軒。赴鞍嶺山脈東斜面の末端の一部にて、西境北部に鶴崎〔八七〇米〕聳え、その山脚東南に延びて海に没し西半部は山地をなすも、北部には南大川支流の福大川東流して沿岸に平地を作り、その南を東西に連る丘陵を隔てし面の東南部にも平坦地ありて海岸に及ぶ。米・大豆・大麥・粟・燕麥等の農産あり。元山・會琴間の街道は西境の摩雲嶺を越えて中部を東方に走り、鐵道成鏡線は海岸に沿ひ、次で東北に向ひ奇巖・龍岡・吾夢里の三驛〔共に昭和二年設置〕を設け、交通便ならず。

フツキン

勿禁面 朝鮮慶尙南道梁山郡の略中部。もとの上西面にては南北に長く、東南は郡邑梁山面に、西は院洞面〔もとの下西面〕に隣り、南は洛東江の下流によりて金海郡下西面と限らる。面積約四七方軒。北部より西半部にかけては殆ど山地をなし西境中部にては四五〇米を示し、東方に急斜す。ただ東部よ

成し、逐年人口増加して今日の基礎をなすに至れり。

フツコ

福興面 臺灣臺中州彰化郡一街六庄中の一。郡の西南隅に在りて臨海の庄にして、北は鹿港街、東は秀水庄、南は員林郡埔鹽庄と北半郡沙山庄に、それぞれ境を接し、西は臺灣海峡に面す。管内に麥・粟・大豆・粟・黍等の農産あり、土地總て平坦にして農耕地甚だ多く、八堡圳による灌漑の便を得て水田並く開け純農村を形成す。農産物は米を筆頭に甘藷・甘蔗これに次ぎ、蔬菜・柑橘の産亦多からず。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主とする家畜・家禽類多く、一般家庭に於て副業的に蓄く飼育せらる。林業は耕地防風林造林のほか見るべきものなし。庄の位置僻地に在るを以て民度一般に低し。明治製糖の鹿港・員林間社線は管内を西北より東南に貫通し交通の主脈をなす。これに當りたる指定道路にはバスの便を有し、部落相互間には部落道路よく發達す。管内にも總て馬芝堂に包括せられ、住民の祖先は清の雍正年間福建省の泉州より移住せしものにして、爾來同族同郷相倚りて専心部落を形

フツコ

成し、逐年人口増加して今日の基礎をなすに至れり。〔福興面〕朝鮮咸鏡南道興南郡の中部。東は郡邑洪仁面に隣り、南は高原郡に面し、西は郡邑洪仁面に隣り、面積六三方軒餘。狼林山脈支脈の牛淵嶺西南境に峙ち、その山麓は西と南の境上に延び西半部は山地をなす。東半部にもまた西半部より緩く山脚のなす丘陵地あるも、北境を東流する龍興江に入る小支流の谷ありて耕地拓け、聚落は概ねこの地域に集る。米・大豆・粟・黍等の農産あり。永興より平安北道楚山方面への二等道路は龍興江の南岸に近く東西に通ずるも交通なほ便ならず。

フツコ

朝鮮全羅北道淳昌郡の西北端。雙鏡面の西南隣にて、西北は井邑郡内面・西に、東南は全羅南道潭陽郡龍面・月山面に、西は同道長城郡北下面・北上面に接す。面積七〇方軒餘。慶嶺山脈西南端部の山岳地帯に在り、東北境に積芳山〔六二五米〕、東南境に秋月山〔七二九米〕、北境に内蔵山〔七六三米〕、西境に自羊山あり。管内山地多きも、南北兩山地より下る諸水は中央部の低地に會流して秋嶺川となり、東方に流れ積芳山麓を迂曲して雙鏡面を過ぎ、發して梁山江に注ぐ。これ等の川筋に平地あり耕地比較的によく拓け、米・麥・豆類・棉花・大麻・莞草等の農産あり。淳昌・井州間の三等道路に當るも交通なほ便ならず。

フツコ

佛甲面 朝鮮全羅南道靈光郡の南部。北は郡邑靈光面に連り南は咸平郡海保・新光二面に接す。慶嶺山脈の西南端に在り、東南境に佛甲山〔五一六米〕、西境に三角山〔三五七米〕等あるも、中部より北部にかけては概ね平坦にて丘陵の間に耕地よく拓け、佛甲川これを潤し西隣の郡南面に田づ。農業榮えて米・麥・豆類・棉花の産少からず。咸平・靈光間の道路は中部を南北に貫きてバスを通じ交通便なり。

フツサ

福生村 東京府武蔵國西多摩郡の東部。多摩川の東岸にて、東は北多摩郡と隣り。武蔵野臺地の一部を占め桑畑多く、養蠶行はれて繭の産多し。府道よく發達し、省線八高線は中央を北走して東福生驛〔昭和六年設置〕を置き、また社線青梅電氣鐵道は西部を西北に走り、福生驛〔明治二十七年設置〕を置く。熊川村と組合村をなし、役場を本村に置く。

フツショ

佛生岳 大峰山脈の一峰。奈良縣吉野郡上北山村と十津川村との境上に峙つ。標高一八〇五米。南麓に釋迦ヶ岳〔一八〇〇米〕、大日岳〔五九三米〕、天狗山等聳き、北西麓に七面山〔一五五七米〕連る。この山の附近は南東に十津川に入る旭川の分水嶺をなす。山頂附近の山路に佛生の横掛と稱する名高き棧道がある。山頂の北東側直下には唐楡の純林あり。 大峰山脈

フツショ

佛生山町 香川縣讃岐國香川郡の東北部。高松市の南方三軒餘。東南部は木田郡に接す。全村地形低平にして灌漑用池沼多し。米産多く養も出し養蠶の名産あり、また食用鮭の養殖行はる。阿波街道は北部を横斷し、高松市よりはこの町を過ぎて南方の鹽江村への道路ありて市街地をこれに沿ふ。西北部に社線琴平電氣鐵道佛生山驛〔大正十五年設置〕あり、これより南方へ社線鹽江温泉鐵道分岐す。もと百相村と稱せしが明治三十一年現町名に改む。〔法然寺〕淨土宗。佛生山來迎院と號す。建永二年に法然は讃岐に配せられ那珂郡子松庄に一庵を結びて生福寺と稱し、彌陀如来像を彫りて奉安せしを本寺の創めとす。當寺は法然教後に寺勢衰へ、且つ天正の兵火に罹り樓に燬像のみを残せり。のち寛永八年松平頼重、寺基を現地に移して三十三門二十餘の大伽藍を建立、法然寺と名づけ同家の菩提寺となす。同十年準本山に列し、延寶三年寶祥長久新願不可混餘寺の繪旨畫に常樂衣の宣旨を賜はり、當に藩主の外護する所となる。寺境兩邊、饒望絶佳。寺寶中、觀世音功德圓・十五尊・源氏物語初卷の巻・紅葉賀の巻の外、釋迦涅槃像等國寶多し。

鏡かなる山脚によりて数條の谷に分る。布勢川は村内に發源して東北流し、流域に多少の耕地あり。米・蕎麦を主産とし、その他の産あり。三條の村道により隣村に通じ、水見町よりは自動車便あり。古くは和名抄、射水郡西郷の内なりしも、明治二十九年分郡の際に水見郡に屬す。幕末の勤王家、且つ劍豪として知られたる齋藤篤信(齋藤四郎)はこの地の人なり。

フツチ 富士 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多勢郡富士郷あり、蓋し富士の誤なるべし。その地今の養老郡笠郷村・廣橋村の邊ならんか。

フツチヨ 佛頂 ぶつちよ

佛頂山 阿武隈山脈の高峰。水戸市の西方約二五里。茨城縣西茨城郡北山村に屬し、西側は栃木縣芳賀郡蓮川村に延ぶ。標高四三一米。山中老樹繁りて幽邃なり。東麓に佛殿あり。この山、佛ノ山の別稱を有す。北麓に縣道佛ノ山峠の最高點(一九四米)あり、また南麓に奈良峠の最高點(三一一米)あり。

佛頂面 朝鮮忠清北道槐山郡の北部。南は郡邑槐山面に接し、北は忠州郡利柳面に、西北は陰城郡蘇伊面に界す。地やや南北に長く面積約七九方軒。車嶺山脈の支脈及び北境の西部に御來山(三九五米)、東部に福興峰(四八三米)、中部、南部にも高さ二一三米の臺の山地東西に延互す。漢江支流の達川は東南端を北流

し、陰城川は西北端の蘇伊面より來り中部を東南に横きりて達川に合す。陰城川に沿ふ小川の谷とに耕地拓く。米・蕎麦・大豆・粟・粟草・糠草等の農産あり。槐山・忠州間の道路は東部を南北に通ずるも交通なほ便ならず。

フツツ 富津町 千葉縣上總國君津郡の西海岸。東京灣と浦賀水道との間に突出する富津洲の部分を占む。全町平地にて水田・畑地あり、米・蕎麦を産す。特産物に富津南瓜あり。海岸は砂濱にて漁業行はれ、近海魚及び平貝・ばか貝・海苔等を産す。縣道は中央を走りて北隣青堀町、南隣大貫町に通じバス往來し、青堀町の省線房総西線青堀驛、大貫町の同大貫驛に出づるに便なり。富津は房総志料に古く作る。この地の謂ゆる富津鼻は斜に相模の走水と相對しその間僅に十餘軒。東京灣内の防衛上重要な地なり。されば、文化八年、松平越中守定信、台命を奉じ、海防の砲臺を築き、砲臺を置きしより、弘化年間更にまた堅固なる一砲臺を洲の頭端に増築し、續新前その砲臺を撤し、續新後に至り陸軍所轄に歸し、改めて舊址より東三百米の所に砲臺を築き堅固舊に倍し、のち更に洲の西二軒の海中に砲臺を築せり。明治三十年町制を布く。(八坂神社) 大字富津に鎮座。郷社。祭神、徳須佐之男命。創立年代詳ならず。古來富津の鎮守たり。例祭、七

月七日。(大乗寺) 大字富津にあり。淨土宗。普賢山と號す。貞元中に鎮守府將軍大野東人の創建に傳り、慧心僧都を請じて開山となす。永正中に相譽上人天台宗たりしを現宗に改む。故にこれを中興開山とす。慶安元年に徳川家光朱印領十七石を寄す。

フツツ 古渡村 茨城縣常陸國稻敷郡の東部。江戸崎町の東隣にて霞ヶ浦に臨む。南境附近は丘陵地をなすも、北部は霞ヶ浦沿岸の平地にて農業行はれ米・蕎麦を産す。霞ヶ浦には白魚・公魚等の水産あり。縣道は平地を西走して江戸崎町に通ず。霞ヶ浦は水運の便良く江戸崎町と土浦町に汽船を通ず。此地古くは和名抄信太郎兼濱郷の内とす。

フツツ 布土 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年に外一町一村と共に廢し河和町を置く。

フツツ 拂戸村 秋田縣羽後國南秋田郡男鹿半島の東部、八郎湯の西岸。南は船越町に接す。八郎湯西南の湖岸平野に位し、全村概ね平地にして湖沼・水田多し。村の生業は農業を主とするも、八郎湯に臨めるため漁業を兼ねるものもあり。米・魚を産す。道路は村の中部を西北より東南に通じ船川線船越驛へは約四軒あり。本村は江戸末期の親世家にして芝野の開拓、植林、堤防清渠、河川開墾、鐵山探掘、馬匹改良に盡力せる渡部斧松の生地なり。

フツツ 風渡野 埼玉縣北足立郡にありし村。大正二年に外六箇村と共に廢されて七里村を置く。

フツツ 富津内村 秋田縣羽後國南秋田郡の東北部。五城目町に東隣し、東は北秋田郡に接す。地勢東部に高く、西方に傾斜し、東北端には赤倉山(三九八米)、北境に坊處山(二八三米)、南境に藥師山(三九五米)聳え、五城目川は東北部に發源して村の北部を西流し、沿岸に耕地拓く。米・木炭・木材を産す。五城目街道は北部を略し東西に通じ、西方の社線五城目軌道五城目驛へは自動車の便あり。大字下山内に五丁目城址あり。五丁目采女正の居りし所、采女正亡びて後は秋田右近衛秀これに居城せりと。

フツツ 布都美村 岡山縣備前國赤磐郡の西北部。岡山市を距る約二〇軒の北方山中に位し、久米郡福渡町の東方約五軒に存す。面積一八・九方軒。土地概ね二一三米の山地に蔽はれ平地乏し。所々の山間平地に耕作行はれ、大部は山林に占めらる。粟落る處に散在し、養蠶を營み、また米・蕎麦・木炭・柿・蓮荷等を産す。縣道は東部を貫通し、岡山市に到るバスの便あり。(石上布都之魂神社) 大字石上に鎮座。郷社。祭神兼養尊尊。式内小社。布都之魂とは靈廟の謂にして、即ち日本書紀にいふ素戔嗚命命命を退治し給へる處正の創なり。この靈廟の鎮座に就きて書紀は或は大和國石上な

りといひ、或は吉備神部の許にありともいひ、前者は大和石上神宮にして、後者は即ち富津なりといふ。由來富津は石上神宮より遷し奉れるものか、或は富津より石上に遷せるものか試みて異説紛々たり。近世は池田家累代の崇敬社なり。例祭、十月二十日。

フツツ 物野面 朝鮮慶尙北道奉化郡の西部。郡邑乃城面の北隣にて、西は榮州郡浮石面に、北は江原道寧越郡下東面に界す。面積約一〇〇方軒。北部は小白山脈の山地にしてその東境には玉石山(二二三五米)・文殊山(二二〇六米)、西境には先達山(二二三〇米)・鳳凰山(八一九米)等聳ちて峻嶮なり。南半部は南西界に慶坊山(五八七米)あるも傾斜比較的緩く、北部山地に發する乃城川その東側の低地を南流しこれに沿ひて耕地拓く。農産に米・蕎麦・大豆・棉・大麻・苧草等あり。交通はなほ便ならず。

フツツ ロク 社 臺灣高州州州郡にある舊社。平地新興庄鎮の東北約四軒、海拔約六〇〇米の山腹に位す。もと新興庄南岸、現住地の西方約二〇軒の地に住したるも、常に福建人と争を生じ壓迫を受けたるを以て數度西方へ居を替へ、約二百五十年前に現在地に戸數約一二、人口七〇を以て移住し來り社を形成せり。パイロン族のパイロン著に屬する高砂族にて、本族の頭目は他の種族と異り純然たる世襲制なり。現在の戸數六

六、人口三一(昭和十一年調査)。

フツツ 武貞面 朝鮮全羅南道潭陽郡の東部。西北部は郡邑潭陽面に接し、東は谷城郡火面・玉果面、東北は全羅北道淳昌郡金果面と界す。昭和七年十一月もとの武面・貞面の合併して一面を建てしもの。地東西に長く、面積一六方軒餘。東境は雲山(五二二米)、北境は瑞巖山(四五八米)・高飛山(四六三米)等の山地、南境にも高度四百米臺の山嶺東西に連り、中央部は幅一軒内外の低地東西に延びて田畑よく拓げ、榮山江支流の西に延びて田畑よく拓げ、榮山江支流の五里川これを西流す。米・蕎麦・棉花・大豆等のほか以の産あり。三等道路は東西に通じ、潭陽・谷城等への交通は不便ならず。

フツツ 筆岡村 香川県讃岐國仲多度郡の西北部。善通寺町の西北に接し西北方約二軒には多度津町あり。土地平坦、灌溉の便よく米・蕎麦・蔬菜の農産物頗る多し。また養蠶行はる。讃岐街道中央を横断し、多度津町より琴平町に至る街道は東部を掠り、また中部には多度津町より善通寺町に至る道路繼續するあり。善通寺町の省線土讃線金藏寺驛に近し。中央には社線琴平多宮電線走りて中村・筆岡の二驛(大正十三年設置)あり交通便なり。村名は筆山の東麓なるより起ると。此地は舊の多度郡仲村・弘田の二郷を合せしものとす。(木野野神社) 大字中に鎮座。郷社。祭神、徳玉男命外

二柱。例祭、九月十九日。(雲氣神社) 大字弘田に鎮座。郷社。祭神、豊宇氣大神・大雷神。式内小社に列し宮國二十四座の一。例祭、十月二十日。(甲山寺) 大字弘田にあり。眞言宗善通寺派。聖王山多寶院。四國八十八所第七十四番札所たり。寺傳に、空海この地に瀟湘池を築きし功により朝廷より淨土を賜はりて堂宇を創建し、一山の形が毘沙門天の甲冑に酷似せるにより甲山寺と號すといふ。御詠歌「十二神みかたにもてる軍にはおのれとこころ甲山かな」

フツツ 普天面 朝鮮咸鏡南道甲山郡の北半。南は雲興面・惠山邑、北は咸鏡北道茂山郡三長面、東は同郡三社面に隣り、西は鴨綠江によりて滿洲國安東省長白縣と界す。もと普惠面とよびしが、昭和九年四月西南部の惠山邑が分離せるにより今の名に改む。東西約三二軒、南北約六五軒、面積一三〇〇方軒を越ゆ。北境に朝鮮の雲峰山(二七四四米)を蔽き、南内はその峰より成る臺地にして北東境に小白山・北龍胎山(二二八九米)・白沙峯(二〇五七米)・阿武山(一八〇三米)等の高峯連立する摩訶羅山脈蜿蜒互し、南内對する處密林を以て蔽はる。東南部山地より發し西南流して鴨綠江に注ぐ佳林川その他の河川の流域に平地ありて地味肥美農作に適す。木材を主産物として、他に蕎麦・蕎麦・大豆・玉蜀黍等の農産あり。近時南部の普天堡

(保田里)に農事試験所北鮮支場設けられ將來の農業の進歩期待せらる。惠山邑より茂山に通ずる二等道路南北に通じ、夏季は鴨綠江上に水運の便あり。

フツツ 府東面 朝鮮慶尙北道青松郡の東南部。郡邑青松面の東南隣にて東北は盈徳郡知品面に、東は同郡達山面に界す。面積約一三五方軒。大白山脈の西面に位し、東境には高度一〇〇〇米内外の山嶺連り概ね山地なるも、その間東西に谷地ありて半邊川の支流これを西流して青松面に出で、之に沿ひて幅狭き低地ありて農業行はれ、米・蕎麦・大豆・蕎麦等の産あり。青松面に沿れば安東・義城・英陽方面にバスの便あるも面内の交通はなほ便なるを免れず。

フツツ 不動 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は煙山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金堂山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、普賢村を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の境土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の磐石川穴口より上水したる鹿妻用水路南流して水田六百町歩、畑

地二百町歩を灌溉す。米を主産とし、大豆等の農産もあり、養蠶及び苹果・梨等の果樹栽培も行はる。また醬工品・蠶表・蠶扇類の特産あり。なほ年々九月中旬より翌年四月下旬まで青壯年の酒屋備として各地に出稼する者少からず。中央を縣道川久保線は南北に通じ、盛岡・志和村に各バスの便あり。省線東北本線は本村の東部を縦貫し、隣村野山村の矢幅驛に至る約四軒の間は縣道大沼線通じ、また日詰町には村道を通ず。大字岩清水は未だ軍記に天正十六年、斯波安徳守の邸舎に岩清水右京亮なる者あり、これここに在るを稱せしものか。

【不動岳】日本北アルプス後立山山脈の一峯。東側は長野縣北安曇郡平村に、西側は富山縣上新川郡大山村に属す。標高二五九五米。北麓は船窪岳・北葛岳(二五五一米)・蓮華岳(二七九九米)を経て、針ノ木峠最高點(二五四一米)に達し、南麓は烏帽子岳(二六二二米)に達す。東斜面に不動澤南流して濁小屋附近にて高瀬川に落つ。西方は北流する黒部川の深谷を隔てて木柵山(二三〇一米)・越中澤山(二五九一米)と對峙す。船窪岳乃至烏帽子岳方面より縦走して登頂せらるるも走路難し。

【不動山】越後山系妙高火山群の一峯。高田市の南西方約一九軒に當り、東側は新潟縣中頸城郡山形村に、西側は西頸城郡能生谷村と名立町とに屬す。標高一四

三〇米。山容圓錐形にして、山體斑石富士岩より成る。南麓は岩山(一四九九米)を隔て火打山(二四六二米)に續く。東麓は矢代川、西麓は能生川に限られ、北方より名立川發す。

【不動岳】赤石山脈南方部の一峯。大井川右岸の支流又川の西方に峙つ。静岡縣榛原郡上川根村に屬す。標高二一七一米。北方に合地山(二〇四米)、南方に九盆岳(二〇六八米)・黒法師岳(二〇六七米)・北西方に中ノ尾根山(二二九六米)を望む。東方の寸又川を隔てては大無間山(二三二九米)と對峙す。

フトミ 蒲萄・葡萄

【蒲萄山・葡萄山】日本海岸に臨み、新潟縣岩船郡村上町の北約二〇軒に當り、同郡下海府村と野野村との境界上に峙つ。標高七九五米。山は輪組にして積雪多し。東方の國道通する所を蒲萄(葡萄)峠とす。峠道に沿ひ蒲萄川北流して日本海に注ぐ。峠道は往昔の驛路として知られ、峠を越ゆれば大谷村字府屋を経て鼠ヶ岡に至る。

【蒲萄峠・葡萄峠】新潟縣北部、岩船郡野野村に所在する峠。最高點二六〇・九米。東方の盤山(七〇九米)と西方の葡萄山(七九五米)との結合谷を南北に走り、南西方の同郡村上町より山形縣鶴岡市に至る國道羽前街道これに通ず。往時は越後より羽前に至る一重要交通路とせられたりしが、輪組を以て知られ、特に冬季に至るを得。福光町よりバスの便あり。大字刀利に刀利嶺山あり。嶺は金銀嶺にして昭和十年より事業を開始したるが同年の産額は金銀嶺三越に過ぎず。

フトロ 太櫓

【太櫓村】北海道後志國檜山支廳太櫓郡一郡を占む。後志國の西南隅に位し日本海に面す。北は檜山郡、南は久遠郡に接し、西南海上には奥尻島を望む。面積二二・二五方軒。本道半島部の香檳山脈は本村の東境を劃して南北に通じ、太櫓岳(一〇五三米)・遊樂部岳(見市岳、二七六米)等の高峰を屹立せしめ、太櫓川を發す。太櫓川は山多き村内を西北に流れ敷本の小流を合して海に注ぐ。沿岸低地に耕地拓け、米の産多し。海岸線は小出入に富むも南半は險崖をなし、主として中央部に宇太櫓村ほか漁業集落あり、鰯・柔魚・鮭などの漁獲をなす。この地は明和年間開拓せられしもの如く、往時は純然たるアイヌ部落にして舊松前藩の支配を受け、文化四年幕府の直轄に移り、天明以降に至り始めて和人の移住するものあるに至れりと。明治三十九年從來の太櫓・良瑠石・古橋多・鶴泊の舊四箇村を合し本村を置く。村内には漁獲を始め金銀嶺・遊樂部等の幾多の嶺區はあれど何れも振はず、獨り大豊嶺山(遊樂)のみは昭和十年より事業を開始せり。宇太櫓より洞窟(船の便あり)。

フトミ 太美山村

富山縣越中郡西礪波郡の南端。西は加賀山脈を境に石川縣に接し、東はその分脈により東礪波郡に界す。全村九百一十五米の山岳に圍繞され、南端に小矢部川發源し西部に峡谷を作りつつ東北部に出づ。平地は東北部に少し開けて礪波平野に續く。面積は七四・三四方軒にして本郡第一の大村なるも人口密度は二〇人にて最少なり。聚落は西部谷沿ひに散在し、養蠶・林業に従事し、東北部には米・麥の耕作行はる。主産物は米・蠶・薪炭等なり。北部には福光町より縣道來り、村道により石川縣淺野川・犀川の上流に出で金澤市

は積雪多く、殆ど交通不可能なり。近年、羽越線西方海岸筋に通ぜしためこの峠路の利用は減じたり。嶺の峠は南流する須戸川と北流する蒲萄川との分水點をなし、我國稀に見る標式的梨棚式水系の一部分をなし地學上興味深し。最高點近くに矢吹神社鎮座し、その後方に洞穴、また峠の北東麓に蒲萄嶺山あり。

【蒲萄嶺山】↓野野村(新潟縣) 新潟縣北頸城郡玉野の中部。東南は加須町に接す。全町平地にて農業行はれ、米を主産し、養蠶も盛んでて産す。また穀物業行はれて納穀物の産多し。縣道は南部を横走して加須町と西北方の羽生町に通じ、聚落はこれに沿ひて發達す。社線東武鐵道伊勢崎線またこれに沿ひて西南部を掠むるも町内に疎なく、加須町に加須驛ありて自動車の便あり。もとは比日町と稱せしが、明治十六年の大火により村制頓挫せしめ、昭和三年十一月に町制を布き、以て今日に至る。

フトミ 不動堂村

宮城縣陸奥國遠田郡の西南部。涌谷町の西南約四軒。南は鳴瀬川を隔てて志田郡に對す。面積五・三八方軒。陸奥平野の中部に位する大崎平野の東部を占め、西南部に箱丘陵あるほか、全村概ね平坦なり。鳴瀬川は南境を東南に流る。米・麥・繭の産あり。道路は南部を東西に通じ、省線東北本線小牛田驛(明治二十三年設置)あり。

り、陸羽東線及び石巻線を分岐す。天文年中、大崎小僧九義宣この地に居り、のち義宣は桃生郡辻堂に敗死す。

【太井渡】往昔、武藏國と下總國との間なる江戸川を太井川、また太日川と稱し、此處に渡船場ありて太井渡と稱せしこと、類聚三代格に見ゆる承和二年六月二十九日の太政官符にあり。

フトミ 大海村

千葉縣安房國安房郡の東部。鴨川町の南隣にて太平洋に臨む。全村丘陵地にして、北部を東流する曾呂川の附近にのみ僅に平地あり。丘陵は海に迫りて断崖をなす所多し。農業・養蠶行はれ、漁業また盛なり。縣道は鴨川町より來り海岸に沿ひて西南に走りバスの便あり。省線房總西線またこれに沿ひて鴨川町に通じ、村内に大海驛(大正十三年設置)を置く。この地は和名抄、長狭郡日置郷の内なりしものか。傳によれば往昔、曾呂村二子に高山重忠の落胤同波・濱波と呼ぶ雙兒ありしが、同波は本村に來り大字同波太・濱波太を草創せりといふ。江戸幕末には岩槻藩大同氏、本村渡太及び前原の砲臺に據りて海防の任に當れり。島上に今なほ砲臺・火藥庫の遺址を存す。附近には名所舊蹟多く有名な仁右衛門島も附近の海上あり。【太夫崎名馬の洞穴】海に面せる小高き山中にあり。前には浪切不動尊を祀る。昔、嶺岡山牧場飼育の駿馬逃れてこの洞

【太櫓岳】渡島半島の脊梁をなす山脈の一峯。東側は北海道渡島支廳八雲町、西側は檜山支廳太櫓村に屬し、南麓は遊樂部岳(一七六六米)に達す。標高一〇五三米。原始的の山貌を呈し、東に太平洋、西に日本海を望む。從來は熊狩の地として知られたりしが、最近一般登山者を見るに至る。登山は両面本線八雲驛下車、それより遊樂部川の上流地まで自動車の便あり。スキー登山も興地深し。

【船山】京都市上京區西賀茂にある松樹鬱蒼たる山。賀茂川が山地より出でたる邊の右岸に聳ゆ。禪宗正傳寺の裏山に當る。往昔、この山の頂に妙見堂あり、毎年盂蘭盆會の精進送り火として船の形を點火せり、よりに此の名あり。今は毎年八月十六日の夜これを點火し、東山の大火字、松ヶ崎の妙法、大北山の左文字と共に京洛の偉觀をなす。

フナイ 府内

朝鮮咸鏡南道徳源郡の東北部。水興洞の西南岸に沿ひ、東南は元山府に近く、その間に南浦赤田面の東北部を隔て、西北は文川郡内面と界す。面積一二六方軒餘。西北境と南境と中部には狼林山脈南部の支脈延びて山岳起伏交互あり、米・粟・稗・大豆等の農産を出す。元山・會寧間と元山・平壤間の道路ありて前者は東部を南北に、後者は中部山地を迂回して略東西に通じ、鐵道咸鏡線は前

者に並走して徳源驛(大正四年開業)を設け、東半部は交通不便ならず。

フナイ 府内

【府内面】朝鮮咸鏡南道定平郡の首邑。郡の略中部東偏に位し、水興(洪仁面)と成興との略中間なり。面積八六方軒餘。狼林山脈南部の支脈延びて西境上に萬年山(八五八米)・道成山(六四八米)等を起し土地西北より東南に傾斜す。面の東南半部は平坦にして西北山地より下る河流これを潤して東南境の沼湖廣浦に注ぎ、流域に田・畑地拓く。農産に米・麥・大豆・大麥、嶺産に四元嶺山の黒標あり。元山・會寧間の一等道路と鐵道咸鏡線は共に東部を略南北に貫き、後者は東川里に定平驛(大正八年設置)を置く。東川里にはまた郡廳・警察署等あり。面内に徳豐嶺山あり、嶺は金銀にて昭和十年には金二七・八五五瓦、銀三五・二六八瓦、金銀一六六瓦を産し、この總價額は一萬三千餘圓、同年六月末の嶺數は八六人とす。

【府内面】朝鮮京畿道江華郡の首邑。江華島の東北部、漢江下流の左岸に位し、東はその分岐鹽河を隔てて金浦郡月串面と相對す。面積三三方軒餘。西境に高麗山(四三六米)ありてその山嶺は西北海の松海面との境を東北に延び、次第に低下し低き丘となりて漢江岸に盡き、南境中部にも傳燈山の丘陵地あり。其他は概ね低平にして喬木よく拓け、米・麥・蔬菜・桃等を産す。江華の市街は面の中央部官

廳里にあり、古くは江都と稱し、高麗の高麗が蒙古の兵禍を免けて一時都を置きし處にて、四面城壁を繞らす。郡廳・警察署等の官衙及び學校あり。穀物・干鰯・酒等の工業あり、毎月陰曆三・七日には市場開かれ商業また行はる。江華南門・傳燈寺・高麗朝の宮址をばじめ、邑の南より西にかけては洪陵(高麗高宗王陵)・坤陵(高麗元德太后陵)・碩陵(高麗熙宗王陵)・嘉陵(順教太后陵)等の陵墓あり。道路の中心をなし島内諸面に通ずるも江岸を去るを以て舟楫の便よろしからず。

【富内面】 朝鮮京畿道富川郡の略中央部。南西部は仁川府の東北部に接し、西は江華郡と西面を隔つ。北境に桂陽山(三九五米)、西境には鐵馬山(二七七米)、南境にも二百米程の山地あるもその餘の大部分は北隣の桂陽面、東隣の普丁面・桂南面に續く開けたる富平平原にて、中央部に葛月里の小丘ある外は平坦肥沃にて田畑よく拓け、富平水利組合の灌漑地をなす。米を主とし、麥・棉花・甘藷・白菜等の農産多く、甜瓜・西瓜・果實をも出す。京仁間の一等道路と鐵道京仁線は南部を横ぎり、後者は富平驛(明治廿二年設置)を置き交通便なり。

フナイ 船井

【船井】 京都市十七郡の一。丹波國の中部。西南には兵庫縣多紀郡に界し、其南の西南隅は僅に大阪府豊能郡の北隅に接す。到るところ山地をなし、中央には

丹波高地の主脈をなす佐々利山脈が一帶に横がり所々に山峰聳え、東境に黒尾山(五六八米)、略ぼ中央に美女山、西境に櫃ヶ嶽(五八二米)・三國嶽、西北部には三峰山等あり。南部は老坂山脈連り、西南境に深山(七九一米)、南境中央に牛岡山、東南境には龍王ヶ嶽等の山峰あり。北部は飯盛山地にして、西南方へ延ぶる二列の山地によりて西・北・東の三面を劃し、東境の長老嶽(九一七米)は郡の最高峯なり。山地は浸蝕よく行はれ陸起準平原面の平頂面は尖せて、全く從順山形をなす。河川は東南半に保津川及びその支流流れ、西北半には由良川支流の諸川あり。兩河川の流域は東北より西南の方向に連れる佐々利山脈に屬する四一五米の分水嶺によりて隔てられ、其中なる觀音嶺は山陰道の重要な道路なり。東方より來る大塚川は東南部を流れ、東北隅に發して西南流する田原川を合せて東南折し途中にて、西南部に源流して東に流るる岡田川を入れて南桑田郡に入る。東南半の河水は凡て大塚川に合す。北部には由良上流の大野川ありて西に貫き、觀音嶺附近より北流する高屋川を合し、其他の西北半の水を集めて西北流より何處郡に入る。西隅には土師川の上流より何處郡に入る。西隅に流るる各河川の谷は闊く且つ屈曲して埋積され所謂壯年地形の過程にありて、流域所々に僅少なる盆地開く。殊に須知盆地・岡田盆地は稍廣く、東南隅の大塚川

流域の八木町附近は龜岡盆地西北部の平地に屬す。田畑よく拓けて米・麥を産し、養蠶の副業も行はれ丹波栗の特産あり。郡内は岡田町・八木町・須知町の三町及び十八箇村を含み、平均人口密度は八八八にて最も多きは八木町の五六五人なり。山陰道が西南部を東南より西北に貫くは各河川に沿ひて縣道四通八達し、省線山陰線は村の中央を東南より西北に貫通し各地方への連絡便なり。三代實錄貞觀十六年に郡名見え、和名抄は不登爲と註し、刑部・志麻・船井・出鹿・田原・城崎・野口・須知・鼓打・木前・餘戸の十一郷を置く。

フナカ 船岡

【船岡】 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に船井郡船井郷あり、不登井と訓す。その地今の船井郡新庄村に當る。

り、総樓數十尺の高きにありて展望闊大伊豆七島一眸の中に入る。

フナカタ 舟形村

山形縣羽前國最上郡の南部。新庄町の南約九軒。南は北村山郡に接す。面積七七・八六方軒。東境に熊ノ返山(八二八米)、東北境に大鏡山(七一五米)、東南境に戸平山(五八二米)聳えて西方に傾斜す。小國川は村の中部を東北より西南に流れ、最上川に合し、最上川は西南境を西北に流る。小國川沿岸には耕地拓け米・蠶を産し、山地には木炭・馬の産あり。羽州街道は西部を南北に通じ、北羽前街道はこれより東方に分岐し小國川に沿ひて東北方に向ふ。奥羽本線舟形驛(明治三十五年設置)及び陸羽東線長澤驛(大正四年設置)を置く。此地は天平寶字三年紀に出羽國玉野、遊襲平戈云々とある遊襲驛のありし所なるべし。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(木友炭山)舟形村と北村山郡福原村とに跨る亞炭山。舟形驛より約五百四五十米の地點にありて鐵區は四十七萬二千坪、地質は第三紀新鮮層にて主に砂岩と頁岩とより成り、時に凝灰質砂岩の層を含む。殊に炭層の上盤の凝灰質砂岩なることは此處の地層の特徴とす。炭層は上三尺層・四尺層・木層(七尺)下三尺層が主なるものにして、また二尺以下の炭層が上記各層の上、又は下に整層をなす。淺野同族會社の經營に

フナカタ 船形山

奥羽山脈の一峯。東側は宮城縣加美郡色麻・小野田の二村及び宮城郡大澤村に、西側は山形縣北村山郡常盤村に屬す。標高一五〇〇米。東側と北側の水は數流に分れて鳴瀬川に注ぎ、西側の水は丹生川に合し、南側の水は大倉川に落つ。山勢峻拔にして中腹より上部には松樹密生し、高山性地を呈す。山上には船形明神(御所山神社)を祀り、往時は行者の登拜者多かりしも、今は登山者少し。この山は附近の荒神山・日天森・月天森・黒伏山と共に五山と稱され、御所山の別名あり。山頂に直径一〇〇米の鐵ノ池を瀦へ、又山中に瀑布・絶壁・岩窟等あり。山名は東方より認め山頂部平坦にして、その兩端少しく反り、宛も舟の形に似たるに因ると云ふ。登路は陸前國古岡町より舟形を経て通じ、羽前國は東根・天童の兩温泉より林道あり。

フナカワ 船川

【船川】 省線奥羽線の一。秋田縣南秋田郡内を走る。奥羽本線並分驛(金足村)に起り、二田・船越・船本・羽立の四驛を経て船川驛(船川港町驛)に移る。全長二六・六軒。船川驛より船川港驛に至る一・八軒の貨物専用線を分岐す。

部山地より木材・木炭・石材を、八東川より川魚を産す。省線若穂線東西に貫通し因幡船岡驛(昭和五年設置)を有す。もと鳥取藩の家老乾氏の知行所たりきといふ。

フナカタ 船形町

千葉縣安房國安房郡の西部。館山灣に臨み、東は那古町に、西北は富浦町と隣る。面積僅に一・六三方軒。北境は丘陵地をなすも南部の海岸に平地ありて米麥を産し、また養蠶も行はる。縣道は富浦町より來り、海沿ひに走りて那古町に通じバスの便あり。養蠶もこれに沿ひて發達す。省線房總西線は中央部を南走し那古船形驛(大正七年設置)を置く。海岸には沿岸鐵路の汽船寄港す。明治三十年に町制を布く。附近は海水浴場として知らる。此地は文明以來、里見氏代にこれを領し、徳川氏に至り幕領・諸侯の私領又は社領・旗本の采地等の沿革を経て王政復古となり、長尾縣・木更津縣を経て千葉縣の管下となる。(諏訪神社)大字船形に鎮座。神社。祭神、建御名方之命。古來富村の鎮守たり。例祭、七月廿七日。(屋の觀音)北嶺山の麓にあり、普門山大福寺と稱し、仁明天皇の御宇、慈覺大師の草創したるものにして、養老元年に行基菩薩の來りて自然石に十一面の觀音を刻みこれを祭る。のち火災に罹り御朱印その他の寶物鳥有に歸す。境内廣く木石の配合雅趣に富む。登れば中腹の自然岩窟中に堂宇あり、総樓數十尺の高きにありて展望闊大伊豆七島一眸の中に入る。

治二十七年に船川港町と改む。

フナカワミナト 船川港町

秋田縣羽後國南秋田郡の西部。男鹿半島の南面に位し、東南は日本海に面す。西境に丸森山(二七七米)聳えて東方に傾斜し、東北方には寒風山聳え、東北にはその南西麓をなす。全町概ね山地をなす。川は北部に發して東南に流れ日本海に注ぐ。沿岸に稍耕地拓く。船川港(内務省指定港)は東南部にありて背後に山地を負ひ、南方は南平澤の突出によりて冬の北西風を防ぎ、新潟以北唯一の避風港として重要なり。根ノ崎に燈臺あり、明治廿七年設置、不動白光、光達距離一・八・五哩。米・水産物・木材等を出す。港は主に北海道との間に取引行はれ、豆粕・石炭・木材等を移入し米・石油・木材・酒等を移出す。道路は海岸に沿ひて東北方に通じ、バスの便よし。奥羽本線並分驛より分岐せる船川線の終點船川驛(大正五年設置)・羽立驛(大正四年設置)及び船川港驛(昭和十二年設置)あり。本町はもと船川村と稱せしが明治二十七年に船川港町と改稱せり。男鹿名勝誌によれば、延寶の頃までは一町餘り神にありしが、漸々激浪に打たれて地は陥り、爲に住民は山を開拓して居所となす。戊辰の役には軍艦の來泊あり、爾來、汽船の往來絶ゆることなし。港の左右に砲臺あり、明治二年、藩主これを建造せしが幾年ならずして停止す。

フナキ 船木

【船木村】千葉縣下總國海上郡の東北部。利根川の南岸にて鏡子市の西隣にあり。北は利根川を隔てて茨城縣鹿島郡の一部と相對す。大部分丘陵地にて針葉樹林あり。北部の利根川沿岸は平地をなして米を産し養鶏も行はる。縣道は川沿ひに走りて鏡子市に通じ、省線成田線これに沿ふも村内に疎なく、村境に近き西隣の椎葉村内に椎葉驛あり。省線徳武本線は中部を東走するも同じく疎なく、椎葉村内に猿田驛を置きバスの便あり。利根川は水運の便多し。此地は椎葉村と共に和名抄海上郡船木郷の地にて、大字中島の金尾驛を中島城址なりといふ。海上筑後守持秀ここに居りしと傳ふ。

【船木】遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に奈原郡船木郷あり、布奈木と訓す。今の榎原郡吉田村、初倉村の邊に在り。

【船木村】岐阜縣美濃國本巢郡の南西部。北は眞桑村、東は木田村、南は牛牧村、西は雲田村及び川崎村にそれぞれ接す。西濃平野の北部にありて、東境は五六川南流し、西境には輪中騒動にて有名な犀川は自由蛇行をなして南下す。地は西濃特有の輪中地域の北部にて牛牧輪中に屬し、或は船木輪中とも云ふ。東は五六川輪中、西は七崎輪中と隣る。産業は主として農業にて、米・麥・粟・粟・粟・粟と産多く、殊に粟雲英は本邦に於けるその種子の本場にしてこの地方にて毎年の値

フナキ

段決定せらる。また富有柿の産も多く、主としてトラックを以て名古屋市場に運ばれ、最近では聖裁増も盛なり。大字美江寺は街村をなし、東河渡宿より中山道はこの美江寺宿にあり、これより直前に南折し犀川を渡り西南に良久の渡に至る。尤も今の中山道は美江寺南より南し、古橋輪中を経て迂回して舊路と合す。美江寺宿の鐘型の形は里制の影響と、東より直前に西へれば揖斐川と葦川の合流點に遭遇するため南折せしものと思はる。大垣市と北方町とを結ぶ大垣バス及び穂積より木村に至る量俣バス通じ、大垣驛と穂積驛との中間に位置して、何れへもバスによる交通の便あり。目下工事中の省線榎見線は大垣市と根尾村大字榎見とを結び、木村東部を通過し北方町に至る豫定なり。本村は和名抄の本巢郡船木郷の地にて中世は船木庄と呼ばれ、美江寺は船木庄西方十六條と云はる。明治となりて十五條村と三日市場村は合併され重里と改稱さる。この十五條(重里)・十六條(美江寺)・十七條・十八條の字名は北の眞桑村の十四條、南の牛牧村の十九條と共に古代の里制の遺名にして、いま道路・境界・水路を見るも遺跡を存す。美江寺は舊名は十六條村にて、養老年中開創の古刹美江寺の寺號より轉名せるもの、昔は宿驛なりと同時にこの寺の門前町として榮へ、永祿年間廢寺となり里名のみ残る。船木城址は町の東なる神明

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に高田郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の高田郡船木村の邊に當る。

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の呉市の邊に當る。

【船木町】山口縣長門國厚狭郡の中部。厚狭町の東南に接し、東は厚東村、南は高千帆町に界す。面積一六・三方軒。西北部及び南東部は山地に蔽はるるも地勢

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に高田郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の高田郡船木村の邊に當る。

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の呉市の邊に當る。

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の呉市の邊に當る。

フナキ 船木

【船木村】愛媛縣伊豫國新居郡の東部。新居濱市の東南方約四軒に位し、東及び南は宇摩郡に界す。南境には法皇山脈連りて西赤石山(一六二六米)・上兜山(一五六三米)等の高峰を起し、數多の淺き淺谷を造りつつ北へ急斜し、北盤は北部に於て東西に連る斷層を以て終る。東北境には讃岐山脈に屬する丘陵あり。西北部には新居濱平野の東南部に屬する平野開け灌漑用池沼あり。米・麥・粟を産す。北部低地には國道東西に横斷し西方の西條町へバスの便あり。古くは和名抄、新居郡丹生郷の地とす。

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の呉市の邊に當る。

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の呉市の邊に當る。

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の呉市の邊に當る。

フナキ

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の呉市の邊に當る。

る港として南北航海の要津に當り最も惠まれたる時代なりき。鎌倉時代に入りて一時は花輪村根城館主なる閉伊源頼基の東海岸地方を統一するに及び之に屬す。吉野時代、北畠氏の臣南部師行來るに及び郷村擧げて北畠顯家を援け、のち多賀國府靈山城・宇津峯城陥るに及びて、本村の豪族、顯家の子顯成を船越館に奉じて船越御所と稱し、之より三代(顯成・顯元・顯邦)六十餘年間(應永十八年まで)此處に據る。文中年間長れ多くも、長慶上皇は船越御所に御游行あらせらる。上台陵は上皇の御陵と稱せらる。本村が朝廷と交渉多く感懐深き時代なりき。戰國時代となり大徳氏の治下に屬せしも政令行はれず盜賊横行の世となり。元龜天正の頃、本村の豪族船越修理之亮及び弟金濱圓吉は力を協せて三戸南部信直を輔佐して津輕三部を押領し一族九戸政實を亡して統一するに及び本郡始めて南部氏に歸し、本村また其の治下に入る。されど南部氏は生産の重點を農村に置きしを以て人民は打撃く凶作と重税とに苦しみ藩の財政また豊ならず、上下共に經濟難に陥り村民は北海道に出稼又は移住する者多かりき。享保二十年に藩内を十郡三十三通に分つに當り、本村は閉伊郡大船越に屬し大船代官所の支配を受く。村内に肝煎を置き、其の下に数人の老人ありて之を援け、若衆は其の命によりて公事事業を助く。村民の生産は半農半漁なり

き。明治維新に村共有の土地は全部國有地に編入せられしを以て生産は漁業に單一化せらる。明治五年に岩手縣に入り本村には戸長、部落には組代を置く。本村は三面海なるを以て、往昔より屢々津浪の被害を蒙り、其の都度他地方より移住し來れるを以て和協を缺くこと多し。明治廿二年町村制實施し、従来の通り船越區・田ノ濱區・大浦區の三部落を區域とせり。村理事者を更ふること十七代、村長代理九回、如何に本村が統制上難村なりしかを窺ふに足る。昭和七年に船越小學校を漁村郷土教育の指定校とせらる。同八年の津浪には人命には殆ど異狀なかりしも被害は甚大にして復興の途上におり。同九年に經濟更生村として指定せらる。同十年に前内大臣齋藤實親しく視察し教化村として指定す。同十一年十一月二十六日、長くも、秩父宮・同妃兩殿下御成あり、民情を御視察あそばさる。村民恐懼感激し、協力一致して本村の更生を期し、高恩に報じんとして選進しつゝあり。

る外概ね平坦なれども湖沼多くして低濕なり。八郎湯沿岸に水田拓け、日本海岸は砂濱をなし、森林・草地あり。村の生産は農業四三%、商一四%、漁業六%にして、他は農漁・農業兼商業なり。米・湯の魚・佃煮等を産す。道路は中部を東西に通じ、東方の天王村とは長橋を架して聯絡す。各地にバス通す。省線船川線船越驛(大正三年設置)あり。町名は八郎湯の畔口に近く、天王村との間に往時は船にて交通せしを以て船越の名起ると云ふ。明治三十八年町制を布く。

臨み、地勢概ね平坦なる低地を以て蔽はる。後背地に小山地あり、海岸には沼田多し。一般に發芽薯蓣、醬油・酒・醬油等盛んにして米・野菜・鶏瓜等の農産これにつぐ。海上舟楫の便を有し、また海田市驛に近く交通便なり。昭和三年に町制を布く。

はり、三浦灣口の中央には黒島を初め小島嶼浮ぶ。西岸の前面にも無数の島嶼散在す。海岸は水産物に富み漁獲多く、部落は沿岸に散在す。村内に鐵區四四萬餘坪を有する金生嶺山あり。鐵種は金銀銅鉛亜鉛硫化鐵にして昭和十年に事業を開給す。交通は發動機船の便ありて附近の町村と連絡す。要害地帯の一部なり。古くは和名抄、下縣郡鶴知郷の内とす。もと大船越・小船越の二村に分れたり。大船越・小船越は元來水道の名にして、のち村名に轉せしもの。大船越は寛文十三年宗氏の開墾するところと傳ふ。「阿麻氏留神社」村社。祭神、天日神命。式内社。俗稱は日權現。例祭六月九日。

和名抄に高田郡船木郷とあるは本村ならんとす。

【船越村】 兵東縣播磨國赤穂郡の西部。上郡町の西に接し、西部・西南部は岡山縣と氣道に界す。全村三—四百米の山地をなし、南境には有名な船越峠と石塔山(四二二米)あり。一河川は西部に發して中央を東流し、流域の中部及び東部にやや平野開けたり。東部には舟坂峠に發する一支流あり北流してこれに合す。沿岸に稍低地を見る。米・粟・粟稗・麥類・蕎麥・蔬菜・花卉・果實・食用農産・鶏卵等を産し、また製菓品の産あり。東南部には山陽道通過し船越峠を越えて岡山縣に出で、省線山陽線は東部を走りて上郡驛へは東方約二軒の距離にしてバスにて連絡す。元弘二年、後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の時、兒島高徳駕を奉はんとしてこの地の船越峠に要せしが、軍駕はこの地を經ずして美作國に向ひ給ひ、よりて高徳これを追うて美作院莊に至り、御館に忍び入り庭前の櫻樹を削りて赤心を二句の詩に表はせりと傳ふ(太平記)。「八保神社」大字八保に鎮座。祭神、豐受姫命。創立年月詳ならず。仁明天皇承和七年に官社とせられ、ついで延喜の制に國幣の小社に列せられ、國內報に明神小社と見ゆ。例祭、六月十五日・十月二十五日。

【船越村】 志摩國(三重縣)の古地名。和名抄に美濃郡船越郷あり、その地今の度會郡五ヶ所村・神原村・南海村・穂原村・宿田曾村の邊なるべし。

【船越村】 廣島縣安藝國安藝郡の西南部。廣島市の東南に連り、廣島灣に南面す。東は瀬野川をもつて海田市町に界し、北は畑賀村、西は府中町に接す。面積三・三〇方軒。廣島灣の東北隅なる海田灣に

【船越村】 長崎縣對馬國下縣郡の東北部。東は對馬海峡に臨み、西は淺海灣に面す。村内平地なく、對馬上島と下島との間に西方より深く廣く穿入する淺海灣一帶の地を占め、海岸はリヤス式出入をなし大小の角魚類を獲し、東西兩岸相迫りて將に接せんかと思ゆる地狭部も數多あり。東岸の中央に蘆ヶ浦、廣き三浦灣あり、船才天崎によりて兩者を分つ。蘆ヶ浦口には沖島の大島・赤島等横

【船越村】 長崎縣對馬國下縣郡の東北部。東は對馬海峡に臨み、西は淺海灣に面す。村内平地なく、對馬上島と下島との間に西方より深く廣く穿入する淺海灣一帶の地を占め、海岸はリヤス式出入をなし大小の角魚類を獲し、東西兩岸相迫りて將に接せんかと思ゆる地狭部も數多あり。東岸の中央に蘆ヶ浦、廣き三浦灣あり、船才天崎によりて兩者を分つ。蘆ヶ浦口には沖島の大島・赤島等横

【船越村】 長崎縣對馬國下縣郡の東北部。東は對馬海峡に臨み、西は淺海灣に面す。村内平地なく、對馬上島と下島との間に西方より深く廣く穿入する淺海灣一帶の地を占め、海岸はリヤス式出入をなし大小の角魚類を獲し、東西兩岸相迫りて將に接せんかと思ゆる地狭部も數多あり。東岸の中央に蘆ヶ浦、廣き三浦灣あり、船才天崎によりて兩者を分つ。蘆ヶ浦口には沖島の大島・赤島等横

【船越村】 長崎縣對馬國下縣郡の東北部。東は對馬海峡に臨み、西は淺海灣に面す。村内平地なく、對馬上島と下島との間に西方より深く廣く穿入する淺海灣一帶の地を占め、海岸はリヤス式出入をなし大小の角魚類を獲し、東西兩岸相迫りて將に接せんかと思ゆる地狭部も數多あり。東岸の中央に蘆ヶ浦、廣き三浦灣あり、船才天崎によりて兩者を分つ。蘆ヶ浦口には沖島の大島・赤島等横

【船越村】 長崎縣對馬國下縣郡の東北部。東は對馬海峡に臨み、西は淺海灣に面す。村内平地なく、對馬上島と下島との間に西方より深く廣く穿入する淺海灣一帶の地を占め、海岸はリヤス式出入をなし大小の角魚類を獲し、東西兩岸相迫りて將に接せんかと思ゆる地狭部も數多あり。東岸の中央に蘆ヶ浦、廣き三浦灣あり、船才天崎によりて兩者を分つ。蘆ヶ浦口には沖島の大島・赤島等横

郡にも近く交通便利なり。古くは船江町の地と共に和名抄、舟津郷の地とす。大字長泉寺の城ヶ峰に長泉寺城址あり。朝倉登健・同景風の居城とす。一向一揆の際には混戦の巷となる。村内の白鬼怒橋は古くより多く詩詠に入る。〔舟津神社〕大字上船江に鎮座。祭神、大毘古尊。大山御板(御鏡)神社と社名を並ぶ。大毘古尊は孝元天皇の皇子にして四道將軍の一人なり。社傳に、大毘古尊は崇神天皇の御宇に北陸道高志國討伐の時、猿田彦神の神教により平定するを得たり。よりて大山御板神社に祀りきといふ。もと逢山の嶺に鎮座し上宮と稱せしに對し大毘古尊を奉斎せる宮社を下宮と稱せしが、戰國の世、大山御板神社は兵火に罹りしかば當社に併すといふ。共に式内小社に列す。地方の名社として上下庶民の尊信厚し。境内千古の靈境たる趣あり、船津八景あるを以て知らる。

フナツ

【船津村】山梨縣甲斐國南都留郡の西部。富士山の北麓にして、全村富士嶺根國立公園の内に。河口湖の東南岸を占む。略ぼ南北に細長く、高度一五〇米以下の裾野の一部をなし、北部河口湖畔に緩傾斜し、東北部僅に三ツ峠山木崎の傾斜地を含む。葉落は湖畔にあり、湖上・陸上交通の要地をなし、養蠶・林業・牧畜を生業とす。國道は吉田より東北部湖畔を北に走り、一條の縣道西へ、里道を南方

富士山頂へ分岐す。社線富士山麓電線終點富士吉田驛へ約四軒。湖上には舟楫の便あり。本村は河口湖の東南岸にして、ここを経て吉田・山中の驛舎に通ず。甲斐國志によれば往昔この地に番所あり、古來官道なれば隣敵のために備へしものならんと。また小林尼藍守の館址あり。〔船津胎内樹聖〕指定天然記念物。曾て富士山麓に森林をなしたる樹木の幹枝が富士山活動の際流出せる熔岩流に包まれ木質炭化し、幹枝の型像を熔岩冷結後に留めたるものなり。吉田胎内には樹型に伴うて天然木炭を發見す、火山活動の副現象として學問上殊に興味あり、且つ研究資料として有益なるものとす。

【船津町】岐阜縣飛騨國古城郡の北部。北東は富山縣上新川郡に接す。飛騨高原の北部飛越國境に位し、花崗岩及び片麻岩より成る池ノ山(三六八米)・高嶺山(一三三二米)・横岳(一六二二米)の連峰が北部に聳立し、また南部には二十五山(一一一九米)・大洞山(一三四八米)、西境には漆山岳(一三九三米)あり。町の中央には南北に高尾川が高原を切りて北流し、峡谷をなして流れ、北部に於て津津川を合す。大字鹿間邊は主として片麻岩と花崗岩の發達を成り、一部にシユウ系の水成岩層の發達を見らる。此邊を中心に阿曾布村と富山縣上新川郡福澤村に互りて三一七萬餘坪の大鐵區を有する神岡鐵山あり、船・亞鉛の産に於て本邦屈指の鐵

山にて重要鐵山に屬す。鹿間の東北東約一軒の處に摺鉢山及び二十五山あり、その山頂及び中腹には塊狀接觸鐵床の露頭あり。本鐵山の主なる鐵石は方鉛鐵及び閃鉛鐵にして、その總額は昭和十年に於て四五八萬餘噸なり、同年六月末の鐵石數は一、一八七噸にして、事務所は鹿間にあり、船津町の盛衰これに負ふこと多きを思ふべし。本鐵山は古く從老年間の發見なりと傳へられ、明治十九年頃三井の手に移り現に三井鐵山會社の經營たり。神岡、次に聖壽鐵山の鐵區は當町と富山縣婦負郡細入村とに跨る。この鐵山は重要鐵山にして昭和十年には黒鉛三一七・六噸を産す。この外當町内に谷などの黒鉛山あれど振はず。また農業も僅に行はれ、木工品も産す。交通は高原川の谷には越中街道の東街道通じ、鐵山の發見以來交通主要街となりしが、鐵道の敷設を見ず、鐵山專用の神岡軌道通ずるのみ。此地は石器時代の遺物も多く、傳説には建御名方命及び大彥命が當地方に御下向ありたりといひ、縣社大津神社には同神を祭神として崇奉す。和名抄に見ゆる寛城郡邊郡は此地一帯の地に於て、中世は高尾郷と呼ばれ、江戸時代に高山藩領となり、高山藩断絶後は幕領となる。明治となり附近一帯は神岡村と稱せられ、更に分割し船津町と阿曾布村とに分る。本町は高原川の沿岸にあり、古來渡船にて往復せしを以て、渡船・船

港へ定期航路を有し、また本村漁業の中心地なり。鰻・鰻・蟹・鮭・鱒等の漁獲多し。本村は船泊・神崎の二部落より成り、港内は水深くして碇泊に宜しく附近は漁場として知らる。

フナツ

【船上山】 ↓以西村(鳥取縣)

フナツ

【舟橋村】富山縣越中中國町

新川郡の西部。富山市の東方約六軒。上市町に至る社線富山電線沿に沿ふ。富山平野の一部を占め、白岩川左岸に位す。数條の支流村内を貫流し灌水よく殆ど未田をなす。藥品を特産す。社線富山電線は村内を貫き船中舟橋驛(昭和六年設置)あり、富山・上市町間、東水橋町・五百石町間の主要縣道は村内に交錯し交通便なり。近世は高野郷の内とす。

フナツ

【千葉橋市】千葉縣四市の一。

縣の西北部に位す。東は千葉郡二宮町・津田沼町に隣し、西は市川市に接し、北は鎌ヶ谷村と接し、南一帯は東京灣に臨む。土地概ね低平なるも北部一帯は小丘起伏して海地をなす。海老川は中央を南流し、その沿岸は地味肥沃にて米穀・蔬菜の栽培に適す。面積四〇・二九方軒、

Table with 2 columns: 種別 (種類) and 價格 (価格). Rows include 農産 (農産物), 畜産 (畜産物), 林産 (林産物), 水産 (水産物), 工業 (工業品).

付きの意より船津と稱したるものと云はる。承久年間には江馬時頼が當地に居城して高尾郷を領し、天正年間には糸屋宗貞、領主金森の知遇を受けて鐵山を開き今日の如き鐵山町となれり。町には警察署・養蠶部・實科高等女校あり。

【船津村】三重縣紀伊國北牟婁郡の中部。東南は引本町に接して熊野灘に近く、西南は相賀町に隣る。西北部は多紀郡に界す。村内は地形高峻にして、山脈は皆略ぼ西北より東南の方向に走り北隅には大河内山(八五七米)あり。東南部には一帯の低地を挟み、三〇〇―四〇〇米の丘陵錯居して海を隔つ。この低地に大田沼あり、之より流出する水は一條の河川となりて低地を流れ丘陵の西を繞りて南隅より相賀町地内に入り白石湖に注ぐ。米・蠶・麥・鶏卵のほか林産・工業・畜産あり。低地には熊野街道と省線紀勢東線通過し船津驛(昭和九年設置)あり。

フナツ

【船津村】兵庫縣播磨國神崎郡の南部。

市川の東岸に沿ひ飯路市の東北約四軒にあり。市川流域の平坦地を占め地形低平なり。市川は西境に沿ひて南流す。米・小麦・蔬菜・花卉・葉煙草・果實・蠶・食用農産・蠶等の農産物多く製製品・醬油・豆物・木製品等も産しまた鶏卵もあり。東部には縣道南北に貫通し省線播磨線津口驛へは西方約一軒にしてバス通す。この地は和名抄、神崎郡山郷の内なりといふ。

人口四三、六六九、その密度一、〇九一人とす(昭和十二年)。市街は東南部の海岸に形成せらる。昭和十二年に於ける本市の産業を各別に見れば別表の如し。農産中、最も多きは食用・飼料及び工藝農作物にて其總額八十六萬圓とす。大消費都市東京を間近に控ふる故に、二毛皮は三毛作によりて多量に栽培し、即日東京市に自動車を以て移出せらるるものにして、その主たるものは甘藷・西瓜・葱・漬菜・ハワレン草等とす。米は殆ど水稲にして、稈米三十九萬圓、糯米四萬圓程度とす。麥は大麥・小麥ともほぼ同じく各十八・九萬圓程度にして、他に約九千圓の粟を産す。梅・桃・枇杷・李等の果實栽培行はるるも年八千圓程度にて見ざるべきもの少し。畜産はあまり振はず。豚・鶏等の飼養行はるるも殆ど副業的なり。屠殺数の最も多きは豚にて年約六千頭、約十九萬圓とす。水産は殆ど沿岸漁獲物にして、魚類は多種に互るもイナ・コノシロ・エビ等の外は何れも微々たるものとす。養蠶としては専らアサリ・ハマグリ・バカ・ツホキ等の貝の養蠶行はるるも其總額は約九萬圓なり。水産製産物として、佃煮(約三萬圓)・干海苔(約二萬圓)等々多く其總額約九萬圓とす。工業は何れも未だ振はずして家内工業の域を脱せず、ただ製粉の約四百三十萬圓は断頭角を抜き、萬年筆(約八萬圓)・木製品(約五萬圓)・金屬製品(約五萬

同(魔法堤(約二萬間)等)これに次ぐ。交通は、省線武本線は市の西南部を西より東に走り、船橋驛(明治二十七年設置)下總中山(明治二十八年設置)の二驛を置く。社線武本線は東北方より東へ、武本線の船橋驛に終り、市内に塚田・馬込の二驛(共に大正十二年設置)を置く。また武本線とほぼ並行して社線京成電氣軌道通じ、京成中山・葛飾・海神・京成船橋・大神宮下・京成花輪の六驛を置く。本市は二千五百有餘年前、景行天皇の四十年に皇子日本武尊御東征の際に神鏡をこの地に奉寄せられ、海濱と稱へ給ひしが、同五十三年天皇行幸の際、霖雨しきり洪水大いに起り往來するに船を漕ぎ渡ししを以て海濱を改めて船橋と稱す。天皇の第四皇子五百城八彦尊と御孫富ノ邊、船橋へと向はせられ東國八十八箇所の縣主となり給ふ。其後國主の領となりしが、のち承久元年四月千葉藩風の管領となり千葉庄に屬す。慶長十三年徳川家康この地を以て幕府の直轄となす。降つて慶應四年知事佐々木貞之助の支配となる。明治二年葛飾縣、同四年印旛縣の所管を経て同六年千葉縣管轄となり、同十一年東葛飾郡所屬に歸す。其後幾多の變遷を経て同二十二年船橋町と改稱す。爾來年を遂うて人口益々増加し市況著しく隆昌となりしを以て、昭和十二年に隣接町村たる葛飾町・八榮村・法典村・塚田村の四箇町村を合併し、其區域

を以て市制を施行す。其くも明治天皇は明治六年(大和田原行幸)・同八年(習志野・下志津原行幸)・同九年(習志野行幸)・同十二年(千葉縣下行幸)・同十四年(三里探行幸)・同十五年(千葉縣下行幸)の數度この地にて御泊泊及び御小休遊ばされたり。なほ本市には日本青年協會壯健道場あり。昭和八年の設立にして清浦伯爵を總裁とし、宇垣陸軍大將を會長とし、農村青年の人格陶冶と併せて近代科學的農業を體得せしめ、以て農村の中核たるべき青年を養成する道場なり。(意富比神社)大字五日市に鎮座。一に船橋太神宮ともいふ。縣社。祭神、天照皇大神。社傳に景行天皇四十一年日本武尊御東征の勲、此地に早敷甚しく土民困窮せるを以て、即ち當町大字海神に伊勢神宮を奉寄して祈り給ひしに神威ありしを以てここに當社を創建すといふ。のち現社地に轉す。延喜の制式内小社に列せらる。源賴義・義家父子は社殿を造營し、同義朝・實朝は社領六郷を寄附、徳川氏の世に至り未だ五十石を附せらる。朝廷の御歸來また津からざりしを以て、九月十五日(船橋無線電信所)行田新田にあり。主塔の長さ二〇〇米、これより傘形に空中線を張り、支柱十八本を四〇〇米の距離に立つ。海軍省が大正五年に建設せしものにして、目下東京無線電信局にて通信を取扱ふ。この局にては大正五年ハローイを對手として對米國際通信を開始し、

其後、東京天文臺より發する中央標準時の放送・ニュース・旅行警報・氣壓電報などの放送を相次いで開始せしが、大正十年より對米通信業務は原町電信所に譲り、今は南洋群島との通信を扱ふ。(艦不動)八榮南金杉にあり。慈覺大師の作と傳ふる不動明王を安置す。境内に遺あり、毎月二十八日の縁日には近郷よりの參詣者多し。(試砲臺址)五日市の了源寺内にあり。小丘にいま遺構を遺す。享和年間徳川氏ここに砲臺を建造し鐵砲を試み砲術を練習せり。

印旛沼西端の北岸にて木下町の南隣にあり。西南は千葉郡の一部と隣す。全村丘陵地にて針葉樹林あり。南部の印旛沼沿岸のみ狭き平地ありて、米・藁・麥を産し、養鶏も行はる。木下街道は中央を北走して木下町に通じ、バス便あり。木下町に省線成田線木下驛を置く。この地は宗像村と共に和名抄、印旛郡船橋郷の地に於て、大字結縁寺には源三位頼政の敗死後、その家士首を携へてここに來り首を埋めしといふ。(船橋寺)大字結縁寺にあり。新義眞言宗豐山派。晴天山。神龜年中に行基の開創に係り、本尊阿彌陀如来はその刻するところといふ。のち衰頹せるを源頼政の臣、主の首級を此處に葬り本寺を中興すといふ。寺寶中、不動明王立像一軀は國寶なり。境内に源頼政墓と稱するものあり。

フナホ 船橋

千葉縣下總國印旛郡の西部。

フナホ 船橋

千葉縣下總國印旛郡の西部。...

フナマ 船間

古江西線の一驛(大正十二年設置)。鹿兒島縣肝煎郡花岡村大字木谷にあり。

フナミ 舟見町

富山縣越中府下新川郡の北部。もと北陸道たりし縣道に當り、黒部川扇狀地の東部を占む。東部に飛騨山脈の餘脈伸び來り一千米近き負釣山ありて西へ傾斜す。西北半は黒部川沖積原に屬し、地味肥沃にて米を多産し、黒部西瓜の特産あり。街は山麓縣道に沿ひ、地方的中心として商業行はる。泊町・入善町へ縣道バス通じ交通便なり。古くは和名抄新川郡佐味郷の内に屬せしもの如く、中世は愛本・山崎二村と共に應保と稱せらる。當町と愛本・内山の二村に互る白馬山の地域は高山植物群生し、いま白馬連山高山植物地帯として天然記念物たり。域内に舟見嶺あり。冷温泉と炭酸泉の二泉。土地高燥、舟川に臨み、悉に日本北アルプスを望む。

フナシ 府南面

朝鮮慶尙北道青松郡の南東隅。北は郡邑青松面と府東面を隔てて、東より南は迎日郡竹長面に隣りす。面積約一二〇方軒。大白山脈の南部山地に位し、南境に九岩山(八〇七米)、北境には舞池山(七一七米)等時つ。半邊川の支流東境に發し西北に流れて北隣の府東面に出づ、川の兩岸に沿ひ長良の地ありて耕作行はれ粟落藪す。米・麥・大豆・大麻・楮・柿等の農産あり。道路

フナシ 富南

富山縣上川郡にあり。北陸本線富山驛より分岐し、堀川新驛(堀川村)に至る。全長五軒。軌間一〇六七米、蒸氣及びガソリンを併用し、省線と連帯運輸をなす。

フナニ 船生村

栃木縣下野國鹽谷郡の南部。蕨町の東南隣にて、鬼怒川の北岸に位し、南は川を隔てて河内郡の一部と相対す。高原山より南方に續く山地を占めて中央に霧嶽(六六八米)

フナニ 船生村

栃木縣下野國鹽谷郡の南部。蕨町の東南隣にて、鬼怒川の北岸に位し、南は川を隔てて河内郡の一部と相対す。高原山より南方に續く山地を占めて中央に霧嶽(六六八米)

あり。山地一帯森林多く、木材を産し製炭行はる。南部の鬼怒川本支流の流域には狭き平地ありて農業行はれ米・麥・芋等を産するも産業状況は一般に感ならす。最近東境なる日光嶺山に樹く者多し。日光北街道は南部を西走してバスの便あり。下野電氣鐵道また之に沿ひ、村内に天頂(大正十三年設置)・長峰(昭和五年設置)・船生(大正十三年設置)・西船生(昭和五年設置)の四驛を置く。當村と玉生村・大宮村との境界邊には石英粗面岩と黒灰岩よく發達す。重要無山たる日光嶺山に實に此處を鎮座す。鎮座は石英粗面岩の裂罅を充填したる正規噴火にして、主要なるもの四峰あり。鎮座は金銀銅鉄鉛なるが、昭和十年には金銀銅鉄一七、九三七七、沈殿銅四處を産す(鎮山の本據は玉生村字長峯澤にあり)。なほ當村内或は他村に鎮座が跨りて幾多の鎮山ありど何れも振はず、されど其中にては萬珠鎮山(金銀銅山)最も長く昭和十年に金銀三四二處を出す。他には僅かながら稼行中のもの内、大正鎮山・長安鎮山・鹽谷鎮山(何れも金銀銅山)を舉ぐべし。古くは和名抄、鹽谷郡散伐郷の内とす。花營三代記に雲原合戦の時、舟見父子討死の由見ゆ。舟見氏はこの地に屬せしものか。(佐貫石佛)指定史蹟。高さ約六〇米に餘る巨大なる大日如來の坐像にて、蓮座より頭上までの高さ約一八米、顔の長さ約三米、幅一・六米、顔面の輪郭

フナニ 船生村

栃木縣下野國鹽谷郡の南部。蕨町の東南隣にて、鬼怒川の北岸に位し、南は川を隔てて河内郡の一部と相対す。高原山より南方に續く山地を占めて中央に霧嶽(六六八米)

フナニ 船生村

栃木縣下野國鹽谷郡の南部。蕨町の東南隣にて、鬼怒川の北岸に位し、南は川を隔てて河内郡の一部と相対す。高原山より南方に續く山地を占めて中央に霧嶽(六六八米)

大にて鎌倉時代の作と思はる。佛像の上方に岩窟あり、寶藏と稱し、岩窟より出されたる銅により辛うじて建することを得、この岩窟は古來六十年ごとに開帳すと傳へ、明治十二年に開帳せられし時、銅板及び和鏡など取出し、そのまゝ有志によりて保管せらる。

フナー 扶寧面

朝鮮全羅北道扶安郡の首邑。郡の東北部に位し、面積二四方軒餘。富浦(は南西約一六軒、金堤(は東北約一五軒隔つ。全北平野の西部にて東津江・八旺川の流域に連り、北部と西南部に小丘陵地ある外は殆ど平坦地にして耕地よく拓け、古旱水利組合の灌漑地に屬す。米を主とし、麥・棉花・大豆等の農産多く、吠の製造業あり。扶安(東中里)の市街は北部の丘陵地にあり、定期の市場開かれ、金堤・富浦へバスを通じ、郡廳の所在地たり。その西林公園は上盤山の麓に位し老松丹楓、春秋の風光に富み、上盤山上の眺望は雄大なり。

フナー 富寧

朝鮮咸鏡北道二府十一郡の一。道のほは東北部に當り、南は清津府及び鎮城郡に、西は茂山郡に、北は會寧及び鎮城の二郡に、東北は慶興郡に界し、東南は日本海に面す。東西約六〇軒南北約四〇軒、面積約一九〇〇方軒あり。西部をほは西南より東北に連る小長白山脈北部と、東部をこれに並行する會寧丘陵山地南部より成る地域にて、西境即ち茂山

郡界には坤峰山(一九二七米)・車輪山等
時、西南界即ち鉾城郡との境上には支
脈の高城山(一七五六米)・農司殿(一三二〇
米)・高畑臺(六〇九米)の諸峰あり。東
部には西に芝峰(一〇四八米)・仙嶺・散
魯山(七四六米)・東に白砂峰(一一三九
米)・於石山・登米峰等の脈南北に延びて
日本海岸に傾き、西部の坤峰山・高城山
間の谷に發する城川水は北流して小長白
山脈を載り茂山郡に出づ。鴨津江に注ぐ
も、車輪山の東側に出づる鴨津川は小長
白山脈と會峯丘陵山地間の構造谷を南下
し清津府を貫き海に入り、東部の富居
川・葉清川等もみな南流して日本海に注
ぐ。以上諸川の沿岸と東南部の沿海に小
平地あるも大部分は山地にて耕地狭小な
り。農産に米・麥・雜穀(粟・稗等)・豆
類・大麻等あるも産額なほ多からず、沿
海には鱒・鯛・明太魚等の漁獲に富み、
如雲洞金山をはじめ銀山少からず、金・
銀・銅・鉛等の鑛を出す。元山・會峯間
の道路と鐵道北鮮線は輪城川の谷を北上
して會峯郡に出で、北鮮線の古茂山驛よ
りは西方茂山に向ふ社線成北線起る。ま
た清津府より慶興に至る道路は東南部を
通じて慶興郡に入る外は交通機關なほ發
達せず。行政上、富寧・西上・石幕・青
岩・連川・富居・三海・觀海の八面に分
かれ、郡廳を富寧西に置く。

は西上面に隣り、西南部は鉾城郡龍城面
と界す。面積四一〇方軒餘。西部には高
城山(一七五六米)・農司殿(一三二〇米)
等の山地、東境にも芝峰(一〇四八米)・
仙嶺等の脈ありて共に南北に延び、輪城
川は中央部を南に貫流し、それと支谷に
沿ひて幅狭き低地あり。産物に粟・稗・
大麥・燕麥等の農産あり。元山・會峯間
の一等道路と鐵道北鮮線は輪城川に沿ひ
て通じ、後者は富寧驛(大正五年設置)を
設く。驛の所在地なる富寧湖は面の中央
部に在り、郡廳・警察署等を設かれ、郡
の首邑たり。

フハ 不破

【不破郡】 岐阜縣美濃國の西部に在り、
北は揖斐郡、東は安八郡及び大垣市、南
は海津郡及び養老郡、西は養老郡及び田
に各相接す。西部には伊吹山脈が南北に
走り主として古生層より成り、北部は池
田山(九二四米)の南麓を占め、南部には
松尾山(二九八米)・桃配山等あり。その
東に續く南宮山(四一九米)を主峯とする
南宮山塊は養老山塊の續きにて牧田川の
横谷により開折されしものとす。本郡の
中央を西北より南東に流るる相川は、こ
の伊吹山脈を開折し洪積層を以て埋めら
れ、垂井町附近より伏流をなすが、夏季
霖雨の折は水害多し、關ヶ原以西は牧田
川の流域に屬して、和歌に名高き藤古川
(藤川)と西より今須川が流れ南部にて合
流す。今須川の谷は伊吹山脈を谷頭浸蝕
により低くして關ヶ原の狹隘を作り、冬
季は謂ゆる伊吹風がこの谷を通じ西濃平
野を襲ひ、この附近は積雪量多し。北東
部の金山山は海蝕による石灰岩の露出が
あり、フズリナ石灰岩・海百合石灰岩・
大理石を産す。その西南の青野ヶ原は
各務ヶ原・加茂野と共に美濃の三原野の
一と稱せらる。東南部は肥沃なる西濃平
野の一部をなす。農産としては農産を主
にして、米・麥・粟・稗・大豆を産し、
養蠶も亦盛なり。凡そ關ヶ原以西は漆柿
の産多く、干柿として大阪に移出され、
以東は栗に過しその産多し。北部山地に

は薪炭の産多く、金山山には大理石の特
産あり。工業には關ヶ原及び垂井の日本
紡績工場があり、其他に自轉車・ゴム工
場あり。交通としては中山道中部を東西
に走り關ヶ原の谷より近江路に入り、其
間に東赤坂・垂井・關ヶ原・今須の四宿
を設く。往時は相當繁華なりしが今は街
村的形態を存し地方的中心をなす。一方
美濃路は大垣より西し垂井にて中山道に
合す。その昔には松尾川宿(赤坂)・青島
宿・野上宿(關ヶ原)が置かれし事もあり
き。また關ヶ原より分岐して西北の玉宿
(玉村)を経て北國路往還が近江に通ず。
鐵道には東海本線が大垣より垂井驛を
經て關ヶ原驛に至り、關ヶ原ギヤップを
通過す。關ヶ原以西は急傾斜となり垂井
より後押が附せられ運輸上困難を感じ、
冬季はラッセル車活躍す。大垣よりま
た赤坂線分岐し笠尾・美濃赤坂驛等を置
く。本郡は美濃國十五郡の一にして、行
政上、赤坂・垂井・關ヶ原三町外十二箇村
を含み、垂井は郡役所ありし地なり。
關ヶ原の狹隘は古來政治・交通・軍事上
の要衝にして、昔は不破關置かれ、壬
申ノ亂・關ヶ原の戦いに行はる。また
府中村には國府、青島村には國分寺が
置かれ、關西文化はこの谷より西濃へ傳
播せり。本郡は和名抄に不破と註し、三
桑・山本・野上・高家・藍川・新居・表
佐・栗原・芝崎・眞野・有實・支部の十
二郷及び群家郷を置かる。

フハチ

【不破郡】 岐阜縣美濃國の西部に在り、
北は揖斐郡、東は安八郡及び大垣市、南
は海津郡及び養老郡、西は養老郡及び田
に各相接す。西部には伊吹山脈が南北に
走り主として古生層より成り、北部は池
田山(九二四米)の南麓を占め、南部には
松尾山(二九八米)・桃配山等あり。その
東に續く南宮山(四一九米)を主峯とする
南宮山塊は養老山塊の續きにて牧田川の
横谷により開折されしものとす。本郡の
中央を西北より南東に流るる相川は、こ
の伊吹山脈を開折し洪積層を以て埋めら
れ、垂井町附近より伏流をなすが、夏季
霖雨の折は水害多し、關ヶ原以西は牧田
川の流域に屬して、和歌に名高き藤古川
(藤川)と西より今須川が流れ南部にて合
流す。今須川の谷は伊吹山脈を谷頭浸蝕
により低くして關ヶ原の狹隘を作り、冬
季は謂ゆる伊吹風がこの谷を通じ西濃平
野を襲ひ、この附近は積雪量多し。北東
部の金山山は海蝕による石灰岩の露出が
あり、フズリナ石灰岩・海百合石灰岩・
大理石を産す。その西南の青野ヶ原は
各務ヶ原・加茂野と共に美濃の三原野の
一と稱せらる。東南部は肥沃なる西濃平
野の一部をなす。農産としては農産を主
にして、米・麥・粟・稗・大豆を産し、
養蠶も亦盛なり。凡そ關ヶ原以西は漆柿
の産多く、干柿として大阪に移出され、
以東は栗に過しその産多し。北部山地に

フバイ

【不破郡】 岐阜縣美濃國の西部に在り、
北は揖斐郡、東は安八郡及び大垣市、南
は海津郡及び養老郡、西は養老郡及び田
に各相接す。西部には伊吹山脈が南北に
走り主として古生層より成り、北部は池
田山(九二四米)の南麓を占め、南部には
松尾山(二九八米)・桃配山等あり。その
東に續く南宮山(四一九米)を主峯とする
南宮山塊は養老山塊の續きにて牧田川の
横谷により開折されしものとす。本郡の
中央を西北より南東に流るる相川は、こ
の伊吹山脈を開折し洪積層を以て埋めら
れ、垂井町附近より伏流をなすが、夏季
霖雨の折は水害多し、關ヶ原以西は牧田
川の流域に屬して、和歌に名高き藤古川
(藤川)と西より今須川が流れ南部にて合
流す。今須川の谷は伊吹山脈を谷頭浸蝕
により低くして關ヶ原の狹隘を作り、冬
季は謂ゆる伊吹風がこの谷を通じ西濃平
野を襲ひ、この附近は積雪量多し。北東
部の金山山は海蝕による石灰岩の露出が
あり、フズリナ石灰岩・海百合石灰岩・
大理石を産す。その西南の青野ヶ原は
各務ヶ原・加茂野と共に美濃の三原野の
一と稱せらる。東南部は肥沃なる西濃平
野の一部をなす。農産としては農産を主
にして、米・麥・粟・稗・大豆を産し、
養蠶も亦盛なり。凡そ關ヶ原以西は漆柿
の産多く、干柿として大阪に移出され、
以東は栗に過しその産多し。北部山地に

フマ

【不破郡】 岐阜縣美濃國の西部に在り、
北は揖斐郡、東は安八郡及び大垣市、南
は海津郡及び養老郡、西は養老郡及び田
に各相接す。西部には伊吹山脈が南北に
走り主として古生層より成り、北部は池
田山(九二四米)の南麓を占め、南部には
松尾山(二九八米)・桃配山等あり。その
東に續く南宮山(四一九米)を主峯とする
南宮山塊は養老山塊の續きにて牧田川の
横谷により開折されしものとす。本郡の
中央を西北より南東に流るる相川は、こ
の伊吹山脈を開折し洪積層を以て埋めら
れ、垂井町附近より伏流をなすが、夏季
霖雨の折は水害多し、關ヶ原以西は牧田
川の流域に屬して、和歌に名高き藤古川
(藤川)と西より今須川が流れ南部にて合
流す。今須川の谷は伊吹山脈を谷頭浸蝕
により低くして關ヶ原の狹隘を作り、冬
季は謂ゆる伊吹風がこの谷を通じ西濃平
野を襲ひ、この附近は積雪量多し。北東
部の金山山は海蝕による石灰岩の露出が
あり、フズリナ石灰岩・海百合石灰岩・
大理石を産す。その西南の青野ヶ原は
各務ヶ原・加茂野と共に美濃の三原野の
一と稱せらる。東南部は肥沃なる西濃平
野の一部をなす。農産としては農産を主
にして、米・麥・粟・稗・大豆を産し、
養蠶も亦盛なり。凡そ關ヶ原以西は漆柿
の産多く、干柿として大阪に移出され、
以東は栗に過しその産多し。北部山地に

フモト

【不破郡】 岐阜縣美濃國の西部に在り、
北は揖斐郡、東は安八郡及び大垣市、南
は海津郡及び養老郡、西は養老郡及び田
に各相接す。西部には伊吹山脈が南北に
走り主として古生層より成り、北部は池
田山(九二四米)の南麓を占め、南部には
松尾山(二九八米)・桃配山等あり。その
東に續く南宮山(四一九米)を主峯とする
南宮山塊は養老山塊の續きにて牧田川の
横谷により開折されしものとす。本郡の
中央を西北より南東に流るる相川は、こ
の伊吹山脈を開折し洪積層を以て埋めら
れ、垂井町附近より伏流をなすが、夏季
霖雨の折は水害多し、關ヶ原以西は牧田
川の流域に屬して、和歌に名高き藤古川
(藤川)と西より今須川が流れ南部にて合
流す。今須川の谷は伊吹山脈を谷頭浸蝕
により低くして關ヶ原の狹隘を作り、冬
季は謂ゆる伊吹風がこの谷を通じ西濃平
野を襲ひ、この附近は積雪量多し。北東
部の金山山は海蝕による石灰岩の露出が
あり、フズリナ石灰岩・海百合石灰岩・
大理石を産す。その西南の青野ヶ原は
各務ヶ原・加茂野と共に美濃の三原野の
一と稱せらる。東南部は肥沃なる西濃平
野の一部をなす。農産としては農産を主
にして、米・麥・粟・稗・大豆を産し、
養蠶も亦盛なり。凡そ關ヶ原以西は漆柿
の産多く、干柿として大阪に移出され、
以東は栗に過しその産多し。北部山地に

フモト 富本村 山形縣羽前郡北村
山部の西部。梧桐町の西方約八軒。西が
よび南は西村山部に接す。西北方に堂山
(一四六二米)を越え、本村はその東南麓に
して、西北境は海抜約一、二〇〇米、東南
方に傾斜し、概ね山地をなすも東部の一
部は山形盆地に属しやや平坦なり。千厩
川は西北部に發源して東南に流る。米・
藁を産し、また草履表を特産す。鳥羽本
線梧桐駅へは東方約七軒あり。村名は堂
山の麓なるより起り、のち富本に作りし
もの。

フモト 麓村 佐賀縣唐津郡三養基郡
の北部。鳥栖町の西北部に接し、西北隅
は山嶺を隔てて福岡縣筑紫郡に界す。西
北境に九千部山(八四八米)・石谷山(七
五四米)等聳えて、西北部一帯はその東
南斜面を占め東南部は低平地なり、米産
多く、蕎麦の産も多し。省幹長崎本線は
東南部を掠りて通過し東南約一軒に鳥栖
驛あり。古くは和名岩、委文郡委文郷の
地にて、いま小字に委文の名を存す。大
字立石の石谷山中に御手洗ノ瀧あり、高
さ二二米、幅六米、壯麗なり。

フモン 普門面 朝鮮慶尙北道慶泉
郡の東部。郡邑慶泉面の東隣にて、東は
榮州郡文殊面及び安東郡北後面に、東南
は同郡西後面・豊山面と界す。東南境上
に鶴駕山(八八二米)・普門山(六四三米)・
大鳳山(五〇七米)等連立してその山脚西
北に下り、面の東南半部は山地多し。乃

城川は東北の榮州郡より来りその山麓に
沿ひて西南流し、北半より西南部につけ
ては低き丘陵起伏し、川の沿岸と丘陵間
の低地には耕地あり。農産に米・蕎麦・
豆等を出す。等外道路あるのみにて交通
なほ便ならず。

フヤ 府屋 新潟縣岩船郡大川谷村の
大字。省幹羽越本線の府屋驛(大正十三
年設置)あり。

フヨ 扶餘 朝鮮忠清南道の一府十四郡の
一。道の南西部に位置し、東は論山郡に接
し、南東は錦江下流を隔てて全羅北道益
山郡に對し、南西は舒川郡に、西は保寧
郡に、北は青陽郡に隣る。面積六二五方
軒、瑞山・天安に次ぎ道中第三位の大郡
なり。東嶺山脈西南端の餘脈は郡内に連
互し、西北隅に翠住山(六八〇米)の東嶺、
西境上は峨眉山(六四五米)・明月山(五四
四米)、その東北には月下山(四二六米)・
觀音峰(四五五米)等ありて郡の西北半部
はやや山地高く林相また見るべきものあ
るも、東南半部はその南部の聖徳山・錦
城山、西南境上の老姑山・遠通山、東部
の太祖峰(一〇九七米)も高度は二百米未達に過ぎ
ざる起伏緩慢なる丘陵性山地にて種松・
榿木に蔽はれるもの多し。錦江は東北境
より来り中央部にて東南に轉流し、更に
東南境にて曲折し南境の東半を西流し、
この両右岸に琴江川(之川)・恩山川・金
川等、左岸に石城川等の支流を容る。錦

江及びこれ等諸支流の沿岸には低平なる
地ありて田・畑よく拓く。米・蕎麦・豆の
産額、棉花・大麻・苧麻等の農産多く、
苧布・苧酒・吹等の工業、苧時金・銀・
鉛等の産産も少からず。首邑扶餘を中心
として公州・論山・江景・舒川・青陽方
面に道路を通じ何れもバスの往來ありて
交通また不便ならず。扶餘は古く夫所里
といふ。百濟聖王の時、熊津(今の公州)
より都を遷し南扶餘と改めしが、義慈王
に遷り新羅と唐の連合軍の爲に滅さる。
新羅文武王は地を置き、會孫景徳王に
至り扶餘郡に改む。新羅の衰ふるや高麗
の領となり、顯宗は公州に遷せしめ、明
宗の時を遷移を置きしが李朝に至り顯宗
に改め、後また郡に復して郡守を置く。
大正三年に鴻山・林川の二郡と石城・普
城・公州三郡の各一部とを併せて今の行
政區劃となり、郡廳を扶餘面に置く。人
口一三萬餘。

【扶餘面】 朝鮮忠清南道扶餘郡の首邑。
錦江の下流轉流部の左岸に沿ひ、東北は
公州郡澤川面に界し、北西は江を挟みて
青陽郡青陽面に對す。面内は百米未達の、
種松を産く丘陵地が南北に波狀をなして
起伏するも、其間には東西の方向に約五
級の低地ありて面の北より西の境を環流
する錦江岸の平地に畑・田・畑よく拓
く。農産に米・蕎麦・豆・棉花・麻苧、工業に
苧布・吹、産産に加尺全産の金・銀等あ
り。扶餘(舊舊里)は面の西部錦江岸に時

扶餘山(一〇六米)の南麓に位し郡廳の
所在地にて、鐵道湖南本線沿線の論山を
はじめ公州郡邑公州・青陽郡邑青陽等へ
道路を通じバスの便あり。百濟の第二十
五代聖王より第三十代義慈王に至る間の
國都たりし地、五層の古塔、百濟遺物等
考品陳列館あり、扶餘山上には半月城址
ありて、その月影臺の軍倉址より兵火
のため炭化せる米・蕎麦等の炭を出す。
山の最高處の望月臺に眺望ありて眺望
に富み、その北方崖下の江畔に古刹阜蘭
寺あり。

フヨイ 芙蓉 野尻湖

【芙蓉面】 朝鮮忠清北道清州郡の南西部。
錦江は南境を曲流し、江を隔てて南は
忠清南道大徳郡九則面、西は同道燕岐郡
錦南面と對す。面内到的處高さ二一三三
米の丘陵性山地起伏し、平坦地は西北部
の錦江の彎曲部に近き處と、面の中部を
東西に通ずる小流の谷にあるのみ。農
産は大豆・蕎麦を主とし、また棉花の産も
少からず。また文谷里の溪間に炭酸水の
湧出あるもその量多からず。鐵道京釜本
線は西部を南北に貫き、西北部に美江驛
(明治三十八年設置)を置く。大明金藏の
遺蹟は芙蓉面と文義面に跨る。而して
昭和十年には金一三五〇〇瓦、銀一、五
〇〇〇瓦、金銀一八七五〇(この總價額六
萬餘圓)を産し、同年六月末の従業員は
一五八人たり。

【芙蓉】 湖南本線の一驛(大正元年設置)。

朝鮮全羅北道金堤郡白鹿面にあり。

フラ 府羅面 朝鮮平安北道龍川郡の
南西部。西は郡邑龍川面に隣り、東は内
中西・外下面に接し、南は黃海に面す。
鴨綠江口東岸の沿海平野の一部にて、北
西部に低き丘阜地ある外は極めて平坦に
て肥沃なり。海岸は近年その一部を干拓
し、ここに不二西鮮農場を開く。この農
場は全鮮屈指の大規模のものにして、運
輸はこの中心據落をなし、大正水利組
合の灌漑地となり米を主とし大豆等の農
産多く沿海には蟹その他の漁獲物あり。

なほ面内の道路は龍潭浦より京義本線南
市驛(外上面内)を経て龍山邑に至るもの
中部を東西に横切り、之に沿ふ龍潭浦よ
り多島島へ道路を岐ち、何れもバスの便
あり。

フライザン 浮來山 朝鮮總督府嶺
南元東郡の一驛(昭和十二年設置)。

【富良野町】 北海道有精町上川支廳空知
郡の中部。空知川の上流に沿ふ。面積三
〇五・一二方軒。東北十勝國境に大雪火
山群の諸峯重疊して町内の東部を展し、
西境は夕雲山脈南北に亘りて空知支廳を
隔て諸川の水を蓄えなす。東西山地に挟
まれし中央に低平地あり。空知川は兩山
地に發したる數多の支流を集めて北流し
流況の便大なり。米・蕎麦・馬鈴薯・燕
麥等の産額甚だ大にして製粉・製糖業行
はる。空知川下流の島ノ下温泉はクロロ
ル礦酸鐵泉にして第七師團の療養所あ
り。東部山地に硫黄の産出あり。省幹鐵
道本線は中央を南北に通じ、南端(昭和二
年設置)・下富良野(明治廿三年設置)・島
ノ下(大正二年設置)三驛を置き、下富良
野驛より富良野線分岐す。本町はもと下
富良野村と稱す。明治廿九年に勇拂郡古
冠村を下富良野村の所管となし、同四十
一年に本村の一部を割きて南富良野村を
置き、同時に古冠村を南富良野村の所轄
とす、大正四年に下富良野村よりその一

部を割き山部村を置き、同八年に下富良
野村を富良野町と改稱す。本町は大雪山
國立公園の内なり。

【富良野線】 根室線の一。北海道有精町
空知・上川二郡に跨る。根室本線の下富
良野驛より分れ馬場・千代ヶ岡等の諸
驛を経て旭川驛に至り南富良野線・宗谷本
線及び社線旭川電氣軌道に連絡す。全長
五四・八軒。

フランテン 普蘭店會 圖東州普
蘭店民政署管内の首邑。南は石河明會・
土城子會に、北は快馬會に隣り、西は
圖東湖の支湖に面す。南境上には蓮花山
(三〇七米)、東境上には龍山・金殿山等の
丘陵性山地連るも其他は平坦にして鞍子
河中部を西流し、耕地拓けて玉蜀黍・豆
類・落花生・高粱等の農産あり、沿岸に
は鹽田ありて天日製鹽行はる。普蘭店街
は會の略中央部に位し民政署・警察所・滿
洲國稅關分所等の官衙あり、滿鐵連京線
の一驛にて交通便利なり。附近は日清・
日露兩戰役の古戰場、街南の南山には聖
蹟址、北郊の臺子山、東方の松樹山には
露軍の砲臺址を存す。また街の北方舊普
蘭店には明代の字號舖の城址遺存す。

フリ 布里 愛知縣南設楽郡にありし
村。明治三十九年に外五箇村と共に廣き
れ風率寺村を置く。

フリ 富利面 朝鮮全羅北道鎭山郡
の東南隅。郡邑鎭山面の東南方にこれ
と南一面を隔て、東南は茂朱郡茂朱面と

南は同郡富南面と接す。南境上に機峰・
葛仙山・水路峰及び徳基峰、東南より西
北に並びつれれ高度五百米未達を示し、
東境には兩角山・觀主山(六二四米)南北
に連り登ゆ。錦江の上流は東南境より西
北に向ひて面内を蛇行し、北境の東半を
東流して北隣の濟原面に出で、支流鳳凰
川は西北境を掠り、中部より西北部にか
けては山地性の平坦面多く所々に低地あ
りて水田拓げ、また畑地少からず。農産
に米・蕎麦・大豆・棉花等あり。錦山・茂
朱間の三等道路は西南部を通じてバスの
便あり、北部には錦江の舟運あり。

フリーツ 社 臺灣高雄州潮州
郡にある舊社。南側溪の上流右岸に位し
標高約七〇〇米の急傾斜地にして農耕に
適せず。現居住地域はナイアン社の領域
なれど、距離遠隔なるためまたまた他社
よりの侵害を慮り約二百四十年前にロバ
ニヤオ頭目系の者二八人等を以て監視、
農耕に移住し来る。ナイアン社の恒春上
帯に屬し自社に頭目なく、ナイアン社の
支配を受け善報を納む。戸數二五、人口
一四六(昭和十一年調査)。

フリオイ 振老 省幹天鹽線の一驛
(昭和十年設置)。北海道天鹽國天鹽町に
あり。

フヨイ フリック

振草村

振草村 愛知縣三河國北
設楽郡の南西部。豊橋市の東北方約四〇
軒。此地は三河山地に屬し第三紀層及び
古生層より成り、北に大崎(九五三米)、

東部に古登山(七五九米)、南には宇連山(九一九米)、西境に鞍掛山(八八二米)・大鈴山(一〇一七米)・明神山等が圍繞し、北部より鴨山川が東部に流れ、振草川と東境に於て合流す。また南部には神田川・宇連川が發源し何れも流入蛇行をなし、氾濫原は發達せず、從つて農耕地も少く、山林よりは薪炭を産す。聚落は散村形態をなす山村なり。交通は主にこれ等の谷が利用せられ、鴨山川の對岸には別所街道通じ、この川には多くの發電所分布す。村内に鐵道三七萬餘坪を有する古戸嶺山あり、金銀銅安質母尾山にて、昭和十年より事業を開始す。

フリヨ 扶梁面 朝鮮全羅北道金堤郡の南西部。東北は金堤邑との間に月村面を隔て、東南は井邑郡甘谷面と新泰仁面、西南は扶安郡白山面に接す。面積約一九方軒。全北平野の西部をなす東津平野の中央部に當り、東津江は西南境を蛇行を續けて西北流して海に注ぎ、その支流の院坪川とその分流は北境を西流す。土地平坦にして、哈ど東津江水利組合灌溉地の水田をなす。米を第一とし、麥・棉花等の栽培盛に行はる。金堤・古阜間、奉仁・扶安間の道路通じ、交通不便ならず。

フリヨ 富林面 朝鮮慶尙南道宜寧郡の北部。南は柳谷面に接し、北は陝川郡青徳・赤中の二面と接す。略ぼ方形をなし面積三三方軒餘。東隣の洛西面との

境には慶時(二五三米)の嶺南北に連り、中部以西には王嶺山(二七三米)其他の山地あるも、南隣の柳谷面より来る馬山川は東部を北流し、西隣の鳳凰面より来る新反川は中部を東北に流れ、面の中央部にて馬山川を合せ北流して青徳面に出で洛東江に注ぐ。この兩川の洪源原には田地、合流地より北方の兩岸には畑地よく拓け、米・麥・豆類の農産多し。面邑新反里は西南部の新反川沿岸に位し、南方宜寧への三等道路に當るも交通は甚だ便ならず。

フリヨ 普林面 朝鮮平安南道江西部の東南部。大同江の右岸に沿ひ平壤・雲南浦間の略中間に位し、東南は江を隔てて中和郡海陽面に對す。東半は中央部に棲鶴山(二七〇米)聳り、その東麓を東南流して大同江に入る鳳翔江の沿岸と南面の大洞江岸に小低地あるに過ぎず。西半にも中央部に高さ一〇〇米内外の丘陵あるもその周圍には平坦地廣く畑・畑よく拓く。農産に米・大豆・棉花等あり。平壤・雲南浦間の一等道路は西北境を過ぎ、鐵道平南線も略ぼ同方向に走り、その岐陽・泰城二驛(北隣の東津面内)に近く交通不便ならず。

フルイ 古井 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外七嶋村と共に廢され長崎村を置く。長崎村は知立町及び手橋村・上重原村と合併して知立町を建つ。

フルイ 古家 駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に駿河郡古家郷あり布留以信と訓す。今の駿東郡内ならんも詳ならず。

フルイ 古市 三重縣宇治山田市の町名。内外兩宮の間にある小繁華なる地なり。全國より集まる伊勢参りの寒客を目的の花街あり。旅館屋や料理店にて繁昌せし町にして宇治と山田との間に發達せしもの。寛政八年五月四日、福岡貢(本名は孫福奇宮)が此地の油屋にて及傷事件を起し、それが演劇化せられ「伊勢音頭戀戀」として評判となり、今日も弘く知らる。藤栗毛・六下「妙見町」のうへは、すぐに古市にて、借家軒をならべ、ひきたつるいせおんどの三味せんいさましく、うかれうかれて千束やといへるに至れば、女どもみななげしり出て、ようござんしたすぐにお二階へ……。さア御案内いたしましよと、ていしやをさきにおのおの二階へ上り云々。

フルイ 古江 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に射水郡古江郷あり、布留江と訓す。今の水見郡神代村・宮田村・太田村の邊なるべし。萬葉・一七「大王」の遺の朝廷ぞ……葦鴨の多集く舊江に「昨日も」新拾遺「三」みだれの古江の村の首屋形軒までかかる田子の浦波「定圓」

フルイ 古市橋 省線可部郡の一驛。廣島縣安佐郡三川村にあり。フルイチバシ 古市場 島根縣那賀郡にありし村。明治四十三年に西添村と合併して三保村を建つ。フルイチバシ 古市場 島根縣那賀郡にありし村。明治四十三年に西添村と合併して三保村を建つ。フルイチバシ 古市場 島根縣那賀郡にありし村。明治四十三年に西添村と合併して三保村を建つ。

フルイ 古市 大阪府東成郡にありし村。大正十四年に大阪市東成區に編入す。【古市村】 兵庫縣丹波國多紀郡の西南部に藤山町の西南方約三軒にありて南は有馬郡に界す。四周丘陵性の山地を繞らし西北境に白雲嶺(七二二米)屹ち、西南隅には虚空藏山(六九六米)聳ゆ。中央には東北北より西南南に貫く低地あり、南部には武庫川が發してこの低地を南流す。低地の北部には東北方へ連る谷もありて雑山盆地につづく。米・麥・粟類・蔬菜・花卉・食用農産・果實・鶏卵・製茶・醬油・木製品・蠶製品・双物等の産あり。縣道及び省線福知山線は中央を南北に貫き古市驛(明治三十二年設置)あり。驛附近にて西南方へ走る縣道分岐す。この地は舊く酒井氏と云ひ、土着の郷士を酒井氏と呼び見利氏の時に細川管領に屬し本

村を過ぎて大和川に合し、中部にて一河川分れて西北流し藤井寺町を流れて大和川に注ぐ。北部に道明寺村との間に湖沼あり。米・麥・粟の農産と畜産あり。工業も盛にて産額多し。高野街道と伊賀街道との道分に當り道路四通八達し南河内地方の要衝たり。社線大阪鐵道は中央を南北に貫通して古市驛あり。大正五年町制を布く。大字譽田に府社譽田神社あり。神社の北に應神天皇惠我靈伏魔殿あり。大字古市に安閑天皇の高屋丘陵、大字輕島には日本武尊の假墓あり。また前者の宇古屋敷に高屋城址あり、この城は島山義深が河内國を領し、此處に城を築きて威を振ひし處。「應神天皇惠我靈伏魔殿」大字譽田にあり。里俗中山と呼び、北面して三段に築成せる大前方後圓墳なり。前後約三八四米、前方部の幅約三〇〇米、高さ約一・二米、後圓部は徑約二・三〇米、高さ約一九米、規模は仁徳天皇御陵に次ぎ、松樹全境に繁る。周濠はもと二重に總らせしが外濠は墳まわりて田となり、いま内濠を存するのみ。「安閑天皇古市高屋丘陵御陵」大字古市にあり。前方後圓墳にして西面三段に築かれ、周濠あり松樹茂生す。「譽田神社」大字譽田に鎮座。府社。祭神、譽田別命外五柱。欽明天皇の御宇の創建と傳へ、同帝二十年に行幸參禮せらる。往時は歷朝の崇敬厚く屢次行幸あり、社殿の結構壯麗を極む。諸武將の崇敬また厚く、近世は社領

フルエ 古家 駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に駿河郡古家郷あり布留以信と訓す。今の駿東郡内ならんも詳ならず。【古家】 駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に駿河郡古家郷あり布留伊信と訓す。今の富士郡田子浦村の邊に當る。フルイチ 古市 三重縣宇治山田市の町名。内外兩宮の間にある小繁華なる地なり。全國より集まる伊勢参りの寒客を目的の花街あり。旅館屋や料理店にて繁昌せし町にして宇治と山田との間に發達せしもの。寛政八年五月四日、福岡貢(本名は孫福奇宮)が此地の油屋にて及傷事件を起し、それが演劇化せられ「伊勢音頭戀戀」として評判となり、今日も弘く知らる。藤栗毛・六下「妙見町」のうへは、すぐに古市にて、借家軒をならべ、ひきたつるいせおんどの三味せんいさましく、うかれうかれて千束やといへるに至れば、女どもみななげしり出て、ようござんしたすぐにお二階へ……。さア御案内いたしましよと、ていしやをさきにおのおの二階へ上り云々。【古市町】 大阪府河内國南河内郡の北部。藤井寺町の東南に接し富田林町の北方約三軒にあり。約六軒西北方へ至れば大阪府住吉區に達す。全村概ね地形低平にして東部に北石川が北流して北隣の道明寺

フルエ 古江 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に射水郡古江郷あり、布留江と訓す。今の水見郡神代村・宮田村・太田村の邊なるべし。萬葉・一七「大王」の遺の朝廷ぞ……葦鴨の多集く舊江に「昨日も」新拾遺「三」みだれの古江の村の首屋形軒までかかる田子の浦波「定圓」

フルカ

有明海に面す。南部は南方に響ゆる懸ヶ岳(一〇七六米)の北麓を占め、中央に横谷ありて河川北流し濱町の西北境を廻りて有明海に注ぐ。北部は低平なる平野なり。米・麥・蕎麦を産す。縣道は北部に通じ之に沿ひて市街地發達し濱町の市街地と連続す。省線長崎線も北部を走り肥前濱(昭和五年設置)あり。この地古くは和名抄津那能美等の内なるべし。〔曹明寺の金木屋〕 指定天然記念物。曹明寺境内にあり。高さ〇・九米の所にて廻り約二・九米、高さ一三米餘の巨樹なり。五月・十月兩度の花期には芳香遠く四軒四方に漂ふと云ふ。〔稲穂稲荷神社〕 縣社。祭神、倉稻魂神。貞享四年、鹿島城主鍋島直朝の夫人花山院萬子がその花山院家の邸中に御座せる稲荷神社の分靈を勧請せしに始る。萬子はのちに稲穂と號す、社號はこれに因む。例祭、十月十六日。

フルカワ

〔古川町〕 宮城縣陸前國志田郡の西北部。本郡の首邑にて三本木村の北方約五軒。西方の加美郡中新田町、東方の遠田郡小牛田町へ各約九軒。面積八・〇八方軒。陸前平野の中部なる大崎平野に屬し土地平坦なり。猪尾川は中部を西北より東南に流る。米・麥・蕎麦・馬等を産し、古來、本石米の集散地として著名なり。道路は市街を中心とし、西北・東北・東・東南・南・西の六方にに通ず。省線陸羽

MOKI

し、東半は中生層より成る安路山(一〇五五米)の西斜面を占め、他の大部は沖積層の盆地床より成る。宮川は東南より西北へ流れ盆地の西縁に沿ふ、また町の南部にては寛城川これと合流す。宮川の右岸盆地内は水田として拓け、左岸は桑園多く、更に山地にも田・桑園を見る。産物としては、木材・木炭・蠶繭・繭・漆・漆・漆・漆・漆及び非類の織物等なり。越中街道は盆地を宮川沿ひに通じ、省線高山本線またこの盆地を走り、飛騨古川(昭和九年設置)を置き、交通便利なり。もと吉城郡役所ありし地にして、いま警察署・區裁判所・警務署等あり。往昔この町の附近は深き川なりしを漸次埋立て今日の如くなりしを以て古川の呼稱を残せしものなりと云ふ説あれども詳かならず。本町は和名抄の寛城郡深河郷の地にして、中世は古川郷と云はれ、その一部は小島郷に屬せり。江戸時代に於りては高山藩に屬し、のち更に幕府に至る。大字上氣多の臺地には石器・土器の出土多く、相當古くより聚落の活動が見られ、また古墳・古瓦の散布も廣く、天平時代には飛騨國分尼寺が設かれ、天平文化は此地にまで及びたり。天正年中には古川城に越小路國司家居りて治す。慶長頃に金森可重、増島城を築きて古川城より町を移す。これ現在の古川町なり。〔古川城址〕 一に増島城といふ。天正年中、金森長近その養子可重を置きし所。

フルカ

〔古里村〕 宮城縣陸前國志田郡の西北部。筑紫平野の一部に於て矢部川の北岸に沿ひ、西北隅は羽犬塚町の東南部に接し、南は川を隔てて山門郡に界す。東北約二軒に瀨島町あり。全村地形低平にして南境を矢部川西流す。未産多し。羽犬塚町に近く交通の便よし。〔八幡宮〕 大字久恵に鎮座。祭神、譽田天皇。古來この地の産土神たり。例祭、十一月五日。〔福王寺〕 大字溝口にあり。日蓮

宗。長壽山。天正年中に兵火に罹り舊記を失ひ沿革の明を闕く。文祿年中に越前國今立郡五鹿村の日蓮、堂宇を再建し、また此地の矢部川に臨み、水質の製紙に適せるより製紙場を設け、第三人をしてその製造に當らしむ。領主立花左近將監これを開き、同家の用を合し郡中産出の楮及び製紙機械を興へ且つ寺田を寄す。これ當縣の産物日紙の起源なり。〔フルカワ〕 古河 石川縣陸奥郡にありし村。明治四十年八月に外二箇村と共に合し國府村を建つ。〔フルカワシヤカノオ〕 古河目尾 古河の目尾にありし村。山形縣羽前國最上郡の西部。新庄町の西方約一六軒。西北は陸奥部、西南は東田川郡に接す。山形丘陵の東斜面に屬し、西境には北より大森山(七八一米)・田代山(六二七米)・土湯山(五七七米)・板敷山(六三〇米)等えて東方に傾斜し、最上川は村の中部を先行しつづ西北に流る。東部の最上川沿岸には耕地拓げ米・蕎麦を産す。道路は最上川に沿ひて東西に通ず。陸羽西線古河(大正二年設置)あり。最上義光の時、古河に兵を置きて庄内を押へしといふ。義經記に風鳥とあるも此地なり。村内に依田澤池(高さ一一六米、幅三米)・ヤビ澤池(高さ一四〇米、幅三米)・餘ヶ澤池(高さ一二六米、幅三米)・櫻澤池(高さ一八米、幅二米)・大澤池(高さ二〇米、幅四

フルカ

米)・澤池(高さ二〇〇米、幅三米)・白林池(高さ二二〇米、幅六米)・高池(高さ一一〇米、幅一〇米)・短刀池(高さ一五〇米、幅七米)・大池(高さ一一二〇米、幅六米)・鶴池(高さ七〇米、幅五米)等あり。〔最上温泉〕 泉質はアルカリ性弱食鹽泉にして温度は三九度なり。胃腸病・神経痛・痔疾・氣管支カタル等に効能あり。されど飲して喉炎向なり。本温泉は石浦武藏の間に湧出せしものにして、温泉と共に地熱に用ひらるる多量の天然瓦斯を噴出す。地は最上川と註川の合合點にあり、八向山の中段に位し眺望よく紅葉の名所にて、またスキーの遊地として知らる。〔草津温泉〕 泉質は硫酸にして加熱る。皮膚病・婦人病等に効あり。〔白林池〕 最上川の北岸に懸る瀑布。その名は義經記等に見え古くより名勝たり。江戸時代元祿の頃、芭蕉の此地を遊ぎ、最上川を船にて下るや時恰も初夏の頃として白林の瀧に青葉の蔭々に落ちて仙人空岸に臨みて立つ、水みなぎりにて身あやふし。五月雨をあつめてはやし最上川(最上の瀧)とあり。

フルコト

〔古里村〕 宮城縣陸前國志田郡の中部。陸奥部の西北約五軒。全村平地にて米、

フルサ

フルカ

MOKI

の頃、土家長澤氏あり。建徳元年に洗井直和この地に新渡義將と戦ひて敗死す。〔吾願寺〕 大字長澤にあり。古義眞言宗。築師金山と號し高野山金剛峯寺。大寶元年、僧佛性、文武天皇の勅願に依りて建立すと傳ふ。昔は寺運頗る隆盛、寺坊三千を擁して北國に冠たりしかば延暦寺に擬して比叡山と號せり。後醍醐天皇の御宇、事によりて石動山天平等の業徒に侵はれ堂宇を焚く。のち再建せしも兵火に罹りて衰頽し、近世漸く復興す。〔古里村〕 長野縣信濃國上水内郡の東南部。長野市より東西約一〇軒。善光寺平に於ける千曲川右岸の氾濫原に位置し、東は長沼村を隔てて千曲川、川を越せば須坂町に五軒、須坂・長野の中間にあり。南は御原村、西は朝陽村、北は若槻村にて此等の諸村と共に犀川支流の根花川と澁川の水を灌漑して開拓せる長野市東部の信濃川氾濫原の水田地帯の一部をなす。従つて村内は水田卓著し若干の桑園を含む。これは根花川と澁川との扇狀地なるに由る。用水豊富なるを以て米は第一の生産なるが、傾斜地のため麥を水田の裏作とする二毛作田なり。穀類以外に近年蔬菜栽培地として胡瓜・茄子・牛蒡・西風・南瓜・漬菜等の産多し。この地は千曲川の氾濫による沖積地にして、流紋岩及び凝灰岩の崩壊して生ずる肥沃なる粘土のため農業地に好適す。この地は和名抄水内郡古野郷の内。

フルサウ

【古澤村】千葉縣上總國夷隅郡の東北部。夷隅川の北岸にて東より北は長生郡の一部と隣る。中部より北部にかけては丘陵地にて針葉樹林多く、南部は夷隅川流域の平地にて米・蕎麦を産し、養鶏も行はる。縣道は北走して長生郡一宮町に通ずるものと南部を東走して長生郡太東村に通ずるものとあり。太東村に省線房総東線の太東驛ありてバスを通ず。

フルサ

【古澤村】富山縣越中国婦負郡の北部。富山市の西に接し、奥羽山丘陵の西北斜面を占む。また西北の一部は射水郡に界す。平地は西南半に開け水田多く、丘陵地は茶園・桑園に利用さる。米を第一に、次で茶、副業に蕎麦の産あり。南北・東西に走る道路は村内に交錯し、富山市・奥羽間にバスの便あり、省線北陸本線奥羽驛へ近く交通便なり。

フルシヨ

【古澤】愛知県愛知郡にありし村。明治三十一年廢して名古屋市の編入。フルシヨ一古庄をなし、徳島縣那賀郡羽ノ浦町の大字。省線本岐線の古庄驛（大正五年設置）を置く。

フルセキ

【古關村】山梨縣甲斐國西八代郡の中部。本栖湖西岸、御坂山脈中初め村内は山岳起伏し、谷に広がる。耕作地に乏しく、概ね森林繁茂し、林業・製炭に従ふ者多し。農産物は蕎麦・粟・蕎麦・大豆等の種類頗又は稀等にて、養鶏も多少ある。流域約五〇軒。

越ヶ谷の東方に於て元荒川を合せ、嶺又に至りて東京市に入り、以下は中川と稱せらる。もとは北埼玉郡のザロと稱する地より發源せしが、今その上流は埋められ、この川もとは大河にて、下流・武蔵の國境をなせりと稱せらる。川名が意味する如く利根川の東京灣へ注ぎし時代にはその有力なる一分流たりと考へらる。流域約五〇軒。

フルハマ

【古濱村】三重縣伊勢國桑名郡の西部。桑名市の西北に接し、西南部は員辨郡に界す。養老山脈東南部の丘陵は南境に沿ひて東西に連り北方へ緩傾斜す。西北部にも小丘陵あり。多度川は西方より來りて北部を東流し、流域に低地開くも殊に東半に廣し。米・蕎麦の産多し。養・鶏・鵜の外に工業・林産・鹽産あり。西北部には縣道東西に通じて自動車往來す。東北方一・五軒餘に社線參宮急行電線養老線の下野代驛（大正九年設置）あり。この地は和名抄、桑名郡尾津郷の内ならんと云ふも詳ならず。大字御衣野は一に溝野に作り、日本武尊東夷御征伐の途次、御劍を掛け給ひし處。八劍宮と稱するはその御遺蹟と傳ふ。

フルヒラ

【古平町】北海道後志支廳後志國古平郡の一部を占む。北は小樽灣に面し、東は余市町、西は美瑛町に接す。面積一九・八・六七方軒。南北に狭長なる地形を有し、北を除く三周は二條の山脈に圍繞せられ、

行はる。里道により鐵道省借入線富士身延鐵道久那士驛へ約六軒、交通便ならず。大字中ノ倉・釜根に富士箱根國立公園の内。〔木食上人遺蹟〕宇丸畑にあり。木食上人誕生の家及び六十歳の時歸省して建立せし永壽庵遺存す。永壽庵には上人の佛像數體保存さる。上人は享保三年この地に生れ、全國を遍歴して一千體の佛像を彫刻し、各地に佛寺を建立せし名僧にて九十餘歳を以て没す。

フルタ

【古田】廣島縣佐伯郡にありし村。昭和四年に廣島市に編入す。フルタカマツ 古高松村 香川縣讃岐國木田郡の北部。高松市の東方約六軒。北は尾島町に界す。東南部に一〇〇一・一五〇米餘の丘陵ゆるやかな起伏をなして、耕作する他は低平なる高松平野の東北の地を占め、地味肥沃なれば農業盛にして特に畑作多し。また北部より相引川東西に流れ、春日川は西部を北流し、灌溉の便よろし。米・蕎麦を初め果實・烟草を産す。北部の村境に並行して高松市より來る縣道ここを通り、また四國水力電鐵高松停留場あり、省線高松本線は縣道の南側に東西に走り尾島驛（大正十四年設置）あり。古くはこの邊一帯の地を高松郷と稱せしが、近世に至り高松の名は香川郡に移し、此地を古高松と呼ぶ。此地は元暦二年の戰場にて、源義経が屋島内裡を襲ひし時、向浦なる幸経・高松の兩郷を燒きたる事、東鑑・源平盛衰記等に

天狗嶽（八七二米）・泥ノ木山（九〇四米）等の高峰重疊し高峻なる境界をなす。東西兩山脈に挟まれたる中央部は低地をなし、南部の山中に湧する古平川は北流して海に注ぐ。河口に神積平野及び市街發達し古平港を抱く、瀧以西の海岸は出入に富み入船・丸山新地の如き漁港並び人家棚比す。鰯・鱈・柔魚・帆立貝等の産頗る多し。古平港は近海航路の發動機轉の發着頭蓋にして、陸路はバスにて余市町・美園町に往復の便あり。この地は慶長年間より漁業地として知られ、今は往時の隆盛は見られざるも、然る他の沖合漁業に勉むるため積丹半島有数の産額を示す。苹果も約五十年來栽培され、近年本町の産物中最も重要なものなり。〔琴平神社〕新地町に鎮座。縣社。祭神大物主命。慶應元年有志謀りて丸山の麓に社殿を營みて勧請する所、爾來一郷の崇敬を籠む。例祭七月十日。〔古平郡〕↓古平町

評かなり。地内に高松三郎頼重の築きし高松城址あり。今その地に喜岡寺あり。本村及び尾島町に屬する屋島は、指定史蹟・天然記念物たり。屋島町（高松城）美濃土岐氏の一族、木舟（高松）三郎頼重の築く所。その裔、香西氏に屬し、天正十一年五月、仙石秀久來り攻めしも克たずして退る。秀吉の四國征伐に際し同十三年四月、宇喜多秀家、備前・美作の兵を以て來り攻む。城兵力竭き、頼重始め片山志摩・唐人彈正の二將以下悉く戦死す。喜岡寺は寛文元年これ等戦死者を弔ふため僧慧行の開きしもの。

フルアル

【古平町】臺灣臺東縣下にあり。原居住地は臺中州新高南郡ラングアイ社にて約百三十年前に現在の社を形成す。アヌ族の高山蕃に屬する高砂族の部落。戸數一五、人口一三六（昭和十一年調査）。

フルマ

【古間村】長野縣信濃國上水内郡の北部。長野より高田に至る北國街道に沿ひ、千曲川支流の鳥居川は本村を過ぎて南流す。村は西方に黒姫山（二〇

五三米）・飯綱山（一九一七米）を望み、斑尾山（一三八二米）は村の東端にあり。柏原村と共に前記三火山の樹合にて小盆地を作る。南は中郷村・富士里村に界し、北は柏原村・信濃尻村に接す。野尻湖は村の一部にして、第三紀層の間にありし谷が東に斑尾山の火山噴出物により埋き止られたる裾野式堰塞湖なり。湖面の高さは海拔六五四米。湖岸は頗る出入に富み芙蓉湖の名あり。湖盆の平均深度一五・二七五米、最深は三六米以上に達す。冬季酷寒の年は積水面に「しみわれ」と稱する裂隙を生ず、諏訪湖の神渡と同じ現象と思はる。夏は涼しく避暑に適し外人の來遊するあり、冬季は積雪三米以上にも達するも、積雪少き時はスケートに適す。本村に屬する湖は南岸の一部にて多くは信濃尻村に屬す。耕地は鳥居川に沿ひて水田僅かに開け、山麓の斜面は桑園・畑作に利用せらる。省線信越本線古間驛（昭和三年設置）を置く。本村は古間・富濃・斐川原の舊三箇村を合して成れるものにして、芙蓉湖の琵琶崎・舟楫山・戸草城址、割ヶ嶽の城址等を控へし景勝の地なり。

フルマキ

【古間木】東北本線の一驛（明治二十七年設置）にして十和田鐵道に接續す。青森縣上北郡六戸村大落瀨にある。馬郡の東部。利根川の西岸にて湯川町の

年間に南部氏に滅さる。其後一時、南部利直の居城たりしが、寛文七年に城を毀つ。當時の遺手・櫓手の址殘存す。昭和三年の陸軍特別大演習に、陸下の御野立所となる。いま記念塔を建つ。〔陣ヶ岡〕大字陣ヶ岡にあり。前九年の役に、源頼義・義家が安倍貞任征伐の時陣所たりしより名稱起るともいへど詳ならず。文治五年九月、源頼朝奥州征伐の時この地に陣す。時に泰衡の家臣河田次郎、主を殺してその首を持ち來る。頼朝その狀逆の罪を責め河田をこの地に斬る（東鑑）。

【古市】近江國（滋賀縣）の古地名。和名抄に滋賀郡古市郷あり、布留智と訓す。今の大津市膳所町の邊に當る。〔古市（郡）〕河内國（大阪府）の古郡名。また舊市にも作る。東略記に郡名見ゆ。和名抄は不詳知と註し、新居・尺度・坂本・古市の四郷を管す。後世フルイチと訓す。明治二十九年に南河内郡に入り郡名を失ふ。古市郡

フルチ

【古市】福津國（大阪府）の古地名。和名抄に東生郡古市郷あり、不詳智と訓す。今の大阪市旭區森小路邊に當る。

フルトイ

【古樋】省線鋼線の一驛（大正十四年設置）。北海道網走支廳北見國網走郡小清水村にあり。

フルトネ

【古利根川】埼玉縣東部の川。南埼玉・北葛飾兩郡の境を南流し、

南方に位し間に豊秋村を挟む。東は川を隔てて勢多郡の一部と相對す。西半は榛名山の山裾の一部をなし、東半は平地をなす。農業行はれて米・蕎麦を産し、山裾一帯は桑畑ありて養蠶行はる。前橋市及び高崎市より湯川町に通ずる縣道は共に村内を北走し、東武鐵道前橋線・高崎線これに沿ふ、また省線上越線も東部を北走し八木原驛（大正十年設置）を置く。古くは和名抄、群馬郡有馬郷の内にして、大字有馬は蓋しその遺稱とす。大字半田に三角城址あり、比企氏の遺跡といふ。明治廿六年、明治天皇前橋・高崎行幸の際この地にて演習を大覽遊ばさる。

フルマチ

【古町】熊本縣鹿志郡にありし村。大正十年に熊本市に入る。フルミ 古見 筑後國（福岡縣）の古地名。和名抄に山本郡古見郷あり、その地名の三井郡内ならんと詳ならず。

フルミ

【古美村】三重縣伊勢國桑名郡の西北部。桑名市の西北約三軒。西及び南は員辨郡に圍まれ、北は岐阜縣海津郡に界す。北境には養老山脈が約七百米の高さに西北より東南に連り岐阜縣境を劃して南方へ傾斜す。これより一丘陵が南方へ延びて西境をなし、更に東南方へ連りて南境を限る。古野川は西境に發し、中央南偏を東南に流れ古濱村に入り、沿岸に耕地拓く。米・蕎麦の農産及び鵜

州・鶴・亞炭等のほか工業あり。河川に沿ひて縣道が南部を横断し、社稷參宮急行電鐵養老線の多度峠は東方約三軒にありて自動車を通ず。もと古野・美鹿の二村なりしが明治二十二年合併して現村名となる。

フルミ 古海 四番國(鳥取縣)の古地名。和名抄に高草郡古海郷あり、布留美と訓す。その地は今の氣高郡大正村の邊に當る。

フルミ 古溝 下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に相馬郡古溝郷あり、その地は今の東葛飾郡内ならんも詳かならず。

フルミ 古三津 愛媛縣温泉郡にありし村。大正十四年三津濱町に入る。

フルミ 古宮 大阪府河内國北河内郡の西南部。大阪市東成區の東方約一軒。全村の地形は平坦にして中央を一河川が貫きて西南流し、約一軒先に寝屋川に合す。農業・工業・畜産・水産あり。省線片町線鶴池新田驛(東南約一軒)・徳庵驛(南方約一・五軒)に近く交通を便なり。

フルミ 古宮村 徳島縣阿波國美馬郡の東部。脇町の南方約八軒に位し東・東南は麻植郡に圍まる。全村山岳地にて四周は高峰に繞され西北境に友内山(一〇七三米)、西南境に八面山(一三三三米)、南境中央に桐付山(二五六六米)、東南境には明神岳(二二三三米)等聳え立ち、北部中央に

は牛平山(一〇一六米)断崖す。吉野川支流の穴吹川は中部を西に貫きて流れ牛平山を廻りて、その西南麓にて樹が直角に北折し、牛平山と友内山との樹合谷を村境に沿ひて北上す。米・蕎麥・麥を産す。北方約六軒半の省線徳島線穴吹驛へバスの便あり。もと牛平山村と云ひしが昭和二年に改稱す。

フルヤ 古谷村 埼玉縣武蔵國入間郡の東北部。川越市の東隣にて荒川に沿ふ。東は北足立郡の一部と隣る。全村平地にて東部を荒川が南流し水田多きを産し、他に蕎麥・麥を産す。川越市及び北足立郡大宮町に縣道を通じ西武鐵道の自動車線あり。また西武鐵道大宮線は川越市より來りて中央を東走し黒須驛を置く。昭和十三年、蔵木村を廢しその大字下老袋・東本宿を本村に編入す。この地は和名抄、入間郡家郷の内なるべく、近世は古谷莊と稱せし地。村内に應永年間、古尾谷近江太郎信房の開基なる善神寺あり。「古尾谷八幡神社」大字古谷本郷に鎮座。郷社。祭神神天皇外二柱。創建に就きて二説あり、その一は貞應年中、僧圓仁の創建となし一は元暦元年、源頼朝が山城の石清水八幡を勧請したるものなりといふ。弘安元年に應永時堂が社殿を修繕し面目一新す。爾來、藤原氏を初め北條氏・徳川氏等の崇敬厚く、いづれも社領を寄す。附近十三箇村の總領守。例祭、九月十五日。

班とする家畜・家食類多く、一般家庭に於て副業的に着く飼育せらる。丘陵帯にては相思樹の造林着々實施せられ薪炭・竹材等の林産物あり。工業は製糖精米・製油及び煉瓦・瓦製造の小工場を除きては見るべきものなし。家内副業の一として木製品の手工着々行はる。彰化・市投間の道路は舗装されて走り、主要部落を連絡しバス通す。管内はもと總て藩領に包含せられ、清の雍正年間彰化方面より進入せる漢人によりて團練の緒に就き、爾來、移住者年を運うて多きを加へ漸次に部落を形成して今日の基礎をなす。明治廿八年帝國領以來しほ行政上の變遷を経て大正九年十月に至り地方制度の根本的改革と共に堡を廢せられ、もとの六庄を六大字に改め、これを一括して芬園庄となす。

フワ 不破 山形縣 臺灣臺中州彰化郡一街六庄中の一。郡の東南端、八卦山脈東麓と之に横く猫羅溪(大肚溪の一分流)の流域一帯を占め、東は大屯山下烏日・霧峰二庄及び南投郡草屯街、西は彰化市、南は南投郡南投街に接す。北は彰化市、南は南投郡南投街に接す。地勢は東半に丘陵隆起し、西半に平地開け猫羅溪などの小溪流が灌溉し、田畑發達して純農村を形成す。農産物は米に次ぎて鳳梨・甘蔗多く、甘藷・蔬菜・落花生・果物類の産もまた尠からず。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主

フルヤマ 古山村 三重縣伊賀國名賀郡の西部。阿保町の西方三軒餘。約三百米程度の丘陵が村内に到るところに起伏し、東北部にやや低地ありて耕地拓く。農業を主産業とし米作が主にして副業に養蚕行はれ、軍馬用乾草の特産物もあり。名産街道は中央を縱断して北方の阿山郡上野町へバスの便あり。この地古くは和名抄、伊賀郡阿賀郷の内なるべし。(市場寺) 大字葛原池にあり。新義眞言宗豊山派。本尊阿彌陀如来坐像(木造、鎌倉末制作)一軀。四天王立像(木造)一軀は豊原末期の作と推せられ、共に國寶。(觀音寺) 大字東谷にあり。新義眞言宗豊山派。口傳に、本尊は天正の亂に地亡せし神戶村我山の觀音像にありしものを本寺に安置せしものといふ。本尊阿彌陀如来坐像(木造)一軀は豊原末期の作と推せられ現に國寶。(蓮華寺) 大字湯屋谷にあり。新義眞言宗豊山派。梅母山。延暦年間に行基の地に本尊藥師佛を安置し六坊を築くといふ。のち廢絶に瀕せしが最明寺時經遷徙し來り、寺領二百石を附して再興す。日光・月光菩薩立像(木造、鎌倉初制作)二軀は國寶なり。

フルユ 古湯 山形縣 佐賀縣 **フルユモト** 古湯本 山形縣 佐賀縣 **フレテレチョー** 降照町 山形縣 降照町とも云ふ。日本橋區小舟町三丁目と

小朝町一丁目との間、荒布橋と親父橋との間の通りの俗稱、雪踏屋と下駄屋と軒を並べしより起ると云ふ。照降町 日本水代藏・四ノ風絶て雲靜に降照町は下踏雪踏の細工人、自強町の穂の音音見し人共家職かはらず、此前日用取は其妻、山伏は其貞、贈物切疵の音聲は今も同じ聲、獨りも身ををかへたるは見えず。

フロトン 武魯頓島 北海道千島國根室支廳得撫郡の西北端。千島列島の略ぼ中央、得撫島と新知島との略ぼ中間に位し、得撫島の北方約六五軒の海上にあり。東南は約二五軒の海水を隔てて知理保以島の北島を望む。南北最長約四軒、東西約三軒の楕圓型の小島にて、島の中央に海抜約六百米の死せる噴火口を有する死火山島なり。コニーア火山型を有し地勢放射状に傾くも、海岸はなほ三百米内外の斷崖をなし格岩に圍繞せらる。北岸には礫岩あり、南岸の尖端を南崎と稱す。往昔は多少の土着民ありしも現今には無人なり。

フロワン 社 臺灣花蓮港港花蓮郡にある舊社。タタキタ溪の右岸、塔山の北東山麓、標高約三七〇米の緩傾斜地に位す。約百年前、現在の社を形成せり。タイヤル族のタロコ蕃に屬する高砂族の部落、戸數一六、人口八八(昭和十一年調査)。

は九鳳山(三七〇米)・高南山の脈ありて南北に延び、南半部には西北に月窟峰、東南境に九龍山(四六二米)等の山地ありて、平地はそれら山地の間を西南に流れて錦江に注ぐ小河流に沿ひて傾斜さるものあるに過ぎず。農産に米・麻・棉花・蠶草等もある産額多からず、徳仁・燕岐間の道路中部を横ぎるも京釜本線の美丘驛(一・二軒餘ありて交通は便ならず。大明金嶺の遺蹟は文義面と芙蓉面とに跨る、而して昭和十年には、金一三、五〇〇瓦、銀一、五〇〇瓦、金銀一八七七(この總價額六萬餘圓)を産し、同年六月末の従業員は一五八人たり。

フンキ 奮起湖 阿里山脈の一驛(大正七年設置)。臺灣臺南州嘉義郡竹崎庄奮起湖にあり。

フンキョー 汾郷灣 朝鮮京畿道の西南部、江華灣南縁の一灣。一に汾陽灣と稱す。魯尼角と古温浦との間を灣口とし、牙山嶺地の北側をなす、その幅三哩弱。激流の細浦をなし、侵入は約一〇哩に達するも、その北方の南陽灣と同じく大部分は干潮時に混濁となり、ただ一條の淺水道を残すのみ、従つて灣岸に良港地を缺く。

フンキョー 分枝村 石川縣加賀國江沼郡の北部。動橋村の東に接し、大聖寺町の東方約六軒。東南部に緩傾斜をなす低き山林地あるも他は土地平坦にして田畑開く。主産業は米にして米を

二五軒。南は忠清北道忠州郡蘇臺面に接し、西南は漢江によりて同郡仰城面と隔たり、西北は漢江に合する錦江を境として京畿道羅州郡康川面と相對す。南北に略ぼ楕圓形をなし面積約八〇方軒。東嶺山脈の山地にて中部以南の東部には玄鑿山(五三五米)、西部には黃鶴山(三三二米)あり、その山嶺は各南北に延び、北部にも高さ三五〇米を示す一脈ありて略ぼ南北に連り山地廣きも、北部・中央部の山間と、西境を北流する漢江に注ぐ小川の沿岸には小平地ありて耕地開け、米・麥・豆・粟・玉蜀黍・棉・檀草等の農産あり、また金羅嶺山ありて金・銀を出す。西南は京南鐵道の長湖院驛、西北方は漢江左岸の京東鐵道の羅州驛に遠からざるも交通は便ならず。

フン 不 破 山形縣 臺灣臺中州彰化郡一街六庄中の一。郡の東南端、八卦山脈東麓と之に横く猫羅溪(大肚溪の一分流)の流域一帯を占め、東は大屯山下烏日・霧峰二庄及び南投郡草屯街、西は彰化市、南は南投郡南投街に接す。北は彰化市、南は南投郡南投街に接す。地勢は東半に丘陵隆起し、西半に平地開け猫羅溪などの小溪流が灌溉し、田畑發達して純農村を形成す。農産物は米に次ぎて鳳梨・甘蔗多く、甘藷・蔬菜・落花生・果物類の産もまた尠からず。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主

主産とし、湖の副産あり。東西に走る縣道ありて省線北陸本線動橋驛に近く、東方には社線温泉電軌道に沿ふ郡谷村間のバス通す。

フンキョク

文玉面 朝鮮平安北道江界郡の北西部。鴨綠江岸に沿ひ、郡邑江界へは東南約四〇軒。西北は江を隔てて滿洲國安東省輯安縣に對す。面積約二一四方軒。東南境上には駒腰山(八八三米)をはじめ高度八—九百米内外の山嶺相連り、それ等の山脚は江岸に迫りて殆ど平地を缺き、ただこれら山地より下りて江に注ぐ溪谷と江岸に幅狭きものあるのみ。森林深く良材を有し、農産に粟・玉蜀黍・豆等あり。白色滿浦嶺は江岸の平地に位し、鐵道滿浦本線の豫定終點にして、東南は江界、西南は清原、東北は惠山への道路を通じ、げれもバスの便あり、江岸の一要地たり。

フンケー

開慶 朝鮮尙北道二十二郡の一。道の北西隅に位し、東は醴泉郡に、南は尙州郡に隣り、西は忠清北道槐山郡、北は同じく堤川郡及び丹陽郡と界す。面積九三三方軒。小白山脈は郡界に連互し、北境には文鏡峰(一一六二米)、西北境には烏嶺山(一〇一七米)、西南境には長成峰(九一五米)等を起し、これら諸峰の支脈は東南或は南方に分派して郡内東部に黃場山・功德峰、中部に雲達峰・檀山・烏井山、西部に白華山・九王峰、西南境

に青華山・道藏山等九〇〇—一〇〇〇米の山岳等を起す。錦江は東部山地の水を併せて南流し醴泉郡界をなして乃城川に合し、また西北部の水を合する烏嶺川と西南部山地より来る龍岩川は郡の中央部に合流し、順江となり、更に東南に流れ尙州郡に出で洛東江に注ぐ。郡内は山地多きも以上諸川の沿岸には所々に小低地開けて主要農産地帯をなす。農産に米・麥・豆・棉花・大麻・楮・莞草・柿等あり、蠶業も行はれて繭を産し、工業に酒・織物等を出す。釜山・京城街道は中部を北上し、西北境にある烏嶺の南方、梨花嶺を越え槐山郡に出で忠州に向ひ、路上にバス通す。醴泉に向ふ道路はこの街道の南に分岐して東し、社線朝鮮鐵道北線は京釜本線泉原より北上して略ぼこの道路と並走し安東に達し郡の南部と中部は交通不便ならず。新羅の始末冠文縣といひ、のち冠山縣と改め古峯郡(成昌)に屬す。高麗時代に開喜と改稱して尙州に隸せしむ。のち開慶となし恭讓王の時監務を置き、李朝太宗の代、縣名に改む。大正三年、行政區域の變更により今の郡となり、開慶・咸安・加恩・龍岩・虎峯・戸西南・永順・山陽・山北・東魯の十面を管し郡廳は開慶面上に置かる。

フンコ

豐後 西海道十二箇國の一。九州島の東北部にあり、いま大分・別府の二市及び西國東・東國東・遠見・大分・北海部・南海部・大野・直入・玖珠・日田の十郡に分ち大分縣の管下に屬す、この國は豊前國と共に往昔の豊國をなすものなり。かの國造本紀に見ゆる大分國は、書紀景行紀に見ゆる須田國と同じく、國造本紀の國前國・日多國と共に國郡制定のとき郡となりて豊國に屬し、文武天皇の朝、豊國を前後二箇國に分つに及び豊後國に配せられしものなるべし。國府はい

は潮流は内海に向ひ最大となり、干潮時には外海に向ひて最大となる。されど嚴密には約半時間早く轉流するも、これは不完全なる反射波の加はるためなり。流速は五—七節にて瀬戸内海の他の瀬戸と同程度なり。昔は後吹名門と呼ばれ、神武天皇御東征の時ここに推根津彦が先鋒となりて東進せり。瀬戸内海的重要入口として附近一帯は要地帯なり。

【豊後】 豊後本線の一驛(昭和三年設置)。大分縣直入郡萩村にあり。【豊後竹田】 豊後本線の一驛(大正十三年設置)。大分縣直入郡豊岡村にあり。【豊後中川】 久大線の一驛(昭和九年設置)。大分縣日田郡中川村にあり。【豊後宮土】 由布岳(大分縣)の別名。【豊後三芳】 久大線の一驛(昭和九年設置)。大分縣日田郡三芳村にあり。【豊後森】 久大線の一驛(昭和四年設置)。大分縣玖珠郡森町にあり。

フンコ

青北道堤川郡、西北は同道槐山郡と界す。小白山脈の中に在りて東南境には雲達山(二〇九七米)、檀山、中央北部に主屹山(一一〇六米)、西境に有名なる烏嶺山(一〇一七米)、西南界に白華山(一〇六四米)等聳え山地多し。南部には順江の支流烏嶺川と東北より来るその支流との合流地に小平地ありて開慶の市街ここに建つ。米・麥・豆・棉花・大麻等の農産、開慶嶺山の螢石等の礦産あり。釜山・京城間の道路は尙州・咸昌を経て來り、西境の梨花嶺を越えて槐山に至り、バスを通す。梨花嶺の北方には烏嶺園の遺址あり、三韓時代の築造にかかると傳へられ、今も第一圓門と城壁の址を存す。また馬院里には麻姑城址、主屹山の西麓には金龍寺(郡内山北西金龍里所在)の末寺たる惠國寺あり。

フンサン

文島 朝鮮咸鏡南道安邊郡の中央西南部。南大川中流域に當り、東西約一〇軒、南北約一六軒、面積約一五四方軒。大寺峰・雪峰山は西境上に聳えて土地西邊に高く、西半部は砂山地なるも東半部に南大川とその支流東西に並びて北方に流れその流域に低地ありて耕地拓く。農産に米・麥・粟・豆・稗・野菜あり、京城・元山間の一等道路と鐵道京元線南北に走り、後者には龍池院・釋王寺・南山の三驛(共に大正二年設置)ありて交通便なり。雪峰山の東面に臨濟宗の古刹釋王寺あり、高麗の太祖李成桂は浪城金使たりし時、古刹千佛寺の五百羅漢を移して建立せしものと傳へ、伽藍壯麗、寺庵多し。當面は大嶺嶺山及び雙岩嶺山あり。前者は昭和十年に金一、二六、七九九、銀一四二、九八七、金銀一〇七七(この總價約四十三萬圓)を産し、また同年六月末の銀業員一、三〇一たり。後者は同年に金銀一、三六一(價額十萬五千餘圓)を産し、また同年六月末の銀業員四十五人なり。(釋王寺)面の西境に近く、釋王寺驛より西北方約四軒、バスを通す。松林中に位し李朝太祖の創建に係る名刹あり。今の建物は約二百八十年前の再建、李朝歴代の菩提寺として信仰厚く、伽藍殿堂三十餘棟に餘り、朝鮮

フンコ

を産す。槐山・青川間の道路は東北より西南に通じバスの便あり。【文島山】 朝鮮咸鏡南道安邊郡の南部。北は金津川を境として春柳面に對し、南は永興郡仁興・德興の二面に隣る。面積約七四方軒。西境に靜養山峙り、南境に德化嶺あり、それ等の山嶺東北に延び、面の西南の大部は概ね山地なるも、北境には金津川東流し、南西の山地より下る小流はみなこれに注ぎ、米・麥・粟・大豆は低地ありて耕地拓く。米・麥・粟・大豆、大麥等を産す。鐵道咸鏡線は東境に近く南北に走り、文峰驛(昭和二年設置)を設け、道路またこれに並走し、東部は交通不便ならず。當面に榮豊金山ありて昭和十年には金銀四四〇(價額五萬餘圓)を産す。また興平金礦ありて鐵礦は永興郡に跨り、同年には金銀一、六三五(價額約二十八萬餘圓)を産す。永興金山はその鐵礦、當面と永興郡に互り、同年には金三一、九九八、銀九、五五八、金銀一、六七九(此總價額二十三萬餘圓)を産す。

フンコ

朝鮮黃海道安邊郡の東部。西南部は郡邑安邊面に隣り、東北は靉寧江を境として黃州郡青龍面・舍人面の西部と相對す。面積五八方軒。西半部の中部以北には高さ百米内外の丘陵東西に延互するも、その餘は靉寧平野の北部に當る平坦地にて椶川は南境を、水合江は北

内務に見る宏壯麗美の古刹なり。每春、古典的なる釋尊降誕祭を行ひ参詣者多くまた附近松茸の産を以て名あり。【文島山】 朝鮮咸鏡南道安邊郡の南部。北は金津川を境として春柳面に對し、南は永興郡仁興・德興の二面に隣る。面積約七四方軒。西境に靜養山峙り、南境に德化嶺あり、それ等の山嶺東北に延び、面の西南の大部は概ね山地なるも、北境には金津川東流し、南西の山地より下る小流はみなこれに注ぎ、米・麥・粟・大豆は低地ありて耕地拓く。米・麥・粟・大豆、大麥等を産す。鐵道咸鏡線は東境に近く南北に走り、文峰驛(昭和二年設置)を設け、道路またこれに並走し、東部は交通不便ならず。當面に榮豊金山ありて昭和十年には金銀四四〇(價額五萬餘圓)を産す。また興平金礦ありて鐵礦は永興郡に跨り、同年には金銀一、六三五(價額約二十八萬餘圓)を産す。永興金山はその鐵礦、當面と永興郡に互り、同年には金三一、九九八、銀九、五五八、金銀一、六七九(此總價額二十三萬餘圓)を産す。

フンコ

朝鮮黃海道安邊郡の東部。西南部は郡邑安邊面に隣り、東北は靉寧江を境として黃州郡青龍面・舍人面の西部と相對す。面積五八方軒。西半部の中部以北には高さ百米内外の丘陵東西に延互するも、その餘は靉寧平野の北部に當る平坦地にて椶川は南境を、水合江は北

百石)、梓葉に松平親良(三萬二千石)、日田に木下俊隆(二萬五千石)、森に久留島通地(一萬二千五百石)の五藩を算す。この外、日田は幕府の直轄地にして代官に任じ居りしが、明治元年逸早く日田縣となり、他の七藩も明治四年七月、何れも同名の縣と改稱す。同年十一月には以上の八縣を悉く廢して大分縣を大分に置き、全國を管し、引續き今日に至る。この國の郡は從來八郡なりしが、明治十三年五月國東郡を東西二郡に、海部郡を南北二郡に分ち、また明治四十四年四月大分市が大分郡より獨立し、大正十三年四月別府市を遠見郡より獨立して今日の如く十郡となる。

フンキョク

四國の西端の佐田岬と九州の地嶽々鼻との間にある海峡。瀬戸南海の西南に於ける重要な入口なり。中央に高島あり、兩岬を結ぶ結晶片岩の海嶺の深さは一三〇米より淺きも、兩個に潮流のため深き海峽を生じ、南側は三五四米、北側は四八一米、瀬戸内海第一の深所なり。海峡の幅は一・二・四軒にて、平均深度九・一五米、断面積は一・一一方軒にして瀬戸内海の他の出口の合計より大きく、従つて多量の海水がここより出入す。底質は砂礫にて岩盤さへも露出す。海洋要素、例へば水温・鹽分・水色・透明度等は多少は變化するも、水道内外にては餘り大なる變化なし。この潮流は大體潮位と位相とが一致し、滿潮時には

地をいづれも東流して載寧江に注ぎ、内畑地・畚田地よく拓く。米・豆・麥・棉等の農産多く果樹も栽培せらる。安岳との交通は不便ならず。

【文山面】朝鮮忠清南道舒川郡の北部。南西は郡邑舒川面に接し、北は扶餘郡玉通山(二七一米)、南西に千房山(三四七米)、その東に鳳林山(三一五米)ありて内畑地低き山地をなすも、これら山地の間には幅狭き低地あり、韓山川は東北部を、都馬川は中部を共に東南流して東南部の時草面に出て合流し、また南西部の低地は直川の上流をなす。これら河川の兩岸の平地には耕地よく拓け、米・麥・豆・棉・莞草等の農産を出す。

【文山面】朝鮮慶尙南道晋州郡の南部。東は一班城面、南は井村面に隣る。北境に將軍臺山(四八二米)あり、中部・東南部にも高さ二百米臺の山地あるも、それら山地間には小低地あり、また西半部には南隣の金谷面より北西流する順川江ありて西境を北流する南江に注ぎ、附近に平地あり、耕地よく拓く。米・麥・豆・棉花等の農産多し。馬山・晉州間の二等道路と鐵道慶全南線は中部を東西に貫き、鐵道は葛村・南文山の二驛(共に大正十四年設置)を設け交通便利なり。

【文山面】臺灣臺北州下の一郡。本郡は臺北州の略に中央に位し、新店・深坑・

石碇・坪林の四庄及び善地を包轄し、東は基隆・宜蘭、西は海山郡並に新竹州大溪郡、北は臺北市及び七星郡、南は羅東郡と接し面積約八〇〇方軒に達す。本郡は淡水河の上流たる新店溪流域一帯を占め概ね山地にして、その山地には樹木鬱蒼として臺北市の水源涵養林をなす。河川の主なるものは、新店溪の上流をなす南勢溪・北勢溪及びその支流たる景尾溪にして何れも水清く、山嶽に映えて風景絶佳。本郡一帯は臺北市郊外の恰好なる散策地として有名なり。本郡は上記の如く山地多きを以て農耕に適する平地少く田面積は約三千五百甲歩、畑は八千餘甲歩に過ぎざるも、郡下住民の生業は農業にしてその農産額は約二百二十萬圓に達し、郡下諸生産の首位を占む。米・蔬菜・果實・粗製茶等は其主要なるものなり。殊に茶は古來文山銘茶として名高し。また農家に於ては豚・牛・羊・家禽の飼育盛にして年五十餘萬圓を出す。郡下山地よりは木材・竹材・木炭・薪・樟腦等を産し價額約三十萬圓に達す。郡下の水産は主として新店溪より捕獲せらるる淡水魚にして、鮎・鱈・鱧・鰻等多く、殊に鮎は臺北市方面に移出せらる。また郡下の處々に石炭鑛山を有し、年約廿五萬圓程度を採掘す。工業の主なるものは、製糖及び精米・製糖・再製糖等なり。商業は本郡が臺灣の大商業都市たる臺北市に隣接する關係上注目すべきものなし。深

坑庄には農業専修學校設けられ郡下農業の指導員を養成す。交通は郡西部に比較的發達し、臺北鐵道株式會社經營にかゝる鐵道は臺北市萬華驛を起點とし、市の南郊を廻りて、本郡に達し新店庄新店驛を終點とし貨客の運送に従事す。臺北市新街間には大道路ありて乗合自動車も運轉す。景尾・石碇間も亦同様なり。主なる市街は、郡役所所在地たる新店、景尾・石碇・坪林等にして、特に新店は新店溪畔に臨み、附近一帯は碧潭と共に天然の公園をなし清遊地として夙に名あり。川魚料理を以て名高し。本郡善地に住する高砂族はアマヤル族にして往時は獠性なを以て知られたるも、近年は當局の指導に依りて昔日の面影なく、専ら農耕・狩獵に従ふ。主なる善社はウライ・マンヒヤ・ラガ・ラハワ・リモカン・マラナン社にして、他に新竹州角板山移住善人アン社あり。本郡はもと文山堡と稱し往昔兇番の窟窟たりしが、康熙四十七年、陳順章なる者大加納堡(臺北)の關隘を始めてより泉州人の渡來する者多く、また乾隆初年には漳州人渡來し林成祖(林本源の祖先)なる者板橋を根據地として淡水河の西部を開拓し、郭元汾なる者は新店溪一帯を開拓して漸次南進し、百廿餘年前、即ち嘉慶・咸豐年間には土蕃を壓迫して遂に石碇・坪林方面に及びて今日に到る。我が領臺後文山堡は行政區劃の一として廢用せられしが、大正九年十月の

地方制度大改正に際して廢止せられ、代ふるに文山郡建てられ、臺北州の管轄に歸して現在に及べり。

【文山炭鑛】臺灣臺北州文山郡にある石炭山。本據を新店庄青潭に置く。昭和十年に一四、九九二萬(六萬餘圓)を産す。

【文山】 汶山 京義本線の一驛(明治四十二年設置)。朝鮮京畿道坡州郡臨津面にあり。

【文山】 文井面 朝鮮黃海道鳳山郡の西部。郡邑沙里院の南隣。廣袤は東西約八軒、南北約六軒あり。載寧平野に位し、東部に高さ百米臺の小丘陵地ある外は頗る平坦にして極めて曠く南方に傾斜し、南境には載寧江の支流瑞興江西流す。畚・畑地よく拓け米・麥・豆・棉花・甘藷等を産し、味の製造行はる。京城・義州間の一等道路東北部に通じ、また鐵道京義本線の新鳳山驛(大正十五年設置)東北部に設けられ交通便利なり。中央部の九龍里に帶方太守張氏の古墳あり。富面に沙里院炭鑛・鳳山炭鑛あり。何れも有煙炭を産し明治鐵業會社の經營にて、昭和十年には前者は一〇六、二五六萬(價額六〇萬餘圓)、後者は三七、四二八萬(價額約二二萬圓)を産す。

【文山】 文政村 熊本縣肥後國八代郡の西部。八代平野の一部を占め八代灣に臨み鎮町の南に接す。西南約三軒餘に八代町あり。全村地形低平にして

昭和十年には無煙炭四七、二〇二(價額約三十四萬圓)を産し、同年六月末の従業員五〇一人なり。

【文山】 分田村 新潟縣越後國北蒲原郡の西南部。阿賀川東岸に沿ひ水原町の西南方約五軒。西は川を境に中蒲原郡に接し、新津町(約三軒)を距つ。村は阿賀川の沖積原を占め越後平野の一部に屬す。西部河岸には桑園多く、東半部には灌溉路・湯湖ありて水田開く。土地低平なれば氾濫時は耕作に支障を來すことあり。米を主産としこれに次ぐ。東部を南北に縣道貫通し省線羽越本線水原驛へ通じ、西方新津驛へ至る道路もあり、共にバスの便あり。大字福岡は文久三年會津松平氏京都守齋の功勞により越後下郡五萬石を賜はりし時、陣屋を置ける地とす。數年にして廢す。(福隆寺)新義眞言宗智山派。天平八年、僧行基の草創。のち空海堂宇を重修し、元和二年に仙臺これを再興す。

【文山】 社 臺灣高雄州潮州郡にある善社。無名山北山山脈、標高約五八〇米の地に位し、約五百年前、同郡ヒョウマ社より遷地・耕作地多きを發見し移住し來る。また傳に依れば、いま南大武山西南中腹約二〇一〇米、無名山、善稱アコチといふ大岩石ありて祖先是此の岩石より發生したりと云ふ。

【文山】 文徳面 朝鮮全羅南道寶城郡の北嶺。郡邑寶城面を距る北東約二

西部は縣管理地城に隣り、殆ど水田にて畑少し。肥後米の他に特産として蘭薯を産す。西岸に鹽田あり。省線鹿兒島線千丁驛(東南二軒餘)に近し。本村はもと貝淵といひ、文化・文政年間八代海の一部を干拓して形成したるを以て、その年號を取りて村名を文政と稱す。右埋築工事に功勞少からざりし鹿子木堂平・同謙之助父子は文政神社に祀らる。

【文山】 朝鮮咸鏡南道文川郡の首邑。郡の東南部に在り、北は都草面に隣り、南東は德源郡北城面・府内面に界す。地は東北より西南に長く面積約一〇五方軒。西境には慶峰山・遠望峰、東南境には遠高山・姑島山等の山嶽南北に連亘し山地多きも、南境に出て北流し北部に至り東折して北城面に注ぎ南江に注ぎ南江をなす。農産に米・大豆・粟・稗・玉蜀黍等あり。西隣雲林面に互りて鐵鑛を有する佳銀・滿頭兩鐵山ありて金・銀・鉛等を産す。文川の市街(玉坪里)は面の北部の平野に位し元山・會寧街道に當り、郡廳・鐵道(鐵線文川驛(大正四年設置))あり、定日に市場開かれ商業行はる。北に玉女峰あり、山高からざるも松樹蒼々として風景よく頂上よりは文川附近の平野、水興灣上の白帆等を一瞥に集め展望によらるし。

【文山炭鑛】 鐵鑛は朝鮮咸鏡南道文川郡都草面と高麗郡上山面とに跨り本據を都草面に置く。朝鮮無煙炭會社の經營にて

○軒。北東は順天郡松光面、東南は同外西面、北西は和順郡南面と界す。小白山脈西南端部の山岳地帯に屬し、東部には望日峰(六五三米)、西境には天風山(六〇九米)聳り、低地は略中部を蛇行北流する錦津江の支流寶城川の沿岸とその支谷に狭小のものあるに過ぎず。米・麥・豆・棉花等の農産あれども産額は多からず。また寶城・文徳及び昇平の金山ありて金・銀・砂金を出す。寶城・廣川間の道路は寶城川の左岸に沿ひて通じバスの便あり。

【文山】 文白面 朝鮮忠清北道鎮川郡の南部。郡邑鎮川面に南隣し、東南は清州郡北二面、南は同郡梧倉面、西は忠清南道天安郡東面と界す。面積七四方軒餘。車嶺山脈の支脈の地にして中央部には鎮川山(三五〇米)、南境中部に佛堂山(二四六米)、西境に歡喜山(四〇二米)等嶺ち山地多きも、柏谷川は東北境を環流し、東隅より來る草坪川と合して美湖川となり東南境を貫流し、西南部にも鎮川面より來る小流ありて南に流れ、北部柏谷川流域にはやや廣き低地ありて耕地よく拓く。米・麥・豆・棉花・樟草の農産、鎮川面に跨りて鐵鑛を有する聖岩金鑛よりは金・銀を出す。鎮川・清州間の三等道路は西南部の低地を南北に通じバスの往來あり。

【文山】 粉皮糖會 日本朝鮮國東州青森郡民政署管區の東部。西は津家

屯會に隣り、東は大沙河によりて雙子窩管内の唐家房會・清水河會と界す。到る處高さ五〇—六〇米の丘陵状をなすもその間所々に小低地ありて耕地拓げ、農業行はれ、玉蜀黍・豆類・落花生等を産す。金州・雙子窩間の道路は中部を東西に通じ交通不便ならず。

【文武面】朝鮮黄海道平山郡の中部北側。東は郡邑寶山面との間に西峰面を隔て、東西に長く、北西は瑞興郡の禾回・龍坪・内徳三面と界す。略東西に走る咸恩山脈中に位し、南端には中部に主峰咸恩山(八一六米)あり、西方に延びて紫雲峰(三七七米)・玉女峰(四〇八米)となり、東は東城北部の天掛山(四七〇米)となり、北境に連互する四一五米の山地との間に、西流して載寧江に入る銀波川上流の盆地を挟む。面の東南部は別に福川の支流盧川上流の一小地域をなす。平地には畑よく拓げ、麥・豆・棉・大麻・果實等の農産あり。道路東西に通ずるも等外道路にて交通なほ便ならず。

フンア 文武

【文武面】朝鮮黄海道信川郡の北西部。郡邑信川面より西北約一五軒、これと文化面等を隔つ。東西廣さ處約一二軒、南北八軒内外の地積を占む。西境中部には九月山脈の東南峰たる飛山(五八三米)あり、その東に延日峰(四四一米)、西北境上に月江山(三三二米)ありて、西北の大部は急峻ならざるも緩峻山地をなす。東南部は緩して平坦にて、西江支流の連泉川は北東に流れ耕地よく拓く。農業行はれて麥・豆・棉・棉花・煙草を主産物とす。信川・殷栗街道は西南部を横切り、また西南部より朝鮮鐵道黄海線の三泉温泉驛へは達からず。

フンベ 文平

【文平面】朝鮮全羅南道羅州郡の西北部。東南は郡邑羅州邑に隣り、西は咸平郡鶴橋面、北は同郡羅山面と界す。東南・南北共に約八軒内外の地積を占む。羅州邑との境上に錦城山(四五二米)峙ち、その脈南北に延びて面の東境を劃し、南境東部に信徳山(三六八米)あり、また中部に白龍山(三四七米)の山嶺南北に横き、北西界には國師峰(二七一米)ありて内山地多し。ただ西境を南流する榮山江支流の道川(古魯院川)の左岸と、東境と中部の山地との間を南流する小流の谷とに低地ありて畑田よく拓く。麥・豆・棉花・果實等の農産を出す。羅州・木浦間の一等道路と鐵道湖南本線は南西境に沿ひて通じ、前者にはバス運轉し、後者の古魯院驛(南隣の多待面内)に近接し、西南部は交通便ならず。

フンボ 文峰

【文峰面】朝鮮全羅南道定平郡文山面にあり。

朝鮮慶尙北道豊徳郡にある金銀山。嶺區は知品面と連山面とに跨り、朝鮮鐵道同發會社の經營に屬す。昭和十年には金銀六〇九萬(價額約九萬圓)を産し、同年六月木の従業員は二〇七人なり。

部崎

門司市の東北部より斗出する岬。下瀬海峡の東口を扼す。山口縣の申崎と相對し、中生代の凝灰岩より成り海岸に斷層をなして紫色・黄色等を呈し、帯に赤間石と呼ばれる硬の材料となる。岬には燈臺あり。聯成不動四白光(毎十五秒一閃光)、光達距離は一七・五哩。

平

【平(郡)】安房國(千葉縣)にありし古郡名。もと平群といひしが、拾芥抄は平郡と書きてヘダリと誤す。蓋し郡と群とは古へは相通用したるもの。近世は平郡と稱し明治に至る。明治三十年四月安房國四郡を合して安房郡を置き郡名を失ふ。平群(郡)。

米面

朝鮮全羅北道沃溝郡の西部。沃溝半島の北面、錦江口の南岸に位し、東北は群山府に接し、南は沃溝中に隣り、外に西岸を臨む四軒錦江口に散在する慶豊島・同也島・嶺島等、その西南約一五軒、黄海に基布する古群山群島、更にその東南方に浮ぶ飛羅島群島、並に悉く西北方の於青島等の屬島を有す。全北(全州)平野の西端部にて、中部に望如山・富興山(一〇〇米)・雪琳山等南北に延び群山府界の月明山(一一二米)に連る丘陵地ある外は土地頗る低平にて東部は益汝水利組合の灌漑地、西半は北に互る低濕地を干拓せし不二農場の耕地なり。農産は米を主とし麥・大豆・棉花等あり。近海は石首魚・太刀魚・火魚・鱈・鯛の好漁場にして漁獲多し。古群山群島は新得島以下大小二十餘島あり、風光明媚にして中央部の遊仙島は特に白砂清く海水浴の好適地なり。

平安

【平安京】↓京都市
【平安北道】朝鮮の西北部を占む。東は咸鏡南道に、南東は平安南道に接し、南西は黄海に臨み、北西は鴨綠江によりて滿洲國安東省と界し、その長白・鴨江・輯安・寬甸・安東の諸縣と相對す。地は北東より南西に延び、東西約三〇〇軒南北約二六〇軒、面積二八、四四四方軒、鮮内十三道中咸鏡南道に次ぐ第二の大造にして平安南道の約二倍に近く、朝鮮全土の約一三%に當る。行政上、新義州府及び義州・鐵城・泰川・雲山・熙川・寧邊・博川・定州・宣川・鐵山・龍川・朔州・昌城・碧潼・楚山・清原・江界・慈城・厚昌の十九郡に分れ、道廳は新義州府に置かる。人口

一六二萬、一方軒の平均五七人にて、朝鮮全土の平均九九人に達せざること遠く人口なほ甚だ稀薄なり。(地形)本道の東北部は北鮮の中央北部に横はる蓋馬高原の西部にあたり、平均一〇〇〇米に近き高度を示す。それより西南方に連る妙香・秋陰嶺・芝鷹嶺等の山脈ありて、自清川江斜面・鴨綠江斜面及び黄海沿岸斜面の三地域に大別するを得べし。清川江斜面は小白山(二八四米)・狼林山(二〇一四米)・舞臺山(七六二米)・妙香山(最高峰昆崙峰は一九〇九米)等の東南境上に連る妙香山脈と、小白山の北方臥龍峰(二二六米)より西南方に延びて廣之山(八七五米)・大巖山(一五六六米)・蓋羅山(一三三六米)・二臺山(七六五米)・天津山(八四三米)等を連る秋陰嶺山脈と其北方を同じく西南に走る芝鷹嶺山脈の南西部とによりて限らるる地域にて、熙川・寧邊・雲山・泰川・博川の諸郡と昌城・朔州二郡の南半、鐵城郡の東半はこれに屬す。清川江斜面の東北山地に發して西南流し寧邊郡の西半、博川郡の南境即ち平安南道との境界をなして黄海に注ぎ、其間、右岸に熙川江・九龍江・大寧江等の支流を合す。鴨綠江斜面は主として秋陰嶺山脈と芝鷹嶺山脈の東北部及び南西部の北面の地域にして厚昌・慈城・江界・清原・楚山・碧潼・義州の諸郡と昌城・朔州二郡北半の地なり。鴨綠

江に注ぐ支流の内、厚昌江・慈城江は蓋馬高原の地を流れ、禿魯江・忠滿江等は芝鷹嶺山脈を横切りていづれも壯年期の深谷を穿つ。鴨綠江岸地帯は河成段丘と沖積地より成る帶狀の地域をなし、沿岸の郡邑はみな國境警備上の重要地點をなす。黄海沿岸斜面は秋陰嶺山脈の末端部と其支脈によりて成る老年期の殘丘地域にて西部の天頭山(六五七米)、東部の佳人峯(五三五米)・全明峰(四五五米)等を連る線によりて鴨綠江斜面の三橋川・清川江斜面の雲川江・桂之川(共に大寧江の支流)等の流域と分かれ、南西方の海岸に緩傾斜をなす。即ち定州・宣川・鐵山・龍川四郡の地にて、高さ三〇〇—四〇〇米の殘丘所々に存するも一般に低平にして、清川江・泗松江・東萊江・清江等の小河流これを潤し耕地よく拓く。沿岸には出入多く遠淺の干潟地にして鳥類蕃殖す。(氣候)西北鮮中最も北方に位し、且つ大陸に接するを以て、その影響をうくること顯著なり。即ち夏冬は長春秋は短く、且つ夏冬、晝夜の氣温の較差大にして、降水量少く、清朗の日數多し。黄海對面の地は海に近きと土地低平なるとにより最も温和なり、これに次ぐは清川江流域なるも上流地方は冬期寒氣激烈なるを免れず。鴨綠江斜面は海を臨るに從ひ益々大陸性氣候を呈し、特に東北部は土地高きを以て、全鮮中冬期最も寒冷なる地域とせらる。いま黄海對面

の龍巖浦、鴨綠江斜面の東北部なる中江
瀛南地の気象要項を挙げれば次の如し。

龍巖浦 中江鎮	年平均			年降水量	霜雪		
	平均	最高	最低		初霜	終霜	雪
龍巖浦	10.1	23.5	-12.3	1,030	10月10日	12月23日	3月26日
中江鎮	10.0	23.3	-12.6	1,030	9月25日	10月25日	4月27日

便あり。「産業」農業は本道住民の最も
要産業にて、農家は全戸数の六七%餘に
當る一九・七萬戸あり、耕地は四〇・八萬
町歩、うち畜(水田)約一四・六萬町歩、
生産物価格(昭和十年)

種別	戸数	金額		百分一戸一人
		金額	比富	
總計	1,030	1,030,000	100	100
農産	1,030	1,030,000	100	100
林産	1,030	1,030,000	100	100
畜産	1,030	1,030,000	100	100
漁産	1,030	1,030,000	100	100
工業	1,030	1,030,000	100	100
雑産	1,030	1,030,000	100	100

田(畑)約二五・八萬町歩、一戸當り二町
七畝歩となり、朝鮮各道平均一町五反二
畝に比し廣き地積を有す。農産額は七二
四九萬圓にて全生産額の五〇%に餘る。
畜は氣候的關係上、平安南道等と同じく
全部一毛作なる農産物は米(一一一萬
石、三〇五〇萬圓)を第一とし、農民の
常食たる粟(七一萬石、八五五萬圓)これ
に次ぎ、米と共に主要移出農産たる大豆
(四七八萬圓)・玉蜀黍(三九七萬圓)等あ
り、また特用農産に大麻・棉花・胡麻・
荳・荳蔻等(一七五萬圓)・果實に苹果・

に代り、高麗亡ぶや李朝の朝鮮となる。
朝鮮太宗の十八年八道を定めし時平安道
となり、明治二十九年十三道に分割せら
し時、始めて平安北道となる。

【平安南道】朝鮮十三道の一。北朝鮮東
海斜面に於ける三道の中央に位し、南は
黄海道に、北は平安北道に隣り、東は咸
鏡南道に界し西は黄海の支瀾たる西朝鮮
灣に面す。面積約一四、九三〇方軒、十
三道中の第七位に居り、四國地より少し
く狭し。行政上、平壤・龍巖浦の二府、
大同・順川・孟山・陽徳・成川・江東・
中和・龍岡・江西・平原・安州・价川・
徳川・寧遠の十四郡に分かれ、道廳は平
壤府に置かる。「地形」東境には狼林山
脈及び北大峰山脈等ほぼ南北に連り、概
ね山地にして土地高峻なるも、中部は之
より分岐する妙香山脈その他の支脈の地
にして次第に低く、西部は更に低夷し、
大同江下流域及び黄海沿岸には平地廣し、
即ち東部山地には北東境の小白山(二一
八四米)を最高峰とし、狼林山(二〇一四
米)、咸鏡南道の境上なる東白山(二〇
九六米)・黄峰(一七三六米)・洞水山(一
七四七米)・白山(一七二四米)・屏風山(一
二五二米)・白山・北大峰等、黄海道界に
は霞嵐山(一四八六米)・霧瀨山、平安北
道界には舞臺峯(一七六二米)・龍岡山等
聳立す。中部の徳川・价川・順川・成川・
江東諸郡の地には月峰山(一〇二二米)・
飛虎山(六二二米)・笠峰(八八〇米)・萬

山嶺・雲峰山・帝釋山等あるも何れも一
千米を超ゆるもの少く、また中部諸郡の
山地間には徳川・价川・順川・股山・新
倉・成川・江東等の諸盆地あり。西部は
更に低平にして、北部の安州より平壤の
北方に至る間には慈母山脈は南北に連
るも、その馬頭山・降龍山・慈母山(五五
九米)・青龍山等いづれも六百米内外に過
ぎず。また降龍山より分岐して西南方に
横き龍南浦の北方に至る江西山脈あるも
之は更に低くして二一三米の山峰ある
のみ、それら山脈の間と西方海岸との
間には至る所低地横はる。特に南部大同
江下流南岸より中和郡に互りては調ゆる
翠浪平原と呼ばれ、侵蝕の終末期に建
せる石炭岩露出地域の大半あり、所々
に残る丘阜も頗る緩漫の起伏をなし高さ
も五〇米を越ゆるものなく、それら丘阜
の間には至る所廣き平坦地横はる。河流
に大同・清川の二江あり、清川江は西北
部平安北道との境をなして西南流し、价
川・安州二郡その流域に属す。大同江は
道の北東端なる寧遠郡の北境に時つ小白
山の南谷に發し蛇行曲流をなして西南の
方向をとり、道の南西端なる龍南浦附近
にて黄海に注ぐ流程四三九軒。寧遠郡に
て錦城江・成龍江、徳川郡にて馬遼江、
順川郡にて長鮮江、成川郡にて沸流江、
大同郡にて黄海道との境を流れる南江
等の諸支流を合し、その本支流城面積實
に一六、六〇〇方軒(この内支流の南江

流域は黄海道内にも及ぶ)に餘り、本道
の大部分を潤す。「気候」大陸の影響を
うけ夏季の季長く春秋は短く、夏多・晝
夜の温差また多し、されど四季を通じて
天候清朗雨雪少きを特徴とし、夏季日射
頗る強きを以て植物の生育旺盛耕種に適
す。要するに北海道より暖く奥羽の諸縣
より住み安しと稱せらる。いま昭和十
年の西部(龍南浦、中部(成川)、東部(陽
徳)の気象要項を挙げれば左表の如し。

龍南浦 成川 陽徳	平均気温			年降水量	霜雪		
	初	終	雪		初	終	雪
龍南浦	11.1	23.5	-12.3	1,030	10月10日	12月23日	3月26日
成川	11.1	23.3	-12.6	1,030	9月25日	10月25日	4月27日
陽徳	11.1	23.3	-12.6	1,030	9月25日	10月25日	4月27日

(交通) 鐵道は京義本線西部を南北に貫
きて平壤・順安・肅川・新安州を繋ぎ、
これを幹線として平南線は平壤・龍南浦
間を結び、平壤炭礦線は大同江より東
方勝湖里に達し、平壤・元山を繋ぐべき平
元西線は同じく西浦驛より分岐して既
に陽徳に達し、その順川驛より鴨綠江岸
の龍南浦に通ずべき龍南本線分岐してい
ま平安北道江界郡江界まで通過せり。ま
た价川驛は京義本線新安州驛と龍南本線
价川驛を連ぬ。道路には京義街道は京義
本線と、龍南浦街道は平南線と略平行し、
元山街道は平壤より東して江東・成川・
陽徳を経て元山に向ひ、其他、二等道路
に龍南浦より黄海沿岸に近く北に延りて京

種目	価格	百分比	生産額(昭和十年)		
			金額	戸数	平均
總計	1,030,000	100	1,030,000	1,030	1,030
農産	1,030,000	100	1,030,000	1,030	1,030
林産	1,030,000	100	1,030,000	1,030	1,030
畜産	1,030,000	100	1,030,000	1,030	1,030
漁産	1,030,000	100	1,030,000	1,030	1,030
工業	1,030,000	100	1,030,000	1,030	1,030
雑産	1,030,000	100	1,030,000	1,030	1,030

大嶺・楮・楮草・胡麻等)・果實・蔬菜等あ
り。米は生産の大宗にして六〇萬石(一
七五〇萬圓)を收穫し、粟は農民の常食
その内移出高一五萬石内外に達し移出農
産物中の白眉たり。特用農産中の棉花は地
味風土在米棉の栽培に適し、品質また優
良にして收穫高二一三〇萬斤に達し、煙
草は山間部地方に栽培せられ年産三四萬
貫を超す。蔬菜中の白菜は調ゆる平壤白
菜とよばれ名産高く、主として在留支那
人の耕作に係る。果實の苹果はその生産
五〇〇萬貫に上り全鮮諸道に冠たり、龍
南浦府・龍岡郡をその主産地とす。養畜
は平壤牛として勞役肉牛兩面に適する牛
(一一一萬頭)を始末豚(一〇・五萬頭)・雞
(約六〇萬頭)等あり。近時綿羊の増殖に
着手し、畜産總額約五〇〇萬圓に上る。
水産は海岸線延長四〇〇軒なるも沿岸一
帯は殆ど干潟地にして良漁泊に乏しきも
貝類の蓄積に適し將來を期待せられ、沖
合もまた好望漁場にして漁期中は漁船の
來集するあり、石首魚・大刀魚・蛤・淺
網・鰻その他の漁獲あり、之に水産製造
物ありて産額一八〇萬圓に達し、外に製
鹽少からず。工業は平壤を中心として近
時急進に發展し、道内の工場數約六八〇
を算し、投下資本二億餘圓、生産額九四
〇〇萬圓の巨額に達し、道内總生産額の
五〇%を占む。重要工業品は精糖・製糖・
製糖・煙草・燒酎・セメント・澱粉・メリヤ

ス製品・織物・製粉等にして、織物は家内工業による徳川産(絹織)・成川明軸等の絹織物を主とし、品質産額共に鮮内第一に位置す。なほ平壤を中心として殆ど無産と稱せらるる、陶土を原料とする製陶業は将来の發達を期待せらる。鑛産には石炭・金・鐵等を主とし、殊に大同江下流域を中心とする無煙炭の埋藏量は八億噸と稱せられ、江東炭鑛をはじめとし、江西・大寶・平壤等の十四炭鑛の稼行ありて約六五〇萬圓を産し、金・銀・銅・鐵その他を合すれば一二〇〇萬圓に垂んとす。

ヘーイ 米院面

朝鮮忠清北道清州郡の東部。清州邑の東約一五軒、北は槐山郡清安面、東は同郡青川面、南は報恩郡山外面に接す。小白山脈の支脈起伏し、東南境には俗傳山の西北嶺なる神仙峰(六四四米)・周峯(五八四米)、中部には東山(五四六米)、北西嶺には坐臥山(六五七米)・九女峯(四九七米)・加來山(五四六米)等あり。米院川は北西境の山地に出でて南流し、北西半部の諸水を含せ、南境に至りて西隣の瑣城面より來る柑川に會す。柑川は更に南東部の山間を迂回曲流し北東に向ひ青川面に出づ。面内殆ど山地なるもこれら河川の谷には所々に巾狭き低地を存し水田比較的よく發達す。農産に米・豆・麥・棉花等あり。清州より瑣城面を経て槐山に至る道路は中部を斜に横さりバスを通す。

ヘーイ 兵營面

朝鮮全羅南道康津郡の北東部。西は鶴川面に接し、東は長興郡有治面・長興面に隣る。南北約八軒、東西四軒内外あり。東境中部に修仁山(五六一米)聳りその山嶺南北に延びて、面の東半部はその山地に屬す。西北部は鶴川面に隣り平地にて耕地拓げ番多し。耽津江支流の錦江は鶴川面より面の南部を東に貫き長興面に注ぐ。米・豆・麥・棉等の農産あり。長興より木浦方面への二等道路は錦江筋より中部を北方に通じてバスの便あり。

ヘーイ 平恩面

朝鮮慶尙北道榮州郡の南東部。北は奉化郡雲面との間に伊山面を隔て、北は奉化郡雲面、東は安東郡稜轉面に、南は同郡臥龍面・北後面に界す。東境中部に烽煙山(五七〇米)あり、面の東半部は山地南北に延び、ただ群雲面境より來る乃城川は東北より西南流し、西南部に於て曲折流し、西南隣の文殊面より來る西川を合し安東郡界を西に流る。この川筋には幅狭き低地ありて耕地拓げ、米・麥・大豆・棉・繭等の農産あり。安東・榮州間の二等道路は中部を南北に通じて北西に向ひバスを通す。

ヘーイ 平居面

朝鮮慶尙南道晉州郡の西部。晉州邑の西隣にて、南は南江とその支流徳川江によりて奈洞面に對し、西南は大坪面に接す。東西四軒内外、南北約八軒を有する北半部は北隣は鳴石西の中部に突入し、その東北西の三處には二〇〇米内外の山地に圍まる。その山地の餘部南半の東部に延び大部分は山地をなす。南江は大坪面より來り南部の中央を貫き、西より來る支流徳川江を合して南境を東北流し、その沿岸の低地と、北部山地の間より東南部を流る、羅佛川に流ふ地にて耕地拓げ、米・麥・豆・棉花・大麻の農産あり。晉州・河東間の二等道路は南部を略東西に、晉州・全州間のもの北は北西に走り、共にバスの運轉ありて交通不便ならず。

ヘーイ 平家山

中國山脈の一峯。南側は山口縣政珂郡廣瀬村に、北側は島根縣鹿足郡朝倉村に屬す。標高一〇六六米。北麓は吉瀬川、南麓は中瀬川の流域地たり。【平家山】 四國山脈の一峯。北側は愛媛縣宇摩郡別子山村に、南側は高知縣土佐郡大川・本川の二村に屬す。四國の山には珍しき臺地的なる山容を呈す。東麓に三ツ森山(一四三〇米)・大坐禪山(一五八八米)嶺き、西麓に冠山(一七三二米)・笹ヶ峰(一八六〇米)連る。北斜面は北東流する吉野川支流の銅山川の發源地、南斜面は東流する吉野川の上流地たり。人跡稀にして登山は相當困難なり。

ヘーイ 平溪

二二六米。由布岳(一五八四米)等熔岩臺地の山々を望む。登山は久大線車馬驛より龍門瀧を経て頂上す。

ヘーイ 平溪

【平溪庄】 臺灣臺北州基隆郡の西南部。東は雙溪庄に接し、西は七星郡沙止街・文山郡石碇庄に、北は本郡の瑞芳・七堵二庄に、南は文山郡坪林庄に各々隣す。地形は略長方形にて、管内は概ね山地なり。管内を流るる主なる河川は基隆河の上流即ち十分寮河にして、本庄の西南山地に發源し、管内の中央を流れて庄の東北より外に出づ。平地はその沿邊に見らるのみ。主産業は農業にして、總人口の約五割は農業に従事し、その生産額は庄下の財源の主要部分をなす。主なる農産物は、米(蓬莱種・在來種)の約十二萬圓、茶・甘蔗・蔬菜・果實の約二十萬圓なり。畜産業は専業となすものなきも、各農戸にては概ね豚・牛・家禽の飼養をなし、重要な副業をなし、その價格約十三萬圓に達す。されど本島人は古來の習慣上、牛を食すること少なく、専ら農耕勞役に使役す。庄下は山地多きも大森林なく、従つて製材業盛ならざるも竹材・竹筴・雜等を産す。鑛産の主なるものは石炭にて、その探掘は沿革古く、今は年約百五十萬圓を採掘す。商工業に於ては特に見るべきものなし。管内の交通は官線たる平溪線の庄内に施設せらるる

ヘーイ 平海

朝鮮江原道蔚珍郡の東南部。北は其城面に隣り南は慶尙北道盈徳郡納谷面に界し、東は一帯日本海に面す。面積約六三万軒。大白山脈の東斜面にて、西隣の温井面との境には三一四〇〇米の山嶺南北に連りて東面を以て概して便利よく、庄内に菁桐坑・石底・嶺窟寮・十分寮の四課(共に昭和四年設置)を設く。庄下の教育狀況は概して普及發達し、瑞芳小學校分校場の他、公學校二、分教場一、及び青年團、國語講習所等設置せしめらる。この地は往時は番人の跳梁にまかせし地にて、漢民族の當地方に入居せしは、約百八十年前の事に於て爾來、移住する者多く、専ら粟の栽培に従事し、隣庄なる粟を、本庄にて栽培收穫せし粟の集散市場として一時は盛況を極めたり。されど其後、文明の發達に伴ひ歐洲諸國の化學染料の發明輸入と共に、本庄下の粟は其製品に壓倒せられ、現在にては全く其影を没するに到れり。されど是に代りて炭鑛業發達したるを以て、現今に於ては本庄は炭鑛町として亦盛なり。本庄の地は清領當時に建てられた石碇堡(いま本庄と七星郡沙止街)に屬し、石碇堡は我が領臺後も其行政區劃として用ひられしが、大正九年十月の地方制度改正により本庄下の二庄(現大字)を割きて平溪庄とし基隆郡の管轄下に歸せしめたり。

ヘーイ 平元

【平元東部線】 朝鮮總督府鐵道の一。成鏡南道高陽郡内を走る。成鏡本線の高陽驛より分岐して西方に走り城内驛(水洞面)に至る。全長三〇・〇軒。【平元西部線】 朝鮮總督府鐵道の一。平安南道を東西に通ず。京義本線の西浦驛より起りて東に向ひ順川・長林寺を経て陽徳方面に通ず。全長一三・九軒。この線は將來更に東方に延びて日本海岸の元山府に達すべきもの。

ヘーイ 平原

朝鮮平安南道の西部。北は安州、東は順川、南東は大洞、南西は江西の諸郡に隣接し、西は黄海に面す。面積九八四万軒餘。東境には慈母山脈の隆骨山(四〇二米)・青龍山(五四六米)・慈母山(五五九米)・降龍山(五九六米)に連り、中部には降龍山より西南方に向ひて起伏する來祖山(二六一米)・金剛山(二五五米)・萬徳山(二四三米)の丘陵地あるも、いづれも老年期の山地にて傾斜緩慢なり。普通江その間の平地を南流して平壤に至りて大同江に注ぎ、郡の北部と西南部海岸地帯に至る所平坦にして郡名に背かざる大平原地帯をなし、百丈川は北部を潤して安州郡境をなして西流する。沿岸は小灣入多き干潟地遠く連り漢川浦の漁港ある外諸地に乏し。畜(水田)・田(畑地)よく拓げ、農産は米

部崎を望み、西北方は約六軒にして玖珂郡室津港あり。四周は周防灘に面し、東西に細長き小島あり。面積一八・三四万軒。島の中央に長澤山(四五二米)聳え、富村はその斜面にして山林深し。海岸線は小出入を有し傾角四方に斗出し良灣を有するも、後背地は概ね險崖にして漁業振はず。村民は農を主産業となし米・麥・繭を産し、鯛・鱒等を漁獲す。近海通ひの發動機船の便あり。

ヘーイ 平家山

【平家山】 中國山脈の一峯。南側は山口縣政珂郡廣瀬村に、北側は島根縣鹿足郡朝倉村に屬す。標高一〇六六米。北麓は吉瀬川、南麓は中瀬川の流域地たり。【平家山】 四國山脈の一峯。北側は愛媛縣宇摩郡別子山村に、南側は高知縣土佐郡大川・本川の二村に屬す。四國の山には珍しき臺地的なる山容を呈す。東麓に三ツ森山(一四三〇米)・大坐禪山(一五八八米)嶺き、西麓に冠山(一七三二米)・笹ヶ峰(一八六〇米)連る。北斜面は北東流する吉野川支流の銅山川の發源地、南斜面は東流する吉野川の上流地たり。人跡稀にして登山は相當困難なり。

江の支流たる古味谷川とこれに合する龍治川の流入蛇曲の峡谷あり。農業行はれ米・豆・麥・棉花・大麻等を産し、畜牛また少からず。鐵道京元線この高原を南北に貫き、その平康驛より東南は金化に、西方は伊川に道路通じて、バスの便あり。行政上、平康・縣内・南・西・木田・檢津・高柳の七面に分かれ、人口約六・五萬。郡廳は平康面に設かる。北境には三助嶺の南端たる國師洞の峡谷あり、西南部なる木田面の青龍山には黒金剛(小金剛)の名勝あり。

【平康面】朝鮮江原道平康郡の郡邑。郡の南部に位し、北西より南東に延び、南境の東半は南面に隣り、西半は鐵原郡北面と界す。面積約一一方軒。竹製炭地溝帯高原の一部にて、西境に姑城山(五八九米)、東境に松羅山(五七八米)、南境中部に鴨山(四五二米)もある。大部分は三〇〇米内外を有する平地にして耕地あり米・豆・麥・棉花の農産あり。郡廳の所在地にして、また鐵道京元線の平康驛(大正二年設置)あり、西南は伊川、東南は金化方面へのバスの接續地點たり。

【一〇ク 柄谷面】朝鮮慶尙北道盈徳郡の北東端。南は郡邑盈徳との間に寧海・丑山の二面を隔て、北は江原道蔚珍郡海面・温井面に界し、東は日本海に面す。西境北部に慶雲山(七五八米)聳え、南は概ねその山地に屬し、ただ南東部に平坦地ありて海岸に達しここに耕地

拓け、米・麥・豆等の農産あり。沿海は鱈・鯊・蟹等の好漁場たり。慶州より盈徳を経て蔚珍方面への二等道路は東部を縦走してバスを通ず。

【一〇ク 瓶谷面】朝鮮慶尙南道成陽郡の略中南部。東南は郡邑成陽面に、西は柏田面に接す。面積四八方軒。小白山脈支脈の元山(一〇三二米)は北境西部に、掛冠山(二五二米)は北境中部に聳え、それ等の山嶺南方に延び大部分は山地をなす。ただ南部に西隣の柏田面より来る南江の支流清川の東流するあり、その河岸に幅狭き平地ありて耕地をなす。米・麥類・豆・棉花の農産あり。交通は成陽に出づるを最も便とす。

【一〇カ 平坂町】愛知縣三河國橋豆郡の北部。半田市の東南一五軒。北は碧海郡旭村に、東は西尾町・福地村に、南は寺津町に接し、西は衣ヶ浦に面す。北部は東北より西南に矢作川流れ衣ヶ浦に注ぎ、南部にも悪水あり。此地は矢作川のデルタ上にて、南部はその先端に當る。之は矢作川の沖積作用と埋立によるなり。本町には新田集落も多く、大字中畑の卯の新田は寛永十六年に開墾せられ、市川新田は、古新田と眞々田に分れ、前者は延寶七年に後者は貞享元年の開墾にかり、當時は平坂港三問屋の一と稱せられし市川氏の姓を取りしもの。新實新田は延享三年の開墾、當時は平坂港三問屋の一新實民の姓が冠せられ、古

居新田は寶曆六年の開墾にて、開發者は下居氏なり。西小郷新田は延享二年の開墾にて、開發者は知多郡の西村・小島・郷野の三氏にして、その頭字を取りて名付けしもの。小栗新田は文政十二年の開墾にて、知多郡の小栗氏の開發にたり、奥田新田は元治元年に愛知郡の奥田氏の開發とす。西奥田新田は明治十七年に名古屋市の奥田氏により開墾さる。南新開地は同三十五年の開墾たり。このデルタ上は廣く水田化され米の産多し。また此地は寛永十二年に定められたる三河國五ヶ津の一つにして、附近の魚類が集散され、南端デルタには鯉等の水産養殖行はれ、南端また三河木綿の産地に屬す。此地はまた三河木綿の産地に屬す。交通は平地にあるためにして、社線三河鐵道は南部より直角に西に折れ、猪投方面に至り、中畑・三河平坂・三河橋の三驛(共に大正十五年設置)を置き、西尾より社線名古屋鐵道に至り、羽張・平坂・港前の三驛(大正三年設置)あり。明治二十六年町制を布き、同三十九年に中津村と共に廢され、西野町大字田貫、奥津村の七大字とを以て平坂村を置き、大正十三年再び町制を布く。北部は古く和名抄、橋豆郡八田郷に屬し、大字矢田は郷名の轉なるべし。

【一〇サ 平山】朝鮮黃海道中部東部。東より南東は金川、南は延島、西は海州・鞍峯・鳳山に、北は瑞興の諸郡と隣接す。

【平山面】朝鮮黃海道平山郡の東部。北は郡邑寶山面に、南は金岩面に隣り、東は禮成江支流の九淵川を隔てて金川郡白馬面に、南東は同金川面に對す。面積六〇方軒餘。禮成江は中部を彎流して南に貫き、江岸と東境をなす九淵川に沿ふ部分低平にして畑地よく拓げ、西半部は高さ二百米内外の丘陵起伏しその中央部にまた小低地を作る。麥・豆・棉花等の農産あり。京義街道と鐵道京義本線は西部中央の低地を南北に通ずるも四近との交通便ならざるを以て後者は驛を設けず。曾て平山郡廳ありしも今は北隣の寶山面に移さる。

【一〇サン 坪山】朝鮮咸鏡南道北青郡にありし面。新北青・倍厚の兩面に分割編入さる。

【一〇シ 平治岳】久住山(大分縣)の一峰。

【一〇シヤナ 平遮那】臺灣總督府鐵道阿里山線の一驛(大正七年設置)臺灣州嘉義郡番地平遮那にあり。

【一〇シヨ 平昌】朝鮮江原道平昌郡の首邑。郡の南端に位す。東・南・西はそれぞれ寧越郡の美濃面・北面・酒泉面に界す。面積一六六方軒餘。北境東部に南屏山(一五〇米)、南東境に三方山(九八〇米)、北西隅に獅子山の一峰白徳山(一三三〇米)等聳え、東部・西部は共に殆ど山地をなす。ただ中部に流入蛇曲して南流す

る平昌江ありてその沿岸の所々に幅狭き河成平地ありて耕地拓く。米・麥・大豆・粟・玉蜀黍等の農産、平遮・南石・寧昌等の嶺山より金・銀を出す。邑内(中里)は面の中央部、平昌江の北岸に建ち、郡廳・警察署・地方法院出張所等の官衙あり、また寧越・堤川・旌善・江陵方面への交通上の要點にして、毎月定日に開市ありて地方商業の中心地をなす。その魯山の中央には文祿の役に際し郡守權平文の築きたりて傳ふる城址を存す。後坪里の龍塘山には龍山亭ありて江山の眺望に適し、南山中腹の小丘上には松鶴樓あり、また春花秋楓の景に富む。

【平昌江】朝鮮江原道南部の河。漢江支流。平昌郡の北境に近き大白山脈支脈中に發源して南流し、平昌邑附近に至り山地を流入蛇行して南流を続け、寧越郡に入るや西面新川里に於て西北より来る酒川江を穿れ、之より東々南に蛇曲流し、寧越邑の南方にて漢江に入る。流程約一〇〇軒に及ぶも、概ね兩岸相迫りて平地少く、舟便・水利の便に乏し。但し下流々城に於ける標草の産は著はる。

【一〇シヨ 平莊村】兵庫縣播磨國印南郡の東部。加古川の右岸に接し高砂町(加古郡)の東北約五軒にあり。東北部は加古郡・加東郡に接し、南は川を隔てて加古郡に界す。村内縁邊部の所々に丘陵起伏し、中央に低地開け南境を西南流する加古川を越えて南方へ廣く連

面積一、二三五方軒、道内十七郡中、谷山・海州二郡に亞ぎて第三位に居る。東北部より中部を北偏して咸徳山脈斷嶺起伏して南西に延び、東北部に金銅山(五二四米)、中部に咸徳山(八一六米)、南西部に主之峰(七一二米)、南西境上に雲連山(六〇〇米)等を起す。これがため地勢略ぼ東南に傾き、主之峰の東側に發する福川は中部を東流し、南東境上の石耶山(三六〇米)・黃衣山(四七八米)の北面より北東流し来る古之川と、咸徳山の北東境より出て南東流する盧川を併せ、なほ東流して郡の東境をなして南流する禮成江に合す。また東北部には金銅山の北より來り東南流する南川ありて禮成江に入り、南西部には主之峰の南面を南西流する花陽江ありて延島郡に出づ。また咸徳山の北には銀波川ありて西流して鳳山郡に出で鞍峯江に注ぐ。これら河川の流域には耕地少からざるも灌漑の便少く爲に畑地は三、〇〇〇町歩なるも田は僅に六、八〇〇町歩に過ぎず。米・麥・大豆・棉花等の農産の外、苹果・梨等の果樹栽培も行はる。工業に木綿及び絹の織物・酒類・鹽産に金・銀を出す、外に林産・畜産あり。鐵道京義本線と京義街道は東北部を斜に貫き、沿海の南川(寶山面)より北東は新溪へ、南西は延安方面へバスを通ず。行政上十四面に分たれ、人口約一〇・二萬人、郡廳は東部の寶山面南川面に置かる。

【平城村】奈良縣大和國生駒郡の東北部。奈良市西北部より僅か西に在り、北は京都府相樂郡に界し、東北隅は木津町に接す。東部及び西部は一五〇米程度の臺地狀の丘陵あり。中央には西北より東南の方向に平野開けて奈良盆地に續き、秋篠川の小浜が北境に發して南流し南方にて佐保川に入る。米産多く麥・蠶も出す。東部には社線奈良電氣鐵道南北に走りて平城驛(昭和三年設置)あり。縣道もまた東部を南北に通ず。古の平城京の西北部に當るより村制實施の際に平城村と名づく。もと高野原と汎稱せしもの如し。地に成務天皇・稱徳天皇・神功皇后・垂仁天皇の皇后の御陵あり。大宇秋篠に名刹秋篠寺あり、また神社として知らる。

【平山面】朝鮮黃海道平山郡の東部。北は郡邑寶山面に、南は金岩面に隣り、東は禮成江支流の九淵川を隔てて金川郡白馬面に、南東は同金川面に對す。面積六〇方軒餘。禮成江は中部を彎流して南に貫き、江岸と東境をなす九淵川に沿ふ部分低平にして畑地よく拓げ、西半部は高さ二百米内外の丘陵起伏しその中央部にまた小低地を作る。麥・豆・棉花等の農産あり。京義街道と鐵道京義本線は西部中央の低地を南北に通ずるも四近との交通便ならざるを以て後者は驛を設けず。曾て平山郡廳ありしも今は北隣の寶山面に移さる。

【一〇サン 坪山】朝鮮咸鏡南道北青郡にありし面。新北青・倍厚の兩面に分割編入さる。

【一〇シ 平治岳】久住山(大分縣)の一峰。

王の邑なりしと傳ふ。(狭木之寺間御陵) 垂仁天皇皇后日葉酢姫命の御陵。俗に御陵山と呼ぶ。前方後圓墳にして周濠を有し、曾て大形之盾・鏡蓋等の埴輪物・鏡・石製品を出せり。(狭城后列池後陵) 成務天皇の御陵。康平年間に興福寺僧の山陵發掘の事あり。中世、陵所不明となりしが、のち現所を推し墓本修葺の際修治を加へらる。(狭城后列池上御陵) 神功皇后の御陵。里俗五社神と稱し、南面せる前方後圓墳にして周濠を有し、松樹繁茂す。(高野陵) 稱徳天皇の御陵。畿紀、高野山陵に作る。中世以後は山陵荒廢しその所在を失ひしが、文久三年現所と推定、修補を加へらる。(秋篠寺) 大字秋篠にあり。淨土宗西山派。光仁天皇の勅願に依り、寶龜十一年善珠の開創と云ひ、光仁・桓武兩天皇の勅願寺たり。續日本紀同年と弘仁三年の各條に、勅封各一百戸の施人ありし事を載す。中世以後は衰頹す。堂宇中、本堂は國寶、本尊藥師如來及び兩脇侍(木造)の三尊の外、技藝天立像(木造)一軀・梵天立像(木造)一軀・救世菩薩立像(同上)一軀・帝釋天立像(木造彩色)一軀等は共に國寶なり。

ヘーシヨ

平壤 西鮮第一の大商都。平安南道大同郡の時中央に位し、大同江に跨る。市域は東西四・三軒、南北八・四軒、

面積二三方軒餘。市の主要部は大同江の西岸に沿ひ、ほぼ南北に連りて錦繡・瑞氣・若光(倉親)等の丘をなす丘陵地とその南端に續く大同江の氾濫原の平坦部とを含む。府は大同江の南岸を東西に展開する大同平野を控へ、大同江の水運に恵まれ、また天然の要害たるを以て夙く史上に著はれ、朝鮮の國祖檀君の都せし處と傳へられ、以來、箕子朝鮮・衛氏朝鮮・高句麗等歴朝の國都たりし處なり。箕城・樂浪・西京・西都・錦京・柳京等の別名を有す。明治四十三年の日韓併合に先ち既に鐵道京義本線開通して平壤驛(明治四十一年設置)を南部に設け、次で鎮南浦に至る平南線成り、寺洞・勝湖里の炭礦開發につれて平壤炭礦敷設され、東部に船橋里驛(大正九年設置)置かれ、更に西北部に京義本線西平壤驛(昭和四年設置)開かれて陸運交通の中心となり石炭の外、鐵礦の産出ありて工業勃興し、今や西鮮に於ける政治・經濟・商業・運輸・交通・教育の中心となり人口一七・二萬を算して釜山府と伯仲し、鮮内第三の大都市となれり。江西の市街は南北に長く延長し、その北半部は舊城内の地にて舊市街といひ、主として鮮人の住居地をなし、中央と江岸を縦貫する幹線道路と、これに直交する静海門通・大同門通等の改修道路ある外は迂曲曲折多き街路をなす。その北方なる萬壽臺の南麓と西部の丘陵地は官衙學校區にして商業學校・

崇實專門學校・崇義女學校・高等女學校・光成中學校・正義高等女學校・平壤中學校等あり。新市街は南部の平坦地を占めて舊市街に比すれば面積蓋に廣く街衢井然たり。その中央部にある平壤驛前より東北大同橋畔に至る大通あり、南町・八千代町・黃金町・本町及び大和町等これと交りて南北に走り、その東北部は主要商業區をなし、大和町通は最も繁華なり。西北部の瑞氣山丘陵とその傾斜面はまた官衙學校・住宅地をなし、瑞氣山の東北に平壤府廳・平安南道廳、西に歩兵第七十七聯隊・高射砲隊、南に醫學專門學校・覆審法院、地方法院あり。驛の西南方にはもと平川里にて陸軍兵器製造所・農業學校及び平安南道種畜場その他の種畜場多し、府の最北端の箕林里には大同郡船橋里に平川里及び北部の箕林里と共に昭和四年に編入されし新市街の一部にして、大同橋によりて新市街と連絡す。大正九年に設立せられし大日本製糖・朝鮮電氣の兩會社の工場を始め、西鮮合同電氣・朝鮮煉炭・片倉煉炭・帝國煉炭・朝鮮燐寸・平安釐造等、大小數十に上る工場あり、更にその郊外なる大同江面の地には飛行第六聯隊・航空工廠・國際航空路の着陸場(平壤飛行場)・師範學校・製馬場等設けられ、一大工場地帯をなす。工業の隆昌と共に西鮮物産の集散地に行はれて商業また活況を呈し、特に平壤栗・平壤牛・

ハムは特産物としてその名高し。東洋拓殖會社支店をはじめ各種の會社數約一二〇(うち商業會社二六、工業會社三〇)、朝鮮銀行支店その他の銀行六を數へ、また昭和十年の貿易總額一、九七〇萬圓(輸出額三九四萬圓、輸入額一、五七六萬圓)に上り、そのうち外國貿易は主として滿洲國・關東州との間に行はる。府内には名勝古蹟また多し。(瑞氣山公園) 府の中央部にある小丘にて、東南は平壤市街の大平を俯瞰し、西北には普通門の礎を望む。丘上に日清戦役の記念碑建てり。(大同門) 大同江畔に屹立せる三層樓、京城口に當り一に東門と呼ばる。約五百年前、李朝太宗六年の創建に於ける今の建築は宣祖の改築せるものにて結構雄大技巧精妙の藝術品なり。(練光亭) 大同江の北、江岸の懸崖に建つ。約四百年前、監司許敬の建てしものにて觀月その他の堂に用ゐられしといふ。上流を望めば半月・練羅の島洲が大同江の碧波の中に浮び一幅の繪を展べたるが如し。その北方に平壤名物の放生學校あり。(七星門) 北部の慶上里にあり。平壤六門の一。(平壤神社) 七星門の東に鎮座。國幣小社。天照大神を祭祀す。例祭、五月一日。(乙密臺) 北の牡丹臺と共に錦繡山峯の一角にして、臺上に四虛亭あり、約六百年前の建築に於ける。牡丹臺との間に玄武門・浮碧樓を挟み、その東方には練羅島を望み、明媚なる平壤風景の核

心なす。附近一帯は日清役平壤戦の古蹟にて四虚亭の柱には今も當時の無數の彈痕を留む。(玄武門) 平壤の北門にて乙密臺・牡丹臺間の鞍部に位し、日清戦役に元山支隊の原田一等卒が挺身城壁を越え門扉を排して全小隊を導入せし處として著はる。門の下部なる穹窿狀の石門は當時のままなり。(浮碧樓) 乙密臺の東北、懸崖の上に建つ。約一千年に前高句麗の鮮上人が建立せるもの、平壤最古の建造物。樓名は睿宗西遊の際、扈從李頰をして命名せしめしもの。溶々たる大同の碧水に臨み、練羅島眼下に横はり、宛然江に浮ぶが如き觀あり。(牡丹臺) 府の最北端、錦繡山中の最高所に位し、昔時山上に烽火臺を設けし處。日清戦役に清軍が放列を敷きて我が元山支隊を苦しめたる古戰場にて當時の砲臺の址を存す。吉野櫻栽植せられ花時の華麗を以て著はる。(箕子陵) 乙密臺の西麓松林中にあり。約八百年前、高句麗の肅宗の奉祭に始り、のち李朝に成宗増修して碑を建つ。松籟飄々、往時を語るが如き感ある靈地なり。(普通門) 府の西境、京義本線と普通江との接觸地點に位す。平壤の西門にて義州口をなし、昔時國寶途迎の要門たり。今の門は高句麗の成宗の重修せしもの。日清役に野津中將の率ゐる第五師團軍の本隊はこの門より進撃して平壤を占領せり。(崇仁殿・崇靈殿) 高等女學校の隣にあり。崇仁殿には箕子

の位牌を安置し、崇靈殿には國祖檀君を奉祀す。(船橋里) いま府の東部工業地帯たる船橋里は、日清戦役の大島少將の率ゐたる混成旅團が平壤の敵軍を攻撃牽制せし古戰場にて、大同橋畔下流の林中にその忠魂碑建てり。(浩革) 平壤は朝鮮の始祖檀君の都せし處。周の起るや殷の遺臣箕子、一族を率ゐりて都子孫相承くること四十一世、箕準に至りて燕の亡臣衛鐸のために滅さる。然るに幾何ならずして漢の武帝は遼の孫右渠を滅し朝鮮を統一して四郡を置き、平壤はその樂浪郡治となる。漢末に扶餘族は漸く勢を得て高句麗國を建て、十一代東川王は始めて平壤に都す。其後、唐の高宗は高句麗を伐ちて都城を攻略し平壤郡護府を置き、高麗の太祖王建またここに都を建設して西京と稱し、孫の成宗に至り西都に至り都を漢城(今の京城府)に定むるや平壤に監察府を置く。日韓併合後に平安南道・平壤郡等を置きしが大正三年に府制を布きて今日に及ぶ。

【平壤炭田】 朝鮮平安南道大同・江東・江西の三部に跨り、平壤府を中心とする大同江流域にあり。東西約八〇軒、南北約四八軒の地積を占め、朝鮮無煙炭田中の白眉なり。夾炭層は石炭紀乃至三疊紀に屬し、二―三層の石炭層あれど、變動激しく膨縮定まらず。この炭田に屬する炭礦中、昭和十年に年額十萬圓以上を示せるものは平壤・三神・大寶・大文山・貞伯(以上大同郡)・大成・江東(以上江東郡)・江西(江西郡)の各炭礦なり。

穴馬川交會の東岸にあり、この紙津を瀆と稱す。僧奉澄、白山に登坐する時、菑に乘りてここを渡しけるよりこの名ありといふ。古來アラレガコ産地として知られ、いま北郷村・吉田郡下志比村などと共にアラレガコの棲息地として天然記念物に指定せらる。(白山平泉寺城址) 指定史蹟。白山平泉寺は中世僧兵の強盛を以て著れしが、元弘三年には鎌倉幕府を代表して北國を鎮定せんとせし淡河時治を討滅して建武中興を翼賛し、のち足利氏叛するや北國に於ける官軍の有力なる一根據地となりし所にて、現に楠木正成の墓あり。墓は澗川戦の直後に供養のため建つる所と傳へ、寛文中に松平光通の修補を経たり、これ徳川光圀の澗川建碑に先だつこと約卅年、實に近世に於ける楠公顯彰の一著例なりとす。(白山神社) 大字平泉寺に鎮座。縣社。祭神、伊弉冉尊。養老元年に奉澄大師の創始といふ。同六年、元正天皇御不豫の際、奉澄に教して白山神社に祈らせ給ふに忽ち御平癒あり。天皇詔して社祠・坊舎を造營せられ、大野郡一圓の貢物を賜ひ、永世皇室的御祈願所と制定し給ふ。ここに於て靈應山平泉寺と名づけ白山妙理權現と尊稱す。應徳元年、延曆寺末となる源平時代、平重盛・源義仲・藤原秀衡・源頼朝等の歸信を受けて隆盛を極め、當時寺領永九萬貫・高九萬石に達し、一山四十八社・三十六堂・六千坊を擁せりと

いふ。天正二年四月、朝倉景鏡、國守同義景を執して當寺に籠るや、國中の眞宗門徒は大舉して社殿・佛閣全部を一炬に附すとす。近世は社領四百三十石を有せり。例祭、五月五日。(舊玄成院庭園) 指定名勝。舊平泉寺玄成院書院の庭園にして、慶長年間(作造せられたる如し。前方に平地を構へ後方は斜面に下り。脚下に乾池、北面に備りて小池あり。園の背後には杉・松・楓等、老樹繁生し、丘腹に若杉林立して彫刻處々に點在し、配するに石燈籠數基を以てす。園寂の景趣に富む。

一ツ 平三村

千葉縣上總國市原郡の東南部。鶴舞町の東南隅にて東は長生郡、南は夷隅郡と隣る。全町丘陵地にて針葉樹林多く、中央部を養老川の支流北流す。山地には林産多く、川沿ひの狭き平地には米・麥・蕎麥を産し、養鷄も行はる。縣道は川沿ひに設けられ、北は鶴舞町、南は夷隅郡大多喜町に通じ、いづれもバスの便あり。鶴舞町の社線小浜鐵道鶴舞町驛及び大多喜町の省線本原線大多喜驛に出づるに便なり。此地は近世に平三郷と稱せし地なり。大字平蔵にある平蔵城址は土橋平蔵の居りし處。里傳によれば、平蔵は天慶の亂に味方に利あらずして長南に走り、城陷ると云ふ。(西願寺) 大字平蔵にあり。天台宗。清泰山。承平二年、當地の領主、平將經が創建し寺内に熊野三社権現を勧請すと。

のち戦國時代に入り、兵亂絶ゆることなき。兵火に罹りて堂宇の大半廢滅す。現堂中、阿彌陀堂は佛に光堂と稱し、室町時代の建立に係り國寶たり。

一ツ 坪村

朝鮮總督府鐵道全南線の一驛(大正十四年設置)。慶尚南道晉州郡二班城面にあり。

一ツ 平澤面

朝鮮京畿道振威郡の東南部。東は安城郡、南は忠清南道天安郡に接し、水原邑と天安邑とのほぼ中間に在り。東西約六軒、南北約八軒。北部及び東部の處々に丘陵起伏するも概ね三〇四〇米を超えず、城内悉く謂ゆる平澤平野中であり、南境には安城川西に流れ、その支流中部以北を灌溉して水利よく農業頗る盛なり。産物は米を主とし、其他、麥・豆類・棉花・莞草・杞柳及び各種の蔬菜・果實(梨)あり、副業に蠶糸製造・養蠶行はる。總督府鐵道京釜本線及び京城・釜山間の一等街道は並行して中部を南北に貫き、前者を平澤驛(明治廿八年設置)あり、同驛を中心として道路網よく發達し交通便なり。驛附近に市街地ありて内地人の居住者やや多く、振威郡廳・地方法院出張所等置かれまた京畿道内農業の中心地なるを以て穀物検査所支所・農産倉庫等の施設あり、市場は米穀の取引活潑なり。此地はもと平澤郡の中心にして、大正三年まで郡衙置かれしが、同郡及び水原郡の一部を合併して振威郡を建つるや、改めて振威郡

廳の所在地となる。平澤舊邑は驛の東北約四軒の地點にあり。

一ツ 平鎮

臺灣新竹中壢郡の東南部。東は大溪郡大溪街、西は本溪楊梅庄、南は大溪郡龍潭庄、北は中壢街にそれぞれ接す。管内は概ね平地なるも西南部に小丘陵あり、地勢は南より北に傾斜す。主なる河川は老街溪・新街溪にして常に水量少く、雨期氾濫して農作物に害す。水利の便は比較的良好的なるを以て、農業は甚だ盛にして、二期作良田多く、米産額多し、其他農産の主なるものは甘蔗・甘藷・落花生・蔬菜・西瓜・果實等にして、山手丘陵地帯は古來茶の産地として有名にして、その品質また優良なり。農産總額は年約百萬圓に達す。また農家に於ては、副業として豚・水牛・黄牛・山羊・家禽を飼育する者多く、産額多くして、庄生産物の重要なものの一なり。工業の主なるものは、製糖・精米及び練瓦・木製品・蓆等の製造にして、何れも規模小にして生産額少し。本庄は中壢街の商間に屬し、庄下に於ては僅に農民相手の小賣商を見るのみ。金融機關には平鎮信託貯蓄組合を有するのみ。公學校二のほかに、公民講習所・國語講習所・國語講習會・青年團等の教育機關設置され國語による皇民化運動盛なり。本庄の地の開拓は清の乾隆の半以後にして、新街溪及び老街溪の下流より上陸したる漳州

一ツ 餅店

朝鮮總督府鐵道京釜本線の一驛(明治三十八年設置)。京畿道水原郡泰安面にあり。

一ツ 屏東

臺灣高雄州内二市の一。阿緬平野(屏東平野)の中央部。下淡水溪左岸に沿ひ、東は屏東郡長興庄、南は東港郡萬丹庄にそれぞれ境を接し、西は下淡水溪を隔てて鳳山郡の大寮二庄、北は香子寮溪を隔てて屏東郡の九塊・鹽埔二庄に對す。一望渺茫たる平野にして地味肥沃、水利の便に恵まれ農業盛なり。一方、市街は新興都市として躍進的發展の途上あり、街衢整然と、到處にガゼエムル・洋仔・龍眼等の老木鬱蒼として、麥子・椰子・檳榔樹・紫微・鐵刀木また

臨所に連立し、熱帯都市たるの特徴をよく發揮す。市街の外縁は田畑遠く連り、熱と光とに恵まれて一般作物の生育良好を極め、農産豐富なるに伴ひ、之が加工工業たる製糖・精米・鳳梨罐詰製造盛なるのみならず、阿緬平野に於ける商業の中心として重きをなし、一面、産物都市たるの特異性を有す。主要農産物は米・甘蔗・蔬菜・甘藷・バナナ・果物類等とし、殊に木瓜著はる。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き豚・鶏を主とするが畜産・家禽類多く、市外に普く飼育せらる。工業は東洋第一の稱ある臺灣製糖會社を始め、諸種の大小工場臨所に散在す。本市はまた從來飛行第八隊隊の所在地として知られ、加ふるに飛行團司令部、その他軍關係機關の新設積充あり、帝國最南端の國防都市として名實共に具はる。軍關係以外に屏東市役所・郡役所・警察署・郵便局・總督府醫院・專賣支局・法院出張所・稅務出張所・農事試驗場等の官公署と中學校・女學校・農業學校・小公學校あり。阿緬平野に於ける交通の中樞をなし、官設潮州線は西隣の鳳山郡より下淡水溪の大鐵橋を渡りて入り来り、屏東驛(大正二年設置)より南に轉じ潮州に至る。また屏東驛より北方里港に達する臺灣製糖の社線あり。道路は市街地を中心として四隣各主要地との間に放射狀に發達し、多くバスの便を有す。管内はもと港西中里に屬し、古くは平埔蕃族マカア

マオ部族のアーカワ社の據地にして阿緬は之に宛てたる近音譯字とす。又アーカワ(阿歌)社はマアカリ(打刺)社の轉訛せしものにて、初め今の高雄港附近に占居せしが、明末の海寇林道乾の虐殺暴掠を被り、この地方に退避せしなり。當時この地方は森林繁茂の地なりしを以て林の字を添へ、阿緬林または阿緬林と稱し、清の康熙四十年代に閩人により始めて部落を形成せられ、阿緬庄と呼び、乾隆の初め頃より市街として發達し、後に同音の佳字を宛てて阿緬街または阿侯街に作れり。我が領臺後、明治廿六年土地査定の際、阿緬と一定し、現行制度前は阿緬廳の所在地にして、大正九年現行制度施行の際、高雄市の廳堂半屏山の東に在るを以て阿緬を屏東と改稱し、屏東街として屏東郡に編入せられしも明治八年十二月市制を布く。(阿緬神社) 縣社。祭神、北白川宮能久親王。明治四十五年觀禮式【屏東郡】臺灣高雄州の東部中央。下淡水溪(中流)東岸に連る一帯の平野及びその東に廣く廣大なる蕃地を包容す。東西に延びたる矩形をなし、東はチガムチガム山・知本主山・鶴頭山・大武山等の中央山脈分水嶺を以て臺東廳に境し、西は一部は下淡水溪を隔てて旗山・鳳山二郡に對し、一部は屏東市に接す。南は隘寮溪を隔てて潮州郡、北は老濃溪を隔てて旗山郡に對す。東部の蕃地(高山地帯)と

西部の平地より成り、東部山地に發源する老濃溪・二重溪・武洛溪・香子寮溪・隘寮溪等の大小河川は何れも西流して西境の下淡水溪に注ぎ、臨所に廣大なる扇狀地を形成して廣大なる阿緬平野(屏東平野)を展開す。該平野地帯は土地平坦にして道路四通八達し、概ね水利の便に富み、地味肥沃なるを以て、州下有数の農耕地として一大富源をなす。加ふるに昭和二年以來施行し來りし下淡水溪治水工事竣功せしより、諸溪の亂流及び洪水の脅威を一掃し、廣大なる新生地を浮現して廣川敷地約九千甲の内、六千餘甲の農耕地を得るに及び、郡下の農業更に一大躍進を示すに至れり。東部蕃地は總面積の約五分の三に相當し、山岳重疊して連互す。西部行政地域は長興・鹽埔・高樹・里港・九塊の五庄に分轄し、郡役所を屏東市に置く。管内は殆ど農村より成り、主要農産物は米・甘蔗・甘藷・芭蕉・蔬菜類・烟草・豆類・鳳梨等に於て何れも産額多く、特殊農作物に黄麻・苧麻・寬絲・棉あり、果物類にては屏東木瓜の名既に人口に膾炙し、その大きき及び風味は全島に冠絶す。畜産は大に見るべきものあり、州下有数の畜産地にして牛・豚・鶏を主とし、品種改良の結果産額著しく増進し、改良地肥合の普及による探肥上の利益と相俟ちて農家經濟の有力なる一支柱をなす。内地人農業移民は里港庄に千歲村、九塊庄に日出村、鹽埔

庄に常盤村を形成し、主として烟草耕作に従事す。林業にては造林に見るべきものなく、薪炭・竹材・竹・木耳等の林産物もあるも産額多からず。郡下の番人は總てバイオン族に屬する僥僮番にて教化・授産等理等に努めたる結果、蕃情平穩、漸次定地耕作をなすに至れり。鐵道は臺灣製糖の社線たる里港線を有するのみにして、里港より九塊庄を経て屏東市に至り、屏東驛にて官設潮州線に接続す。道路は甚だよく發達し、橋梁の完備と共に、屏東驛にて官設潮州線に接続す。道乘合自動車も發達し、各庄より東南隣の屏東市に集中す。郡下は往古平埔蕃族たる上淡水・武洛・搭樓・阿緬等社蕃の占居地に屬し、清領後漢人の移植と共に漸次蕃族を山脚へ驅逐して開拓せしものなり。清領時代には鳳山縣治下に屬し、明治廿八年帝國領臺後數次行政上の變遷を経て大正九年に至り、地方制度の根本的改革と共に一部を形成して高雄州の管下となり、昭和七年十二月六日及及び六龜分室管内蕃地を旗山郡管轄に、また潮州郡の一部を郡下鹽埔庄に編入し、翌八年十二月屏東街は市に昇格して本郡より分離せり。

く、山腹西方へ延び、その南に周約三軒の池あり。東半部は極めて低平なる平野にして、東北境を黄龍江流れ、その支流中部を灌溉して肥沃なる耕地拓く。産物は米・麥・棉・蠶等を主とす。總督府鐵道湖南本線は東南部を貫き、その松江里驛に近く、また北境近く光州・靈光間道路通するを以て交通不便ならず。

一ナ 平南

【平南鐵山】朝鮮平安南道にある金山。本據は平壤郡東岩面御重里にて京義線石炭驛より御重里間一二軒はバス通じそれより一軒にて本據に達す。鐵山は東岩面の外に順川郡舍人面・慈山面に及び、大正十三年の登録に係り昭和十年重要鐵山に列す。地質は凡そ片麻岩より成り、鐵床はこの片麻岩に胎胎せる合金石英脈にして主要なるものは大和派と數島派とす。前者の鐵脈は比較的連続して優勢なるも、後者は走向斷層或は鐵脈分裂し尖滅せる所多し。鐵石は乳白色或は灰白色の石英に多量の黄鐵礦・方鉛礦と少量の四亞鉛礦とを伴ふ。昭和十年には金銀鐵二、〇〇三萬(價額七萬四千餘圓)を産し、同年六月末の従業員二六〇人。

【平南線】朝鮮總督府鐵道京義線の一段。平安南道の西南邊を通ず。京義本線の平壤驛より分岐し太平驛・豪城驛等を經て平南浦に通ず。全長五五・二軒。

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

一木 平浦

文山市の東部。東は宜蘭郡頭洞・基隆郡雙溪庄、西は本郡下の石碇庄、北は基隆郡平溪庄、南は宜蘭郡礁溪庄にそれぞれ隣接す。管内は概ね山地にして平地少く、人口稠密の都會地を距ること甚だ遠きを以て、全くの僻村たるを免れず。隨つて交通の便甚だ感しく、庄下に於ける産業の發達は遅々たるものなり。見るべき産業としては、僅に農業・林業あるのみ。農業に於ては田畑の面積狭小なるを以て生産額は小なるも米・果實・蔬菜等を出し、山手畑地よりは粗製茶を出す。林産に於ては木材・竹材・木炭・薪・樟腦等を出し庄下の重要財源をなすも、その交通の不便は本業發達上重大なる障害をなし、豊産を醸しつてもその生産は僅少なり。道路等に於ても全くその設備乏しく、現在に至るも交通は徒歩を以てせざるべからざる状態なり。本庄の地は清國の領有せし當時に設けたる行政區劃の一なる文山堡に屬し、本庄附近は本堡中にても文山堡に屬し、地方なり。本庄地方に漢族の入墾は後には嘉慶・咸豐年間のことに屬し、移住せし漢族は當時此地方に住居せし番人のため屋敷を被りたり。されど往時は臺北地方より宜蘭方面に出づるには必ず此地を通過せざるべからざりしを以て、現庄役場の所在地なる坪林には早く一肆街を形成し、臺北・宜蘭間の一宿驛となりしが、我が領臺後は宜蘭線設けられて鐵道による臺北・宜蘭間の連絡成りしを以て、現在坪林の肆街も全く昔日の面影を留めず。大正九年十月文山堡廢止せられ、同堡中の十三庄(現大字)の地を割きて坪林庄を建つ。【坪林橋】新店溪の上流なる北勢溪に架り、宜蘭道の要驛坪林庄坪林の街端に在りて坪林站の漁場たる清流に臨み、坪林庄下の一名所なり。

一ウ 平和

【平和村】千葉縣下總國原郡中部。八日市場町の東隣にあり。九十九里濱沿岸平地の一部を占め、北半に水田、南半に畑地あり。農業行はれて米・麥・蠶を産し養蠶も行はる。縣道は八日市場町と東方の海上郡旭町方面に通じ、八日市場町へはバスの便あり。省線總武本線は北郡を東走するも村内に譯なく、八日市場町に八日市場驛を設く。

【平和村】愛知縣尾張國中島郡の西南隅。一宮市の南西方約七軒。北は明治村に、東は千代田村に、西は祖父江町に、南は海部郡津島村に接す。濃尾平野のデルタ上において、村は南北に細長き矩形をなし、西部より南部へは日光川が流れ、東部にも天井川あり割合に低地をなす。本村は砂地より成るため桑畑多く、水田は日光川によりて灌溉さる。また畑も多く、大根・蔬菜等栽培され名古屋市への供給圈内に屬す。交通は便よく、西部に

一イ 一ニチ

【一イ 一ニチ】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

一イ 一ニチ

【一イ 一ニチ】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

一イ 一ニチ

【一イ 一ニチ】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

年中、坂上田村麻呂が蝦夷を征して閉伊村に至るとあり、弘仁年間、文室總麻呂が閉伊村の賊を伐つとあるも、未だ郡名をなさず。よりて延喜式・和名抄も郡名を載せず。東鑑に閉伊郡の名稱初め見ゆ。以後これに従ふ。明治十三年五月閉伊郡を分ちて東西南北中の五となし、同三十年四月、西・南閉伊郡を併せて上閉伊郡とし、東・北・中の三閉伊郡を合して下閉伊郡として今日に至る。

一イ 一ニチ

【一イ 一ニチ】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

一イ 一ニチ

【一イ 一ニチ】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

一イ 一ニチ

【一イ 一ニチ】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

一イ 一ニチ

【一イ 一ニチ】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

【一ニチ 平日島】平南郡日島面(朝鮮)。

一イ 一ニチ

【一イ 一ニチ】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

キス キト

綾洞・中島洞には定期に市場開かる。
キスイ 碧水(キス) 省線札沼線の
一帯(昭和六年設置)。北海道石狩國南龍
郡北龍村にあり。

キチン 碧珍面

朝鮮慶尙北道星
州郡の北部。星州西の西北に置き、西北
より北へかけて金泉郡助馬面・甘川面・
農所面に接す。南北に長く約一二軒、東
西は約七軒あり。北半は山地にして、西
北境稍高く高嶺七七八八米に達するも、
東北境を限るものは低く大嶺山(三六〇
米)を越るのみ。南部、特に東南部は
百米以下の丘陵起伏し、北部山地に發源
する洛東江小支なる伊川これを灌溉し、
沿岸は低平にして稻作田畑開く。米・
麥・大豆・大麻・繭・柿等を産す。南部
に里道四通するも、交通未だ便ならず。
海平洞は面色にして此處に碧珍將軍の遺
跡あり。

キテ 碧踏面

朝鮮京畿道
高陽郡の北部。京城府の北北西約一二軒
にあり。北は坡州郡に、東は楊州郡に接
す。地は東西に長く矩形を呈し、東西約
一三軒、南北五七軒。東北隅に高嶺約
六百米の山聳え、山腹は南と西に連りて
丘陵起伏し、中部を北流する曲流川の流
域と西部丘陵地間とに耕地開く。産物は
米を第一とし、其他、麥・豆・繭・繭等あり。
曲流川に沿って義州街道通バスあり、東
便あり、交通不便ならず。主邑高陽は東

部に偏在す。ここにかの碧踏面の古蹟及
び文廟あり。碧踏面附近は文祿役の古戦
場にして、文祿二年、小早川隆景・立花
宗茂・伊田秀家等の連合軍が、李如松の
親率せる明軍の中堅を破るの北、碧踏
館の南の地に撃破し、如松を萬死の窮地
に陥れたるは史上著名なることとす。
西南隅の高峰山(二〇九米)には山城址あり。

キト 碧桃

朝鮮總督府
道慶全西部の第一(昭和八年設置)。全
羅南道光州郡孝池面にあり。

キド 碧瀆

朝鮮平安北道の中北部。東及
び東南は楚山郡に、西と西南とは昌城郡
に接し、北は鴨綠江を以て滿洲國安東
省寛甸縣と相對す。東西約四〇軒、南北
四〇一五〇軒、ほぼ倒三角形をなす。面
積約一二五方軒。南部に飛來峰山脈東
西に走り、南境には東より大峰山(一一
四九米)・兩嶺(七七六米)・丹楓山(一
一五九米)・雙峰・飛來峰(一四七〇米)
等連り、支脈数條北に向ひて出で、雲梯
山・龍峰・盤徳山等、何れも一千米以上の
山を起しつづつ漸次北方に低夷するも、鴨
綠江岸に近くは煙臺峰・東主峰・朴李
山等四一六〇〇米等聳え、城内極めて平
地に乏し。かくて北境を蛇曲流する鴨綠
江、東境を同じく蛇曲して之に注ぐ忠清
江の沿岸にも低地の見べきものなく、
其他、南部山地に發源し北流して鴨綠江

キス

に入る東川・南川・南洞川等あるも、何
れも利用價值少し。郡の生産物總價額は
昭和十一年に於て四〇三萬餘圓にして、
工産物の一九〇萬圓を第一とし、農産物
の一三七萬圓、鐵産物の四五萬圓、林産
物の三二萬圓これに次ぐも、主生業は農
業とす。耕地は一六、〇〇〇ヘクタール
に近きも、その六割強は畑にして、田は
六〇〇ヘクタールに達せず、殘餘は火田
にして、火田民はなほ約三千戸を數ふ。

農産物は米(五萬石)・粟(三萬石)・大豆
(二萬石)・棉(在來棉、一五萬斤)・大麻
(五萬斤)・其他、玉蜀黍・蜀黍・蕎麥・
小豆及び各種の蔬菜あり、副業に養蠶・
養鷄・養蜂並に牛・豚の飼育何れも比較
的普及し、産高は九萬匹・六萬頭あり。
工業は生絲・麻布・綿布・絹布・酒類・
履物・硝子工・漆器・味噌・肥料・木炭
(四五萬圓)・裁縫品等を主なるものとす。
鐵産物は金銀・黒鉛・鐵を主とし、金銀鐵
は昭和十一年の生産額は四四萬餘圓、從
業者數は二二萬人に近く、吾北嶺山は著
名なり。交通は北部に義州・惠山嶺間二
等道路東西に走りて碧瀆・碧園の諸邑を
連れ、碧瀆より南下し東川に沿って東倉
方面に道路を成ち、何れもバスを通じ、
また鴨綠江にはプロペラー船その他の航
行あれど、交通未だ不便なるを免れず。
本部を碧瀆面ほか七箇面に分ち郡廳を碧
瀆面二洞に置く。本部は昔、女眞の地な
りしが、約五百六十年前、高麗の恭愍王

續紀老二年の條に初見。和名抄は倍久
利と註し砥河・建良・石井・狹限・長門・
大里・穂田・川上・白濱の九郷及び餘戸
一を管す。拾芥抄は平郡に作りヘグリと
謂ひ、伊呂波字類抄は平郡に作りヘグリ。里
見八丈傳・一ノ一・南海道河渡國なる、
民をこへ遷し給ひて、やがて安房とぞ
呼ば給ひぬ。日本書紀行紀に、所云淡
の水門是也、安房は僅に四郡にして、平
郡といひ、長狭といひ、安房といひ、朝
夷といふ。

【平群村】千葉縣安房國安房郡の西北部。
岩井町の東隣にあり。全村丘陵地にて森
林多く北に伊豫嶽(標高三七〇米)、東に
富山あり、中央を平久里川西南に流る。
川沿ひに耕地ありて米・麥・繭を産し、養
鶏行はれて鶏卵の産多し。縣道は西走し
て岩井町に通じ、同時に省線房総西線沿
ひ碧瀆ありてバスあり。又これと分れ
て南走する縣道は富山北條町方面に通じ
バスの便あり。この地は和名抄、平群郡
大里郷の地なるべし。村内の伊豫嶽の頂
上に少彦名命を祀る小祠あり。里見八丈
傳・一ノ五・御富山は安房國第一の高峯に
て、伊豫嶽と稱す。(天神社)大字平
久里中に伊豫。郷社。祭神、菅原道真・
木花咲耶姫命。文和二年、細川相模守は
夢吉に感じ、京都北野天神を勧請すと傳
ふ。領主細川・里見氏等の崇敬あり、社
領を寄す。平久里九箇村の鎮守。例祭、
九月二十五日。

これを驅逐して陰謀となし、次で李朝
の太宗王二年に碧瀆郡と改め、爾來幾多
の變遷ありて今日に至る。

【碧瀆面】朝鮮平安北道碧瀆郡の北部。
東・南・西は大平・鶴會・城南・松西の
各面に圍まれ、北は鴨綠江を以て滿洲
國遼寧省寛甸縣と對す。東西約一三軒、
南北六一二軒。飛來峰山脈の北斜面に
て、その山脈數條何れも五五六百米の高
度を以て南より南に直ちに鴨綠江岸に迫
り、東境の東主峰(六二五米)、南境の朴
李山(五九六米)や吾北嶺。河川は何れ
も南より北へ流れ、東川と南川を主なる
ものとし、兩川は河口に近く合流して東
南川と稱し鴨綠江に注ぎ、此等沿岸に狭
長の低地ありて農耕行はる。城内大部分
は林野にして耕地は田約一二〇ヘクタール、
畑約一〇〇ヘクタールに過ぎず。
米・粟・玉蜀黍・大豆・棉花・大麻・繭等を出
し、養蠶・養蜂やや蠶桑に、また西北部
に養蠶行はる。西境の麻山嶺を越え、碧
瀆邑を過ぎ同司嶺を経て東方楚山に通ず
る二等道路あり、碧瀆より南へ東倉・
青山市場に至る三等道路を成ち、何れも
バス通す。碧瀆邑は東南川の右岸、鴨綠
江岸に近く位し、總らずに城壁を以てす。
郡廳・地方法院出所・警察署保護區・
金融組合・養蠶組合・織物検査所及び私
立新明學校等あり。また碧瀆市ありて穀
物・生牛・蠶物等の取引盛なり。邑の内
外には五事軒・彈琴亭・六角亭等の古蹟

【平群(郡)】大和國(奈良縣)の古郡名。
天武紀に備前郡とあるは本部の舊名。奈
良朝の初め平群と改めしものか。天平二
年の大稅帳に平群郡の名見ゆ。和名抄は
平群に作り、倍久利と謂ひ、那珂・龍渡・
平羣・夜麻・坂門・額田の六郷を管す。
ヘグリは即ち邊國の轉化ならん。明治三
十年四月沿下郡と合して生駒郡を建て郡
名を失ふ。

【平群村】奈良縣大和國生駒郡の西部。
生駒山脈東斜面に位し、東南部は龍田町
に接し、西は山嶺を隔てて大阪府中河内
郡に界す。西境には生駒山脈が約四五〇
米前後の高度を以て走り、西南境に高安
山(四八八米)あり。山脈は東方へ緩傾斜
し、東境にも約三〇〇米の丘陵が南北に
走り、兩山地の間には龍田川が南流し沿
岸にやや低地あり。米の産多し麥・繭も
あり。龍田川に沿ひて清瀬街道通じ、龍
田町・北葛城郡王寺町及び北隣の南生駒
村へバス通す。和名抄に平群郡平群郷と
あるは本村及び生駒町・南生駒村に當り
之を平群谷とも呼べり。大字櫻原に鎮座
の村社伊古麻山日神社は式内大社にて兼
養鴨命・櫻稻田姫命を奉祀、俗に龍宮と
稱す。(朝護孫子寺(信貴山))大字信貴
知にあり。古義眞言宗。信貴山歌喜院。
俗稱、孫子寺・毘沙門堂・信貴山。聖徳
太子が物部守屋討伐に際し富山中に營壘
し、城跡後に佛舎を創せしに給る。のち
明蓮これの中興し醍醐・村上兩天皇の勅

キビ 鏡美面

朝鮮黃海道谷山郡
のほぼ中央部。郡邑谷山の北北東約一五
軒。東西に長く約二〇軒、南北六一二
軒あり。北大峰山脈南嶽の山地にて、西
境に栢山(二二四〇米)、東北境に杜露山
等、一千米以上の高峯對峙し、南境には
生旺山を始め七七八八米の山連り、餘脈
域内に及んで平地に乏し。大同江支流の
南江、中部を南より北へ貫き、東西兩山
地に發する杜露江その他の支谷を容れ、
沿岸に狭長なる低地ありて耕地ひろく。
ほぼ中央の文岩里附近にて南江は兩岸の
奇岩相迫りて瀾をなし、紫霞潭と稱して
若ざる。産物は米・麥・大豆・繭・栗そ
の他獲蝦あり。谷山邑と陽徳舊邑(東陽)
とを繋ぐ二等道路中部を南北に通じバス
の便あり、文岩里附近より東へ杜露江
を潤りて元山方面に出づる道路を成つも
交通未だ便ならず。

キヨ 碧養面

朝鮮江原道
通川郡の南部。通川面に南隣し、西及び
南は淮陽郡上北面・安豊面と界し、東北
は日本海に面す。東西約一八軒、南北六
一三軒ありて、やや東北・西南に長し。
大白山脈の東斜面なるを以て西部及び南
部一帯は山地をなし、南嶺山(一〇九六
米)・古尹山(二二九六米)等聳ゆるも、東
方に低夷し、これら山地に發する諸水は
聚りて廣橋川となり、西南・東北の方向
へ流れ、通川面を経て日本海に朝し、こ

キニューカ 碧流河

圖東州龍子宮民政署管區の
東端。西は東老海會に、北は城子職會に
接し、東は碧流河の下流に接し、南は黃海に面す。
安東省莊河縣に屬し、南は黃海に面す。
北部に高さ三四〇米の丘陵ある外は概
ね平坦にて海岸地帯は鹽田よく發達し、龍
子宮鹽田地域の東部をなす。農産に豆・
玉蜀黍・高粱等あり、鹽田よりは天日製
鹽の産多し。金羅鐵道の終點城子職に近
く交通不便ならず。

キヨ 碧流河

關東州の東北境をなす川。滿
洲國奉天省蓋平縣東南部の山地に發し、
南流して復縣の東境を經、下流は關東州
の城子職會・碧流河會の東境をなして黃
海に入る。流域約一〇〇軒。

クラ 船倉島

↓島島町(石川縣鳳
至郡)
ヘクリ 平群
↓平群(郡) 安房國(千葉縣)の古郡名。

キビ

キクリ

願所となる。永祿三年松永秀富山に築城し信貴山城と稱せしが、天正四年織田信長に攻められ寺坊は兵火に罹る。慶長七年に至り豊臣秀頼堂宇を再建し、その願所となす。徳川氏より世々保護をうけたるも家光・吉宗の御依疎に厚かりき。もと當寺獨立の一山なりしが、明治維新以後、高野山に屬す。寺域は海拔千七百尺の山上にあり、谷深くして山高く樓閣廻廊として登越多し。坂路凡そ三十三町、一町毎に石標を置くも現在にはケイアルカーに依るの便あり。本堂は最高所にありて毘沙門天を安置す。寺寶中、信貴山縁起・補正成の遺品と傳ふる兜一頭・抽一雙・喉輪一懸の武器類及び延長七年寄進入の銘ある金銅鉢等はいづれも國寶たり。殊に信貴山縁起は全三卷、當山毘沙門天の靈驗を述べる謂ゆる繪詞にして、繪巻物中の最優作として甚だ著名なり。(普門院) 大字信貴畑にあり。法相宗。貞觀年中、法隆寺遺設の宮居なりと傳ふるも、その沿革明かならず。本尊聖觀音立像(木造)は弘明期の作にして國寶たり。(金勝寺) 大字堀原にあり。新義真言宗豊山派。壇原山。古は本堂・講堂・三重塔等その他塔頭三十六坊を連ねて壯麗を極めしも、近世衰微す。堂後に一石ありて佛像を彫刻す。(千光寺) 大字鳴川にあり。眞言宗醍醐派。元上山。役小角の開創に係るといふ。小角は齡三十七に及ぶまで當山中に在りて修行し、般若窟に日夜持念せしが、一日巖石中に千手觀音を得て安置すと傳ふ。現に元仁二年四月鐫の銘ある古鏡存す。【平群】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に早良郡平群郷あり、信久利と調す。その地今の早良郡金武村の邊に當る。【平群】 日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄に兒湯郡平群郷あり、その地は兒湯郡三納村の邊に當る。

行し、般若窟に日夜持念せしが、一日巖石中に千手觀音を得て安置すと傳ふ。現に元仁二年四月鐫の銘ある古鏡存す。【平群】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に早良郡平群郷あり、信久利と調す。その地今の早良郡金武村の邊に當る。【平群】 日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄に兒湯郡平群郷あり、その地は兒湯郡三納村の邊に當る。

【コ】 部子山 一に日子岳ともいふ。濃尾山塊の峰。東側は福井縣大野郡西谷村・上庄村に、西側は今立郡下池田村・上池田村に屬す。標高一四六五米。山頂には四時雪を戴く故にこの山の北面を銀南峰と呼ぶ。東嶺は銀南峰(一四四一米)なり。南嶺を龍原嶺(最高點九五八米)の山路東西に横斷す。

【サカ】 戸坂村 廣島縣安藝國安藝郡の北部。廣島市の東北部に外接し太田川の東岸に沿ふ。北及び西北は安佐郡に界し、東は本郡温品村に接す。面積五・八六方町。東南部は約二〇〇米の山地をなすも河岸に傾く。附近は廣島市の郊外地をなし、市街發達し耕地拓く。農業最も盛んにして、米・麥・蕎麥・酒類・果實等を産し蘭を特産物とす。省線安藝線は南北に貫通し、戸坂驛(大正十五年設置)あり。

本島に一時依據せし和蘭人の本群島を呼ぶし稱なり。【戸田村】 山口縣周防國都濃郡の西南海岸。徳島灣に面し、澗水を経て徳山市の西部と相對す。東は福川町・夜市村、西南に西北は佐波郡に接す。面積二〇・七五方町。三周山を繞らし佐波郡界に大平山(六三二米)屹立す。夜市川東部を流れ沿岸に平地を有するほか、他の大部は山林地なり。總産村にして米・麥・蕎麥等の産額多く、林業稍行はる。海岸は出入多きも山地海に落込みて險崖をなし海岸墜落乏し。村民は概ね中央より東部平地に聚る。省線山陽本線は南部を貫通し戸田驛(夜市村地内に近し)。(標田八幡宮) 大字戸田村に鎮座。神社。祭神、應神天皇・神功皇后・田心姫命・瀧津姫命・市井島姫命。宇佐八幡宮より勧請せられたるなりといふ。永正六年降神村より今の地に奉遷す。【戸田】 山陽本線の一驛(明治四十四年設置)。山口縣都濃郡夜市村にあり。【戸田】 山陽本線他託部にありし村。明治三十六年、御幸村と改む。【タ】 部田 熊本縣他託部にありし村。明治三十六年、御幸村と改む。【タ】 戸田村 靜岡縣伊豆國田方郡の西南部。東は修善寺町・中野野村、北は西浦村、南は土肥町にそれぞれ接し、西は駿河灣に臨む。東境には死火山建勝山(九八二米)聳え、南境及び北境にも四一五米の山連なり、それ等は何れも西方

に低下し、諸處に小峯谷を作る。中央西部に一帯入ありて良港を成し、灣頭附近に低地ありて耕地及び部落發達する外は殆ど山地を成す。主産業は農にして谷地を利用して米・麥等を出し、また林産・水産等もあり。西部を伊豆半島道路の歩道南北に通ずるもバスの便なし。戸田港は東京灣汽船の寄港地にして沼津及び土肥港に船便あり。この地は和名抄、那賀郡井田郷の内にして、本村の大字井田はその遺稱なり。戦國の際には富永氏が城頭たり。戸田港は安政元年十一月、下田に碇泊の露國軍艦デアアノ號が海嘯のため艦底を破り、爰に來り修補せんとし再び暴風に遭ひ宮島沖に没す。乗組員は悉く救助せられてここに寄寓し、材料の供給を受けて造船に着手す。露人は不完全なる器械と不熟練なる工匠により苦心慘澹し數月ならずして二艦を成す。これをスクーネル船と稱す。一艦は我が國に應じて建造せしもの。當時この造船を助けし我が船匠は之に依りて大艦製造の術を學び、自ら若深形と稱する一船型を造る。君澤とはその舊船名を取りしもの。かくて提督アーチヤチン等百餘名はその船に乗りて歸國し、その他は同年二月に米國商船に乗じて歸國す。安政二年露人、下田に來り、義のスクーネル船に大砲五十二門を添へ徳川幕府に獻じ、戸田灣中の恩を謝せり。(部田神社) 大字戸田に鎮座。神社。祭神、大國主命。創立年

ベッカイ 別海村

代評かならずれども、延喜の制、國幣の小社に列し、伊豆國神階に「從四位上(だの明神)」と見ゆ。天正二十年の再建にして本殿・幣殿・拜殿・廳屋等あり。例祭、陰曆九月九日。

ベッカイ 別海村

産し發達盛にて藪を出し、山地は薪炭・木材を供給す。大分市より來る日向街道は西部を縱走し北部にて之より分れて北走し鶴崎町に至る縣道あり各バス通す。省線豊肥本線竹中驛(西方面・五軒)・中列田驛(西北約一軒)に近し。大正十年に町制を布く。此地は舊戸次莊の内にして戸次氏の起りし所。戸次氏は大友親秀の子重秀、戸次次郎左衛門尉と稱し、子孫繁衍す。肥後國志によれば戸次莊の山崎に長曾我部信親の墓あり、土佐元親の嫡子にて、天正十四年、豊臣氏の西征の前鋒に従ひ島津の兵と戸次河に戦ふ。十二年、竹中村に會戦し信親戰死。隨從せし四十一人の墓と共に今に存す。(熊野神社) 大字中戸次に鎮座。祭神、伊弉那命。發老年間始めて白瀬上の西邊上に鎮座すと傳ふ。天正十四年兵火に罹りしも後再建す。例祭、四月二日。

ベツク 別宮川

徳島縣吉野川下流に於ける本流の別名。吉野川は下流の名西那蘆畑村第十堰に於て北方に吉野川、南方に別宮川と二分分流をなす。別宮川は第十堰より川口に至る延長一七軒、左岸に板野郡、右岸に名東郡及び徳島市を分つ境界をなし、下流にては河幅一・四軒に達し津々として海に朝す。由來、吉野川本流は第十堰に於て北方に北川(現稱吉野川)を分つが、地形上、水は平時は本流(現稱別宮川)に流下して北川の水量は減少し、流域地帯の灌溉・通航に不便

ベツサン 別山

立山(富山縣)の一峯。【別山】 白山の一峯。白山本峯の南方に位置し、東側は岐阜縣大野郡白川・兼川の二村に、西側は石川縣能美郡白峰村に屬す。標高二三九九米。山體は侏羅層の上に噴出せる角閃富土岩及び火山灰より形成せらる。古名を小白山と云ひ、飛騨國にては四波波岳とも呼ぶ。北方は二〇〇〇米以上の連嶺を以て白山本峯に續き、被山地に連る。登山は普通白山本峯より縦走して行はる。

ヘツカヘツシ

ヘツカヘツシ

ヘツカヘツシ

は別子嶺山に負ふと云ふも過言にあらずるべし。

ヘツシヤマ 別子山村

愛媛縣伊豫國宇摩郡の西南隅。南は四國山脈に、北は法皇山脈に面され、吉野川の支流別子川の源流地を占む。西北約一四軒に新居濱市あり。西は新居郡に接し南は高知縣土佐郡と界す。南境には四國山脈が蜿蜒連り(一七三二米)・平家平・三ツ森山・大坐禪山・東光森山等を超して高知縣界を限り、西及び北には法皇山脈が東北方へ更に東方へ連りて村界をなす。西赤石山・東赤石山(一七〇七米)・二ツ嶽・ハネズル山等聳ゆ。別子川は西境に發源して中央を東流するも流域には低地乏しく、民家は沿岸の斜面地に點在す。畑地拓かれ藁・麥・米を産し、また三椏・木炭も出す。河川に沿ひて道路通ずるも山間僻地の地なれば交通不便なり。山村には別子嶺山のほかに伊豫嶺山あり、重要嶺山に屬す。嶺區は富村と土居村とに跨り七〇萬餘坪、嶺種は金銀銅硫化鐵なるが、昭和十年には合銅硫化鐵一二、三五二二を産す。現に日本鐵業會社の經營にて、産物中の銅分は佐賀鐵業所にて合併製錬せられ、其他は未製煉のまま販賣せらる。また嶺區が富村と關川村とに跨りて赤石嶺山あり。重要嶺山にて嶺區三〇萬餘坪、嶺種は格魯鐵、現に明治鐵業會社の經營にて昭和十年には格魯鐵鐵礦九八七七を産す。

ヘツシヨ 別所

【別所迄】 能登半島、七尾灣北灣の西岸に轉つ。東側は石川縣鳳至郡穴水町、西側は富山縣西礪波村に屬す。東麓の七尾灣岸に沿ひて省線七尾線が南北に通ず。山勢は南に延び、三ヶ口峠に至りて海に没し、七尾灣北灣と南灣とを分つ。

【別所村】 長野縣信濃國小縣郡の西部。上田市の西南方一・五軒。東南には別子嶺(一六六六米)あり。村内には別子嶺の硫黄泉湧出し、田澤・若掛・鹿敷湯・靈泉寺等の諸温泉と共に上田南部の温泉保養地帯を形成す。中にて別所は特に近年漸く都人士の遊ぶ者多く、發展しつつあり。村内には東に女神岳(天狗岳、九二六米)、西に天神岳(一三五六米)あり、共に火山性にして、この兩山の間に發する湯川の谷底並に扇状地には水田發達す。湯川は略東西に流れ、村はこの麓谷の兩岸の丘陵山地の斜面部を悉知とし養蠶と共に蠶種の製造を行ふ。社線の上田温泉電軌の別所温泉驛あり、上田市へは廿一分にて通ず。温泉地の村の略中央に位置し、附近に北向觀音あり、聚落の謂をなす。別所の地名は觀音堂の領内の謂なりと云はる。温泉は湯川の流に臨みその右岸に湧出す。旅館の内湯のほかに石湯・大湯・湯が湯あり、石湯は自然の岩石を列りて甬槽とせる原始的の温泉なり。泉質は何れも無色透明の硫化水素泉にて温度は四一—四三度。皮膚病・リウマチス・神経痛・婦人病に效能あり。この温泉は日本武尊御東征の折御來宿あり、七箇所に温泉を開かれ、七苦難と命名せられしに始ると傳ふ。附近には安樂寺の八角四重塔・北向觀音・常樂寺・平織茂家・愛宕山遊園等があり、純遊に香掛・田澤の二温泉にも行かす。此地は中世は鹽田庄に屬し、鎌倉執權の時、北條義時の子・陸奥守義政これが地頭たり。(安樂寺)曹洞宗。行基が瑠璃殿を建立して樂師を祭り、のち平織茂が戸隠山の鬼賊退治を祈りて諸堂を建立す。八角四重塔(室町期)・惟仙和尙坐像(木造、胎内に嘉暦四年七月造の銘あり)一軀・惠仁和尙坐像(同、胎内に嘉暦四年九月造の銘あり)一軀は何れも國寶。別稱、別所觀音・北向觀音。

【別所村】 兵庫縣播磨國美祿郡の西部。三木町の西に隣り、西及び西南は加古郡と界し、東南は明石郡に接す。北境に低き丘陵連り、中部及び南部は臺地をなし延びて隣村に連り、加古川の支流は丘陵の麓を西流す。田畑多く稲作に農産物多く米・麥類・蕎麥・蕪菜・花卉・果實等を産し、なほ蠶卵・蠶製品・木製品等あり。縣道は中央を東西に走るもの、東部を南北に連るものあり。また社線播磨鐵道は低地を横断して別所・石野の二驛(大正五年設置)あり。この地は和名抄、美祿郡高野郷の内なるべし。

【別所村】 兵庫縣播磨國印南郡の西部。西は飾磨郡と界し姫路市の東方二・五軒にあり。北部より東部にかけては丘陵をなし西南隅にも一六七七の山あり、中央は平坦なる平野にして天川は西南部を貫きて東南流し南方約三軒にて播磨灘に入る。米・麥類・蕪菜・花卉・蕎麥・食用農産・果實・蠶卵・蠶製品・刃物等を産す。中部には山陽道通じ自動車の往來頻繁にして、これに並走する省線山陽本線の曾根驛(東隣の阿彌陀村)に出づるに便なり。此地は和名抄、印南郡佐々郷に大字佐土は郷名の遺稱。中世に赤松氏の族この地に別所氏を稱す。佐々

ヘツト 別東面

朝鮮成鏡南道三水郡の東端。郡邑仲坪場の東北約一〇軒。西を除く三面は甲山郡に圍まれ、北は同郡惠山邑に接す。東西・南北各約一五軒の不規則なる方形をなす。四邊は山に圍まれ、中央南側には雲柱峰(一五八六米)屹然として聳え山腹南東に連りて臺地地形を呈するも、北部と西南部とは比較的低し。盧川江は南より來り南境の在徳嶺西麓にて曲流し、次で中西部を北流し、東北方より來る雲龍川を容れ惠山邑に入り、沿岸に低地を開く。耕地は縣谷または山腹の山田に依り、蕎麥・粟・蕎麥・大麻及び若干の米を出し、牧畜・養蜂行はる。義州・惠山嶺間の二等道路ほぼ中央を、惠山嶺・甲山間二等道路は東北部を通じ、前者は桶木里より郡

ヘツトガ 別當

省線根室本線の一路(大正九年設置)。北海道根室國根室支廳根室郡和田村にあり。

ヘツナイ 別内面

朝鮮京畿道揚州郡の中部。議政府の東南約五軒、京城府の東北約八軒にあり。東西五軒、南北一二軒の矩形をなす。東北境に蘇利峯(五三七米)聳え山腹南走して西界を限り、西境には水落山(六三八米)・佛岩山等連り、餘脈は城内に轉りて平地に乏しく、機に中部以南を流るる漢江支流の玉宿川と、西北部に源流する漢川との流域に耕地を見る。米・麥・豆類・蕪等を産す。城内に幹線道路の通ずるなく、交通は不便なり。西の東北部、格接西及び抱川郡蘇利山につづく蘇利峠の山中は光陵キマキキ棲息地として著はれ、この鳥は天然記念物に指定せらる。

ヘツフ 別府

【別府村】 埼玉縣武蔵國大里郡の中部。熊谷市の西北方約五軒にある小村なり。全村平地にて水田多く、米を主産し、他に麥・蕪を産す。縣道は西部を南走し西隣の播磨村にて中山道に合す。また南隣の玉井村には省線高崎線原野ありて自動車のあり。この地は和名抄、播磨郡那珂郷の内なり。大字東別府の中央に古城址あり、これ別府次郎行隆、長子能行より代々傳へたる居館にして、大字西別府は

ヘツト——ヘツフ

行隆の次男、行動の所領たり。別府小太郎清重の名は平家物語・源平盛衰記等に見ゆ、これ一族なり。

【別府村】 山口縣長門國美祿郡の北部。

伊佐町の東北に接し、北は津郡深川町と界し、南は秋吉村に、東は共和村に接く。面積二六・五方軒、地形は南北に長く伸び、村内概ね荒蕪なる山地にて占めらる。北端に花尾山(六七〇米)聳え、その南麓に小平地ありて耕作行はる。その南部はまた山地にて東南部は秋吉嶺の一部に屬し扇状のカムスト地形なり。農業を以て生産となし米・麥・蕪等を産す。縣道は東西に貫通し共和村・於福村にバス便あり。古くは和名抄、美祿郡美祿郷に屬す。(壬生神社)大字屋田に鎮座。神社、祭神、高麗神・神功皇后・仁徳天皇。文徳實錄に仁壽元年壬生等四神に従五位下を授くと見ゆる壬生が當社なりと傳ふ。後柏原天皇の御宸筆にて是利義澄の寄進と傳ふる扁額一面を藏す。例祭、九月二十七日、二十八日。

【別府市】 大分縣の温泉都市。東は別府

廣く、大分市に比して約五倍、中津市の約六、五倍に當る。人口は六二、三四六(昭和十年度)にして大分市を凌ぎて縣下第一位たり。されど人口密度は六一七にして市として少し。斯の如き現時の盛況を以て明治廿二年町村制施行當時の人口三千五百を振り返り見るに如何に奇異的發展を遂げしかを知る。斯く急進なる發展を遂げし一大動因とも見るべきものは温泉地として泉量の豊富なることによると云ふを得べし。一夜の湧出量ば實に二十五萬石(一人當四石餘、全國温泉湧出量の約一六%)に達し、この豊富なる温泉は共同浴場・旅館内湯は勿論、都市域の家庭・別荘等に於てすら約五百の湧出口をもち、全縣の温泉孔は實に二、二四九に達し(昭和十一年一月)、停車場の洗面所、理髮店の用水、家庭の洗濯にまで使用せらる。従つて常用温泉も車に浴槽に滿しかく外、湯液・蒸氣・砂湯等幾多異なる用法見らる。このほか餘剰温泉は近時生産的方面に利用され、温泉・温泉に引きて花卉・蕪菜の栽培に、鴨卵の孵化に、湯ノ花の製造に、鰯の養殖に實に多角的に利用せらる。一方、産業方面を見るに、一箇年百二十萬餘の遊覽保養客を迎ふる別府は純粋の消費都市にして大分・中津の經濟都市とは趣を異にす。農産としての米・麥等もあるも特筆すべきは高等蕪菜・花卉の栽培なり。殊に最近これ等の事業に温泉が利用せられ、促成

栽培は著しく擴張せしを以て温泉地帯に於ける農業に新分野を開拓しつつあり。また工場工業は煤煙と騒音的關係上、保養都市には禁物なるため大規模な工場は却場以外に一本も見ざるを得ず。よつて工業は全く家内工業にて全人口の約一四%を占む。そのうち特に土産物製造としての竹木製品・菓子類は戸數に於て八二%、職工數は八一%を占む。生産額に於ても約七八%を占め別府の工業を代表す。また一部農業地帯に於ては農産物の製造行はれ年生産約二萬枚あり。これは國東半島製菓地帯の南限をなすものとす。昭和九年度の重なる工業を舉ぐれば左の如し。

品名	製造戸數	職工數	生産額
竹製品	三三三	一、三三三	一、〇〇〇,〇〇〇
菓子類	一五五	一、五五五	一、〇〇〇,〇〇〇
木製品	七〇	七〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
其他	七〇	七〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
計	六三〇	六,三〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇

上述の如く土産品の製造盛んなるもなほ穀・羊毛・人形・針など大阪・名古屋・四國・博多・廣島等より移入せらるるもの多し。また食料品・化粧品・被服類其他移入の多き事は別府の特徴にて、次表は別府の消費都市なることを物語る好例とす。なほ別府温泉に於ける湯ノ花の製造と、魚川奥地(湯山)に於ける硫酸自土の採掘は温泉と密接なる關係を持つ

昭和八年別府港移出入額	九、七五〇
移出	六、三〇〇
移入	一、三三〇
同年別府港貨物發送到着數	六、六五〇
發着	三、六五〇
到着	三、〇〇〇

特殊なる生産業として注目すべきものなり。湯ノ花は約二十餘種の小屋によりて年二十萬貫の生産あり、主に常用として大阪・神戸方面にその五割、東京・京都に各一割餘、其他は別府の土産品として出荷す。この製造はさして勢力を要せざるため殆ど副業として行はる。硫酸白土は温泉の作用をうけて珪石八五%を含み、セメント原料として極めて重要な地位を占め、大阪製業セメント株式會社の手によりて一日約百噸の採掘行はれ、船にて大阪木津川尻の本工場に送らる。交通は先づ陸上は省線日豊本線が市の東部を南北に走り、別府・東別府・魚川の三駅（共に明治四十四年設置）を置き、大分市との間には社線別府大分電線ありて數駅を置き、海運は明治八年頃より大阪・別府間に開かれ、其後、幾多の汽船會社の競争によりて漸次發達し、昭和二年十一月以來は郵便と郵便の一日二回發着となれり。なほ別府港は開港場ならざるも官島と共に外國船の入港碇泊を許され國際的觀光地として指定せらる。空運は昭和

十年以來大阪・松山間の航路が毎週一回別府まで延長せらるる事となり、備來旅客發達・遊覽飛行に當れり。「沿革」古くは和名抄徳見郡徳見郷の内にて、中世は石垣庄に屬し宇佐宮領たり。別府なる名稱は田制の名目に出でしものにして、國府の別館、または郡家の別館などと解くは誤りなり。此地の名は古くより知られ、伊豫風土記・有馬風土記等に大己貴命・少彦名命の二神がこの温泉に浴し給ひ、その靈效を衆庶に説かれし事を載す。また神武天皇御東征の時、珍彦なる者が舟を出して帝を迎へ、帝はこの温泉に浴し給ふと傳へらる。降つて元祿七年の具原益軒紀行に、當時より百二十年前に大地震ありて古への別府村は悉く海底となり、當時の別府村はその數町西に當るものなる由を載す。而して同書に民家百軒と見ゆれば當時は相當繁盛せしもの如し。明治廿九年に濱濱町と合併して新たに別府町を建て、大正十三年は市制を布く。昭和十年に至り石垣村・朝日村及び魚川町を編入し大別府市を建設したり。

累年人口統計

明治三年	三、〇〇〇	大正九年	六、六五〇
同 五年	三、〇〇〇	同 十一年	六、三三〇
同 七年	二、九〇〇	同 十三年	六、五七〇
同 九年	二、九〇〇	同 十五年	六、〇〇〇
同 十一年	二、九〇〇	同 十七年	六、〇〇〇
同 十三年	二、九〇〇	同 十九年	六、〇〇〇
同 十五年	二、九〇〇	同 二十一年	六、〇〇〇
同 十七年	二、九〇〇	同 二十三年	六、〇〇〇
同 十九年	二、九〇〇	同 二十五年	六、〇〇〇

「別府温泉」市内には別府市・観海寺・観音・塚田・明徳・榮石・魚川・新別府・由布院・塚原等の諸温泉あるほか海に山に丘に野に隨所に湧出して湯の池・湯の瀧・湯の川・湯の海をなし、宛然温泉王国の觀を呈す。多くの温泉地が一種または二、三種の泉質を有するに對しこの温泉は數種の泉質を有す。殊に最も多きは炭酸泉にして不老泉・補温泉・田ノ湯温泉・湯温泉等何れもこれなり。其他、炭酸に鹽類を含みし鹽湖泉・濱湯温泉・竹瓦温泉・海岸砂湯あり、鐵輪には鹽類性硫酸泉・炭酸性純泉・含鐵性硫酸泉・榮石には含鐵鹽類泉、魚川には鹽類泉、新別府には鹽性泉、觀海寺には炭酸性鹽類泉、塚田には炭酸性硫酸泉、塚原には硫酸性硫酸泉等の殆ど總てが泉質を異にす。著名温泉十五箇所の醫治效用表を綜合するに實に六十餘種の病氣に適應し、殆ど萬病を癒すもの如し。殊に干潮時海岸に行はるる砂湯の天然浴場もこの地の誇の一にて、棧橋の北側と北濱海岸に設けらる。「地獄」地獄とは地下より絶えず熱湯・熱泥・熱氣を噴出す場所をいふ。八幡地獄・鶴見地獄・海地獄・坊主地獄・船屋地獄・かまど地獄・血の池地獄等何れもこれにしてその凄慘奇絶怪奇の光景は思はず陸若たるものあり。殊に最も大なるものは海地獄にして廣さ二六四方米の碧綠高熱の湯池と、小壺を隔てて三三アルの澄

明湖水の如き噴湯井とより成る。一晝夜の湧出量は三、六〇〇キログラムに及ぶといはれ、この熱湯は新別府に送られて浴用に供せらる。「火男火女神社」南立石に鎮座。縣社。祭神、火男具土命・火女建女神。景行天皇此所に行幸ありて山體を崇敬せられ、光仁天皇は石祠を建て奉養せられたりと傳ふ。式内社。例祭、十月九日。「火男火女神社」鶴見に鎮座。縣社。祭神、火男具土命・伊邪那美命。式内社。例祭、十月十七日。「八幡龍門神社」縣社。祭神、應神天皇・仲哀天皇外三十四柱。神龜四年の創祀と傳ふ。例祭、四月二十五日。「水瀨寺」鐵輪にあり。時宗。温泉山と號す。一廻上人の開基にして、上人自作の木像・見宮大師自畫像等あり。「海雲寺」南立原にあり。曹洞宗。太平山と號す。創建年代不詳なるも、初め朝見庄立石村湯之下にありて、地頭多々良伊豆守義興を開基とし五田和向を開山とす。慶長七年大地震のため堂宇崩壊せしより天和年中現地に轉じ、徳州和向と中興開山とす。寶永年中、立石村千石の領主萩原三位貞從、山林三町を寄進し中興開基となる。のち同様に頼り嶺村和向再建して再中興開山たり。本尊は仁同菩薩の釋迦如來なり。「海門寺」辨天町にあり。曹洞宗。寶生山。永平寺末。創建年次詳ならず。開山を慧明（應永十八年寂）とす。はじめて久光島にありて、別府港の海門をなすや

以て海門寺と號せしといふ。中興開山は曹洞宗、再中興を玉洞とす。「寶相寺」鶴見にあり。曹洞宗。寛永山と號す。然散禪師の草創にかゝる。茂林秀繁禪師を開山とす。中興開山は乾月和尚なり。本尊釋迦如來を安す。「曹源寺」北石垣に在り。臨濟宗妙心寺派。長江山と號す。天元元年に開創せられ、開基は吉富山城守道貞、開山は石垣寺二世一念和尚なり。初め久光山道泉寺と稱し天台宗に屬せしが、慶安元年に大友氏の臣吉富長兵衛尉道忠これを再建し、府内の萬壽寺三世乾覺禪師を中興開山として現宗に改む。即ち道忠を中興開基とす。本尊に釋迦如來並に文殊・普賢兩菩薩を安す。「寶泉寺」南石垣にあり。臨濟宗妙心寺派。石雲太平山と號す。承安三年の開創にして、初め石雲山寶泉寺と號し阿彌陀如來を本尊として天台宗に屬せしが、至徳二年に領主大友親泰これを再興し、大分郡府内の大智寺の開山なる獨芳禪師を開山とす。應永七年に太平山寶泉寺と改め現宗に轉す。本尊に釋迦如來を安す。

【別府港】九州島の東北部にある大灣。北に國東半島、南に佐賀半島あり、西に山布・鶴見嶺の火山ありて東より西に入り込む。灣口は北の御野岬と南の地蔵岬との間約二五軒、灣入は約三〇軒、これらもと西方に延びて九州島を南北に二分せし瀬戸内海の殘骸にて、そのため深さは灣口に於ては二十尋内外なるも、灣

頭に於ては四十尋近くにあり、一般的灣底地形と相異す。灣の北部に守江港、南西部に大分港・別府港あり。其他の海岸は絶壁をなす部分多し。灣内より鱈・鯖・鰯・柔魚・鰻等の漁獲物あり、沿岸にては煮乾・鰻・乾鰻等を製造す。「別保炭礦」北海道釧路支庁釧路郡の釧路村と昆布森林とに跨り、鐵道約八十九萬噸。昭和十年には塊炭四三、八五二噸、粉炭四一、三四九噸、切込炭六、二〇九噸、粗炭二、九九一噸（此總價額六萬餘圓）を出し、同年六月末の總大數二九九人、現に重要礦山に屬し太平洋炭礦會社の經營とす。「別保村」大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川河口近くの左岸に沿ひ、東北は川を隔てて鶴崎町に對す。面積三・七八方軒。西部はやや丘陵をなすも、他は地形平坦にして東境に沿ひて大野川北流す。耕地よく拓け米・麥を産す。省線日豊本線鶴崎驛へは東北一軒足らず。この地は和名抄、大分郡武藏郡の地なるべく、近世は高田郷に屬し細川家領たり。天正年中には鶴崎の城主吉岡氏所領高田三百町と稱せられし地。「孝徳寺」大字森町にあり。眞宗本願寺派。文明八年、僧天然の開創に係る。天然は後に本願寺派如に歸しその弟子となりて名を淨祐と改め、遠く西國・中國に教化を布きしより、遂にその末裔に歸するもの、別防・長門兩

國に百七十餘箇寺、豊前・豊後並に肥後に百四十箇寺、其他若干箇寺を有するに至れりといふ。「ツヤマ 別山」新豊後國別府郡内郷村の大字。別府の北東限をなして分水嶺を發して南流す。此地に別山嶺山あり。嶺區は此地と三島郡西郷村とに跨りて約四十萬坪、石油山にして重要礦山に列す。地質は凝灰質頁岩にて薄き中粒砂岩を夾む。油層は凡そ一、〇七〇一、二八〇米なり。中野興業會社の經營にて昭和十年には原油三、三〇四軒、瓦斯一、一二五、七八五立方米、粗製揮發油六七五軒（此總價額二〇萬餘圓）を出す。當嶺山地方は謂ゆる西山油田地帯にして、東方約四軒の地點に於ては日本石油會社が先に敷坑を掘鑿して成功したり。而して此地は、その同一油帯の範圍なるべしとの鑑定のもとに、全山に何等露頭を現すことなきにも拘らず、大正九年試掘して成功したるものなり。

「ツリヨ 別良面」朝鮮全羅南道順天郡の南部。順天邑の南約五軒。南方一帯は汝貞浦に臨み、西南は寶城郡茂徳邑に臨る。東西約一軒、南北約七軒。西境に五峰山（五九一米）、帝釋山（五六三米）聳す。西半部は山岳重疊すれど、東半部は比較的軟く、火山（二九八米）・雄火山（二三六米）等の尖峰あるも、此等丘陵の間と海濱とに平地ありて田畑拓く。

海濱は扇形多からず、また遠淺にして干潮時には泥湯露出し良泊を缺くも、鹽田處々にびらく。米・麥・大豆・棉花・叭等を産す。花浦嶺山より金を出し、沿海には食鹽の外、蝦の漁獲多し。總督府鐵道慶全西部線と順天・茂徳間道路はほぼ並行して西南・東北の方向に通じ、前記に九龍（昭和七年設置）・元倉（昭和五年設置）あり、交通便なり。「ナシ 船作」青森縣津軽郡深浦町の大字。省線五能線の船作驛（昭和十一年設置）を置く。「ニイワ 紅岩山」↓鯉川村（岐阜縣）

「ノマツ 船松」大阪府泉北郡にありし村。大正十四年堺市に編入す。「ハル 邊春村」福岡縣筑後國八女郡の西南部。福岡町の西南方約五軒にあり。南及び東市は熊本縣玉名郡及び鹿本郡と界す。周囲は約四五〇米以下の山脈によりて囲まれ西境の中央に高形山（四五〇米）あり。東南隅に發する矢部川の支流は中央を北流し先友村に出でて西北方約四軒にて本流に合す。沿岸に僅に低地ありて耕地開け、麥落發達す。米麥の産あり。國道は河骨に沿ひて村を貫き、福岡町及び東南方の鹿本郡内原町へバスを通ず。天正三年、徳盛寺傳信、軍を起してこの地の戸原親連が戸原城を圍む、同九年、鶴島信生また戸原を攻め、親連は敗れて走り、城陷る。

「ハル 邊春村」福岡縣筑後國八女郡の西南部。福岡町の西南方約五軒にあり。南及び東市は熊本縣玉名郡及び鹿本郡と界す。周囲は約四五〇米以下の山脈によりて囲まれ西境の中央に高形山（四五〇米）あり。東南隅に發する矢部川の支流は中央を北流し先友村に出でて西北方約四軒にて本流に合す。沿岸に僅に低地ありて耕地開け、麥落發達す。米麥の産あり。國道は河骨に沿ひて村を貫き、福岡町及び東南方の鹿本郡内原町へバスを通ず。天正三年、徳盛寺傳信、軍を起してこの地の戸原親連が戸原城を圍む、同九年、鶴島信生また戸原を攻め、親連は敗れて走り、城陷る。

「ハル 邊春村」福岡縣筑後國八女郡の西南部。福岡町の西南方約五軒にあり。南及び東市は熊本縣玉名郡及び鹿本郡と界す。周囲は約四五〇米以下の山脈によりて囲まれ西境の中央に高形山（四五〇米）あり。東南隅に發する矢部川の支流は中央を北流し先友村に出でて西北方約四軒にて本流に合す。沿岸に僅に低地ありて耕地開け、麥落發達す。米麥の産あり。國道は河骨に沿ひて村を貫き、福岡町及び東南方の鹿本郡内原町へバスを通ず。天正三年、徳盛寺傳信、軍を起してこの地の戸原親連が戸原城を圍む、同九年、鶴島信生また戸原を攻め、親連は敗れて走り、城陷る。

ヘヒタ 蛇田村 宮城縣陸前國田郡の西北部。東南と南は石巻市、北と西は徳生郡に接す。陸前平野の東南部なる大谷地帯に属し全村概ね平坦。北上川は東北端を東南に流る。米・麦・蕎麦・粟・馬等を産す。道路は村の中部を西北より東南に通ず。社線宮城電線蛇田線(昭和三年設置)を置く。[禪昌寺]山下にあり。臨濟宗妙心寺派。桂林山。萬治二年に雲居國師の開山。瑞巖寺末たり。田邊將軍の墓あるを以て名高し。

ヘフ 別府 兵庫縣播磨國加古郡の西南部。播磨灘に面し海岸づたひにて西方へ行けば一軒餘にて加古川河口の高砂町地域に到る。全村地形低平にして海岸は小嶺地をなす。松の名所にして木高く緑深きまきはん方なく美し。米・麦類・食用農産物・蔬菜・花卉・鶏卵等のほか紙の産額多く染製品・皮革製品・木製品等も出し、海濱は水産盛にして漁獲物多く水産製造物もあり。殊に鮎は古來美味を以て知らる。近時、多木製菓所の人造肥料の名高し。縣道は海岸近く走り、社線山陽電氣鐵道線は南部を通過して別府北口驛(大正十二年設置)あり。また東部には社線別府輕便鐵道ありて別府港驛(大正十年設置)あり。昭和三年町制を布く。もと阿閉莊一木の別府と稱せり。

【別府輕便鐵道】社線。兵庫縣加古郡にあり。社線播磨鐵道の野口驛より別府港驛へ至る一四軒と、省線山陽本線土山驛より別府港驛に至る四軒との二線あり。軌間は一〇六七米にして、蒸氣・カッソンを併用し省線と連帯運輸をなす。

【別府村】高知縣土佐國高岡郡の西北隅。仁淀川の右岸に當り越知町の西に接し、北は吾川郡と界し、西は愛媛縣上浮穴郡に隣る。長さ約二〇軒、幅約四軒にして東北より西南に細長し。全村山岳重疊して高峻なり。總じて南境に高く北部に低下す。南境西偏に鳥形山(一四六〇米)聳えその北に三方山(一四七〇米)あり。北境に沿ひて仁淀川は扇面しつつ東流し、中央に一支流あり村を貫きて北流し本川に合す。藁・麥・米・林産・工業・水産あり。山地にては三極の栽培盛なり。特産には山菜あり。中央の河川に沿ひて縣道が南北に通ずれども交通は未だ不便なり。昔、藤原純友、伊豫に於て反旗を翻したる時、此地に別府氏なる者ありてこれに應じたるため誅せらる。蓋し村名は別府氏に出でしものか。本村と越知町、大瀬村に跨る横倉山は安德帝御陵傳説地たり。[五所神社]大字川渡に鎮座。郷社。祭神、大山積神・兼山積神外三柱。例祭、一月九日・七月七日。[春日大明神]大字別枝に鎮座。郷社。祭神、春日大明神。主祭神、天兒屋根命・天表春命外二柱。相殿、竹葉推命。例祭、八月二日・十二月十九日。

ヘライ 戸來 青森縣陸奥國三戸郡の西北部。五戸町の西南約一七軒。北・西は上北郡、西南は秋田縣に接す。面積一六・六方軒。西境に戸來岳聳えて東方に傾斜し、北部には大黒森(五五六米)聳ゆ。五戸川の上流は村の西部に發源し、北部及び南部を各東流し東部に於て合し、なほ東に向ふ。沿岸に耕地拓く。村内は山地多く山林・牧場原野等の面積廣し。米・麥・神・馬鈴薯等の農産物及び木炭・馬等を産す。省線東北本線の三戸驛へは東南約一四軒。一般に交通便ならず。人口密度は一方軒につき三一人なり。[三枝神社]大字戸木に鎮座。郷社。祭神倉稻魂命。永享元年の創祀と傳ふ。例祭、八月二十七日。

【戸來岳】奥羽火山帯の一峯。十和田湖の東方、青森縣三戸郡戸來村と上北郡十和田村との境に峙つ。標高一五九米、山體は火山岩より成る。南段にアブラ坂の山路を乗越す。

ヘラサキ 平良崎村 青森縣陸奥國三戸郡の中部。三戸町の東北方約五・五軒。北境には高山(一七二米)聳えて南方に傾斜し、南方に名久井岳(六一五米)の中部を西南より東北に流れ、沿岸に耕地拓く。古來蕨菜園藝を業とし牛蒡・胡蘿蔔の名産地なりしも近來は苹果的産地となる。陸前街道は西部を南北に通じ、

ヘライヘンケ

【別府町】に至る一四軒と、省線山陽本線土山驛より別府港驛に至る四軒との二線あり。軌間は一〇六七米にして、蒸氣・カッソンを併用し省線と連帯運輸をなす。

【別府村】高知縣土佐國高岡郡の西北隅。仁淀川の右岸に當り越知町の西に接し、北は吾川郡と界し、西は愛媛縣上浮穴郡に隣る。長さ約二〇軒、幅約四軒にして東北より西南に細長し。全村山岳重疊して高峻なり。總じて南境に高く北部に低下す。南境西偏に鳥形山(一四六〇米)聳えその北に三方山(一四七〇米)あり。北境に沿ひて仁淀川は扇面しつつ東流し、中央に一支流あり村を貫きて北流し本川に合す。藁・麥・米・林産・工業・水産あり。山地にては三極の栽培盛なり。特産には山菜あり。中央の河川に沿ひて縣道が南北に通ずれども交通は未だ不便なり。昔、藤原純友、伊豫に於て反旗を翻したる時、此地に別府氏なる者ありてこれに應じたるため誅せらる。蓋し村名は別府氏に出でしものか。本村と越知町、大瀬村に跨る横倉山は安德帝御陵傳説地たり。[五所神社]大字川渡に鎮座。郷社。祭神、大山積神・兼山積神外三柱。例祭、一月九日・七月七日。[春日大明神]大字別枝に鎮座。郷社。祭神、春日大明神。主祭神、天兒屋根命・天表春命外二柱。相殿、竹葉推命。例祭、八月二日・十二月十九日。

北方の五戸町へバスの便あり。この街道より東方に分岐せる道路は八戸市に通じバスの便あり。省線東北本線の諏訪ノ平驛(昭和八年設置)あり。永慶軍記によれば、奥州雜部の領主、大膳大夫信直は先頭の南部三郎光行が幕部・階上の數部を領せしことありしにより、建久二年、本國南部庄よりここに入り平良崎を居城とせり。[諏訪神社]大字玉掛に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命。舊稱、諏訪明神社。承久三年、南部三郎光行の創祀に於て此鎮二百石を寄附すと傳ふ。例祭、九月五日。

ヘリリユー 島 Pelitua I. 南洋カロリン群島の島。行政上パラオ支那の管下に屬す。西北方パラオ本島との間にマカラケル・マカラケル等の諸島浮ぶ。面積二〇方軒、昭和十二年度の人口は一〇七九、人口密度は五三・九人にして、全南洋の密度五一・一人に比すれば倍多きもなほ頗る疎なり。島は殆ど燐礦採掘によりてのみ維持せらる。本島の埋藏燐量は十五萬噸にして、これが採掘は昭和九年に南洋興業會社の手により始めて行はれ、同十一年九月までの埋藏採掘量は三萬六千三百十六噸に達す。島内に公學校・遊藝場在り。

ヘルフネ 雁舟 北海道十勝支庁富良野郡にありし村。明治廿九年、富後郡を廢し廣尾郡及び十勝郡に編入。本村は廣尾郡廣尾村及び十勝郡大津村に編入。

ヘヒタヘラ

ヘヒツ 邊別 北海道十勝支庁富良野郡上川郡神樂村の大字。省線富良野線の邊別驛(明治三十二年設置)あり。

【邊見】 神奈川縣横須賀市の町名。省線横須賀線の横須賀驛(明治二十二年設置)及び社線湘南電氣鐵道の邊見驛(昭和五年設置)を置く。この地は英國人にして徳川家康に仕へ領地を三浦郡に得、よりて日本名を三浦邊見と稱したるウイリアム・アダムスの居りし所。いま丘上に安針塚と稱する按針尖塔の塔あり。

【邊見】 山梨縣 遠見 甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄に互摩郡遠見郷と見え、俗見と訓す。その地は今の北互摩郡の八ヶ岳の南麓に當る。中世、當郡に遠見莊あり、蓋しこの地にして遠見は遠見を訓ししものなるべし。新編三浦義光の三子義清、罪を得て甲斐に來り武田氏の領となす。その子清光此處に居り遠見太郎と稱す。

ヘルモアン 社 臺灣臺中州龍高郡にある舊社。合歡山より西北方に走る稜線三三〇(六五五米)の無名山の西方、北港溪左岸山腹(一五二五米)の地に位し、殆ど急傾斜面をなす。約二百年前、同郡カムラヤ社より原社の人口増加土地狹隘なるを以て分遷移住し來り社を形成し現在に至る。性強情にして明治四十二年より毎年の磨盤を受けたるもなほ頑強に反抗せるを以て四十五年強盜なる砲撃を受け、爲に勢力漸く盡き、銃器を提出して歸順せり。タイヤル族のマレツツヤ等に屬する高砂族の部落。戸數三八、人口一九四(昭和十一年調査)。

ヘワ 戸波村 高知縣土佐國高岡郡の東部。須崎町の東北約五軒にあり。南は浦ノ内村に接し、約二軒南方に到れば浦ノ内灣に出づ。南境には三〇〇米程の丘陵が連りて村界をなし、西境には虛栗山(六七五米)ありてこれより東北方へ延ぶる連嶺は北境を隔る。各山麓は中央に稍窪り平地は東部に發達す。西境に發する仁淀川の一支流は中央を流れて東に向ふ。米・麥を産するも産量感にして酒の産額著し。其他に生薑・生絲・漆等を産し、また茶・大豆等の物産頗る多し。中央を縣道横斷して東部に二條に分岐す、共にバスの便よし。この地は和名抄、高岡郡高岡郷の内にして、中世は高岡庄と稱せし地。[戸波城]宇治戸にあり、井場城・伊乃甫木城・意良城な

あり。この地は和名抄、寒川郡池邊郷の内なるべし。阿曾沼系國に足利大夫成行の孫、有嗣は戸矢七郎と稱せりと見え、源平盛衰記に戸屋又七郎の名見ゆ、これ同人なるべく、再して此地に在名を稱せしものか。

ヘラ 平良村 廣島縣安藝國佐伯郡の中央海岸。東方の一部は廣島灣に面し、廿日市町の西方に連る。面積七・三三方軒。東南部は河野平野に占めらるるも西方に漸高す。海岸平野及び中央山間低地に耕作地拓げ、西部山地に木材及び蠶を産す。米・麥・蕎麦・酒類及び曲木樟子・コルク製品の特産あり。省線山陽本線廿日市驛(明治廿年設置)は宇後田にあり、交通便なり。もと平良莊と云ひ嚴島神社の社領たり。[遠谷神社]大字上平良に鎮座。國幣中社。祭神、遠谷神。創祀年代詳かならざるも、弘仁二年、名神の列に班して四時の奉幣にあつからしめ、貞觀元年、從四位下を、同九年從四位上を授けられ、次で延喜の制、官幣の大社名神に列し、新年のほか、月次・新嘗の幣にあつかる。天慶三年、正四位下に昇せらる。後に本國の二宮、遠田大明神と稱せらる。古來、嚴島神社と相並ぶる名祠にして朝廷の殊遇ありし以外にも、戦國時代に於ては、大内・毛利氏の崇事するあり、江戸時代に入るや、藩主淺野氏相ついで崇敬したり。大正十三年、郷社より國幣中社に昇格す。例祭十月十二日。

【遠見】 山梨縣 遠見 甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄に互摩郡遠見郷と見え、俗見と訓す。その地は今の北互摩郡の八ヶ岳の南麓に當る。中世、當郡に遠見莊あり、蓋しこの地にして遠見は遠見を訓ししものなるべし。新編三浦義光の三子義清、罪を得て甲斐に來り武田氏の領となす。その子清光此處に居り遠見太郎と稱す。

ヘンカン 弁韓 朝鮮古國名の一。弁韓は三國志の魏志には弁辰とあり、上古、朝鮮南部にありし部落的小國の一にて十二箇國より成る。野史によれば「弁韓は辰韓と隣居し、城郭ありて衣服居處は辰韓と同じく、言語法俗は相似れど、鬼神の祠祭は異なれり。蓋しみな戸の西にあり、人は形大きく衣服は皆潔にて髪を長くす。また廣幅の細布を作り、法俗は嚴峻なり」とあり。後に加羅師任那となり、遂に新羅に併吞されしが、その地は今の慶尙道の西南部に當る。

ヘンケイ 辨慶師 北海道後志國後志支庁釧路郡の西北端。日本海に不出し海峽の西北端を占む。蓋か北方には海波を隔てて樺丹半島を望み、東南海岸は約五軒にして海峽の市街地あり。岬の後背地には月越山脈迫りたれど海岸は狭長なる平地を有し、釧路町及び樺山支庁釧路町に接する街道通り繁華存す。釧路灣は汽船・漁船の出入繁く、

ヘンケイ 辨慶師 北海道後志國後志支庁釧路郡の西北端。日本海に不出し海峽の西北端を占む。蓋か北方には海波を隔てて樺丹半島を望み、東南海岸は約五軒にして海峽の市街地あり。岬の後背地には月越山脈迫りたれど海岸は狭長なる平地を有し、釧路町及び樺山支庁釧路町に接する街道通り繁華存す。釧路灣は汽船・漁船の出入繁く、

近海漁業の根據地なれば、灣口を扼する重要な位置を占めたる本岬に辨慶岬を設く。

ヘンケト—沼

【ヘンケ沼】 北海道天鹽國留萌支廳天鹽郡龍尾村の西海岸。天鹽川下流平野の北部サロベツ原野の南部、謂ゆる下サロベツ原野中に存し、天鹽川支流サロベツ川に沿ふ。南北の長さ約二・五軒、幅約一・五軒、略ぼ楕圓形をなし、南部より排水せる一條の河川を以てサロベツ川に連る。南方約二軒の低地を隔ててヘンケ沼存す。面積やや大なり。東岸より約一軒の地をオンネベツ川はサロベツ川と略ぼ並行に南流す。附近土地肥沃にして農耕に適す。西方はサロベツ川を隔てて太平洋岸に近し。

【ヘンケ沼】 北海道釧路國釧路支廳阿寒郡の西北部。雄阿寒岳(二・三七一米)の東麓に存し、阿寒國立公園の略ぼ中央に位置す。一名、上ノ湖と稱し、西北に約半軒の排水口を以て下ノ湖に連り、下ノ湖は更に雄阿寒岳の北麓をインメツ河となりて約二軒を流れ阿寒湖に注ぐ。阿寒湖は阿寒川の水源地なり。即ち三湖相連りて雄阿寒岳の北麓を圍み、雄阿寒岳は宛ら湖中に臨む圓形の半島の如し。ヘンケト一は最小湖にして南北に細長く、長さ約二軒、幅約半軒に過ぎず。蓋か北方にはヤマツクヌブリ岳を仰ぎ、山上火山湖の風景美を遺憾なく備ふ。

ヘンサイテン 辨財天鏡山

鳥懸排羽郡龍尾村にある金銀山。領區九萬八千坪。重要銀山にして昭和十年には金銀粗額一、七八六萬(價額約一五萬圓)を出し、同年六月末の銀失数は四九八とす。

ヘンサン 邊山

朝鮮全羅北道扶安郡の西半部に連る山地の稱。黃海に向ひて突出する邊山半島を占め、北部に尙上峰(五〇九米)、中央に雙仙峰(四四八米)、南に甲南山等あり、山勢秀拔にして附近は風に風光明媚を以て聞ゆ。山中に發する中流川は西北流して海に入り、河口に李朝時代に發末の積出港たりし海倉あり。山中に來蘇寺・寶相寺・開巖寺・月明庵等の古刹、直瀨瀑布の奇觀等あり、殊に來蘇寺は新羅高麗王時代の創建にして、のち唐將蘇定方の戦塵を避けし地として名あり。西北に知止浦あり、ここを中心として北に海倉、南に格浦に至る間は白沙邊瀨にして海水浴として著はれ、また格浦に近く深江の景勝あり。

ヘンテン 辨天

【辨天沼】 北海道釧路國釧路支廳勇拂郡安平村の南部。安平川の下流南岸に位置し、勇拂川との合流地の約二軒の東方なり。東西・南北の長さ各々約二軒の略ぼ圓形の沼にして、安平川河口平野上に存し、周囲の地勢頗る低濕、無人の墟なり。南岸より二軒にして太平洋に達す。東方の厚島村界に小丘陵地ありて聚落存す。昔小

ホ

ホ 穂(國)

住吉河國の東部に置かれし國。神武天皇の朝に藤原國を置き武内宿禰の子葛城襲津彥四世の孫荒上足尾を命じ給ひしこと、國造本紀に見ゆ。國郡制定の時この國は郡となりて糸河國に入り、奈良時代の頃には齊低郡と稱せり。いと寶篋郡と稱する郡は大體古の穂國を繼承せるものなり。

ホ一 豊

【豊面】 朝鮮平安北道楚山郡の略中央。郡邑楚山の南方約一〇軒。蓋馬嶺岩臺地の西北縁を成し地形頗る高峻にして、東境に站巖山(一七六三米)・白頭山(一六二二米)、西境に加徳山(一〇七〇米)・得道山(一〇八一米)等聳えて城內山岳重疊し、平地極めて乏しく唯僅に古面川及びその支流豊面川沿りに低地を見るに過ぎず。耕地は前記兩川の河岸段丘及び山腹の緩斜面を開墾して耕地と成せるも灌溉不便にして如作農業卓越す。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採薪日糧に従ひ、また朝鮮酒の醸造に従事する者多し。産物は大豆・粟・麻・蕪・山豆・蜂蜜・黒鉛等あり。道路は郡邑楚山より東に二等道路、面の西部を南北に縦貫せるも、水路・噴道・輓時至る所に横ばり交通頗る不便

牧町は沼を距る約一三軒の西南海岸に存す。省線日高線は海岸近くを通じ、勇拂に近し。

【辨天島】 北海道本島の西南端。福山港の西角に位置し、その上に明治二十二年に初設せし白色四角形コンクリート燈塔が設けられ、明暗白光、光達距離九・〇哩、霧笛信號もあり。

【辨天崎】 北海道渡島支廳にある半島。函館半島の北端にある岬角にて、岬端辨天崎のあるにりこの名あり。松前藩時代より函館灣警備のため舊式の大砲臺に改造されしが、明治二十九年破却して岬頭僅にその遺蹟を存す。

【辨天村】 秋田縣羽後國雄勝郡の北部。南は湯澤町、東北は岩崎町、西北は平鹿郡に接す。土地は東南より西北に長く、東南部は丘陵をなすも西北部は横手盆地に屬して平坦なり。白子川は南方より來り西北に向ひ、皆瀬川は北境を西北に流れ雄物川に合す。米・蕎麥・馬を産す。羽州街道は中東部を南北に通じ、岩崎町及び奥羽本線湯澤線(自動車)の便あり。この地に文祿五年三月に大島合戦あり、戊辰の役にも激戦のありし地なり。

【辨天島】 ↓金珠園村(山形縣西田川郡)
【辨天島】 ↓那須村(栃木縣那須郡)
【辨天島】 ↓那須村(群馬縣那須郡)
【辨天島】 ↓碓氷町(群馬縣碓氷郡)
【辨天島】 ↓碓氷町(群馬縣碓氷郡)
【辨天島】 ↓碓氷町(群馬縣碓氷郡)
【辨天島】 ↓碓氷町(群馬縣碓氷郡)

【辨天島】 北海道釧路國釧路支廳紅田郡にありし村。昭和七年豊浦村と改稱。

ホ一エー 豊榮支廳

【豊榮支廳】 樺太六支廳の一。南部中央低地帯の大部分を占め、北は流石川幹流附近に於て元泊支廳と境し、西は樺太山脈の野田寒嶽及び留多加山の連綿の分水嶺を以て、泊谷支廳の南部・眞岡支廳の大部と界し、南は大泊支廳と隣り、東南もまた鈴谷山脈の起伏を以て大泊支廳と接し、東の大部分はオホクツク海に臨む。南北に細長くして一三〇軒、東西は一五・五〇軒、面積は四七五一平方軒とす。豊原(豊北村・川上行)・榮濱(岩合町・榮濱町・白糠村)の二郡よりなり、支廳は豊原市に設かる。鈴谷・内瀧の二大川流域を占めて農耕比較的開け、農家戸數一五五四、畑八九三三ヘクタールを算し、牧草・蕎麥の二にて、作物反別の四分の三を占め、その他は馬鈴薯・大豆・蕎麥・粟・甘藷・南瓜・豌豆等の類位なり。有畜農業が奨励され、馬・牛・豚等の畜産は割合に多く、養蠶も一部にて行はる。官有林野は大なるも

既伐採地及び火災・毛蟲による被害地もまた少なからず。而し昭和五年度に於ける伐採面積は七一・四ヘクタール、材積は用材二七萬立方米、薪炭材七萬立方米に及び、用材の半数はバルブ原料なり。定住漁業戸數一九六、漁獲高は一五萬圓、其の六〇％は鱈、残部の多くは鮭・鱒・タラバ等にして、水産製造物價額は二八萬圓、カズノコ・身鮭・鱈鮠・鱈鱈等その大部分なり。樺太山脈の東麓地帯は謂はゆる内瀧炭田に屬し、川上・東白瀧等の炭坑ありてその採炭量は二五萬噸に達するも、埋炭量二六萬噸と推算する、比すれば幾々たるものなり。工業價額は王子製紙株式會社岩合工場・豊原工場の生産にかゝるバルブ一二六〇萬圓、洋紙六九三萬圓が大部分を占むるも、その他は製材・酒類(四一萬圓)等の總計(四萬圓)を主たるものとす。豊原鐵道東海岸線は大泊より豊原を経て榮濱に至り、その間豊原驛よりは豊原線を分岐して眞岡驛にて西海岸線と連絡し、小沼驛よりは川上炭山に支線川上線を出し、岩合驛に於て社線樺太鐵道に連絡し、北方の元泊・知取等を経て敷香に至る。主要製糖としては製糖工場所在地として急速に發展せし岩合が挙げられ、榮濱は昔日の盛況を失ひ、川上行三井は炭坑榮濱にて他と自ら懸た異にする。榮濱村相濱・白糠村眞蔭にアイヌの集落あり。もと豊原支廳といひしが昭和十二年豊原町獨

り。豊山は面事務所の所在地にして郵便所・金融組合・警察官駐在所等あり、また陰曆二・七の日に開く市ありて、綿布・麻布・雑穀類・日用品・水産物等の取引活潑なり。

ホーガイ

寶蓋面 朝鮮京畿道安城郡の東北隅。郡邑安城の東北に相隣接す。東境に清涼山(三四一米)、西境に飛鳳山(二三二米)の麓ゆる外著しきものなく、概して花崗岩の丘陵を成し開墾よく行はれ地味肥沃にして農業盛に行はる。氣候は寒暑共に酷烈なり。住民は一般に質朴勤勉にして農業に従事し一部行商を行ふ者あり。主要農産物は米・大豆・大豆・粟・馬鈴薯等にして工業品には眞鍮製器具及び朝鮮紙等あり。殊に眞鍮器は其の名を朝鮮に知られたるも近年は其の製造不振なり。社線京南線道京畿線は西方安城より東より中央より南南を横断して東方長湖院に通じ城内に麻田驛(昭和二年設置)あり。道路は安城より来る三等道路の東西に横断せる他、道路割よく發達し概して坦路にて交通便なり。聚落よく發達し、殊に西南部は聚落密度頗る大なり。其主なるものを加峴里・加里里・内老里・九十里・登旺里・佛峴里・峨川里・上三里・欲坪里・新長里・迪加里等とし面事務所を加里里に置く。

ホーカク

鳳鶴 朝鮮總督府鐵道平元西線の一驛(昭和三年設置)。平安南道鳳川郡會人面にあり。

豊角面 朝鮮慶尙北道清道郡の西端。郡邑清道の西方約一五(五一三米)等處に漸次東方に傾斜す。之等山地に發源せる諸流は清道川の主流となりて南流し東部に稍平地を見る。住民は農業を主とし、傍ら養蠶をなす者あり。農産物の主なるものは米・大豆・棉花・烟草等にして特に大豆は品質、産額共に優位にあり。又朝鮮紙・綿布・食器等の工業品あり、主として家内工業に属す。僻處に位置し道路の發達未だ充分ならず。聚落は殆ど東中部に集り、其主なるものに聖谷洞・縣里洞・鳳岐洞・黒石洞・東山洞・德陽洞・月峰洞・松西洞等ありて面事務所を松西洞に置く。

ホーカト

方丈屯 朝鮮東州旅順民政署管轄の西南端。旅順市・水師營會の西に接し、西と南は海に開まる。東南部は老虎尾半島となりて旅順の南口を扼し、西には海灣、北西部には雙島灣あり。北東境には爾雲山・高崎山、南端部には老嶺山等の丘陵あり、中部は概ね平坦にして農業行はれ、豆類・落花生・野菜類等を産し、雙島灣岸には鹽田ありて天日製鹽行はる。旅順市に接して道路よく交通便利なり。「爾雲山」は海拔二〇三米、日露戦役の旅順包圍戦に於ける激戦地。明治三十七年九月十九日第二回總攻撃開始以來、十二月五日これを占領するまで奪回さるゝこと前後五回、壯絶

豊起の内遷の歸返されたる處、この山の占領は實に旅順陥落の主因となれり。山名は乃木將軍の御書山に因り、男子功名勳克難の七言絶句より出づ。「高崎山」爾雲山の北方にあり、もと老虎淵山といふ。明治三十七年八月十五日我高崎隊が攻撃占領せしよりその名起る。「老嶺山」南部海岸に近し。山麓の刁家屯は石斧・石器・土器等の出土するより名高く、また附近には漢代の牧羊城址あり。

ホーカワ

芳川村 蔚山縣遠江國濱名郡の東南部。濱松市の東南約三村、天龍川の右岸に位置す。東西二二三村、南北三村餘、面積七・五方町。全境天龍川の氾濫原に屬して地頗る低平、耕地遠く連る。天龍川は古來、本村の東より西に亘りて屢次河道を變ぜしものにて、西隣白陽村を南流する馬込川の如きも天龍川の舊水路たり。農業盛んにして、米・麥・蔬菜の産多く、縣立農事試驗場分場も設けらる。他に工業・畜産や見るべきものあり。濱松市より来る道路中部を東南に通じて天龍川對岸なる掛塚町に達し、また北方省線東海道本線天龍驛に出づる道路あり、濱松市・天龍驛へ何れもバス通じ交通便なり。昭和十年人口五六〇三人、一方村密度七四六人に郡内にて最も稠密の部に屬す。この地は和名抄、長下郡老馬郷の地に於て大字老馬郷と稱する

るべし。「津毛利神社」大字郡盛に鎮座。神社。祭神、底津瀧津見神外五神。社傳に據るに、當國の南海は謂ゆる流江瀧にて波濤暴激、通風無變の難所なるを以て、元正天皇御宇、舍人親王・右大臣藤原不比等は勅を奉じ流江瀧の鎮守として、養老年中これを創建す。式内社にして諸武將の崇敬厚かりき。近世社領八十石を有せり。古來近郷一帶四十六箇村の鎮守たり。例祭、十月十四・十五日。「眞陀寺」眞言宗。大寶年間創建と傳へ、藥師如来を安置す。今の本堂・三重塔礎及び佛門は、何れも外部に朱塗のあとを存し、江戸時代中期の再建なり。

ホーガ

鳳岩 朝鮮總督府鐵道惠山線の一驛(昭和八年設置)。咸鏡北道吉州郡吉州邑にあり。

ホーキ

蔚木縣の東部を南流する那珂川の一支流。源を豐原大山(高原大山)のカムアラ内に發す。即ち高原山・輝連ヶ嶽の北側の水は集りて赤川・鹿取川となり謂ゆる化石湖鹽原の湖底堆積物を開鑿して四段の段丘を造る。上鹽原・中鹽原の聚落はこの段丘上に發達す。外輪山の内壁及びカムアラ内部の小支流を集めて大口瀨となりて東流し、次第に深く其盤岩石を穿ちその河谷に鹽原温泉として知らるゝ古町・門前・福渡戸・鹽釜・鹽湯等の諸温泉聚落が發達す。更に東流して折形山(一〇八六米)と安戸山(一一五一米)

ホーキ

蔚木縣の東部を南流する那珂川の支流。源を豐原大山(高原大山)のカムアラ内に發す。即ち高原山・輝連ヶ嶽の北側の水は集りて赤川・鹿取川となり謂ゆる化石湖鹽原の湖底堆積物を開鑿して四段の段丘を造る。上鹽原・中鹽原の聚落はこの段丘上に發達す。外輪山の内壁及びカムアラ内部の小支流を集めて大口瀨となりて東流し、次第に深く其盤岩石を穿ちその河谷に鹽原温泉として知らるゝ古町・門前・福渡戸・鹽釜・鹽湯等の諸温泉聚落が發達す。更に東流して折形山(一〇八六米)と安戸山(一一五一米)の間を横切る所は數百米の大規模なる峡谷にて所々に斷崖絶壁を示し、赤松・杉・樺等の針葉樹、楓等の闊葉樹の原始林がその間を點綴して種なる溪谷美を示し、樹陰には數十の名瀑あり。關谷附近に於て始めて那須野原に出で、那須は南北方向の斷崖線に沿うて平原の西邊を南流し、沿岸に數階の段丘を形成す。更に東南に流路を變じ、那須野と矢板附近丘陵との界を流れて佐久山町に出で、蛇尾川を合せ、東野鐵道佐久山附近に於て那珂川に合流す。流程約五〇村。

ホーキ

伯耆 山陰道八箇國の一。國內を東伯・西伯・日野の三部に分ち、鳥取縣の管轄に屬す。この國は古くは伯耆と稱し、成務天皇の朝には國造を置き給ふ(國造本紀)。國府は久米郡(いま東伯郡の中)社村の大字國府の地に置かる。この國の史上に最も顯はれたるは吉野時代なり。即ち元弘三年後醍醐天皇の隱岐を脱してこの國に到り給ひし時、國人名和長年天皇を船上山に奉じて勤王の旗を擧げ、功によりてこの國の守となりやがて守護に補す。建武二年足利尊氏の叛くに及び翌延元元年京都に戦死し、顯興その職を嗣ぎしが、のち征西將軍懷良親王に従つて九州へ赴く。尊氏乃ち山名時氏を以て本國の守護とす。然るに時氏事を以て尊氏を怨み、遂に正平七年八月吉野朝廷に降

ホーキ

り、本國にあつて兵を擧げ、漸次に附近の諸國を併せ、丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・隱岐の諸國に及び、兵を率ゐて京都に攻め上る。尊氏及びその子義隆は近江に出奔し、ついで兵を率ゐて京都に迫る。時氏よつて國に歸り足利直冬を戴きて再び京都に走りしが、既にこの能はず再び近江に走りしが、既にして義隆は時氏に諭して吉野朝廷に叛かしてしかば、正平十八年には時氏足利氏に降り、足利將軍義満の時に戦功等によつてその領有する國数は十一箇國に上り、我が國數六十六箇國に對して六分の一に當る。よつて六分一殿と稱せらる。時氏は後これ等の諸國を諸子に分與し、本國はこれを長子師義に與ふ。師義死してその子氏幸嗣ぎ、國の東部の松崎に居る。既にして弟の滿等は兄を襲して國外に逐ひ義満より本國の守護を獲しが、後死して氏幸再び守護となり、久米郡の倉吉に居り、爾後子孫相傳ふ。後、大永年間出雲の足利久來攻めて之を滅ぼし全州その領有する所となる。永祿年中安藝の毛利元就は足利氏を滅ぼすに及び、東部には南條氏を羽衣石(松崎の南方)に復し、西部には泉山(米子の東方)に杉原氏を置く。天正八年羽柴秀吉、織田信長の命を奉じて山陰道を平定し、南條氏を降す。天正十年六月信長の死により秀吉が毛利氏と和するに及び本州は全部その領有に歸す。天正十九年に至り本國の中を

ホーキ

吉川廣家に與ふ。關ヶ原役後、家康は吉川廣家及び南條氏の封を改めて中村一忠を米子に對して全國を領せしめしが、慶長十四年一忠率して關ヶ原の戦い、更に加藤貞泰を米子に、關一政を黒坂(日野郡の中央)に對す。元和三年に至り貞泰伊豫大洲に轉じ、一政もまた國を除かれ、一國を因幡鳥取の池田光政に併せ賜ふ。寛永九年光政、備前岡山に遷るに及び一族の池田光仲これに代りて鳥取に居り本國をも併せ領し、子孫相嗣いで明治維新に至る。明治二年鳥取縣を置くやその管下となり、明治九年八月には鳥取縣の管下に移りしが、明治十四年九月に鳥取縣の復活さるゝに及び再びその管下となる。本州はもと河村・久米・八橋・汗入・會見・日野の六郡なりしが、明治二十九

ホーキ

省線山陰本線の一驛(明治三十五年設置)にして伯耆線の終點。鳥取縣西伯郡農村にあり。

ホーキ

大山(鳥取縣)の別名。

ホーキ

豊基面 朝鮮慶尙北道榮州郡の西北部。郡邑榮州の西方約一〇村。小白山脈西境を南北に走り、北境に國望

る産業を成す。住民は農を主業とし、...

ホーキ

【風儀】 會察炭礦線の一區(昭和三年設...

ホーキ

室町時代に於て日鮮貿易の中心地たりし...

ホーキ

【八坂神社】 大字下法動寺に鎮座。...

併して現在の寶木村を建つ。大字寶木に...

ホーキ

【風儀】 會察炭礦線の一區(昭和三年設...

ホーキ

東々北に流れて開閉江に入るあたり...

ホーキ

【八坂神社】 大字下法動寺に鎮座。...

濱連なり風光頗る佳なり。住民は實林に...

ホーキ

北境に密率山(一三二四米)聳え、...

ホーキ

【澎湖】 臺灣五州三廳の一。臺灣海峡...

ホーキ

【澎湖】 臺灣五州三廳の一。臺灣海峡...

ホーコ—ホーコ

らる。豚・黄牛・家禽の飼育は頗る盛にして年畜産額約五〇萬圓に達し、特に豚・鶏は露下の需要を満して餘りあり、毎年十數萬圓を本島に搬出す。黄牛は主として勞役に使用す。林業は全く見るべきものなきも、舊記によれば、往時は相當樹木繁茂せしもの如くなり、近年露當局は伐採造林の普及に努力し、處々に木麻黄等を植林す。四面海を繞らす本島は水産業は甚だ有望なるも、漁民の資力貧弱なるを以て大規模の經營は不可能なり。されど近時發動機漁船増加し沖合漁業に移りつゝありて同時に漁獲高も年々増加しつゝあり。年産額約一五〇萬圓にして鯛・鱈・口美鯛・鰯・惣田鰻・鰯・鰯等の順序なり。また近年発見せられたる珊瑚も重要な水産物の一にして年産約二〇萬圓に達す。其他に魚干鱈・鱈鱈・蒲鉾・鯛田鰻等の水産製造物を出す。また製身具として加工し、用ひものを文石は甚だ珍貴なるものにして、世界に於てイタリヤと本島とのみ産し、將軍嶼・東青嶼等の岩礁中に産す。されど近年漁獲の結果著しく其生産を減じつゝあり。工業に於ては小規模なる落花生油・製氷・電氣・石灰・煉瓦・水産物加工の工場を有するのみ。本島下の教育状態を見るに、學校教育に於て小學校一、公學校十、分教場八にして、其の狀勢甚だ遺憾なるも、地理的關係上其の普及困難なり。露下の交通は地理的關係上主として海路

に依らざるを得ざるも、陸路も近年著しく發達し、自動車の運行を見るに到れり。各離島間の交通は主として、定期・不定期の發動機船あり。臺灣本島との交通は沿岸西線定期航路に當り、總督府の命令航路なり。また本島の臺南と本島間には最近定期航空路開かれたり。廳舎をばじめ本島下の主なる官公署は主として馬公街に設けらる。本島は其地理的關係よりして、史實に富み、また史蹟多し。本島の存在が漢族に知られしは最も古くして漢朝時代に在りたるもの如く、福建海防考に「隋開皇中、遣使貢陳稜、略澎湖地、環島三十有六、如排衙云」と見ゆる是なり。歐米人のベスカドールと稱するは、もと和蘭人の Aslan Pheasloe と呼びしに起因したるものにて、西曆紀元一七二六年に成りし和蘭人宣教師グアレシヤイの著書「臺灣及び之に於ける和蘭貿易の記事」に載する地圖中に、本島下の數島に和蘭語の名稱を附す。また宋代に成れる文獻通考に「琉球國在泉州之東、有島曰澎湖……」の記事見え、同時代に成りし諸蕃志には、本島が泉州府同安縣に隸せし事を載す。されば本島に往時より漢民族の住居せし事は疑なかるべし。其後明代に到り、白沙嶼の東南なる瓦刺港の丘上に小城營を築き、巡檢を置き汛兵を駐屯せしめ、島民より漁業若干を徴せり。其後本島は海賊の依歸する處となり、是が對策に就きては、本國政

MIOMI

府の腐心する處なりき。嘉靖十二年海賊林道乾なる者此地に據り、支那邊海を暴掠せしこと舊記に明なり。蘭人の初めて本島海上に現れしは西紀一六〇四年にして、其後、一六二二年ライエルセンは船艦十七隻を以て再び兵を率ゐて澎湖島に來り、今の馬公港に上陸し、城營を築き砲臺を處々に設けて、久居の計をなせしが、明朝政府と媾和し、蘭人は本島を去りて臺灣本島に根據地を定むる事とせり。其後明朝勢力の失墜と共に各處に亂あり、露に漢民族の本島に亂を避けて移住する者多く清の康熙元年頃までに漳泉二府の漢族にして澎湖本島及び白沙・流鶯の三島に部落を形成するもの數十所と稱せらる。是より先、明の遺臣鄭成功の一時據る所となりし事あり、常に本島は臺灣の門戸として重要な位置を占めたり。清の領臺後、本島は臺灣府臺灣縣に隸屬す。康熙六十一年に朱一貴の亂を臺灣に作すや文武官皆に盡く難を本島に避け、次に征討軍此地を根據地として兵馬の計を進めたりと云ふ。其後光緒十年には清佛戰爭の餘波本島に及び、グーメルマー中將麾下の艦船七隻來澳するありて、古來本島は臺灣海峽を通過する内外諸艦船の寄泊地となり、亂臣賊子または海賊の據點となるに條件甚だ真かりしもの、如し。明治二十八年、我國は臺灣征略に先ち、混成旅隊を編制し、二月二十八日本島の東南なる林投灣(現葫西庄)に上陸

して、遂に本島を占領したり。【澎湖群島】臺灣澎湖廳の管轄内に屬する大小六十四の島嶼よりなる一群を澎湖群島となす。臺灣本島と支那大陸との中央海上に位置す。澎湖群島【澎湖本島】臺灣澎湖廳下最大の島嶼にして、本島下の中心地をなす。澎湖廳誌(光緒十九年)に「形如蓮花、其餘嶼如荷葉散點」と云へるは即ち本島なり、島内に大城山・太武山の丘阜を有す。而して南西に馬公港開く。【澎湖水道】臺灣澎湖群島と臺灣本島との間を稱して澎湖水道 Peshaw's Channel と稱す。【澎湖港】澎湖本島・流鶯島・白沙島の三島を抱きて構成する港。港内廣闊、多數の船舶を容るゝに足り、周邊の島嶼は風波を遮屏して、暴風怒濤を避くるに足る。【風岡】成鏡嶼の一隅(大正十三年設置)。朝鮮成鏡北道鏡城郡流源面にあり。【風岡面】朝鮮全羅南道光陽郡の西端。郡邑光陽の北に相距約二、六米、東方に聳ゆる白雲山(二二六米)小島に聳え、餘勢城内に延亘して山岳重疊し、唯僅かに中部を南流する風岡川の溪谷に滑りて狹長なる耕地の横はるに過ぎず。谷壁は頗る急斜面にして開墾による耕地化は期待し難く従つて農産物による入口の支持力乏しく近時光陽・麗水方面に輸出する者

ホーコ

多し。住民の多數は農業に従事し副業として養蠶・採薪に従事す。農産物の主なるものは米・大豆・粟・蕎麥・棉花にて、殊に棉花は換金作物として當地域の最も重要農産物なり。道路は光陽より西方の同福に通ずる三等道路南浦を東西に横斷すれども、直接に交通上與る所少ない、ただ光陽より北方の求禮に通ずる縱貫道路は最近改修を見、稍便となる。【ホーコ】豊巻嶺山、瑞谷面、【ホーゴ】逢郷、島東縣八頭郡にありし村。明治三十八年本村及び登米村を廢しその區域を以て丹比村を置く。【ホーコ】茅港尾、臺灣臺南州曾文郡下營庄を主體とし、その東隣宮田庄の一大字南浦を包含せし一區の舊區劃名。清の雍正十二年に建てられ、のち東・西二堡に分れ、東堡は宮田庄の西端南浦及び下營庄の東部茅港尾・鹿耳寮の二大字を合したる地域に、西堡は下營庄の西部十六甲・下營・大屯寮を合したる地域に相當す。我が領臺後も依然存置せしが、大正九年地方制度改正により廢せられ、前記二庄に分割せられたり。【ホーコ】方谷、省線伯備線の一驛(昭和三年設置)。岡山縣上房郡中井村にあり。【ホーコ】豊谷面、朝鮮成鏡北道鏡城郡の北端。郡邑鏡城の東に隣接す。一般に東部は山地を成せども西方に漸次緩傾斜し、豆滿江に臨む西部一帯は土地

低平にして耕種地の發達を見る。産物は大豆・粟・蕎麥・稗等にしてまた綿布及び蠶額等あり。會寧・穩城間の一等道路は西の略中央を南北に縱貫し軍用上重要な幹線にして乗合自動車の便あり。又中央より西方鍾城に二等道路を岐これ亦自動車の便あり。個境に位置せるを以て地域廣大なるに比し聚落密度極めて小にして河邑豊溪洞の外、雲巖洞・館山洞・豊川洞・東浦洞等を數ふるに過ぎず。【ホーコ】豊國、【豊國炭礦】福同縣田川郡にある石炭山。礦區は伊田町・後藤寺町・糸田村・金田町の四ヶ町村に跨りて一〇八萬餘坪。重要礦山に屬す。礦區の地質は第三紀夾炭層にして頁岩・砂岩・礫岩の累層、炭質は微粘結にして八尺炭・四尺炭の如きは塊炭一等炭として名あり。昭和十年には塊炭三八、三一〇噸、粉炭二六〇、四五六噸、切込炭一九、九二〇噸、粗炭一六五、五五三噸(この總價額四〇三萬餘圓)を出し、同年六月末日の鐵夫數は一、九〇四人とす。明治十七年の開坑にて、もと海軍備炭田なりしが現在在り明治鐵業會社の經營に屬す。【豊國】省線宮原線の一驛(明治三十年設置)。福同縣田川郡糸田村にあり。【豊國嶺山】福同縣と大分縣に跨る金銀山。【星野村】福同縣。【ホーザ】方座浦、島津村(三重縣度會郡)

【ホーザ】芳草、志摩國(三重縣)の古地名。和名抄に英虞郡芳草郷あり、その地今の度會郡島津村・吉津村の邊に當る。【ホーサイ】豊蔵面、朝鮮忠清南道天安郡の西南部。北は天安邑との間に數城面を距て、南は廣徳面に、東は蕨岐郡全義面に、西は牙山郡雄芳面に接す。東西七軒餘、南北五一八軒。西南境に大華山(四五五米)聳え東北に緩傾斜し、東北部に百米臺の丘陵起伏す、中部を東南・西北に貫流する曲橋川の上支なる熊川及び豊西川の流域に稍々廣き平地ひろく、米・麥・大豆・陸地棉等を産す。東部を鐵道京釜本線南北に走り、北方天安郡、南方小井里郡に近く、鐵道の西方を天安・廣亭里間道路通じ交通不便ならず。【ホーサカ】寶坂村、福島縣岩代國河沼郡の西部。野澤町の西北に隣り、東は東峠を距てて野澤村に界し北及び西は新堀縣に接す。越後山脈の東斜面に屬し西境には北より古惣座山(五二二米)・土埋山(六九七米)・黒森山(五六〇米)・日掛山(五三五米)聳え、全村概ね山地をなし、東光頭川は西南境に發源し河の中流を北流して河貫川に合す。米・蕎麥・大豆・木材等を産し、また東部の大字屋敷は蛋白質の産地として知らる。産出の蛋白質は醬油岩の中に那狀をなして介在し、淡青色半透明のもの多し。道路は北部を東南より西北に通ず。北方磐西線徳澤驛

へは約三軒あり。野澤村・上野尻村と共に組合村を成し、役場を野澤村に置く。【綱木澤】車峠を下ること約五百米にあり。口碑に依れば、往古藩主藩生氏驅鹿を遣らんとて寶坂村屋敷敷の東南約一千米餘のオパール嶺山より大なるオパールを發見し、數百人の工夫を費して此地迄運搬せしが、遂に網切れたるためその石の運搬を中止せしむ。時人此地を稱して網切れ澤と稱せしが、のち綱木澤となるに到れり。(須荷嶺)上野尻村より西南方一千米許にあり。中腹の小峰と云ふ所に少しの平地あり。往昔何人が住せし所といふ古井あり、早歲に雨を祈る所とす。また山上の樹木を伐採すれば神の祟りありとて斧を入るることなし。(神樂澤)寶川の河貫川に注ぐ一千米餘の上流に瀑布あり、神樂澤といふ。深夜時々樂奏する音響を聞くと云ひ傳ふ、蓋し水勢岩石に激するに依りて發するならん。【ホーザリ】坊澤村、秋田縣羽後國北秋田郡の西部。豊里町の西に接す。南境には蟹澤山(一六七米)聳え北方に傾斜し、東北部また山地をなし、中部は豊里盆地に屬し平坦なり。米代川は中部を西流す。米・蕎麥を産す。羽州街道は北部を東北より西南に通じ、奥羽本線豊里驛へはバスの便あり。この地は戊辰の役に激戦のありし地。伊勢營は寛永八年の建立にして、建立の際に土中より鏡と銅刀を

ホーコ—ホーサ

MIOMI

工業・酒造・製粉等行はる。西部に二等道路通じて北青・甲山方面にバスあり、豊山邑よりは西方長津に三等道路を岐つ、交通未だ不便なり。豊山邑は地境里川左岸に位し、街衢整然たる市街地かなす。豊山郡廳・咸興地方法院出張所・森林區・農事試験場北鮮支場農事試験地・種羊場等の官署あり、市況活潑にして、毎月三・八の日に開く新豊市場は取引高年一六萬圓に及ぶ。本面はもと里仁面と稱し甲山郡に屬せしが、のち豊山郡に入り、近年に至り現稱に改めらる。

【豊山面】朝鮮慶尙北道安東郡の西部。安東邑に西隣す。昭和九年四月、もと豊山面・豊北面と豊西面の一部とを合併新設せし面にて、東西約一五軒、南北は之より稍々短かし。一帯に花崗岩の削磨による老年期の丘陵性地帯を成し、洛東江南境を蛇曲流路し沿岸に河岸段丘の發達を見る。耕地は丘陵の緩斜面及び河階段丘上に發達するも水田は少なし。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機械に従ひまた行商に従事する者あり。産物は大豆・大豆を主とし其他に雜穀・麻布・棉花・煙草・繭等あり。社線朝鮮鐵道北線東西に通じ北豊山・鳴湖の二驛（共に昭和六年設置）あり。道路は東方安東より來る二等道路面の略中央を東西に横斷し、豊山よりは更に支線が放射狀に岐ち交通比較的便なり。聚落は多く河岸段丘上若くは丘陵南斜面に位置す。主邑豊山には餘

厩三・八の日に開く市場ありて取引活潑なり。【豊山面】朝鮮全羅北道淳昌郡の東南部。郡邑淳昌の南に隣接す。西北方に豊ゆる廣徳山の餘脈西北部に及びて山地を成せども、東部は南流する嶺南江右岸の平地にして地味肥沃、郡中第一の農産地を成す。農産物は米・小麥・大豆・棉花・棉花・煙草・大麻・苧麻等にしてまた舊式の家内工業による麻布・綿布の機械織行はれ、淳昌綿布は市場に著る。其他朝鮮紙の産あり。道路は淳昌より來る道路最近改修を見、南方玉果とも自動車を以て連絡し、交通や便となれり。【ホーサン】豊産金礦 朝鮮忠清南道豊山郡にあり。昭和十年には金二七、〇一四五、銀九、四一、一五、金銀鐵三七七〇（この總額八萬六千餘圓）を出し、同年六月末の従業員は六一人なり。【ホーサン】寶山 寶山 寶山

ホーサ

【寶山面】朝鮮黃海道平山郡の東北隅。西は安東面、南は西峰面・平山面に、北及び東北は新溪郡西面・栗面に、東は金川郡冬火面に接す。南北に長く約一八軒、東西は五一一〇軒あり。北半部は四一五米の山地にて、東北部に國水峰（三八七米）、西境に永徳山（三九八米）聳ゆるも、南半は百一二十米の丘陵起伏する處多し。禮成江は東境に限りて南流し西南部を灌溉する南川その他の諸水悉く之に合し、流域にやや廣き耕地あり。米・

ホーサ

【寶山面】朝鮮忠清南道豊山郡の西北部。郡邑豊山の西方一五軒餘にあり。本郡第一の高峰伽山（六七八米）西南方に屹立し、餘勢東方に展びて當地域に及び、西半は山地を成せども東方に向つて漸次低夷し、東部は稍々低地を成す。西部山地に發達する諸流は灌溉の利に富み、地味・氣候共に農業に適し、農業よく發達す。住民は主として農業に従事し傍ら養蠶を爲す者多し、また養蠶・養蠶何れも盛なり。農産物中、米は品質優良を以て著はれ、大豆・大豆また多く、特用作物たる大麻・苧麻・煙草等の栽培も盛なり。聚落は山麓の湧水線に沿ひて分布し、其密度極めて大なり。幹線道路たる徳山・河川

ホーサ

【鳳山郡】臺灣高雄州の西部。東は下淡水溪を隔て、屏東市・東港郡に、西は高雄市の西北に岡山郡、北は旗山郡に接し、南は外海に臨む。郡内地勢は概ね平坦にして、僅に北方旗山・岡山郡境に丘陵の起伏するを見る他、特に著しき峯起なし。されば管内は地味肥沃、灌溉に富まれたる平野にして農業盛なり。本郡は四時温暖にして植物繁茂し、夏季長く、冬季短し。気温の高低は其の差甚しからず、雨量は比較的多きも四時の分配は均しからず、大體夏季を雨期と稱し、冬より春に互りては雨の乾燥期となる。郡管内は鳳山街・小港・林園・大寮・大樹・仁武・鳥松の一街六庄に分たれ郡役所を鳳山街に置く。郡下は概ね地勢平坦にして、水利の便良好なるを以て、耕地大半は灌溉の惠澤に浴す。之等の耕地には優良なる米及び甘蔗・甘藷等を産し、山地には薪炭材を造林せる他、丘陵を利用する鳳梨の栽培あり、其他の園藝作物、果實も尠ならず。従つて農業は郡下産業の主要なるものにして、年産額七百餘萬圓に達す。本郡の米は、往時より赤山米の名を以て知られしが、更に近年は州農會の指導により米質向上と收量増加を圖りし結果、其成績甚だ良好なり。甘蔗は米と共に郡下に於ける二大農産物の一にて、臺灣製糖

間三等道路は山麓聚落に沿ひ縦貫して兼合自動車を通じ交通比較的便なり。【鳳山郡】臺灣高雄州の西部。東は下淡水溪を隔て、屏東市・東港郡に、西は高雄市の西北に岡山郡、北は旗山郡に接し、南は外海に臨む。郡内地勢は概ね平坦にして、僅に北方旗山・岡山郡境に丘陵の起伏するを見る他、特に著しき峯起なし。されば管内は地味肥沃、灌溉に富まれたる平野にして農業盛なり。本郡は四時温暖にして植物繁茂し、夏季長く、冬季短し。気温の高低は其の差甚しからず、雨量は比較的多きも四時の分配は均しからず、大體夏季を雨期と稱し、冬より春に互りては雨の乾燥期となる。郡管内は鳳山街・小港・林園・大寮・大樹・仁武・鳥松の一街六庄に分たれ郡役所を鳳山街に置く。郡下は概ね地勢平坦にして、水利の便良好なるを以て、耕地大半は灌溉の惠澤に浴す。之等の耕地には優良なる米及び甘蔗・甘藷等を産し、山地には薪炭材を造林せる他、丘陵を利用する鳳梨の栽培あり、其他の園藝作物、果實も尠ならず。従つて農業は郡下産業の主要なるものにして、年産額七百餘萬圓に達す。本郡の米は、往時より赤山米の名を以て知られしが、更に近年は州農會の指導により米質向上と收量増加を圖りし結果、其成績甚だ良好なり。甘蔗は米と共に郡下に於ける二大農産物の一にて、臺灣製糖

会社及び新興製糖會社の農場を有す。本郡の鳳梨はまた二百餘年の歴史を有し、近年は優良種の配付を受け、遂次其の收量を増加しつゝあり。内外食品・漬物・臺灣鳳梨等、諸會社經營の農場を有す。其他甘蔗・西瓜・大根・胡瓜・落花生・大豆等の産あり、また龍眼・柑桔・檸檬・木瓜・釋迦・檳榔・蓮霧・荔枝・李・果物時計草・牛心梨・桃・遠羅蜜・枇杷等をも産す。畜産業に於て最も盛なるは養豚にて、現に飼育せるはパーシャリ種種なり。牛に於ては昭和三年來印度種牛を交配して役肉乳用を兼ねたる改良牛の増殖を奨励中なり。畜産總額年約一八〇萬圓に達す。其他蜂蜜約三千圓は本郡の特産品なり。管内には丘陵を存するも山と稱すべきものなく、是等の丘陵地帯も年々開墾せらるゝを以て森林少し。されば郡下の林園・大樹・鳥松・仁武の各庄より出す相思樹・龍眼樹及び雜木等の薪炭材を以てその林産物と稱せざるべからず。本郡が近くは大商業都市たる高雄港を控へ居る關係上、管内の商取引としては單に地方必需品に限定せられ、生産品取引の大部分は高雄市に於てなされる。工業の主なるものは、砂糖・鳳梨罐詰・瓦及び煉瓦・石灰・麵粉製造等にして其總額約八五〇萬圓餘にして、製糖工業を第一とす。本郡の海岸には魚族豊富にして、また養殖に適するを以て、州下に於ける主要なる漁場をなす。されど大規模に之

ホーサ—ホーサ

を行ふものなく、漁業に従事する者の大部分は沿岸漁業に従事す。漁水産額約四〇萬圓なり。郡下に於ける教育機關は、小學校三、公學校十二にして、公學校に於ける就學率は他郡に比して成績良好ならざるも近年、皇民化運動促進と共に其率を著しく増加しつゝあり。社會事業團體の主なるものは鳳山省心社・清光會等にして、社會教育機關たる青少年團・國語講習所等と共に相當の成績を挙げ、また鳳山街には圖書館を有す。本郡下に於ける交通は甚だ便利良好にして、官線たる潮州線は郡下を横斷し、管内に鳳山・後庄・九曲堂の三驛を設け、また私線に於ては鳳山を起點とする臺灣製糖會社の鳳山—小港線と新興製糖會社の鳳山—林子港線あり、官線と共に地方交通上大の貢獻をなす。また九曲堂よりは、旗山に達する臺灣製糖會社の旗山線を有す。また縱貫道路も本郡を貫き之に附隨して發達せる指定道路は數條を有す。かくて街道道路は、之等の縱貫道路・指定道路より分岐して四通八達し、兼合自動車の運行近年著しく盛となりたり。本島に漢民族の足跡及びしは康熙の初年にし時、清國治下に於て、李自成の亂起りし時、福建・廣東省下の住民を逃れて本島に渡來し、その内南下せしものは高雄州西北部に部落を構成せしが、南部の莊大田大寮に過ぎ、時の守備軍は其地を捨て、波頭（いま鳳山）に縣署と共に居を移

せし以來移民續々來聚せり。かくて下淡水溪右岸一帯の沃野は着々と開拓の緒につく。我が領臺後、明治三十一年初めて鳳山縣を置かれしが、其後、數次の行政制度改革に會ひ、大正九年十月の地方制度改正に依り一街五庄を管轄區域とする鳳山郡となり、次で同十三年高雄市制實施に伴つて舊高雄郡仁武庄を加へられ、一街六庄を管轄して現今に到る。【鳳山街】臺灣高雄州鳳山郡の略々中央部。東は鳥松庄・大寮庄に接し、西は高雄市の北に鳥松・仁武兩庄に、南は小港庄に夫々隣接す。管内一帯は平地にて灌溉の便また良好なるを以て農業盛なり。また南部第一の吞吐港たる高雄市に隣接するを以て、街勢は甚だ活氣に富み、郡下第一の諸物産取引地をなす。農業に於ける重要物産は米・甘蔗にして其生産額夥多なり。其他若干の園藝作物・蔬菜等の産出あり。畜産は概ね農家に於て牛・豚を飼育するを主とし、近年豚の如きは優良種パーシャリの配付を受け品質の改良に従事しつゝあり。工業に於て見るべきは鳳梨罐詰業・製糖業にして、郡下に於て收穫せられたる鳳梨の多くは本街にて罐詰となり、諸外國及び内地へ輸移引をなす。本街は鳳山郡役所を始め、街役場等の諸種施設備はり街況活潑なり。其他主なる官公署・會社は次の如し。郵便局・法院出張所・農會・種畜場・商工銀行

支店・信用組合・圖書館・市場・鳳梨罐詰工場。教育に於ても郡下の他庄に其の施設勝り、小學校一、公學校三を有し、其他社會教育機關として青少年團・國語講習所等隨處に備はる。交通に於ては本街は高雄市を距ること僅か八軒餘を以て其間を潮州線と稱し、其の如き縱貫道路を以て其間を結ぶるを以て甚だ其の便良好なり。本街の地は沿革古く、漢民族の足跡が此地に及びしは康熙末年にして、是より先、和蘭・鄭氏時代にも既に其の教化の手は當地に住せし平埔番族に及びしと云ふ。この地方に移民漸く増加せしは、莊大田一揆後、縣署の此地に移されし後に於て、現大字鳳山に一市街を形成するに到りしは嘉慶初年以來に屬す。我領臺後明治三十年始めて鳳山縣を置かれ、其中心都市たりしが、爾來幾度かの地方制度改正後、大正九年十月、現在の如くなれり。清領當時は興隆内里に屬せり。本街の北邊なる赤山・牛埔の二大字は、その北隣鳥松庄全部と共に、清領の當初は赤山莊と稱し、道光年間改めて赤山里と稱せり。赤山の名は北部に赤山（臺灣府志に見ゆ）と稱する丘陵横ばるに因みしもの。【鳳山】鳳山街にある一丘陵。鳳山とは、その海岸平野に崛起する一丘岡の名稱にして、古來勝地の一として、移住せし漢民族間に傳承せられしものなり。いま太平頂山とも稱す。乾隆五十三年、此地は鳳山縣治の地として卜定せら

をなすも、他は平地開け、櫻川西境を南流す。農業行はれて、米・小麦・大豆を産し、製糖・製材行はる。縣道よく發達し北走するものは筑波町に通ず。警察は北部の丘陵の南麓に發達す。社線筑波鐵道は中央を西北に走り、常陸北條驛（大正七年設置）を置く。この地は和名抄、筑波郡清水郷の内なるべし。多氣大塚の故墟にして、中世、北條の地頭が在仕したるにより邑名を北條となす。建久年中、八田知家の季子時家、この地の地頭となり、子孫數世相續す。（多氣城址）多氣山にあり、常陸の大塚平良宮の孫、維幹の樂く所と傳ふ。子孫相續き、七世義幹に至り、府中に移り、爾後小田氏の有となり北條城と稱す。

【北條】千葉縣安房郡にありし町。昭和八年北條町・館山町を廢し、館山北條町を新設す。

【北條】静岡縣田方郡並山村の舊地名。いま原木・四日市邊をいふ。北條氏の起りし所。並山村。

【北條町】兵庫縣播磨國加西郡の中部。姫路市の東北方一〇軒餘に當る。北條には低き丘陵が西北より東南に連り、其他は東南部と西南部に稍々丘陵ある外は平坦なる低地をなし、加古川の一支流南流す。米・麥類・蔬菜・花卉・桑草・食用農産・菓實等も産し、また製糖品・豆・木製品・竹製品・皮革製品・履物・漆・味噌・鰯等の産物あり。交通の一中心に

して縣道各方面へ通じ、姫路市を初め西方の福崎町、南方の加古川町、東北の社町及び東北方の中町へそれ／＼パスを通じ、また社線播磨鐵道栗生・北條間の終點に當り北條町驛（大正四年設置）を置く。もと酒見北條と云へり。一に北條は播磨風土記に、修布里郡酒見部村とある地にして、北條は品置郡の訛なりと。（住吉神社）大字北條に鎮座。縣社。祭神、底筒男命外四神。元正天皇養老元年の創建といふ。峯相記に往古は國司の崇敬厚く田圃四十餘町を有し、また保安三年聯合始まり國中第一の神事見物なりしとあり。式内小社に列し、近世は酒見寺（當社も酒見大明神といふ）と共に六十石を寄せらる。例祭、四月二日・三日。（酒見寺）古義眞言宗。泉生山。高野山末。天平年間行基の地に遊歴し、酒見明神に祈念しその靈告により堂宇を創建す。乃ち公田四十餘町を賜ひ、酒見神社（現稱、住吉神社）別當寺となる。平治元年炎上するや、二條天皇勅して堂宇を再建せしめ給ふ。池田氏・本田氏等の尊崇を受け、寛永年間、僧隆中興す。

【北條町】愛媛縣伊豫國温泉郡の西北部。東は正岡村に、北は難波村に、南は河野村に界し、西は喜澤に臨む。面積〇・四三方軒。高麗半島西岸の山麓下に發達せる沖積平地の一部を占む。北境に立岩川流れて水利の便よし。従つて農耕よく行はれ米・麥・大豆等を産す。また漁業も行

れ鯛・鰯等の産あり。市街は西北部に開け、中央を縣道南北に走りて南方松山市に連絡す。その東方を香線鐵道本線經貫し伊豫北條驛（大正十五年設置）を置く。町はまた漁港をなし商工業を營む。昭和十年の人口五一〇三人、一方軒密度一七八人を示し非常に稠密なり。此地は和名抄、風早郡高田郷の内なるべし。河野新大夫親經の父親孝は北條大夫と稱す、此處に在名を稱せしもの。北條氏は物部氏の族にして、越知氏の一流なり。明治三十一年に町制を布く。附近はいま海水浴場として知らる。北條港は内務省指定港灣たり。萬葉卷十五に見ゆる風早の浦は此の地の海岸なるべしといふ。「吾か故に妹歎くらし風早の浦の沖邊に露たなびけり」

【北條町】彰城面。朝鮮京畿道振威郡の南部。平澤面の南西に隣り、南は忠清南道牙山郡屯浦面・天安郡成歡面と接す。東西約一〇軒、南北五十六軒。一畝畝の平澤平野中に位し、處處に起伏する丘陵も最高四〇米程度に過ぎず。安城川は北境を環流し、西北境に至り著しく河幅を増し次で南方に曲流す。米・麥・大豆・蔬菜・柿・鯉等の農産多く之等の産物は平澤邑に於て集散せらる。平澤・牙山間三等道路東北・西南に通じてパスの便あり、交通不便ならず。本面は昭和九年四月、もと西面・芙蓉面を合併して新設せしものに係る。

【ホーシヨ】鳳城面。朝鮮慶尙北道奉化郡の略中央部。郡邑乃城面の東北隣にて土城南北に長く、面積六六方軒餘あり。大白山脈の支脈山（二二〇六米）北境に聳え、北半部はその南側の傾斜面にて山地深き中部以南は二一三百米の丘陵地多く、北東部山地に發する乃城川の上支中部を西南流して乃城面に由て、その川筋と、南部の支谷に幅狭き低地あり。米・麥・豆・柿・大麻・莞草等の農産あり。乃城・蔚珍間の二等道路は中部を、乃城・英陽間の三等道路は南部を横ぎり共にパスの便あり。

【ホーシヨ】豊上面。朝鮮咸鏡南道德源郡の中部。元山府の西西南約一五軒、南は豊下面、東南は江原道伊川郡に、北は文川郡、西は平安南道陽徳郡・黃海道谷山郡に接す。東西一八一二〇軒、南北一〇一七軒、面積約三〇〇方軒。馬息嶺山脈東北・西南に走り、北境に頭流山（二三四四米）、徳谷山並立し、東北境に馬息嶺・伏回嶺等、南境には萬年徳・梨徳山等連り、城内にも華蓋山・五峰山・細谷山・馬岩山等聳まりて低地に乏し。北部山地に德津江發源し中部を南流す。産物に大豆・大麻・蕪・牛・木炭等あり。北部に元山平壤間の一等道路東西に走り馬息嶺及び西北境阿成嶺の嶺を越えてパス通じ、途中より南走して伊川に至る道路を越つても、交通なほ便ならず。ほほ中央の五里は一中心をなし、市場あり、年

取引高一萬圓に及び、市況活潑なり。

【ホーシヨ】豊壤面。朝鮮慶尙北道禮泉郡の南西隅。東は義城郡多仁面に、南は尙州郡中東面に、西は同郡沙伐面に、北は同郡水原面に境す。洛東江北境より西境へ環流し、内には高さ二百米臺の丘陵性山地相平行して東北より西南に延び、その間に低地ありて水田よく拓げ、また洛東江岸、特に西部の江岸には所々に低地ありて畑地をなす處多し。米・麥・豆・柿等を主要農産とす。社線嶺南鐵道北線龍宮驛（北嶺龍宮面）へは約八軒なるも交通便ならず。

【ホーシヨ】寶城面。朝鮮全羅南道寶城郡の略中央。北東は順天郡に、南東は一大半島よりなる高興郡に接し、南はその高興半島の西側に滯入する得浪海に臨み、南西は長興郡と、北西は和順郡と界す。面積六六三方軒餘、道内二十一部中の第七位を占む。小白山脈南西端部の山地にて、北境の望月峰（六八二米）の山嶺は郡の中央部に延びて尊帝山（七〇四米）・方丈山（五三六米）となり、尊帝山よりの一山肢は東南境上の斗榜山（四六〇米）に連る。また西境には天鳳山（六〇九米）・碧玉山（四七九米）・日林山（六二四米）等の山峰あり、海に近き日林山・方丈山・斗榜山の間にまた低き分水嶺ありて相連る。ために郡内は得浪海斜面、東北部の袋橋浦の小地域及び西部の寶城江流域の三地區に分

る。寶城江は海岸に近き寶城面の南境小分水界に發し西部の山地間を曲折北流して順天郡の西部に出でその川筋に中流き平地を造り、また袋橋邑の東南岸及び得浪浦北岸の干潟地は次第に干拓せられたり。ありて共に主要農産地をなす。農産物は麥を主とし棉花・苧麻・豆類等あり、水産も少なからず。工業に綿布・麻布・苧布・草履表・紙等あり、寶城・袋橋・福内里（福内面）・栗浦里（會泉面）等には商業行はる。鐵道嶺南西部線中部を東西に走りて袋橋・寶城等を連れ、また袋橋より北寶城・順天・金池・高興へ、寶城よりは高興・和順方面へ、いづれもパスを通ず。行政上袋橋邑外十一面に分かれ、人口約一〇・五萬。

【寶城面】朝鮮全羅南道寶城郡の首邑。郡の南西部に位し、西は長興郡長東面と境す。東境に烽火山（四六四米）の山嶺南北に連り、活城山（四五二米）の山嶺南境を東西に延び、その山脚は面の中部に下りて二百米内外の丘陵となる。蓮香川は南西隅の熊嶺面に發し、北流して面の西南部を掠めて西隅の長東面に由て、寶城川とよばれ、のち北東に環流し、北東隅の慶湖面を横ぎりて再び面の北東境を掠め南東部山地より北流し來る支流を合す。蓮香川と東部寶城川支流の流域には平坦地ありて田畑よく拓く。農産に米・麥・棉等あり、工業に綿布・苧布・蕪工品等を出す。寶城里は北東部の低き臺地に位し郡

の所在地に、また慶全西部線の寶城驛（昭和五年開業）を設かれ、また袋橋・和順方面への道路通じて、パスの往來あり、地方商業の中心をなす。

【ホーシヨ】彰城面。朝鮮江原道江陵郡の東南端。江陵・三陟の中間に位し、東は日本海に臨む。面積約四〇方軒。西北境に望雲山（三三八米）聳え、西南境には四一五米の山連り山脈東北に延びて海岸に盡く。望雲山の東南麓と南端の海岸にやや平地あり。海岸は北半約五軒の間は低沙濱にて、以南は海崖を成すも、南部にて再び沙濱を見、その海崖より沙濱に移るところに暴瀾の激港あり。米・麥・大豆・粟等の農産ある外、漁業盛にして鱈・鰻・鮑・海鼠・海藻等を産す。東部は江陵・三陟間の二等道路南北に走り、パスの便ありて交通不便ならず。

【ホーシヨ】望城面。朝鮮全羅北道鎭山郡の北部。北境の東半は忠清南道鎭山郡江景邑・彰雲面に境し、西半は鎭江を隔て、扶餘郡世道面に對す。面積三二方軒餘。全北平野の北部にて、東部と中部に由發き低き臺地南北につづく外は西内側の高低平にて、江景川とその支流は東部・中部を北流し、西北境には松亭江ありて田畑よく拓げ、米の産多く、棉・麥等をも出し、畝の製糖行はる。鐵道鎭南本線の江景驛に近く、江景・鎭山間の道路中部を南東に走り交通便利なり。

【ホーシヨ】法性寺村。滋賀縣近江國飯田郡の西部。米原町の北に接し、西は琵琶湖に面す。地形極めて平坦にして、南境に滑ひ天野川西流して湖に注ぐ。農業を主とし主産物には米・眞蠶・食用蛙・筍等あり。縣道及び省線北陸本線通過し、後者の法性寺驛（昭和六年設置）あり。湖上舟運の便もた良し。奈良時代の頃、本村の地内に法性寺と稱する大寺ありて南都興福寺に屬せり。明治二十二年町村制實施の際、宇賀野・飯・世繼・長澤の四村は合して舊寺名に因み法性寺村といへりといふ。山内一豊の妻女は本村出身なりといふ。（明治天皇長澤御小休所）指定史蹟。大字長澤の福田寺にあり。明治天皇北陸東海御遊幸の際十一年十月十一日御小休あらせられし處。

【坂田宮・岡神社】大字宇賀野に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神。延喜式内社と傳ふる岡神社（祭神豐受思實命）と同殿に鎮りませ。垂仁帝の御宇、倭姫命の天照大神御座の地を求め巡り給ひし時、近江甲可の日雲宮に次いで岡坂田宮に二年留りましこと倭姫命世記に見ゆ。本社創立は、に始るといふ。江戸時代藩主井伊氏の崇敬あり、坂田一部の神社とせられ、一に坂田大神宮とも云へり。例祭、四月十六日。（福田寺（長澤御坊）大字長澤にあり。眞宗本願寺派。布施山。俗稱、長澤御坊。寺傳に白鳳十二年勅命により息長宿禰の祖これを開創し、

ホーシ—ホーセ

もといまの西黒田村園原の地にありしといふ。寛平六年宇多天皇、菅原道真を遣はして太政官符を賜ふ。爾後歴朝の尊崇厚し。延文年間現地に移す。延徳年間遷如此地に駐錫すること三年、自ら壽像を留む。元龜二年、第十一世學藝、本願寺十一世顯如の命を奉じ領主淺井氏に屬し織田氏に持統す。而して淺井長政の遺子第十二世を嗣ぎ正壽と號す。寶曆年間本願寺十七世法如の第五子本寺に入りてより連枝地となり長澤御坊と稱せらる。明治三十八年本願寺派別格別院となる。

ホーシヨージ 法成寺村

縣傳後國深安郡の西部。福山市を距る約八軒の西北山中に位し、東は下加茂村、他の三方は廣品郡に接す。面積三・六三平方軒。略々圓形の地形を有し概ね丘陵臺地に蔽はる。南部に隣村より流れる盧田川の沖積平野あり。附近に耕地多し。山地には鐵及び木炭・薪材等を産す。農業最も盛んにして米・麥・蕎麥の産出。倉庫福壽南線の驛家驛に約二軒、利用の便あり。もと東法成寺・西法成寺の二村に分れしが、明治二十二年に合併して法成寺村となす。下加茂村と組合村をなし下加茂村に役場を置く。

ホーシン 鳳津面

江東郡の北部。江東面の西北に隣り、東は成川郡通仙面と界す。昭和四年にも馬山面・區池面各一圓及び高泉面・古邑面の各一部を合併して新設せしものに係り、同年六月末の鎮夫數は五十六人、現在日本鐵業會社の經營に屬す。

ホーセツ 寶迫鐵山

島郡東天城村にある重要鐵山。鐵區約四八萬坪、鐵種は金銀銅なるが、昭和十年には銅鐵二、四四〇萬(價額五萬餘圓)を出し、同年六月末の鎮夫數は五十六人、現在日本鐵業會社の經營に屬す。

ホーセン 抱川郡

朝鮮京畿道の北部。東は加平郡、南と南西は楊州郡、北西は漣川郡に隣り、北東は江原道の鐵原・金化・春川三郡に界す。面積八二〇方軒。土地や、南北に長く四境山地ありて自ら一地域をなす。東境には白雲山(九〇四米)・國望山(一一六八米)・清溪山・雲岳山・錦金山等北より南に連り、西境には南部に天寶山、その北方に海龍山・鍾慈山等五百米臺の山峰あり、北部には鳴城山(九二三米)・觀音山(七三三米)・佛舞山・寶藏山等東西に並立す。またその

ホーセ—ホーソ

り、東西約一三軒、南北は七一〇軒あり。東部は四一五米の山地にて東北境に支明山(五二八米)、東南隅に雙峰山(五一三米)、他に黒岩峯等幾々、西方に急傾斜し、中部以西は百一二百米の丘陵處々に起伏す。大同江は支明山西麓にて湧流し、流域に平地はらく。米・小麥・大豆・粟・蜀黍・棉花・繭・大麻・栗等を産し、養蠶特に盛にして江東郡は有名なり。西北部を舍人場・蕭川間の道路通じバスの便あり、江東邑にも道路通じ、大同江には舟楫の便あり。

ホーシン 豐仁

北鮮東部嶺の一驛(昭和六年設置)。朝鮮咸鏡北道穆城郡美浦面にあり。

ホーヌ 保津

【保津村】京都府丹波國南桑田郡の東北部。山陰線嵯峨驛と龜岡驛との中間はメアングラをなす保津川の溪谷にして、鐵道は八箇のトンネルを以て此の地帯を通過す。この溪谷こそ保津川の地帯なり。凡そ龜岡の北方保津川以北愛宕山塊を其の區域とす。地形上、北方山地帯と南西部低地帯との二區に分たす。其の境界線をなすものは第三紀頃活動せる一大斷層線にして、山地の西斜面は一の斷層崖なり。北方山地は古生層より成り、保津川の溪谷を跨り、南方鳳山山地に連続す。保津の聚落は殆んど斷層崖下の臺地に一大集村をなして立地し、保津川沿岸の平

地には聚落を見る事少きも、本村が古來丹波より木材を京都に下す筏の集散地たる關係上河岸近くにも發展せしものなるべく、西垣内は其れなり。延喜式に記載せる丹波國瀨頭津は此地と言はれ、平安京當初より既に津渡業行はれしものならん。保津川の舟下りとは、普通龜岡の北方保津橋下より鳳山迄、約一二軒の間を高瀬舟にて下るものにして、普通二三十人乗一棹に舟夫前部二人、後部一人にて巧に棹にて棹舟、互巖の間を縫ひ急瀾を飛沫を擧げて乗切ものなり。其の下り所要時間約一時間十分にて鳳山大悲閣下に達す。此の保津峯開鑿が慶長の大土木家角倉了以の手に成りしは、よく世人の知る所。村内に瀧の鐵山二あり、何れも二萬餘坪の鐵區を有し、一は古くより採掘せられ、他は昭和十年より採掘せられしが、現在のところ何れも微々たり。

ホーセ 法聖面

朝鮮全羅南道靈光郡の北部。靈光面の北隣にて東北は全羅北道高敞郡孔音面に隣り。廣嶺山脈南西端部に當り、高々二百米内外の丘陵起伏するもその間所々に小低地ありて田畑拓け、米・麥・豆・棉花等の農産の外に繭・吹等の手工品を出し、北西端の法聖浦は西隣白崎面と北隣弘農面との間に位する海岸に位して漁港より並し定期の開市には商業榮ゆ。法聖浦より靈光へは二等道路、東北方高敞へは三等道路通じてバ

三三三

スの便あり、交通不便ならず。

【房總】安房、上総、下総の三國の稱。【房總半島】關東地方東南部の半島。東及び南は直接太平洋に面し、西は東京灣及び浦賀水道に臨む。北方のみ關東の關體部に續く。關體部との境界はほぼ千葉市一丁目を連ぬる線なり。行政上凡て千葉縣に屬し、上総及び安房二行を包含するため房總なる地名生ず。半島は一帶に低山性の地形をなし、地質構造上、西方の三浦半島と、もと陸続きなりしが、浦賀水道の陥没によりて分離し、半島となるものなり。本州島太平洋沿岸の三大半島の一にて、他に伊豆・紀伊兩半島と共に其の景観の所少ならず。

ホーセ 寶泉寺

【寶泉寺】省線總武線の一部。千葉縣にあり。總武本線の千葉驛より蘇我驛を過ぎ、房總半島を横斷して大網・茂原・上總一ノ宮・大原・勝浦・上總興津・安房小湊・安房天津等、太平洋岸の諸驛を経て安房鴨川驛に至る(九三・六軒)。この線と房總西線とを直通して房總半島循環運轉をなし、約六時間にして一周す。沿線各地は冬暖夏涼、避暑遊樂地として著はれ、また蔬菜類の促成栽培を以て知らる。(主要栽培線及び連絡線)【千葉】總武本線(蘇我)房總西線(大網)東金線(茂原)社線南總鐵道(大原)本原線(安房鴨川)房總西線。【房總西線】省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

ホーロー 房總

二〇軒なり。昭和九年舊豐南面に舊豐西面の大部分を合併して建てし面にて、面積九〇方軒を越す。瀋東江は中部の花山(約三〇〇米)の東南西の裾を環流して西に流れ、面を南北に分つ。南部は舊豐南面の地にて至る處三三四百米の山地をなし、たゞ西北部の江岸低地に耕地拓け、北部は舊豐西面の部分にて花山を除けば百米位の丘阜起伏するのみにて概ね平坦にして、田畑よく發達す。米・麥・豆・棉花等の農産あり。東北隣豐山に出づれば安東・醴泉街道にはバスの便あるも、面内の交通はなほ便ならず。

ホーセン 寶泉村

新田郡の中部。太田町の西南隣にて、西は木崎町、南は尾島町と隣す。全村平地にて、水田・畑地多く米・麥を主産し、養蠶も行はる。縣道は太田町・木崎町・尾島町に通じ社線東武鐵道伊勢崎線は南部を西走し、細谷驛に近し。大字田島は近世、岩松氏の新田館のありし所。新田系同によれば岩松時俊の末子、又太郎親國を田島と稱す、親國の住せし館か。大字平沼・岩松文書等に由良氏の名見ゆ。大字字屋屋は新田義貞の弟、義助が藤原次郎と稱し、住せしところ、子孫また藤原氏を稱せり。

三三三

ホーソ 本東津・大貫・保田・安房北條等の房総半島東海岸諸郡を経て太平洋岸に出で安房鴨川に至る(一九・四行)。この線と房総東線を直通して房総半島諸環路をなし約六時間にして一周す。沿線各地は避暑地として知らる。(主要接線(及び連絡線))(蘇我)房総東線(五井)社線小湊鐵道(本東津)久留里線(安房鴨川)房総東線

ホーソシヨマエ 放送所前 朝鮮總督府鐵道龍山線の一驛(昭和七年設置)。京城府西橋町にあり。

ホーソノ 祝園 京城府相模郡にありし村。昭和六年本村と狹田村・稻田村を廢し川西村を建つ。古くは和名抄、相模郡祝園郷(波布曾乃と訓ず)の地とす。

ホータ 芳田村 兵庫縣播磨國加西郡の東北隅。北條町の東北約五・五軒に位し、北と東は多可郡に、東南は加東郡に接す。東北部は稍々北方へ突出す。西境より南境にかけては約一五〇米の丘陵連り東北部一帯も丘陵によりて囲まれ、北方より流れ来る加古川支流は中央を貫きて東南流し沿岸に平野開け、東北部にも中央に南方へ通ずる僅少な低地ありて沿岸平野と連絡す。米・麥類・食用農産・蔬菜・花卉・繭・果實及び鶏卵・木製品・蠶製品・竹製品・桑・羽物・林産・沿岸漁獲物等の産物あり。西部には南北に縣道通じ、社線播磨丹波中村驛(東北約六軒)へバスの便あり。本村の地は風土記、

ありし村。昭和十二年船橋市に編入さる。ホーデン 寶殿 省線山陽本線の一驛(明治三十三年設置)。兵庫縣印南郡末田町にあり。

ホーデー 鳳東 朝鮮平安南道价川郡の東南部。昭和十年三月、もと順川郡鳳鳴面一圓及びもと价川郡外東面の大部分を合併新設せし面にて、南は順川郡、東は徳川郡に接し、東西一五軒に近く、南北は西部にて約八軒、東部に約一八軒あり。城内山岳連なり、東北部に葛仁峰(一〇八八米)、北部に五峰山・姑射山(一〇二二米)等並え、東南部にも八一九百米の山嶺連る。中部を大同江東より西へ貫き姑射山の東南に盆地あり、これと同山の西南麓とに平地ひろげ、農耕行はる。米・粟・大豆・棉花・繭等を産す。江岸に沿ひ道路通ずるも交通不便なり。

【鳳東】 朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(大正十二年設置)にして、新聞紙の到着に限り著驛す。朝鮮京義道開豊郡道風面にあり。

【鳳東面】 朝鮮全羅北道完州郡の北西部。全州府の北方約一二軒に位し、これと草浦面を隔て、西は益山郡王宮面と界す。面積四六方軒餘。全北平野の北東部に當り、北東境上に孤山(三七〇米)の孤立し土地南西に緩く傾くも、一般に低平にして特に南東部は平坦なり。萬頃江の上流高山川とその支流、を南西に流

れ瀧瀧の利多し。面内は田畑よく拓け、米を主として、外に麥・大豆・棉等の農産あり。理里・參禮里より大田方面への道路は南部を横ぎり、またこれより全州への道路分岐し交通不便ならず。

ホーデク 豐徳面 朝鮮平安南道徳川郡の東北端。徳川面の東北に接し、東は寧邊郡太極面・寧邊面と、北は平安北道寧邊郡百強面と界す。東西約一五軒南北約一〇軒。北部は妙香山脈に属する山地にして、東北部に寺項山(九九一米)並え、山脈南走して享谷山(六四六米)を起し、西北境にも九六七米の山あり南に延びて豐徳山(七二八米)を聳立せしむ。大體に於て南方に低地するも、南境にも三三四米の山連り三峰(四九五米)・鐘馬山(四九四米)・徳州嶺(三四二米)・直隴嶺(三二八米)等あり。北部山地に三條の川發して、南境近く曲流する大同江に入り、沿岸に狭長なる平地ひろく、米・大豆・大豆・小豆その他の雜穀、及び大麻・煙草等を出し、蔬菜は白菜多く良質を以て知らる。南部に新安州・咸興面一等道路通じ徳川・寧邊等にバスの便あるも、中部以北は交通不便なり。

ホーナイ 保内村 新潟縣越後國岩船郡の西南部。荒川の左岸。岩船町の東北約七軒にあり、南は北蒲原郡に界す。東南半は五七〇米の丘陵中央へ傾斜し、西北半は荒川の沖積平野に屬し、數條の分道により瀧瀧の便よし。水田・百貫石及び南部の川尻町へは社線熊本電氣鐵道線あり、また熊本市内の豊肥本線春竹驛より東南方には社線熊延鐵道が延び、鹿見島本線の上熊本驛よりは東北方へ向ふ社線菊池電氣鐵道あり、熊本市を中心にして交通の便よく各道路はバスの往來繁し。明治十三年五月徳田・託摩二郡の中より熊本區獨立し、同二十九年四月に至り前記の二郡相合して飽託郡と稱す。

ホーデツ 坊ノ津 西南方面 高森線の驛。九州中部を横斷す。豊肥本線(一四八・〇軒)は鹿見島本線熊本驛を發して東に向ひ立野驛より阿蘇山の北

託賀郡に見ゆる法太里の内にして、和名抄に多可郡に豊田郷とあるは本村の地なるべし。

ホータク 飽託郡 熊本縣肥後國の西部北端。熊本縣十二郡の一。隸川河口右岸に位し白川流域及び金峯山嶽を含み、中部より南部にかけて熊本市を挟む。西北部は金峯山嶽が聳り、南境に熊ノ嶺(二ノ岳、六八五米)並え、其南に金峯山(六六六米)が秀麗なる山容を呈す。東部は阿蘇火山麓の盆地、其他は概し平坦にて熊本平野の一部をなす。東方より来る白川は熊本市を貫きて中央を西々南流し河口近く坪井川を入れ島原海灣に入る。東南方より来る隸川は西南境に沿ひて略西流し同じく島原海灣に注ぐ。海岸は砂濱にして遠くまで淺灘をなす。耕地よく發達して米をなほじめ農産物多し。郡内は小島町・高橋町・川尻町の三町外三十二箇村を含み、一方村人口密度四一三人、最も多き村に於ては一〇九人を算す。鹿見島街道は熊本市を貫きて中央を南北に縱斷し、熊本市を中心として之より東北方菊池郡隈府町方面へ至るもの、東南方同郡大津町方面へ向ふもの、東方の上益城郡木山町へ走るもの及び同郡御船町方面へ走るもの等ありて本郡を貫く。省線鹿見島本線は熊本市を通過して郡の中央を南北に走り、熊本驛よりは省線豊肥本線が分れて東方に走り、同驛より西岸の

能登半島の頭部に位置し標高六三・七米、半島第一の高峯にて海岸より急に六百餘米を抜くために風に顛げられ、山頂の寶達御前には四周に土垣を繞らし、うち手連比咩神社を祀る。山中に葛及び藥草を産す。東側三二〇米の地點に標見瀧ありY字型に二條の瀧懸り、合して子浦川となり、末は羽咋町の西に於て海に注ぐ。石川縣側の登山口に省線七尾線寶達驛に下車して東方約四軒の笠町寶達より登るを便とす。寶達驛の東方二軒までは驛より人車鐵道が敷設され、この地域に於ける磐石・石灰岩の輸出に供ふ。富山縣側よりの登山は省線北陸本線福岡驛にて下車し、瀧谷・澤川の諸部落を経て梨木峠に出で、鵜坂を経て登る。山上の展望絶佳なり。

【寶達】 省線七尾線の一驛(明治三十一年設置)。石川縣羽咋郡北莊村にあり。

ホータン 峰潭面 朝鮮京義道水原郡のほぼ中央。水原色の西南約八軒、南北約一軒あるも、東西は北部にて約五軒、南部にてその半ばあるに過ぎず。西境に建達山(三三七米)あり山脈南北に延び、東南境には樓風山並え、山脈北方に延ぶ。北半は比較的低下にして、ここを瀧流して女帝灣に入る川の流域に耕地ひろげ、また建達山東麓に發する川は南流して汾陽灣に注ぐ。米・麥・豆類・蔬菜等を主産す。中部を南北に水原・發安場間の道路走り、北境を社線京義鐵道水仁線がすめて、交通や便なり。

ホーチュー 坊中 省線豊肥本線の一驛(大正七年設置)。熊本縣阿蘇郡黒川村にあり。阿蘇登山バスの起點なり。

ホーデン 法田面 朝鮮慶尙北道奉化郡の略中央部。西は郡邑乃城面との間に鳳城面を隔て、北は春陽面に隣る。土地や、東西に廣く面積約八〇方軒。王頭山(一〇四四米)の東南嶺東境を南方に延び東南隅に梅洞山(五〇八米)を起し、西境に加高嶺の南端のびて五百米の臺の高地をなし、中部にも四一五米の山地ありて面を東西の二區に分つ。北隣春陽面より来る洛東江の上支は東部の谷を南に貫き、それに合する支流は西部の低地を東南流し、共に南隣朔陽面に出づ。以上二川に沿ふ地には耕地拓けて、米・麥・豆・棉等を産す。乃城・春陽・蔚珍間の二等道路東西に走りバスの便あり。

ホーデン 法典 千葉縣東葛飾郡に

百貫石及び南部の川尻町へは社線熊本電氣鐵道線あり、また熊本市内の豊肥本線春竹驛より東南方には社線熊延鐵道が延び、鹿見島本線の上熊本驛よりは東北方へ向ふ社線菊池電氣鐵道あり、熊本市を中心にして交通の便よく各道路はバスの往來繁し。明治十三年五月徳田・託摩二郡の中より熊本區獨立し、同二十九年四月に至り前記の二郡相合して飽託郡と稱す。

【寶達山】 石川・富山兩縣界に聳ゆる山。能登半島の頭部に位置し標高六三・七米、半島第一の高峯にて海岸より急に六百餘米を抜くために風に顛げられ、山頂の寶達御前には四周に土垣を繞らし、うち手連比咩神社を祀る。山中に葛及び藥草を産す。東側三二〇米の地點に標見瀧ありY字型に二條の瀧懸り、合して子浦川となり、末は羽咋町の西に於て海に注ぐ。石川縣側の登山口に省線七尾線寶達驛に下車して東方約四軒の笠町寶達より登るを便とす。寶達驛の東方二軒までは驛より人車鐵道が敷設され、この地域に於ける磐石・石灰岩の輸出に供ふ。富山縣側よりの登山は省線北陸本線福岡驛にて下車し、瀧谷・澤川の諸部落を経て梨木峠に出で、鵜坂を経て登る。山上の展望絶佳なり。

【寶達】 省線七尾線の一驛(明治三十一年設置)。石川縣羽咋郡北莊村にあり。

ホータン 峰潭面 朝鮮京義道水原郡のほぼ中央。水原色の西南約八軒、南北約一軒あるも、東西は北部にて約五軒、南部にてその半ばあるに過ぎず。西境に建達山(三三七米)あり山脈南北に延び、東南境には樓風山並え、山脈北方に延ぶ。北半は比較的低下にして、ここを瀧流して女帝灣に入る川の流域に耕地ひろげ、また建達山東麓に發する川は南流して汾陽灣に注ぐ。米・麥・豆類・蔬菜等を主産す。中部を南北に水原・發安場間の道路走り、北境を社線京義鐵道水仁線がすめて、交通や便なり。

ホーチュー 坊ノ津 西南方面 高森線の驛。九州中部を横斷す。豊肥本線(一四八・〇軒)は鹿見島本線熊本驛を發して東に向ひ立野驛より阿蘇山の北

那大分驛に至る。高森線(一七・七軒)は立野驛より分岐し白川に沿うて阿蘇山の南部火口原を走り高森驛に至る。

【豊肥本線】 豊肥線

ホーヒョ 蓬坪面 朝鮮江原道平昌郡の西北部。郡邑平昌の北方約二〇軒。東西約一三軒、南北約二〇軒、面積約二二四方軒。城内一帯に山地にして北部は最も高く、興亭山(二七七米)あり、西境に泰岐山(二二六米)、南境には大美山(二二二米)等ゆるも、中部は稍々低し。平昌江北部山地に發源し東南流し沿岸や平地ひろく、粟・玉蜀黍・米・麥・大豆等を産し、養蠶・牧牛・養蜂等も行はる。中部に横城・珍富間道路通ずるも交通便ならず。主邑蒼洞里は中部東部の小盆地中に位し、定期に開く市場あり。

ホーフ 防府市 山口縣六市の一。縣の南部に位し、鐵路下關より二時間、廣島へ二時間半の距離にあり。東境に大平山(六三二米)、北境に矢筈岳(四六〇米)並え、また西方遙かに右田岳・渡邊寺山等の秀嶺を望み、南は瀬戸内海に面す。これ等山地は東部の一小部分に限られ、他は即ち縣下第一の廣表を有する防府平野の大部分を占め、地勢平坦にして土地頗る開闢なり。中國山脈に源を發する佐波川は西北境を劃して瀧流す。昭

和十二年現在の人口は五四、四一五、而積六四・四八方軒、一方軒の人口密度は八四四人弱にして、都市としてはその密度未だ小なるも、これを同地域に於ける昭和十年度の四〇、四五六人に比すれば一三、九五九人の膨脹にして相當なる發展といふを得べし。氣候は最高は平均八月三二・二度、最低は平均十二月一・二度、年平均一七・一度にして概して温暖なり。産業中その首位を占むるものは工業なり。地形上頗る有利なる位置を占むるを以て近年工業都市として愈々膨脹を見せつゝあり。殊に人造絹織の産出頗る多く昭和十二年度（以下何れも同年度の産額を以てす）の産額約九百萬圓、それに亞ぐば人造絹織にて約二百萬圓あり。糖酎（約二百萬圓）・檢温器（約八十萬圓）・清酒（約六〇萬圓）・護謄製品（約三十萬圓）・醬油（約二十萬圓）・菓子類（約二〇萬圓）等多種類に亘る。農業は廣大なる平野を有するを以て頗る發達し、農作者戸數三、二五六にて全戸數の三割強を占む。農業中、米産は最も多くして約五萬四千石、價格約百七十萬圓とし、甘藷（約三萬圓）・生大根（約三萬圓）・馬鈴薯（約二萬圓）・胡瓜・里芋・玉葱・漬菜等何れも相當量の産あり。また氣候溫暖なるを以て果樹の栽培も行はるゝも蜜柑の約三萬圓を除きては餘り見るべきものなし。養蠶は飼育戸數九十戸、且つ何れも副業的に行はれその産額は甚だ微々たるもの

なり。畜産は牛・馬・豚何れも飼養せらるゝも何れも生産額尠くなく、僅に豚の年生産三八三頭を見るのみ。養鶏は近年概に盛となり、飼養戸數百戸、羽數三萬羽にして年生産額二萬六千圓とす。海岸線長く且つ良港灣を擁するを以て漁業盛んに行はれ、漁獲・製造・養殖等の業主總數六三二、被獲者總數は五六〇あり。沿岸漁獲物は頗る多種多様に亘るも、海老約八萬圓・トリカビ（約七萬圓）・鯛（約三萬八千圓）・章魚（約一萬五千圓）・烏賊（約一萬圓）等をその最たるものとし、遠洋漁獲物としては比目魚（約九萬圓）・鰯（約七萬圓）・鰯（約一萬六千圓）・鱈（約一萬三千圓）等あり。水産製造は盛んにして蒲鉾は三十萬圓を超え、鰯・海老の煮乾も相當量出つゝあり。附近は鹽田も多く三田尻鹽の産地として知らる。交通は山陽本線中部を東西に走り三田尻驛（明治三十一年設置）を置き、當驛より社叢防石鐵道を分岐し、城内に周防宮市・船本・人丸の三驛・船本驛は大正九年設置、他は大正八年設置を置き、また三田尻驛にて省營自動車防長線と接続す。國道山陽街道は東方より山陽本線と平行し來り、市の中央より北折し佐波川を渡り城外に出づ。本市一帯の地は往昔景行天皇の御代既に周防安藝の稱あり。大化二年周防の國府を此地に定めしを以て後世防府または府中と呼べり。室町時代毛利氏の所領たりしことあるも、弘治三年毛利氏の領

有する所となり、爾來廢藩に至るまで累代毛利氏の所領たりしなり。明治元年百較の制度廢藩置縣せられ、同四年廢藩置縣となり、その後郡縣町村編制法施行の際、牟禮村・江泊村・佐波村・三田尻村・田島村・濱方村・向島村・仁井合村・植松村・伊佐江村の十ヶ村に區分せり。明治二十二年町村制實施に際し、右十ヶ村を合併し牟禮村・佐波村・三田尻村・中關村・華城村の五ヶ村とし、越えて同三十五年佐波村・三田尻村を合併して防府町を置き、大正十五年に中關村を中關町と改稱す。防府町を中心とする是等隣接町村は藩治時代より其の管轄を同じくし、其の利害を等しくするを以て時運の推移に伴ひて合併の急務を感じ、昭和十一年防府町・中關町・牟禮村及び華城村の二町二ヶ村を廢し、其の地域を以て新たに防府市を設置せらる。市の大字三田尻の三田尻藩は市街より少しく東に離るるも古來山陽道の要津たり。大字宮市は長崎街道の宮市宿の地。幕末の勤王家、伊藤百合五郎（贈從五位）・福田理兵衛（贈從五位）は此地の人なり。

御嶽神社は桑山の東方中腹、塔尾にありしが、それと知らず、天明五年、英雲公が其地に納涼臺を建てし時、古墳に掘當て、種々の副葬品現はれ、貴人の舊家なりと判り鏡一面のみを残し、其他の古器は石匣を新造して納め山頂に埋め小祠を建てたり。明治三十五年十月に至り來目皇子の御嶽神社と決定し、宮内省の所管に屬すること、なれり。同山西麓には幕末勤王の女體野村望東尼の墓あり、東麓には維新志士の墓並に招魂場あり。山上の眺望は頗るよろしく、瓦費を投ぜし全山の公園施設工事は、全く山容を改むるに至り、一大遊園地と化せり。

〔藤間浦〕日本書紀及び豐後風土記を按ずるに、景行天皇十二年、熊襲御親征に際しその九月、龍舟を寄せ將士を糾合せられし地なり。熊襲平定の後、此所に祠を創め田心姫外七神を祀らる。祠は後の藏宮にて地に藤間と名づけ、祠を藤間宮と稱せしは、藤間因分しものなり。藏宮は明治四十年全國社寺整理の際、今の佐波神社に合併し、今はただ教條の老松と一基の記念碑とにその名残を留むるのみなり。藏宮宿址の西取町、御旅所と稱するは、延喜元年正月、菅公、大宰府配流の宣下を蒙り、その二月下旬舟を此所に擱ぎ、留滞數月、酒垂山上に「美なる哉山川云々」の一語を残し、五月の望、再び此所に舟を擱し、西下の途に就きし地と傳へらる。されば松崎神社の社寺祭

には神輿を奉じ此所に至る例となれり。今その大部分を鐵防府工場の敷地にとれる藤間圃作は、安永五年毛利重就の築造なるものなり。御旅所より更に西數町、福聚町高橋山あたりは、毛利氏が慶長年間水軍の根據地を三田尻に置きし以來、明治維新に至るまで、その船倉の所在地たりき。

〔佐波川堤の標〕三田尻驛の西北約二軒、防府市の西を流る、佐波川の新橋より標樹數百本流れに沿うて連る。陽春四月、櫻花は影を佐波の清流に映じ、花に酔ふ人々が兩側を遊る。

〔藤生松原〕三田尻驛の南方約一軒半、桑山の南麓にあり。數多の老松白砂の上に連り風光明媚、樹間に豊島・御島の兩神社あり。この地は三田尻驛内に於ける砂嘴の遺跡なりと云ふ。

〔向島たけの標〕指定天然記念物。三田尻驛の南方約四軒、向島にあり。向島は周防の南海岸より二四〇米の沖にある瀬戸内海の一島にて、東西四軒、南北二軒八、周囲一六軒三に達し、本島一圓が指定地なり。島内に最も多く棲息せる獸類は「たけの」の宿主と稱すべき「エミダガキ」なり。

〔周防國衙址〕指定史蹟。東佐波令字國衙の地に在り、一基の記念碑に往昔の面影を止む。抑々氏族制度を廢し、諸國家族の土地私有を禁じ、郡縣制度を立て、各國に國司を置きし大化改新の新制度も

鎌倉時代武家の世となりては、國司あるも名のみにて、王朝時代の如き勢力なかりき。獨り周防國は、東大寺再建に當り文治二年、その租賦を以て造營の資とせられ、東大寺大勸進修業坊重源上人、周防國御の職務を管掌し、爾來法胤相繼ぎて國務を執りて大内氏末葉の頃まで及び、更に東大寺支配の國領たる國衙土居八町の地は、時に盛衰變遷ありしが、その所領たる形式は永く残りて、江戸時代の末期までも、其の地域内に於ては、國衙の址も土居八町の區域も今猶ほ判然と之を知るに足る。

これを迎へ、翌年五月まで客過せし處とす。明治十八年明治天皇山陽道御巡幸の際、七月二十九日御靈臺を召され、同三十一日御小休所となりたる處にして舊規様を存す。

〔松崎神社〕大字宮市に鎮座。縣社。祭神、菅原道真・天穗日命・野見宿禰。延喜四年の創建にして、もと天満宮と稱す。舊記に、道真公筑紫遷の途次、この地に留滞し靈異あり、國司等これに感じて一祠を作りしが、のち公の四男景盛朝臣

〔松崎神社〕大字宮市に鎮座。縣社。祭神、菅原道真・天穗日命・野見宿禰。延喜四年の創建にして、もと天満宮と稱す。舊記に、道真公筑紫遷の途次、この地に留滞し靈異あり、國司等これに感じて一祠を作りしが、のち公の四男景盛朝臣

尾は筑前福岡の人、勤王の女傑にて、當時福岡藩に佐幕論起りし爲め姫島に流され、姫島にあること一年餘の後、高杉東行に救出され、馬關及び山口に滞在後、松崎天神へ祈願の爲こゝに來りしが、間もなく病を得て永眠し此地に葬りたり。行年六十二歳、後その功を追賞され正五位を贈らる。

〔陸天樓〕 維新前、尊王討幕の志士が密會し、謀議を凝せし記念家屋なり。もと宮市前小路南側の藤村旅館の中二階にして、上に六疊二室あり、下は清物部屋・薪炭部屋に充て、二階の窓が小格子作りにて一見倉庫の如く、二階の段梯子は押入の中に在る爲、朝夕出入の數多き旅客の注意を免れ、志士の密議所として風竟の場所たりしならん。座敷の床柱には烈士の劍舞のあと鮮かに刀痕を留め、坂本龍馬・高杉晋作などの筆蹟も殘され、人をしてそゞろに當年志士の面影を憶はしむるに足る。春風第一樓は五重塔の建築を中止せしものにして、助長先賢の寫眞數多掲げられ、その略歴を記す。

〔大觀樓〕 毛利家三田尻別邸は昔の大觀樓にて、毛利重就(美雲院公)がその隱居所として營築せしものにして通稱お茶屋と云はる。維新前、敬親・元徳が、屢々藩内外の志士と國事を謀議し、また文久三年、三條實美以下の七卿が西軍に當り暫く滞留せし所なり。明治十八年明治天皇本無行幸の御、御立寄遊されし光榮を

追ひ、間屋口に於ける御上陸御乗船の地、毛利家多々良本邸内の標別邸と共に聖蹟地として保存を指定せらる。招賢閣は今のお茶屋の後、即ち三田尻病院の直ぐ南隣に建てられありしものにて、文久三年長藩が攘夷を實行するや、平野國臣その他諸藩の志士の來り投ずるもの多く、悉くこゝに宿泊せしめしものにて、宛然攘夷討幕策謀の中心地の觀ありし故、招賢閣と名づく。

ホーフ 豊府 大分縣大分郡にありし村。明治四十年本村外二町二村を合し大分町を置き、大分町は同年市制を布く。ホーフクジ 保福寺峠越 青木村(長野縣) 鳳北山 朝鮮黃海道延白郡のほげ中央。西は鳳西面に、南は郡廳所在地延安面に接す。東西平均六、八、南北九、一二、南境に飛鳳山(二八二米)雙えて延安邑との境を劃し、東境には龍角山(三六五米)あり山麓南境に沿うて南北に走り南部に乾支山(二三八米)雙つ。北西部・北部は二百米の丘陵起伏すれど、中部以南に低地拓け、特に乾支山を中心として東と西に豊沃なる水田横はる。黄海水利組合の水路は乾支山に延長一・五軒の隧道を穿ちて東西に走り、以て灌漑に便す。米・大豆・棉花等を主産し、豚・鶏の飼育また盛なり。また北部には白鳳嶺山の嶺區の一部ありて金・銀を出す。延安・灌漑里間及び延安・

平山間道路はば並行して南北に通じ、交通不便ならず。而も内低地に鶴の渡來するもの多く、延安の渡來地として天然記念物に指定せらる。ホーマン 寶滿山 龍門山 法美 因幡國(鳥取縣)の古郡名。日本後紀嘉祥元年に郡名初めて見ゆ。和名抄は波不美と註し大草・津井・稻羽・郡部の四郷を管す。拾芥抄には法味に作る。のち岩井郡との間に郡境多少異同あり。明治二十二年鳥取市獨立し、二十九年四月に岩井・邑美二郡と共に岩美郡を建て郡名を失ふ。〔法美〕 鳥取縣岩美郡にありし村。明治四十年本村及び龍門村・國府村を廢し、宇部野村を建つ。ホーミー 鳳鳴 朝鮮黃海道山谷郡の西北部。邑山谷山の北約一五軒、北西は平安南道成川郡崇仁面と界す。西北・東南に長く約二五軒、幅は平均八軒あり。西北部道界に勿禁山(一一〇米)・西百年山(一一七米)雙え、東境には鳳鳴(一一七九米)・相山(一二四〇米)等連り、城内にも山岳重疊して平地極めて乏しく、これ等山地に發する諸溪水は南流して南江に入る。住民は畑作農業に従ひ穀類・大麻等を作り、其他に木炭等を出す。漢に沿うて道路通ずるも交通不便なり。〔鳳鳴金山〕 朝鮮慶尙北道星州郡伽泉面

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峡谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勝少からず。ホーライ 蓬萊 金華山(宣城縣)の別名。〔蓬萊山〕 比良山脈の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡木戸・葛川の二村境上に峙つ。標高一〇三米。南麓に打見山(一一七四米)・櫻現山(九九五米)等連り北麓に武奈ヶ岳(一一二四米)續く。東方に琵琶湖を俯瞰し、西麓は北流する安曇川に流はる。世に云ふ比良の暮雪とはこの山を中心とする風光を指し、また比良の山を中心とする山と解する人多し。この山四月下旬まで山頂より南東にかけ雪田を見、暮雪岳の別名を有す。登山は江若鐵道比良口驛にて下車し行はる。〔蓬萊面〕 朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南八軒餘。東西、南北とも各六軒餘あり。一〇〇米臺の丘陵地その大部分を占め、北境を南大川、南境をその支流魚川いづれも西方に流れ、流域には長なる平地間々あり。米・小麦・豆類・粟・棉花等の農産ある外、北部の南大川小支沿岸より砂金を出す。北境近く社線側鐵道沿線に水橋驛(昭和四年設置)あり、中部を信用・松本間道路東西に貫き、その便あり。主邑水橋里は南大川左岸に臨み、松本温泉を近く控へ、金融組合・市場等あり、市況活潑なり。

西隣比安面に出て清東江支流の清川に合す。これら南大・大坪・安坪三川の川筋には律長の低地ありて番(田)地拓け、農業行はれて米・大豆・大麻・棉花・苧草等の産あり。大坪・安東間の二等道路は軍威面より來り桃李院橋によりて南大川を渡りその右岸に沿ひて東北に走りバスを往來ありて交通不便ならず。ホーヨー 豊陽面 朝鮮全羅南道高興郡の略中央部。高興半島南西の支半島の頭部に位し、北東は郡邑高興面に隣り、西は地峽によりて道陽面に繋り、南は居金島との間の海に、北は得根嶺の支嶺に面す。面積四三方軒餘。東境に天燈山(五五五米)の山地ありその山腹中部に延び丘陵となるも、その間と海岸沿ひに所々小低地ありて農業行はれ、米・大豆・棉花等を産し、沿岸は干潟地多く海苔・鮑等の漁利あり。高興より道陽面への道路は北部を西方に、豊南里への道路は南方に通じ、また豊南里は沿海航路の寄港地をなし交通不便ならず。ホーヨー 毛陽山 毛無山とも云ふ。小樽市の南東嶺にして、東面は後志支庁朝里村に屬す。標高五四八米。西麓に小樽中學校あり。この附近は近時スキー場として名高く、山麓部には好スロップ・ジャンプ臺あり。照明に依り夜間スキーも可能なり。登山はスキーに依るを最道とし、小樽中學校より三軒八にて達頂す。

ホーヨー——ホーラ

にある金銀山。昭和十年には金一七、九二七五、銀一四、五四八五、金銀價二九七錢(この總價約八萬圓)を出し、同年六月末の従業員は一二七人なり。ホーメートー 鳳鳴島會 關東州警備店民政署管區の西北部。關東灣の東北岸に近き鳳鳴島・西中島・交流島・踏島・平島等を含み、東と北は瀟湘國奉天省復縣の南西岸と相對す。主島鳳鳴島は東南部に位し東西・南北各八軒内外、中部を略々東北より西南に延びし山地あり、中央部の大頂山は海拔約二五〇米を有し、東・西南斜面に平地あり。西中島はその西北に横はりて東北より西南に延び、長さ約一四軒、中二四軒、南・中・北部に高さ一五〇米内外の山地あり、その中間と東岸に平坦部あり。平地には農業行はれて高粱・大豆・落花生等を産し西中島の東岸、交流島の北半等には鹽田ありて製鹽行はる。

ホーヤ 保谷村 東京府武藏國北多摩郡の東北部。東京市の西隣にて、西は田無町、南は武藏野町と隣し、北は埼玉縣北足立郡と隣す。武藏野臺地の一部を占め、全村地多く、米・大豆・根菜・里芋・甘藷・馬鈴薯・西瓜・胡瓜等を産し養蠶も行はる。府道よく發達し、殊に青梅街道は東京市より來り田無町を経て西走す、社線西武鐵道は南部を西走して東伏見・西武御洋の二驛(何れも昭和二年設置)を置き、また社線武藏野鐵道は北

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峡谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勝少からず。ホーライ 蓬萊 金華山(宣城縣)の別名。〔蓬萊山〕 比良山脈の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡木戸・葛川の二村境上に峙つ。標高一〇三米。南麓に打見山(一一七四米)・櫻現山(九九五米)等連り北麓に武奈ヶ岳(一一二四米)續く。東方に琵琶湖を俯瞰し、西麓は北流する安曇川に流はる。世に云ふ比良の暮雪とはこの山を中心とする風光を指し、また比良の山を中心とする山と解する人多し。この山四月下旬まで山頂より南東にかけ雪田を見、暮雪岳の別名を有す。登山は江若鐵道比良口驛にて下車し行はる。〔蓬萊面〕 朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南八軒餘。東西、南北とも各六軒餘あり。一〇〇米臺の丘陵地その大部分を占め、北境を南大川、南境をその支流魚川いづれも西方に流れ、流域には長なる平地間々あり。米・小麦・豆類・粟・棉花等の農産ある外、北部の南大川小支沿岸より砂金を出す。北境近く社線側鐵道沿線に水橋驛(昭和四年設置)あり、中部を信用・松本間道路東西に貫き、その便あり。主邑水橋里は南大川左岸に臨み、松本温泉を近く控へ、金融組合・市場等あり、市況活潑なり。

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峡谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勝少からず。ホーライ 蓬萊 金華山(宣城縣)の別名。〔蓬萊山〕 比良山脈の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡木戸・葛川の二村境上に峙つ。標高一〇三米。南麓に打見山(一一七四米)・櫻現山(九九五米)等連り北麓に武奈ヶ岳(一一二四米)續く。東方に琵琶湖を俯瞰し、西麓は北流する安曇川に流はる。世に云ふ比良の暮雪とはこの山を中心とする風光を指し、また比良の山を中心とする山と解する人多し。この山四月下旬まで山頂より南東にかけ雪田を見、暮雪岳の別名を有す。登山は江若鐵道比良口驛にて下車し行はる。〔蓬萊面〕 朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南八軒餘。東西、南北とも各六軒餘あり。一〇〇米臺の丘陵地その大部分を占め、北境を南大川、南境をその支流魚川いづれも西方に流れ、流域には長なる平地間々あり。米・小麦・豆類・粟・棉花等の農産ある外、北部の南大川小支沿岸より砂金を出す。北境近く社線側鐵道沿線に水橋驛(昭和四年設置)あり、中部を信用・松本間道路東西に貫き、その便あり。主邑水橋里は南大川左岸に臨み、松本温泉を近く控へ、金融組合・市場等あり、市況活潑なり。

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峡谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勝少からず。ホーライ 蓬萊 金華山(宣城縣)の別名。〔蓬萊山〕 比良山脈の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡木戸・葛川の二村境上に峙つ。標高一〇三米。南麓に打見山(一一七四米)・櫻現山(九九五米)等連り北麓に武奈ヶ岳(一一二四米)續く。東方に琵琶湖を俯瞰し、西麓は北流する安曇川に流はる。世に云ふ比良の暮雪とはこの山を中心とする風光を指し、また比良の山を中心とする山と解する人多し。この山四月下旬まで山頂より南東にかけ雪田を見、暮雪岳の別名を有す。登山は江若鐵道比良口驛にて下車し行はる。〔蓬萊面〕 朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南八軒餘。東西、南北とも各六軒餘あり。一〇〇米臺の丘陵地その大部分を占め、北境を南大川、南境をその支流魚川いづれも西方に流れ、流域には長なる平地間々あり。米・小麦・豆類・粟・棉花等の農産ある外、北部の南大川小支沿岸より砂金を出す。北境近く社線側鐵道沿線に水橋驛(昭和四年設置)あり、中部を信用・松本間道路東西に貫き、その便あり。主邑水橋里は南大川左岸に臨み、松本温泉を近く控へ、金融組合・市場等あり、市況活潑なり。

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峡谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勝少からず。ホーライ 蓬萊 金華山(宣城縣)の別名。〔蓬萊山〕 比良山脈の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡木戸・葛川の二村境上に峙つ。標高一〇三米。南麓に打見山(一一七四米)・櫻現山(九九五米)等連り北麓に武奈ヶ岳(一一二四米)續く。東方に琵琶湖を俯瞰し、西麓は北流する安曇川に流はる。世に云ふ比良の暮雪とはこの山を中心とする風光を指し、また比良の山を中心とする山と解する人多し。この山四月下旬まで山頂より南東にかけ雪田を見、暮雪岳の別名を有す。登山は江若鐵道比良口驛にて下車し行はる。〔蓬萊面〕 朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南八軒餘。東西、南北とも各六軒餘あり。一〇〇米臺の丘陵地その大部分を占め、北境を南大川、南境をその支流魚川いづれも西方に流れ、流域には長なる平地間々あり。米・小麦・豆類・粟・棉花等の農産ある外、北部の南大川小支沿岸より砂金を出す。北境近く社線側鐵道沿線に水橋驛(昭和四年設置)あり、中部を信用・松本間道路東西に貫き、その便あり。主邑水橋里は南大川左岸に臨み、松本温泉を近く控へ、金融組合・市場等あり、市況活潑なり。

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峡谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勝少からず。ホーライ 蓬萊 金華山(宣城縣)の別名。〔蓬萊山〕 比良山脈の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡木戸・葛川の二村境上に峙つ。標高一〇三米。南麓に打見山(一一七四米)・櫻現山(九九五米)等連り北麓に武奈ヶ岳(一一二四米)續く。東方に琵琶湖を俯瞰し、西麓は北流する安曇川に流はる。世に云ふ比良の暮雪とはこの山を中心とする風光を指し、また比良の山を中心とする山と解する人多し。この山四月下旬まで山頂より南東にかけ雪田を見、暮雪岳の別名を有す。登山は江若鐵道比良口驛にて下車し行はる。〔蓬萊面〕 朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南八軒餘。東西、南北とも各六軒餘あり。一〇〇米臺の丘陵地その大部分を占め、北境を南大川、南境をその支流魚川いづれも西方に流れ、流域には長なる平地間々あり。米・小麦・豆類・粟・棉花等の農産ある外、北部の南大川小支沿岸より砂金を出す。北境近く社線側鐵道沿線に水橋驛(昭和四年設置)あり、中部を信用・松本間道路東西に貫き、その便あり。主邑水橋里は南大川左岸に臨み、松本温泉を近く控へ、金融組合・市場等あり、市況活潑なり。

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峡谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勝少からず。ホーライ 蓬萊 金華山(宣城縣)の別名。〔蓬萊山〕 比良山脈の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡木戸・葛川の二村境上に峙つ。標高一〇三米。南麓に打見山(一一七四米)・櫻現山(九九五米)等連り北麓に武奈ヶ岳(一一二四米)續く。東方に琵琶湖を俯瞰し、西麓は北流する安曇川に流はる。世に云ふ比良の暮雪とはこの山を中心とする風光を指し、また比良の山を中心とする山と解する人多し。この山四月下旬まで山頂より南東にかけ雪田を見、暮雪岳の別名を有す。登山は江若鐵道比良口驛にて下車し行はる。〔蓬萊面〕 朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南八軒餘。東西、南北とも各六軒餘あり。一〇〇米臺の丘陵地その大部分を占め、北境を南大川、南境をその支流魚川いづれも西方に流れ、流域には長なる平地間々あり。米・小麦・豆類・粟・棉花等の農産ある外、北部の南大川小支沿岸より砂金を出す。北境近く社線側鐵道沿線に水橋驛(昭和四年設置)あり、中部を信用・松本間道路東西に貫き、その便あり。主邑水橋里は南大川左岸に臨み、松本温泉を近く控へ、金融組合・市場等あり、市況活潑なり。

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峡谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勝少からず。ホーライ 蓬萊 金華山(宣城縣)の別名。〔蓬萊山〕 比良山脈の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡木戸・葛川の二村境上に峙つ。標高一〇三米。南麓に打見山(一一七四米)・櫻現山(九九五米)等連り北麓に武奈ヶ岳(一一二四米)續く。東方に琵琶湖を俯瞰し、西麓は北流する安曇川に流はる。世に云ふ比良の暮雪とはこの山を中心とする風光を指し、また比良の山を中心とする山と解する人多し。この山四月下旬まで山頂より南東にかけ雪田を見、暮雪岳の別名を有す。登山は江若鐵道比良口驛にて下車し行はる。〔蓬萊面〕 朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南八軒餘。東西、南北とも各六軒餘あり。一〇〇米臺の丘陵地その大部分を占め、北境を南大川、南境をその支流魚川いづれも西方に流れ、流域には長なる平地間々あり。米・小麦・豆類・粟・棉花等の農産ある外、北部の南大川小支沿岸より砂金を出す。北境近く社線側鐵道沿線に水橋驛(昭和四年設置)あり、中部を信用・松本間道路東西に貫き、その便あり。主邑水橋里は南大川左岸に臨み、松本温泉を近く控へ、金融組合・市場等あり、市況活潑なり。

〔蓬萊面〕朝鮮全羅南道高興郡の南東部。北の内羅老島、南の外羅老島を主要部とし附近の小島嶼を含み面積四六方千餘。内外羅老島共に高さ二百米内外の山地あり、山脚海に迫りて脚角をなし海岸出入多く小舟人に寄むも海崖をなす處多し。沿岸所々に小低地あり墾務發達す。農・漁業行はれ、豆・粟・魚類等を出す。面の中部、内外羅老島の接近部の西面に支島・酒洋島の二小島南北に横はり、その間に新羅島の嶺地を擁し、春秋の漁季には漁船來集して繁昌す。また外羅老島の南部、外草里の湯根汝島には四白光(每五秒一閃光)・光達距離十八哩の燈臺の設けあり。

ホーライジ

鳳来寺村 愛知縣三河國南設楽郡の北部。豊橋市の北方三〇軒。北は海老町・北設楽郡三輪村に、南は長藤村・東郷村に、西は作手村に隣る。此地の山地は花崗岩・古生層・第三紀層等より成り、北部には龍頭山(七五二米)・龍山(七五八米)あり、中部には鳳来寺山(標高六六三米)・西部には彦坊山・御嶽山(六六三米)連る。北部よりは寒狭川の山地を切り巴川を合せ侵入曲流をなしつつ東南に流れ、南部にて海老川を合す。本地方は山間部なれば農耕地は少なく、林業に依存し、椎茸栽培・製炭・製材盛なり。交通路には海老川の谷には伊奈街道を通じ、街道は社線山口鐵道の鳳来寺・玖老勢・三河大石の三驛(共

昭和四年設置)あり。和名抄の設楽郡黒瀨郷は此地にして、大字玖老勢の地名今に残る。黒瀨の郷名は民部式等にもあり、また康正二年の造内程段錢國役引付に「九百五十五文彦部近江守殿三川設楽郡黒瀨郷」と見ゆ。大字豊瀨の中央小丘には豊瀨古城址あり、左右及び前面に巴川を繞らし後に山を負ふ。豊瀨宮内左衛門實時始めて此地に來り、久次に至る凡そ五代居住す。大字布里に菅沼新助の居城あり、玖老勢の豊平古城址には松平宮内左衛門住む。大字愛郷の島田古城址は菅沼定成が居城し、雨堤城には菅沼定繼の臣山川清兵衛居り。明治三十九年に本村と布里村・一色村・只持村・豊瀨村・愛郷村を廢し、新たに鳳来寺村を置く。〔鳳来寺山〕指定名勝・天然記念物。鳳来寺村にある名山。赤石山系が弓状に曲れる巒嶺部に設楽第三紀層の礫層を衝き往時の水底に露出し石葉粗面岩の塊狀火山なり。鳳来寺山は鳳来寺山(六八四米)・龍山(七五八米)・明神山(一〇一六米)等より成る鳳来寺火山群を形成す。鳳来寺山は山頂に近く、削壁を突き立て聳立する岩壁を露出し、多くは暗きまで茂れる原始林に被られ、岩壁には石耳蘭等の岩生植物群落あり。三河第一の靈場鳳来寺堂宇は岩壁を背にし幽邃なる森林の間に布置さる。寶島佛法僧の鳴鑿は毎年夏夏季間この林間に聞かるといふ。参道の門谷には、大寶年間より産すると

いふ鳳来石および鳳来石より作る鳳来寺の現の名産あり。山中にある壑谷には峯の山高き、峯の巔の壑谷に、深くも忍ばせ給ひける。源氏冷泉館・下「峯の巔の壑谷」として、人も通はぬ谷かげに「島田神社」大字愛郷に鎮座。郷社。祭神、日本武尊。創立年代詳かならず。國內神名帳に「從五位上島田天神」と見え、また一に白鳥大明神と稱せり。古來、舊島田村の産主神たり。例祭、九月十九日。(東照宮)大字門谷に鎮座。郷社。祭神、源家康。將軍徳川家綱、先代家光の遺志を繼ぎ、太田本多・小笠原等の諸氏に命じて創建に當らしめ、慶安四年に社殿落成す。爾來朱印額五百四十石を寄せられたり。本殿・幣殿・拜殿・神饌所・唐門・寶庫・社務所等を備へ、壯麗なり。社地は鳳来寺山の半腹に在り。例祭、四月十七日。〔鳳来寺(峯巒寺)〕大字門谷にあり。古義眞言宗。標高山。文武天皇の勅願により、大寶二年に修仙人の開創に係ると傳ふ。のち漸次衰微せしが、建久年中源頼朝堂宇を再興して封録を附し永く眞言國家の道場たらしむ。足利の亂亂により寺領を奪はれしも、明應年間富岡長盛・築手・田峯の各城主より三千餘石を寄せらる。豊臣氏の世に至りて五百石に減せられしが、徳川氏起るや、寺領八百五十石並に古來附屬の山林方三里を寄す。徳川家光亦大いに伽藍を整修し、新に東照廟を建

てて神領五百石を附し、併せて寺領千三百五十石となる。かくて徳川治世三百年間、幕府の優遇御ノ間御禮格にて寺威諸大本山の上になり、其繁榮比類なかりしも、明治維新の際上地の事あり、一山喪弊其極に達せり。往時は寺内に二十一坊ありしも今は僅かに二院を有するのみ。寺域三十七萬七千三百餘坪、巒山の半腹にあり海抜二千三百尺、老樹古杉其間を點綴し、眺望絶佳、山中或は湧水あり、或は幽邃暗き、地方稀有の靈山なり。〔鳳来寺山〕鳳来寺村

ホーラク

寶楽嶺山 愛知縣南設楽郡の社線豊川鐵道の終點長藤驛より北設楽郡三輪村川合の三河川合驛に至る。延長一七・二軒。〔鳳来寺山〕鳳来寺村

ホーリ

豊利 北鮮東部線の一驛(昭和七年設置)。朝鮮咸鏡北道穩城郡柔浦面にあり。

ホーリ

房裡溪 臺灣中部西邊の大河水安溪の一分流。名蓬山溪の稱あり。もとその海に注ぐ所に蓬山港を形成せしも、今は廢る。

ホーリ

實立村 石川縣能登國珠洲郡の中部。飯田町の西南約六軒。西は鳳至郡に境し、東は海に面す。西北境に實立山(四六九米)聳立し、其支脈西境を劃しつ、南走し諸處に二三百米の山を起す。夫等は何れも東に傾斜し、村

内の大部分は丘陵性山地をなす。鶴岡川は西境邊に發源して東流し、その河口邊に低地ありて耕地拓け、部落も概ねこゝに發達す。主産業は農にて米・蕎麥を主産す。街道は飯田町より來り海岸に沿ひて南走しバス通す。本村は明治四十一年、鶴岡・見付・黒峯の三村を合して置けるもの。和名抄・珠洲郡草見郷の内。村内の實立山の一峯鳳峰に要害地あり、三州志によれば、黒峯法立山は阿部列官義宗を城主とするも事蹟詳ならず。(加志波良比古神社)大字橋原に鎮座。郷社。祭神、加志波良比古神。式内の古社にして、崇神天皇の御宇、大神の當地に降臨し給ひける時に創まるといふ。例祭、陰曆三月二十四日。

ホーリ

法隆寺 奈良縣大和國生駒郡の南部。龍田町の北に接し、西北より東南にやや長し。西北部に松尾山(三一六米)等の山地あり東南方へ傾斜す。東南部は奈良盆地の一部を占め地形平坦にして、富雄川は東南隅をかすめて南流し約二軒南方にて大和川に合す。北部は森林地帯にして東南部に田畑拓け米を産し、また蕎麥・蕎麥の産もあり。東南部には修理整然たる道路東西南北に通じて交通の便よく、南方約一軒には宗廟關西本線法隆寺驛ありてバスの便あり。古くは本村及び宮郷村の邊を法隆里と汎稱せり。法隆寺あり、この地は佛法興隆の靈地とると同時に推古時

ホーリ

代美術の淵藪として著名なり。(法隆寺)大字法隆寺にあり。法相宗。具には法隆寺開創と稱し、又所在の地により伊弉諾大神・斑鳩寺等の名あり。南都七大寺の一にて現に法相宗三大本山の隨一。推古朝、先帝用明天皇の遺願を果さん爲天皇及び聖德太子の創建し給ふ所。創建は凡そ推古天皇十五年頃。當初は佛開創の名の示す如く佛敎講學の道場にて我國初期佛敎興隆の先驅をなせり。和銅年間三論宗第二傳知藏の本寺に住してより同宗盛となり、神泰入るに及び法隆寺三論宗を形成す。次第に堂宇整ひ、天平寶字八年百高塔の分置に本寺また其一に列し寺觀漸く莊嚴極めし。源平兩氏の戦亂を経て寺觀衰頹加はれり。天福元年頃より天正十三年・慶長九年・元祿七年と數度に亘り修理、明治に至り三度目の大修理を行ふ。古來、三論・法相兩宗を兼學せし。明治初年以後法相宗と定め同十五年その大本山となる。世に云ふ法隆寺再建非再建の問題は、天智天皇九年の大災に堂宇全焼、其後再建せしとする説と、金堂・塔婆・中門・歩廊の一部は創立當時のまゝとする説との論争にて未だ結論を見ず。本尊は藥師三尊像(聖德太子作)。壇城二萬八千四百九十七坪。一山東西兩院に分たれ、飛鳥・天平・藤原・鎌倉・室町の各時代に亘る建造物變を連れ、所藏の繪畫・彫刻・美術工藝また各時代の粹を集む。國寶は人口に膾炙するもののみにて

ホーリ

も數十點の多き上り、その主なるものを挙げれば、絹本唐色佛五尊同聖蓮花圖二曲屏風一雙・金銅彌勒如來坐像一軀・同藥師如來坐像一軀・金銅觀世音菩薩立像一軀・木造聖觀音立像一軀・藥師像・四天王像等あり。尙ほ國寶中、持國天・增長天の把持する劍は模造品にて、當初のものに帝室御物ナリ。(中宮寺)眞言宗泉涌寺派。聖德太子御建立七箇寺の一。俗稱、中宮尼寺・斑鳩(鳩)尼寺。その地、穴穂部間人太尾の宮地と傳ふ。西大寺觀尊の重興、のち尼寺となり、江戸時代、比丘尼御所の一として皇族・女院寺主となり斑鳩御所と稱す。如來輪觀音・天壽國曼荼羅その他は國寶。

ホーリ

枋寮庄 臺灣高雄州潮州郡の中部。東は直ちに高雄州舊地に接し、西は郡下の佳冬庄に、北は林邊溪を隔て、新埤庄に、南は臺灣海峡及び枋寮庄に接す。管内は概ね平地なるも東部庄境には高山連なり。主なる河川は林邊溪にて北部庄境を東より北西流し、管内の水利に便す。本庄下の重要産業は農業・水産業・畜産業等なるも、農業は最も盛にて住民の大部分は之を生業とし、生産額は諸産業の上位にあり。其の主なるものは米・甘蔗・芭蕉・甘藷・鳳梨・柑桔・蔬菜等にて、約百二十萬圓の生産額を有す。水産業は、枋寮庄に比すれば盛なるも、未だ幼稚の域を脱する能はず、また資金少なきを以て大規模に之を行ふを得ざる状態にあり。主なる魚獲物はゴウ・イシモチ・鱈魚・マガタフ・イトヨリ・サゴシ・イワシ等にして、年約二十五萬圓程度を捕獲す。畜産業は主として農家に於て副業的に營まると、其の屠畜も多し。庄下の重要財源をなす。商工業に於ては、特に見るべきものなし。教育に於ては、公學校一、分教場二を有する他、社會教育機關として青年團・少年團を有し、また國語講習所等は諸所に設けられて、時局下本島人の皇民運動化に適應す。本庄下には鐵道の便全くなきも、昔より高雄方面より臺灣南端の恒春地方への交通路に當れるを以て道路比較的設備整ひ、近年は自動車の便あるを以て管内貨客の運輸に不便を感じる事少し。また本郡の中心市街地たる潮州より手押鐵道の便あり。本庄の地に漢族の足達到りしは、明末鄭氏の時代であり、次で清の康熙頃より林邊溪上流に漢族の移住するに従ひ、其地に在りし平埔蕃族のアアカア(阿加)社、一名オソア(軟考)社が移動を企てし地域にて、往時は到る所森林繁茂せしが、開墾人は最初伐木の目的を以て進み、了りて開墾に着手せり。而して海岸地方先づ開墾、康熙末年には枋寮地方開拓の緒に就き、漸次北流尾・水底寮の拓成を

ホーリ

三三三

見、乾隆二十年代には枋寮に一肆街を形成し、爾來、新開、大筒營の地は漢族又は平埔蕃族の手により開かれたり。清領後この地方に漢東下里なる一行政區劃を建てしが、我が領臺後其の區劃は行政區劃として用ひられ、大正九年阿甲中の八庄(現大字)の地を割きて、枋寮庄を建つ。〔乃木將軍上陸記念碑〕 明治二十八年故乃木將軍(當時中將)が第三艦隊を統率し十月十一日拂曉、枋寮海岸香子嶺、大武力間の上陸せるを記念する爲、大正十二年枋寮庄の有志相謀り、離金して碑を建立せり。

ホーリン

〔鳳林郡〕 臺灣花蓮港廳三郡の一。廳の略中央部に位置す。東は白馬跳舞する太平洋に面し、西は花蓮郡下の蕃地に、北は同郡下の高庄に、東南は新港郡長濱庄、西南は玉里街に夫々接す。東部には臺東海岸山脈の峻峰南北に連亘す。西には中央山脈の秀峯南北に連亘す。郡の平地は此の兩山脈のなす縱谷平野にして、南北に狹長なり。主なる河川は花蓮溪及び秀姑巒溪にして、本郡一帯は其の上流地帯を占む。本郡の諸産業は、之を西海岸のそれに比する時は、著しく閑却せられ來りし製あり、従つて本郡管内産業中見るべきは農業・畜産業等にて、農業に於ては米・甘蔗・甘藷・薯蕷草等なり。畜産業は牛・豚の飼育にて、農耕地以外の廣大なる土地は放牧地として利用せらる。

商工業に於ては殆ど見るべきものなし。されど之等農産物に於ても郡下の需要を充たすに足らず、従つて郡下住民の必需品は概ね、臺灣西海岸、内地等より移入せざるべからず。また諸文化施設に於ても、西海岸に比し甚だしく遅る。教育機關には、小公學校、國語講習所等設けらる。交通に於ては、官線たる臺東線本郡の略中央を南北に貫き、管内に林田・鳳林・山崎・萬里橋の四驛を設けたるを以て、比較的便利なるも、管内各庄間の交通に於ては、必ずしも便利良好なりと稱すべからず。本郡管内は往昔より山蕃の跳梁に任せたる土地にて、其の開拓も西海岸に比し其しく遅れ、漢民族の同地方に點々と移住を見たるも今を距る遠からざる昔に屬す。我が領臺後、當局は東海岸の開拓に大に力を注ぎたりしも、何分にも當時は豐饒の地なりしを以て、其進歩發達は現在に於ても遅々たるの感あり。されど最近、廳當局は其の移民村たる林田村等に於て、農産指導に努力しつあるを以て、近き將來に於ては、本郡管内の開発は著しきものあるべし。昭和十二年十月、支廳の制を改めて郡制となし、其下に庄を設く事となり、現在本郡は鳳林・瑞穂・新社の三庄を管轄す。

〔鳳林郡〕 臺灣花蓮港廳鳳林郡の北部に位置し、東は新社庄、西は花蓮郡蕃地に接し、北は花蓮郡蕃庄に、南は瑞穂庄に夫々隣接す。地は謂ゆる縱谷平野の一部

を占め、チャカン・萬里橋・馬太鞍等の支流を持つ加能々溪ありて其の平野を潤す。本庄は鳳林郡下の中心地にて、諸産業に於ても最盛なる地なり。主なる産業は農業・牧畜等にして、農産の主なるものは、米・甘蔗・甘藷・薯蕷草等なり。大字林田には林田村と稱する内地人の移民村あり。大正三年、花蓮港廳當局が廳下農業開發のため内地各府縣より移民を募集して此地に移住せしめたるなり、爾來其の業績良好にして、諸耕作に従事す。主なる農産物は米・甘蔗等なり。商工業等に於ては特に見るべきものなし。文化施設に於ては、他庄に比すれば良好なるも、概して其の施設乏し。本庄は本郡下の中心地なるを以て、交通は他庄に比して便利良好、鐵道に於ても本庄下を官線臺東線の南北に縱貫するあり、また管内にも大小の道路比較的發展す。本庄の地は近年まで山蕃の住地にして、漢民族の足跡の同地方に及びしは今日より百年を廻り得ざるべし。隨つて其の沿革上、特に摘記すべき事少し。もと鳳林區と稱し、鳳林支廳管轄下たりき。

〔芳林面〕 朝鮮江原道平昌郡の南部。平昌面に北隣し、西は横城郡、西南に寧越郡と界す。昭和九年四月も大和面のうちなる芳林里・雲橋里・住村里を以て新設せしものに係る。東西約一八軒、南北は西部に於て八一二軒あるも東に至るに狹い狹まる。四面山を

以て繞らし、北境に大美山(一二三二米)、西南境に獅子山ありて對峙し、西境には酒峰(八九七米)・門峰(八二三米)・東境には南屏山(一一五〇米)あり。東部に平昌江東北・西南の流路をとり北西部山地に發する水を容るるも、沿岸平地の見るべきものなく、隘間及び山麓傾斜地に耕地や拓くるのみ。粟・大豆・玉蜀黍・煙草・繭・蜂蜜・藥草等を産し、また平昌金山ありて金・銀を出す。西方より門峰を越えて二等道路來り、東部にて平昌江岸に達し、次いで平昌・江陵間二等道路と合し、何れもパスの便あり。主邑芳林里は兩道路の交會點に位置す。

〔保安面〕 朝鮮全羅北道扶安郡の南部。扶安を距る南方約一五軒、南は高浦面と高浦港奥の泥海に接す。面積三五方軒餘。北西境には玉女峰・德聖峰・鷹峰等の二一四米臺の山峰あり、北境東部にも舟山(二二一三米)あるも、大部分は低平にして、特に中部より東南部と、西部南部沿海等には田畑よく拓け、また南西部には鹽田少からず。米・麥・大豆・綿・莞草・食鹽等の産あり。高浦・扶安間の道路中部を南北に通じてパスの往來ありて交通便なり。

ホイ

南設楽郡に、東は八名郡に、南は豊橋市・温美郡に隣り、温美海を抱く。北部山地は古生層より成り、南岸には花崗岩より成る部分僅に認めらる。南岸は豊川平野に屬し、豊川は東南境を劃し、自由地行をなして温美海に注ぐ。西南端は御前崎(瑞穂島)と呼ばれ、灣内には大島・小島・佛島・竹島等散在す。本郡の農業地帯は豊川平野にて米・麥・大豆・甘藷・生薑等を産し、水産業は温美海及び伊勢海に於て行はれ、鱈・鯛・鰻等の漁獲あり、三谷附近の織物・瓦・清酒・醬油・味噌・足袋等あり。交通は古くより要衝に當り、舊東海道は郡を東南より西北赤坂の狹隘を抜けて三河平野に出で、御油・赤坂の宿場が置かれ、姫街道は國府より分れ東に走る。鐵道は東海道本線が御街道に沿はず、海岸を御油・三河三谷・蒲郡を経て岡崎に至る。また社線名古屋電鐵の豊川線は舊東海道に沿うて豊橋に乗り、社線豊川鐵道は豊川の右岸を北上す。本郡は雄略天皇の朝、國造を置かれし國造にて延喜式その他には實低に作り、拾芥抄に至りて實飯となり、元來はホイにあらずホナリ。而して和名抄には穂と出で、形原・赤孫・美養・御津・宮地・望理・賀茂・度津・篠東・宮島・豊川・雀部・壽家の十三郷に分れ、現今は行政上、豊川・牛久保・蒲郡・國府・御油・三谷・赤坂・小坂井・形原の十町及び八村に分ち、元

郡役所は御油に置かれたり。〔徳井田村〕 岡山縣備中國吉備郡の南端、南は淡路郡に界し、高梁川下流右岸に近く、支流小田川に沿ふ。北は備前村・美妹村、西は小田郡に接す。面積一四・五平方軒。北境近くを小田川東流し、沿岸に平地を拓くも、後背地は山脈連り、西境に彌高山(三〇八米)聳ゆ。沿岸及び山間低地に米・麥・棉栽培せられ、村内一般に養蠶・醸造業行はる。省線山陽本線玉島驛(淡路郡長尾町)に約四軒。岡山市にバス通ず。古の穂北郷の地にて戦國の頃、穂井田氏あり、正末末年穂井田爲實、毛利氏に降服し、その子高實三村家親の爲に殺さる。是より毛利元就の三男元清、穂井田氏を引し備中國を鎮せり。

〔朝野島〕 朝鮮京畿道利川郡の中部。郡邑利川の南方約八軒。西南は龍川郡・安城郡と界す。東西凡そ八軒、南北五十六軒。南端に磨玉山(四四一米)聳え山腹北へ延び、西境にも三百米臺の山南北に連り西北端に大徳山あり。其他は低平にて東南部を楊花川、東部及び北部を福河川灌溉し、兩川は何れも北流して末は漢江に入る。米・大豆・小豆・棉花・莞草・藥草等を主産し、牛・豚の飼育及び養蠶も盛なり。利川・注川間のバス道路通じ、交通不便ならず。

〔保木野〕 埼玉縣児玉郡にありし村。明治二十五年に金屋村に合併して村名を失ふ。〔北〕 朝鮮咸鏡南道長津郡の北端。北は三水郡に接し、西北の一端に於て平安北道厚昌郡東興面と界す。東西一八一二三軒、南北三五一四〇軒に及ぶ廣大なる地帯を占む。全境蓋馬高原中に位し、北境に種塞峰(二一八五米)、南境には蓮花山(二二六五米)あり、其他一五〇〇米以上の山を以て四圍を繞らし、城内の海拔は最低七〇〇米、平均一〇〇〇米以上なり。鴨綠江の大支なる長津江は西南へ東に蛇曲して貫流し、東北端に於て赴戰江と合流し、沿岸處々に狹き平地ありて墾殖ひらく。燕麥・麻・木材を産する外、山羊・鐵山より金・銀・黒鉛を、蓮花里鐵山より金・銀を出す。江岸に沿うて二等道路走り西方は長津邑、東北方は鴨綠江岸へ通ずるも、交通便ならず。

ホイタ

〔朝野島〕 朝鮮京畿道利川郡の中部。郡邑利川の南方約八軒。西南は龍川郡・安城郡と界す。東西凡そ八軒、南北五十六軒。南端に磨玉山(四四一米)聳え山腹北へ延び、西境にも三百米臺の山南北に連り西北端に大徳山あり。其他は低平にて東南部を楊花川、東部及び北部を福河川灌溉し、兩川は何れも北流して末は漢江に入る。米・大豆・小豆・棉花・莞草・藥草等を主産し、牛・豚の飼育及び養蠶も盛なり。利川・注川間のバス道路通じ、交通不便ならず。

〔朝野島〕 朝鮮京畿道利川郡の中部。郡邑利川の南方約八軒。西南は龍川郡・安城郡と界す。東西凡そ八軒、南北五十六軒。南端に磨玉山(四四一米)聳え山腹北へ延び、西境にも三百米臺の山南北に連り西北端に大徳山あり。其他は低平にて東南部を楊花川、東部及び北部を福河川灌溉し、兩川は何れも北流して末は漢江に入る。米・大豆・小豆・棉花・莞草・藥草等を主産し、牛・豚の飼育及び養蠶も盛なり。利川・注川間のバス道路通じ、交通不便ならず。

〔朝野島〕 朝鮮京畿道利川郡の中部。郡邑利川の南方約八軒。西南は龍川郡・安城郡と界す。東西凡そ八軒、南北五十六軒。南端に磨玉山(四四一米)聳え山腹北へ延び、西境にも三百米臺の山南北に連り西北端に大徳山あり。其他は低平にて東南部を楊花川、東部及び北部を福河川灌溉し、兩川は何れも北流して末は漢江に入る。米・大豆・小豆・棉花・莞草・藥草等を主産し、牛・豚の飼育及び養蠶も盛なり。利川・注川間のバス道路通じ、交通不便ならず。

楚山郡と界す。東西・南北各二〇軒に餘り、西北端は長く延びて江界郡・楚山郡に挟まれ、面積三六八方軒あり。四面山に圍まれ、北境に大巖山(一五六六米)・武双峯・狗峯(八一五米)・頭山(一四二五二米)等連り、城内にも一千米に近き山峰聳立するも、漸次南方に低夷す。而して北部の飯塚を中心として東西に延ぶる連嶺を分水嶺とし、嶺北に野川江、嶺南に加羅江流れ、共に南流して清川江に入り、沿岸僅かに低地ありて耕地ひらく。産物は大豆・粟その他の穀類及び牛・馬等ある外、中部の明谷洞附近より金を出す。野川江に沿ひ鐵道滿浦線南北に通じ、南に明文、北に价古の二驛、共に昭和十年設置あり、野川山開闢の二等道路は之に並走するも、交通なほ便ならず。面内に長城の遺址あり、これ高麗徳宗の時、女眞族の東寇に備へて築きしものにして、義州より寧遠・永興を経て咸興高城橋に至り、長城の一部とす。

【北面】朝鮮平安南道价川郡の東北部。南は价川、朝鮮陽面、東は龍川郡下面に接し、北は平安北道寧遠郡と界す。東東北・西南に長く約二〇軒、幅は七一〇軒あり。東半部は妙香山脈中に入りて高峻にして西方に傾斜し、東南境には月峰山(一〇三三米)あり、山脈西に延びて南境を劃し、飛虎山(六二二米)を起す。西半部は低き丘陵地をなし、西北境を流る清川江岸にやや廣き平地拓く。米・粟・大豆・棉等の農産の外、自作金鑛等より金・銀を、龍潭炭鑛・鳳泉炭鑛より無煙炭を、价川第一鑛山等よりは黒鉛を出し、また价川鐵山の鑛區の一部にも當る。西部江岸に沿つて鐵道滿浦本線・安州・富山洞二等道路通じ、前者に院里・鳳泉・自作の三驛、共に昭和八年設置あり、後者にはバス通ず。院里は清川江に臨める主邑にして、鑛山墾務の中心をなし、市場あり。(价川鐵山)北面にある鑛山。産てより重要鑛山なりしが、昭和十年頃より更に活氣を呈し、同年には従来の蒸氣機關に依る索道を電動機に變更し、或は第三坑に電氣捲揚機を新設する等のことあり、十一年には葛峰・岩峰方面の鑛石を滿浦線院里驛に輸送するため索道を新設する等發展を見るべきものあり。論西鑛山會社の經營にて昭和十年には六六一、八二九號、價額約三五萬圓を出し、同年六月末の従業員は九三三とす。

【北面】朝鮮江原道揚口郡の西南部。揚口面の西北に隣り、西は華川郡と界す。西北端を頂點とする不規則なる三角形をなし、面積約七二方軒あり。四面殆ど山を以て圍まれ、西南境に四明山(一一九八米)ありて南部に最も高く、西北部また六・七百里の山地をなして城柱峰(六二六米)あり、中部に水入川東より西へ流れ、沿岸に狭長なる平地ひらく。米・粟・棉・檀草・蕪等を産す。水入川に沿つて揚口・華川間三等道路通じバスの便あり。

【北面】朝鮮江原道善徳郡の西北部。善徳郡の北に隣り、東北は江陵郡、西北は平昌郡と界す。西北・東南にやや長く二〇軒に餘り、幅は約一二方軒あり、面積約二二方軒。大白山脈中に位し、西南端に加里旺山(一五六一米)、北境に博芝山(一三八一木)、東境に高飛山・高陽山(一一五二米)、南境には長屯山(九七四米)等あり。ほぼ中央を漢江の主流東北・西南に流れ、北より来る松川、西北より来る五空川を容れ、沿岸に狭長なる平地ひらく。米・粟・大豆・粟・大麻・蕪等の農産あり、山地には火田民未だ存して

る水成岩地層にて低地には花崗岩の噴出を見る。富嶺區の黒鉛鑛床は局部的に揮發分多く品位良好なり。昭和九年頃より活氣を呈し、十年には土狀黒鉛三、一六二號(價額六萬餘圓)を出し、同年重要鑛山に列す。なほ同年六月末の従業員は六〇人。(鳳泉炭鑛)鳳泉驛より約三・五軒、鳳泉里にあり。第一、第二露天掘、第一水平坑の三坑を有し、一日約六〇〇噸を採掘し、鳳泉驛内の積込所より發送せらる。その他黒鉛をも採掘す。昭和十年中の産額は無煙炭四〇、二〇一噸、土狀黒鉛九八七噸、その價額約二二萬圓にして、同年六月末現在使役人員、無煙炭坑は四六一人、黒鉛坑は三五人を算せり。朝鮮無煙炭鑛株式會社の所有にかゝる。(龍潭炭鑛)自作驛より約六軒。朝鮮無煙炭鑛株式會社の所有にして、一日約五〇〇噸を採掘し、自作驛まで輕便鐵道によりて運炭す。昭和十年の産額は無煙炭四二、八八七噸、その價額約一八萬圓。同年六月末現在使役人員四四〇名。

高麗に移れり。城址は土築なりしたため多くは廢頽して昔日の影なしと雖も、八角の古石塔遺存して當時の隆盛を憶ばしめ驛の東約一軒にある龜跡と共に泰封時代の遺物として一顧に値す。

【北面】朝鮮江原道善徳郡の東北部。善徳郡の北に隣り、東は襄陽郡、北は杆城郡と界す。東西二四・二八軒、南北は東部に於て約一八軒あり西方に狹まり、面積三三〇軒餘あり。大白山脈の西斜面にして、東境には雪岳山脈嶺として連り、東南隅に雪岳山(一七〇八米)、その北稜に神仙峰(一一八三米)等聳え、北境には七節峰(一一七二米)・鷹峯山(一二七一米)・明嶺山・大巖山(一一一六米)、南境には加里旺山(一五一九米)・寒溪嶺(九三五米)等連り、東半部は特に峻嶒を極め、城内平地に乏しく、ただ中西部は比較的広くして、ここに嶺北川・北川の兩川、東西兩山地の溪水を聚めて南流し、沿岸に狭長なる平地ひらく。住民は主として畑作農業に従ひ、粟・蕪を主とする外、養蠶・粟草採取・牧羊等をなす。交通路は従來、北川の流路に沿ひ、西南・東北に麟蹄より日本海岸地方に出づる二等道路通じしが、東北境に大嶺嶺(六四二米)の嶺あるに依り、近時嶺の西南麓より北へ新道を開き杆城邑にバス道路を通ずるに至れり。其他、東南部の北川支谷に沿ひ直接襄陽邑に出づる道路等もあるも

【北面】朝鮮江原道善徳郡の西北部。善徳郡の北に隣り、東北は江陵郡、西北は平昌郡と界す。西北・東南にやや長く二〇軒に餘り、幅は約一二方軒あり、面積約二二方軒。大白山脈中に位し、西南端に加里旺山(一五六一米)、北境に博芝山(一三八一木)、東境に高飛山・高陽山(一一五二米)、南境には長屯山(九七四米)等あり。ほぼ中央を漢江の主流東北・西南に流れ、北より来る松川、西北より来る五空川を容れ、沿岸に狭長なる平地ひらく。米・粟・大豆・粟・大麻・蕪等の農産あり、山地には火田民未だ存して

【北面】朝鮮江原道善徳郡の東北部。善徳郡の北に隣り、東は襄陽郡、北は杆城郡と界す。東西二四・二八軒、南北は東部に於て約一八軒あり西方に狹まり、面積三三〇軒餘あり。大白山脈の西斜面にして、東境には雪岳山脈嶺として連り、東南隅に雪岳山(一七〇八米)、その北稜に神仙峰(一一八三米)等聳え、北境には七節峰(一一七二米)・鷹峯山(一二七一米)・明嶺山・大巖山(一一一六米)、南境には加里旺山(一五一九米)・寒溪嶺(九三五米)等連り、東半部は特に峻嶒を極め、城内平地に乏しく、ただ中西部は比較的広くして、ここに嶺北川・北川の兩川、東西兩山地の溪水を聚めて南流し、沿岸に狭長なる平地ひらく。住民は主として畑作農業に従ひ、粟・蕪を主とする外、養蠶・粟草採取・牧羊等をなす。交通路は従來、北川の流路に沿ひ、西南・東北に麟蹄より日本海岸地方に出づる二等道路通じしが、東北境に大嶺嶺(六四二米)の嶺あるに依り、近時嶺の西南麓より北へ新道を開き杆城邑にバス道路を通ずるに至れり。其他、東南部の北川支谷に沿ひ直接襄陽邑に出づる道路等もあるも

【北面】朝鮮江原道善徳郡の東北部。善徳郡の北に隣り、東は襄陽郡、北は杆城郡と界す。東西二四・二八軒、南北は東部に於て約一八軒あり西方に狹まり、面積三三〇軒餘あり。大白山脈の西斜面にして、東境には雪岳山脈嶺として連り、東南隅に雪岳山(一七〇八米)、その北稜に神仙峰(一一八三米)等聳え、北境には七節峰(一一七二米)・鷹峯山(一二七一米)・明嶺山・大巖山(一一一六米)、南境には加里旺山(一五一九米)・寒溪嶺(九三五米)等連り、東半部は特に峻嶒を極め、城内平地に乏しく、ただ中西部は比較的広くして、ここに嶺北川・北川の兩川、東西兩山地の溪水を聚めて南流し、沿岸に狭長なる平地ひらく。住民は主として畑作農業に従ひ、粟・蕪を主とする外、養蠶・粟草採取・牧羊等をなす。交通路は従來、北川の流路に沿ひ、西南・東北に麟蹄より日本海岸地方に出づる二等道路通じしが、東北境に大嶺嶺(六四二米)の嶺あるに依り、近時嶺の西南麓より北へ新道を開き杆城邑にバス道路を通ずるに至れり。其他、東南部の北川支谷に沿ひ直接襄陽邑に出づる道路等もあるも

に髪を結びて銃殺せられしといふ。花山は蕨根山が西走して本骨に至り俄然斷落する處にあり、全山老樹鬱葱、高麗恭讓王二年に築むる古城址あり。高宗の朝、安南王族と稱せらるる花山君李龍祥が元寇の亂に蒙古の大軍を撃破せる故跡にて城下に受降門と碑を遺存す。

【北面】朝鮮京畿道加平郡の北部。郡廳所在地なる郡内面の北に隣り、西北は抱川郡、北及び東は江原道華川郡と界す。西北—東南に長く約二〇軒。幅は一〇軒に餘る。北境に固城峰(一一六八米)・石龍山(一一五五米)・華岳山(一四六八米)等聳え、西部には明智山(二六七米)屹立し、東南境には北信山(八六七米)・鷲冠山(七三五米)等連りて、全境殆ど山地をなし、中南部に纏る修徳山東南麓に平地のやや見るべきものあり、固城峰山中に發する漢江小支その他の餘水は皆な前記平地に聚まり南方加平邑を経て本流に注ぐ。谷間處々に耕地ひらけ、米・麥・豆類・雜穀・蕪等を産し、また東北山に金銀の鑛産あり。磐谷に沿ひ道路通じ、加平邑及び抱川郡・江原道春川郡等へ出づるを得るも、途中峻坂ありて交通不便なり。

【北面】朝鮮京畿道慶尚道蔚山郡の西北部。開城府の西北約八軒。北より東北は黄海道金川郡と界し、西は禮成江を距てて同じく金川郡並に延白郡と相對す。東西五—八軒、南北約一〇軒、面積約七一方軒。

東境に鳳鳴山(四一一米)聳え西方に緩傾斜し、中部以西は丘陵地帯にして、臨津江岸の孤雲山(一七七米)や著ける。西境を蛇曲して南流する臨津江と、東方に發して之に注ぐ支流との沿岸にやや廣き平地ひらけ、田畑連る。米・麥・豆類・雜穀・蕪等を産し、また三寶・開北・倉浦・讀亭の諸鑛山の鑛産存して金銀を出す。中部東偏に慶道京義本線南北に通じ、驛(大正十二年設置)あり、禮成江の舟楫の便もありて、交通不便ならず。(三寶鑛山)北面にある金銀山。鑛區は北面の加十尾里と龍峴里とに跨る。當鑛區一帯の地質は輝片麻岩より成り、鑛床は同岩石中に脈産せる含金石英脈にして、既如の鑛脈は八條とす。脈幅は凡そ〇・一—一〇・五米なるも時に一米に及び、また露頭の延長五〇〇米に及ぶものあり。鑛石は灰白色石英にして少量の黄鐵鑛・方鉛鑛・閃石・黄銅鑛を含む。昭和十年には金銀鑛一、五五七噸(價額約六萬圓)を出し、同年重要鑛山に列す。また同年六月末の従業員は一一一人とす。

【北面】朝鮮京畿道振威郡の東北端。水原邑と平澤邑との中間に位し、東は龍仁郡、東南は安城郡と界し、北は水原郡の烏山に近し。東西約六軒、南北五—八軒。東北部に一〇〇—一五〇米の丘陵は北に連り、舞鳳山(二〇九米)最も高く、東南隅にも標高これと略相等しき丘陵東西に互りて起伏するも、中部南偏を東より西に振威川流れその西岸と、中部身西に廣き平地ひらけ、特に後者は烏山に續く豊沃なる平野にして西境を南流する振威川支流により灌漑せられ、頗る農産に富む。米・麥・豆類・棉花・杞柳・莞草・靛菜・桐油等を産す。西部平野を鐵道京釜本線と釜山街道並走し、前者の烏山・西井里兩驛に近し、釜山街道は南部に於て東折し主邑鳳南里を過ぎて安城邑に至る道路を岐ち、交通便なり。鳳南里は一に振威と呼び、舞鳳山南麓、振威川右岸に位する舊邑にして、市場・學校等あり。

【北面】朝鮮忠清南道大徳郡の北部中央。大田府の北方約一二軒、東および北は錦江の中流を挾みて忠清北道清州郡文義・賢郡の二面に對す。面積約四四方軒。中部を南北に連る東西二條の丘陵あり、東のものは南境の株樓臺址の邊にて四三—一、中部の蕪峰にて二四八米、西のものは最高處にて二〇〇米内外を示す。東部丘陵の東西には狭長の低地あり、各小流ありて北に流れ錦江に入る。西部丘陵より西は概ね平坦にして、特に北西境を北流する甲川が錦江に合流する邊には低平なる沖積地あり、これら河邊の平地には田畑よく拓け、米・麥・豆・棉花・莞草・西瓜・大根等の農産を出し、また粘土の産地として知らる。大田・天安間の一等道路と鐵道京釜本線北西部を並走し、後者の新羅津驛(明治三十八年設置)あり。

【北面】朝鮮忠清南道天安郡の東部。西は天安邑との間に木川を隔て、北東部は忠清北道鐵川郡梧谷面と境を接す。面積五八方軒餘。東嶺山脈の地にして土地南北に長く、東境に介竹山(四五二米)・龍城山(四九四米)・銀石山(四五六米)等連り、北西境に聖房山(五七九米)ありて概ね山地をなす。並川の支流北境に發して東西兩山地の中間を南流し、その兩岸に低地あり、特に南部の平地はや、廣く畝・田よく拓く。米・麥・豆・陸地棉等の農産あり。天安・鐵川間の道路南部を横ぎりてバスを通じ、北境警場への等外道路は川に沿うて湧り交通不便ならず。

【北面】朝鮮慶尙北道の屬島嶼島嶼三面の一。島の北部を占め、南東は南面、南西は西面に接し、北は日本海に臨む。面の中央部は南境に屹立する火山、聖人峯(九九四米)のカルデラにて東南・西南の二境は高さ九百米内外の山稜により圍まれ、中央低地の東に羅羅洞、西に弗峰の二聚落あり。北岸西部に平里・支團洞、東中に洪門洞・昌洞・天府洞の小聚落あり。到る處火山岩の砂礫多く地味硬固なるも馬鈴薯・大豆・麥等の農産あり。沿岸には鳥賊・鱒・鮑・和布・海苔等の水産あり。島の交通は迎日浦浦項港との間に行はる。

する洛東江によりて昌寧郡吉谷・釜谷の二面と隔てらる。南北に略長方形をなし面積約七三方軒。西境南部に爵臺山ありてその山嶺南東に延び、北西・東境にも高さ二—三百米臺の丘陵性山地あり。中央部を北流する小河ありてこれに入る東部の小支谷と、北部の洛東江岸に沿ひて耕地拓く。米・麥・大豆・棉花等を主産物とす。等外道路を通ずるのみにて交通には便ならず。

【北面】朝鮮慶尙南道東萊郡の北西部。東萊邑の北隣にて、北は梁山郡東面と界す。面積四四方軒餘。東北境には鐵馬山の南嶺連なり、東南境には九月山あり、また金井山は西北境に峙ちてその山嶺南方に延び、西隣の龜浦面に屬する山中には任那時代に成りし金井山古城址あり。東北部と西南部には巾狭き低地ありて水營江の上流をなす。米・麥・大豆・棉花等の農産あり。東萊・蔚山、東萊・梁山(京釜街道)間の道路あり前者は東北に、後者は西北に走り共にバスを通じ交通便なり。(梵魚寺)金井山の東谷にあり。約一千年前、新羅の眞德王(或は武烈王)の創建にかゝり、通度寺・海印寺と本道三大寺の一に數へらる。境内樹木蒼蒼、深溪清流ありて幽邃の仙境をなす。今の堂宇は文祿の兵燹後に再建せしものにて結構、昔日に及ばずといふ。

【北面】朝鮮全羅南道順興郡の北東隅。東より北は谷城郡の石谷・三岐・火の三面に、北西は潭陽郡の南の二面に境す。東西約一二軒、南北一〇軒内外あり。小白山脈西部の支脈面内に延び、南境には鹽城山(五七三米)、東部には白鳥山(八〇四米)等聳え、大部分は山地なり。同福川の上流たる外支川は東北境に發して北部を西流し、次で南折して西部を下り、南西隅の二西面との境に勿染の奇巒を作り、中部山地より西南流する支川を合す。これら諸川の谷にはいづれも巾狭な泥濘原ありて耕地よく拓く。米・麥・豆・棉花等の農産あり。等外道路あるのみにて交通には便ならず。

【北面】朝鮮忠清北道清州郡の北部。南西は清州邑との間に四州面を隔て北は北二面に接す。地東西に廣く約一五軒、南北は最廣部に七軒内外あり。東境には九女山(四九七米)あり、それより南境東中には四百米臺の山嶺つゞきて上黨山城址の邊に達す。面の大部分は低き丘陵緩く起伏するも概ね平坦にして特に西境を南流する美湖川左岸と北境を西流する美湖川支流に沿ふ地には耕地廣く水田よく發達す。農産には米を主とし、麥・豆類・棉花等を出す。清州・忠州街道は略中部を南北に貫き、また社線朝鮮鐵道北線は美湖川と支流との沿岸平野に沿ひて走り、井下・梧根場・内秀の三驛(共に大正十二年設置)を設け交通便なり。

【北面】朝鮮全羅北道益山郡の南西部。北、一面朝鮮全羅北道益山郡の南西部、南西は郡邑程里邑及び五山面に隣接し、北西に沃溝郡瑞應面に界す。北西より南東に延び面積三九方軒餘。全北平野の一部にて、面の中部には低き丘阜點在するも一般に低平なり。特に東南部と北西部は平坦にして、前者は萬頃江の支流鎮川其他により、また後者は臨盆水利組合の八峰面との間に湛ふる堰橋湖(臨盆水利組合貯水池)の水によりて灌漑せられ耕地廣く拓け、米の産多く、棉花等も出す。鐵道湖南本線北西部を縱貫してその裡驛に近く交通便なり。

【北面】朝鮮全羅南道長城郡の北部西偏。北は北二面、東は北上面、東南は長城面に隣り、西は全羅北道高敞郡高敞・古水二面に界す。面積三〇方軒餘。廣嶺山脈南西部の支脈延びて、東境に山城山(三三三米)・月出峰(三〇九米)となり、南西境には文殊山(六二〇米)の北嶺ありて山腹南北境上を各東方に連り内山地多し。北二面より來りて東部を南流する介川と、西部山地より發し東流してこれに合する支流との川沿に平地ありて田畑拓く。米・麥・大豆・棉花・蕪等の農産あり。長城・高敞街道は中部を東西に通じ、鐵道湖南本線は東部を南北に走り、新興里驛(大正三年設置)を置く。

【北面】北越。一般に越中・越後二國の邊を指して北越と稱するも、主として越後國をいふ。

ホクガク 北岳山 朝鮮京城府の北部

に登ゆる山。北漢山の山肢南に延びて起す山にして標高三四二米。李太祖この山の南麓に王宮を營み景福宮と稱す。いま宮址の一部に總督府廳舎建つ。京城府

ホクキツ 北橋村 群馬縣上野國勢多郡の西部。赤城山西南斜面の一部を占め利根川の東岸にあり。西は川を隔て、群馬郡津川町その他と相對す。村は赤城山中腹以下の緩傾斜面を占め、東部には森林多く、西部の山麓は農業、養蠶行はれて、大麥・小麥・米・甘藷・蕎麥を産す。また馬・牛・豚・鶏・兎・山羊・羊等の畜産多し。縣道南走して津川町に通じ、また北部より西走して津川町に通ずるものあり。この地は和名抄、勢多郡勢多郡の地にして、大字眞壁はその遺稱なり。大字八幡に不動山城址あり。長尾左衛門尉伊支の居城にして、永正六年、越後の長尾爲景と心を合せ山内上杉氏に背き、上杉憲房は大军を帥めて向井・沼田兩城を攻むるの時、伊支は不動山城を保つ。村内に利根川を利用せる佐久發電所(出力五五、〇〇キロワット)あり。(木曾三社神社)大字下箱田にあり。縣社。祭神、宇氣母智神、外三神。瀧之宮または箱田明神とも稱す。木曾一族の祈願所。その後武門の崇敬厚く、徳川幕府は之を一番の御守とし、前橋城主代々營繕の事を司り、殊に酒井氏の信仰最も厚かりといふ。例祭、三月二十一日。

ホクゴ 北後面 朝鮮慶尙北道安東郡の北西部。東南の先端部は安東邑の西邊に接し、西は醴泉郡普門面に、北は榮州郡の長壽面・平恩面に境す。面積約七五方軒。南境の中部に天燈山(五七五米)、西隅に鶴駕山(八八二米)峙す、その山肢北方に下り、北西境を西流する乃城川岸に迫り、面の西北半部は殆ど山地をなす。東半の東南部は長く南方に延びその東境には二百米臺の丘陵地あるもその西には洛東江の小支流松花川の上流南流しその川筋に小低地ありて耕地拓く。米・大豆・棉等の農産あり。安東・榮州を繋ぐ道路は松花川の谷に沿ひて南北に通じバスの便あり、また安東邑には社線朝鮮鐵道北線の終端驛なる慶北安東驛ありて、面の東半は交通便利なり。

ホクコ 北港 北港 北港郡の北西部。東南の先端部は安東邑の西邊に接し、西は醴泉郡普門面に、北は榮州郡の長壽面・平恩面に境す。面積約七五方軒。南境の中部に天燈山(五七五米)、西隅に鶴駕山(八八二米)峙す、その山肢北方に下り、北西境を西流する乃城川岸に迫り、面の西北半部は殆ど山地をなす。東半の東南部は長く南方に延びその東境には二百米臺の丘陵地あるもその西には洛東江の小支流松花川の上流南流しその川筋に小低地ありて耕地拓く。米・大豆・棉等の農産あり。安東・榮州を繋ぐ道路は松花川の谷に沿ひて南北に通じバスの便あり、また安東邑には社線朝鮮鐵道北線の終端驛なる慶北安東驛ありて、面の東半は交通便利なり。

ホクコ 北港 北港郡の北西部。東南の先端部は安東邑の西邊に接し、西は醴泉郡普門面に、北は榮州郡の長壽面・平恩面に境す。面積約七五方軒。南境の中部に天燈山(五七五米)、西隅に鶴駕山(八八二米)峙す、その山肢北方に下り、北西境を西流する乃城川岸に迫り、面の西北半部は殆ど山地をなす。東半の東南部は長く南方に延びその東境には二百米臺の丘陵地あるもその西には洛東江の小支流松花川の上流南流しその川筋に小低地ありて耕地拓く。米・大豆・棉等の農産あり。安東・榮州を繋ぐ道路は松花川の谷に沿ひて南北に通じバスの便あり、また安東邑には社線朝鮮鐵道北線の終端驛なる慶北安東驛ありて、面の東半は交通便利なり。

の東南部に位置し、北港漢左岸に沿ひ、三角狀地形を呈す。東南は北港漢を隔てて高義郡新巷庄及び東石郡六脚庄に對し東北は元長庄、北は四湖庄、西は水林庄に夫々境を接す。土地總て平坦にして市街は北港漢畔にあり、着々整備せられて街衢整然、新興の意氣に燃え、市街地を除けば田畑遺く展開す。米・甘藷・甘藷・黃麻・落花生・豆類・蔬菜を主要農産物とし、殊に甘藷は農作物中首位を占む。畜産は水牛・黄牛・豚・山羊・鶏・鵞、蠶等の畜産家畜類多く、一覽農家に於て普く飼育せらる。製糖業は工業の主として大日本製糖の製糖所を有す。交通は至便といふべく、大日本製糖の鐵管に係る北港—斗南間・北港—小梅間・烏麻園—朴子—土庫—海口—三條岩—新港等各地との間に乗合自動車を通ず。管内はもと大橋郡東頂堡の一部をなし、明末以來漢族の寄航地となり、清朝領有の初め、陳立勳の開拓を經、往時は榮港街と稱し、早く康熙年間、閩の漳州人により肆店を創建せられ、當時北港漢は水深くして船舶を此地に廻らしむるの便ありき。雍正九年には榮港を島内貿易港として開き、且つ縣丞を新設し、地方を稽查し、發れて船隻を賣することとせり。現市街は初め漢南なる舊南港(高義郡新巷庄)と合して榮港街と稱し、富豪巨商は多く南部に集中せり。然るに乾隆十五年洪水のため

に北港漢は流路を變更し、市街を中斷して新に水路を生じ、漢南(南街)を南榮港、漢北(北街)を北榮港又は北港と稱せり。北港の名稱之より始まる。爾後數次津泉人の分領城關及び水害を蒙りて街勢に著しき消長を來し、殊に漢南の南街は全く衰頽して終に舊南港と呼べる、に至り、北港漢また逐年游淺して、船舶の碇泊所は咸豐年間より下流北岸の下湖口(口湖庄)に移されたり。然れども輸出入貨物は依然として本市街に於て取引せられ、全島第一の北港(朝天宮)はその參詣者年に三十萬人を算して市況常に殷賑を稱め、我が領臺後は諸種施設の整備と相俟て益々發展し、現に州下第三位、即ち嘉義市に次ぐ大都會なり。尙ほ和蘭宣教師アレン・メイの謂ゆる K-anai port Pankan は即ち榮港を指せるなり。

ホクココ 北港口炭礦 北港郡の北西部。東南の先端部は安東邑の西邊に接し、西は醴泉郡普門面に、北は榮州郡の長壽面・平恩面に境す。面積約七五方軒。南境の中部に天燈山(五七五米)、西隅に鶴駕山(八八二米)峙す、その山肢北方に下り、北西境を西流する乃城川岸に迫り、面の西北半部は殆ど山地をなす。東半の東南部は長く南方に延びその東境には二百米臺の丘陵地あるもその西には洛東江の小支流松花川の上流南流しその川筋に小低地ありて耕地拓く。米・大豆・棉等の農産あり。安東・榮州を繋ぐ道路は松花川の谷に沿ひて南北に通じバスの便あり、また安東邑には社線朝鮮鐵道北線の終端驛なる慶北安東驛ありて、面の東半は交通便利なり。

ホクサン 北三面 朝鮮江原道三陟郡の東北端。北三面に北隣し、北は江陵郡と界し、東は日本海に面す。東西長くして約一三軒、南北八一二軒あり。大白山脈の東斜面にして、西南境の中峰山・頭陀山等いづれも一三五〇米前後の標高を有し、東北部に草嶽山(五三一米)あるも、海岸に向つて緩傾斜す。西部山地に箭川發し東流すること約一五軒にして海に入り、その下流流域には稍々廣く平地横はる。海岸は約一〇軒の間、殆ど低砂濱をなすを以て泊津を缺く。米・麥・大豆・大麻・棉花等の産あり。海沿ひに三陟・江陵二等道路走りバスの便あり、之に沿ひ北坪里より西方の箕善方面へ三等道路を岐ち交通や便なり。北坪里は箭川右岸に臨む面にして、金融組合・市場等あり。西南部の三和里に古刹三和寺あり、附近に武陵溪・龍湫・頭陀山等の勝地あり、北坪里より自動車通じハイキングに好適なり。

ホクサン 北三面 朝鮮江原道三陟郡の東北端。北三面に北隣し、北は江陵郡と界し、東は日本海に面す。東西長くして約一三軒、南北八一二軒あり。大白山脈の東斜面にして、西南境の中峰山・頭陀山等いづれも一三五〇米前後の標高を有し、東北部に草嶽山(五三一米)あるも、海岸に向つて緩傾斜す。西部山地に箭川發し東流すること約一五軒にして海に入り、その下流流域には稍々廣く平地横はる。海岸は約一〇軒の間、殆ど低砂濱をなすを以て泊津を缺く。米・麥・大豆・大麻・棉花等の産あり。海沿ひに三陟・江陵二等道路走りバスの便あり、之に沿ひ北坪里より西方の箕善方面へ三等道路を岐ち交通や便なり。北坪里は箭川右岸に臨む面にして、金融組合・市場等あり。西南部の三和里に古刹三和寺あり、附近に武陵溪・龍湫・頭陀山等の勝地あり、北坪里より自動車通じハイキングに好適なり。

じてバスの便あり、また鐵道湖南本線は北境の蘆嶺のトンネルを潜りて東部の平地を南方に走り、四街里驛(大正三年設置)を設け、木炭・薪・竹籠等の産物を集散す。

ホクシ 朴子街 臺灣臺南州東石郡の主要。郡の中央部に位置し、朴子溪の南岸に沿ひ、嘉義の西方二四軒にあり。東は太保・鹿草二庄、西は東石庄、南は義竹・布袋二庄に夫々境を接し、北は朴子溪を挟んで六脚庄と相對す。地勢平坦にして中央に荷役碼頭あり。地味甚だ肥沃ならず、また水利不十分なりと雖も農業を主産業とし、耕地は二期作田僅少にして概ね單期作田及び畑なり。米・甘蔗・甘藷・蔬菜・落花生を主要農産とす。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主とする畜産家畜類多く、一般農家の重要副業として著く飼育せらる。工業は大規模のものなく、概ね精米・製麵・製油・磚瓦製造の小工場散在す。市街は郡下交通の中樞を爲し、主要道路放射狀に發達し、東は嘉義を始め、南は鹽水、北は北港等、内外各主要地との間に通じ、大抵乗合自動車の便を有す。管内はもと東北半は大城郡西堡に、西南半は大城田西堡に屬し、前者は明末、後者は清領後康熙年間にて共に閩人により開拓せられたり。現市街附近一帯は明の永曆三十五年頃、閩の泉州府安溪の人、林馬なる者によりて開かれたるものに係り、當時朴

子溪(牛稠溪)は現市街地の南を流れ、水深くして此地に一の港を形成し、猴樹港といひ、河口より船を運らしむることを得たり。清の雍正四年泉州同安の陳金生なる者、溪流に沿ひて此地に來り、居を定めて商業に従ひ、翌年同籍の商賈渡來し、肆店を設けて貿易に従ひしより漸次一小市街を形成し、猴樹港街と稱せり。同九年には島内貿易港として開かれ、乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)に「猴樹港、臺屬小商船往來貿易」と見ゆ。而して市街の傍に一大朴樹(楓)ありしより後に朴仔脚街と呼ばれるに至り、臺灣府志に「朴仔脚街、舊爲猴樹港街、今更名」と記せり。爾後この地方の中心市場としての地位を失ひ、河口に東石港の開港、ありて市街の一變を來せり。然れども尙ほ嘉義より東石港に通ずる要路に當るを以て東石港の輸出入貨物は必ず本街を經過する爲め、依然として地方經濟上重要な地位を保ち、我が領臺後は機仔脚に改め、大正九年更に舊名を取りて朴子と改稱せり。

ホクシドー 木寺洞面 朝鮮全羅南道各城郡の南部。北は寶城江によりて石谷・竹谷二面と隣接し、南は順天郡月燈・雙巖・伴原三面に隣接す。小白山脈南西部の支脈南境上に延び、それより分れる飛來山(八〇二米)は東境北部に、峨嶺

山(五八三米)は南西部に聳え、東西に山地あるも、その中間の谷と西と北の境をなして北東流する寶城江岸とに平坦地ありて耕地拓く。農業を主業とし米・大豆・陸地棉等を主産物とす。而内には等外道路あるのみなるも、北隣の竹谷面に出土れば全羅線驛に至る街道ありてバスの便あり。

ホクシホ 朴子埔 臺灣總督府鐵道阿里山線の一驛(昭和八年設置)。臺南州嘉義郡竹崎庄朴子埔にあり。

ホクシユ 北州 新吉原遊里の異稱。江戸城より北にある故にいふ。北國。異名六帖・序の六帖は青樓の精微と北州の全盛とを折中す。

ホクシヨ 北上 朝鮮慶尙南道居昌郡の北西部。郡邑居昌面の北西部一五軒、南西は成陽郡西上面と、北西は全羅北道鎮安郡、茂朱郡の一部とに界す。面積一二四方軒、郡内第一の大面なり。小白山脈の東南斜面にて、その興徳山の山嶺は東境を南方に延び、西境には德魯山(一五〇八米)、南西界上には金嶺山(一三六三米)・月峰山(一二七二米)峙ち、而内殆ど山地をなす。渭川の諸上流は北西山地に出で南東部に合流し、南東渭川面に出で、それ等の川筋に次第に谷地ありて農業行はる。米・麥・豆等の農産あるも産額多からず。德魯山に南鮮の一名山にしてその溪谷に助仙亭・四仙臺・噴雪潭・六方亭・

噴雪潭・龍岩亭・搜勝臺等、謂ゆる八潭八亭中の名勝あり。

ホクシケン 北嶺 朝鮮平安北道寧邊郡の東北部。寧邊邑と熙川邑との中間に位置し、西南は南嶺、東北は熙川郡南面、東は平安南道寧邊郡太極面と接す。東西約三〇軒、南北八一〇軒、面積約二二二方軒。東部に朝鮮四大名山の一なる妙香山主とし、北境に香爐峰(一九〇九米)を盟主とし、北境に香爐峰・法主峰、南に降仙峰・兄弟峰等あり、峻峻を極むるも、西半部は三一二四米の丘陵地にて西北境には元通山(四六二米)あり。妙香山の西麓、面のほぼ中部を清川江東北一西南に貫き、この沿岸と、西部丘陵地とに耕地ひろく。米・粟・大豆・玉蜀黍・棉花・大麻・馬鈴薯・牛・薪材等を産し、また金・銀を出す。清川江の左岸を鐵道浦本線通じ北嶺、妙香山の二驛(共に昭和九年設置)あり、右岸には安州・江界間二等道路走り、北嶺驛より北西方面の温井方面へ輕便鐵道を敷き交通不便ならず。妙香山中には普賢寺・檀君宮等あり。妙香山

ホクスイ 北水山 朝鮮咸鏡南道北部の山。赴戰湖の東約一五軒、豊山郡熊耳面、新興郡東上面に跨りて聳立す。標高二三四七米。

ホクスイ 社 臺灣花蓮港廳花蓮郡にある神社。タツキリ溪流域に位置す。昭和四年指導取締の便宜上タツキリ溪流域に散在せるアラナハ・タツキリ、コラン、ボクスイの四社三六戸、一九八八

を現居住地に集團せしめ、ボクスイ社を形成したり。アマヤル族のタロコ藩に屬する高砂族の部落。戸數四二、人口二二〇(昭和十一年調査)。

ホクスイ 墨水 隅田川(東京市)の舊名。墨田河と書く故いふ。四十八手後之卷「天應ばかり見ゆる二階格子は角田水をへたて、稻荷の鳥居に似たり」縁結染色の緯・二中「夏は川風に曇きを忘れ、秋は墨水の月に心を慰め」

ホクスイハク 北水白山 朝鮮咸鏡南道北部の山。蓋馬高原の東麓、豊山郡熊耳面の西南部に聳立す。標高二五二二米、朝鮮内に於て冠帽山に次ぎ第二の高峰なり。

ホクセ 北青 朝鮮咸鏡南道の北東部。道管内二府十六郡の一。北は豊山郡、東は端川・利原の二郡、西は新興・洪原の二郡に接し、南は日本海に面す。東西約五六軒、南北約七二軒、面積二三八二方軒に及ぶ大郡なり。東・北・西の三面は山地を以て圍繞せられ、北部に高峻にして南方に漸次低夷す。即ち北境山地は蓋馬高原の東南端部を占めて赴戰嶺山脈に屬する厚峙嶺(一三三五米)・南山峰・三峰(一九八七米)・希沙峰(二一七米)等連なり、數條の支脈日本海岸に向つて南走し、東境には冠岩山・巖嶺(五六二米)・嶺徳山、鷹峰等、西境には太白嶺・發義峰(一四七七米)・舉頭峰(一三〇四米)・魚物大

山(一六六二米)・物見山(一四四一米)・峯山(一三三八米)あり、南北に通ずる嶺川の險隘に發達せる村とす。本村は南接する神城村と共に四ヶ城盆地を形成し地質時代には一湖水たりしが、西方日本アルプスよりの幾多扇狀地の砂礫によつて埋められ、嶺川の下部侵蝕によつて干潟せしものなり。村は附近の地方と共に古來四ヶ城馬の産地として著名にして、山麓を利用せし牧場もありしが、近年は養蠶業が之に代る主要副業となれり。近年は日本アルプス登山の一起點として本村の字四ヶ谷は發展せり。村より見れば白馬嶽・鎗ヶ岳の雄峯が望まれ、杉川の溪谷によれば直ちに主峯に近づき得、これ即ち近時登山者を吸引するに至りし所以なり。省線大糸南線並に信濃四ヶ谷・信濃森上の二驛(共に昭和七年設置)あり。本村は深谷・細野・新田・鹽島・野平・大出・藤平・嶺方の舊八箇村を合して成れるもの。此の白馬連山高山植物地帯は指定天然記念物たり。(諏訪社)字大林に鎮座。祭神、健甕名方命外四柱。創立年代不詳。江戸時代には松本藩主の崇敬社にして、社領の寄進、禁制の下附等の事あり。また近郷の産土神。

面積約四九方軒。西南境最も高くして約六百里の遠高山あり、南境に嶺徳山、北部に黃石山等二一三百米の丘陵連るも、中部は西方山地に發して灣内に注ぐ南川江その他の河流の洪源原に屬して土地低平、且つ地味肥沃なる耕地ひろく。海岸は孤狀を描く低砂濱にして良泊を缺く。農産に米、水産に鱈・牡蠣等あり。中部に鐵道咸鏡本線と元山・會寧間一等道路は並行して通じ、前者の文坪驛(大正五年設置)あり、交通不便ならず。同驛附近は白沙青松の勝地にして海水浴場として著はれたライオンケサン石油會社の油槽あり。此處に住友文坪製煉所設けられ、乾式法によりて金を製鍊す。驛の南に嶺徳山古城址あり、往昔、女眞族が北邊を侵掠しその勢ひ猖獗を極むるに當り、李朝太祖この城に入り奇功を奏せし所にして、文祿の役に加藤清正の屯せしも此城なりと傳ふ。

ホクシヨ 北嶺 朝鮮全羅南道各城郡の南部。北は寶城江によりて石谷・竹谷二面と隣接し、南は順天郡月燈・雙巖・伴原三面に隣接す。小白山脈南西部の支脈南境上に延び、それより分れる飛來山(八〇二米)は東境北部に、峨嶺

嶺(七八八米)・南嶺(南嶺嶺(三二五米)等あり。厚積層に發する南大川は中部を南流し、西より延八嶺川・車書川、東より坤坂川等大小幾多の支流を樹枝狀に集めて日本海に朝し、下流に謂ゆる北青平野の洪原を形成す。海岸は海崖・砂濱斷續して延長五〇軒に餘り、殊に西部は陽化礫・新浦港あり、前面に馬島を控へて好耕地をなし、陽化礫の東角なる松島岬以東には十數軒の孤狀を描く淺海をつくり、更に南大川河口に新昌港あり。南大川河口の西方には大田湖・鼓琴湖・龍湖の三大湖あり。農業を主産業とし米一二萬石(昭和十二年、以下準之)・大麥三・六萬石、大豆六・六萬石、粟八・八萬石、その他穀類を産し、副業に養蠶・牧畜(牛・豚・鶏等)・養蜂・養蠶等行はる。穀物中、米は道内にて消費する他、咸鏡北道に移出し、大豆は主として大阪・神戸・下關・伊木・敦賀の諸港に向け積出さる。沿海には魚介の利多く、新浦・新昌は漁港として著はれ、鱈(五五五萬圓)・明太魚(一七五萬圓)を筆頭に鱈・鱈・蟹等の漁獲高合計七五八萬圓に上り之に伴ひて水産製造盛んにして、乾明太魚(一七三萬圓)・明太魚卵(六七萬圓)・鱈詰(かに・トマト・サーモン・鰹味付計一〇六萬圓)・鱈粉(五一六萬圓)・鱈一(三九萬圓)・明太魚肝油(四六萬圓)・鱈油(三六五萬圓)等、合計一三三四萬圓の産出あり、新浦・新昌兩港には鱈油肥

工場等軒を運ぬ。其他の工業に製糖(一・二萬圓)・木製品・薬工品・木炭等あり。交通は南部海岸に近く東西に總督府鐵道咸鏡本線走り、西より東へ新浦・陽化・義湖・俗厚・新北青・新昌・屏山・乾白の各驛あり、新北青よりは良家を經て北青に至る北青線を分岐する外、南部に元山・會寧間一等道路通じ、北青より北方厚積層を越えて豊山・甲山に至るバス道路あり、道路網比較的密にして、且つ新浦・新昌には定期船寄港し、特に南半部の交通至便なり。行政上、北青色・新浦邑及び新北青面ほか一箇面に分ち、郡廳を北青色に置く。本郡は三國時代に高句麗に屬し久しく女眞の據るところなりしが、高麗宗二年、尹璣は女眞を逐ひ各所に山城を築けり。のち元は領せられ三撤と稱せしが、恭愍王五年、舊城を復し安北と稱し千戶防禦所を置き、同二十一年青州と改め按察使を置き萬戶を兼領しむ。李朝太祖七年、改めて青州府となし太宗十七年に至り北青と稱し、爾來、五百餘年を経て建國元年(明治二十九年)に郡となし今日に至る。【北青色】朝鮮咸鏡南道北青郡の中部南偏。北は德城、東は屏山、西は佳會、西南は厚昌の各面に、南は新北青面に圍まれ、東北・西南に長く、面積約八〇方里。東境に赴戰嶺山脈の支脈連なりて大徳山(一四六二米)・龜々西南に傾斜し、南境には東徳山(八〇〇米)あり。西南部は數條

に分流しつつ南流する南大川の洪原に屬し、地味肥沃なり。農産は米(九千石)・大豆(三千石)・粟(五千石)・大麥・蕪等にして、養蠶・牧畜また行はれ、工業に生糸・木炭・味噌・醬油等あり。鐵道北青線西南部を通じて終點驛北青(昭和四年設置)あり。邑内を中心として元山・會寧間一等道路通ずる外、甲山方面へ二等道路を出し、惠山嶺・新芝坂嶺行きのバス發して交通便なり。邑は南大川左岸に位し、奥地豊山・甲山・惠山嶺への門戸をなし、物資の取引盛にして、郡内の産物、特に水産物の集散大に行はれ、東里に開市する北青市の取引高は一年一二〇萬圓を越ゆ。昔より北青の名邑として知られ郡廳・地方法院支廳・道立醫院・專賣局出張所・公立農業學校・公立職業學校・噴氣支店・車馬駐在所・良徳水利組合・咸會合同電氣支店その他諸會社あり。邑に北青城址あり、高麗宗宗の時、尹璣の築きしものと云ひ、周圍三・五軒に餘る方里にして、高さ六米、嘗て東西南北の四門並に十三砲臺を有し城外に塹壕を築らし、李朝時代、南兵營所在地として相當の設備ありしも、今は大部分破壊せられ、僅に城壁の一部を遺存す。郊外に東井公園あり。【北青線】朝鮮總督府鐵道の一。咸鏡南道の北東部にあり。北青郡新北青面の咸鏡本線新北青驛より分れて北方の北青驛に至る。全長九・四軒。

三峰より三峰橋中心に至る一・四軒の線及び會寧より新島林に至る一・七軒の會寧炭礦線を分岐す。而して北鮮西部線の輪城驛に於て總督府鐵道咸鏡本線に同じく古茂山驛にて社線朝鮮鐵道咸鏡北線に接続し、また羅津及び清津に於て何れも北日本汽船航路・日本海汽船航路と連絡して東日本諸港に至る。運輸系統は清津より會寧・上三峰を経て南陽に至り、また羅津より羅基・慶源を経て南陽に至り、共に滿洲國に入り四門驛より京圖線によりて吉林を経て、新京に直達し、また上三峰より鐵道局開通線に連絡す。軌間は一・〇六七米(廣軌)にて蒸氣運轉とし、朝開線と接続するもの外は何れも省線と連帶運輸をなす。【北鮮西部線】北鮮線【北鮮東部線】北鮮線

工場等軒を運ぬ。其他の工業に製糖(一・二萬圓)・木製品・薬工品・木炭等あり。交通は南部海岸に近く東西に總督府鐵道咸鏡本線走り、西より東へ新浦・陽化・義湖・俗厚・新北青・新昌・屏山・乾白の各驛あり、新北青よりは良家を經て北青に至る北青線を分岐する外、南部に元山・會寧間一等道路通じ、北青より北方厚積層を越えて豊山・甲山に至るバス道路あり、道路網比較的密にして、且つ新浦・新昌には定期船寄港し、特に南半部の交通至便なり。行政上、北青色・新浦邑及び新北青面ほか一箇面に分ち、郡廳を北青色に置く。本郡は三國時代に高句麗に屬し久しく女眞の據るところなりしが、高麗宗二年、尹璣は女眞を逐ひ各所に山城を築けり。のち元は領せられ三撤と稱せしが、恭愍王五年、舊城を復し安北と稱し千戶防禦所を置き、同二十一年青州と改め按察使を置き萬戶を兼領しむ。李朝太祖七年、改めて青州府となし太宗十七年に至り北青と稱し、爾來、五百餘年を経て建國元年(明治二十九年)に郡となし今日に至る。【北青色】朝鮮咸鏡南道北青郡の中部南偏。北は德城、東は屏山、西は佳會、西南は厚昌の各面に、南は新北青面に圍まれ、東北・西南に長く、面積約八〇方里。東境に赴戰嶺山脈の支脈連なりて大徳山(一四六二米)・龜々西南に傾斜し、南境には東徳山(八〇〇米)あり。西南部は數條

海斜面との分水嶺となり、東に龍興江等、西には大同江支流なる馬蹄江・沸流江・平原川等を發せしむ。【ホクタン】牡丹面 朝鮮黃海道延白郡の西北隅。延安邑の西北約一五軒。西は海州郡、北は平山郡と界を接す。東西約一〇軒、南北約五軒あり。北境に牡丹山(三〇四米)・雲頭峰(三〇七米)あり、後者の山脈南に延びて東南境に龜山(二七三米)を起し、また城内に百來臺の丘陵隨處に起伏す。花陽川西面を割して南流し、その支流弓下川は雲頭峰に發して東部を灌漑し一度南接せる弓掛面に入るも再び西南境に現はれ、本流に合し、之等流域に稍々廣き平地あり、なほ東北部牡丹山東麓にも平地ひろく。前記兩川の合流點附近に、近時その水を堰止して成れる黃海水利組合の大貯水池あり。米・小麥・棉等の農産あり。延安邑より来る道路中部を東南へ西北に貫き、西北端の主邑羅羅里に達し、花陽川右岸に通ずる海州・南川店四二等道路に合し、自動車を送す。羅羅里は牡丹山下に位し、地方的中心にして、金融組合・市場等あり。附近に羅羅嶺と稱し、處々岩壁清流に臨みて屈曲し一帯地たり。碩學牧野(李禧)高麗末革命の際、世を歴ひ官位を棄て餘生を送りし地にして、詠詩亭・釣台・牧野遺像等完全保存せらる。【ホクチュウ】北中面 朝鮮平安北道龍川郡の西北部。龍川面の東北に隣

り、新義州府の正南約一五軒、西の一部に於て鴨綠江に臨む。東西約一〇軒、南北五・七軒。東部に百來程度の丘陵東西に連る外、城內處々に五〇米前後の丘陵起伏するのみ、河川の著るしきものなしと雖も、大正水利組合の水路によりて灌漑の利あり、農耕盛に行はる。米・大豆の産多し。龍岩浦・新義州を運ぶ二等道路中部を通じ、途中より東折して舊邑に出づる踏線あり、何れもバスを通じ、交通便なり。【ホクチン】北鎮面 朝鮮平安北道雲山郡の西北隅。東は委延面、南は城面に接し、東北は楚山郡、西北は昌城郡と界す。雲山の北約二五軒。南北の長約二〇軒を有する略々菱形をなし、東西に最廣一五軒あり。四面山にて圍まれ、北境に邊羅徳山(一三二六米)・東境に大岩峰(一〇二六米)・東林山(一一六五米)・西境には九峯山(八八一米)・南境には道里山(八四一米)等あり。西北境山中に發する九龍江西北へ東南に流れ、中南部の草池(周圍約八軒)の餘水を容れ、沿岸に狹長な平地ひろく。任中中央に雲山金礦あり。金の採掘・製鍊大規模に行はれ、産額朝鮮第一なり。其他米・粟・玉蜀黍・牛等を産す。山間の僻地なるにも拘らず、雲山會社經營の道路沿ひに通じ、主邑北鎮を中心として西北は自嶺(四七四米)を隔て大嶺洞嶺山・昌城方面へ、東南は温井温泉に到り更に雲山・熙川の各色

【北鮮西部線】北鮮線【北鮮東部線】北鮮線

【北鮮西部線】北鮮線【北鮮東部線】北鮮線

【北鮮西部線】北鮮線【北鮮東部線】北鮮線

【北鮮西部線】北鮮線【北鮮東部線】北鮮線

へ至るバスの便あり、其他、北境の時を...

ホクト

【北斗部】臺灣臺中州二市一郡中の一。...

とて開拓を企てし所にて、當初同籍の...

ホクト

【北投庄】臺灣臺北州七星郡の西端。...

平埔蕃族パタヤウ社の所在地たりし...

ホクト

【北投庄】臺灣臺北州七星郡の西端。...

ホクト

【北斗部】臺灣臺中州二市一郡中の一。...

ホクト

【北斗部】臺灣臺中州二市一郡中の一。...

位置し、八獎漢・將軍漢兩漢間の海岸帯を占む。東は甲申庄に接し、北は八獎漢を隔てて東石郡の布袋・義竹二庄に、南は將軍漢を隔てて將軍庄に對し、西は臺灣海峡に面す。急水溪は北部を流れ、土地低濕にして強鹽分を含み、且つ水利の便なきため水田の見るべきものなく、農業甚だ不振にして甘藷・甘蔗・陸稻を主作とするも、産額に郡下他府庄に比すべくもあらず。之に反し製鹽業及び水産業は庄の主産業にして、鹽田・養魚池造り、帽子編製の盛なることは郡下の首位にあり、一般家庭に於て普く行はれ、また主要副業として養豚・養鶏注目し、専ら賣出所・郵便局・税關監理所・大日本製鹽出張所・臺灣製鹽出張所等あり。北門港よりは主として鹽を輸出し、其他の貿易額大ならず。東北鹽水街(新營郡)、東南佳里街(北門郡)との間に夫々道路ありて聯合自動車の便を有する外、明治製糖の社線は東南隅二重港驛(大正四年設置)に終り、それより手押臺車にて北門に連絡す。管内はもと總て甲申堡に屬し、北門は現行制度實施の際、北門嶼を改稱せしものにして、清の乾隆時代のまでは一孤島をなし、其後、附近海底の自然隆起により終に本土と連絡するに至る。東隣甲申庄と共に康熙三十二年頃より開人に依りて開拓の緒に就き、古くより鹽田及び魚塩(養魚地)發達す。

〔北門〕臺灣總督府設置阿里山線の一驛(明治四十三年設置)嘉義市檢町にあり。ホクモンシヨ 北門嶼 ↓北門庄

保倉村 新營縣越後國中頸城郡の北部。保倉川上流に沿ふ。村内丘陵起伏し、保倉川南より中央にて一支を合し西へ曲流し、ほぼ丁字狀の谷を形成す。農産を主とし米・蕎麥を産す。縣道谷沿ひに三方へ通じ、社線頸城鐵道の浦川原驛(下保倉村地内)へパスの便あり。

〔保倉村〕新營縣越後國中頸城郡の北部。高田市の東北方約五里。保倉川中流の左岸。全村平低にして頸城平野の一部を占め、保倉川は北境を曲流し、飯田川その他の支流と共に村内を灌漑す。北岸には小沼澤地を所々に殘す。水田多く米を主産とし、蕎麥の副産あり。社線頸城鐵道北四ヶ屋驛(大津村地内)・明治村驛(明治村)に近く、縣道東西に走り、南北に走る他の一條と東部にて交錯す。直江津町へパスの便あり。此の地は和名抄、頸城郡夷守郡の内なるべし。

ホクラウ 社 臺灣臺中州新高郡にある蕃社。大溪と郡大溪の合流點東方山腹、標高約一五〇〇米の地に位し、カトラン駐在所南方約一・五里の山腹一帯に集落散在す。アヌ族の習俗に屬する高砂族の部落にて、約百八十年前に社を形成する。戸數一八、人口一七七(昭和十一年調査)。

ホクリク 北陸

〔北陸道〕畿内八道の一。東山道の北に位し、西は山陰道に隣り、北は日本海に面す。いま若狹・越前・加賀・能登・越中・越後・佐渡の七國に分れ、行政上は福井・石川・富山・新潟の四縣の管轄に屬す。本道は古事記にある高志道にして日本書紀・崇神紀には四道將軍派遣の條に「北陸」とあれど、これは追記にして當時の稱呼にあらず。國體本紀によりて北陸道に當る邊に置かれし國々を見るに、崇神天皇の朝に國邊を置かれし久比岐國(いま越後の中部に古志郡として殘る)の諸國、反正天皇の朝の江沼郡(いま加賀の西部、江沼郡)・允恭天皇の朝の若狹國(越前、越中、越後の三國等)・羽咋(能登の南部、羽咋郡)の二國等の十餘國ありしが、大化の改新國郡制定の時これ等の多くは郡となり、若狹・越・佐渡の三國は國として殘りしものと思はる。既にして天武天皇の十二年十二月に諸國の境界を定められしことあり、この際、越國は越前・越中・越後の三國に分れしものなり。而してこの時、まだ北陸道の名稱なかりしものか、翌々十四年九月使を東海・東山・山陽・山陰・南海・筑紫の六道に遣はし、國司・郡司及び民の消息を

巡察せしめられし時にも北陸道の名は洩れたり。しかし文武天皇の大寶元年には北陸道を置かれあり、これに若狹・越前・越中・越後・佐渡の五國を配せり。この頃は、越後國の北部は日本海岸遠く秋田地方に至りしが、孝德天皇の朝に伊豆・磐舟の稱を置き、元明天皇の和銅五年には出羽國を置き、これを東山道に屬せしめし爲、北陸道の北端は自ら定まり、また文武天皇の大寶二年に越中國の四郡(頸城・古志・三島・魚沼)を越後に屬せしめしを以て、越中・越後の境界は明かとなれり。次で奈良時代に至り、元正天皇の養老二年越前國の羽咋・能登・鳳至・珠洲の四郡を割きて能登國を置きしが、聖武天皇の天平十三年十二月能登國を廢し、之を越中國に併せ、同十五年二月には佐渡國を廢しこれを越後に併せたり。しかし間もなく孝謙天皇の御代に至り、天平勝安四年十二月佐渡國を復し、天平寶字元年五月には能登國を復し、次で平安時代の初め嵯峨天皇の弘仁十四年三月には越前國江沼・加賀の二郡を以て加賀國を置き、こゝに初めて七國となれり。爾來北陸道は東海・東山兩道と共に京都と東國とを結ぶ要路となれり。いま東海道本線の米原驛より分岐し越前方面に向ふ鐵道を北陸本線と云ふは、主として北陸道を通ずるに依るなり。七國のうち若狹・越前は福井縣、加賀・能登の二國は石川縣、越中は富山縣、越後・佐渡の

二國は新潟縣の管下に屬す。

〔北陸街道〕中仙道の關ヶ原驛または鳥居本驛より分れ、琵琶湖の東岸を北に遡り、樺木峠を越えて越前に入り、武生・福井を経て加賀に至り、大聖寺・小松・金澤を経て、越中に入り、高岡・富山を経て海岸に沿うて越後に入り、今町(直江津)よりまた海岸を遡りて新潟に至る街道を云ふ。約百三十里。なほこれに續いて新潟より念珠ヶ岡(鼠ヶ岡)に通ずる街道を羽前街道と云ひ、直江津より越後へ信濃に入るものを北國街道と云ふ。

〔北陸線〕國有鐵道の一。北陸本線・小濱線・三國線・七尾線・中越線・糸見線・新海線及び大糸北線の總稱。主として中部地方の日本海斜面に通す。

〔北陸本線〕國有鐵道北陸線の幹線。主として中部地方日本海岸に沿ふ。東海道本線米原驛より起り、琵琶湖東岸を北進して日本海岸の敦賀驛に出で、それより福井・大聖寺・金澤・高岡・富山・魚津・糸魚川を経て信越本線直江津驛にいたる三六六・五里・及び敦賀驛より分れ敦賀港に至る二・七里と敦賀港より敦賀新港に至る一・二里(貨物線)とあり。此線は近畿以西諸地方と東北・北海道地方とを連絡する最短徑路として裏日本交通の要部をなし、大阪・青森間に直通急行列車を運轉し約廿一時間にて達す。(主要接続線(連絡線))東海道本線・社線近江鐵道(米原)・小濱線(敦賀)・社線越前電鐵

ホクリュー 北龍村 北陸道石

ホクリツ

北粟面 朝鮮黃海道義奉郡の北端。義奉邑の北北東約八里。東境を義奉江、西境を西江に挟まれたる狹長の地を占め、南北約一里、東西は南部に於て約五里あり。東は黃州郡、西は安房郡と相對す。前記兩川は面の北端に於て合流し、全域その洪源に屬するを以て地味頗る肥沃、各種の農産に富む。米を主産し北粟無砂米は風に聲價高し。その他小麥・芙蓉等を産す。南部を靈泉・新換浦間の道路通じ、義奉江・西江には何れも舟楫の便あり、交通不便ならず。

ホクリュー

北陸鐵道 北陸道北見國枝別郡雄武村にある金銀銅山。鐵區八一萬餘坪、日本鐵業會社の經營にて、昭和十年には金銀六六・三・八兩、銀物二・三八〇兩(この總價額四八萬餘圓)を産出し同年六月末の鐵天數は三三八人、現に重要鐵山なり。なほ同年に金泥青色製錬場の完成を見、其他の設備もよく整ひたれば一日の處理能力は五〇萬に及ぶといふ。

ホクリュー 北龍村 北陸道石

ホクリリョー

木履寮 臺灣總督府鐵道阿里山線の一驛(大正七年設置)臺南州嘉義郡竹崎庄覆金にあり。

ホクワク

北陸 日本内地諸島の西南部を稱する舊稱に對する稱にして、日本内地諸島の東北部を云ふ。

ホクワク 北陸 日本内地諸島の西南部を稱する舊稱に對する稱にして、日本内地諸島の東北部を云ふ。

ホケン

朝鮮京畿道龍仁郡の東北部。郡邑金良場里(水鏡面)の北約一〇里。東は廣州郡都尺面に、北は同郡五浦面に接す。東西約一三里あり、中部に縱れて殆ど東西兩部に切斷されんとする狀を呈す。東北境には發榮峰(五一二米)あり、山腹中境に沿うて南走し、泰華山につづき、西半部も二一三米の丘陵をなす處多く、西南境はやや高くして高麗約四五〇米に達す。中東部を慶安川北流し、西部丘陵地に發する諸水また之に合し、流域に南北に長く平地はひらく。米・麥・大豆・棉花等を出し、牛・豚の飼養並に養蠶盛なり。東部を慶安川に沿うて金良場・京安里間道路通じパスの便あり。

ホコー——ホサカ

ホコー 浦項邑地。朝鮮慶尙北道浦項郡の首邑。郡の略中部東偏に位し、地南北に長く、東端南半は北流する見山江を境として大松面と隔たり、江口以北の北半は即日浦に面す。西境には高さ二〇〇米程度の丘陵性山地ありて地に南東に傾斜し、中部の海岸と南浦見山江岸には小平地あり。浦項の市街は見山江の河口に臨み、翌日郡廳の所在地にして、近時左岸に築港完成し、朝鮮東岸の一大漁港となし、朝鮮總督府の命令航路たる大連・北浦道兩線を以て釜山・蔚山・蔚山・釜山・元山間、釜山・浦項間、雄基・阪神間航路の汽船發着す。陸上は東海中部線・浦項驛(大正七年設置)を市街南端に設け同線はなほ見山江口まで延長して鶴山驛(大正八年設置)設けらる。また日本海岸鐵道二等道路と蔚州街道とは此處に交はり、慶州・九龍浦・盈徳・平海等へパスの便あり。郡廳の外、水産試験場、地方法院出張所、殖産支店等あり。附近は朝鮮産葡萄酒・アラブの産地として名あり。

花・菜・糖等を産し、牧牛・養蠶・吟製進行はる。中部低地を三等道路南北に貫き、南方社線京東線道徳仁驛(釜山良場)及び北方の京安里へパス通じ、交通便利なり。石城山頂に古城址あり、山麓の麻城に泉水湧出す。

は海を隔てて瀬戸内海の小豆島に對す。北は小串村、西南は柳上村に界す。面積九・七方軒。村内は一般に丘陵性山地起伏し、北境に三百米に近き小山脈東西に横はる。南部に狭小なる平地あり、桑苗の大部は此處に集る。山麓に湖池あり耕作はる。海岸は小出入を有し、前方に餘島あり。酒類・醬油等の工業頗る高にして米・繭・桑・糖・鹽等の農産これに次ぐ。近隣にパスの便あり。

留後轉原忠次・松平定信その他代々の領主の崇教篤かりき。例祭、九月十八日。ホサカ 穂坂村。山梨縣甲斐國北五摩郡の東南部。釜無川支流、鹽川の左岸、龍崎町の東北約二軒。東北境は茅ヶ岳(一七〇四米)の南段を以て西山梨郡に界す。全村東北より西南に傾斜せる廣原にして西南部耕地面積、桑園多し。桑・繭の産多く、次いで米・麥及び林産物あり。里道により信州街道に出で、省廳中央本線龍崎驛へ約二軒を隔つ。此地は延喜式の種取牧のありし地なるべし。甲斐名勝志によれば享保三年、三之藏・宮久保・三津澤の村民千餘戸、この地が水に乏しかりしを以て、代官山口八兵衛政使を主とし、野原に八千間(約一四・五軒)山を七三間(二・六軒)穿ちて淺尾の水を引き三村に給し、以後村民の恩澤を受く。竣工を大穴口の神と稱す。堀川首首達坂の關路にけふや秋の田の穂さかしのむらむらとひく公實一源義經將軍、あつぱれ駿足御馬ぞう、いづれの牧より引かれしぞや。美豆の御牧が鳥飼か、信濃に桐原島月か、播磨に家島駿河に三藏、武藏に徳坂小野の牧、甲斐に立野、小笠原、小淵安達との典の牧(文例中式藏とあるは、近松門左衛門の記憶と考證さる)。(倭文神社) 神社。祭神、天羽瓊瓊命・細織姫命。織宮より轉訛して降宮ともいふ。式内社。本村と柳平・三澤三村の産土神たり。古來本郡衣服の神として

1180

崇敬せらる。例祭、九月二十四日。

ホシアイ 星合。福岡縣田川郡伊田町の大字。省線伊田線の驛(明治三十三年設置)あり。

ホシカ 星鹿村。長崎縣前國北松浦郡の北端。北松浦半島の北端に位し玄海湖に臨む。御厨村境より北方直轄まで四軒餘、東西約二軒を主軸とし、北東海上に並ぶ松島・青島・伊豆島・魚岡島等の諸小島を其の所轄地域となす。本村は丘陵性山地にして、全境殆ど玄武岩の噴出より成る。縣幹部の東方に突出する舊星東城址の地たる城山により天然の港灣をなし、灣頭に星鹿の鎮地を擁し、沿岸航路の寄港地、また漁舟の根據地たり。南方御厨との間に縣道通じ、交通自由なり。農産・水産等あり。此地は玄海湖の玄關に當り軍事・交通上の要所なり。殊に青島・青島間と青島・血崎間の海峡は元寇役の故地にして、其の傳説を傳ふ。

ホシガオカ 星ヶ岡。東京市麹町區永田町二丁目にある小丘。湖池の東に位す。丘上に官幣大社日枝神社鎮座しよりて通稱を山王臺といふ。名稱は日枝神社の供奉坊を星野山無量寺と稱せしに因み、近時の稱なり。いま神社の境内を併せて星ヶ岡公園(麴町公園)とす。

ホシガジョー 星ヶ城山。香川県小豆郡小豆島北部にある景勝地。標高八一六米。山頂平坦にて佐々木信風が昇

ホシア——ホシヌ

兵せし古跡あり。西の麓は東渡の驛地にて、谷の兩側には山麓の遊仙橋より東渡の十三景が始る。この間十歩百景の妙ありと稱せられ、四時常に佳なるも、特に晩秋紅葉の間にある楓樹が紅葉する頃には眞に絶景にして、これに類似せる耶馬溪・妙義山等も僅く及びすと云はる。これ一山頂に凝灰岩層の厚層を有するためなり。東の山麓には大洞窟内に佛體を安置する清瀟山、大坂城築造に用ひし石材採掘の遺跡、應神天皇の行在所、水晶を産する水晶山等あり。山頂より南望すれば、足下には内ノ海灣あり、灣内に排天島あり。灣岸には平野が開け、ここも養蠶油として京阪は勿論、國軍に於ても賣出さるる醬油の製造地帯あり、その中心業務は草紙・安田なり。

ホシカワ 星川。武蔵國(神奈川縣)の古地名。和名抄に久良郡星川郷あり、保之加波と訓ず。その地今の郡城郡二俣川村・都岡村の途に當る。

ホシカワ 星川。大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に山邊郡星川郷あり、保之加波と訓ず。今の山邊郡福住村の途に當る。

ホシカワ 星川。伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に會見郡星川郷あり、その地今の西伯耆野村の途に當る。

ホシカワ 星河。埼玉縣北埼玉郡にありし村。昭和十二年に認可に編入され村名を失ふ。

ホシクラ 星倉。宮崎縣南郡賀郡吾田村の大字。省線津線驛の星倉驛(大正三年設置)を設く。

ホシコシ 星越。佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に羽茂郡星越郷あり、佐渡郡内ならんも其の所在詳かならず。

ホシサキ 星崎。愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年に本村外二村を廢し、愛知村を置き、愛知村は大正十年名古屋市に編入さる。

ホシスミ 星角。石生・石負(丹波國)。

ホシダ 星田村。大阪府河内國北河内郡の中部。大阪市の東北端より約一〇軒東にあり。西北二軒餘には枚方町あり。南部は三〇〇米以下の山地の北斜地をなし北麓(本村東部)に妙見山(一六二米)あり。北半は低平なる沃野開け、東北端を掠めて一河川が西北流す。桑・麥等の農産最も多く林産之に次ぎ、工業は第三位を占め、外に善産あり。西北部を東高野街道通過し自動車の便あり。北部には省線片町線が東西に走り星田驛(明治三十一年設置)あり。中世は星田荘に作り、永徳十二年の文書に見えて、石清水八幡宮内殿日御供米料所なり。當時御供納米百廿石と定むといふ。大阪夏の役、家康京都を發し、深夜此地に諸將を會して戰略を謀り、翌日枚方に進軍す。

ホシナ 保科村。長野縣信濃國上高井郡の西南部。厚川と千曲川の合流點より

二軒にあり。長野市へは信濃川を隔て約八軒、村は中央を流るる略東西に走る一溪谷を中心として發達せるものにて、耕地は谷底を利用し、谷の中央より上部は山間の溪水を利用する水田耕作が行はれ、中央以下に桑畑の發達せるに相違なく、扇狀地を作る其の扇狀地は、この溪谷が扇狀地を作る其の扇狀地は、用水不足するためなり。村の北面は太郎山(九九六・九米)・明徳山(二二九四米)が連り、南面に熊窪山(二二五四米)・保基谷(一五二九米)・堀切山(一一五七米)・奇妙山(一〇九九米)があり、産栗としても山村としての色彩強し。奇妙山を越れば六軒にして名色松代町に達す。この地は堀内村・川田村と共に和名抄、高井郡穂科郷(保之泰と訓ず)の地にして東鑑に保科御厨とあるもこれなり。保科侯の發祥の地なり。保科氏は清和源氏、正光、徳川氏に仕へて高遠城に居す。關正と、松平の稱號を許され、會津若松城に、正貞は本拠を繼ぎて上野飯野城に移る。子孫相承けて明治維新に至り子爵を授けらる。(清水寺) 新義眞言宗。俗稱信濃清水または保科觀音堂。坂上田村麿願勝新の寺と傳へられ、古刹たり。寺寶中、廣目天立(木造)像・同多聞天立像は共に國寶なり。

ホシヌノ 千布村。山形縣羽前國東村山郡の東部。天童町の東南に隣り、東北端は北村山郡に接す。東北境に南平山(九

1181

ホシノ——ホスエ

○六米)譽え、西南方に傾斜し、西南部は山形盆地の東縁なる山寺扇状地に属す。主産業は農にして、米(三、七三〇石)・蕎麦(二、七五〇石)・一七、三六二石)を産し、また特産物に櫻桃(六、三二一石)・葡萄(二、四、五〇〇石)あり(昭和十二年)。

ホシノ

星野村 福岡縣筑後國八女郡の東北部。矢部川の一支星野川の水源地を占め、黒木町の東方約二軒にあり、北は浮羽郡に、東は大分縣日田郡に界す。稍西北より東南に細長し、四周の村境は山脈を以て圍まれ、東の大分縣境には熊渡山(九六〇米)譽え、西北隅には鷹取(八〇二米)あり。南境には高峯・大山(五九〇米)・竹山(九〇五米)等あり。星野川は東南部に發して中央を西北流し、流域に稍耕地あり。聚落之に沿ひて點在す。黒木町へハスの便あり。米・麥を産し、山地は木材・薪炭を供す。當村内には第三紀野山山岩を以て成る處多く、幾多の金銀の鑛山あり。主なるものは別揚の金井星野・鯛生星野・豊國の三鑛山とす。(金井星野鑛山)金銀山。鑛區約四一萬坪、金井鑛山會社の經營にて、昭和十年には金二二、二九二兩、銀六二〇、五三三兩(この總價額七四萬餘圓)を出し、同年六月末の鑛夫數五三一人、現に重要鑛山に属す。(鯛生星野鑛山)本鑛は星野村内にあり、鑛區は笠原村の地域に亙り、地坪

一六二萬餘坪、鯛生金山會社の經營にて昭和十年には金七二、二一〇兩、銀三三、九八〇兩(この總價額二四萬餘圓)を出し、同年六月末の鑛夫數は二八八人、現に重要鑛山に属す。(豊國鑛山)金銀山にて鑛區は星野村と大分縣日田郡前津江村とに跨り約九二萬坪、本鑛は星野村に置く。昭和十年には金八、六七二兩、銀五、六八四兩(この總價額二萬六千餘圓)を出す。現在、重要鑛山なり。本村も浮波郡に属せしが、明治二十九年本郡に編入さる。中世は黒木氏と同族なる星野氏、ここに據り、南北朝の頃官軍に應じ、矢部野池に属す。その後戦國の時、大友氏に屬せしむ。天正年中、飯きて島津兵に属す。同十四年、立花宗茂と筑前に戦ひ敗死し家また滅ぶ。(宇山野野神社)大字星野に鎮座。神社、伊弉冉命、速玉男命、素戔鳴命。後堀河天皇の嘉祿二年、星野領主八郎、紀州熊野野現を勸請し、無名山権現と稱せしを本社と創祀と傳ふ。後鳥羽天皇應永に遷され給ひし時、賊徒誅滅の爲に祈願せられたり。例祭、九月九日。

ホシノオカ

星岡 元弘年間古戰場。松山市外の愛媛縣温泉郡石井村大字星岡にあり。元弘三年閏二月の國の土居通増・得能通綱が義兵を率ひ、將に土佐に向ひて進軍せんとせし時、長門探頭北條時直、周防・長門の兵を率へ、船三百餘艘を以て伊豫國に渡り、この處に

於て土居・得能の軍と戦ひて敗れ、時直父子一時行方を失ひし處。今、ここに當時の事蹟を録せし表忠碑あり。

ホシノシヨ

星生山 九住山(大分縣)の一峯。

ホシノミヤ

星宮村 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の西部。忍町の西隣にて、西は熊谷市に接す。全村平地にて米・麥を産し、養蠶も行はる。縣道は忍町及び熊谷市に通じ、社線秩父鐵道は南部を掠めて横走し、持田驛(大正十四年設置)を置く。本村の大字尾尾川永壽四年、上杉輝虎の地に城を築き、木戸監物をして守らしめしが、監物成田下總守に通ぜしため、輝虎怒りて此の城を燒拂へり。

ホシノヤ

布施屋 和歌山縣海草郡和佐村の大字。倉線和歌山線の布施屋驛(明治三十二年設置)を置く。

ホシノ

浦升面 朝鮮京畿道振威郡の西端。郡邑平澤の西約一八軒。北は汾陽海を距てて水原郡に、西南は牙山海を距てて忠清南道唐津郡と相對す。西方海中に向ひて突出せる半島狀の地を占め、更に中部より幅一十二軒、長さ約六軒の岬角を出し、以て汾陽・牙山兩海を相隔て、その岬端に近く高高一二米の山あり、この岬の北にも汾陽海内に小半島を突出せしめ、最高六〇米の丘陵を見るも、城内多くは低平にて、三〇一五〇米の丘陵處々に起伏し、略中央の俯拜山(五一米)やや著はるのみ。之等丘陵の

正八年設置)あり。

〔櫻積村〕岐阜縣美濃國本巢郡の西南隅。大垣市の東方約六軒。北は本田村に、東は長良川を隔てて稲葉郡市橋村・日置江村に對し、西は牛牧村に接す。此村の附近は等高線一〇米以下の低地にして諸川幅狭し、即ち東境には長良川が、中部には中川が、西境には五六川が並行して流れ、墨俣の北にて合流す。而して諸川は天井川をなすため、夏季霖雨の時洪水多く、屢々水禍を被れり。此地方にては村民の協力によりこの水害より免れん爲に輪中を形成し安全を計れり。即ち長良川と中川の間に櫻積輪中をなし、中川と五六川の間に五六輪中の一帯をなす。近年は長良川の改修工事の爲め水害その跡を絶てり。此地は西濃平地の中央に位し農業を主業とするも、地は輪中地域なれば大川より灌漑水を引く事を得ず、よつて百間堀と稱する掘抜きにより灌漑せらる。また飲料水も悪く、百間堀により下層の水を飲用に供す。主産物は米・麥・蕎麥等、特産物には紫雲英種子あり。別府附近にてはまた柳行李・マスクットの特産もあり遠く外國にまで輸出され、代用品時代の産物となる。交通は南北に中央を墨俣街道が通じ、北部には東西に東海道本線通じ、櫻積驛(明治三十九年設置)を置く。本驛は柳行李等の輸送多し。また驛より南方墨俣町へ墨俣乗合自動車の便あり。下層堀の部落はもと長良川

ホセ

浦青面 朝鮮咸鏡南道洪原郡の西南隅。洪原邑の西南約五軒。西は咸州郡東川面・西邊湖面に接し、東と南は日本海に面す。西境と北境とに四一五〇米の山連り、餘脈は城内に玉女峰(三〇九米)等を起し、西北方山地に發し東流して海に入る川の流域と海沿とに平地やや拓く。海岸は北部は低砂濱なれど、南岸は岬角多く海岸をつくる所多し。米・麥・

ホスミ

宮に鎮座。神社。奇跡木主神・伊弉冉命・速玉男之命・事解男之命。大八橋命を配祀す。堀河天皇永長年間の創建と傳ふ。領主平・飛騨・三木・金森等の諸氏の崇敬深らず。もと熊中社・新宮白山権現宮といひ、明治に入り現社體に改む。例祭、九月十日。

ホスミ

穂積 〔穂積村〕關島縣岩代國安積郡の南部。郡山市の西南約一〇軒。東南は岩瀬郡に接す。奥羽山脈の東斜面に屬し、西境は海抜約八百米にて東方に傾斜し、東南部稍平坦なり。安積澁水は本村を南北に過ぎる。米・麥・大豆・蕎麥を産す。道路は東南部を略東西に通じ、郡山市及び南方の三和村へハスの便あり。(宇奈己呂別神社)大字八幡に鎮座。神社、瀬織津比賣命・磐田別命。式内名神大社。例祭、十月十九日。

ホスミ

〔穂積村〕新木縣下野國下都賀郡の中部。小山町の西隣にて、南は間々田町と隣接す。全村平地にして東部を思川西南に流れ、水田多く、米を主産す。また養蠶行はれて繭の産あり。縣道は小山町に通じハスの便あり。同町にて陸羽街道に合しまた同町に倉線東北本線小山驛あり。此地は和名抄、都賀郡生馬郷の内なるべく中世に中泉庄と稱せし地。

ホスミ

〔穂積村〕山梨縣甲斐國南互摩郡の東北部。諏訪町の西に接し、西北は中互摩郡に界す。全村山林に富み、西より東へ傾

